田村潔司があの秋山成勲に怒りの宣戦布告!!

kamipro 紙のプロレス

enterbrain MOOK

2007
107
880yen

なんとでも言ってくれ!! 俺は踏み出す!
PRIDE"離脱後"初ロングインタビュー!!

ミルコ・クロコップ

総資産価値1150億円の脅威!
噂のボードック総帥を独占キャッチ!!

カルビン・エアー

『kamipro』読者が選ぶ
2006年MVP受賞記念インタビュー!!

ジョシュ・バーネット

成り上がれ!! PRIDEネクストスターはコイツだ!

青木真也

"世紀のノーコンテスト"を徹底特集!!

桜庭vs秋山
格闘オイルショック!

この男も決断の時!? どうする桜庭問題!!

谷川貞治

ドラゴンファミリーのラブラブ対談

藤波辰爾
&伽織夫人

"格闘厄年"を読者がガチンコ・ジャッジ!

kamipro大賞 2006発表!

ミルコ2.3UFC参戦!! 2007年マット界の生態系は激変する!!

迫り来る

格闘天変地異!!

kamipro 107 格闘天変地異!!

2007年2月5日

迫り来る格闘天変地異！ 生き残るのはどこだ!?

“ノアの方舟”はどこにある!?

2007 No.107 CONTENTS

kamipro

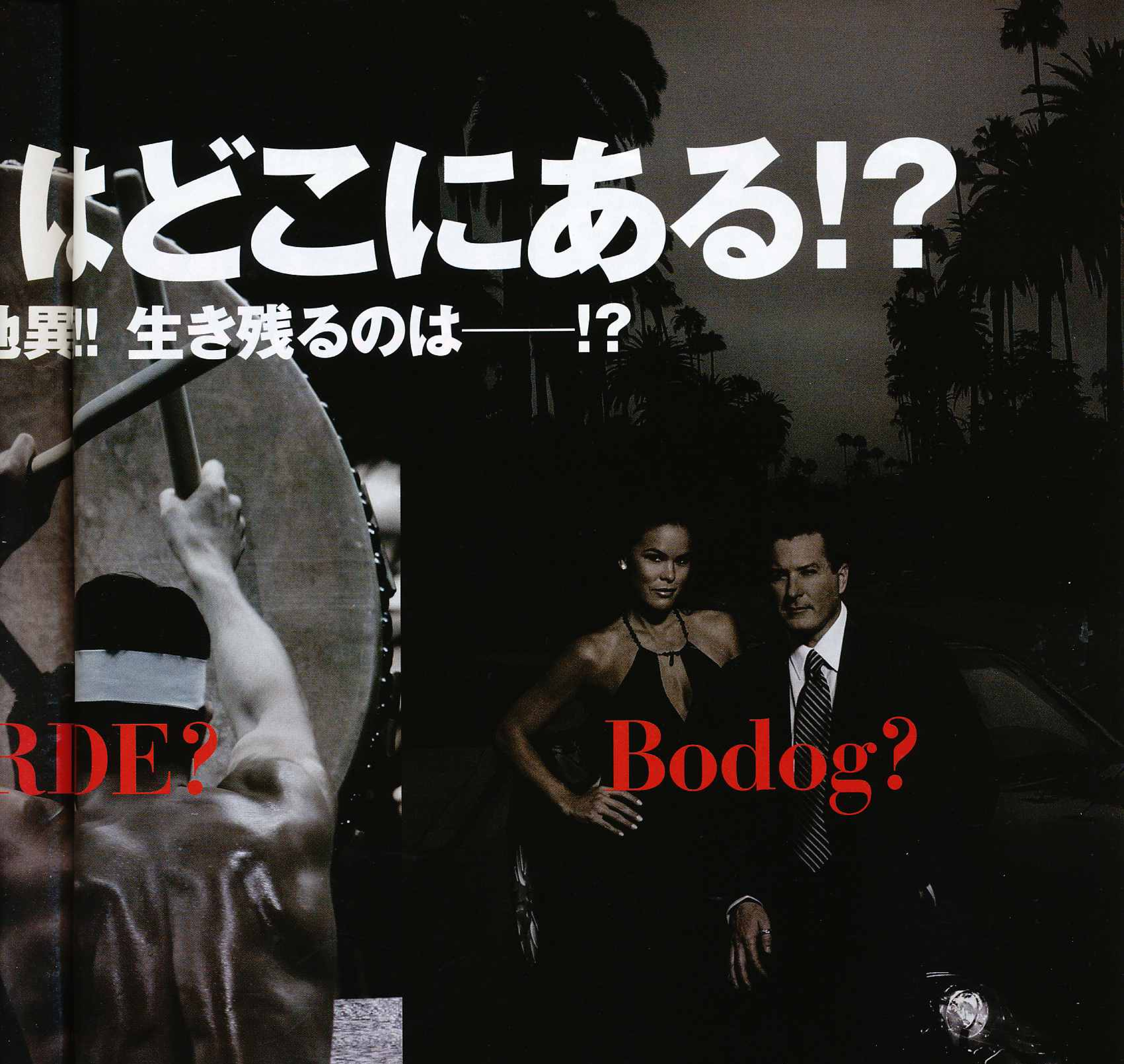
表紙写真／鍛代 修



“Mr.ビリオネア”カルビン・エアー様とお近づきになりた～い!!

はどこにある!?

異!! 生き残るのは——!?



RDE?

Bodog?

「たとえ俺が死んでも、記事にならんわっ!!」

この絶叫は、桜庭vs秋山オイル疑惑解明会見の同日に、2・16DEEP後楽園大会の記者会見を行なってしまった佐伯（繁）さんのもの。要するに、オイル会見のあまりのビッグインパクトのせいで、DEEP記者会見は話題にならない！　スポーツ紙が紙面を割いてくれんわっ!!　という無念からくるボヤキだ。

ボクらの佐伯さんの死はどれくらいインパクトあるのか？　という興味はさておき、だ。どうしたってスポーツ紙などが紙面を割くのは、爆発的な瞬間性を持ったニュースや事件になる。たとえマット界の今後を占う地殻変動がゆっくり起こっていようと、それが海外格闘技事情を含むものなら、紙面の見出しになりにくい。また、〝やる側〟や〝リング上〟に視点を重く置く格闘技専門誌からすれば、その現象を深くえぐり出すことは不可能だろう。

本題に入ると、報道という名の警報が発せられなかったため、〝地球規模のMMAバブルの大津波〟は、多くのファンの気がつかないうちに忍び寄っていた。

圧倒的な全米PPV市場を背景にしたUFCの怪物化、小国家の国家予算並みの資産を誇る『ボードッグ』総帥カルビン・エアーのMMA侵攻宣言によって、『PRIDE』の世界最高峰の牙城が脅かされている。これほどの大津波なのに、ジワリジワリと！

——それは、桜庭和志の『HERO'S』電撃移籍の陰に隠れて、〝フジテレビ・ショック〟の衝撃音にかき消されて、無差別級GPの大爆発に目を奪われているうちに、DJ GOZMAの入場芸に拳を固くしているあいだに、『HERO'S』ジャッジ陣のボディチェックをかいくぐり（って、これは簡単にスルーできるか）……いつの間にか日本本土へ押し寄せてしまった。

昨年の夏頃から本誌で榊原DSE代表が大津波の脅威を再々にわたり訴えていたが、ミルコ・クロコップのUFC電撃移籍が現実化したことで、ようやく何かが起こっていることに気



“ノアの方舟”は

迫り来る“格闘天変地異”!!

UFC?

PRID

最後はボクだけが生き残ると思うんだけどなぁ〜!!

づいたファンも多いだろう。


世界最高峰のファイターを多く抱える『PRIDE』、全世界征服を宣言したUFC、金に糸目をつけず一流ファイターの強奪を目論み、〝一瞬の輝き〟を実現せんとする『ボードッグ』――。すでに水面下では、熾烈な三つ巴の攻防が繰り広げられている。

この大戦で絶対有利と目されているのはUFCだ。大晦日大会のPPVが100万件を突破すると予想されるなど、もう手がつけられない。しかし、『PRIDE』のラスベガス進出が本格化することで、そのPPV市場のシェアを奪われることだって充分にありえる。

また、より好条件を求めて、『ボードック』移籍を図る（もしくは交渉の駆け引きに走る）トップファイターが続出してもおかしくない。〝地球規模のMMAバブル〟は、UFCにしても諸刃の剣ともいえるのだ。

とにかく、この〝地球規模のMMAバブル〟によって、マット界の大地殻変動が起こることは必至だろう。選手争奪戦によるファイトマネーの高騰、選手供給ルートの一新、MMA未開地の開拓など、勢力図が大きく塗り変わり、数ヵ月後には、アッと驚く格闘技界の新風景が我々の目の前に拡がっていても不思議ではない――脅かすわけではないが、〝格闘天変地異〟のはての天地創造は、もう間近に迫っている。はたして、脅威の大津波から生き残ることができる〝ノアの方舟〟はどれなのか――!?

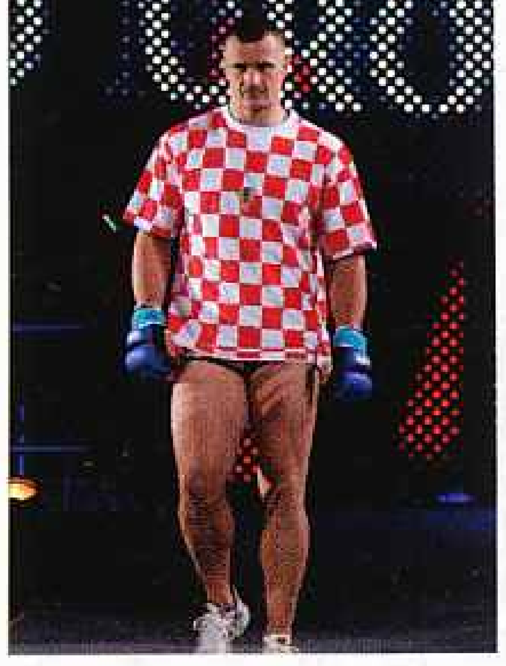
（ジャン斉藤）



CroCop

2.3 UFC67出場決定!
祖国の誇りを胸に覇王がついに全米侵攻!!

UFCの王者になることで俺はアメリカ人にクロアチアという国を知らしめたい!



ミルコ・クロコップ

噂は本当だった！　03年にK-1から本格参戦して以来、『PRIDE』の主役とも言うべき活躍を見せてきたミルコが、2月3日のUFC67より正式に戦場をUFCに移すこととなった。あれほどまでに『PRIDE』での闘いを誇りに思っていた男が、この決断に至った真意とはいったいなんなのか。ついにミルコ自身が国際電話でその心情を語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
写真提供／ズーム・エンターテインメント

Mirko



coCroCop

——ミルコ選手、試合前の大事な時期に恐縮ですが、インタビューよろしくお願いします！

ミルコ　OK。なんなりと。

——ミルコ選手にとって、初のアメリカ進出となる2・3 UFC67まで3週間となりましたけど、試合に向けての調整はいかがですか？

ミルコ　調子はいいよ。いつもと同じように、いい調整ができている。でも、試合の3週間前というのは、いままさにトレーニングをピークにもっていく時期だから、インタビューは短めに頼むよ。

——了解しました。お疲れのところ、すみません（笑）。いつもの『PRIDE』でしたら、試合までにやるべきことが決まっていて、あとは対戦相手に合わせた準備をするだけだと思うんですけど、今回はルールが違うし、闘う場所もリングからオクタゴンに変わりますよね。そうなると、やらなければならないことがたくさんあると思いますが、"UFC用"の準備というのはできているんですか？

ミルコ　いや、じつは今回あえて、特別にUFC用の準備はしないことに決めたんだ。だからフェンス際でどうするとか、ケージに押し込まれたらどうなるかということは、いまのところ考えてない。

——それで大丈夫なんですか？

ミルコ　やってみなければわからないが、そもそも俺はオクタゴンに入ったこともないし、じつはあの金網が金属でできているのか、硬いプラスチックなのかその材質も知らないんだ。だから、本来なら、オクタゴンでの闘い方にいまから慣れておく必要があるんだろうし、いろんなことが頭をよぎるけど、中途半端にUFC用の準備をするよりも、いつもと同じように、相手を倒すことだけに集中して調整したほうがいいという結論に達した。

——あえて、オクタゴンということを考えず、いつもどおり闘う、と。

ミルコ　そうだね。俺のやるべきことは、UFCファイターの闘い方をマネることじゃない。いつものように俺の目の前に現われたヤツを、自分の闘い方で仕留めて、アメリカ人にMMAの「A」というのは、「アート」であるということを見せつけるつもりだ。

——アートであるということを見せるとは？

ミルコ　アメリカに行く以上、俺たちのMMAというプロスポーツをもう一段上のレベルに引き上げることが、一つの俺の使命だと思うからね。『PRIDE』を観続けている日本のファンはMMAを観る上では、世界一洗練されて、目が肥えている。その日本のファンの前で、俺たちは最高の闘いを見せてきた自負がある。でも、アメリカのファンは、まだ芸術的な域に達した闘いの技術というものを観たことがないんじゃないか？　だからこそ、MMAは肉体で表現するアートであることをUFCのファンにお見せしたい。

MMAの「A」は「アート」であることを、俺の闘いを通してアメリカ人に知ってもらいたいね

——たしかに、あらゆるスポーツの最高峰の選手って、やはりその技術自体がアートになってますよね。フォルムが美しいというか。

ミルコ　サッカーでもスキーでもベースボールでも、普通の人には真似のできないトッププレイヤーの技術はみな美しく、アーティスティックだ。それは俺たちのMMAでも同じこと。アメリカでは、いまだにMMAがバーファイト（酒場の喧嘩）の延長で見られることも多いと聞くけど、俺は一人の表現者として、その認識を覆すアーティスティックな闘いをファンの目に焼きつけてもらいたいと思う。まぁ、そんなことを言って、負けたりしたら元も子もないけどね（笑）。

——それぐらい、闘う場所が変わっても、いままでと同じような活躍を見せられる自信があるということですね。

ミルコ　もちろん自信はある。ただ、その自信の裏づけの最も大きな要素は、いまのコンディションの良さだね。昨年9月のPRIDE無差別級GP決勝戦のあとに行なった手術もうまくいって、長年悩まされた左足甲からくるぶしにかけてに水が溜まるということもなくなった。それにこのあいだ、年を越すときにあらためて考えてみたら、2006年、俺は3大会（4試合）にしか出ていない。ここ何年間で考えたら、もっとも身体を休ませた年でもあったんだよ。だから、そのぶん仕上がりはいいよ。

——9月のGP決勝から4カ月というのは、ちょうどいいメンテナンス期間だったわけですね。

ミルコ　ああ。一年前、ボロボロの状態でマーク・ハントと闘ったときとは、雲泥の差があるよ。こと体調だけなら、近年にないほどいい。だから、UFCで闘うこと自体は、ルールが変わろうが、オクタゴンになろうが、そんなに気にはならない。それよりもアスレチックコミッションという強制力のある公的機関のもとで闘うということが、俺にとってどれぐらいのストレスになるのか。そっちのほうがもっと気にかかるね。

——アスレチックコミッション統括のもとで行なわれる試合だと、どんな不都合が生じるんですか？

ミルコ　不都合というわけではないが、やはり自分を客観的に見ると、ファイターとしてはわがままなところがあると思うんだ。

——たしかにそうかもしれないですね（笑）。

ミルコ　笑ってくれるね！　日本で闘っているあいだは、公的機関に有無を言わさぬ命令を受けたことはないし、『PRIDE』の皆さんには申し訳なかったけど、俺は気分が乗らないときや時差ぼけの調整のためには、記者会見にさえも行かなかった。

——そうでしたね（笑）。

ミルコ　そんな俺が、強制力のある公的機関が完全に最終権限を掌握しているイベントに出ていくことで、バンデージの巻き方から何から、ああだこうだ言われて、リングに上がる前には強制的に眉の上にワセリンを塗られるなんて（※日本では



昨年のクリスマス、ＵＦＣパーカー姿のミルコが、クロアチアの恵まれない子どもたちの施設を慰問したときのショット。
ミルコは毎年、クリスマスにここを訪れ、議員報酬の全額を施設に寄付しているのだ。

Mirko C

"ヌルヌル問題"が取りざたされているが、ネバダ州では逆にカットを防ぐために眉上にワセリンを塗布することが義務づけられている）、どんなストレスになるのか、ちょっと想像がつかない。非常にうっとうしいだろうな。

――では、リングとオクタゴンの違い以上に、実際に闘うまでの環境の違いが大きい、と。

ミルコ やはり、試合前というのは自分のペースというものがあり、アスリートはかならずゲンを担ぐわけだ。もちろん俺にも自分のルーティンが間違いなくあって、『ＰＲＩＤＥ』では申し訳ないけど我を通させてもらった。それがアメリカでは許されず、いろいろ干渉されたら、それはストレスに感じるよな。

――試合前というのは、ちょっとしたことで集中力が乱れたりするでしょうね。

ミルコ まさにそうだね。自分のペース配分を乱されることが、どんな影響を与えるのかということを考えると、それが少し心配だ。だいたいアメリカはそういうことが多すぎるんだよ。このあいだ、（ＰＲＩＤＥラスベガス大会のために）アメリカに行ったときも、国内線に乗り換える際、セキュリティチェックで、有無を言わせぬ横柄な態度の係員に靴まで脱がされた。いま、ヨーロッパでは「嫌米思想」というものが蔓延し始めているけど、アメリカに入国するときに、まず最初にああいう態度のアメリカ人に接しなくてはいけないのは、非常に残念だね。正直、非常にイライラしたけれど、入国するためにはそれに従わなければならない自分がいる。なんだか、それがアスレチックコミッションのもとで試合をすることをとても暗示しているようで……。

――そのへんはホント"お役所仕事"ですからね（笑）。

ミルコ そういう点を考えると、これまで日本の人たちが、どれだけ客人に対してリスペクトして、大切に扱ってくれたかということを、いままで以上に恋しく思うんだろうな。でも、自分が選んだ道だから仕方がない。

――そういったわずらわしさがあるにも関わらず、それでもアメリカに戦場を移すことにした、一番の魅力はどこにあるんですか？

ミルコ プロフェッショナルとしての条件については、マネージャーであるケン（今井賢一氏）に聞いてくれ。でも、俺にはそういった単なるプロファイターとしてだけでない「使命」があると思っている。

――どういった使命でしょうか？

ミルコ 俺はこの4シーズンのあいだ、『ＰＲＩＤＥ』で闘い続けることによって、東欧の小国であるクロアチアという国を、日本の皆さんに少なからずアピールすることができたと思う。クロアチアという国の歴史を俺の歴史に重ね合わせて、ファンの人たちに内戦のことや、ユーゴスラビアからどうやって独立したのかということなどを垣間みてもらえただろうし。クロアチアの国旗がどんな色をしているのかも、相当認識してもらえたんじゃないかと思う。

――たしかに、ミルコ選手のトランクスにもなっている、赤と白のチェックは、日本でかなり知られるようになりましたよ。

ミルコ 俺はファイターであると同時に、クロアチアのためのアンバサダー（大使）だと思っているんだ。だから今度は、日本でクロアチアを知ってもらったのと同じように、俺の闘いを通して、アメリカ

人にクロアチアという国を知ってもらいたいと思っている。アメリカというのは、いろんな意味で、世界最大の国だ。でも、多くのアメリカ人というのは、クロアチアという国があることすら知らないんじゃないか？

――そうなのかもしれないですね。

ミルコ　アメリカ人というのはドメスティック思考で、アメリカがすなわち世界だと思っているようなフシさえある。そのアメリカでクロアチアという国のことを少しでも知ってもらうこと。それから俺がMMAのチャンピオンになることで、クロアチアから移民して、苦労を重ねてアメリカで頑張ってきた同胞たちに、誇りに思ってもらうこと。それが俺の次の大きな仕事なんじゃないかと思う。

――UFCのチャンピオンを目指すだけでなく、チャンピオンになることでクロアチアという国自体を大国アメリカでアピールしたい、と。

ミルコ　そのための露出、テレビの視聴率やPPV、マーケティングの大きさなどから考えると、アメリカでそれを実現させるだけの環境や基盤を持っているのは、現時点ではUFCだけだった。そして、これは俺にとっては、金銭だけでは絶対に満たすことのできない大きなモチベーションなんだ。さらに、それが自分にしかできない役割である以上、なおさらだね。

――単純にファイターとしての目的だけじゃないわけですね。

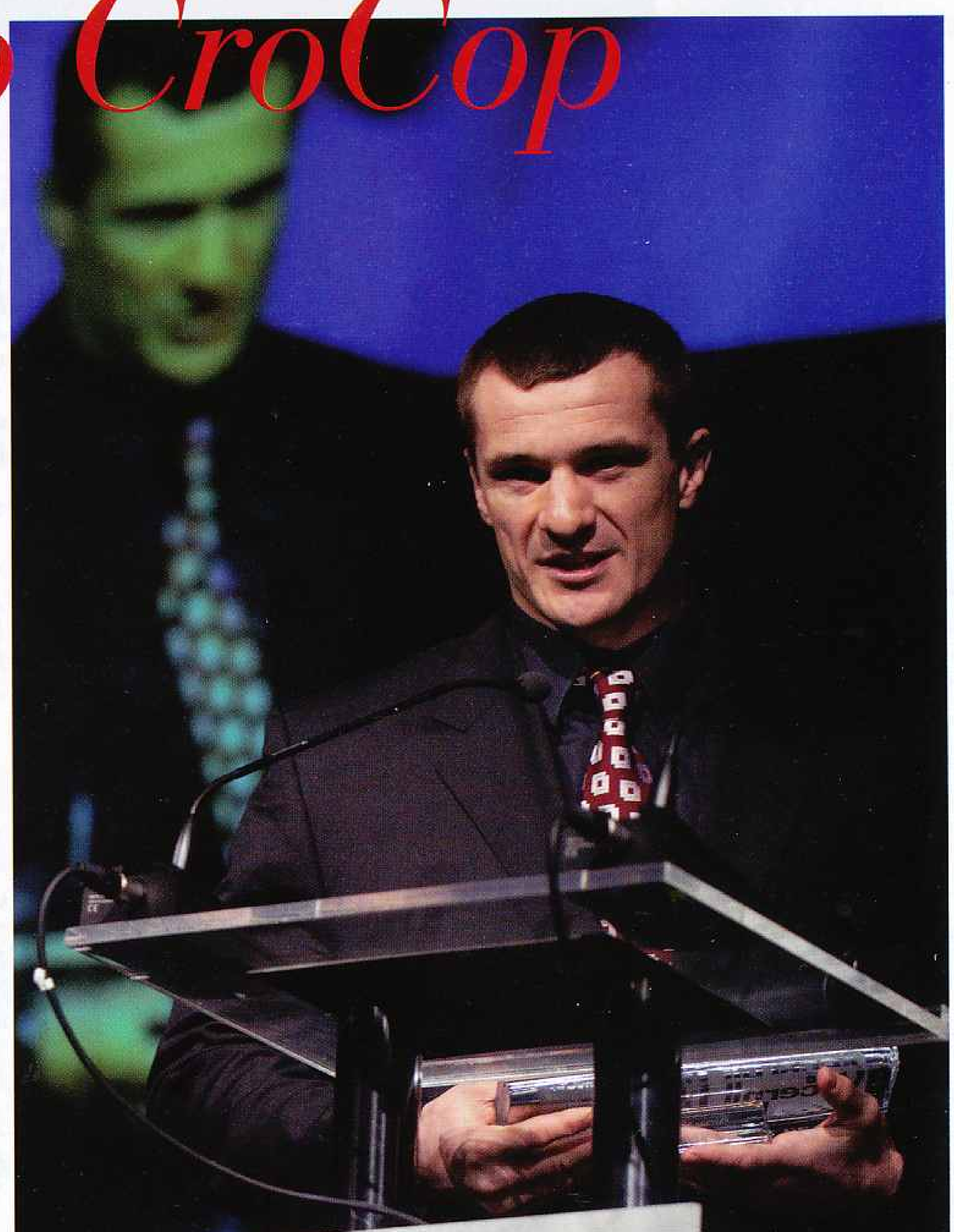
ミルコ　だいたいサッカー後進国であるアメリカでは、知っているクロアチア人の名前を挙げることができる人すらいないんじゃないか？　もしかしたら、スキーに興味がある人は、トリノオリンピックで金メダルを獲得したヤニツァ・コステリッツの名前を挙げられるかもしれないが、あとはクロアチア人の名前を挙げられるアメリカ人は一人もいないだろう。だから俺がそれをやりたいと思う。アメリカ人にクロアチアを少しでも認識してもらいたい。それが俺にとって大きな使命なんだ。

――日本のファンもミルコ選手の愛国心というものを知っているので、その気持ちは理解してくれると思いますよ。ただ、UFCに参戦する前に、これまでミルコ選手を応援してきた日本のファンに対して、一言メッセージをいただきたいんですけど。

ミルコ　OK。いまでも応援してくれたみんなの顔は思い浮かぶよ。花道を歩いてリングに向かうとき、手拍子をしてくれるみんなの後押し。それから昨年の9月10日、俺が初めてベルトを獲ったときに、「ハッピー・バースデー」の曲とともに祝福してくれたファンのことを俺は決して忘れやしないよ。そして間違いなく、また俺は日本で試合をする。だから、それだけは心配してないでほしい。

俺はUFCファンの前で PRIDE無差別級GP王者として 恥じない闘いをみせるつもりだ

Mirko CroCop



昨年末、ミルコはクロアチアの「スポーツマン・オブ・ザ・イヤー」を受賞。悲願のPRIDE無差別級GP優勝は、クロアチアでも"偉業"として扱われたことがよくわかる。

――おぉ～、いまから日本復帰を宣言してくれますか！　やはり日本の『PRIDE』には、借りを返さなきゃいけない相手がいますしね。

ミルコ　ヒョードルのことだろ？　大晦日の試合は観せてもらったけど、ハラハラしたよ（笑）。おいおい、ヒョードル大丈夫かよって。まぁ、それでもワンチャンスあれば仕留められる強さというのは、さすがエメリヤーエンコ・ヒョードルだ。ヤツに対しては、いくら敬意を表わしても余りある実力を持っていることは充分に認めているよ。

――ヒョードルともう一度闘いたい気持ちはありますか？

ミルコ　もちろん。俺は『PRIDE』でいくつかの敗戦というものを経験しているが、いま思い返すと、本当の意味で完敗を喫したのはヒョードルだけだと思う。ケビン（・ランデルマン）のときは、出会い頭の交通事故のようなもの。ハント戦は言い訳はしたくないがケガと体調が最悪だった。そしてノゲイラ戦は、1ラウンドはあきらかに俺がいつフィニッシュできてもおかしくなかった試合だ。でも、ヒョードル戦は文字どおり完敗だった。完全に封じ込まれたのはあの男だけなんだ。それは誰に言われなくても、自分が一番よくわかっている。だからこそ、あいつに

だけはかならず借りを返したいし、ヒョードルには「そのときまで負けてくれるなよ」と言いたいね。

——あくまで、無敗の王者ヒョードルを倒したい、と。

ミルコ　次にヒョードルと試合をするとき、俺は間違いなくUFCチャンピオンになっているから、俺たちの再戦というのは、紛れもなくMMA史上最大の闘いとなる。それがいったいどこで実現するのか。それは各プロモーターが鎬を削ってMMAというビジネスの規模とレベルと評価を上げてもらい、俺たちが満を持して再戦するにふさわしい、最高の舞台を用意してほしいね。

——そのカードはもう是が非でも、日本の『PRIDE』でやってもらいたいですけどね。

ミルコ　それは、俺が決められることではないけれど、『PRIDE』には、とにかく感謝しても、し尽くせないくらい感謝している。だからこそ、いまはとくに頑張ってもらいたい。そのためにも、とくにノゲイラやジョシュには、去っていく俺がこんなことを言うのはおかしいかもしれないが、『PRIDE』の柱であることを自覚して、ヒョードルを脅かす存在でい続けてほしい。それがあの二人の役割だと思うからね。あと、とくにジョシュには一言メッセージを送りたいけどいいかい？

——あ、どうぞどうぞ。

ミルコ　俺はジョシュの性格が大好きだけど、おまえはナイスガイすぎる。ノゲイラとの再戦を見せてもらったけど、まずファイターとしては、こんな短期間で再戦を受ける必要はない。もっと自分を大事にしろ。ナイスガイであってはいけない部分もファイターとしては持ってなくちゃいけないんだ。俺たちPRIDEトップファイターの中で、おまえが一番若いんだから。おまえがこれからの歴史を作っていくんだからね。

——わかりました。では、2・3UFCに向けてのお話をうかがいたいのですが。

ミルコ　さっきも言ったとおり、MMAの「A」が「アート」であることを思い出してもらえるようなKOシーンを見せたい。エディ・サンチェズという選手のことは俺もまったく知らない。試合のVTRも一試合しかもらってないから、対策を立てるというよりも、まず自分の力を出すだけだ。06年PRIDE無差別級GP王者として、恥じない闘いをみせて、『PRIDE』のトップファイターの実力がどれほどのものなのかを、UFCファンの目に焼きつけていきたい。

——では今後UFCで闘っていく中で、興味がある選手は誰ですか？

ミルコ　それはやはり、〝ミスターUFC〟であるチャック（・リデル）だし、ヘビー級のベルトを持っているティム・シルビアになるな。まぁ、ティムは彼個人に興味があるわけでなく、彼のベルトに興味があると言ったほうがいいけどね。ただ、ランディ（・クートゥアー）もいきなりカムバックして、ティムに挑戦するらしいね。

——そうらしいですね。でもティム・シルビアに対しては、いまでもあまり評価が高くないわけですか？　以前はシルビアのことを「そこそこ打撃のできる大男。ヤン・〝ザ・ジャイアント〟・ノルキアと何が違うんだ？」と評してましたけど（笑）。

ミルコ　そんな失礼なこと言ったかな？（笑）。まぁ、ノルキヤと同じだとは言わないが、同じような大型ストライカー・タイプでいえば、エメリヤーエンコ・アレキサンダーのほうがスピードがあって、強敵だろう。

——アレキのほうが強敵ですか？　たしかにそうかもしれないですけどね。

ミルコ　シルビアが俺に対して寝技を仕掛けてくるとも思えないけど……？　そうなると、気をつけなければいけないのはリーチの差ぐらいだろう。体重差が20キロぐらいあるけど、俺はアレキサンダー、ジョシュ、マーク・ハントら体重差のある強敵と闘ってきてるからね。

——UFC王者、恐るるに足らず、と。

ミルコ　いや、決してティムのことをディスリスペクトしたり、甘くは見てないよ。俺が相手を甘く見たのはケビン戦が最後だよ。まぁ、でも先のことより、まずは2月3日、まずはUFCというものを自分の五感で感じてからだね。すべてはそれからだ。

——わかりました。では我々も、まずはオクタゴンで闘うミルコ・クロコップをしっかり観させていただきます！

【07年1月11日／国際電話を再構成】



Mirko CroCop■1974年9月10日、クロアチア出身。01年、総合初挑戦で藤田和之にTKO勝利。03年に主戦場をK-1から『PRIDE』に移し、05年8月、ヒョードルの持つPRIDEヘビー級王座に挑戦するも敗北。昨年、PRIDE無差別級GPに優勝し、今年からはUFCを主戦場とする。188cm、100.4kg。

UFC 67 ALL or NOTHING

“覇王”ミルコ・クロコップ UFC制圧ロード、スタート!!

早くもヘビー級王座獲得へ カウントダウン開始!



188cm、104kg、24歳、米国カリフォルニア州出身。

エディ・サンチェズMMA全戦績
6勝0敗

2006.9.23 UFC63
○vs マリオ・ネト [2R 0:17 KO]

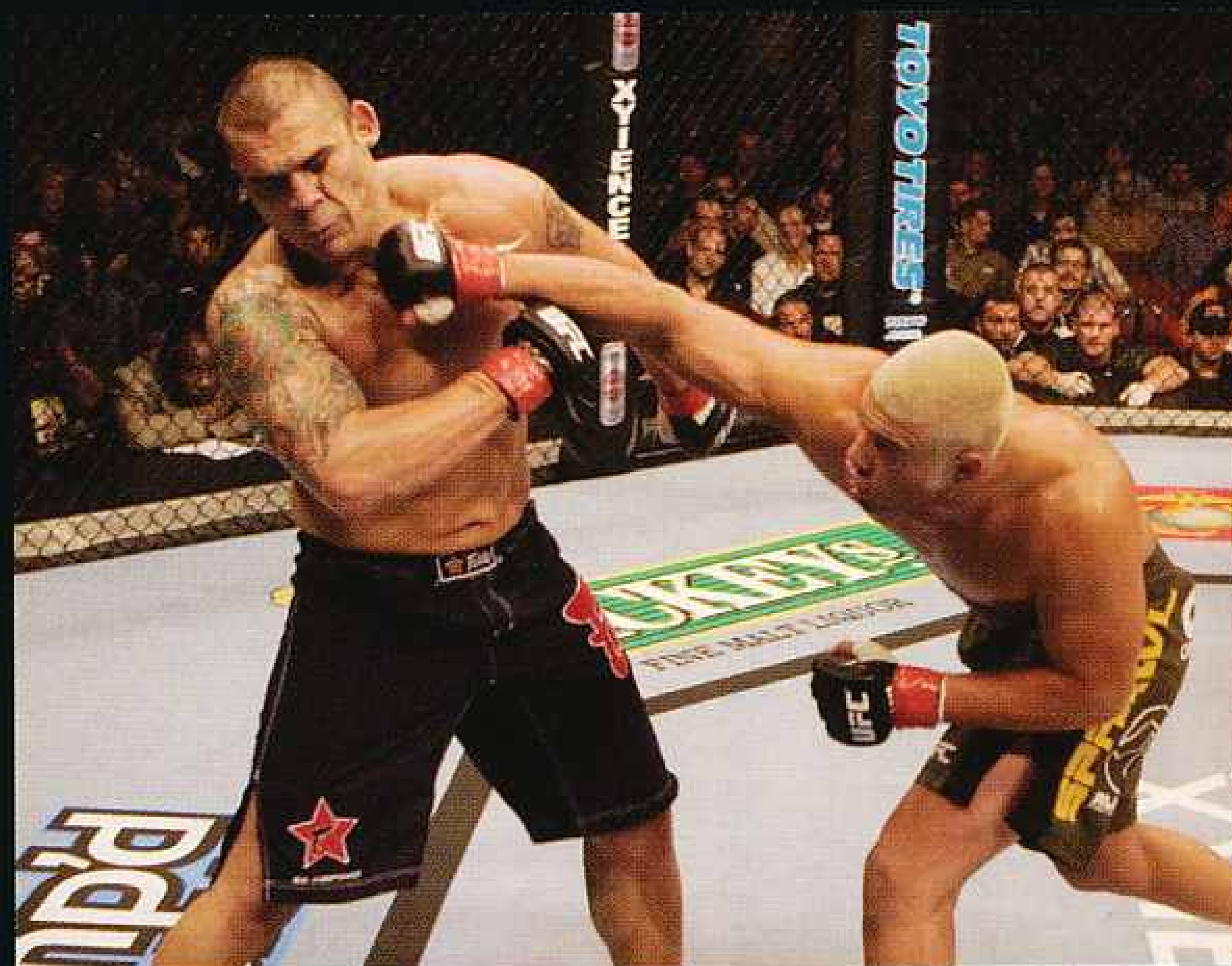
2006.3.11 トータルコンバット13
○vs ウェード・シップ [3R 4:32 TKO]

2005.10.15 トータルコンバット10
○vs ジュリアン・ラッシュ [2R 5:00 TKO]

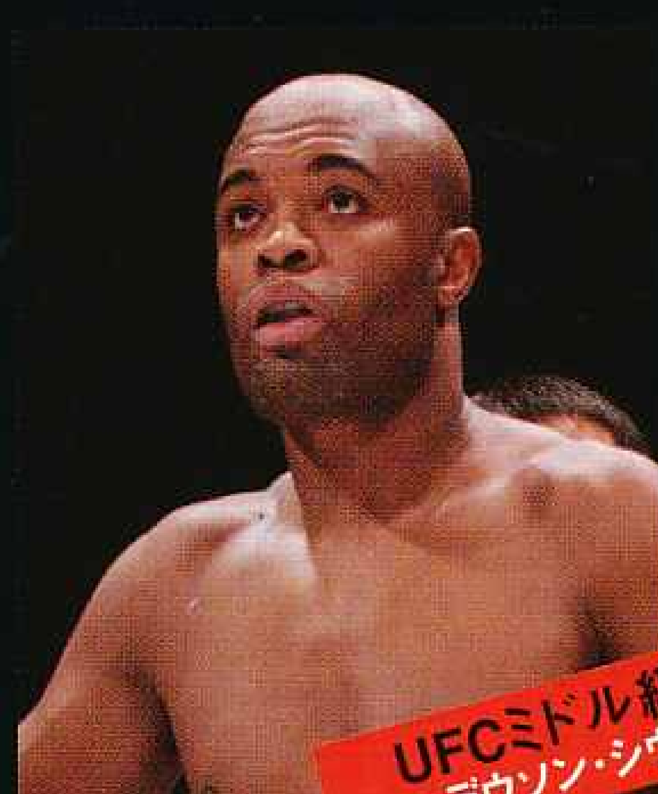
2005.9.23 KOTC
○vs エイドリアン・ペレス [1R 0:11 パウンド]

2005.6.12 KOTC
○vs アンソニー・ルイス [1R 2:49 チョーク]

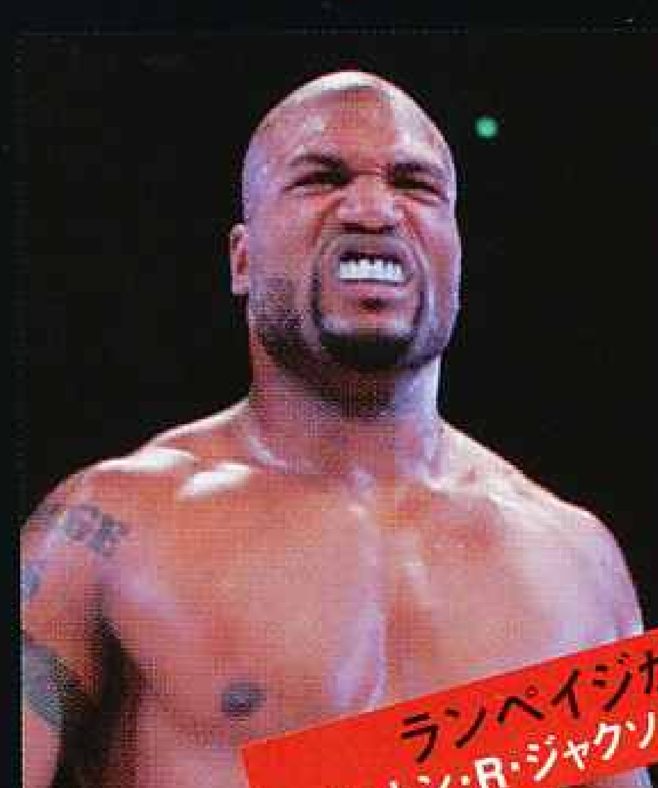
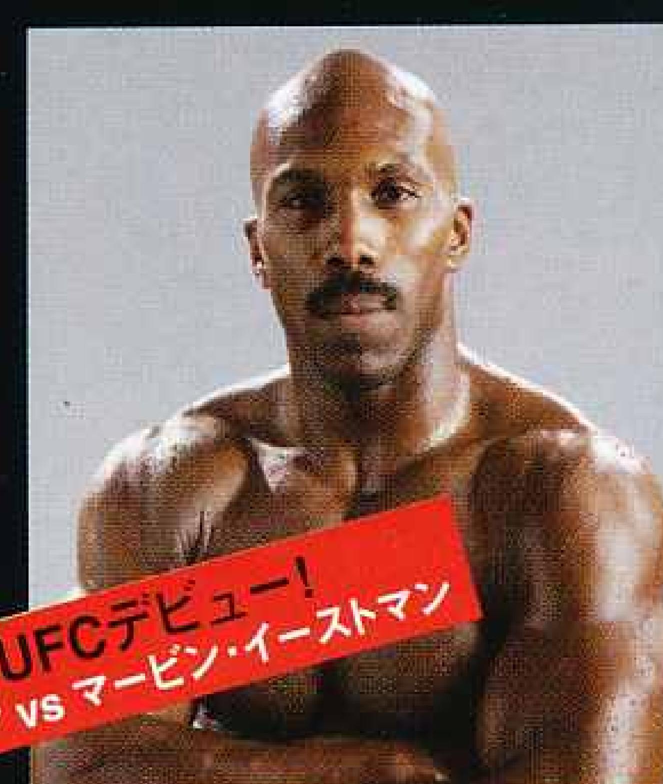
2005.1.29 トータルコンバット7
○vs トニー・タワーズ [1R 試合時間不明 TKO]



9月24日のUFC63で、マリオ・ネトの対戦相手が欠場したため、急きょ出場したエディ・サンチェズ。柔道&柔術黒帯のネトのテイクダウンをことごとく切ったサンチェズは2ラウンド、元野球選手らしく振りかぶるようなピッチングフォームで右フック！ これがネトの顎にクリーンヒットし、失神KO。UFCデビューを白星で飾った。




UFCミドル級タイトルマッチ
アンデウソン・シウバ vs トラビス・ルター

ランペイジがUFCデビュー！
クイントン・R・ジャクソン vs マービン・イーストマン

写真／Joshua Hedgs / Zuffa,LLC.

UFC67『ALL OR NOTHING』
2月3日（土・現地時間）
ラスベガス／マンダレイベイ・イベントセンター

■決定対戦カード

【ヘビー級】
ミルコ・クロコップvs エディ・サンチェズ

【UFCミドル級タイトルマッチ】
（王者）アンデウソン・シウバ vsトラビス・ルター（挑戦者）

【ライトヘビー級】
クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン
vsマービン・イーストマン

■出場予定選手

LYOTO、サム・ホジャー、タイソン・グリフィン、フランク・エドガー、メルビン・ギラード、ダスティン・ハゼレット、スコット・スミス、パトリック・コート

■日本放映
2月5日（月）22:00からWOWOWで録画放映！


ミルコ・クロコップ、UFC完全制覇へ！ 12月31日、大晦日興行に沸く日本に届いたミルコ・クロコップ、UFC参戦のニュース。驚異的なPPV収益を背景に日米格闘技市場逆転をはたしたUFCが起こしたこの力業で、海の向こうのオクタゴンからガ然、目が離せなくなってきた。

気になるミルコ初戦の相手は、総合無敗のストライカー、エディ・サンチェズ。“負けなし”とはいえ、さすがにミルコとは格違い。UFCの門番というよりは、むしろ、ミルコの鮮やかなKO劇を全米に披露するための引き立て役と見たほうがいいだろう。そうなると、注目すべきは、勝敗そのものよりも、UFCがミルコをどう売り出して、トップ戦線に絡ませてくるかだ。

UFCヘビー級では、長期間、現王者ティム・シルビアと前王者アンドレィ・アルロフスキーの二強が他を圧倒し、戦線が膠着していた。しかしUFCがWFAを買収したことで、WFAと選手契約を結んでいた“荒馬”ヒース・ヒーリングが参戦。さらに、昨年引退した“鉄人”ランディ・クートゥアーも3・3UFC68で復帰するため（いきなりシルビアの王座に挑戦）、一気に選手層に厚みが増している。

移籍早々、トップファイターに囲まれることになるミルコだが、試合で何が起こるかわからないとはいえ、ヒョードルらと鎬を削ってきた実力を持つだけに、UFC王座への道は険しいものではないだろう。さらに、UFCはミルコを3戦目でタイトルに挑戦させるという噂もある。


またライトヘビー級王者で、UFCナンバーワンの人気を誇るチャック・リデルがミルコとの対戦を希望している。ミルコがヘビー級王座を獲れば、ニューヨーク初進出の目玉として、王者同士の対戦が行なわれる可能性も高い。今年のUFCはミルコを中心に回る！



撮影／菊池茂夫

皇帝よどこへ行く

Where is the emperor going?



威

n Ayre

格闘技界を"大人買い"する男
ボクもカルビン・エアーになりた〜い。

ボードッグ・エンターテインメント・グループCEO

カルビン・エアー

「MMAが可能な限り最高のスポーツへと進化するのをただ手伝いたいんだよ」

このセレブリティあふれる笑顔を見よ! "60億分の1"ヒョードルを『PRIDE』から強奪しようとしているのはまさにこの男。ボードッグ総帥カルビン・エアー様である。総個人資産1150億円以上とささやかれるエアー氏は格闘技界に乗り込み、どんなドラマを展開しようとしているのか。国内初登場の"リッチな"本インタビューで、その真意を解き明かせ!

聞き手/須羽ミツ夫　構成/松下ミワ　写真協力/bodog.com



総個人資産 1150億円の脅威

“60億分の1”強奪を狙う 噂のボードッグ“黒幕”を ついに本誌が独占キャッチ!!

calvin

いま、世界の格闘技界に話題を振りまきまくっているボードッグ。ボードッグとはオンライン・カジノを出発点に、各方面に進出してネットの世界で一大勢力を築こうとしている企業だ。

昨年、ボードッグはアメリカのMMA団体MFCと手を結び、『ボードッグ・ファイト』の名前でMMAの世界に進出してきた。そのボードッグが一躍、注目を集めたのが「エメリヤーエンコ・ヒョードル参戦」の発表。ロシアでの第二回PPVイベントにPRIDEヘビー級王者の参戦が決定したというニュースには、世界中が度肝を抜かれた。ただし、DSEは直後にそのニュースを否定している。

それにも関わらず、自信満々に笑うのがボードッグの総帥、カルビン・エアーだ。1961年カナダ生まれで現在45歳のカルビンは自ら設立したボードッグを一代で大グループに押し上げ、その個人資産は円に換算すると1150億円以上、また一説では「兆」単位になるとすら言われている。一昨年の日本の防衛費が約4兆円といえば、そのスケールがわかるだろうか。いったい、どんな金持ちなんだ！

本誌はそんなカルビンを独占キャッチすることに成功。日本の格闘技メディア初登場となるカルビンが、ヒョードル参戦の経緯、ボードッグのビジョン、そしてMMAの未来について、ついに口を開いた！

——ミスター・カルビン、お忙しい中インタビューにお応えいただき、ありがとうございます。〃格闘技界イチ〃大金持ちだというあなたにご登場いただけて、こちらも緊張しています。

カルビン　ハハハ。私も日本のメディアに初めて登場できて、とてもうれしい。リラックスしてなんでも聞いてくれよ。

——わかりました（笑）。さっそくですが、いま日本では、あなたの率いる『ボードッグ・ファイト』にPRIDEヘビー級王者のエメリヤーエンコ・ヒョードルが出場するのでは？　という話題でもちきりなんですよ。

カルビン　もちろん知ってるよ。我々ボードッグがヒョードルと手を組んだというニュースが、世界中で大きなニュースになっていることは充分わかっている。なにしろ彼は史上最高のヘビー級MMAファイターだからね。彼が日本でスーパースターの地位を築いていることから、このニュースがとくに日本のファンに大きなインパクトを与えるだろうことも予想していた。我々は彼のような、世界クラスの驚異的アスリートと一緒にビジネスができることにエキサイトしているよ。



ヒョードルをはじめとするレッドデビル勢と協力関係にあるボードッグ。「MMAを可能な限り最高のスポーツにするために」と語るエアー氏は、この“コマ”をいったいどう動かそうと企てているのだろうか。

ヒョードルに注目しはじめたのは03年のノゲイラ戦からだ

昨年12月2日、カナダ・バンクーバーで開催された第一回のPPVイベントでは、「アメリカvsロシア」として8対8の全面対抗戦が組まれた。このロシア陣営は、すべてヒョードルが所属するレッドデビルの選手である。そもそもMFCがレッドデビルとは友好関係にあり、その流れを受けついだものだ。

——ほかの国からの反応も、たくさん耳に入っているんじゃないですか？　なにしろヒョードルは、『PRIDE』ラスベガス大会でアメリカに初上陸して、大反響を巻き起こしたばかりですからね。

カルビン　まったく、大変な反響に驚いているところだ。ある程度は予想していたが、その予想をはるかに超えているので驚いているんだ。ここに至って、世界中のあらゆる地域のファン、選手、ジャーナリスト、そして企業関係者から凄まじい支持を得ているよ。大部分の人々は、ボードッグがMMAの世界に参戦した理由を充分わかってくれている。すなわちMMAを進化させるのを助け、選手とファンの両方に斬新でエキサイティングな体験をさせる機会を与えるためということだ。これだけ反響が大きかったことで、MMAが今日の世界で最もダイナミックかつ魅力的なスポーツの一つだという、私の信念が正しいということが改めて証明されたと思っている。

——そもそも、あなたがヒョードルに興味を持ったのは何がきっかけなんですか？

カルビン　私が初めて彼に注目したのは、2003年のことになる。アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラとの初戦で彼を下したときだ。

——あ、そんなに早くから。

カルビン　当時のノゲイラはマーク・コールマン、ヒース・ヒーリング、ボブ・サップ、ダン・ヘンダーソンといった強豪たちを下したことによってヘビー級トップ選手のポジションをしっかりと築いていたが、ヒョードルの素晴らしいグラウンドとパウンドのテクニック、それからノゲイラのガードを打ち破る、信じられないほどの能力は本当に素晴らしいものだった。あの試合で、ヒョードルがMMAの次のスーパースターになったということにはどんなファンでも同意せざるを得ない。

——ヒョードルにとってノゲイラ戦は『PRIDE』では3戦目でしたが、あの試合が彼のキャリアで持つ意味は大きいですよね。

カルビン　そのあとの試合、とくにカズユキ・フジタ（藤田和之）などは彼がMMAの世界で、とてつもない脅威であることを証明したよね。それまでも、そしてそのあとも、ヒョードルがあれほど追い込まれた試合はなかった。フジタはヒョードルを凶暴で重いパンチの連打によって大ピンチに追いやったけど、その嵐を切り抜け、リカバーして勝利を手にしたヒョードルの能力は、あの王者の核心となる部分をガッチリと証明するものだった。それ以来、コールマン戦、ケビン・ランデルマン戦、ナオヤ・オガワ（小川直也）戦、そしてミルコ・クロコップ戦と、彼はその比類なき力を示し続けたんだ。

ボードッグという組織と格闘技の関わりはこれまであまり知られていなかったが、ヒョードル、ノゲイラらの戦績について饒舌に語るカルビンの様子から判断するに、彼の言葉は〃借りもの〃ではない。MMAデビューが待たれていたホジャー・グレイ

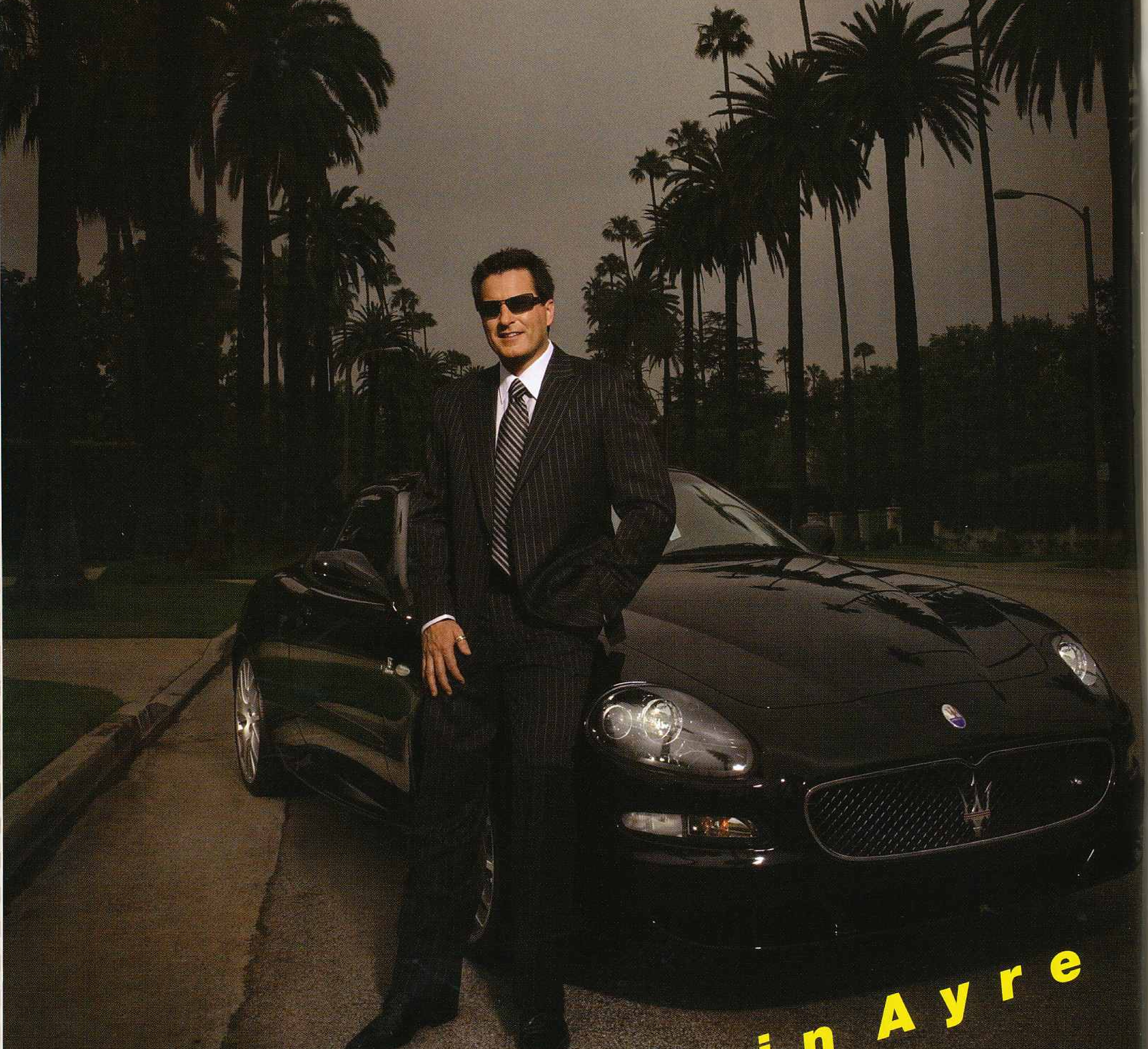
シーをバンクーバー大会に参戦させたことなどからも、彼が〝腰掛け〟などではなく、格闘技について高い見識を持っていることが察せられる。

――ヒョードルが参戦することになれば、ボードッグという組織自体にも大きな効果をもたらすことになりますか？

カルビン　私が期待するのは、彼のさらなる進化だ。彼がじつはまだそのポテンシャルの頂点まで達していなくて、これからまだまだ進化するのかと思うととてつもなくエキサイティングな気分になるんだよ。彼が二年後、あるいは5年後にどれだけのものになっているか、私には想像もつかない。また『ボードッグ・ファイト』が彼と協力することによって多くのものが生まれるだろうし、彼が限界なきポテンシャルを発揮するためのサポートをするにあたって、重要な役割を果たせると思うと楽しみだね。

――以前からボードックとヒョードルの所属するレッドデビルとは友好関係にありますよね。

カルビン　我々とレッドデビルは互いに利益になるような関係を築けている。『ボードッグ・ファイト』はレッドデビルととても強固な協力関係を育んできたし、ビックリするようなマッチメイクを披露するための、斬新でエキサイティングな機会を一緒に生み出しているんだ。これまで、我々に協力してくれたのはウラジミール・ゼニン、エリック・オガノフ、セルゲイ・カズノフスキーといった選手たちだ。彼らは12月2日、バンクーバーでのPPVイベントでも素晴らしいパフォーマンスを



Calvin Ayre

このカッコよすぎるカルビン様を見よ！　まさに絵に描いたような大富豪の姿。莫大な資金力を誇るカルビン様には、格闘技界のトップを行くヒョードルに目をかけるだけでなく、ぜひ『kamipro』にも甘いお声をかけていただきたい。

見せてくれた。ロシアには才能あふれる選手がたくさんいて、彼らの多くはまだ無名のままだ。そんな選手たちを世界中のファンに紹介する手伝いをするのは、とてもワクワクする仕事だよ。

——今後、リングに上げたい選手はほかにもたくさんいるわけですね?

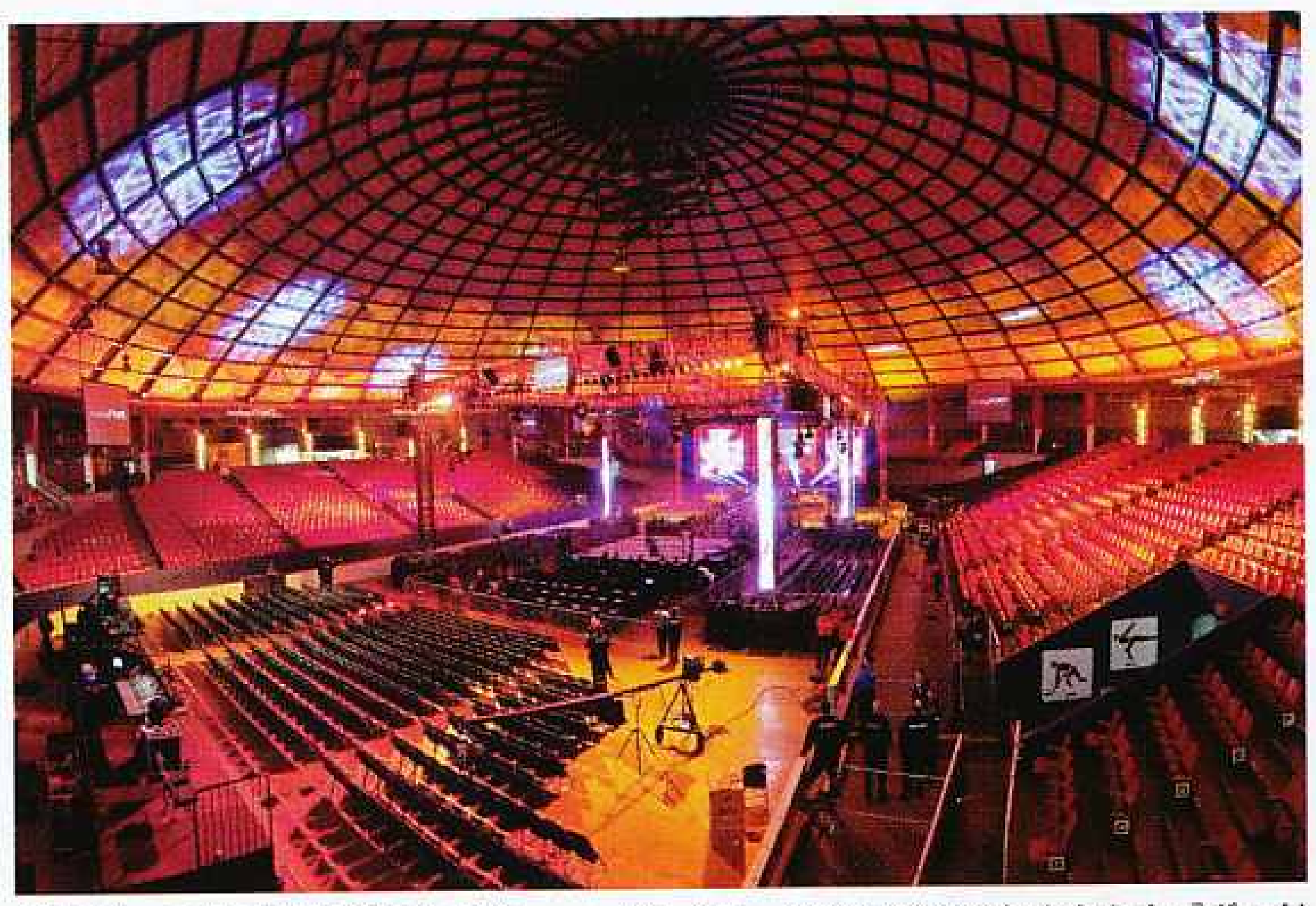
カルビン　もちろん。いま、挙げた選手たちのほかにも、ヒョードルの弟であるエメリヤーエンコ・アレキサンダー、アーマン・ガンバリャン、アマール・スロエフといった選手たちにも出場してもらいたいと思っている。また、『ボードッグ・ファイト・シリーズ2』ではヘビー級のローマン・ゼンツォフを起用したばかりだしね。正直な話、ローマンのファイターとしての才能は言葉にできないほど素晴らしい。ヘビー級なのにミドル級並みに動けるんだよ! 彼の最近の試合を観れば、その圧倒的な力がわかるだろう。彼はイブラヒム・マゴメドフ、ペドロ・ヒーゾ、ギルバート・アイブルといった強豪たちをKOしてきた。それによって注目すべき世界レベルのファイターであることを証明してみせたんだ。彼がフランスの超ハードパンチャーであるクリストフ・ミドゥを破った試合についてはまだあまり詳しくは言えないんだけど、いままでに私が目撃した中で最も暴力的でエキサイティングな試合だったということは断言できる。この試合は我々のオフィシャル・ウエブサイト、www.bodogfight.comで配信されるので、ぜひチェックしてほしい。

——宣伝も欠かしませんね(笑)。

カルビン　それが今回、ロシアのサンクトペテルブルグで収録されたテレビシリーズ『ボードッグ・ファイト・シリーズ2』なんだよ。

——あ、すでにロシアでテレビ収録が始まっているんですか!

現在、ボードッグの活動の中心をなしているのがテレビシリーズ『ボードッグ・ファイト』。流行のリアリティショーの形式をとり、試合を中心としながらもそこに出場するファイターたちのプロフィールやバックボーンを丹念に取材。ここで活躍した選手がフィナーレのPPV大会に出場できる仕組みになっている。『シリーズ1』はコスタリカ、『シリーズ2』はロシアで収録され、10・4MARS新宿大会もこの番組の一環として撮影されている。前述のオフィシャルサイトではテレビ放映後、番組が丸ごと配信されており、日本でも視聴することができる。


写真は、12月2日に注目のホジャー・グレイシー総合初試合が行なわれた『ボードッグ』バンクーバー大会の全景。格闘技の会場というより、もはや引田天功が登場してもおかしくないようなイリュージョンカラーのセットである。

——その一連の企画には、レッドデビルはどう関わっているんですか?

「あいつらは金に任せて……」という陰口も耳にしている

カルビン　レッドデビルは、ロシアにMMAを普及させるために熱心に働いているいくつかの組織や人物にサポートされている。サンクトペテルブルグでは、ロシアのファンに最上級の闘いを観てもらうためにレッドデビルや関連組織をはじめ、この件に関わっているすべてのグループが一体となって、持てる力を集中して協力し合っている。

——そのロシアでのPPVイベントは、どのような大会になりそうですか?

カルビン　我々はまさしくボードッグ流のやり方で最大限の努力をするつもりだから、今度のサンクトペテルブルグでのPPVイベントにはみんな期待してもらっていいと思うよ。これはヒョードルが、彼の世界レベルの実力を祖国で示す最初の舞台になるだろう。彼がロシアで試合をしたこと自体はこれまでにもあったが、我々のようにショーアップされた舞台を用意しての大規模なイベントは、これが初めてということになるからね。実際、ロシア圏の国々はやっとMMAに注目しはじめたばかりだ。我々は当地が生んだ偉大な才能の凱旋を、盛大に祝福する手伝いをするんだ。またヒョードルが出場することで、『ボードッグ・ファイト・シリーズ2』の最終決戦をお見せすることにもなる。現在のMMAファイターの中でも最も卓越した技術を持つ選手たちがこのイベントに参戦してくれることは我々にとって大変光栄なことだ。彼らに素晴らしい舞台を提供し、彼らも素晴らしい闘いでそれに応えてくれることだろうから、前回以上に自信を持って送り出せるイベントになるだろう。

——なるほど。レッドデビルはオランダの『2H2H』ともパイプを持っていることが知られています。今後、レッドデビルとともにロシアや周辺諸国での事業を拡大していく計画はありますか? もしかして、すでに何か進んでたりします?

カルビン　鋭いね(笑)。詳しくは明かせないが、たしかに大きなプロジェクトは進行している。我々は、『ボードッグ・ファイト』を地球上の考えられる限りあらゆるマーケットで展開し、ある限られた地域のみでしか見られないようなものにはしたくない。これはロシア、日本、北米、アジア、ブラジル、ヨーロッパなど無数の国々での協同作業や地域的戦略を含むものだ。ボードッグが次にどこに行くかは、誰にもわからないはずだ。

——さすが大金持ちだけあって発想がデカイですね。たしかに我々などには、まったく想像もつきません(笑)。ボードッグはアジアとヨーロッパでの市場を拡大していくことを、以前から公言していますよね。これも何か進んでるんですか?

カルビン　ほかのすべてと同様、ボードッグは我々のブランドをあらゆるマーケットに拡大し、展開したいと考えている。いま現在も多くのプランが進行しているので、2007年は我々の会社にとってとんでもなくエキサイティングな年になるだろう。我々にとって最も重要な目標の一つに、若く有望なアスリートの支援活動がある。いまはイギリスからもゼルグ・ガレシックやポール・デイリー、ブラッド・ピケットといった素晴らしいファイターが多く飛び出してきているし、『ボードッグ・ファイト・シリーズ2』でもマット・ソープ、ロージー・セクストンという二人の選手を起用している。我々は次世代のファイターたちに勢いよくキャリアをスタートさせる機会をできるだけ多く提供し

たいんだ。我々は目にも止まらぬ速さで動いているから、目を離しちゃダメだよ。

――はい、しかと受け止めます（笑）。ちなみに、日本ではMARSと提携していますよね。日本で計画を展開する場合は、やはりMARSとともに何かすることになりますか？

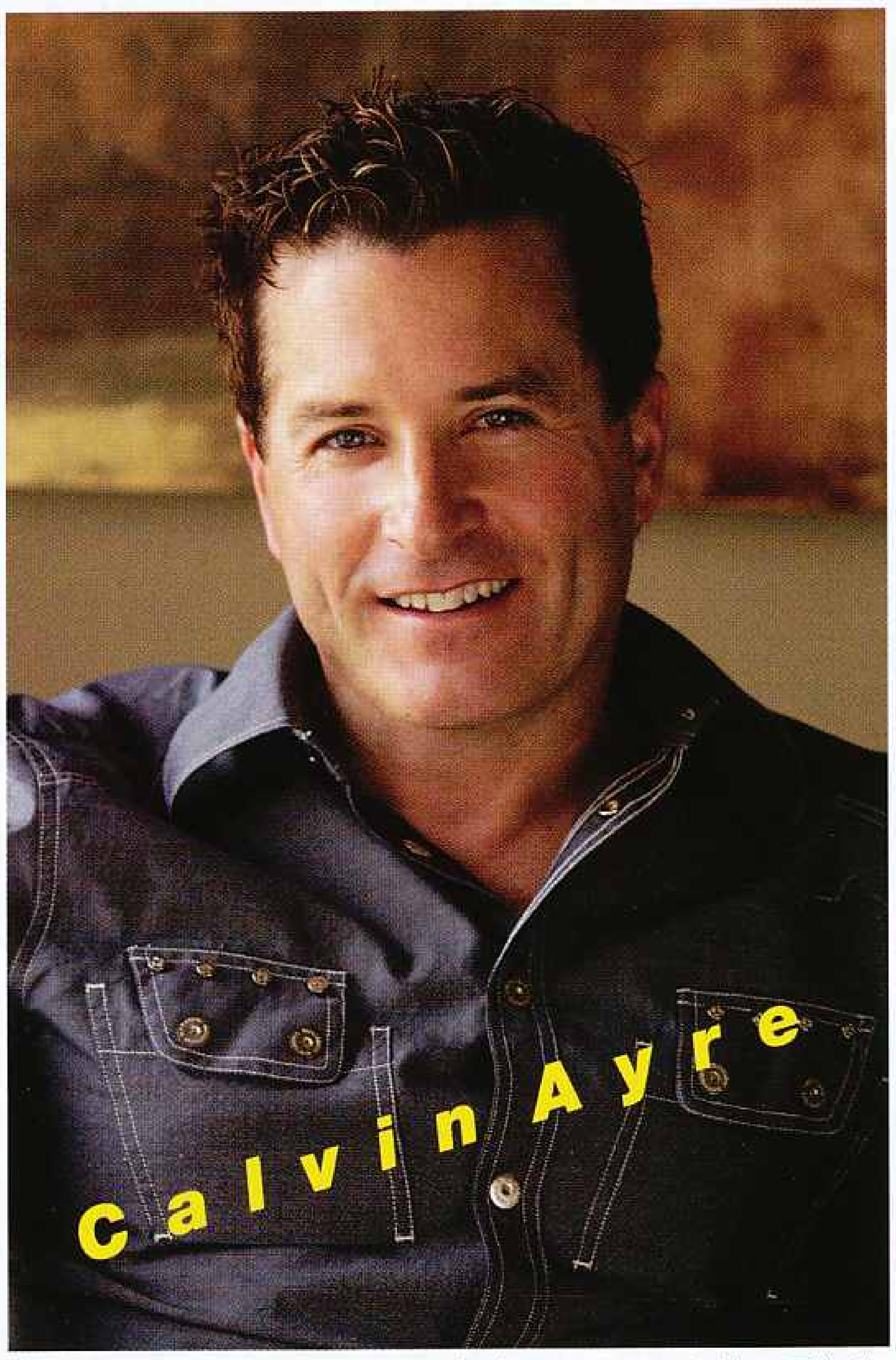
カルビン　日本というマーケットは、世界でも最も目の肥えたMMAファンがいるところだ。私は日本という国は、大変な財産と伝統を持つ、格闘技の発祥地だと認識している。『PRIDE』、K―1、修斗、パンクラスといった組織は皆MMAという競技、そして格闘技を取り巻く文化の発展に大変大きな影響を与えている。そして日本には、精巧でエキサイティングなライブショーを提供する素晴らしいプロレス団体を数多く生み出してきたという、大変な歴史がある。そうだろう？

――そのとおりですが、しかし、本当に詳しいですね（笑）。

カルビン　日本は格闘技を見るうえで欠かせない国だからね。アメリカのファンはMMAの最先端のトレンドを発見するために、日本への注目度をどんどん増しているんだよ。『ボードッグ・ファイト』も昨年、日本のMARSとともに仕事をする機会に恵まれ、大きな成果を得た。とくに10月4日、新宿で行なった『MARSボードッグ・ファイト01』は話題も提供したし、我々も得るものが多かったと思う。MARSはこれからの活動について大変進んだビジョンを持っているので、我々は彼らのサポートをしてこの関係を強固にしていくのが楽しみなんだ。

――最終的に、『ボードッグ・ファイト』の目指すものはなんなのでしょう。

カルビン　我々は世界中の人々が見たこともなかったぐらいエキサイティングな試合を提供することによって、いまある限界を超えて、MMAが考えられる限り最高のスポーツへと進化するのを手伝いたいと思っている。これまでアメリカのUFCや日本の『PRIDE』といった既存のMMAプロモーションをよく観察してきた。その結果、我々ならこれらの組織が築き上げてきた大変な成果に新しいものを加えることで、このスポーツを次のレベルに押し上げることができるという自信を持つに至ったんだ。ボードッグというのはほかに比べるものがないようなデジタル・エンターテインメント組織だ。『ボードッグ・ファイト』は我々の一部分で、カジノはもちろんのことミュージック、スポーツ、出版、放送……デジタルメディアを使ったあらゆる体験を、利用者に提供している。



Calvin Ayre■1961年5月25日、カナダ出身。オンライン・カジノの運営で知られるボードッグ・エンターテインメント・グループの創立者。05年には世界的な慈善活動を目的とする私的独立基金『カルビン・エアー基金』を設立しており、さらに06年にはアメリカの雑誌『フォーブス』が発表する世界の個人資産番付に堂々登場。世界中で最もお友だちになりたい人物の一人である。

オンライン・カジノを起点に展開するボードッグの活動は、音楽レーベル、オンライン・マガジン、そしてMMAへとその幅を広げている。またケーブルテレビ局も傘下に収め、これらの事業をネットやテレビといったメディアを結ぶことでさらなる新展開を生み出している。

カルビン　これまでもいろんな分野で、我々は古い伝統を破って革新的な価値観を示し続けてきた。我々はその中で、自分たちの持つあらゆる力を『ボードッグ・ファイト』というプロジェクトに傾けているんだ。これから数ヵ月のあいだに、どれだけとてつもない、斬新な進化が起きるか期待してほしい。

――本当に自信満々ですね（笑）。では最後に、レッドデビルやMARSのように今後、手を組んでいきたいと思う組織はありますか？

カルビン　ボードッグはMMAというスポーツを正しいやり方で進化させ、最高のレベルに押し上げようと努力しているすべての組織と協力したいと願っている。過去にも我々は、オレゴンのチーム・クエスト、サンフランシスコのアメリカン・キックボクシング・アカデミー、ロサンゼルスのシャークタンク、フロリダのアメリカン・トップチームといった多くのグループと協力してきた。これはほんの一例だけどね。ほかの事業と同様に、我々はあらゆる地域に拡大し、展開している。このMMAというスポーツの世界で、新たな〝黒幕〟としての地位を確保したいんだ。

――〝黒幕〟ですか？

カルビン　いやいや、もちろん裏でコソコソ事を動かすという意味じゃなくて、リーダーシップ的な役割を負いたいということだよ。いろんな人が、「あいつらは金に任せてこの世界に入ってきたが、儲からなかったらすぐにしっぽを巻いて逃げていくよ」と陰口を叩いていることは知っている。それこそ、ほかの分野でもその繰り返しだったからね（笑）。でも今日の話で、我々がMMAというスポーツに対していかに真剣に向き合っているか、理解してもらえたと思う。『ボードッグ・ファイト』がMMAの世界に定着する覚悟が、これでわかったかい？

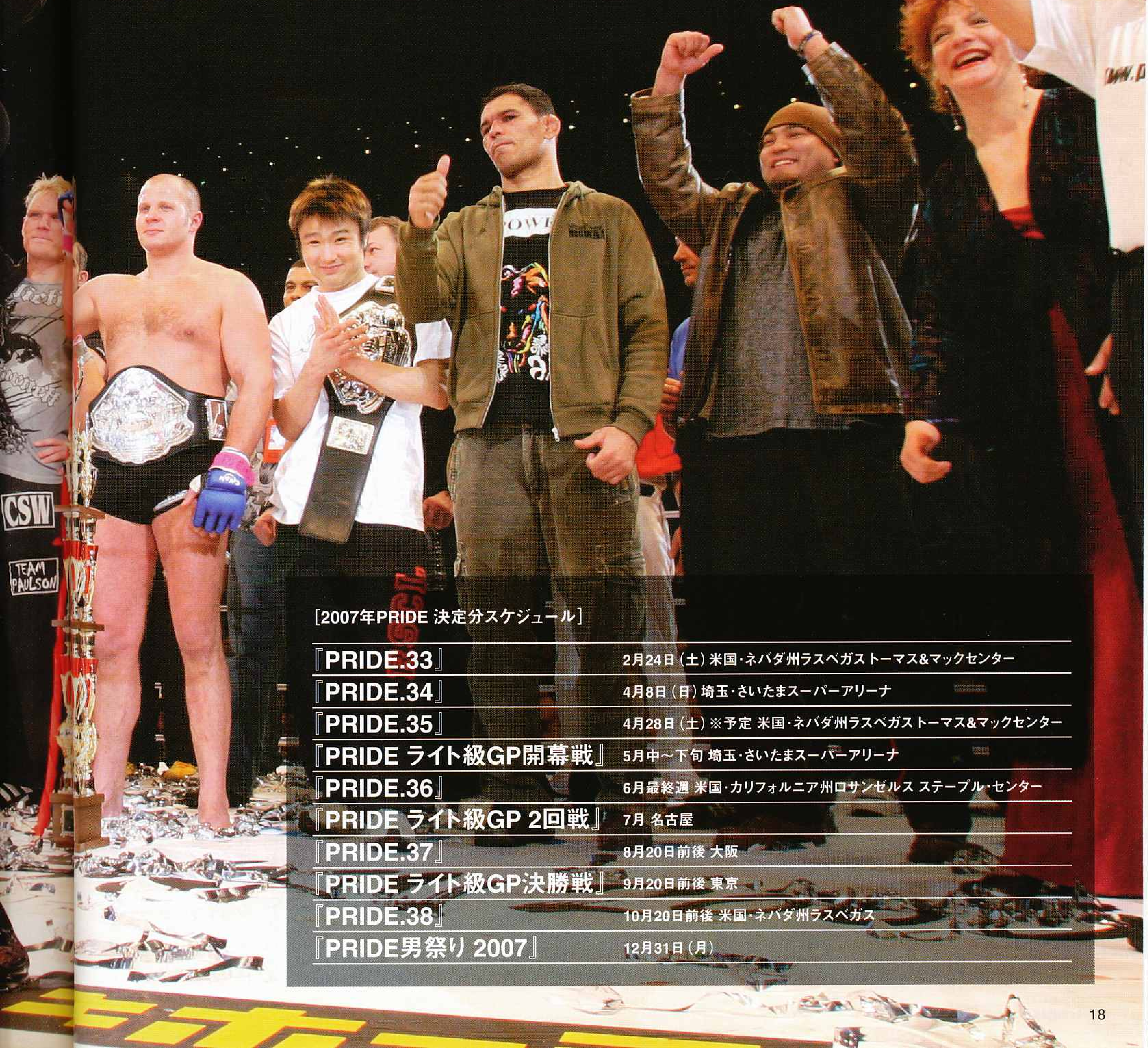
――よくわかりました。ボードッグがとんでもないものを見せてくれるということについては、かなり期待してよさそうですね！　楽しみにしています！

【06年某日／電話取材にて収録】

なお、当初3月初旬と発表されていたロシアでのPPV大会だが、ボードッグの最新メディア・リリースでは4月開催に修正されている。はたして、このイベントにヒョードルは出場するのか？　いずれにせよ、小国の国家予算にも匹敵する財力を誇るボードッグからは目を離せそうにない。

が闘いの大海原へ、出航!
る旅に出ようや!!

“格闘厄年”2006年は終わり、新たなる年を迎え、2007年『PRIDE』は世界に討って出る！
本誌既報のとおり、いまアメリカ格闘技市場はUFCを中心に膨張の一途を辿っている。PPVの記録は次々と塗り替えられ、それにしたがい選手のファイトマネーは高騰。『PRIDE』はトップファイター大量流出の危機にさらされたのだ。急激に巨大化したこのアメリカ格闘技界とどう向き合うか？　それは『PRIDE』に突きつけられた大きな命題だったが、そこで出した結論は、「選手を奪われる前に、逆に“アメリカ市場”を奪いに行く！」だった。そして下記のとおり発表された『PRIDE』の2007年スケジュール。二カ月に一回のアメリカ大会開催発表は、まさに『PRIDE』が闘いの大海原に船を漕ぎ出した証である。いよいよ、世界を驚かせる旅に出るときがきたのだ。はたして、この大航海の先には何が待っているのか!?　本当にアメリカ市場を奪うことなどできるのか？　やれんのか？　やれんのか!?　やれんのか!!　やるしかねぇだろ！　ついてこい!!

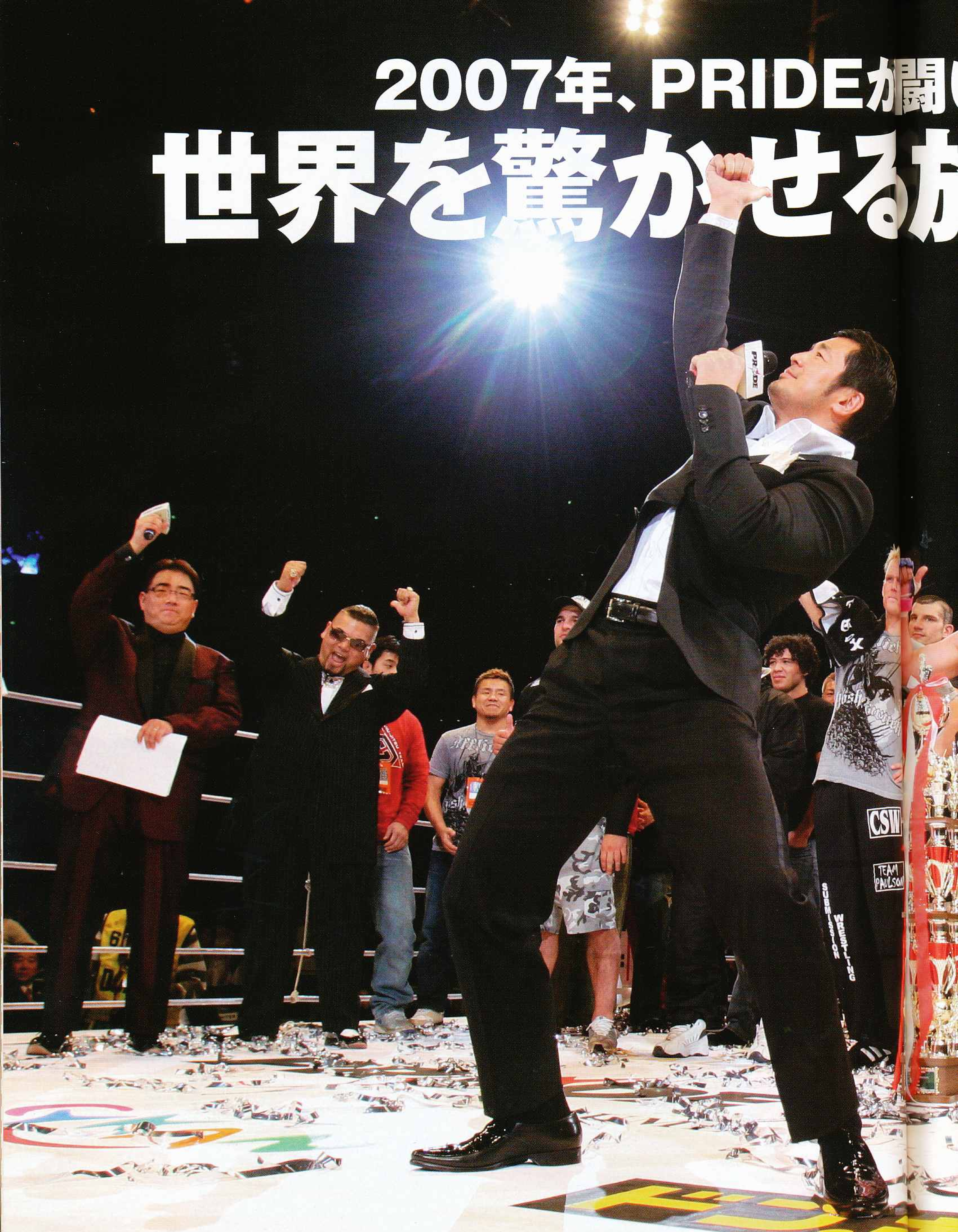


[2007年PRIDE 決定分スケジュール]

『PRIDE.33』	2月24日（土）米国・ネバダ州ラスベガス トーマス&マックセンター
『PRIDE.34』	4月8日（日）埼玉・さいたまスーパーアリーナ
『PRIDE.35』	4月28日（土）※予定 米国・ネバダ州ラスベガス トーマス&マックセンター
『PRIDE ライト級GP開幕戦』	5月中～下旬 埼玉・さいたまスーパーアリーナ
『PRIDE.36』	6月最終週 米国・カリフォルニア州ロサンゼルス ステープル・センター
『PRIDE ライト級GP 2回戦』	7月 名古屋
『PRIDE.37』	8月20日前後 大阪
『PRIDE ライト級GP決勝戦』	9月20日前後 東京
『PRIDE.38』	10月20日前後 米国・ネバダ州ラスベガス
『PRIDE男祭り 2007』	12月31日（月）

2007年、PRIDEが闘

世界を驚かせる




道はどんなに険しくとも笑いながら歩こうぜ!

退くことを知らぬ、榊原大将の進軍ラッパ!
全世界MMAウォーズ いざ、米国本土決戦へ!!

PRIDE 10年目の逆襲



©NAOKI FUKUDA / DSE

国内では“フジテレビ・ショック”、国外ではUFCをはじめとするアメリカマーケットの急激な拡大と、国内外両面から巨大なる苦難が襲ってきた2006年の『PRIDE』。しかし、それをなんとか乗り切り年が明けた2007年は、『PRIDE』創立10周年イヤー。いよいよ『PRIDE』の逆襲が始まる年となる。“米国本土決戦”を直前に控えたDSE榊原代表に、“逆襲のシナリオ”をうかがってきた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

――今日は、2007年の『PRIDE』の戦略についてうかがっていきたいと思いますので、よろしくお願いします！

榊原　はい。よろしくお願いします。

――代表はこのインタビュー終了後、すぐにアメリカに行かれるそうですね？

榊原　そうですね。向こうでは2月23日の『PRIDE・33』（ラスベガス、トーマス&マックセンター）に関する記者会見をはじめ、今年の大きな課題であるアメリカ市場獲得のために、いろいろ動いてこようと思ってます。

――やはり、今年はアメリカでの戦略が中心となってくるわけですか？

榊原　アメリカ戦略が中心になるというより、去年の10月に初めてアメリカで大会を開催して、今年は大会数も増やしているので、必然的に向こうでやるべきことは多くなってきますよね。やはりアメリカで『PRIDE』を認知してもらうためには、一回だけの打ち上げ花火ではなく、定期的に開催することが市場開拓には不可欠ですから。とにかくアメリカでの環境作りを、市場と組織の両面でしっかり頑張りたいな、と思います。

――ということはDSEのアメリカオフィスも変わるわけですか？

榊原　これまでもDSEアメリカオフィスというのは、もちろんあったんですけど、今年は大会数もかなり増えますから、当然オフィスも人数を増やしたりする必要がありますよね。広報や営業など、日本のDSEと同じ環境、現地のスタッフだけでアメリカ大会を完結できるマンパワーが必要だと思ったので、それを作っていきたいな、と思います。

――ファンの中には「なぜ、そんなにアメリカでやる必要があるのか」という声がいまだに多いんですけど、アメリカ進出の意義を語っていただけませんか？

榊原　昨年、『kamipro』のインタビューでもお話しさせていただきましたけど、アメリカ市場の急激な巨大化によって、日本市場だけで勝負していても、この総合格闘技が回っていかない。それがやはり、一番の大きな理由ですね。日本にいると実感がないと思いますけど、その膨張ぶりは本当に凄い。たとえば去年、日本では亀田興毅くんがボクシング界でいろんな意味でブレイクしましたけど、アメリカの総合格闘技界は、亀田兄弟が10人ぐらい突然現れたような状況になってるんですよ。



DSE社長室には、ミルコがクロアチア首相の親書を持って、小泉前総理と会談した際の写真がいまだに飾られてあった。

――亀田10兄弟（笑）。

榊原　それぐらいの規模でMMAというものが、若い人たちのあいだで爆発的に浸透し、お金を生み出すコンテンツとして大成長してしまったんです。そうしたアメリカ市場を持たずに、日本でだけ開催していても、これまでのクオリティを確保できないんですよ。

“UFCの選手”で興味があるのは……ミルコ・クロコップです（笑）

――アメリカでの成功なくして、『PRIDE』の存続もありえない、と。

榊原　ないですね。UFC以外にもボードッグという新興勢力の台頭もありますから。これからプロモーター同士の競争がますます激化するでしょう。そういう意味では、我々ドリームステージとして、ホントに正念場なんだとは思います。しかし、これは裏を返せば、『PRIDE』が何倍も大きくなるチャンスでもありますから、そのためにも今年はメッチャクチャ攻めていきたいと思いますね。

――ミルコがUFC参戦を決めたことで、ファンは次はヒョードルが行くんじゃないかと心配してますが。

榊原　ヒョードルとは契約を更改しましたので安心してください。ヒョードルやヴァンダレイ・シウバは『PRIDE』の象徴とも言える絶対王者ですから。彼らが移籍することはありえないですね。

――ただ、一部では3月か4月のボードッグ・ロシア大会への出場が報じられましたけど、これもありえませんか？

榊原　そういう噂が出ているのはボクも知っていますけど、それはないですね。

――〝貸し出し〟みたいなかたちもありませんか？

榊原　まぁ、いま現在、そして今後のことを考えても、ボードッグという大会にボクらが選手を貸すということはないと思うんです。ヒョードルの件はへんなかたちで報道されているかもしれないですけど、ヒョードルはボードッグに出たいのではなくて、ロシアで試合をしてみたいんですね。母国で自分の闘う姿を見せたい、と。そういう思いがあるので、それをボクらがバックアップしたり、彼が所属するレッドデビルが主催する『M－1』という大会に協力するかたちで、ヒョードルがその大会に出る可能性はゼロではないと思います。ただ、基本的にヒョードルはPRIDE王者として、『PRIDE』でのみ試合をすることになっています。

――UFCとの関係は年が明けて変化がありましたか？

榊原　変化はないですね。ただ、UFCとは常に連絡が取れる間柄ではあります。ミルコの件もダナ（・ホワイトUFC代表）と電話で話しましたし。そういった意味で、ミルコは快く送り出そう、ということになりましたから。

――では、今後UFCとの選手交流などの可能性はあるのでしょうか？

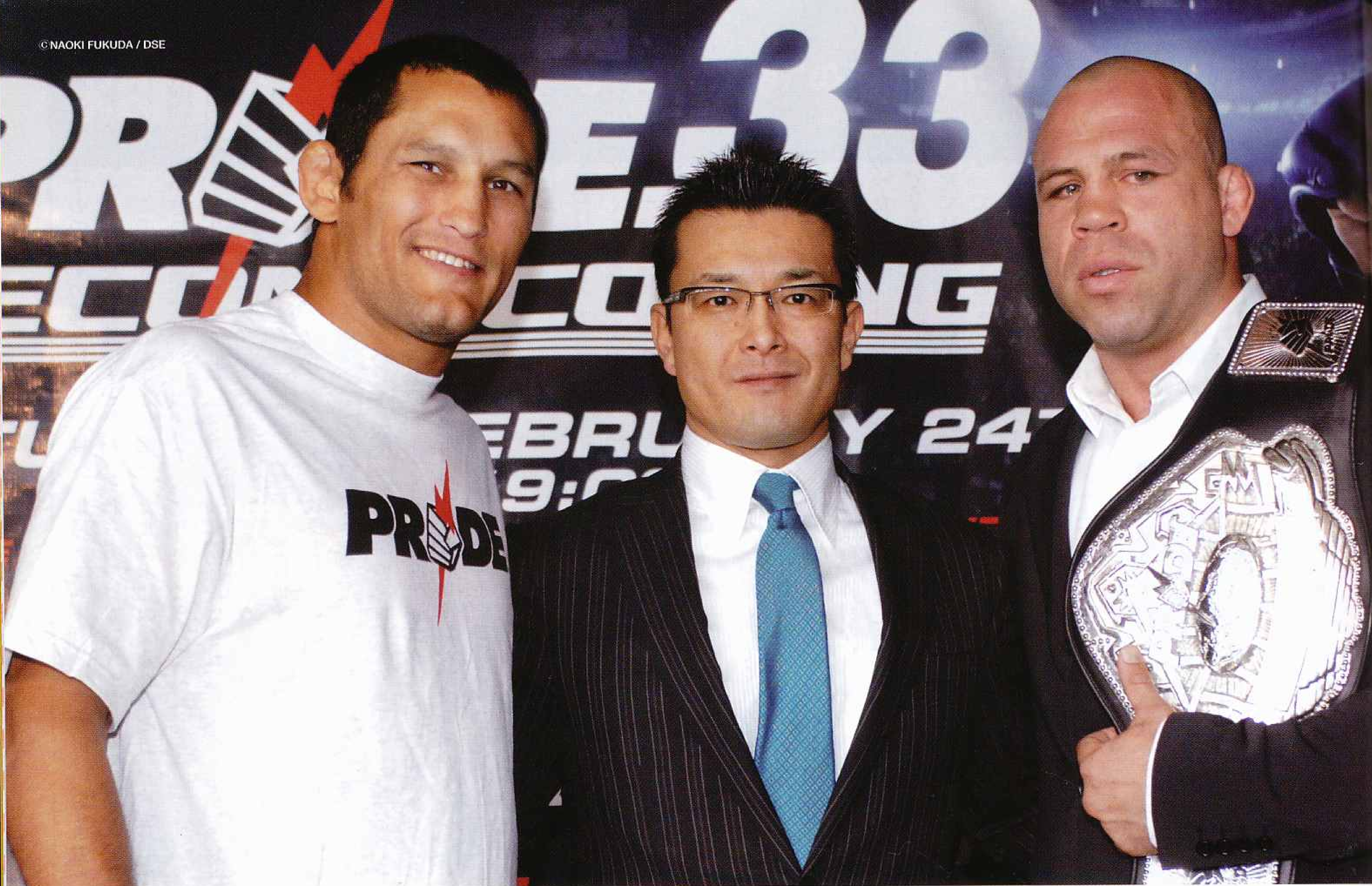
榊原　交流する可能性は当然ありますよ。先日も五味選手が『PRIDE』を代表して金網で闘いたい、と言ってましたけど、選手にそうした希望があるのであれば、我々としては橋渡しはするでしょうし。もちろんプロモーター的に、交わることで何かプラスアルファの効果が見込めるのであれば、そこにはなんのためらいもないですね。

――UFCのファイターで興味のある選手、『PRIDE』に上がってほしい選手というのはいますか？

榊原　いまのUFCファイターで興味がある選手ですか……やっぱりミルコ・クロコップですかね（笑）。

――ダハハハハ！　たしかにあの選手はいい選手ですよね（笑）。

榊原　でも実際、いまUFCで闘っているどの選手より、ミルコ選手は魅力的なファイターだとは思いますよ。だからミルコ自身、また『PRIDE』に戻ってきたい意思もあるし、彼がホントに世界一の男になるための〝宿題〟が『PRID



『PRIDE』をアメリカに定着させるためには、ある意味、昨年10月の初上陸以上に大事な2月のラスベガス大会第2弾。『PRIDE』もそれは充分承知の上なのだろう。ここで『PRIDE』が誇る二大王者の直接対決をぶつけてきた。はたしてアメリカのファンの反応はいかに!?

榊原信行

E』には残ってますかから。いまはUFCで頑張ってほしいと思いますね。

――今年、『HERO'S』もラスベガス大会開催を公言していますが、アメリカ戦略を進める中で、この大会も意識しますか？

榊原　本当に開催するんですか？（笑）。

――そうは言ってますけどね（笑）。

榊原　ボクも3月に開催するとか聞きましたけど、アスレチックコミッションには申請してるんですかね？　まあ、彼らがどんな戦略でアメリカを考えているのかわかりませんが、我々が向き合うべき相手はUFCであることは自明なわけですから、特別に意識はしてません。おそらく彼らの目指すところと、我々の目指すところはまったく違うでしょうし。

――たしかに、谷川さんは「家族揃って大笑いできる大会にしたい」と言ってましたからね（笑）。では、2・24『PRIDE・33』についてうかがいたいのですが、大会成功の手応えはいかがですか？

榊原　前回の大会を受けて、チケットの先行発売も好調なので、プロモーションをしっかりすれば、前回以上の動員、盛り上がりが期待できるんじゃないですかね。ヴァンダレイ・シウバがダン・ヘンダーソンとミドル級のタイトルマッチをやりますし、日本から五味選手、藤田選手、外国人選手ではノゲイラ兄弟、ショーグンなどを出場させたいと思ってますから、カードの中身は充実したものになると思いますね。

――シウバの挑戦者として、アローナ、ホジェリオらの名前も挙がる中、一階級下のダン・ヘンダーソンが抜擢された理由はなんだったんですか？

榊原　今回、アメリカのPRIDEオフィシャルサイトの中で、アローナ、ホジェリオ、アリスター、ダンの4人の名前を出して、「誰が対戦相手にふさわしいか？」というアンケートを取ったんです。すると、8万件くらいの投票があって、ホジェリオが1位。僅差の2位がダン、ちょっと離れてアローナ、アリスターの順でした。ですから、ホジェリオとの初対戦ということも考えたのですが、やはりアメリカの大会ということで、地元のダンとのタイトルマッチということにしたんです。ダンは、以前からシウバと再戦したいと言ってましたし、もともと階級にこだわる選手ではありませんから、話はスムーズにまとまりましたね。実績的にもミドル級のベルトに挑戦するにふさわしい選手だと思います。『PRIDE』初の2階級制覇の可能性も充分あるでしょう。

――このタイトルマッチは、4点ポジションでのヒザ蹴りがないネバダ州アスレチックコミッションに沿ったルールで行なわれるんですか？

榊原　ええ。ラスベガスで行なわれる試合ですから。ネバダのコミッションが統括する中で、公正に行なわれます。

――現在、アメリカと日本で異なるルールで開催されていますが、タイトルマッチ等を行なうことから、公平さも考え、日米統一ルール作成の意義は感じませんか？

榊原　もちろん、日本で用いている純PRIDEルールこそが『PRIDE』の本来のルールです。ですのでアメリカの大会もこの純PRIDEルールに少しでも近づけるよう、引き続きアスレチックコミッションとは折衝を続けていきます。「同じタイトルマッチでもルールが違うのは不公平では？」といった声もありますが、リングで闘う選手自体は同じ条件で

闘っていますので、その部分に関しては不公平ということはないと思います。もっと言えば、このPRIDEルールは総合格闘技の中で最も進化したルールだという自負も、我々にはあるんですよ。ですから島田ルールディレクターの力も借りながら（笑）、このルールが世界標準になるよう努力していきますよ。

――ファンからは「K―1の後追い」などと誤解されがちなスーパーヘビー級設置の真意も、やはりヘビー級の上限が120キロまでというネバダ州の体重規定によるものですか？

榊原　スーパーヘビー級に関しては、格闘技とは名ばかりのモンスターを闘わせよう、というわけではありません。世界中には体重が重くても技術があったり、格闘家としてのポテンシャルを持っている選手はたくさんいるでしょう。現にレスリングには120キロ級の階級があって、身体も大きくて動ける選手がゴロゴロいますから。そうした選手たちに対して門戸を開いていないわけではなかったのですが、明確にそうした選手たちを対象とした階級があったほうが、目標を定めやすいだろうということですね。もちろんネバダの体重規定では、階級を越えた対戦は組めなくなっていますので、そこも考慮に入れていますよ。記者会見では〝スーパーヘビー級のモンスター〟という、わかりやすい言い方をしたので、それが誤解を招いたのかもしれませんが（笑）、あくまで軸足は格闘技にあるので、そこは安心してください。

――スーパーヘビー級に限らず、『PRIDE』の発展には新しいスター選手の出現が不可欠だと思います。選手発掘についてはどのような考えをお持ちですか？

榊原　ニューカマーの発掘は、今後も変わらずやっていきます。世界中には、まだまだ未知の強豪もいるでしょうし。何よりも、こうしてMMAというジャンル自体が活況になれば、いままで視野に入れていなかったいろいろな競技の選手がそこを目指すようになるでしょうからね。我々としてはアンテナを張り巡らして、良さそうな選手がいればすぐに会いに行くくらいの気持ちでいますよ。今年は、『PRIDE』がスタートして10周年ということもありますので、世間がアッと驚くような選手を参戦させたいですね。

――何か〝隠し玉〟みたいな選手がいるんですか？

榊原　着々と計画は練っています。また今年はライト級グランプリを開催しますので、ここにエントリーする選手には、日本人・外国人を問わず期待しています。これからの『PRIDE』の次の10年をひっぱっていってくれるような選手が現われる予感がしていますね。

――いま、「10周年」というお話が出ましたけど、特別なビッグイベントなども考えているんですか？

榊原　一応……ヒクソンvs高田の3度目の闘いを考えてます（笑）。

――ダハハハハ！　そんなビッグプランが進行してますか（笑）。

榊原　まぁ、リングで闘うのではなく、『kamipro』での対談というかたちになるかもしれませんけど（笑）。いずれにしても、いろいろなことがありながら、ようやく10年目を迎えられるわけですから。我々がお祝いするというよりも、ここまで支えてくれたファンに人たちに、何か還元できるようなことをやりたいですね。記念大会的なこともちろんですが、それ以外のファン感謝祭的なことも含めていろいろと考えています。ビッグサプライズを起こしたいと思いますので、まあ、期待していてください。

今年は『PRIDE』創立10周年。ビッグサプライズを起こします！　榊原信行

――最後に、やはり『PRIDE』が完全に勢いを取り戻すためには、地上波テレビ放映の復活が必要不可欠だと思うんですけど、地上波放映については、いまどのようなお考えをお持ちですか？

榊原　これは毎回申し上げているとおり、大会を粛々とやっていくことと並行して、引き続き積極的にアプローチしていきたいと思います。それでも局側がなかなか動き出せないのであれば、DSEという組織自体を思い切って改革して、我々のほうから復活のための材料をどんどん提示していきたいと思っていますから。今年の上半期くらいには、なんとかメドを立てたいですね。

――わかりました。では、まずは2・24ラスベガス大会第二弾に期待してます！

榊原　2月のラスベガス大会では、前回に引き続き日本からのツアーを実施しますから、ぜひ多くのファンの方に参加してほしいですね。前回も100名くらいの方にご参加いただいて、非常に好評でしたから。選手と触れ合えることはもちろんなのですが、ぜひ、〝アメリカの総合格闘技の熱〟を感じていただければと思います。おそらく、『kamipro』を読んでいるような〝格闘セレブ〟っと言うんでしたっけ？　そうした熱心なファンは、字面では「アメリカは凄い熱だ」ということは理解されていると思いますが、それを現地に足を運んでいただいて実感してほしいですね。たぶん、これはわざわざラスベガスまで足を運んだ人しか、リアルに感じられないでしょうから。

――たしかに、あの日本とはまったく別の〝熱〟というか、〝うねり〟は、格闘セレブたちも驚くと思いますよ（笑）。

榊原　日本で人気を博すヴァンダレイが、アメリカではどんなふうに受け入れられているのかを見るだけでも感動できるでしょうし、もっと言えば、『PRIDE』を応援していることを改めて誇りに感じていただけると思います。

――では、今年も世界に羽ばたく『PRIDE』に期待してます！

［07年1月9日／青山・DSE社長室にて収録］

kamipro SHOPPING

07年は"攻め"の年！ PRIDEウェア、着れんのか？

kamipro Hand、kamipro通販 [TEL.03-5368-1797] にアクセス!!



BTT NYLON VEST
¥16,800（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Green / Black



CHUTE BOXE NYLON VEST
¥16,800（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Gray / Black



FEDOR NYLON VEST
¥16,800（税込）
S･M･L･XL　COLOR :Red



CHUTE BOXE BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



WANDERLEI BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



BTT WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Green / Black



CHUTE BOXE WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Gray / Black



WANDERLEI WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Ivory / Black



BTT BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



BTT PARKA
¥13,440（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Black / Green



CHUTE BOXE PARKA
¥13,440（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Gray / Black



WANDERLEI PARKA
¥13,440（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Ivory / Black



FEDOR PARKA
¥13,440（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Black / Red



BTT FOOTBALL TEE
¥5,145（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Green / Yellow



CHUTE BOXE FOOTBALL TEE
¥5,145（税込）
S･M･L･XL　COLOR : White / Black



WANDERLEI FOOTBALL TEE
¥5,145（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Ivory / Black



FEDOR FOOTBALL TEE
¥5,145（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Red / Black

販売元／（株）ドリームステージエンターテインメント

※掲載されている商品以外のPRIDEグッズもkamipro Handで購入できます。

こちらの商品は
『kamipro』通販でご購入できます。
電話、メール注文もできます。

非会員でもショッピング可能!!

（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1797
（平日13:00〜19:00まで）

※kamipro通販に関する詳細に関しては、P157のkamipro通販方法をご覧ください。

アクセス方法


DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au/TU-KA　トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank　メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM　趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

跳関十段

青木真也

恐るべし〝ロングタイツ〟の蟻地獄!!
次の獲物はいったい誰だ!?



PRIDEに突然変異の超快星!!

大晦日震撼！ あのヨアキム・ハンセンに完勝!!

“ライト級黄金時代”07年のPRIDEはこの男が主役か!?

昨年6月の『PRIDE』デビュー後、“神業”のサブミッションと、
独自の個性で一躍、ブレイクを果たした青木真也。
修斗世界ミドル級チャンピオンとして地力はあるとはいえ、
いま『PRIDE』で一番、オイル……じゃなくて脂が乗りに乗っているファイターだ。
今年のキーパーソンにあらためて注目!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／平工幸雄、山口比佐夫、平専英



総合のリングでまさかのフットチョークが炸裂!!

2007年の『PRIDE』を明るく照らす超快星——!!

あるときは、目にも止まらぬ早技で相手を絞め落とし、またあるときは江頭2：50とのダブルロングタイツ対談で倒立を敢行！ そしてまたあるときは、聞き手を困惑させるマイワールドで突き進む!! こうして〝実力至上主義〟の色が強い軽・中量級戦線に突然変異的に現われた自由奔放な男、青木真也が4号連続の登場だ！

〝技術論〟は触ったことのねえ本誌なので、達人の域に達する彼の関節の奥義にあいかわらず迫れてないが、07年の主役候補の〝バカサバイバー〟ぶりを感じてください。それでは、ワァーオッ!!

——青木さん、大晦日は本当に凄かったですね！

青木　そんなことないですよ！

——またまた。何をおっしゃいますやら。

青木　いやいや。（ヨアキム・）ハンセンにもっといっぱい殴られると思ってたんですけどね。ボクはこの試合で殺される気満々だったから、スゲェ怖かったんですよ。

——殺される気満々って（笑）。たしかにヨアキムは相当にヤバイ相手でしたけど。

青木　だから本当はボコボコに殴られて血まみれになる予定だったんですけど、血まみれにならなかったんですよねぇ。ハハハハ！

——へんな質問ですけど、そこは物足りなかったんですか？

青木　いや、ガ然いいことなんですけど！

——まあ、そうですよね（笑）。しかし、本当に鮮やかな一本勝ちでしたよ。『PRIDE』史上に残る極めのシーンというか。

青木　そうですね！ と入りましたから。（胸を張って）。いい感じでスパッ！

——やっぱり、ご自分でも驚くくらい。

青木（一転して低姿勢で）いやいやいやいや、まだまだですよ。ククク！

——どっちなんですか、いったい！ それにしても、青木さんは最初のオープニング・セレモニーから、かなりテンションが高かったですよね。

青木　今回は二試合目だったので会場の熱を感じたまんまやろう！ と思ってて、そのまま集中力を切らずにいけましたね。

——どうでしたか、超満員のさいたまスーパーアリーナ・スタジアムバージョンを初体験された感想は。

青木　本当に気持ち良かったですね。人がいっぱいいて！ 一緒に会場入りしたボクの先生である中井（祐樹）さんも、「俺もやりたかったなあ！」ってしきりに言ってたんですよ。

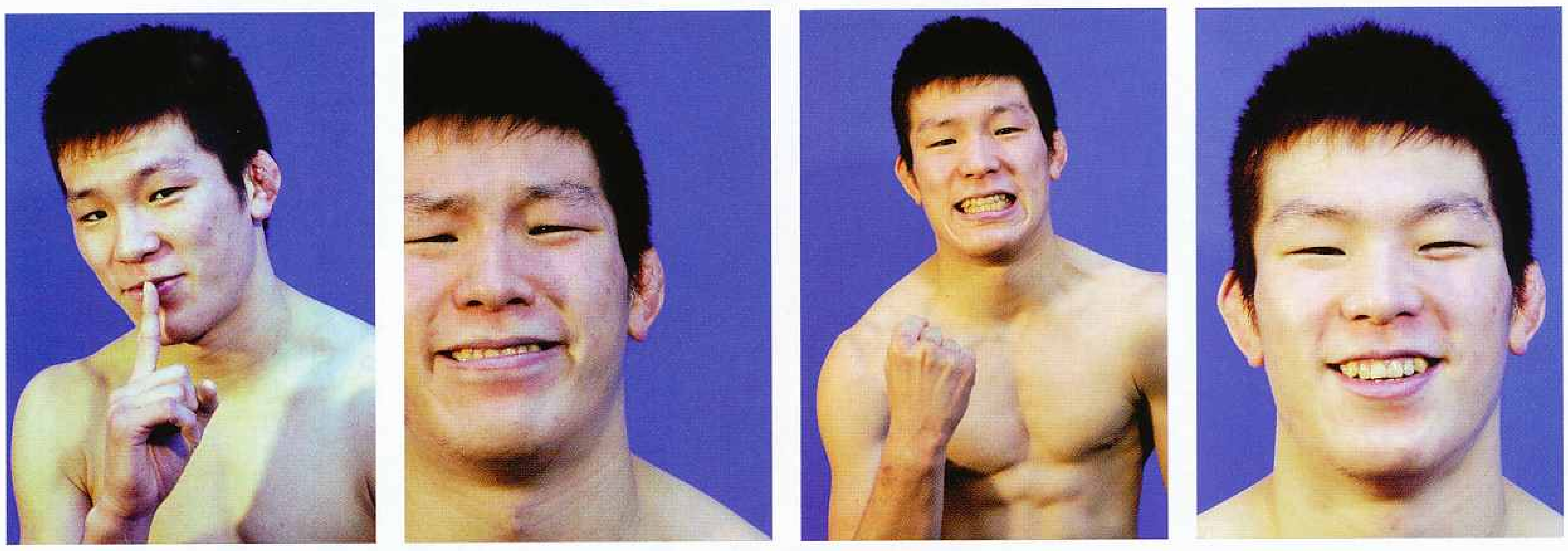
——元・修斗ウェルター級チャンピオンで黎明期の総合格闘技を支えた中井さんが！ それは印象的なコメントですね。

青木　ね！ 中井さんは『PRIDE』の会場に来るといつも「出たい、出たい！」って言ってるんです。「いや、そりゃアンタ、マズいだろ」って思うんですけど（笑）。そんなにうらやましがる大舞台で闘えるのはうれしいな！ って思いました。

——中井さんは志半ばで引退されたわけですもんね。そんなテンションでヨアキムと向かい合ったときはどういう心境でした？

青木　なんていうか、ボクの知ってるハンセンはもうちょっと優しげなんですよ。紳士なイメージ。それが「オラ、オラ！オラ!!」って前に出てきてるから、「ああ、こいつはやる気なんだなあ……」って思

いましたよ。
――でも、青木さんも「あんだ、コノヤロー！」って感じの顔つきでやや挑発気味だったじゃないですか。
青木　いや……じつは内心はビビリ気味ですよ！（笑）。
――ハハハハ！　そうだったんですか。それがどのへんでヨアキムの怖さを感じなくなったというか、ボコボコになんなくてもすむかなって思いました？
青木　それは〝ちっちゃい青木〟がいなくなってからかなあ。
――〝ちっちゃい青木〟？
青木　たまに出てくるんですよ。んで、弱気にさせるんですよ、〝ホントの青木〟を。
――要するに、〝弱気の虫〟みたいなもんですかね。
青木　そうそう！　ハンセンを寝かして上から何発かいいパンチを打ってたら、そこに〝ちっちゃい青木〟が出てきて「このまま膠着して、判定勝ちでもええんちゃう？」って、ささやいてくるんですよ！
――「無理しなくてもいいんじゃないのお？」って感じで。
青木　（右頭上を指さして）このへんから出てきて「青木、判定勝ちでもええんちゃう？」って！　そこからハンセンとの闘いというよりも、〝ちっちゃい青木〟との闘いですよ（真顔で）。結局、〝ホントの青木〟が勝ったんですけどね。
――ふ～ん（笑）。その〝ちっちゃい青木〟ってのは、いつもヒョコヒョコ現われるんですか？
青木　たまに出てきますね。「無理せんでも、このままでええんちゃうか？」って。今回は〝ちっちゃい青木〟にも勝てたからいいですけど、〝ちっちゃい青木〟が〝ホントの青木〟になっちゃったときは負けちゃうんですよね。
――ちなみに〝ちっちゃい青木〟はプライベートでも出てくるんですか？
青木　しょっちゅう出てきますよ、そんなの。最近出てきたのは、会場とか控室でかわいい女の子がいたときですよ。〝ホントの青木〟は声をかけたいのに……〝ちっちゃい青木〟がジャマしてくるんですよねえ（しみじみと）。
――っていうか、それって青木さんがだらしがないんじゃ……。
青木　（無視して）〝ちっちゃい青木〟が余計なことを言い出すんですよ、これが。「やめといたほうがええんちゃうか？　おまえじゃいけへんのじゃないか？」って。あ～ぁ！
――どうでもいいですけど、〝ちっちゃい青木〟はなんで関西弁なんですか（笑）。〝ちっちゃい青木〟が「いったほうがええんちゃう？」ってガンガン煽るときはないんですか？
青木　ないですねえ。常に弱いですから、〝ちっちゃい青木〟は。
――……〝ちっちゃい青木〟のせいにしたい自分がいる気がしますけど。
青木　じつはそうなんですよ！　アイツはいけない、アイツはいけない……（ブツブツ）。
――インタビューを進めますけど。一度、ハンセンに腕ひしぎを返されましたけど、あのとき不安はありませんでした？
青木　ああ、下になったときですか。べつに問題はなかったですね。そこから何発か殴られたんですけど、落ちついて対処できたんで。最初から何発か殴られるもんだと思ってたから、2、3発殴られてもまあいいかな！　って。
――そこからラバーガードからフットチョ



次回のタイツは肌色かな。もしくは木目柄!!

12.31『PRIDE男祭り2006』
強い！早い!! おもしろい!!

○ 青木真也vs
ヨアキム・ハンセン×
（1R 2:04 トライアングルチョーク）



上から強烈なパウンドを何度も叩き込む青木!!“ちっちゃい青木”の「このまま膠着して判定でええんちゃう？」という誘惑にも見事に打ち勝ち、足を払ってパスガード、そしてマウント奪取!! 日本屈指のグラップラーの実力をいかんなく披露した。



青木の寝技とハンセンの打撃の正面衝突!!　マニア垂涎の一戦。ジリジリと間合いを詰めたハンセンはローを放つが、青木がうまくキャッチしてテイクダウンに成功!!　一度は立ち上がられたが、身体を浴びせ倒すように足を刈って再びグラウンドへ。



五味隆典、佐藤ルミナ、宇野薫ら実力派日本人ファイターを次々に葬ってきた“北欧の残虐超人”ハンセンと強きに睨み合う!! ……が、じつはビビっていたそうです。ちなみにハンセンはいつものスキンヘッドではなく“卑怯な髪型”だった。

ークへつないで。あのフットチョークを初めて観たというお客さんは非常に多かったんですけども（自分の足を相手のノド元に押し当てて、相手の頭をひきつけて絞めあげる技）。

青木　ね。試合前の控室で「こんなんで極めたらワァーオッ！　って感じじゃない？」とか騒いでたんですけど。たまたま入っちゃって。

――もし青木さんが第三者の視点から、あんなに鮮やかなフットチョークを観たらどう思います？

青木　……八百長かなって（ボソッと）。

――ハハハハハ！　何を言い出すんだ、この人は（笑）。

青木　ククク！　なかなかあれは難しい技なんで。でも、ハンセンは腕を取ってもダメだと思ったんですよ。首を絞めないとタップしないだろうなと思ってたんで、首が入った瞬間、「きた！」というか。

――話はずれますけど、最近、桜庭vs秋山戦の“オイル疑惑”が話題になってるじゃないですか。グラップラーの青木さんに、相手にオイルを塗られることってどれくらい大変なことかっていうのをおうかがいしたいんです。

青木（近くで寝転がってる“足関十段”今成正和に向かって）どうなの？

今成　……は？　何が？（寝たまま興味なさそうに）。

――そういえば、今成さんの対戦相手はいつも足やヒザ裏にオイルを塗ってくるっていう話を聞きますけど。今成さんの足関が本当に危険だから。

青木　どーなの？　オイル。

今成　……気持ちいい!!（キッパリ）。

青木　き、気持ちいい？（笑）。

――それ、違うプレイのような……いままでいろんな人にこの話題を聞いた中では、一番おもしろいですけど（笑）。

今成　……（寝たまま無言）。

――青木さんの対戦相手でオイルとか塗ってきたヤツっています？

青木　自分はないです。というか、そんな信用できないリングには上がったことがないです。

――でも、青木さんも出場されたアブダビ・コンバットは“オイル天国”って聞いてますよ。産油国だけあって（笑）。

青木　そういえば、俺の相手もホント凄かった！　でも、普通のイベントはチェックするじゃないですか。『PRIDE』も、ボクがビックリするぐらい厳しいですし。コスチュームも厳しいし……。

――じゃあ、あのレインボースパッツも真顔でチェックされたわけですか？

青木　そう！「これ大丈夫ですか!?」ってボクも真顔で聞いて。

――しかし、全然違和感がなかったですね、レインボーのスパッツ。あまりにも自然ないでたちだから、お客さんの反応もいまいちで。

青木　そうなんですよねえ！（悔しそうに）。もっとこう、「ワァーオッ!!」ってくると思ったんですけど、全然こなくて。

――次回もタイツの色を変えるんですか？

青木　次回は肌色かな！

――肌色！　ＤＪ ＯＺＭＡじゃないですから。

青木　もしくは木目柄？

――なぜ木目柄！（笑）。

青木　ククク！　自分の歳の数だけ年輪を入れますよ！

――（無視して）今回はそのタイツよりも、試合後の退場花道で泣かれていることのほうが印象的だったんですよ。

青木真也

青木　いや、あれは“ちっちゃい青木”なんですよ！“ホントの青木”じゃないワケ！（なぜか矢沢永吉調）。

――（おもいきり無視して）なんであんなに泣かれたんですか？

青木　あれはねえ……親父が観に来てたんですけど、花道で親父と握手しちゃって、それにやられちゃって。それで“ちっちゃい青木”が「……もう泣いてもええんちゃうか？　無理せんでもいいんちゃう？」ってささやいてくるんですよね。

――優しいですね、“ちっちゃい青木”は（笑）。まあ、自分は“ホントの青木”さんだと思いますけど。

青木　いや、断固“ちっちゃい青木”です！

――とりあえず、そういうことにしておきますけど、お父さんからはなんて言われてました？

青木　親父、ひさしぶりにほめてくれて。「よくやった！」って。ビックリっすね。格闘技をやることをほめてくれるなんて思ってなかったんで。

――それぐらい試合がよかったということなんですかね。

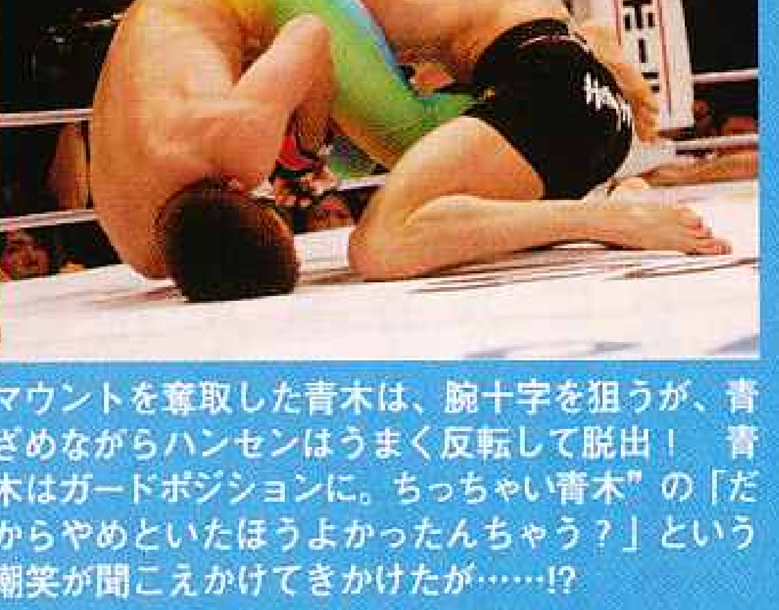
青木　う～ん。たぶん、あの会場の熱気に負けたんでしょう。観客の迫力にビックリしたんでしょう。

――そこは中井さんと一緒ですか？

青木　そうそうそう。自分の子どもがこんなにたくさんの人の前で試合してるって。

――それで青木さん。泣かれたままバックステージでフレッシュレポーターの南明奈ちゃんにインタビューされたじゃないですか。

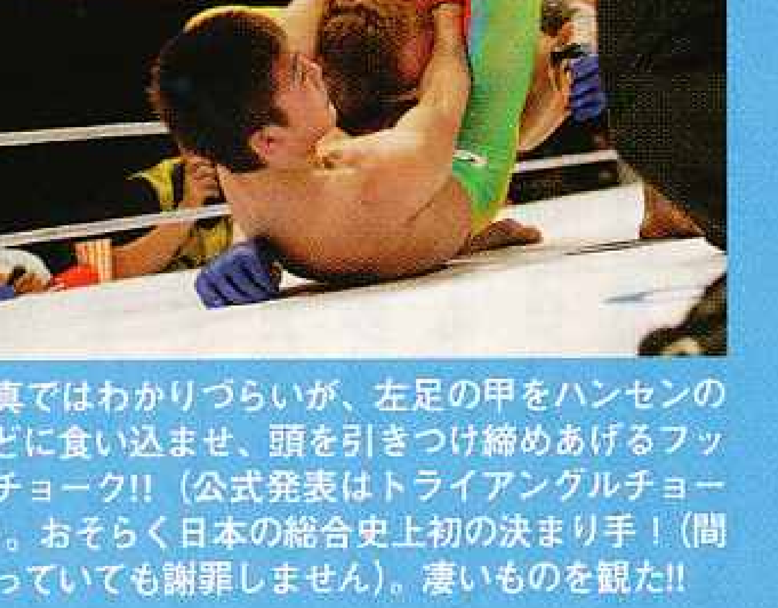
青木　あ～！　レポーターが「スパッツ、なんでその色にしたんですか？」とか聞くんですよ（笑）。



マウントを奪取した青木は、腕十字を狙うが、青ざめながらもハンセンはうまく反転して脱出！　青木はガードポジションに。ちっちゃい青木”の「だからやめといたほうよかったんちゃう？」という嘲笑が聞こえかけてきかけたが……!?



ハンセンに上を取られた青木だが、すぐさまラバーガードでハンセンの身体をしっかり固定！　過去の『PRIDE』二戦で見せたパターンだ。ハンセンは必殺のパウンドを打つどころか、身動きすらできずに“ロングタイツ蟻地獄”にハマってしまう……。



写真ではわかりづらいが、左足の甲をハンセンののどに食い込ませ、頭を引きつけ締めあげるフットチョーク!!（公式発表はトライアングルチョーク）。おそらく日本の総合史上初の決まり手！（間違っていても謝罪しません）。凄いものを観た!!



大歓声を浴びて退場口をひきあげる青木に、青木パパが声をかける。“ちっちゃい青木”の「もう泣いてもええんちゃうか？」というアドバイスを経て感極まる！　ワンワン泣きながら、レインボースパッツでスタスタ退場したのでした!!

——それでレインボースパッツ姿の青木さんは泣きながら「……うっうぅっ！　大晦日なんで目立ちたかったんですぅ、うっうぅっ‼」って。衝撃でしたよ、あの映像は！

青木　……スゲェ悲しかったです、あれ！　あの子はね、控室に来たほうがよかったですね。試合が終わって和んでる控室で、セクハラされる刑を受けたほうがよかった。うん（笑）。

——何を言ってるんですか（笑）。じゃあ、控室に戻ってからはさすがに落ち着いたんですか？

青木　控室に戻ったら、みんなモニターを眺めて茶の間みたいになってましたね（笑）。コーヒー飲みながら、「いや～、メレンデス強いね～！」って感じで。

——ほかに印象的な試合はありました？

青木　メレンデスと五味（隆典）さんですね。自分はやっぱりライト級の試合が気になるんで。メレンデス、強いっすねえ。なんかアメリカン・スタイルですね。打ち合って、タックルいって、上を取る。もしくは倒されても立つっていう。あんまり「ワァーオッ！」ってスタイルじゃないですけど、単純に強いですよね。（『kami pro Special』のメレンデスインタビューをめくりながら）アイツ、俺のことなんか言ってんのかな？「闘いたい！」とか。

——え～っと、よく知らないんですよ、編集長なんですけど（笑）。でも、観たいですね、青木さんとメレンデスの試合は。

青木　おもしろい試合になりますよ！　絶対に噛み合う。これもハンセンと同じで青木がボコボコにされちゃうのか、極めちゃうのかじゃないですか。やっぱり、「青木、膠着して勝っちゃうゾ！」試合じゃおもしろくない。「青木、膠着しちゃったら死んじゃうゾ！」試合のほうがおもしろいと思うんですよ。

——先ほど名前を挙げられた五味選手はどうですか？　もう射程圏内だと思うんですけど。

青木　凄く魅力を感じるし、素晴らしい選手だと思うんですけど、チャンピオンとしてボクは五味選手を尊敬している部分もあるんですよ。だからもちろん軽々しく名前を出せないだろうし、もしも五味さんが「青木とワァーオッ！　したい」



♪生き残れ、これ!!　ウルフルズの『バカサイバー』を熱唱しながら入場！　そのハイテンションぶりは入場から目が離せない。

五味さんと試合？「青木とワァーオッ！ したい」ってなったら！

ってなったら、ね！　ガ然やりたいですけどね！

——じゃあ言い方を変えると、五味選手のほうから指名してくるぐらいじゃないと！　ということですね。

青木　そうですね。それか、もうメレンデスとかを強いヤツを全員やっつけて、完全に成り上がったらイケるんじゃないかなあって。

——いまならファンは青木さんを五味さんの挑戦者に指名すると思うんですけどね。大会が終わってからの周囲の反応はけっこう凄かったんじゃないですか？

青木　どうなんですかね。とりあえず、大晦日は試合後にみんなで軽く食事をして、そのまま東京の自宅に帰ろうと思ったんですけど、道が混んでて人が多いから、とりあえずマンガ喫茶に行って。

——は？『男祭り』のあとでマンガ喫茶に行ったんですか⁉

青木　そう。深夜2時ぐらいから新宿のマン喫で朝まで。人がはけるまで！

——はあ～……。とんでもない『PRIDE』ファイターがいたもんだ（笑）。

青木　それで朝6時の帰り際に、朝マックして、立ち食いソバ食って、それで実家に帰りました。

——朝マックに立ち食いソバ！

青木　底辺な食事して帰りましたね。アハハハ！（屈託のない笑顔で）。

——でも、それは勝負師の精神療法としては正しいのかもしれないですね。〝地に還る〟じゃないですけど、日常に戻ることはいいことです。

青木　逆に、勝ったあとに「ワァーオッ！」ってしちゃうとダメですよね。「昨日、頑張ったからカツ丼セット！」みたいな。

——カツ丼セットはともかくですね、あのヨアキム・ハンセンに勝ったあとにマン喫に行く選手はたいしたタマですよ。青木さんを知ってるファンがいたら、「何やってるんだろう⁉」って思うし（笑）。

青木　ククク！「こいつ、何やってんだろう⁉」って！　おまけにココアとか飲みながら、『ろくでなしBLUES』を読んじゃったりして。

——いやあ、青木さんにはその姿勢をずっと貫いてほしいな、ちょっと（笑）。

青木　そうね。そういうキャラで。

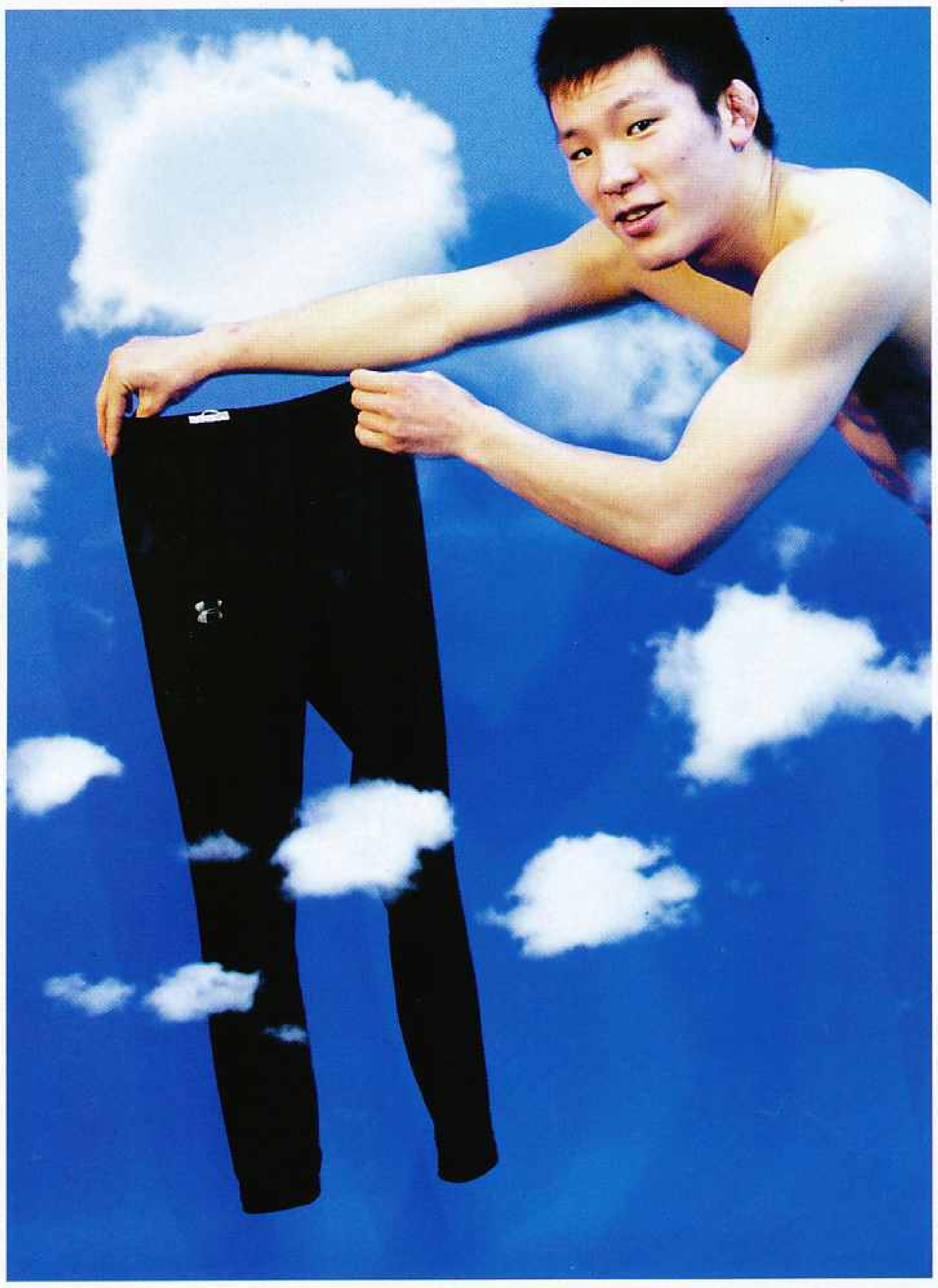
——マジメな話、ほかの選手が純粋に楽しんでないとは言わないですけども、青木さんが一番、純粋に試合を楽しんでるなっていう気がするんですよね。たとえば、ほかの選手はフラストレーションやストレスをバネにしていたり、あるいは「勝たなきゃダメだ」とか「ここで負けたら落ちてしまう」とか、過酷な勝負論の世界に精神をゆだねる。だけど、青木さんにはあまりそういう部分がいい意味で見えないんですよね。

青木　ボク、試合をやる前とか楽しくてしょうがないですからね。試合って、だいたい一カ月前ぐらいに打診があって決まるじゃないですか。そんときもう凄く気持ちよくなってきて、「オ～ッ！　楽しいな、試合、ワァーオッ‼」ってなるんです。で、試合の二週間前になると、〝ちっちゃい青木〟がちょくちょく出てくるようになる。「大丈夫か、おまえ？　やられんのちゃうか？」って。で、それに打ち勝つ！

——まずは〝ちっちゃい青木〟との試合があるわけですね。

青木　はい。〝ちっちゃい青木〟に勝ったあとは、「楽しみだ！　チョー楽しみだ‼」って感じになって。守りに入って試合をしたくないんです。ずっと攻めの姿勢で

試合をしたい。うん。
―青木さんって、柔道時代から試合に対してのストレスとかプレッシャーがあったことはないんですか？「もうやりたくないな」とか。
青木 やりたくなかったら、やらないようにしてるんですよね（キッパリ）。
―なるほど。わかりやすい！



青木 やりたくないことをやるのが一番嫌いなんで。
―だから昨年の春、警察官になったけど、すぐ辞められた、と？
青木 警察に就職したのは、なんかね、「しょうがねえな」「そろそろ大人になっちゃおうかな！」みたいな感じですね。
―そこでも"ちっちゃい青木"が出てきたんですか？「ちゃんと就職したほうがいいんちゃう？」って。
青木 そこは"ちっちゃい青木"というか、"大人な青木"が出てきましたね。
―いろんな青木がいますね（笑）。
青木 だけどぉ、結局自分の好きなことを「ワァーオッ！」ってやり続けていたいというスタンスなんですよね。俺！
―青木さんはまだ若いですけど、歳を取っていくにしたがってしがらみとかストレスを抱えてしまうんですかね。
青木 どうですかね。いまんとこはないですからね。このまんまいきたいですけどね。10年経ってもこのままで！ うん。
―10年経ってもこのままだったらステキですよ。『PRIDE』で勝ったあとにマンガ喫茶に行って……。
青木 クククク！ ココアを飲みながら『ろくでなしBLUES』を読んじゃったりして。
―読んじゃったりして（笑）。たとえば、この先、試合を悪い意味で仕事と感じてしまうんじゃないかなっていう恐れはあります？
青木 あぁ〜、それ、みんな言いますよね。俺はいい意味で仕事として感じる部分はありますけどね。仕事としてやってるからファンを喜ばせなければならないっていうのがボクのいまのスパッツだったり、遊び心の一つなんですけど。悪い意味で仕事だからやらなきゃいけないなあ……ってのは、まるでないですね。
―でも、そういうことを考えていく機会はあると思うんですよ。
青木 あるかもしれないけど、基本は何事も自分が納得してやりたいというのがあるんで。みんなはボクが無理してスパッツを変えたり、「ワァーオッ！」ってやったりしてると思ってるかもしれないですけど、そういうことは一切ないですね。自然にやってます！
―たしかに、そこで無理されて「スパッツの色、どうしようか……？」とか悩まれていたら、こっちもイヤです（笑）。今年はライト級GPの開催とか、いろんな話がありますけど、とにかく"ワァーオッ！"するという感じなんですよね。
青木 とにかくいけるとこまでいってみようかな。勝たなきゃいけないとか、そういう気持ちは一切ないから。一試合、一試合を大切に、いい意味で遊んでいきたいですね。で、合間に……『ハッスル』に出たい！
―本気ですか、それ（笑）。
青木 本気ですよ！ 江頭（2：50）さんと絡んで「ワァーオッ！」って感じで。あと修斗もありますね。
―修斗と『ハッスル』の両立は前代未聞ですけど（笑）。ラスベガス進出はどうですか？
青木 スンゲエやってみたいんですよ。でも、いまのスパッツが（ネバタ州コミッションの）規定でダメっていう噂を聞いたんで、そしたらキワどいビキニを穿きます。ホントにキワどいヤツ！（ニヤリ）。
―ロングタイツがダメなら逆方向に（笑）。
青木 だって、ヘタにルールに従うと、負けた気がするじゃないですか。
―でも、ビキニって外国だとゲイのレッテルを貼られることもあるみたいで。
青木 へぇ〜！
―あとレインボーもゲイカラーです（笑）。
青木 いやいや、好都合!! もう、そっちキャラでもいいですよね。ある意味、ファンの新規開拓ですからね。新宿二丁目からさいたまスーパーアリーナまでバスが出ちゃったりして。
―修斗から『ハッスル』、そして二丁目まで。夢は広がりますね。それでいいのかはよくわかりませんけど、おもしろそうだから断固、応援します（笑）。
青木 2007年もアゲアゲでよろしくお願いします！

【07年1月9日／新宿・DEEP道場にて収録】

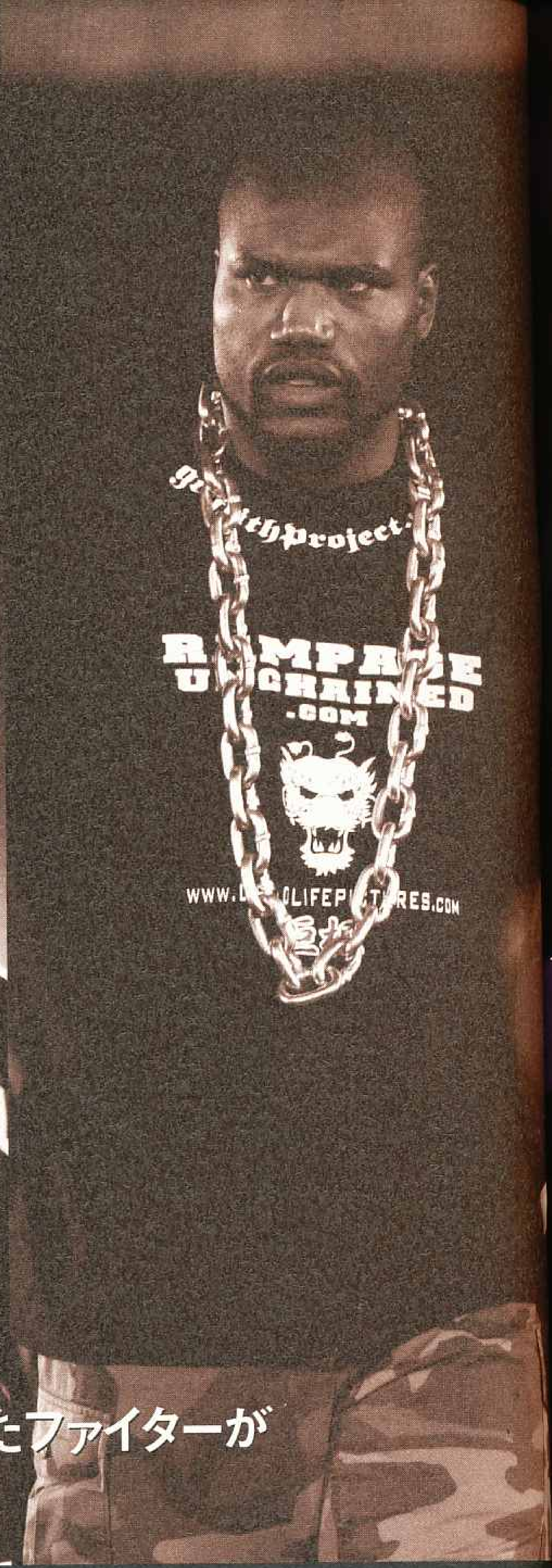
青木真也

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。世界屈指の極めの力を持つ若き天才グラップラー。現・修斗世界ミドル級チャンピオン。大晦日『男祭り』では、本誌で実現した江頭2：50との対談で宣言していた"ゲイカラー"のレインボースパッツを着用。二丁目を震撼させた。180cm、72.5kg。


“世界一性格の悪い男”は
いったい誰なのか!?
……携帯サイト「kamipro Hand」でその答えを確かめろ!?
ハッスル
I ♥ U
月額
315円
(税込)
2006年プロレス大賞MVP＆三冠ヘビー級王者・鈴木みのる(パンクラスMISSON)が
携帯サイト「kamipro Hand」登場!! 泣く子ももっと泣くみのるボイスを2月1日更新!
その他、kamipro Handでは「田村潔司のあいのり人生相談」「坂田亘の『裕次郎を超える日まで』」ほか、読み逃せないコラムを更新中です!!







かつてジャパニーズ・ドリームを追い求めたファイターが
アメリカに進出

日米市場逆転現象 進行中!

UFC代表
ダナの高笑いが止まらない!



ほしい選手は
みんなもらうと
言っただろ?

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンが
クールなUSAニュースをお届け!!

USA Cool 宅急便 Vol.10

ミルコを手に入れたUFC 皇帝を狙うボードッグ PRIDEが本格進出する 米MMA界の現状とは？

世界中のファン、関係者に衝撃を与えたミルコのUFC電撃参戦。この移籍劇は日本とアメリカの団体間の体力の違い、さらには格闘技マーケットの大きさの差を表わしたといえる。巨大化する老舗UFCと新興プロモーションの勃興。アメリカ市場では現在、何が起こっているのか？

聞き手／デューク東郷　助手／上杉過失

PROFILE



Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「なんの弁明の余地もありません」。

——大変なことになったね、スコット。ホント気の毒に思うよ。

スコット　は？　いきなり何を言ってるんだよ。

——何がって、ミルコが『PRIDE』からUFCに移籍したじゃん。これで今年はUFCが日本でも注目されそうだってのに、どうやら『MMA WEEKLY』はUFCから取材拒否されているんでしょ？

スコット　まったく拒否されているわけじゃないよ！　ただ待遇が悪いだけ。UFCは、自分たちがコントロールできないネットメディアが嫌いなんだ。ダナ（・ホワイトUFC代表）は、ここまでUFCを成長させたのは自分の力だと思っているからね。だいたい〝残酷ショー〟のレッテルを貼られていた不遇の時代を誰が支えてきたと思っているんだか!?

——お！　今日はなんだか熱いねえ。

スコット　俺たちネットメディアだよ!!　地道にファンを拡大してきたのは！

——乗ってきましたな。でも、いまのUFCのファンは、『MMA WEEKLY』や専門ネット媒体で情報なんか得てないんでしょ？

スコット　（言葉に詰まって）うぅ……。

——ネットを見るとしても、せいぜいUFCのオフィシャルサイトとか。

スコット　そうなんだ。たしかにいまのUFCに来ているファンの多くは、ライト層。だから、前回のUFC66でミルコの移籍が発表されたとき、会場は騒然とはしたんだけど、じつは想像したほど沸かなかったんだ。

——まあ、そうだろうね。ライト層からすれば、よく知らないファイターだろうし。

スコット　そう。UFCファンのほとんどはミルコがどんなに偉大なファイターか知らない。（ヴァンダレイ・）シウバがUFCに上がったときと同様、『PRIDE』のチャンピオンとも紹介されなかったしね。あと、（クイントン・〝ランペイジ〟・）ジャクソンへの声援も薄かった。でも、そのジャクソンにKOされているチャック・リデルへの歓声は凄かったね。この事実がUFCファンの実態を表わしているよ。

——でも、ハードコアなファンもいるでしょ？　そういう人たちはミルコが生で観られることをうれしく思っているんじゃないの？

スコット　一部には、そういうファンも、もちろんいるよ。でも今回の移籍劇で、しばらくミルコのヒョードルとのタイトル戦やノゲイラへのリベンジマッチが観られなくなるわけだから、複雑な思いだよね。それにそもそもミルコを心の底から楽しみにしているファンの数はまだまだUFCのファン全体からみれば少ない。それはPPVの件数を見ればわかるよ。だって、100万件を超えようかとしているUFCに『PRIDE』はまったく及ばないから。

——『PRIDE』のPPV件数はどれぐらいなの？　恥ずかしがらずに教えてよ。

スコット　なんで俺が恥ずかしがらないといけないんだよ！　いまの時点でまだ情報が出てないということは、放送業界でニュースになるほど伸びてないということだから、従来どおり7万件から、多くても10万件ぐらいじゃないかな。つまり、大雑把に言うと、UFCを観ている人でミルコが誰だかわかっている人は10分の1だよ。

——じゃあ、UFCはミルコ獲得のために大金をつぎ込んだと言われているけど、思ったより費用対効果は高くない、と？

スコット　いや、そんなことはない。だって、抜け目ないダナが大金を投資して、マーケティングするんだよ。それにあの強さとファイトスタイルからして、ミルコが成功するのは間違いないね。

——ミルコがデビューするUFC67で、ウェルター級王者のジョルジュ・サンピエールがケガで欠場することから、もしかしたらミルコの試合がいきなりメインイベントになるんじゃないかっていう憶測もあるけど？

スコット　いや、さすがにそれはないよ。アンデウソン・シウバとトラビス・ルターのミドル級タイトル戦もあるからね。それにミルコはまず名前を売らないと。最初の相手はストライカーのエディ・サンチェズ。KOで仕留めるだろうから、それで一気に認知されるとは思うけどね。

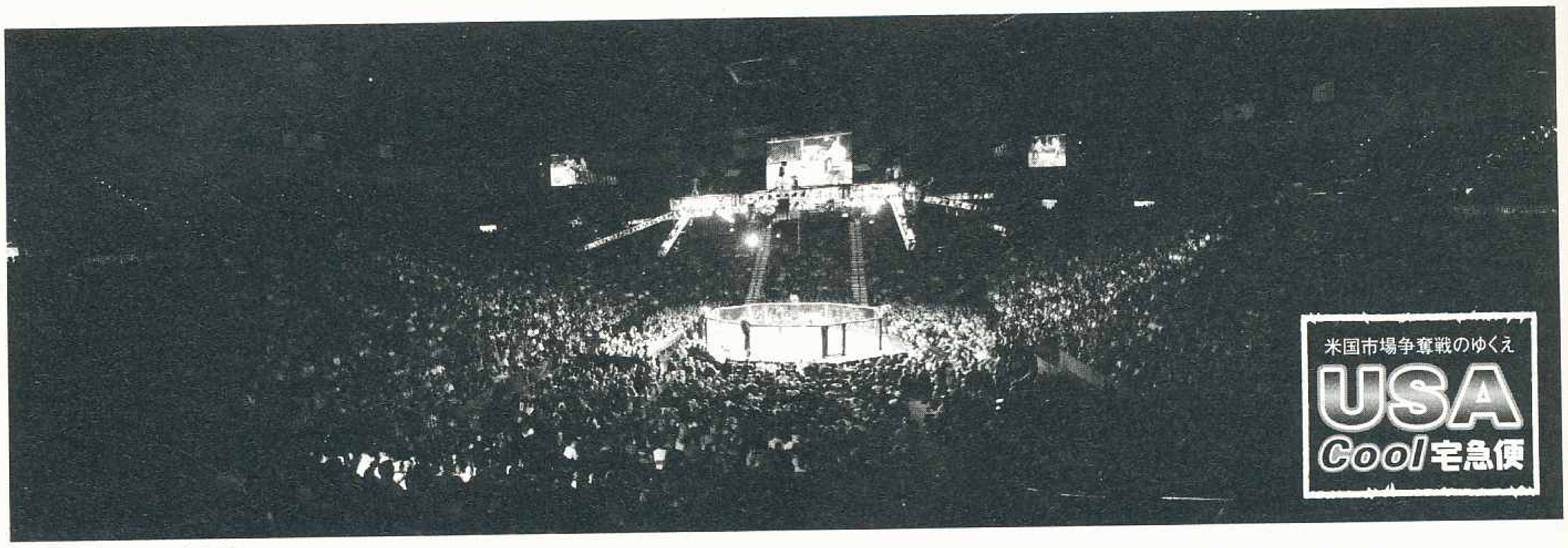
——名前が売れるまでに、万が一、ミルコが負けてしまうという可能性はないの？『PRIDE』とはルールも違うし、オクタゴンにも慣れていないじゃん。

スコット　それぐらい、どうってことはな

興行総売上げ記録更新!!

UFC初 年末イベントが 500万ドル突破!!

興行総売上げ、なんと6億円以上!! 12月30日（日本時間・大晦日）にラスベガスで行なわれたUFC66が539万7300ドルを売り上げ、ネバダ州での記録を大幅に更新した。UFCにとって初の年末イベントは、大成功を収めたことで今後恒例の年間行事となる可能性が高い。なおPPV件数はまだ出てないが、100万件を超えると見られている。マジ、ヤバイ!!



©Joshua Hedges/Zuffa,LLC.

メディアを制するUFCが米格闘技界を支配する

いだろうね。ミルコはトップ中のトップ選手。そのへんのUFCファイターなら束になってかかってもかなわないよ。それよりも、人気の面に話を戻せば、ミルコよりも同じ大会でデビューするジャクソンのほうが先にブレイクするかもしれないな。というのはミルコのパーソナリティはアメリカ人には伝わりにくいけど、ジャクソンは明るいキャラクターでマイクもうまいだろ。それにUFCは、アフロ・アメリカン・マーケットはまだ開拓してないから、これから力を入れてくるだろうしね。

——これまで黒人でトップクラス級の人気がある選手はいなかったからね。

スコット それからジャクソンと同じくWFA経由で、ヒース・ヒーリングもUFCに来た。ヘビー級戦線を建て直すことが急務だったUFCは、日本で活躍した選手を取り込んで一気に選手層が充実してきたね。スポンサー獲得に失敗したせいで頓挫した日本市場へ再進出も、こういった日本での認知度のある選手をラインアップすることで、現実性を帯びてくるんじゃないかな。日本以外でもイギリスやカナダでの大会開催を発表していて、世界戦略の面でもますます力を増してきそうだ。

——UFCの巨大化が顕著なアメリカMMA業界だけど、ほかの団体はどうなの？

スコット 株式公開で莫大な上場益を得たIFLは、名のあるファイターとコーチ契約を交わして、都市対抗戦のチームを増やしている。これが、MMAのことなんかなんにもわかんない一般投資家には魅力的に映るみたいで（笑）、にわかには信じられないことに、さらに株価が上がっている。このチーム別都市対抗戦に誰が興味を持っているのかは謎だけどね。あと、ケン・シャムロックとフランク・シャムロックの兄弟チーム対決も企画されていて、二人の仲がよくないことは知られているから、もし、スーパーファイトで二人が直接対決することになれば、けっこう盛り上がるかもね。

——知らないあいだにいろいろやってるんだなあ。

スコット 業界を騒がせている『ボードッグ』にも動きがあった。ヒョードルが出るとも言われている3月のロシア大会が4月に延期になったんだ。『ボードッグ』の大会が延期になるのは、いまに始まったことじゃないから、珍しくもないんだけど、その理由としてDSEとの契約事項の中に、契約終了から2ヵ月半のあいだは、ほかの大会には出られないという項目があったからとも噂されている。つまり、ヒョードルの出場のために大会日程がずれたということだね。

——『PRIDE』はヒョードルの出場を否定しているけど、このぶんだと、どうなるかまだわからないね。

スコット とにかく資金はあるからね、『ボードッグ』は。『ストライク・フォース』のスポンサーになったことは前にも言ったけど、ランディ・クートゥアーとマット・リンドランドの総合格闘技団体『スポーツ・ファイト』のスポンサーにもなっている。確実に米格闘技界で影響力を持ってきているよ。

——つまり、UFCに迫れるのかどうか。

スコット 『ボードッグ』は、UFCのマネをしてリアリティショーを制作していて、ロシアで収録した「シーズン2」も1月21日からアメリカ国内で放映開始している。ただ、番組の放映局自体の加入者が減少していて、いまでは全米で200万世帯しか観ることできないらしい。UFCがスパイクTVで放映している『TUF』は9000万世帯で観ることができるから、大きな差だよ。

——無料のケーブルテレビでの露出がビッグマッチのPPV購入につながる以上、どのケーブルテレビ局と組むかということは大事な戦略になるんだね。

スコット で、そこでもUFCはやっぱり抜け目がないんだ。じつは、IFLがヴァーサス・ネットワークという7000万世帯で視聴可能なケーブル局と契約を結ぼうとしていたんだけど、ダナは傘下に収めたWECとそのヴァーサス・ネットワークを契約させて、IFLの進出を防いだんだ。

——やるね〜、ダナは。

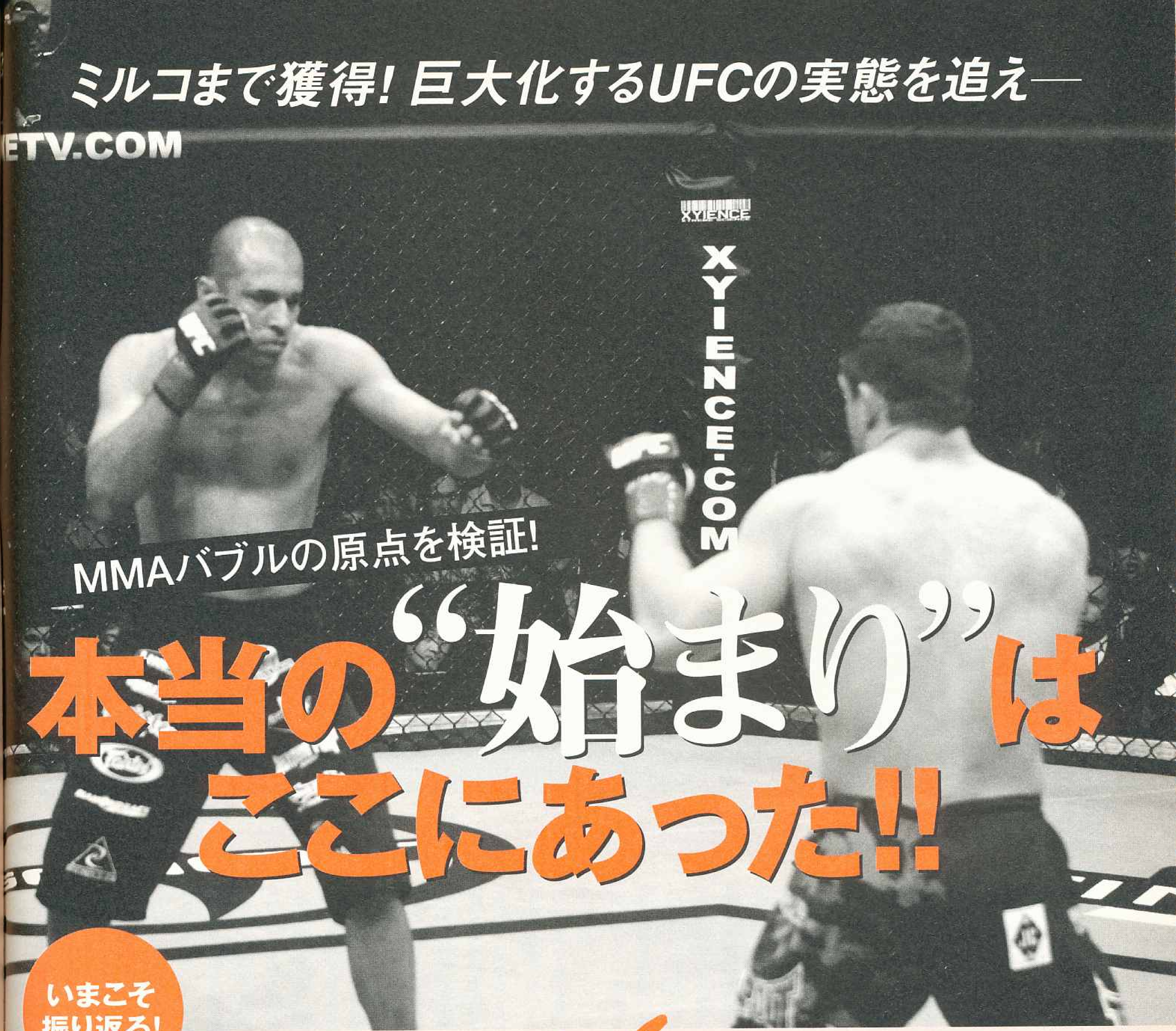
スコット UFC本体でも、現行のスパイクTVに加えて、HBOでの放映も企んでいて、ますますUFCの放送枠は大きくなりそうなんだ。

——UFCのテレビ支配が完成しつつあると。このままじゃ、ほかの団体が出てきても、結局アメリカはUFCの一極支配に収まりそうだなぁ。

スコット 俺が育てたUFCが天下を獲るってことだよ！（笑）。

【1月7日 Skypeにて収録】

ミルコまで獲得! 巨大化するUFCの実態を追え──



MMAバブルの原点を検証!

本当の"始まり"はここにあった!!

いまこそ振り返る!

ホイス・グレイシーVSマット・ヒューズ

06年5月、ヒューズに挑む無謀さばかりが話題になったホイスのUFC復帰戦。しかし、本当の事件は舞台裏で起きていた。UFCは、"タフ・ネゴシエーター" ホイスをオクタゴンにひっぱり上げ、最強の王者と闘わせるだけの経済力をすでに獲得、さらなる成長への道を一気に走ろうとしていたのだ。その後のUFCの躍進ぶりと勢いは、ミルコ獲得という事実からも周知のとおり。ホイス復帰発表から約一年、MMAバブルの原点を検証する。

文／橋本宗洋　写真／Joshua Hedges/Zuffa, LLC.　構成／上杉過失

現地時間12月30日（日本では大晦日）、ラスベガスのMGMグランド・ガーデンで開催されたUFC66でのミルコ・クロコップ参戦発表は、大げさでなく日本マット界を震撼させた。9月に『無差別級GP』を制したばかりの『PRIDE』トップ中のトップファイターが、その〝天敵〟ともいえる団体と契約したのだから、ただごとではない。

大会終了後の会見で、UFCを運営するズッファ社のダナ・ホワイト代表は高らかに宣言した。

「これは始まりにすぎない」

だが、本当の〝始まり〟はそこではなかった。日本マット界を根こそぎひっくり返してしまいそうなUFCの脅威は、いまから一年前の段階で、確かに感じられたのだ。

2006年1月16日、コックスパビリオンで行なわれたUFCの系列大会UFN3でのことだ。「UFCと聞いて誰もが最初に思い浮かべる、これまでオクタゴンに入った中で最も偉大な選手」というダナ・ホワイト代表の前口上つきで登場したのは、ホイス・グレイシーだった。対戦相手は（当時）UFCウェルター級不動の王者マット・ヒューズと発表された。

「ここ（UFC）は私が建てた家だ」

そう語るホイス。彼はまぎれもなくUFCのレジェンドであり、殿堂入りを果たしてもいる。そんなホイスが約11年ぶりにオクタゴン復帰を果たすのだから、主催者サイドが〝UFC史上最大の重大発表〟と煽ったのもうなずける。

ホイスのUFC再登場には、単なる〝一試合〟以上の意味があった。彼はUFC1、2、4のトーナメントで優勝しているが、当時といまとでは大会の姿が激変しているのだ。ホイスが闘っていたのは時間無

制限一本勝負だが、アスレチック・コミッション認定による現在のルールは5分3R（タイトルマッチは5分5R）。道衣の着用も認められない。

UFCを離れてからのホイスの試合は、ほとんどが〝特別ルール〟で行なわれてきた。2000年の第一回『PRIDE GP』における桜庭和志戦は15分無制限ラウンドの完全決着ルール。2003年大晦日、『男祭り』での吉田秀彦戦や『Dynamite!!』の曙戦、所英男戦は10分2R、判定決着なしというものだった。それはグラウンドでじっくりと攻め込む自分のファイトスタイルを活かすためであり、できるだけラウンド終了に闘いを邪魔されず、一本、KO以外は勝敗とみなさない〝決闘の論理〟によるものだった。道衣（の上）を脱いで闘ったこともあったが、それは自身の選択によるもの。ルールで強制されたわけではなかった。そういうホイスが、5分3Rという短い試合時間、道衣不許可のUFC出場を決意したのだ。それ自体が〝事件〟だった。

ヒューズvsホイスの一戦は、いわば〝いま〟と〝伝説〟の闘いだった。ホイス自身、時代の変化を認識している。以下に引用するのは、昨年12月、格闘技情報サイト『MMA WEEKLY』のスコット・ピーターソン編集長が行なったホイスへのインタビューだ。

「いまのMMAが昔と違うのは、異種格闘技戦ではないということだね。〝柔術vsレスリング〟といった構図ではなく〝MMAアスリートvsMMAアスリート〟。どの格闘技が強いかじゃなく、単純に誰が強いかという闘いなんだ。コンディションを整えてきた選手、課題をクリアしてきた選手が勝つ世界だね」

常に一族の誇りを背負い、グレイシー柔術の優秀性を証明するためにバーリ・トゥードという〝異種格闘技戦〟を闘ってきたホイスの価値観とは、正反対の世界である。そして彼は、どれだけ時代が変わろうとも〝MMAアスリート〟ではなく〝柔術家〟であり、そのことに誇りを抱いていた。「今後、グレイシー柔術はどう変化していくのか？」というピーターソン氏の質問に、彼はこう答えている。

「何も変わりはしないさ。いいものなのに、どうして変える必要があるんだい（笑）。私の道場で教えているのは、あくまで競技じゃなく護身術だ。生徒にMMAファイターになることを勧めたり、柔術のトーナメントに出るようプッシュすることもない。私の道場に来る生徒は試合に出たいんじゃなく、護身術を学びたいんだ。それは昔もいまも変わらない。それがグレイシー柔術ってものなんだよ」

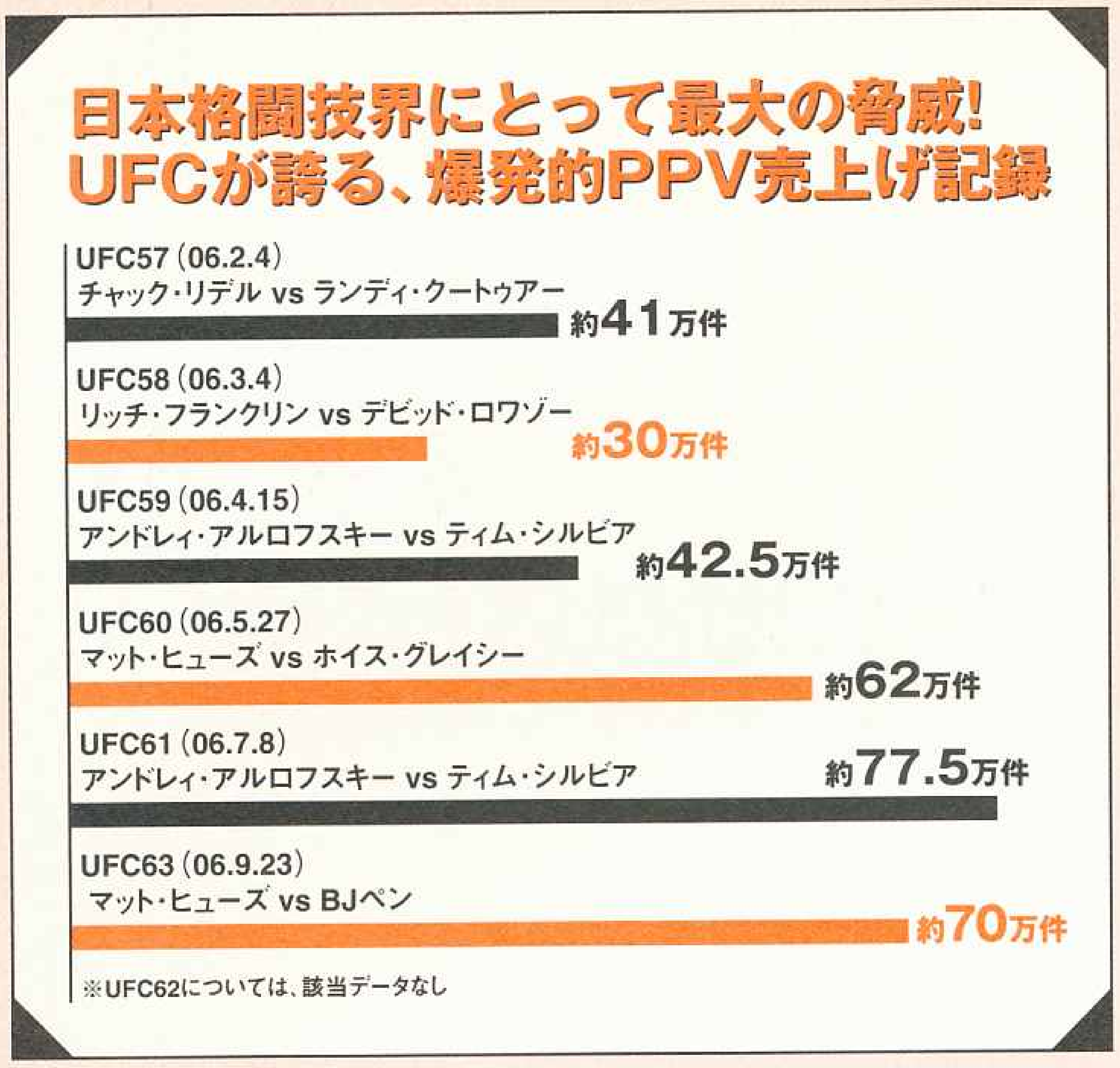
変わっていく時代と、変わらない自分。それをわかった上で、ホイスは〝いま〟のMMAワールドに踏み込むことを決意したのだ。

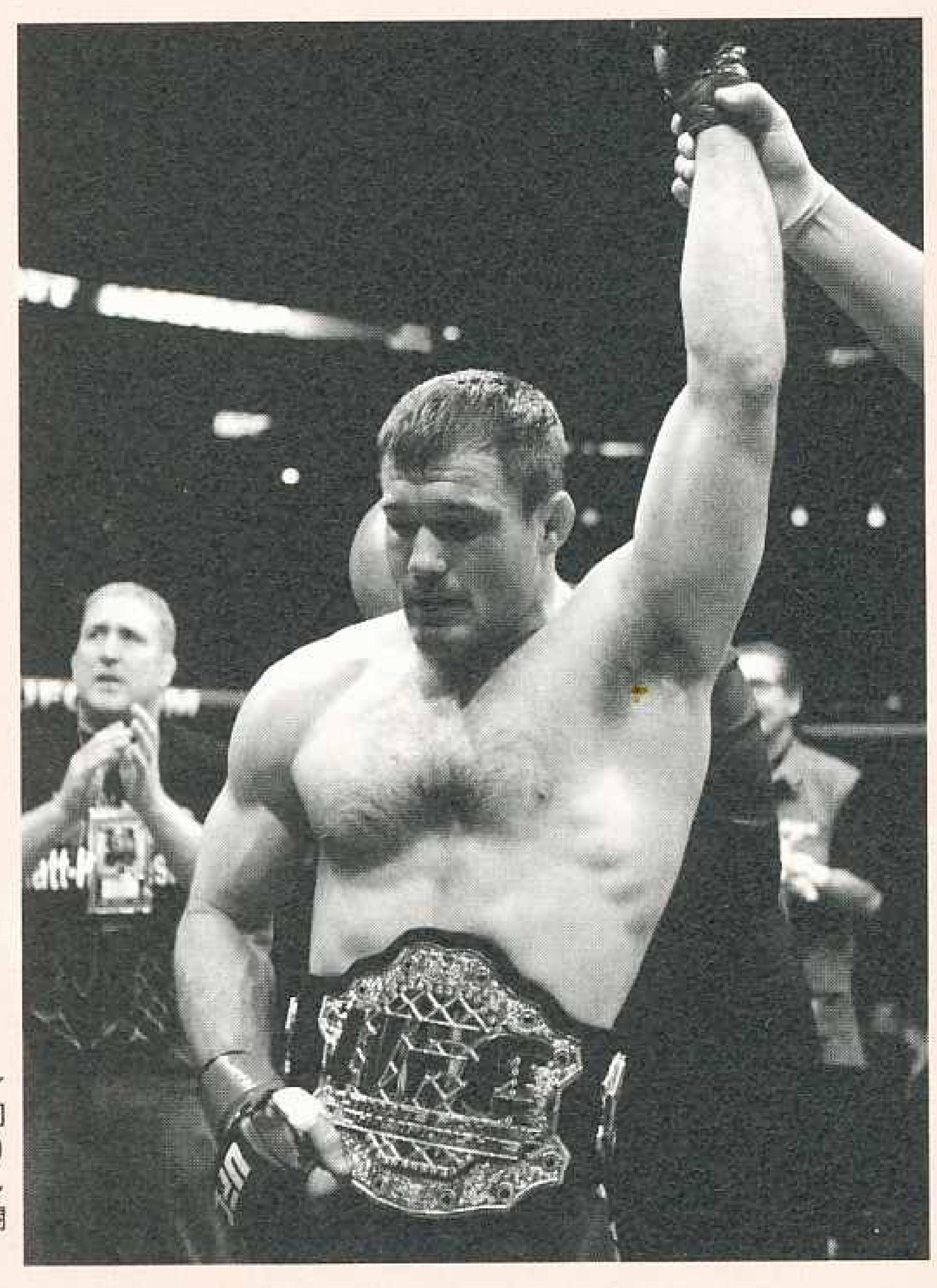
UFC復帰への経緯を、ホイスはこう語っている。

「私のマネージャーは、UFC復帰について二年間もダナ・ホワイトと交渉してきた。私はK—1と契約していたから、UFCが私の試合契約を買い取るというのも、重要な交渉事項だったね。それにもちろんファイトマネーも話し合わなきゃいけない。オファーを受けたとき、私は自分が望む金額を提示した。それが受け入れられたから、試合をすることにしたんだよ。いいかい、私はファイターなんだ。交渉が正しく行なわれ、それがまとまれば、ファイターは試合をする。そういうもんだろ？

対戦相手に関しては、ヒューズ以外のオファーは受けてない。それは私も望むところだった。私は二番手とは闘わない主義だ。チャンピオン、トップファイターにしか興味はないんだ。だからヒューズ戦のオファーは素晴らしいと思ったね。私は試合時間が5分なのか10分なのかを確認し、契約体重を確認した。そして、勝てると判断して試合に合意したんだよ」

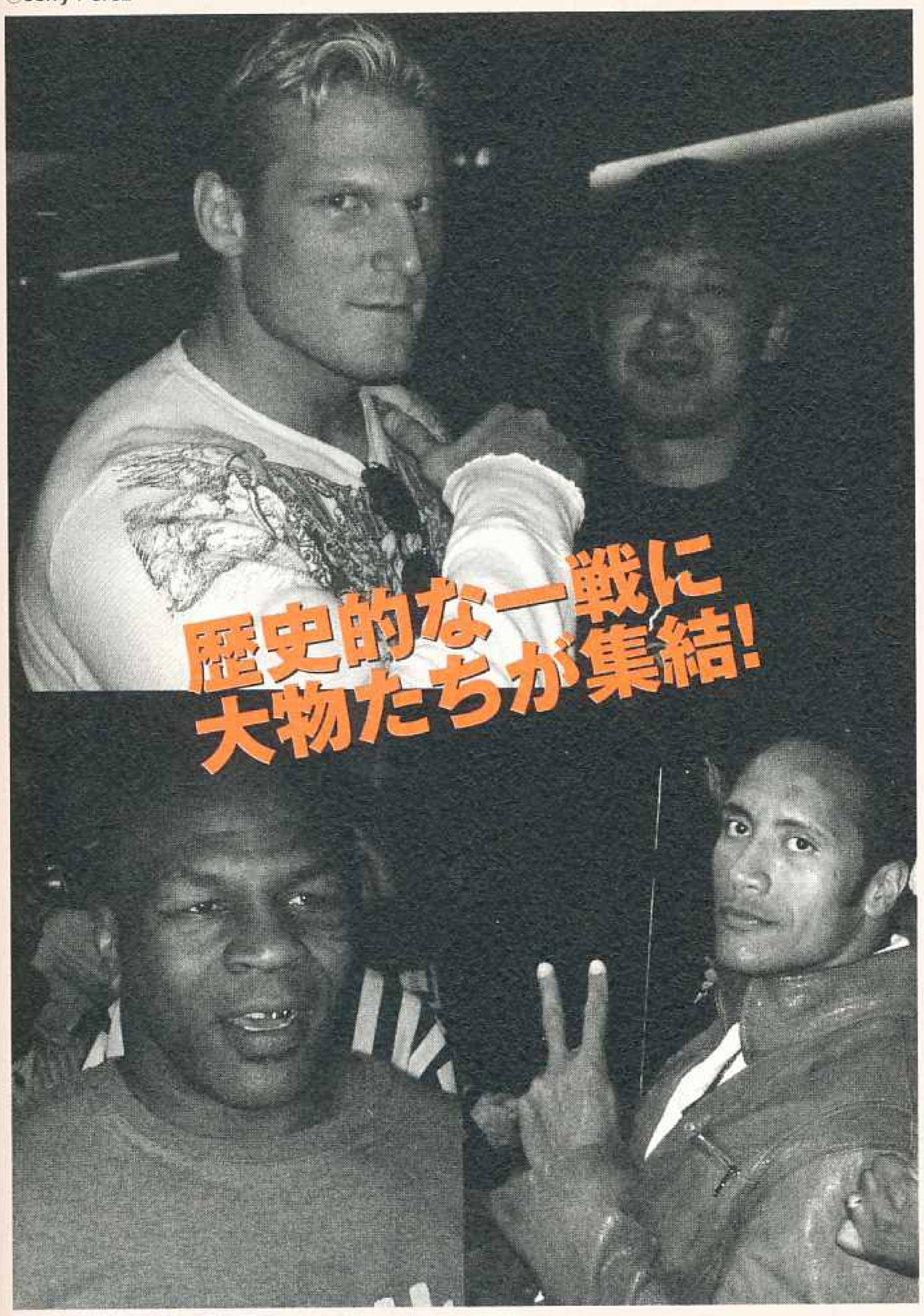
ヒューズ戦のホイスのファイトマネーは、公表されている金額で40万ドル（＝約4600万円）。PPV収入に応じて支払われ




ホイス戦当時、ナンバーワン・パウンド・フォー・パウンド・ファイター（「同体重と仮定したならば、最強」の意）の称号をままにしていたヒューズ。しかし06年11月、ついに王座陥落。格闘技界からまた一つ幻想が失なわれた。

特別ルールにこだわるホイスがUFCに出場したこと自体が事件だった

©Jerry Perez



るインセンティブ契約などがあれば、その額はさらにはね上がる。噂によれば、ホイスが『PRIDE』との契約を蹴って『Dynamite!!』に出場した際に生じた違約金も、UFCが支払ったのだという。それだけの大金をホイス復帰に費やせるだけの資金が、UFCにはすでにあったということだ。

2005年にスタートした選手育成リアリティショー『THE ULTIMATE FIGHTER（＝TUF）』の好視聴率を起爆剤に、UFCの認知度は飛躍的に向上していた。主な観客層は昔から格闘技を観ているコアなマニアからライトな一般層へ移行。ビジネスの規模拡大は爆発的だった。2004年には5回だった大会開催数は、2005年にはUFNも含めて10回、2006年は19回と増加していく。大会を観たがる人間が増えれば、チケット料金も上がる。それまでオクタゴンサイド300ドル、最も安い席で30ドルほどだったチケットは、現在は750ドル（オクタゴンサイド）にまで達している。ドリンクやサプリメントを販売する『ザイエンス』など、一般の大企業がスポンサーにつくようにもなった。

そうした豊富な資金力で、UFCはヒューズvsホイス戦、いまを象徴するMMAアスリートと伝説のバーリ・トゥーダーの試合を実現させたのである。その話題性、大会がもたらす収益を考えれば、高い〝買いもの〟ではなかったということなのだろう。実際、ヒューズvsホイス戦のPPV売り上げは当時としては過去最高の62万件を記録している。

ホイスとしても、ビッグビジネスに変貌し、これまでとは比べものにならない注目を浴びるようになったアメリカのMMA戦線に心を動かされないはずがない。

「UFCに戻ってくるのは、本当にいい気分だったよ。なにしろ、いまのUFCはビッグだからね（笑）」

ホイスはそう語っている。

ヒューズvsホイス戦をメインイベントに据えたUFC60は、5月27日、カリフォルニア州ロサンゼルスのステイプルズ・センターで開催された。チケットはもちろんソールド・アウト。初期UFCを知るコア・ファン、『TUF』でMMAを知ったライト層、どちらも〝いま〟と〝伝説〟の闘いに心を奪われた。

下馬評は、圧倒的にヒューズ優位だった。会場でWOWOW取材班にコメントを求められたジョシュ・バーネットもヒューズの勝利を予想している。

「ホイスはBJJ（ブラジリアン柔術）ファイターだけど、ヒューズは総合ファイターだからね」

UFCライトヘビー級王者、チャック・リデルもヒューズを支持した。

「ホイスは偉大なファイターだ。でも、いまや闘いはホイスの時代とは違う局面にあるんだよ」

ヒューズ自身も〝いま〟と〝伝説〟の違い、その優劣を語った。

「ホイスは過去のUFCで何度も優勝してるが、いまのUFCはその頃とは違うものなんだぜ」

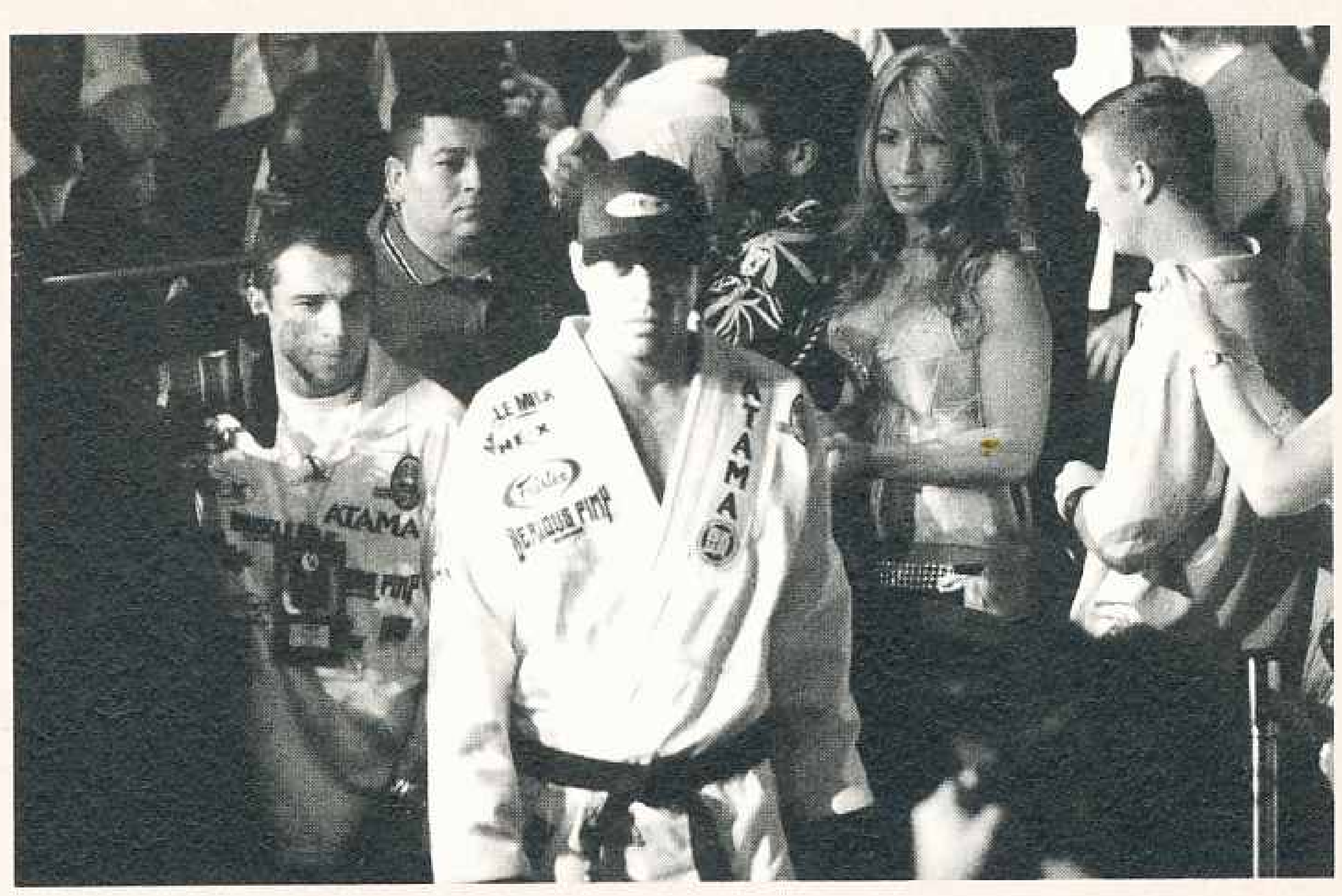
そんな意見に、ホイスはもちろん反発した。打撃も含めたヒューズの総合力に、自分も決して劣ってはいないと。

ファイトマネーだけでも4600万円 ビジネス規模は爆発的に拡大していた

「私は10年間もムエタイのトレーニングを積んできたんだ。決して付け焼き刃じゃない。試合前には、サンフランシスコの（ムエタイの名門ジム）フェアテックスで集中的に練習したよ。そこで完璧なプランを練ったんだ」

MMAアスリートではなく柔術家を自認するホイスも、当然ながら勝つために何をすべきかを理解していた。かつては道衣を脱ぐことを頑なに拒んでいたが、その部分でも充分に準備はしていたという。

「UFC復帰前にも、私は（吉田戦や所戦で）ギ（道衣）を脱いで闘った。それは



伝説をも呑み込み、消化するだけの力が現在のUFCとアメリカ市場にはある

つまり、新しいルールを学ぶためだったんだよ。ギを着なくたって、私は闘える。新しいルールに自分を適応させればいいだけのことだからね」

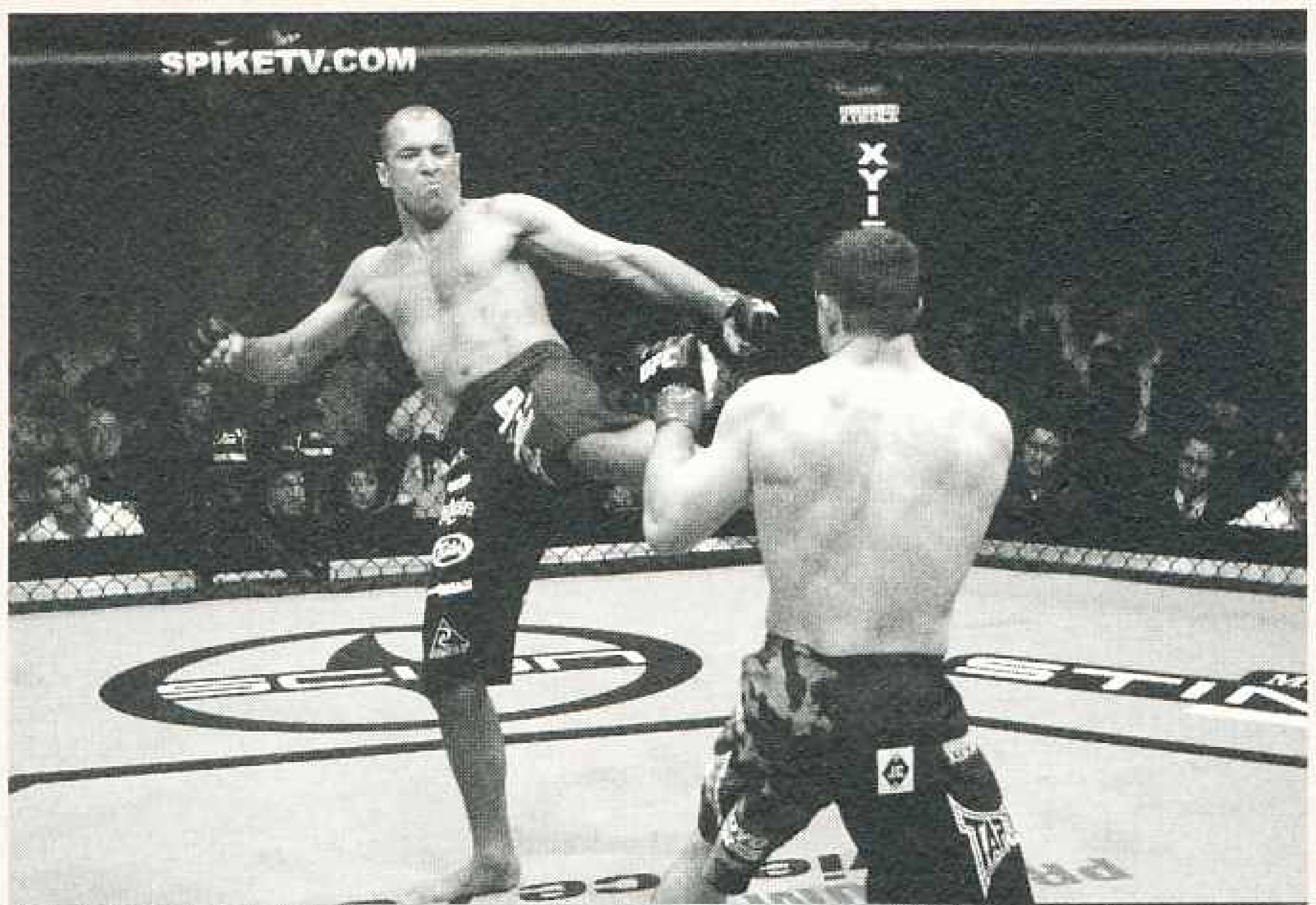
下馬評がどれだけ不利であろうが、ホイスにとってヒューズ戦は勝てると踏んだ闘いだったのだ。父であり、一族の長老であるエリオ・グレイシーとともに入場したのも、自信の表われだったはずだ。

もう一つ、ホイスにとって大きな力になったのは、総立ちのファンが送る大歓声だった。入場やリングアナによるコール時、ホイスへの声援はヒューズへのそれを上回っていた。ホイスが道場を構えるカリフォルニアの会場だったということもあるが、何よりも強く作用したのはオールド・ファンの〝記憶の氾濫〟ではなかったか。それはたとえば、日本のファンがどれだけ黒星を重ねても桜庭和志に思い入れを抱く心情と似ているのかもしれない。だが、その数分後、現実は否応なしにホイスを襲う。

試合開始から1分、蹴りで牽制するホイスに、ヒューズが組みつく。金網に押し込み、テイクダウンするとそのままサイドポジション。ハーフガードに戻したホイスだが、ヒューズは追撃の手を緩めず、ストレート・アームバーを仕掛けてみせる。ヒューズはその後も逃げるホイスを完璧にコントロール。バックを奪い、足を差し入れて全身の自由を奪った上で左右のフック、アッパーを連打していった。力なくこうべを垂れるホイスに、レフェリーはすぐさま試合をストップする。1ラウンド4分39秒、ヒューズの圧勝だった。これまでレフェリーという第三者によるストップを否定してきたホイスも、敗北を受け入れざるをえなかった。それほどの完敗、惨敗だった。

「I'll be back!」

絶対に戻ってくる。試合後のインタビューでそう宣言したホイスに、観客は大歓声で応えた。それが〝記憶〟の力というものだろう。ホイスは試合から半年以上が経ったいまでも、自分の実力に疑問を抱いてはいない。ヒューズが強かったのではないと、彼は強調する。



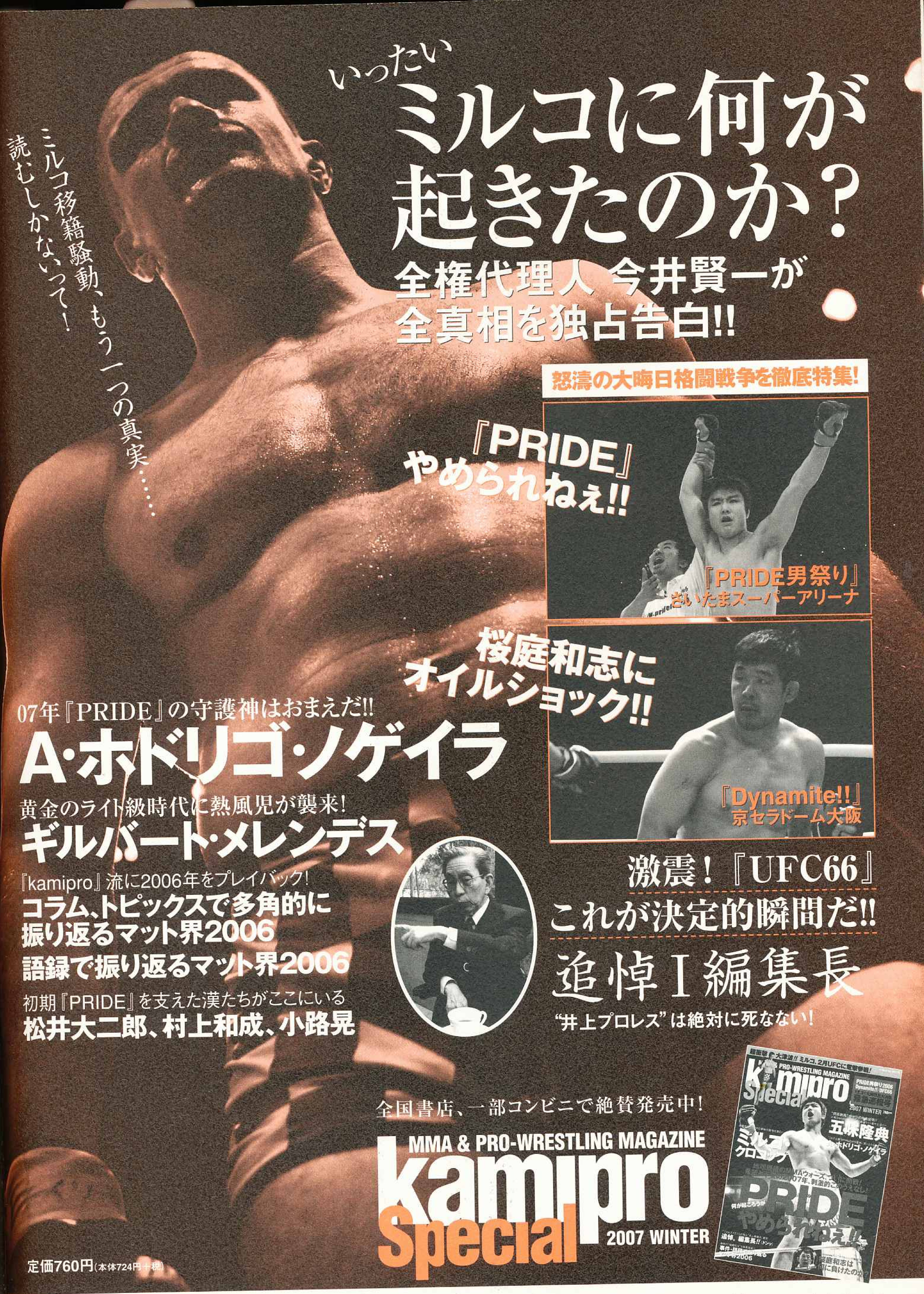




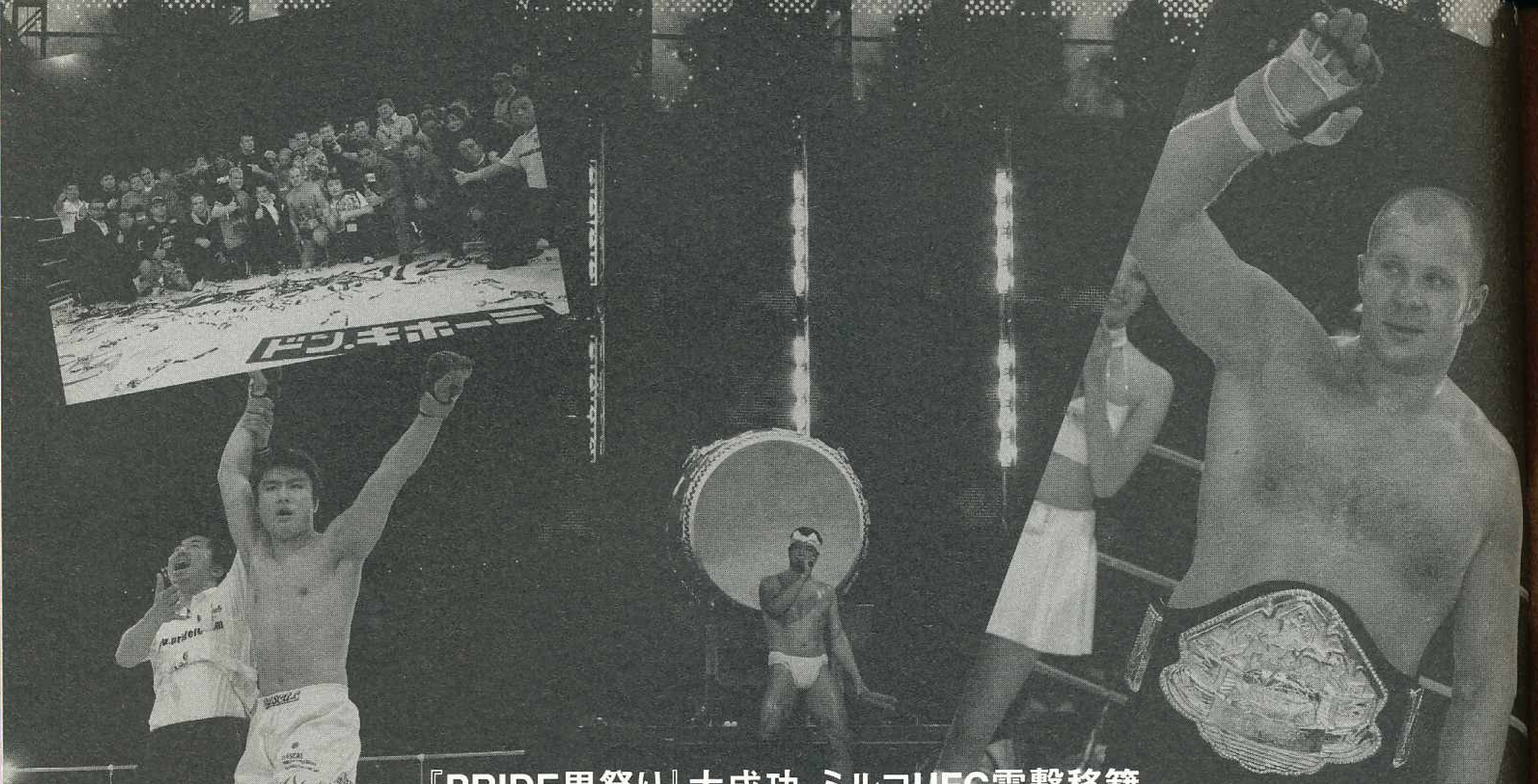
「確かに私はヒューズに負けた。この敗北はグレイシー柔術を傷つけ、一族を傷つけた。ただ、闘ってみて感じたのは、ヒューズも一人の人間だってことだ。決してスーパーマンなんかじゃない。ヒューズが何をやってくるか、自分が何をすればいいかはわかっていた。負けたのは、私自身が準備不足だったせいだ。前の年のニューイヤーズ・イブにトコロ（所）と闘うまで、私は長い休暇を取っていた。そういう状況でトコロと闘い、そしてすぐにヒューズ戦へのトレーニングに入ったんだ。でも、グッドシェイプをキープするには期間が長すぎたんだね。ヒューズとオクタゴンで向かい合った時点で、私は燃え尽きていたんだよ。だから、自分がオクタゴンで闘っていることにリアリティが感じられなかった。アームバーを極められかけたときだって、ビジョンを見ながら『おい、ヒューズがこの男の腕を壊しかけてるぜ！』って感じでね。まったく闘いに集中していなかった。やるべきことがわかっていなかった。それがら、やれなかった。それがあの試合の敗因だよ」

だが――ホイスの主張も、ファンの〝記憶の氾濫〟も、すべては終わったことだ。残ったのは、ヒューズがホイスに完勝したという事実でしかない。出場への交渉過程においても、オクタゴンでの闘いでも、ホイスという〝伝説〟は、UFCの〝いま〟に丸呑みされたのだ。この一戦のあと、UFC人気はさらに上がり、PPV契約数も増加の一途をたどっている。ホイス復帰がUFC巨大帝国化の〝肥やし〟だったと言ったら、口が悪すぎるだろうか。

伝説的ファイターであるホイス・グレイシーさえも呑み込み、消化してしまうほどの〝力〟が、UFC（と現在のアメリカMMA市場）にはある。ミルコ獲得も、その〝力〟によるものなのは疑いようがない。これから先、〝力〟の矛先はどこへ向かうのか。そしてどれだけ強いものになっていくのか。その上限を見極められる者など、どこにもいないだろう。



いったい
ミルコに何が起きたのか？
全権代理人 今井賢一が
全真相を独占告白!!
ミルコ移籍騒動、もう一つの真実……
読むしかないって！
怒濤の大晦日格闘戦争を徹底特集！
『PRIDE』やめられねぇ!!
『PRIDE男祭り』
さいたまスーパーアリーナ
桜庭和志にオイルショック!!
『Dynamite!!』
京セラドーム大阪
07年『PRIDE』の守護神はおまえだ!!
A・ホドリゴ・ノゲイラ
黄金のライト級時代に熱風児が襲来！
ギルバート・メレンデス
『kamipro』流に2006年をプレイバック！
コラム、トピックスで多角的に
振り返るマット界2006
語録で振り返るマット界2006
初期『PRIDE』を支えた漢たちがここにいる
松井大二郎、村上和成、小路晃
激震！『UFC66』
これが決定的瞬間だ!!
追悼I編集長
"井上プロレス"は絶対に死なない！
全国書店、一部コンビニで絶賛発売中！
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2007 WINTER
定価760円（本体724円＋税）

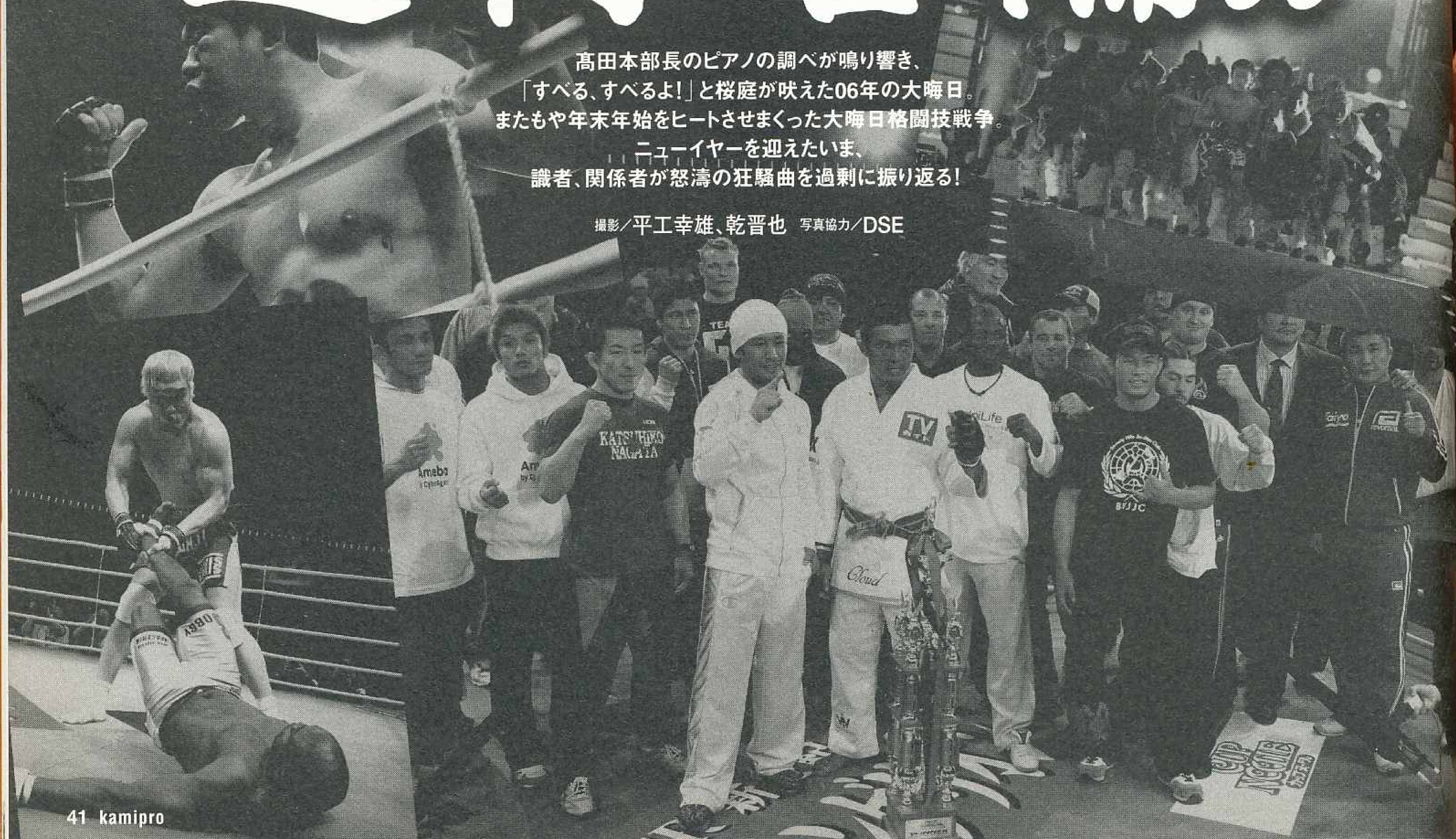


『PRIDE男祭り』大成功、ミルコUFC電撃移籍、
桜庭vs秋山オイルショック騒動まで！　識者、関係者たちが大激論！

大晦日格闘技戦争“過剰”言論!!

高田本部長のピアノの調べが鳴り響き、
「すべる、すべるよ！」と桜庭が吠えた06年の大晦日。
またもや年末年始をヒートさせまくった大晦日格闘技戦争。
ニューイヤーを迎えたいま、
識者、関係者が怒濤の狂騒曲を過剰に振り返る！

撮影／平工幸雄、乾晋也　写真協力／DSE





DSE帝国の文化的侵攻にストップ!?

桜庭vs秋山戦の裏には〝プロレスの喜び〟が詰まっていた!?

音楽家にして文筆家

菊地成孔



きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家/文筆家。先鋭的なジャズミュージシャンとして活動する一方、膨大な知識を駆使した批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。昨年、格闘技批評「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～」(白夜書房)出版。東京大学、国立音楽大学非常勤講師(音楽理論史)。

巨大クライシスが発生した06年を象徴するように、最後の最後までミルコのUFC電撃移籍、秋山vs桜庭戦のヌルヌル疑惑が連続して勃発した大晦日。07年の年頭、そこからどんな風景が見えるのか? 菊地成孔が考える。

聞き手/ジャン斉藤　試合撮影/乾晋也　『PRIDE男祭り』写真/平工幸雄

――今回は、怒濤の大晦日格闘戦争について菊地さんにたっぷりとご意見をうかがいたいと思います。

菊地　そんなにおもしろいことを見つけたワケでもありませんが(笑)。

――そんなこと言わずに(笑)。菊地さんは『PRIDE男祭り』を『kamipro Award』のベストイベントに選んでいただいたので、最初はそちらの感想からうかがえますか?

菊地　まず思ったのは、9月(無差別級GP決勝戦)は、本当にキツい時期だったんだなと。あのときは試合ばかりが素晴らしく、会場内の景色にインディー感が出ちゃってましたし、「このまま『PRIDE』はなくなっちゃうよなあ」という具体的な危機感が見えちゃってたワケで。

――そういう差し迫ったムードはありましたよね。

菊地　それが今回は、〝煽りV〟を担当されていた佐藤大輔さんの再登場で完全に息をふき返しましたよね。まあ、ゲッペルス(ナチスドイツの宣伝大臣)復帰というね(笑)。

――ゲッ、ゲッペルスときましたか(笑)。

菊地　事前にコンビニで見る大会ポスターのデザインやコピーが「もう死んじゃうんじゃないの」という切なさだったのにも関わらず、いざ会場に入ってみると、選曲から何から圧倒的に復活していて、センスのいい『PRIDE』が帰ってきた。……そういえばオープニングのゴスペルを歌ってた人たちの中に僕の生徒がいたんですよ。

――あ、そうなんですか?

菊地　僕もあとで言われてビックリしたんだけど。あのゴスペルもよかったです。ゴスペルってのはまあ、ねえ? 絶望した人間が救いを求める音楽ですから(笑)。

――そんな読み込み方がありますか!(笑)。ところで、髙田統括本部長のピアノはいかが

『男祭り』のゴスペルは凄くよかった。じつはあの中に僕の音楽講義の生徒もいたんです（笑）

でした？

菊地　会場では口パクならぬ指パクじゃないか？　と思ったんですが、あれはちゃんと弾いてますね。

――ハハハハ！　もしかしたら、"指パク"じゃないかと思われたんですね。

菊地　はい。生徒はそう言ってました（笑）。とにかく『男祭り』の風景だけ切り取ると、非常にいい大会で、文句を言うファンはいないでしょう。もちろん目を凝らせば問題点もあるでしょうけど、あの"煽りV"の復活は本当に大きかったですね。宣伝省というのは、どの帝国にとっても最重要なのだな、と。

――たしかに大輔さんの復帰はかなり大きいですね。

菊地　『男祭り』をブロードバンドで放送するDMM.comが、いったいどんな会社なのよ？　と思っていたら、地上波で自社のテレビスポットを打ち始め、元フジテレビ局員の佐藤さんが帰ってきた。もう"間接的にテレビを取り戻した"ような、テレビが復活してしまったようなイメージね。

――『男祭り』もリング外では"ミルコの離脱"というバッドニュースがあったりと、去年の『PRIDE』を象徴するような大会でしたね。

菊地　スレっからしの人は「末期リングスに見えた」という人もいるでしょう。「ああ、こいつもこいつも引き抜かれちゃうんじゃないかな。引き留める手はないんだ」「今日はひとまず闘ってくれてありがとう。ありがとう」という切なさね。ミルコの離脱は「やっぱりね」というところでしょうし。

――それはどういうことですか？

菊地　ミルコは無差別級GPに優勝したあと、「ヒョードルが今日のトーナメントにいても、俺が優勝しただろう」というコメントを出した。あれは凄く示唆的でした。普通だったら「次はいよいよヒョードルだ」と言うハズです。僕はヒョードルの離脱が決定的だから、こう言ったと思ったんですが逆だったと。これから、えげつないヘッドハンティングもあるでしょう。ただそういった「07年はしんどそうだ」という雰囲気もある中で、ああいったいい興行になったのは、切なくてよかったです。


オープニングからゴスペルで厳かにアゲ♂アゲ♂した『男祭り』。煽りVディレクター佐藤大輔さん曰く、この曲はウーピー・ゴールドバーグ主演の映画『天使にラブソングを』の劇中歌が下敷きになっているらしい。

――その中で印象に残った試合や、気になった選手はいますか？

Naruyoshi Kikuchi

菊地　みんなよかったですよ。藤田和之のマッチメイクがヒドイとか、郷野vs近藤戦が膠着してつまらなかったとかいう意見もあるでしょうけど、アマレスの王者を連れてきて殴っちゃうっていうのは山本KIDの試合もそうでしたけど、UWFからの伝統だし（笑）膠着マニアの僕にとっては郷野vs近藤戦もよかったです（笑）。

――ところで、菊地さんって、郷野の入場シーンはどういうふうにご覧になってます？

菊地　どこかでリセットしないと、取り返しがつかないですよね。


まさしく『たかだカンタービレ』？　今回の本部長はピアノに挑戦！　事前のオフィシャルHPでは、「マジック、ピアノ、独唱、チームダンス、アイススケートの中から何を行なう？」とノンキなクイズも出題されていた。

――郷野は自分でも「あれはすべり芸だ」と言ってるんですけどね。

菊地　うーん（笑）。痛さしか伝わってこないんだけど。「痛さが伝わる」って、プロレスみたいだけど（笑）。

――その痛さを感じたくないですけど（笑）。

菊地　入場に凝る人っていうのは、須藤元気以外は、ほぼ全員が原型に桜庭イズムがあるんです。ただ桜庭の入場はおちょくったりすることが念頭にあって、イヤがらせの対象がいるほど落とし込みやすかった。郷野も誰かをおちょくるほうが得意でしょう。吉田道場に嫌味を言ったときには冴えてたわけです。おそらくそれを止められたんだと思うけど、それで自爆キャラ、破廉恥キャラというのを選んだと思いますが。

――要するに、郷野は敵が定まっていないわけですね。

菊地　イヤミやおちょくりをさせてもらえない、自分でも徹底的にはできないっていう限界があるんでしょうね。近藤をおちょくればよかったのにねえ。んで、いざ試合したら全体的にエネルギー値がガクンと下がったようなタイプの渋い膠着試合になってしまった。「省エネ型」と呼んでますが（笑）、近藤は試合を静かにさせちゃう魔力を持ってますね。どこか長嶋一茂にも似てるんですけど。

――あ、たしかに似てますね。

菊地　今回はダブルイメージの人が多くて、ヒョードルは不気味なほど市原悦子に似てるワケですが、青木真也は爆笑問題の太田光に似てます。フレッシュで怖いところもあって、さわやかで残忍なところもあってというアンファンテリブル（＝恐るべき子どもたちの意）ぶり。入場曲をずっとリップシンクで最後まで歌うというバカ実直さもよかったですし。田村潔司のプロレスラーキラーぶりもよかったです。プロレスラーはKO、アマチュア出身の格闘家とは膠着という（笑）。

――その田村が勝敗に丸坊主を懸けたりしましたけど、いま話題騒然の桜庭vs秋山戦にはどういう感想をお持ちですか？（このインタビューはクリーム塗布認定会見の前の収録）。

菊地　あの映像は何度も観ました。ただ、足がスッポ抜けたのはわかりますけど、僕は事実関係を探偵みたいに推理するのは得意じゃないから、よくわからない。だけど、あんな

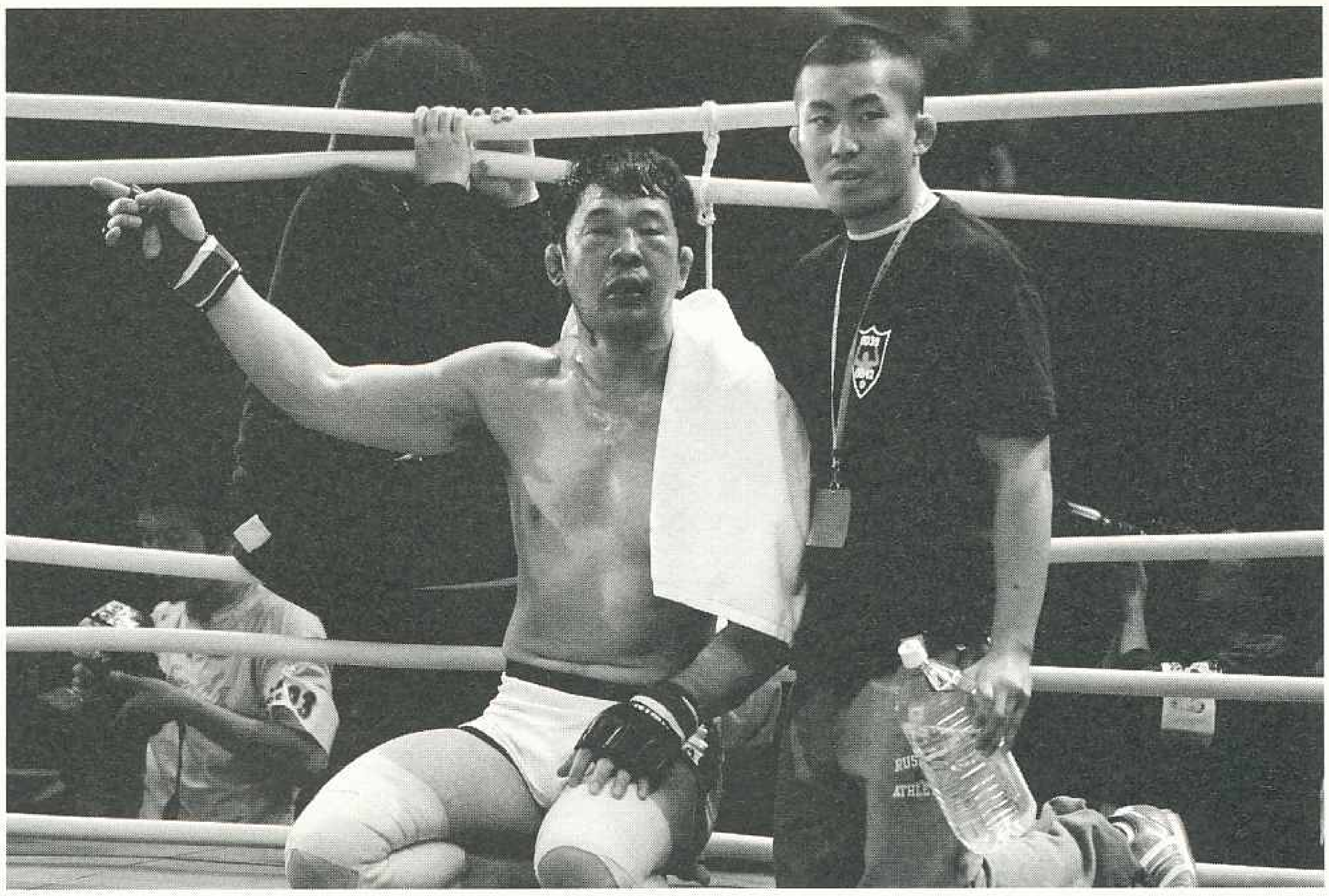
場所がすべるほどオイルを塗ったら、足の裏だって危ないとは思うんです。

―まあ、たしかにそうですよね。

菊地　秋山は裸足だし、カカトにでもついた日には転んじゃうから、「そんなリスキーなことをするだろうか?」とは思いました。ただ、すべってるように見えなくもないんだけどね（笑）。

―塗っていてもおかしくはない。

菊地　でも全盛期の桜庭ならばああいった状態でも「すべっても極める」というIQレスラーぶりを見せたと思うんです。これは極論ですが「グラップラーは何か塗られたら、手も足も出ないのか?」という問題もありますしね。もし、セックスのときに使うローションみたいなもんを塗り放題だとしたら、踏ん張れない状態では打撃さえできない。だから「どういう状態であっても極められ、殴れる」という可能性を示さないと、すべてのケンカや格闘技はローション一発で仲裁できるということになってしまう（笑）。



いまの桜庭に必要なのは、おちょくったり、イヤがらせできる相手、それがいないのが問題

―ザバーッ！　とローションをかければ終わりになってしまう（笑）。

菊地　『お笑いウルトラクイズ』はやっぱり平和の象徴だったという（笑）。それに桜庭考古学的にいうならば、あの人は昔、〝炎のコマ〟というオリジナル技を発明して「摩擦熱を使ってダメージを与える」といって盛り上げてくれた人ですからね。その桜庭がだんだん下り坂になって、摩擦を取られたら無力になってしまったというのは悲しすぎます。「オイルを塗ったら、反則負けになる」という元も子もない、級長かイジメられっこみたいなことを桜庭が絶叫しつつ、競技上でも負けてしまい、おもしろ打開策みたいなイマジネーションもない。二重に切ないです。

Naruyoshi Kikuchi

―あの切なさや、哀しさは、オイル云々は別として、心に突き刺さりますね。

菊地　それに、ヒカルド・アローナ戦がトラウマになってると思いますが、あの試合で〝生まれ変わった〟桜庭は、顔面がボコボコに腫れ上がってしまって出血するという状態を無意識に反復していると思います。

―ああ、観客もそういうイメージを持って、ハラハラしながら試合を観てると思うんですよ。

菊地　試合前から「いまから腫れますよ」ぐらいのイメージですよね。ブッチャーの額みたいに「いまから流血しますよ」という感じですね（笑）。だから、今後は桜庭の顔がきれいなまま勝つというベクトルに向かったら、桜庭も観客もトラウマが払拭されると思うんです。本誌で言い続けてきましたが、本来の桜庭は権力者に対して、道化としてイヤがらせしないとイキイキできない。

―自分の個性が際だたせる、イヤがらせの対象者がいないんですね。

菊地　そうすると、桜庭はイジけた暗い人間だという本性が透けて見えちゃうんです。もともと桜庭はグレイシー一族やあらゆる対象にイヤがらせしたことで人気者になった。でも『PRIDE』で級長みたいな立場になった途端、イヤがらせをする場所がなくなってしまった。これはイメージですけど、いまの桜庭は真面目な生徒みたいな感じで、秋山みたいなワルそうな同級生にカマされて、「すべるよ、すべる！」と先生に連呼しているように見えちゃう。そのあとの裁定がどうなるかわかりませんけど、おそらく凄くまともな、優等生みたいな糾弾の仕方で、秋山を責めると思います。桜庭は本来はおちょくりがいのある『PRIDE』や髙田（延彦）の悪口を言ったりすればいいのに。というか、そういう立場を取り戻したくて『PRIDE』から出たぐらいに思いたいんですが。「タイガーマスクが二人出てきた！　どっちが桜庭か！」って言われてもねえ（笑）。

―ちょっとワクワクしませんよね（笑）。そこで秋山は桜庭の敵にならないですか？

菊地　それこそローションを塗って出てきて「すべるよ！」って叫べば、図式的にはパロディになるけど（笑）

―秋山成勲という選手に関してはいかがですか？　TBS的には売り出し中のスーパースターなんですが、この件があったことでファンにはますますとっつきにくい選手になりましたよね。

菊地　でも僕は秋山は嫌いじゃないし、吉田秀彦よりははるかに好きです。マイクが道場向けだったり、協会向けだったり、セレブ向けな部分は吉田とかぶるんですけどね。まあ、いろいろ都合はあるんだろうけど、清原（和博）に勝利を捧げちゃうというのは（笑）。

―脱力しますよね（笑）。テレビ的にはあれでいいでしょうけど。

菊地　だから吉田と同じように嫌えばいいんだけど、これは逆差別かもしれないですが、秋山は在日韓国人という民族的な部分を持ってるからこそ、ヒリヒリした魅力を感じるのかな？　と思ったりします。それで柔道家でもあるわけだから、つまりは力道山と木村（政彦）が一体化してるわけです。凄いタマですよ。

桜庭vs秋山戦には人間のダーティ面に訴える そんな"悪魔の魅力"があるんですよね

——ああ、ボクもその秋山の影には感じるものがあるんですが、ただTBS的はそういった部分を売りにするわけにはいかないんですね。力道山も、前田日明も、長州力も在日韓国人というアイデンティティがファンの共感を得た面もあったと思うんですが、秋山はそういう人たちとは違ったケースですよね。

菊地 それに今回の事件はともかくとして、秋山はプロ格闘家に転向したあとはいいことばっかりでしたからね。今後、ピンチを迎えたり、ライバルが出現して負けたりすれば評価が一変する可能性もありますよ。……ただ『Dynamite!!』は本当にヒドかったね（笑）。

——イベント自体は。

菊地 あらゆる意味でね。『Dynamite!!』はクオリティは捨てて"炎上"を取った。『男祭り』はハイクオリティと破滅の予感で会場は感動という図式じゃないですか。格闘技イベントとしてもテレビ番組としてもかなりヒドかったのが"炎上"一発でモトを取るという（笑）。そういう脱力した悪魔の力みたいなモノは、谷川イズムでしょう。

——ネットの反応なんかを見ると、いまのファンは菊地さんがおっしゃった"探偵みたいな検証"で考える以外に、こういった事件を消化する手段がないんですね。たとえば「秋山はグローブに鉄板を仕込んでたから、自分の拳が折れたんだ」という説も流れてるんですけど。

菊地 100発も殴ったら、そりゃあ骨だって折れるよね（笑）。

——"妄想パワー"を武器にしてきた活字プロレスのレジェンド、井上義啓さんも亡くなられてしまったいま、今後はそういう"探偵みたいな検証"が中心になっていくんでしょうか？

菊地 格闘技というリアルスポーツに対するリアルな視点っていうことじゃないですかね。ただ、本質的には、実際に現場で調査できないかぎり、どんなに"探偵みたいな検証"に見えても、結局は妄想にすぎないですからね。

——ここ数年は、その妄想の質が変化してきた部分もあるということですか？

菊地 ありきたりな話ですけど、テクノロジーによって、「実際に調査している」のか「資料だけ検索して妄想しているのか」の分離が曖昧になってるんですよ。昔は興奮しながらも、その一線は引かれていたと思いますよ。心理的に。いまは自分が実際調査でもしているような気分になれる。そうはいっても今回の事件の本質にあるのは"プロレスの喜び"ですよね。

——"プロレスの喜び"！

菊地 「手に鉄板が入ってるんじゃないか？」なんて、とてもリアルスポーツの話題じゃないですもんね（笑）。

——秋山が過去の試合で柔道着をすべらせてたということに関しても、よく考えるとプロレスの悪役的ですよね（笑）。

菊地 最近のアマチュアスポーツの審査は髪の毛の検査だ、尿の検査だと科学的チェックですけど、リング上に鉄板や油のような具体的な物質が出てくるというのはデスマッチみたいだし（笑）。

——"悪のレフェリー"が見える風景もあるし、谷川さんも"悪のプロモーター"的。こういった伏魔殿ぶりは昔のAWAみたいで（笑）。

菊地 これまでDSEは『PRIDE』と『ハッスル』という格闘技とプロレスという二極化を押し進めてきたけど、今回は両極で分けられた世界の真ん中に、なんと秋山と桜庭によるプロレスっていうものが登場した。プロレスの逆襲といってもよいですね。DSEの「プロレスと格闘技はハッキリ分ける」といった、凄く平明ですっきりした世界観に対して、世界全体がストップをかけたような気がします。二元論ってのは強いけど脆いんですよ。ヒョードルvsハントという、かなりおもしろい試合でさえ、炎上の陰であんまり語られないというのが07年の冒頭の状況ですよね。

——たしかにヒョードルvsハントという純粋な格闘技のおもしろさが見えにくくなってしまいましたね。

菊地 桜庭vs秋山は、人間のダーティ面に訴えるような悪魔の魅力があるんです。秋山が強いのはわかるんだけど、いいヤツなのか悪いヤツなのか判然としないのもいいし、"落ちかけたヒーロー"桜庭というのもいいし。前田の立場も微妙だし、凄くよくできた構造ですよ。プロレスの魅力ですよ。

——これが『PRIDE』だったら、ここまでの"悪魔の魅力"は感じなかったかもしれないですよね。

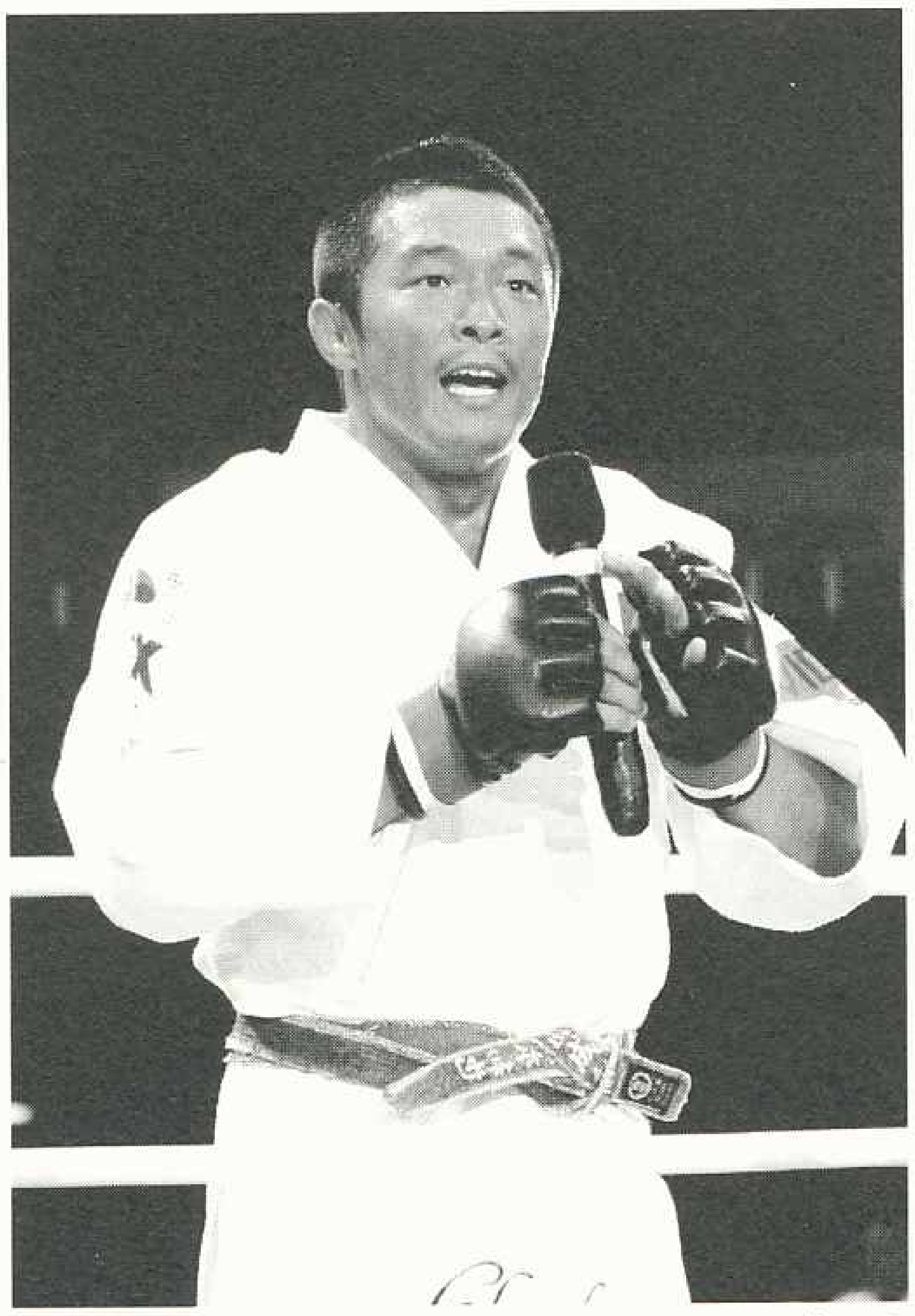
菊地 『PRIDE』なら事故に対して、もっと透明性を求めるでしょう。その一方で、『男祭り』は本当にいい大会でしたけど、僕が思うに末期の国際プロレスや末期リングス的なイメージも持ち始めちゃっている。そういう意味でも悲しくていい大会でした。ここからまた持ち返すんじゃないか？ という気もしますけど。でも実際のところ今後の『PRIDE』はどうなんですか？

——う～ん。アメリカの脅威は本当にヤバイんですけど、その危機感をファンや関係者が感じとっていない現状はありますね。象徴的なのは、いまだに「なんでアメリカばっかでやるんだ！」とかいうファンの声があったり。

菊地 ま、DSEも企業体だから今後がどうなるかは、まだわからないですよね。こういういい大会があると、希望が持てちゃう。そこがいいところでもあり、怖いところでもあるんでしょうね。

——危機だからこそ、クオリティが高いってのも問題があるんですね（笑）。今日はどうもありがとうございました！

【06年1月8日／東京・新宿『ルネサンス』にて収録】



疑惑の勝利後もじつに堂々とした秋山は「柔道家の少年少女、柔道ってなかなか強いやろ？」と語り、なぜか「死に物狂いで頑張ってる清原さんに、この勝利を捧げたいと思います！」と"セレブ向け"マイクを披露。



桜庭のレフェリーへの抗議!!
あれはまさしく“昭和のシュートマッチ”力道山vs木村戦と一緒ですよぉ!!

史上最強の格闘技ファン
夢枕獏

おもわず獏さんまで大炎上!!

ゆめまくら・ばく■1951年神奈川県小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり執筆するなど格闘技への造詣は広く深い。99年『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。代表作に『陰陽師』など。

「よかったねぇ～（しみじみ）」で毎度おなじみ、“史上最強の格闘技ファン”獏さんが登場！　徹底した現場主義を貫く獏さんだが、今回は自宅テレビ観戦！　ミルコ電撃移籍やヌルヌル騒動で話題騒然、大晦日狂騒曲にもの申～す！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也　夢枕獏写真／平工幸雄

力道山 vs 木村政彦戦とは？　“昭和の巌流島”と言われる伝説のシュートマッチ。全日本柔道選手権４連覇の柔道家・木村が新聞紙上で「プロレスは八百長。真剣勝負なら力道山に負けない」と発言し、昭和29年12月22日に蔵前国技館で対戦が実現。試合は途中、木村の蹴りが故意に急所に当たったことに怒った力道山が一方的な攻撃で、木村を失神させて勝利。だが、試合前の「引き分けにしよう」という約束を力道山が破ったという説や、力道山の出身に関して木村が差別発言をしたという説もあり、いまも多くの謎を残している。

――獏さん！　今日は大晦日の獏さん流の感想をうかがいたいんですが、今回は『PRIDE男祭り』と『Dynamite!!』のどちらへ行かれたんでしょうか？

獏　いやぁ、大晦日は今回も自宅でテレビ観戦ですよ！　PPVで『男祭り』を観たあと、続けて録画した『Dynamite!!』を観たから、もう忙しくて大変だったねぇ……。途中で眠くなっちゃったから、翌日に持ち越しちゃいましたよ!!

――さすがの獏さんも新年に持ち越されましたか（笑）。それではまず『男祭り』の感想からお願いします！

獏　そうねぇ。今回はまったく問題がないんじゃないの？　カード的に一部、物足りなさはあったけど、結果として好試合がめじろ押しだったもんねぇ。

――文句のつけようのない大会でしたよね。

獏　もちろんノゲイラとジョシュやヒョードル、ハントもよかったけど……俺が一番よかったのは川尻達也！（ギルバート・）メレンデスに負けたけど川尻は本当によかったねぇ～（心の底からしみじみと）。あれは去年のベストファイターの一人と言ってもいいでしょう！

――そこまで大絶賛！　いま世界で一番、川尻を熱く語っているのはおそらく獏さんでしょう（笑）。

獏　でも、『PRIDE』に不安はあるよね。ミルコはUFCに行っちゃったし、ほかの選手も声がかかってるみたいだし、いったいどうなっちゃうんだろうねぇ。

――一寸先は何が起こるかわからないですね。

獏　いまのアメリカは異常なMMAバブルだから、ファイトマネーもどんどん増額してるしねぇ～。今回のミルコには相当なお金が動いたんでしょ？

――噂ではそう言われてますけど。

獏　プロなら大金を提示されたら行かないほうがおかしいよねぇ。それに『PRIDE』だって大金を積んで、選手をドンドン獲得して天下を獲ったわけだしね。……でもね、やっぱりアメリカン・マネーには勝てっこないのかねぇ！（ボヤキ気味に）。

――そんなこと言わずに（笑）。でも『PRIDE』だってラスベガス大会の回数を増やしますよ。

獏　でもUFCに比べたら圧倒的に少ないよねぇ～。それに『PRIDE』がアメリカでやる大会は年に二回くらいでいいんだよ……。

――あれ？　この前はあれほどラスベガス大会を絶賛されていたのに。

獏　いやいや。アメリカまで行くのは本当に疲れるから、新聞連載が始まっちゃった俺としては、もう一年に4回のアメリカ遠征は体力がもたないんだよぉ～（つらそうに）。

――ああ、“究極の現場主義”獏さんのご都合ですか（笑）。でも本当に『PRIDE』はどうしたらいいんでしょうね。

獏　アメリカであまり宣伝費をかけても、すぐに見返りはないだろうしねぇ。だから一番いいのは日本人選手がUFCに乗り込んでチャンピオンになっちゃうこと！

――日本人がUFCのベルトを奪え！　と。

獏　それで「ベルトがほしかったら日本に来い！」と言うわけだよ。あとは『PRIDE』の今年の目標はヒョードルだけは絶対に逃さないこと！

――ヒョードルだけは死守せよ！　と。

獏　絶対に死守！　でも……きっとどっかに行っちゃう気がするんだよなぁ（さびしそうに）。

――ハハハハ！　ヒョードル個人の思惑はともかく、周囲の意向もあるみたいで。

獏　まあ、選手としたら闘う場所はどこでもいいわけだしね。いまのアメリカでチャンピオンになれば億単位のお金が動くし、莫大な収入が約束されるわけだからなぁ。



秋山の度を超えた執念に俺の心は揺れるんだよぉ〜！

──いまや格闘技の世界も目指すのは「アメリカで一攫千金！」ですからね。

獏　俺なんかは、昔の格闘家たちの不遇な時代を知ってるから、それはそれで夢のような世界になってるよね。素晴らしいことですよ！

──それで、そろそろ『Ｄｙｎａｍｉｔｅ‼』の話題もうかがいたいんですけど。やっぱり、秋山vs桜庭〝オイル疑惑〟の話題で持ちきりなんですよね。

獏　俺は……秋山はあの試合でオイルを塗ってたと思いますよ（※このインタビューはクリーム塗布認定会見前の収録）。いくつかの状況証拠もあるし、それに柔道時代からそういった話があった選手ですからねぇ。

──獏さん的にも秋山は怪しいですか！

獏　怪しいねえ。まぁ、スポーツだったら試合の条件は公平にするべきだから、桜庭が怒るのは至極あたりまえですけどね。でも試合をスポーツじゃなくて〝勝負〟と考えると「どんな卑怯な手でも勝ちたい」というところに複雑な驚きを覚えちゃったりもするんだよ。

──たしかに秋山からそういう執念は感じますね。

獏　それに秋山は金（泰泳）ちゃんとの試合（06年8月5日『ＨＥＲＯ'Ｓ』有明コロシアム大会）で、腕ひしぎを極めながらレフェリーに「もう（金が）ギブアップしてるよ！」とアピールをしたじゃない？

──ああ、ありましたね。あのときも一部で物議を醸しましたけど。

獏　金ちゃんはまだ大丈夫だったのに、レフェリーがあわてて金ちゃんを負けにしちゃった。今回だって声は出してないけど、レフェリーを見て桜庭を殴りながら「もう動いてないじゃないか？」とアピールしてたでしょ？　そういうルールの範疇を越えたような執念とか情念……そういうモノを見ちゃうと俺の心は激しく揺れるんだよぉ！

──つまり、人間の暗黒面に引き込まれるというか……。

獏　うん。勝負に関して、「そこまでやるのか？」という部分と「正々堂々とやれよ！」という部分で俺の心が分裂しちゃうんですよ！　たしかにルールは絶対に守るべきなんだけど。

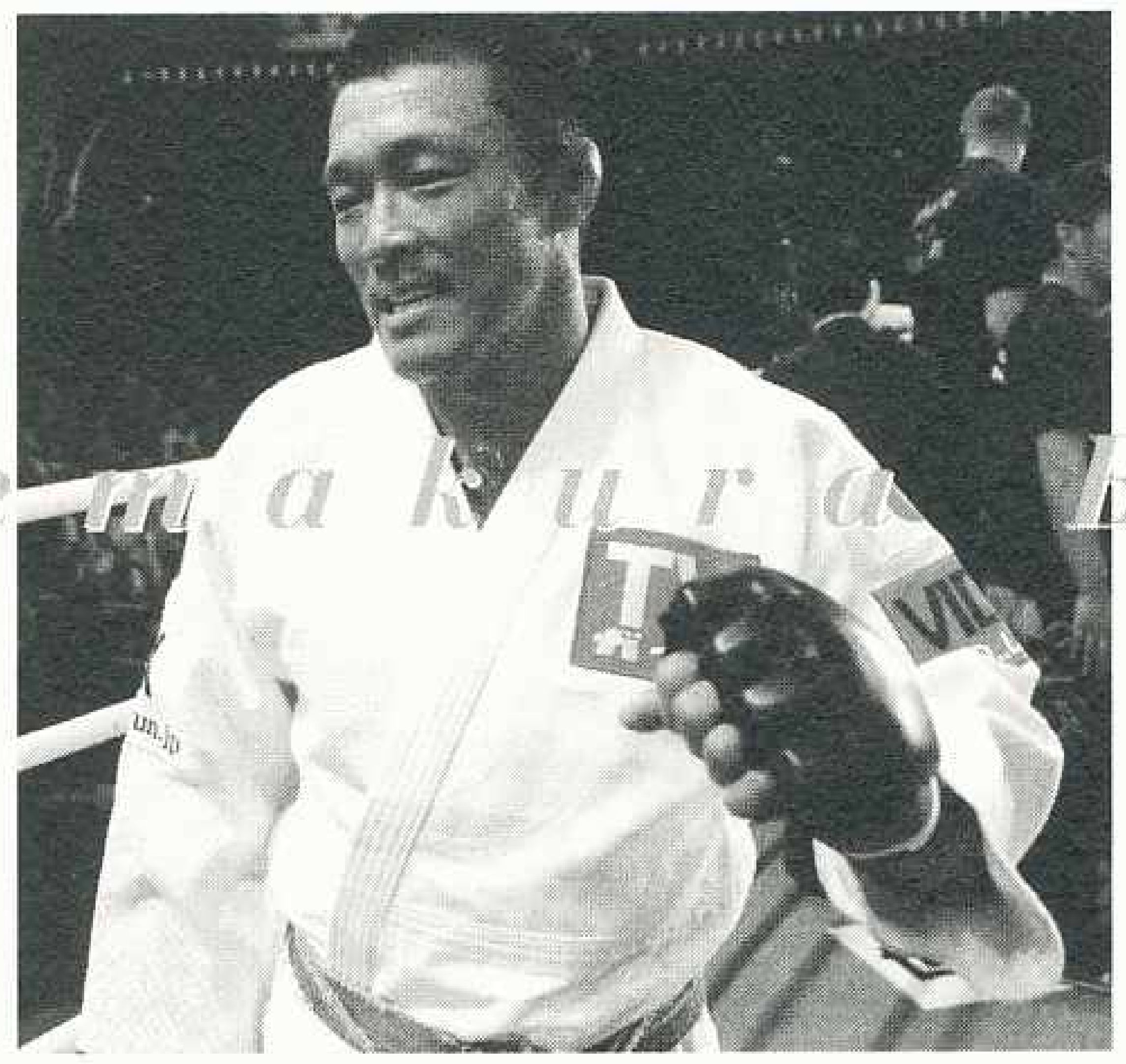
──でも、〝人間を見る〟という要素が混じると、そこで獏さんは葛藤しちゃうわけですね。

獏　で、俺たちだって秋山選手が柔道家時代に道衣をいじったらしいって批判があったことを知ってるわけだから、そういうことを事前に桜庭が知らなかったわけはないんだよ！　桜庭ももっと対策が立てられなかったのかなぁ。たとえば……手袋するとかさ。

──それは画期的ですけど（笑）。

獏　しかし、試合中にタイムを要求するわけにはいかないしね。だからあれはある意味、力道山vs木村（政彦）戦と同じなんですよぉ！

──あ、じつは〝力道山vs木村戦研究家〟である獏さんにはその試合との関連性もうかがいたかったんですよ。



獏　あの試合は普通のプロレスの試合から、力道山がいきなり真剣勝負を仕掛けてるんだけど……そのときの木村は力道山じゃなくて、やっぱりレフェリーに文句をつけるんだよね。

──まさに今回の桜庭状態ですね。

獏　そのとき木村は横にいるレフェリーに向かって、何かをしゃべってるんだよね。もちろん何を言ってるかはわかんないんだけど、そこを俺が翻訳しましょうか（笑）。

──ベストセラー作家にそんな翻訳をしてもらうなんて、恐縮です（笑）。

獏　え〜っとね、たぶんあれは「おいレフェリー、リキさんはどうしたんだ。約束が違うだろ！」ということをレフェリーに向かって言ってるんだよね。ただそんなのは一切かまわずに力道山は木村をガンガン攻めるわけ！　そこで木村も瞬間的に腹をくくって「真剣勝負でやろうじゃないか！」となったら違ったんだろうけどね。

──そういえば、小川直也が橋本真也に仕掛けた〝1・4事変〟のシュートマッチでも、橋本はレフェリーのタイガー服部を蹴ってましたよね。

獏　そうでしょう！　やっぱり「約束が違う」というときは選手はレフェリーに言うしかないんだねぇ……（深く深くうなずいて）。

──しかし、緊急自体の対応策ってないんでしょうか。

獏　そういう試合だと、プロレス創成期のジョージ・ハッケンシュミットとフランク・ゴッチでもそういう試合があったんだよね。

──フランク・ゴッチにハッケンシュミット！　とんでもないサンプルをひっぱり出してきました（笑）。

獏　その伝説の試合ではゴッチのほうが卑怯な反則をしてきたから、ハッケンシュミットは途中で「やってられない‼」と試合中にリングを降りちゃうんだよ。だから、桜庭もどうせなら場外に跳び出て「いますぐ足をチェックしろ！」とマイクアピールすればよかったんだよ。

──獏さんが知るかぎり、試合中に何か仕掛けられてきたときに、きっちりと対応できた選手って誰かいますかね？

獏　う〜ん。誰だろうなぁ。（としばし熟考して）……スタン・ハンセン‼

──〝浮沈艦〟スタン・ハンセンですか！　これまた凄い答えが出ました（笑）。

獏　その昔、全日本プロレス時代の天龍（源一郎）がハンセンを延髄斬りで試合中にノックアウトしちゃって、ハンセンが全然目覚めなくて、レフェリーが困りはてちゃったことがあったんだよ（笑）。

──ああ、ありましたね、そんな試合が。

獏　それで目覚めたあとのハンセンの暴走ぶりは本当に恐ろしかったねぇ〜。徹底的に場外乱闘で暴れまくったんだから！

──カメラマンも血相を変えて逃げ回ってましたね。

獏　あの大暴れがあったからさ、失神したこともみんな忘れちゃった。俺もくやしいからさ、もしプロレスだったら、桜庭も逆ギレしてあのくらいやっちゃっても今回は許しちゃうね。プロレスラーなんだからイスを使ったっていいし、反則したっていい。もっとメチャクチャやって、宇宙に向かっておもいきりアピールすればいいんだよ‼　桜庭、頑張れ！

──怒れ、桜庭和志‼　ということで、本日もありがとうございました！

【06年1月7日／電話取材にて収録】



"『男祭り』を煽った男"の後日談

60億分の1の煽りアーティスト 佐藤大輔

さとう・だいすけ■1974年、東京都出身。慶応義塾大学卒業後、97年にフジテレビに入社。スポーツ局にて『PRIDE』シリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』、『F1GP』などの番組を手がける。とくに『PRIDE』では試合前の選手紹介である"煽りV"の素晴らしさが評判となる。06年10月31日付けでフジテレビを退社し、独立。

「ヘイ、ジュード」ならぬ「ヘイ、柔道?」や、ついに覚醒した"ワル五味"を煽りに煽ったりと、06年の『男祭り』でもPRIDEファンを存分に楽しませてくれた"60億分の1の煽りアーティスト"佐藤大輔氏。今回は、『男祭り』の後日談、大晦日戦争について大放談!

撮影・聞き手／堀江ガンツ　試合撮影／平工幸雄　秋山撮影／乾晋也　写真協力／DSE

インタビューでは"ワル五味"モードに入る瞬間が撮れたので、ニヤニヤしちゃいました



——さて今日は"神"に再び降臨してもらって、煽りVディレクターから見た、昨年の『男祭り』総括をお願いいたします！

佐藤　僕は選手じゃないんだから、あまり大きく載せないでくださいよ。恥ずかしいっすよ（笑）。

——いやいや、たっぷりとお話をうかがいたいと思います。今回、初めて地上波放送なしの『男祭り』の煽りVを手がけられたんですけど、やっぱりいつもとは勝手が違いました？

佐藤　う〜ん。……予算がいつもより限られてるのは大変でしたね（笑）。

——実感として、そこが一番大きい（笑）。

佐藤　お金で解決できることってあるんだなってことを実感しました（笑）。そんな状況下で、いままで一緒に仕事してきたスタッフを中心に、それこそ手弁当で集まってもらって、一応は結果を残せたかな、と。

——いままでのように地上波ゴールデンのテレビ番組だったら、制作費は相当な額だったわけですよね？

佐藤　ええ。大会が決まったら、海外取材にポーンと行けましたしね。でも、今回はそういうわけにもいかないから、海外取材も行きたいところを絞って絞って決めたんです。

——そうやって厳選された取材先はどちらだったんですか？

佐藤　ジョシュとノゲイラとハントのところですね。その3カ所にコーディネーターさんに行ってもらったんです。



今回、インタビューで五味を焚きつけ、"ワル五味"の誕生にひと役買った佐藤Dだが、試合だけでなく実際に五味と石田の両者を煽ってしまう、まさしく"煽りV"が誕生した！

——あ、佐藤さんは行かれなかった？

佐藤　ええ。ボクが海外まで行ってたら間に合いませんでしたからね。そのコーディネーターさんはいままで僕らがお世話になってた凄く優秀なスタッフなんですけど、やっぱり自分で現場に行かないと見つけてこられないモノってあるんですよ。たとえば、ミルコ・クロコップの生家にあった、父親手作りのバーベルみたいなネタは、実際に現地に行って「なんだ？　これ」と興味を持ってはじめて見つけられるものだから。

Daisuke Sato

——インタビューを取ってくるコーディネーターが自主的にバーベルの撮影はしてきませんもんね（笑）。

佐藤　そうなんです。だから、自分の中で新しい発見というものがなかなかなくて、想像の枠を越えるのが難しくはありましたよね。しかも、コーディネーターに撮ってきてもらった映像を、二日ぐらいでジャッジしなくちゃいけなかったから……。だってカード発表が遅いんだもん！

——ダハハハ！　カード発表の遅れは、煽りVにもやっぱり影響するんですね。

佐藤　何人かで手分けしてなんとか仕上げたんですけど……しんどかったっすね。でもイベント自体はよかったんじゃないですか？

——大爆発とまではいきませんでしたけど、質の高いイベントでしたよね。

佐藤　それこそほぼ全試合ハズレなしだったと思うんですけど、"想定内"でもあったんですよね。だから、そんな中で観てる人たちの想像を超えてた五味vs石田と、吉田さんvsトンプソンの試合が印象に残りましたね。

——五味vs石田戦は煽りVから、すべてハマった感じでしたね。

佐藤　そうですね。まず最初のカード発表会見で石田くんが勇気をふり絞って言った一言で、五味くんにわかりやすく火がついた。

——石田の「（五味は）勝てない相手じゃない」という発言ですね。

佐藤　もうなんですか、あのときの五味くんの表情は！（笑）。

——あの時点ですでに"ワル五味"モードでしたよね（笑）。

佐藤　ワル五味でしたねぇ（笑）。僕が五味くんと石田くんに煽りV用のインタビューするときは、あらかじめ二人に「煽りVでは二人の発言を対比させます」ということを確認して、交互にインタビュー取材したんですよ。

——お互いの発言に反論してゆく構成でした。

佐藤　五味くんはあの会見直後にインタビューを撮ったんですけど、完全に"ワル五味"モードに入ってましたから（笑）。ただ、ああすることで自分を奮い立たせてるのかな？とも思いましたね。

——自分で自分を煽ってモチベーションを上げていた、と。石田選手にとっては迷惑な話ですね（笑）。

佐藤　でも逆に言えば、石田くんがこのカードを作ったということですからね。これを言った石田くんは凄いと思う。五味選手へのリスペクトもあると思うんですけど、「自分がチャレンジャーなんだから言わなきゃ」って、振り絞った言葉ですからね。

——ただ、その結果チャンピオンが巨大化して、"番長"になってしまった、と（笑）。

佐藤　ワル五味が誕生しましたよね（笑）。

——煽る側としては、狙いどおりだったんじゃないですか？

佐藤　かなりの手応えはありましたね。僕のインタビューって、じわじわやって相手の本音を引き出すんですよ。途中で怒らせないようにしながら、ちょっとだけカンに触れるようなことも混ぜ込んで（笑）。

——"煽り用"ですから、ファイターがカッと火がつく一瞬の映像が大事になってくるわけですね。

佐藤　だから今回は、五味くんに火がつく一瞬が撮れたんで、インタビューしながらニヤニヤしちゃいましたよ（笑）。ただ、こういうお互いを怒らせるような煽りVは、下手するとウソっぽくなりやすいんですけど、この二人だとウソっぽくならないんですよ。

——それは二人が本音で勝負してたからなんでしょうね。



〝ミノワマンへの改名〟の話を聞いたときは、「うわ、天才だわ！」と感激しちゃいました（笑）

Daisuke Sato

佐藤　だから、石田くんのインタビューも、強がってたり、自分の言葉じゃないところは一切使いませんでした。それから表情やしゃべり方ですよね。これは紙媒体と違って映像の強さだと思うんですけど、表情もインタビューの一部ですから。今回の五味くんも「ハ〜ッ！」とため息をついたり、「あ〜。頭にくんなぁ」とつぶやいたりっていうシーンがありましたけど、あれはじつは本人にはカメラを回してると言ってない場面だから、リアルなんです（笑）。

——そんな奥の手まで使ってましたか（笑）

佐藤　だからホントは使っちゃいけないんだけど、結果オーライですよね。五味くんには試合後「俺、ヒールかよぉ！」って言われちゃいましたけど、言ってる顔が満面の笑みですから。そっちのほうがおいしいことを自分でわかってるんですよね。

——それはプロとして大きな成長ですね。

佐藤　だからヒールでありながらベビーフェイスでもある。それが五味くんの魅力ですよね。何かを背負って負けられない五味もいいけど、ああいう傲慢なぐらい強い五味隆典も凄く魅力的ですね。

——日本人対決には持ってこいの選手ですよねぇ。そのほか、今回の煽りVを作ってて印象深い人はいましたか？

佐藤　あとは……やっぱりミノワマンでしょうか（笑）。

——ミノワマン、素晴らしかったですね（笑）。

佐藤　じつは今回、美濃輪選手のVを作るにあたって、DSEの広報を通じて「今回はどんな特訓をするんですか？」なんて聞いてたんですよ。そしたら「今回は何もやりたくない」「取材も受けたくない」って返事が返ってきたんで、「これは嫌われちゃったかな。いままでの出し方がよくなかったのかな」と思ってたんです。

——いままであまりにも遊びすぎちゃったかな、と（笑）。

佐藤　そしたら、そうじゃなくて「じつは改名を考えてる」と言われたんで、「うわ、こいつは天才だ！」と感激しちゃって（笑）。

——ダハハハ！　煽りVで遊びすぎどころか、それを思いきり超えちゃってた、と（笑）。

佐藤　あれで田村潔司を完全に食っちゃいましたからね。

——さすがの田村もミノワマンを出されたら仕方ないですけどね（笑）。

佐藤　あのコスチュームのわけのわからなさ！　とくにあのサングラスね（笑）。

——まったく意味がわかりませんよね（笑）。

佐藤　しかも、着物の背中に〝新人類〟って書いてありましたから（笑）。新人類なんていう言葉は、いまの時代、一番使っちゃいけない部類の死語だと思うんですけど、それがミノワマンと合わさると、あれだけ光り輝くんですからね。あの言語センスは天才ですよ！

——まさしく〝ヘブン〟の域に到達してましたよね（笑）。

佐藤　当初は田村潔司の「このタイミングで『PRIDE』に出てくるのか？」というネタを取り上げようと思ってたんですが、そういう世界を越えちゃいましたからね（笑）。

——田村潔司はミノワマンに勝ったあと、吉田戦をアピールしてましたけど、これはストーリー的に続きますかね？

佐藤　ボク自身は観たいですけど、もう少し



もしも田村vs秋山戦が実現したら、その煽りVはぜひ作りたいですよ!!

意味づけは必要でしょうね。

——田村が勝った日に、吉田選手がトンプソンに負けたり、桜庭vs秋山戦であんなことがあったりと、何か一つの線でつなげるような気もするんですけどね。

佐藤　たしかに吉田、桜庭、田村……この昭和44年組はいいですよねぇ。コスチュームの色も個性もバラバラですし。この3人にはまたどこかでめぐり会ってほしいですね。そういえば、田村さんは『kamipro』のインタビューで、秋山vs桜庭戦について発言してるんでしょう？

——ここぞとばかりにしゃべってます（笑）。

佐藤　だから、ボクがこんなことを言うのもなんですけど、田村さんは一回『HERO'S』に出たらおもしろいですよね。それか秋山さんが『PRIDE』に来て、このタイミングで秋山vs田村戦が実現したら凄く観たいもんなぁ！

——TBSはあまりやりたがらなそうなカードですけどね。

佐藤　でも、谷川さんはきっとやりたいハズですよ。

——ボクは田村vs秋山を大輔さんの煽りVで観てみたいですね（笑）。

佐藤　それはボクもやりたいですよ！　秋山さんのVTRは本当に作ってみたい。僕が作ったら、あの秋山さんのキャラを、いい意味でも悪い意味でも、引き立てるような煽りVを作れる自信ありますから。

——いい意味でも悪い意味でも（笑）。

佐藤　ボクは秋山さんって○○さんと同じベクトルをビンビンに感じますからね（笑）。

——それは多くの人が感じてるでしょうね（笑）。桜庭vs秋山戦はご覧になりました？（このインタビューはクリーム塗布認定会見の前の収録）。

佐藤　『男祭り』が終わったあと、さいたまスーパーアリーナのテレビで観ました。桜庭さんが「すべるよ！」と訴えてましたよね。ボクには何があったのかわかりませんけど、サクさんのあの姿を観たら、やるせないし、悔しいし、哀しいですね。あと僕が思ったのは、「桜庭さんの試合は『HERO'S』だとこういう空気感になっちゃうんだ」ということが凄く切なかったことですね。

——何か桜庭さんの入場テーマの聞こえ方からして切ないですよね。

佐藤　そうなんですよ！　あの入場テーマはいい時代の桜庭さんとか、負けたときの桜庭さんとか、観てる側の記憶や感情がごちゃまぜになって聞いただけで泣けてくる曲なのに、『HERO'S』では、そういう歴史を一切感じさせないような聞こえ方なんですよね。

——ただ単純に、曲が鳴ってるって感じですよね。

佐藤　それに対して、秋山さんはあのスケールの大きな曲を一切の迷いなく使ってるところが凄いですよね（笑）。自我の強さが身体からほとばしっているというか。○○イズムというか（笑）。それでヌルヌルしてるわけですもんね？

——すっごいすべるらしいです（笑）。

佐藤　これが何か塗っていて、桜庭さんがあんな目に遭ったのなら、ホントに許せないですよ！　谷川さんもしっかり処分してほしい。でも、もし何も塗ってなかったとしたら、秋山さんが気の毒ですよね。何も塗ってないのにヌルヌルして、すっごいすべるわけでしょ？　日常生活は大変だと思いますよ。

——ちょっと汗をかいただけで、すごいすべるわけですもんね。もし塗ってないんだとしたら。

佐藤　だからホントに塗ってなくてすべるんだとしたら、格闘技的にはすべる体質自体が武器になるわけですよ。ホイラー・グレイシーとかの関節がダブルジョイントで、関節技が決まりにくいのと同じことですからね。

——たしかに特異体質という意味では同じですよね（笑）。

佐藤　だったら、それは煽りVにも加わってくるわけですよ。「この男、なにしろすべる！」とか（笑）。

——ダハハハ！「このすべる男を極められるヤツはいるのか？」とか（笑）。

佐藤　「すべれんのか！」みたいにね（笑）。幻想が高まりますよね。ヒクソンみたいに、ヨガのポーズの撮影をしたいですよ。そして、対戦相手でもヌルヌルを克服して極める技術を持った選手というのは現われると思うから、もしかしたら技術の向上にもなるかもしれない（笑）。

——「すべらないグローブ」とかも作られるかもしれないですよね。次に桜庭さんがやるときは、すべらないようにダイバーのような全身ラバースーツで現われたりとか（笑）。

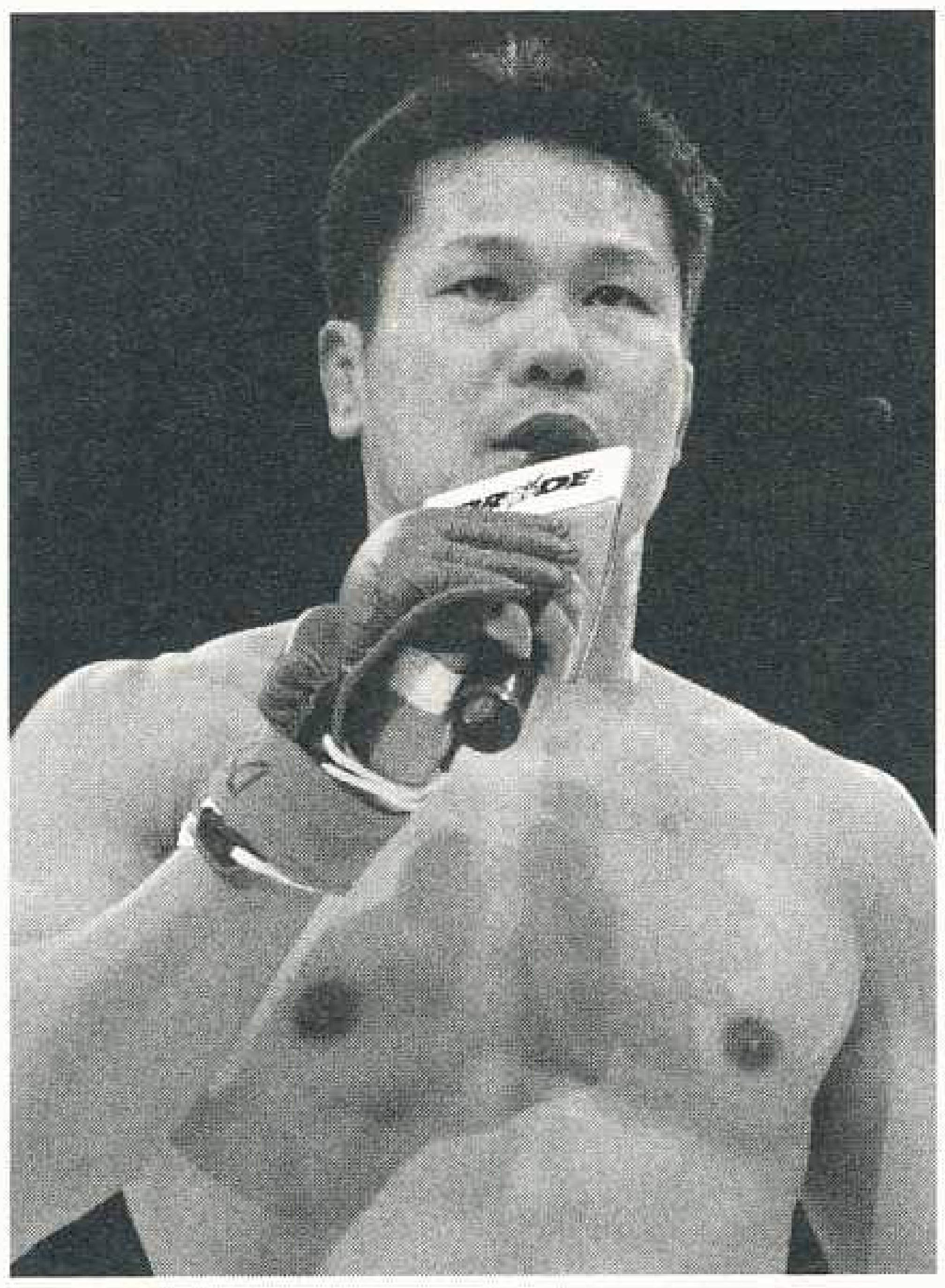
佐藤　そう。全身ゴムでね（笑）。ま、冗談はともかく、こういう話題が世間を席巻してる時点でやっぱり『Dynamite!!』は恐るべしですよ。

——『男祭り』は本当にいい大会で、名勝負もたくさんあったんですけど……年が明けたら、みんなヌルヌルの話しかしてないんですよね（笑）。

佐藤　紅白歌合戦も、終わってみればさだまさしさんやSMAPの話じゃなくて、「なんなんだ！　あのDJ OZMAってヤツは!!」って話で持ちきりですから（笑）。イベントにはそういったワイドショー的が要素は少しは必要なのかなぁ、と思っちゃいますね。

——それこそ、いい意味でも悪い意味でも。その部分は今後の課題として一緒に考えていきましょう！　今日はどうもありがとうございました。

【06年1月10日／佐藤大輔氏事務所で収録】



かつて田村vs吉田戦の際、「Uを背負ってるんですよね（ニヤニヤ）」（吉田）、「柔道は柔道ですから」（田村）と、相容れない生き様を浮き彫りにする秀逸な煽りVを作成した佐藤D。田村vs秋山という超クセ者同士の一戦なら、煽りVだけでも見たい！

“平成の井上番”が、いま振り返る
Ｉ編集長・井上義啓さんとの美しき思い出

嵐山哀歌（エレジー）回想記



我らが活字プロレスの父、“Ｉ編集長”こと元『週刊ファイト』編集長、井上義啓さんが、昨年12月13日、胃がんで帰らぬ人となった。享年72。本誌では長寿連載『喫茶店トーク・ラウド』で、毎月毎月、独創的すぎるＩ提言を語り続けてくれたＩ編集長。その知られざる素顔を、本誌“初代・井上番”として、数えきれぬほどトークしてきた原タコヤキ君が、感謝の気持ちをこめて書かせていただきます。

文／原タコヤキ君（初代『紙プロ』井上番）

クリスマスの夜、カップルだらけの交差点で井上さんは「ビンスは猪木を抹殺するためにバックランドを送り込んだんだ」と叫んでいた

「ご無沙汰してます、井上さん！」

ろくに数珠や香典も持たず、井上義啓さんの終の棲家となった、大阪市内の姪御さんのお宅を訪れたのは12月26日。亡くなられてから約二週間後だ。井上さんの訃報を聞いたのは5日前の21日。元『週刊ファイト』編集長の井上譲二さんからの電話だった。井上譲二さんからの着信というだけで、何があったのか、すぐにピンと来た。

「とにかくこのニュースを、携帯サイトでもネットでも、原さんのルートでたくさんの人に知らせてください」

すぐに『kamipro』編集部に連絡して、携帯サイト『kamipro Hand』でアップしてもらったり、自分のブログに書いたりした。そして、仕事で大阪出張が入ったので、スケジュールを調整して、井上さんの遺影に手を合わせることができたというわけだ。

姪御さんは、

「業界の方で一番最初に来てくださったのは原さんですよ」

とおっしゃった。

ボクが井上さんと出会ったきっかけは、当然、『紙のプロレス』だ。もう12年も前のことになるが、ボクが編集者として最初に担当したのは、井上さんの連載小説『嵐山哀歌』（あらしやま・えれじー）だった。

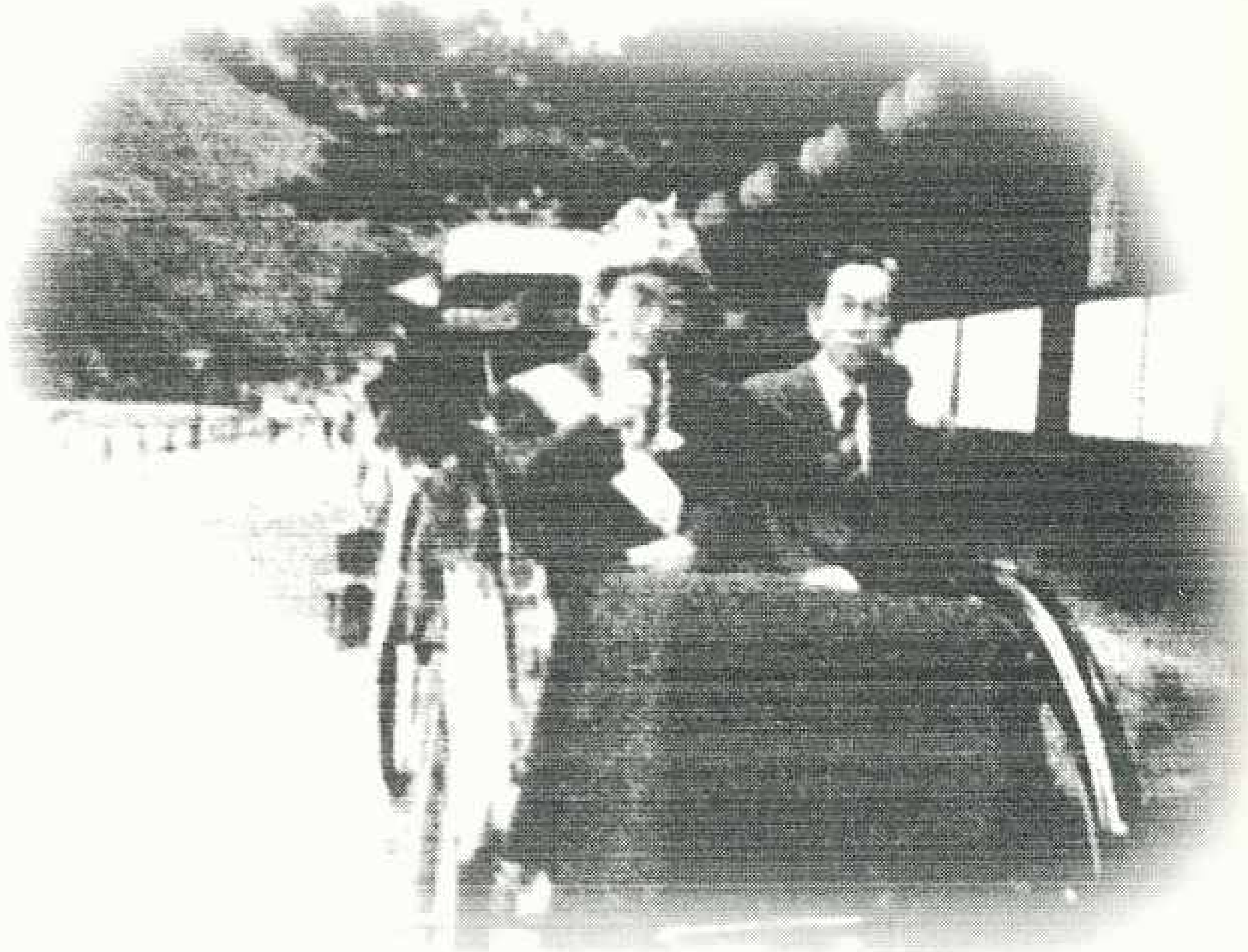
学生の頃から、『週刊ファイト』を愛読していたボクだが、井上チルドレンというにはちょっと若いかもしれない（今年で37歳です）。当時、『週刊プロレス』編集長だったターザン山本さんに会ったときはとても感激したものだが（いまは眉一つ動かしません）、井上さんの担当になったといったって、べつになんの感慨もなかった。しかも中身は小説。

ボクのほうから内容についてどうこう言うわけもなく、送られてきた原稿に目を通し、イラストレーターさんに挿絵を発注するだけ。しかも中身はゴリゴリの井上文体。

「読みにくいなあ、オモロないなあ」

というのが正直な感想だった。

そんな折、『紙のプロレス』では、編集部内でクーデターが起こったという、気の狂ったアングルを設定し、ボクが編集長で、



吉田豪さんが副編集長の『紙のプロレスインターナショナル』をリリースした。ボクがたまに"元ダミー編集長"とクレジットされるのは、そういうことがあったからだ。それで新編集長挨拶という企画が持ち上がり、嵐山で井上さんと写真を撮るという、ただそれだけのためにカメラマンを連れて京都まで飛んだ。

実際にお会いした井上さんは、思ったよりも小柄で、身体中からおじいちゃんの匂いと同時に緊張感もまき散らしていた（そのとき感じた緊張感の正体は、のちに"殺し"と判明）。基本的に写真を数カット撮ればそれでおしまいという簡単な取材なのだが、写真を撮っているときも撮っていないときも、ひたすらプロレスの話をし続ける井上さんに大きなショックを受けた。

「これが噂の喫茶店トークか！」

と思ったわけじゃあございません。

「『ファイト』で知っていた喫茶店トークですら生ぬるい！」

というのがボクの感想だったのです。

取材は、そこらへんをウロウロしていた舞妓さんと井上さんの3ショットを押さえて終了。会社に戻って柳沢社長（当時）や山口会長に写真を見せたところ、椅子から崩れ落ち、

「井上さんになんてことしやがる！」

と一喝されたが、その目は明らかに、

「でかした！」

と書かれてあった。"平成の井上番"原タコヤキ君誕生の瞬間である。

その後、井上さんとボクは舞台をテレビに移した。『ファイティングTVサムライ！』（当時）の開局の目玉の一つに、『ワールドプロレスリング』の再放送というのがあったのだが、放送尺の埋め合わせのため、井上さんとボクが、昔の新日本について対談するという、これまたよくわからないコーナーがスタートしたのだ。

対談形式といっても、結局は井上さんの一人語り。まだ、後年の井上さんのキャラクターも完全には確立されていなかったので、

「こんなん、誰か観てるんかいな」

と思っていたのだが、のちに『紙プロ』編集部に入ってきたジャイ子が、

「タコ兄を観て、『あ、TVスターだ！』と思って感動したよ！」

と言っていたので、やはりまともな人は観ていなかったようだ。

毎月、東京で何本分か溜め録りしていたのだが、あるとき、クリスマスイヴの夜に収録があった。本番を終え、池袋のスタジオを出て井上さんと二人で駅に歩いていたのだが、カップルだらけの交差点で、

「あのとき、ビンス・マクマホンは猪木を本気で抹殺するために、秘蔵っ子のボブ・バックランドを送り込んだんだよ！」

と興奮気味に叫んでいたことはいまでも忘れられない。周りのカップルたちのあからさまに不審な眼差し……。これまでクリスマスでろくな思い出のないボクだけに、いまでもクリスマスといえばあの夜を思い出す。若干のトラウマだ。

そのテレビ版『喫茶店トーク』が終わると、イノタココンビ（勝手に命名）は『紙のプロレスRADICAL』（現『kamipro』）へと電撃復帰を果たした。

ではなぜ、この"牙を剥いたカムバックサーモン"となった我々が、再び『紙のプロレス』で対談を続けるようになったのか。このコーナーの初代編集者、スモーノブにたったいま確認の電話を入れたところ、

「あ、タコにいひゃんれすかぁ？　ボク、酔っ払ってま〜しゅ！」

という返答だった。要するに、編集会議

で適当に出てきた企画なのだろう。
ちょうどその頃、ボクは東京を離れ、大阪に戻っていたので、井上さんとは月に一回、実際に喫茶店で取材をしていた。
井上さんは、こんな写真撮影のないコーナーであっても、取材時にはいつもパリッとした格好をしていらした。ボクのようなペーペーが相手であっても、だ。
喫茶店トークと一口に言うが、それはある意味、ゴールのないマラソンだ。いや、正確に言うと、我々を無理矢理ゴールに導いてくれるのはいつも、
「すいません、もう閉店ですけど」
という、店員さんの無愛想な一言だけだった。
何時間しゃべっても井上さんは物足りなさ気で、それから道端で話し込むこともしばしばだった。
さすがにこれだけ井上さんと会っていると、やはりボクなりに気づくことはいろいろあった。井上さんは興奮するとテーブルを叩くことや、「言うちゃ悪いけど」が口癖であることなどだ。
じつは、『週刊ファイト』時代の井上さんは、すべてが井上ワールドで、井上さんのパブリックイメージも、井上さんが作り出したものだ。ご自身が昭和の文士のような佇まいに憧れを持っておられたのだろう、とっつきにくい感じはあったたし、それは文体にも表われていた。
だから、ちょっとした井上さんのクセをフィーチャーすることで、井上さんのイメージは１８０度変わったように思う。なんというか、ボクから見た井上さんのほうが、実像に近いと思っていたからだ。
読者にもかなり評判のよかったこのコーナーは、堀江ガンツに引き継がれ、さらにパワーアップし、長寿企画となった。

井上番が終わってからも、何度か井上さんにお会いする機会はあった。いつ何時でも井上さんは井上さんで、初めてお会いしてから10年がすぎようというのに、まったく変わらずお元気そうだった。それが二年ほど前だったか体調を崩されたということで、ボクは勤務先のすぐ近くに入院されている井上さんのお見舞いにうかがおうとしたのだが、
「絶対に来ちゃイカンよ！（ドンッ）」
と電話で一喝された。自分の弱っている姿を見せたくないと思われたようだ。いまにしてみても、非常に井上さんらしいセリフだ。
その後、井上さんとはターザン山本さん、吉田豪さんのトークイベント『格闘二人祭』の大阪出張版でご一緒した。その頃は抗がん剤の副作用で髪の毛が抜けていたのだろう、珍しく帽子を被っていらっしゃった。
ボクは心配だった。井上さんの体調ももちろんだが、活字によるデフォルメのない、ナマの井上さんのトークが、はたしてお客さんに伝わるのだろうか。しかし、それは杞憂だった。井上さんのキャラクターは充分すぎるほど認知されており、いいポイントでみんな爆笑していたし、井上さんが鋭い一言を吐けば、みんな感嘆していた。井上義啓は、井上さんだけのものではなく、いつの間にかみんなの井上さんになっていたのだ。



「井上義啓」は井上さんだけのものではなく いつの間にか、みんなの井上さんになっていた

井上さんと最後にお会いしたのは、確かガンツと3人で嵐山に取材に行ったときだったと思う。ある日、一枚のファックスが送られてきた。その顛末は、先日リリースされた『ｋａｍｉｐｒｏ Ｓｐｅｃｉａｌ』に詳しいので省くが、まさかあの井上さんのほうからボクに会いたいと言ってくるとは、驚きを通り越して、
「井上さんでも寂しいと思うことがあるのかなあ」
と、そんなふうに思った。
「たしか、原さんとは嵐山に行かれましたよねえ。なんかそれがうれしかったみたいで、帰ってからも家でもその話をしていたんですよ。叔父が仕事の話をするなんて珍しいから驚きました」
と姪御さんはおっしゃった。何がそんなに楽しかったのか、遺影の井上さんも答えてはくれない。
井上さんは、この質素なお部屋で晩年を暮らしていらしたのか。生涯独身を貫き、決して業界内の政治に首を突っ込むことをせず、ただただプロレスのことを想い、憂い、怒り、そして愛した井上さんらしいお部屋だ。
何冊かのプロレス雑誌が積まれていた。ちゃんと『Ｋａｍｉｐｒｏ』もあった。姪御さんとは二時間ほどお話しした。初めて聞く井上さん話に、ボクは興味深々だったが、それはまた別の機会にお伝えするとしよう。それにしても姪御さんもなかなかの語り部だ。二時間しゃべっていても疲れを見せない。そのへんに井上義啓ゲノムを感じる。
次にここを訪れるのはいつになるのだろう。
「うちが井上さんの単行本を出さないでどうするんですか！」
と、新編集長のジャン斉藤は燃えているので、きっと近いうちに井上さんにお会いできるはずだ。
ズバリ言って井上さんの本が商売になるとは思えないが、斉藤のこういうやみくもな熱気は、やはりボクらが井上チルドレンであるということを立派に証明している。
あ、今度来るときはあれを持ってこないと。井上さんの遺影の横に猪木さんの写真がないなんて、そんなバカなことがあっちゃいけない。

kamipro books

プロレス狂の詩(うた)

夕焼地獄流離篇(ゆうやけじごくさすらいへん)

プロレス狂がシビれる
凄玉たちの壮絶インタビュー集!


全身狂気の死神バウンサー
ジェラルド・ゴルドー

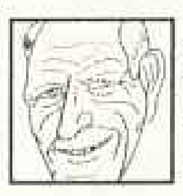

極ワルオヤジのポン刀人生
後藤達俊


女子プロ界の生き証人
小畑千代

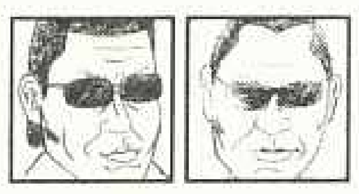

生前ラストインタビュー
中島らも


格闘神秘とは何か?
大槻ケンヂ

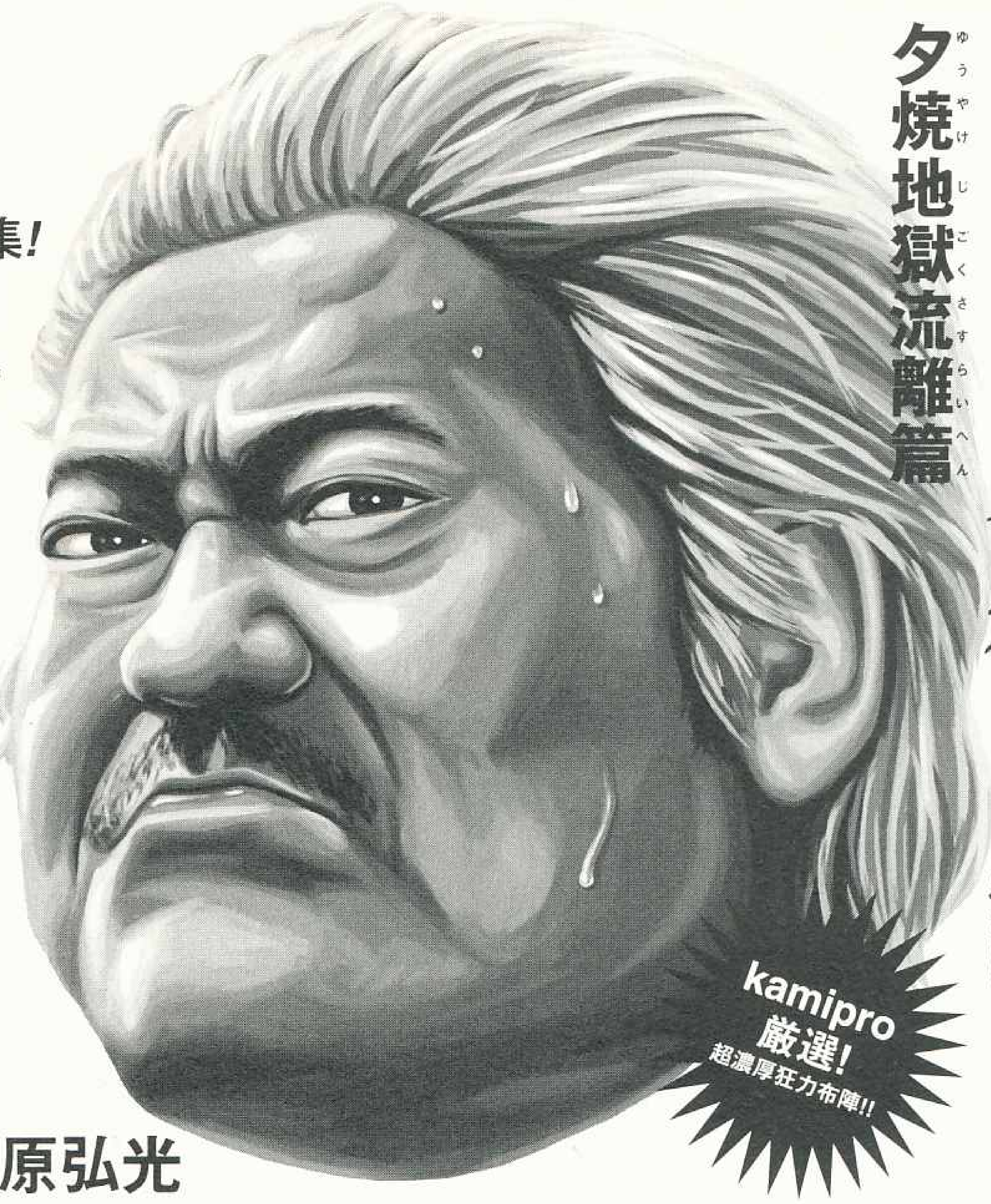

"フルメタル極道男"の不良人生
シーザー武志


史上最強のシューター
ダニー・ホッジ


UWFインターナショナル伝説
高山善廣×金原弘光


映画と空手のバイオレンス! ステゴロ師弟対談
真樹日佐夫×三池崇史


MJ-12も注目!? 世にも不思議な超常現象頂上討論
ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎



全国書店にてしっかり目を見て絶賛発売中!!
B6変型判 304ページ 定価=1890円(本体1800円+税)

"プロレス狂"の胸躍る詩が聞こえてくる――!!
プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、プロレス&格闘技専門誌『kamipro』誌上にて掲載されてきた、100本以上にも及ぶ濃厚1万字突破インタビュー。その中から特別厳選収録! 圧倒的な現実をタフに生き抜き、憧憬の的となる圧倒的な幻想をまとった凄玉たちの金言の数々をとことん読み込め!

偉大な活字プロレスの父に、合掌――

我らが"I編集長"追悼本

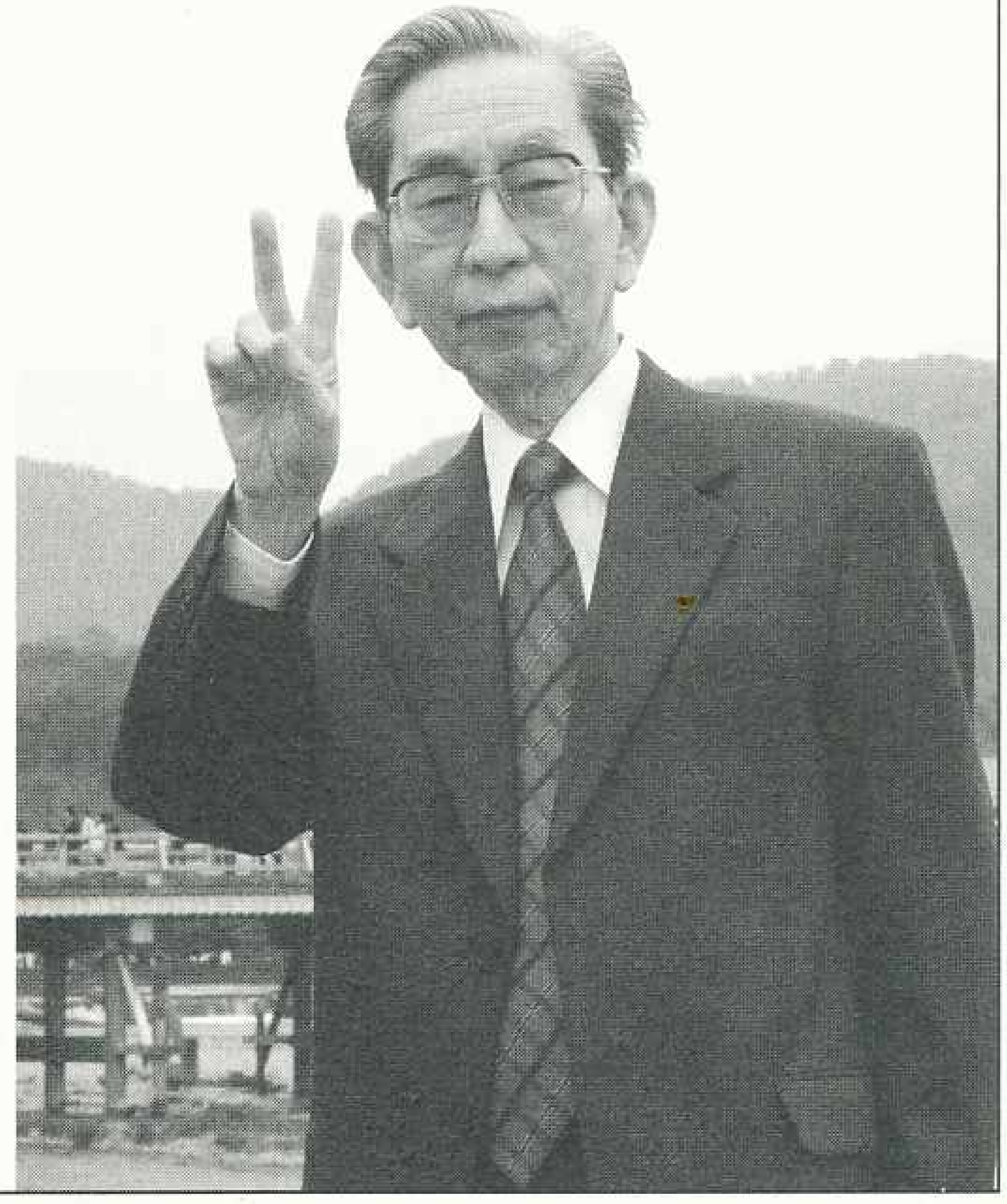
『井上プロレス』

(仮題)

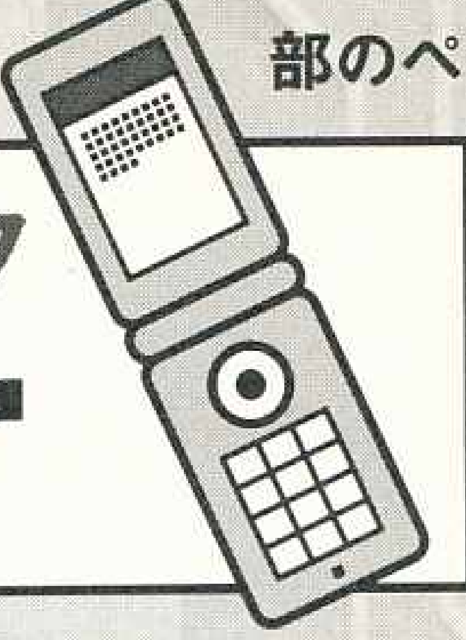
言うちゃ悪いけど
絶賛制作中ですよ!(ドンッ)

2月中旬発売予定!!

マット界の哲人、天国へ旅立つ



enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先]http://www.enterbrain.co.jp/



エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！

井上義啓さん、本当にありがとうございました!!



携帯サイト「kamipro Hand」では、2003年1月のサイトスタート時より、
井上義啓さんに月曜コラムを毎週連載いただいていました。
井上さんに支えていただいたことを深く感謝し、
謹んで御冥福をお祈りさせていただきます。
サイト上では「言うちゃ悪いけど、電話が来てますよ!!」
「プロ格者からメールが来てますよ!!」……井上義啓さんのボイスを配信中!!
1月はコラムのバックナンバーもリバイバル連載しています！

井上さんが幻の「WJ旗揚げ戦」を激筆!!

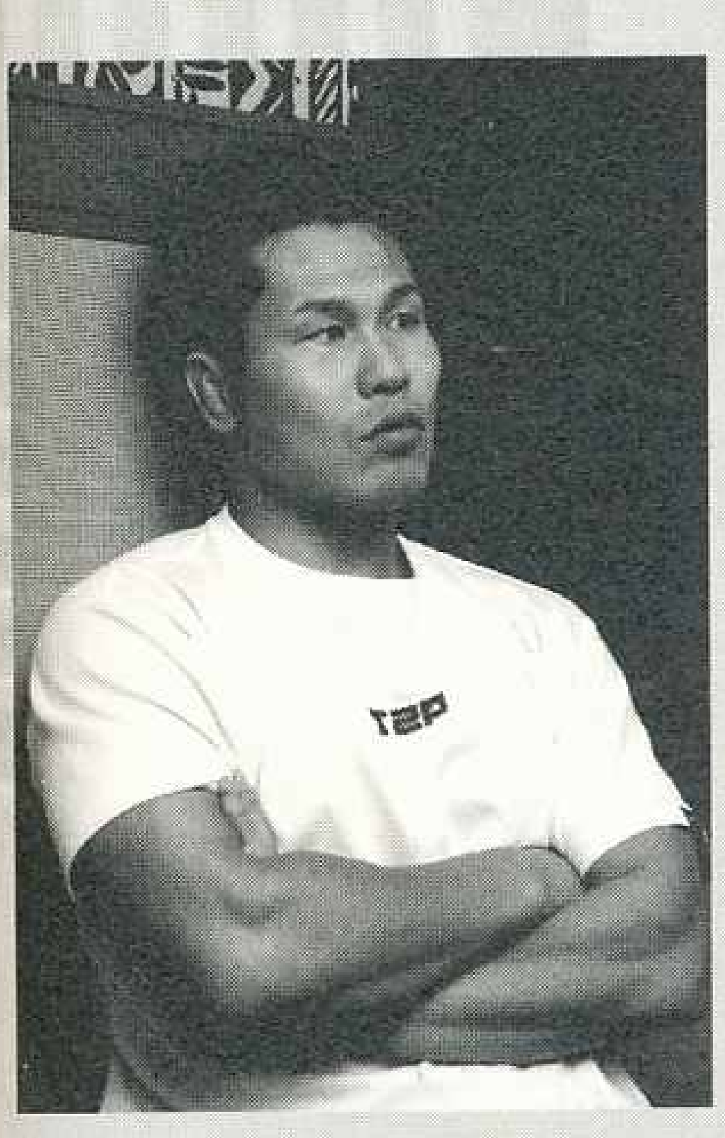
(2003年3月3日更新分より再録、抜粋)

ＷＪプロレス旗揚げマッチ（3月1日）はプロ格の実験場。ただし、『格闘技の匂いのするプロレス』であって、『プロレスの匂いを散りばめた総合格闘技』ではない。ひどく“ごちゃ混ぜ”で、ロード・ウォーリアーズvsザ・クラッシャーズといった、どう見てもハードコアとは感じられない純然たるエンタメプロレスもあったが、長州vs天龍、谷津vs安生にしろ、健想vs大森、馳健vsフライ＆ボビッシュにしろ、長州の目指すハードな方向がのぞいていて、“プロレスのド真ん中”なるウタイ文句が少しは分かったような気がした。

しかし、期待したバード（ＶＴ）に近いガチプロ（ガチンコの闘い）は見られず、目指した方向は間違いないのだが、全員が研修不足といった感はぬぐえない。猪木はボロクソに言うと思うのだが、3.1横アリは旗揚げというご祝儀マッチなのだから、一足飛びに『格闘技』の充足を望んでも、それは“ないものねだり”に過ぎない。

ファンが期待しているビッグマッチなのだから、それらしい目玉商品はいくつか揃えなければならないが、レスラーの構成上、やはり無理な点が多く、私の目には、仕方がないとは言え、不要な要素がありすぎると映った。それを端的に表したのが馳健vsフライ組で、“魅せ場”は盛り込まないといけないと考えたのかもしれないが、ひどくプロレス的で、馳のぶん回しなどはWJには不向きと映った。健想vs大森にしても新日の健想とノアの大森の合体で、包装紙が変わっただけとの印象。……

※続きはkamipro Hand・月曜更新の「I編集長の喫茶店トーク」でチェック！



頑固者にお悩み相談!

「田村潔司のあいのり人生相談」は隔週土曜日更新!!

――「田村潔司のあいのり人生相談」第9回はじまりです。早速ですが今回一発目は……「田村さんの硬派かつ慎重なところを尊敬している、えざきと申します。自分は描き物仕事でプロデビューしたものの、ここ1年仕事がほとんどない状態です。自分の嫌いなジャンルに歩み寄れば仕事はあるかもしれませんが、安易な選択な気がします。ここは頑固を貫くべきでしょうか?」という相談です。

田村「う～～ん、どうなんだろ?……（しばし熟考）。まず、年齢的な面もあると思うけど、1年間仕事がないってことはどうなのかって自分の中で考えてみて……わかりやすくタレントさんでいうと、グラビアやってデパートの屋上でイベントやったりとか、仮にセミヌードをやったりとかしなきゃいけないことってあるじゃない？」

――駆け出しのタレント時代には、やりたくない仕事もこなさなきゃいけないことが多いでしょうからね。

田村「飯島愛がわかりやすいかな?」

――あ～、飯島愛は最初はAV女優からのスタートですからね。

田村「“飯島愛”っていう地位を確立させるために彼女はいろんなことをやってきたわけでしょ。飯島愛ってポ～ンって出てきたわけじゃないから。汚れた仕事とか嫌な仕事をやりながらも、苦しい思いもしてやってきた人だから。この人も、まずは人に見てもらうってことが第一優先だと思うから」

――タレントさんも、描き物仕事も人に評価されなきゃ意味はないですからね。

田村「そうでしょ。プロとして食っていきたいんであれば、どこの世界でもいきなりお金って入ってこないんで。まずは人に知ってもらって、時間をかけて、仕事をもら えるようにしなきゃいけないよね。その仕事量が増えてきたら、そっから自分で選択してやっていくっていうのが一番いいと思うよ」

――田村さんにたとえると、デビューしたての頃に新日本との対抗戦云々ってあったら、それは出ざるを得なかったというか。ある程度、キャリアと実績をつけたときに、そういう話があったので、『NO』と言えた部分もあったと思うんですよ。

田村「まあ、俺の場合は、あのときはやめる覚悟でやってたし、リスクが多かったからこそリターンが多かったって部分もあるんで」

……続きはHandをチェキ！　お悩みも絶賛受付中です！

電話やぞカス野郎～!!

1月更新のボイスは“brother”YASSHIだ!!



いまをときめくブードゥーマーダーズのおしゃべりマシーン、“brother”YASSHIがHandに登場!!　電話もメールも、起きる時間も!　全部ブラザーのご機嫌ちゃんなボイスでお知らせ!!　1月は中川画伯イラストも大量に更新、こちらも大好評!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

「kamipro」で一発検索!!

DoCoMo	iMenu	メニュー/検索	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
Soft bank	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技
WILLCOM	趣味&スポーツ	スポーツ	総合	
	エンターティメント	TV・メディア・本	本	

kamipro Hand

［QRコード］

「kamipro Hand」は2月リニューアル予定！　コラムコーナーに新たな書き手が登場します!!

これを読めば親子の断絶問題もドラゴンストップ!!
"娘のBFクラッシャー"ドラゴンのダークサイドが明らかに!!



新日本プロレス凸凹大学校SPECIAL マット界最強のおしどり夫婦編

藤波♥夫妻

藤波辰爾
藤波伽織





まつした・みわ■『PRIDE』やダン・ヘンに豊富な知識を誇るも、プロレスは超初心者。だが新日本道場に一日入門! などその動向は業界に波紋を投げかけている新人編集者。

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして活動中。新日系レスラーの信頼度は絶大! でも夏目ナナにはメロメロな凸凹大学校特別講師。

「ド〜ラゴン♪ ド〜ラゴン♪」とドラゴン体操のテーマを口ずさみつつ、凸凹大学校がやってきた! ドラゴン邸探索、ドラゴン基礎講座のあとは、マット界最強のおしどり夫婦に、そのなれそめからドラゴンファミリーの真実までを突撃インタビュー!

聞き手／3年G組 金沢先生 生徒／プロレス初心者 松下ミワ
撮影／平工幸雄 写真協力／藤波伽織 構成／真下義之

——藤波さん！　今回はご夫婦のお話をじっくりうかがいたいと思います。

伽織夫人（以下、伽織）　え？　わたしたちの話ですか？（笑）。

——はい。プロレス界でも有名な〝おしどり夫婦〟のお二人に夫婦円満の秘訣をたっぷりと聞かせていただこうかな、と。だからミワも藤波さんのお話をよ〜く聞いて、人生の勉強をしなさい！

松下ミワ（以下、ミワ）　はい、わかりました！（永田さんばりの敬礼ポーズで）。

藤波　フフフ。なんだか、おもしろそうだねぇ。

伽織　よろしくお願いします（笑）。

——こちらこそ、よろしくお願いします！　それでまずは、最初にお二人が出会ったきっかけから教えてください。

藤波　はい。僕とチャボ・ゲレロとの試合（78年10月20日、大阪府寝屋川市民体育館）の大流血戦のあとに会ったのが最初ですかね。

——伽織さんは大阪にお住まいだったんですよね。

藤波　でも、彼女はプロレスファンじゃなかったんだよね。金曜日の夜8時には、プロレスじゃなくて刑事ドラマの『太陽にほえろ！』（日本テレビ系）を観ていたほうだから。

伽織　あのドラマはけっこう熱中して観ていたんですよ（微笑）。

藤波　ちょうど『ワールドプロレスリング』と『太陽にほえろ！』が視聴率を争っていた頃だよねぇ……（懐かしそうに）。

伽織　ウチは金曜日の8時になると『太陽にほえろ！』派と『ワールドプロレスリング』派に分かれてたんですね（笑）。それに、わたしはどちらかというとプロレスは嫌いなほうだったんです。

——どうしてプロレスが嫌いだったんですか？

伽織　やっぱり流血が怖かったし、昔はイカついタイプのレスラーが多かったから、プロレスに興味がなかったんです。そんなときに、凱旋帰国してきた主人を、プロレスが大好きな弟からムリヤリ見せられたんです。

——そのときは、どんな第一印象を持ちましたか？

伽織　やっぱり、いままでのレスラーとはイメージが違いましたね！

藤波　フフフ！（ニコニコとドラゴンスマイル）。

伽織　彼は七三分けみたいな髪型だったし、ルックスが凄く新鮮だったんですよね。そこでファンになったんですけど、すべては弟の差し金だったんです（笑）。

——弟さんの差し金ですか？

伽織　ええ。ウチの弟はもともとプロレスラー志望だったんです。でも学生時代にバスケットボールのケガでムチ打ち症になって、身長が止まっちゃって。それでプロレスラーをあきらめたんですけど。でも、プロレスは大好きだったので、「夢はお姉ちゃんに託す！」ってことで、わたしと主人をくっつけるために努力してたんですよ。

——はぁ〜。お姉ちゃんを女子プロレスラーにするんじゃなく、〝プロレスラーのお嫁さんにする〟というのは新しい夢の託し方ですね。

伽織　ええ。そこから弟の洗脳が始まったんです（笑）。藤波辰巳（当時）の趣味や嗜好から、なんでも分析をしてましたから。それでわたしもプロレスに対するイメージが変わっちゃって、もう毎日、『大阪スポーツ』を買い出すんです（笑）。『月刊プロレス』や『月刊ゴング』や『週刊ファイト』まで買うようになりましたから。

——一気にプロレスにハマってしまったわけですね（笑）。

伽織　ええ。そしてプロレス仲間も作ろうと思って、「凄くカッコいい人が出てきた！」って周りの友だちに勧めたりもしましたね。

藤波　……そういう話は直接、聞いたことないから新鮮だねぇ（照れながら）。……もっと言って!!

一同　ハハハハハ！

伽織　あの頃は〝ファンとして〟藤波辰巳に夢中だったんです（笑）。それで半年くらい経ったあとに、大阪に新日本プロレスが来たときに弟がチケットを手配してくれて、初めて会場に行ったんですね。そのときに弟が「藤波に会いに行こう！」って、控室の前まで連れていってくれたんですよ。

——えっ！　そんなに簡単にトップレスラーと面会できたんですか？

伽織　いや、じつは、たまたま控室の外のドアが開いてたんですね。そのドアの前に立っていたら、これも偶然に主人がトイレから出てきたんです。そこでおもいきって「握手してください！」とお願いしたんですね（笑）。

——藤波さんはそのことは覚えていらっしゃいます？

藤波　いや〜、じつはハッキリ覚え

女房と出会った頃は女性のエスコートが本当にヘタでねぇ〜（藤波）



ふじなみ・たつみ■1953年12月28日。大分県出身。日本プロレス入門ののち、新日本プロレス旗揚げに参加。78年にWWWFジュニア王座獲得。凱旋帰国で“ドラゴンブーム”を巻き起こす。長州力との名勝負数え唄、飛竜革命などで活躍。99年〜04年まで新日本の社長を務めるが、06年に退団、西村修らと『無我ワールド・プロレスリング』を旗揚げ。身長183cm。体重104kg。

ていないんだよねぇ（苦笑）。
——あらら（笑）。
伽織　で、次に主人に会ったのは、先ほども言ったチャボ・ゲレロ戦のあとですね。その試合で主人がケガをしたので、弟が調べた宿泊先のホテルにくだものカゴを届けたんです。
——それにしても、弟さんの行動力は凄いですね（笑）。
伽織　でも、わたしの場合は「主人に会いたい」という気持ちより、「ケガした人にお見舞いするのは社会の常識」だと思ってたんですけど……そういう人はほかにいなかったみたいで（笑）。
——でしょうね（笑）。
伽織　その3日後にも大阪の堺市で大会があったんですけど、堺市の試合前夜に「藤波はマジメだから絶対にこの時間、ホテルにいる！」と弟がアドバイスしてくれたんです。
——弟さんの推測どおり、藤波さんは部屋にいたんですか？
伽織　ええ。本当にホテルの部屋にいて、そこで部屋の電話がつながったんですよ！
藤波　フフフフ！（とびっきりのドラゴンスマイル）。
伽織　わたしは「先日、くだものを届けたものです」って伝えて、少しだけ話ができたんですけど。その堺市の大会は仕事のせいで到着が遅れて、トイレも我慢して駆けつけたんですが、主人の試合に間に合わなかったんです。仕方なくトイレに行ったら、なぜか主人がトイレの前に立ってたんですよ（笑）。
——またもやトイレの前！　じつに運命の糸を感じますね（笑）。
伽織　そこで「昨日、電話した者です」とこちらから声をかけたら、主人のほうから「よかったら、お食事でも行きませんか？」と誘ってくれたんです。
ミワ　キャ〜！　そこでいきなりですか（笑）。
藤波　フフフフフ！（やっぱりドラゴンスマイル）。
伽織　でも、そのときはわたしの友だちと3人で行ったんですよ。だってプロレスラーとしては格好いいけど、人間的にどんな人かわからなかったですから。
——でも誘われたのは、メチャクチャうれしかったんでしょうね。
伽織　うれしかったですねぇ！　でも「危険人物だったら、すぐに帰ろう！」と思ってました（笑）。
藤波　フフフフ！（とことんドラゴンスマイル）。
伽織　だってわたしは"付き合いたい"わけじゃなくて、あくまでプロレスラー藤波のファンでしたから。
——当の藤波さんは、伽織さんにどういう印象を持ってたんですか？
藤波　雰囲気や感じも凄くいいし、こっちも緊張しなかったんだよね。ただ食事の予定だったんだけど、時間がなかったから食事ができなくて……。
伽織　そうそう。結果的に食事はさせてくれなかったんですよ！（笑）。
藤波　あの頃はさ、女性のエスコートがヘタでねぇ〜（恥ずかしそうに）。「食事に行きませんか？」と言ったはいいものの、どうしていいかわからなかったんですね。
伽織　それで、いきなり飲みに連れていかれたんです。でも、わたしも友だちもお酒が飲めなかったから困っちゃって。

喫茶店で自分だけオーダーしたり、最初はヒドい扱いでした！（伽織）



ふじなみ・かおり■1953年9月14日。大阪府出身。藤波辰爾と81年に結婚。同い年のおしどり夫婦として知られ、公私にわたり藤波をサポート。親友で女優の山口いづみらテレビ東京系の旅番組にも出演するなどテレビタレントとしても活躍。料理はプロ級の腕前で、著書として料理コラム『ちょっと、ごはん食べにこない』（ムーンライトファクトリー）がある。

藤波　その日はホテルのラウンジでお酒を一杯だけ飲んだだけで、終わり（苦笑）。
伽織　でも、帰るときに主人に「電話番号を教えてくれないか？」と聞かれたんですよ。それで番号を教えたら……翌朝からさっそく電話がかかってきて（笑）。
——カーッ！　藤波さんのアプローチは速攻ですね（笑）。
藤波　フフフ！（またまたドラゴンスマイル）。
伽織　それで翌日に一緒に映画を観に行ったんです。それが初デートですね。
——今度は本当に二人っきりだったんですね。
伽織　はい。ホテルのラウンジで飲んだときに、彼がまったく女性の扱いに慣れてなかったから、その様子を見て安心しちゃってたんです（笑）。
一同　ハハハハハ！
伽織　あのときお酒を出されて、わたしも友だちもひと口も口をつけていないんですよ。普通は「飲めないんだったら、別のものを頼みますか？」って聞きますよね。
——普通は気を遣いますよね。
伽織　でも、そういうことは何も言いませんでしたから。「この人は安全だ！」と思ったんですけど、初デートのときは本当にヒドイ扱いだったんですよ！
——はいはい。聞くところによると、喫茶店で自分のぶんしか頼まなかったとか（笑）。
藤波　フフフフ！（いつ何時もドラゴンスマイル）。
伽織　ええ。わたしは「ココアにし

エレクトリック
Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro

ようかな？」と思ってたら、主人が「ココアとプリンをお願いします！」って頼んだんです。わたしはてっきり「わたしの気持ちを汲んで一緒に頼んでくれたのかな？」と思ったんですよ。それでココアとプリンが来て、店員に「ココアはどちらですか？」と聞かれたら「僕です！」って元気よく答えて、「プリンはどちらですか？」って聞かれても「僕です！」って（笑）。

一同　ハハハハハ！

伽織　それで主人から「あなたはいらないの？」って聞かれたんです（笑）。わたしのぶんをオーダーもしないで、自分だけさっさとオーダーして……でも、その様子を見て、また安心しちゃったんですね。

――それは藤波さんの地の性格だったんですか？

藤波　うん。そのときは、そこまで気が回らなかったんだよね。（伽織さんに向って）しかし、よく僕にキレなかったねぇ？

――普通だったらキレてますよね？

伽織　キレてますねぇ～。普通の人だったら、さっさと帰ってますよ！（笑）。

――それで、聞くところによると、藤波さんはかなり早い段階から結婚したいと思ったようですけど、伽織さんはいつ頃から結婚を意識されました？

伽織　主人に会うたびに「いいな、いいな」とは思ってたんです。それに電話番号を教えた日から、電話攻撃が本当に凄かったから。自然と人間的な部分もわかってきてましたしね。

藤波　最初のデートから婚約するまで二ヵ月間ですから！

――それはまた早い！（笑）。

藤波　ちょうど一年間のアメリカ遠征へ旅立つ前だったので、結婚の約束をしてから行こうと思ったんです。それで遠征の前に電話でプロポーズしたんですよ。その電話をしたのはなぜか山本（小鉄）さんの家だったんだけど（笑）。

――ということは、藤波さんは小鉄さんに伽織さんのことを相談しに行ったんでしょうか？

藤波　そうかもしれないねぇ……。

伽織　でも、わたしにはそう言ってたよ（笑）。

――そういえば、小鉄さんも海外遠征に行く前に奥さんと入籍されたんですよね。

藤波　そうそう。あの日は山本さんの家でごはんをご馳走になったんですけど、彼女のことを話したら、「いますぐ電話しろ！」と言われたんだよね（笑）。

――さすが小鉄さんですね（笑）。

藤波　ただ「すぐに結婚は無理だぞ！」とも言われましたからね。自分で言うのもなんですけど、あの頃はドラゴンブームの真っ最中でしたから。芸能界じゃないけど、会社としても「すぐ結婚させることはできない！」と。

――当時の藤波さんはプロレス界を超えて、一般世間でもアイドルでしたからね。

藤波　新間（寿）さんにも「2～3年は結婚はできないぞ」って言われてましたし。でも、〝3年〟という数字が頭にあったから、「3年間、待ってくれ！」というのがプロポーズの言葉だったんです。

――その長い3年のあいだ、伽織さんはどういう心境でしたか？

伽織　いや、不安は全然なかったですね。

ミワ　ほかの人に目移りしたり、心が折れたりはしませんでした？

一同　ワハハハハ！

ミワ　私、なんかおかしなことを言いましたか？　普通はそうなりませんか？

――いやいや、そう簡単に心は折れないだろ！　それにお付き合いしながら、3年間待ったということですよね？



どーだい？　この笑顔！　記念すべきドラゴンウエディングは1981年12月14日に、猪木の結婚式と同じ場所、東京・新宿の京王プラザホテルで挙行。新日本勢はもちろん、ドラゴンたっての希望で師匠・カール・ゴッチまで来日していた。



伽織　ええ。ただ、わたしはまだまだ結婚する時期じゃないと思っていたし、主人がそこまで考えてくれているのも意外だったんです。だってプロポーズされるまでに、会ったのはせいぜい4～5回くらいなんですから（笑）。

――では、もしかしてプロポーズにはあまり……。

伽織　いや、ビックリはしたけど、「はい！」と即答しましたね。

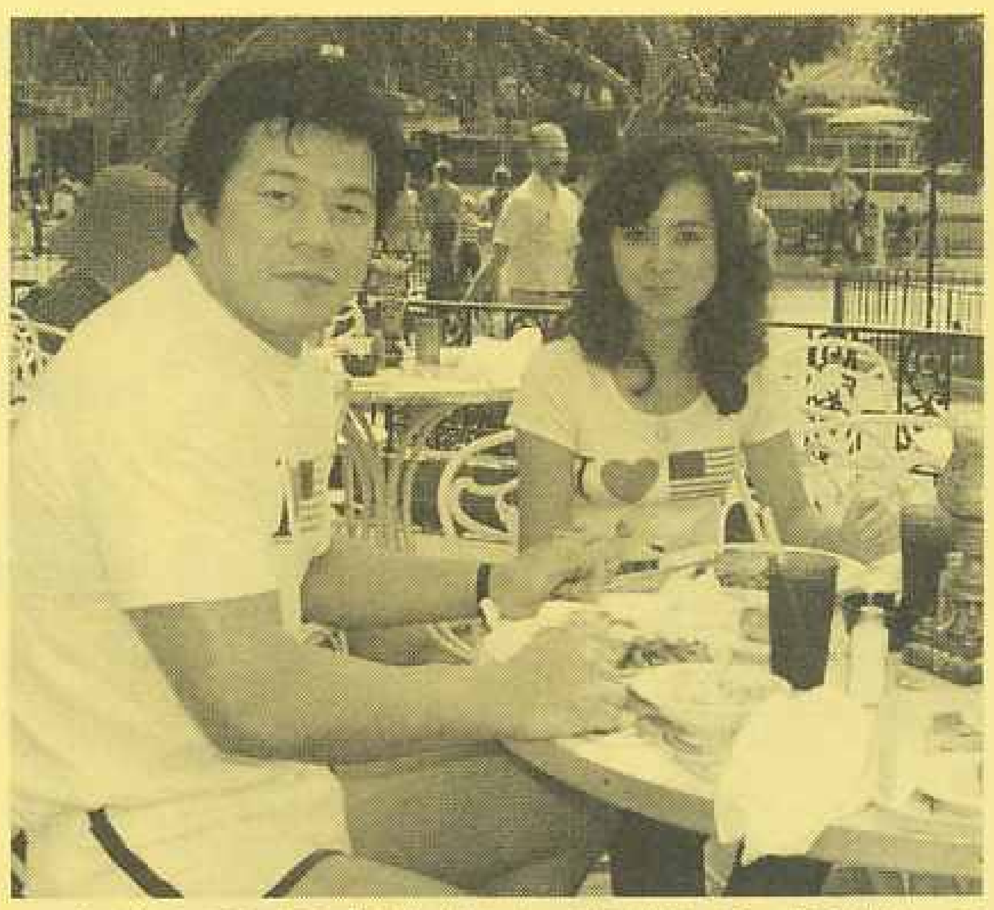
――しかし、藤波さん。なぜそんなに伽織さんに惚れ込んじゃったんですか？

藤波　…………（なぜかしばし黙り込んでしまうドラゴン）。

一同　ハハハハハ！

藤波　（思い出したように）うん！　彼女は凄くスカッとした性格で接していても気持ち良かったたし、家庭的な面もあった。へんにチャラチャラしていないところが好きになったんですね。

――中身は和風なところに惹かれた、と。いまもおきれいですけど、伽織さんはメチャクチャ美人だったじゃないですか？　当時でいう〝ギャル〟だったし、それまでプロレス



いつ何時でもラブラブぶりを見せつけるドラゴン夫妻だが、これが新婚当初とくれば、（写真ではわかりづらいが）ペアルックのTシャツでフロリダのディズニーランドを闊歩する仲睦まじさ！

ラーのお嫁さんってクラブのおネーちゃんふうが多かったから、プロレスラーのお嫁さん像を変えてしまうほどの衝撃でしたよね。

伽織　いやいや、そんなことはないですよ！（笑）。

ミワ　あの～、ちなみに伽織さんのご家族は藤波さんとのお付き合いに関しては、どういう反応だったんですか？

伽織　最初、付き合っていることは弟だけに話してたんです。だから、一時は偽名を使って電話してたこともあるんです（笑）。それであるときにウチの母親に「付き合ってる」と打ち明けたら、ショックで寝込んじゃったんですね（笑）。

――ハハハハハ！　お母さんは、藤波さんというレスラーのことはご存知だったんですか？

伽織　ええ。母もプロレスは好きでしたから。ただ自分の娘がプロレスラーと結婚するのはまったく別問題だし、本人に会う前には「暴力的な人なんじゃないか？」と心配してたみたいなんです。

――それで実際に会われたら？

伽織　それが「こんなにいい人はいない！」と180度、態度がひっくり返って。付き合うのに大賛成になっちゃったんですよ（笑）。

藤波　フフフフ！（どこまでいってもドラゴンスマイル）。

――ただ、プロレスって凄く特殊な世界であり、危険な世界でもあるから、環境の違いは苦労

主人は凄い電話魔。知り合った頃は最低でも一日6回はかかってきた（伽織）

されたと思うんですけど。

伽織　ええ。やっぱり〝プロレスラーと結婚する〟ということに〝覚悟〟はしましたね。でも、プロポーズを引き受けてから、あとづけで覚悟したんですけど（笑）。プロレスって凄く危険な仕事だし、先々どうなるかわからない……。ただ最初はプロレスラーの藤波が好きになったんですが、わたしが結婚を決めたのは主人の〝人間性ありき〟でしたから。この先、主人に何があっても、引退して普通の人になっても「この人、個人と結婚するんだ」という気持ちだったんです。

――う～ん。いい話ですねぇ。それでお二人はプロポーズの3年後に結婚されたんですか？

藤波　実質的には3年弱くらいだよね。

伽織　そうねえ。プロポーズされたのが79年で、結婚したのが81年末だから、06年の12月で結婚25周年になります。付き合った年数も入れるともう27年くらいですね。

藤波　年齢といえば、僕はずっと〝結婚するなら28歳〟と前から決めてたんですよ。猪木さんが結婚したのも28歳だったから、「僕も28歳で結婚しなきゃいけない」と思っていたし、結婚する場所も猪木さんと同じ場所と決めてたしね。

――それもあったから積極的にアプローチされていたんですね。

藤波　海外からも、少なくても毎日、6回は電話をしてましたから！

――そんなに！

伽織　知り合って最初の頃なんて、朝に「おはよう！」って電話がかかってきて、「いまからホテルを出ます」ってかかってきて、「いま、ホテルに着いた」ってかかってきて……それから。

――ああ、まだ続きますか！（笑）。

伽織　「これから試合に行きます」ってかかってきて、ホテルに帰ってきて、「ケガはなかったよ」ってかかってくる。最後に「おやすみ！」とかかってくる。一日に最低で6回！　いまも、どこに行っても「おはよう」と「おやすみ」は必ずかかってきます。

――でも、当時は携帯電話もなかったから、連絡を取り合うのは大変だったんじゃないですか？

伽織　そうそう。それで主人に凄く束縛されちゃって。電話がかかってきたときに、家にいないとうるさいんです。「どこ行ってたの？」としつこくしつこく聞かれるんですよ。

藤波　あの頃は凄くわがままでしたから（笑）。自分はプロレスで必死だったから、「彼女が家にいないのは許さない!!」という勝手な気持ちがありましたからね。

――家にいないのは許さない！　そりゃムチャですよ、藤波さん（笑）。

藤波　フフフフ！（やっぱりドラゴンスマイル）。

伽織　当時、わたしはまだ会社務めをしてたんですけど、毎日「何時に仕事が終わるの？」と聞かれてるんです。でも退社時間の前から「まだ帰ってないんですか？」「まだ帰ってないんですか？」って何度も何度も電話をかけてきちゃうんです。

ミワ　……それはちょっとストーカー的ではありますねえ。

――コラッ！　なんてことを言うんだ、ミワは（笑）。

藤波　フフフフ！（否定せずにドラゴンスマイル）。

伽織　わたしからすると、全然仕事に身が入らないし、家に電話をすると案の定、母に「藤波さんから、何回も電話がきてるわよ！」って言われるんです。

一同　ハハハハハ！

――伽織さんは「この人、大丈夫かなあ……？」って心配にならなかったんですか？

伽織　それは思わなかったですね。電話がくるのはうれしかったですから！（笑）。

藤波　僕はアメリカに行ったときも電話代はたくさん使ったもんね～。

伽織　主人は国際電話でも平気で一時間くらいしゃべるんですよ。もうあまりにも電話料金がかかさんだから、主人に「アメリカに来ない？」って言われたんです。それでその二日後に飛行機に乗っちゃったんですね！（ニッコリ）。

――呼ぶ藤波さんも凄いですけど、すぐさま飛んでいく伽織さんも凄いなあ（笑）。

藤波　その女房の行動は凄い勇気だったと思いますよ。まだ結婚もし

女房と二人きりの全米サーキット あのときは楽しかったねぇ〜（藤波）

てないし、もし空港で自分が待ってなかったらどうする？　と不安だったと思うしね。

伽織　そのときはいまみたいに格安チケットはありませんですしね。

藤波　それで、二人きりで一緒にいろいろな場所を回ったんですよ……（懐かしそうに）。

ミワ　うわ〜。ズバリ、うらやましいです！

伽織　それから結婚して間もない頃、主人が札幌で「こんな会社辞めてやる！」って言ったあとにも二人でアメリカに行ったんですよ。

——いわゆる"雪の札幌襲撃事件"（84年2月3日、札幌中島体育センターのＷＷＦ認定インターヘビー級タイトルマッチ、長州vs藤波戦の長州入場時に藤原喜明が長州を襲撃し、無効試合に。藤波は怒りのあまり「こんな会社辞めてやる！」と叫び、タイツ姿のまま、雪の札幌へ消えた）のあとですね。

伽織　ええ。そのときも二人でずっとアメリカ本土をサーキットして、カナダの国境まで行きましたから。

藤波　あぁ、あのときも楽しかったよねぇ〜（伽織夫人を見つめて）。

伽織　ええ。本当に（ニッコリ）。途中でメキシコに寄ったり、最後はニューヨークに戻ったり。あのときの主人は会社への不満もありましたから「アメリカでプロレスをやればいい」という気持ちになってて、日本に帰る気がなかったんです。プロモーターから試合のギャラをクチャクチャの1ドル札でもらって、そのお金だけで生活してましたから。

藤波　アメリカは日払いだったから、お客さんが払ったクチャクチャのお金をレスラーに分配するんですよ。

伽織　最初はいいホテルに泊まってたんですけど、「ワリに合わない」と思って安いホテルに変えました。でも主人とそういうふうにすごすのがうれしかったし、凄く充実してましたね。このまま二人ですごせるなら「日本に帰らなくてもいい」と思ってましたから。

ミワ　プロレスラーが奥さんとサーキットするというのは海外ではよくあることなんですか？

藤波　海外では奥さんを会場に連れてくるのは当たり前なんだよ。ニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデン（以下、ＭＳＧ）には、選手の奥さんや家族たちが一緒に試合観戦できる席もあるし。

——そういえば、そのＭＳＧのリング上で、伽織さんが紹介されたことがありましたよね。

藤波　あれは結婚直前の時期ですね。試合が終わったあとに突然、リングアナから紹介されたんですけど、僕らにもサプライズだったんですよ。

——あ、藤波さんたちも知らなかったんですか？

藤波　あれは新間さんが仕掛けたんです（笑）。いまとなっては凄くいい思い出ですねぇ。ＭＳＧの3万人近くのお客さんが総立ちで、祝福してくれましたから！

伽織　アメリカ人はそういうことを凄く祝ってくれますからね。会場では周りの人に次々と抱きつかれてキスされて、控室に帰るのも大変だったんです。ＭＳＧから出たあとも凄い人数に囲まれちゃって……人生の中であんなに知らない人にいっぱいキスされた日はないですよ（笑）。

一同　ハハハハハハ！

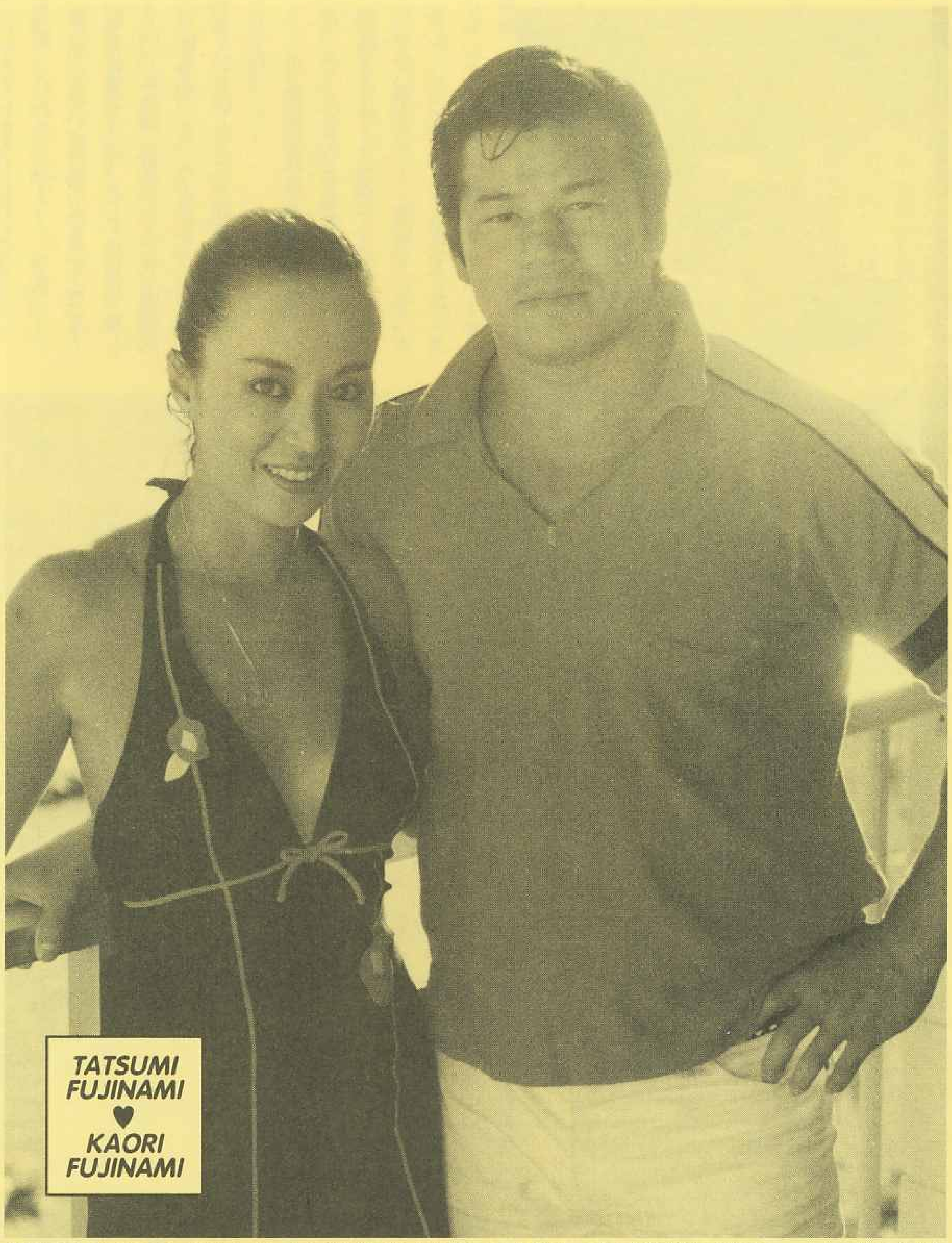
藤波　その模様はテレビでも放送してたから、次の日にニューヨークの街でも、何人からも握手を求められましたしね。

ミワ　でも、会場に同行されていた伽織さんは藤波さんの試合を観ていて心配されたときもあったと思うんですけど。

伽織　う〜ん。心配は心配ですよね。よく安定剤を飲んでから試合を観てましたし。

ミワ　安定剤を飲んで⁉

伽織　だって、昔はお客さんの悲鳴が聞こえたりするような試合が多か



夕暮れのホテルのベランダにたたずむ、ヤングなドラゴン夫妻がまぶしすぎる！　こちらも新婚当初の貴重ショットなのだが、金沢先生も絶賛した伽織夫人のビューティぶりは圧倒的！



娘は20歳、息子は中学生。いまでも、家族一緒におフロに入ってます!(伽織)

ったじゃないですか?

藤波 まあ、感情の面では、昔のプロレスのほうが過激だったよね。

伽織 心配で観てられないときは、通路に出てるんですけど、悲鳴が聞こえると「どっちが優勢か?」ってわかりますから。通路にもいられずに、会場の外でウロウロしていたり(笑)。

——そういう意味でプロレスは凄く危険な職業でもありますけど。息子さんが「プロレスラーになりたい」と言われてるようですが、それについてはいかがですか?

伽織 ……正直、イヤですね。わたしはたまたま好きになった人がプロレスラーだったけど、自分の子どもをこの世界に入れたくはないです。

藤波 うん。僕も入れたくはないですね。

——でも、本人が「絶対にやりたい」と言った場合はどうします?

藤波 まぁ……。ちょっと考えちゃいますよね。

伽織 これぱっかりは本人の意志ですから。ただ、ウチの娘も中学3年生のときに進路問題で悩んでいたとき、「お父さんも中学のときに人生を決めた人だから、自分の人生は自分で決めなさい。あなたが決めたことをわたしたちは応援する!」と言ったんです。親に言えないときはノートに書いてくるんですね。

——言葉じゃなくて、文章で伝えるわけですか。

伽織 ええ。親子の連絡ノートがあるんです。そこに何日かあとに「わたしはゴルファーになりたいから、ゴルフのできる環境に進みたい」と書いてきたんです。だから、息子も最終的に「何がなんでもプロレスラーになる!!」と言えば、そこは尊重したい気持ちはありますけど。

——そのノートには、藤波さんも何か書かれたりするんですか?

藤波 たまに参加しますね。また、ウチの子たちがい〜い文章を書くんですよ(ニッコリ)。これが国語の授業だったら、いい点数取れそうな文章を!!

伽織 だから親バカかもしれないけど、文才はあるんじゃないかと思いますね(笑)。

——それは、心から思ってることがそのまま文章になってるから、凄くいい文章になるんでしょうね。

伽織 ええ。それに娘も息子もウチの家族が凄く好きなんですね。だから間違った育て方はしなかったなと思います。

——いま、親子の断絶が社会問題になってますけど、お手本にしたい家族ですよ!

伽織 そういう家族の問題は全然、心配ないですね。昨日だってみんなで一緒におフロに入りましたから!

——え〜〜〜〜っ!

伽織 わたしと娘が一緒におフロに入っていたときに主人が入ってきたんですけど……わたしだって息子とまだ一緒に入ってますからね。

——え〜〜〜〜っ!

伽織 だって、おフロの中って、いろいろなことを話せる場所じゃないですか。

——ちなみに娘さんって、いまは何歳なんでしたっけ?

伽織 いま20歳ですけど……さすがにちょっと問題ですかね(笑)。

——藤波さんは娘さんと一緒におフロに入っても、本当に嫌がられないですか?

藤波 いや、嫌がらないですね(笑)。

伽織 口では「またぁ?」とか言われますけど、それは冗談ですからね。息子も中学1年生でもう声変わりもしてますけど、大丈夫ですし。やっぱりこういうのは考えすぎちゃいけないんですよ。思春期の身体の変化を隠そう、隠そうとするけど、そこをいかに隠させないか。ウチではそういうことはジョークにしちゃうんです(笑)。

——ジョークにして被せちゃう!

伽織 「恥ずかしいことじゃないんだ」と考えるとなんでも大丈夫なんですよ。

——それに、藤波家はお父さんがタイツ一丁で商売してる人ですからね(笑)。メディアに出てるときは基本的に裸で出ているわけですから。

伽織 あ、それはたしかにあるかもしれないですね。子どもが主人の裸に慣れてるということはあるでしょうね。

——ちなみに娘さんや息子さんは彼氏、彼女とかはいないんですか?

伽織 娘はいないですね。ボーイフレンドみたいなお友だちはいるんですけど。いままで付き合ってた人は主人が関係を壊しましたから(笑)。

藤波 フフフ!(目をギラリと光らせて)。

ミワ え〜〜っ! それは藤波さんが気に入らなかったんですか?

藤波 いや〜、〝壊す〟って意識はなかったんですけど。娘の携帯電話が鳴ってたりすると、たまに無意識に取っちゃうじゃない?

伽織 (ドラゴンに向かって)無意識なはずないでしょう!

一同 ハハハハハ!

藤波 フフフ。それで、男の子の声がすると「誰だ、おまえは!?」って一喝したりしますね。最後は「もう電話すんな!」って電話を切っちゃ



「エ〜ッ! 本当なの?」とドラゴンファミリーの真実が続々と明らかになる展開にGK&ミワも驚愕! 思わず自身の結婚生活に重ねるGK、必死にメモを取り続けるミワだった。

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro

うんですよ。

ミワ　うわ～。それはヒドイです！

伽織　「勉強とか、ほかにすることがあるだろう！」と説教してたりするんですよ（困った表情で）。

――藤波さんはしょっちゅう伽織さんに電話してたのに、自分のことは棚に上げて（笑）。

伽織　最近なんか娘のメールまで見ようとしますしね。

――メールまで！　そんなことをして娘さんに怒られないんですか？

藤波　だから、最近では携帯が鳴ると娘が走って取りにきますからね（笑）。

伽織　ただ、娘もいつも主人を見てるからか、同世代の男性に物足りなさを感じてるみたいなんです。ハッキリしないとか、ワガママだとか。だから、なかなか恋愛に発展しないんですね。

――う～ん。素敵なお父さんを持つのも、大変ですねぇ。藤波さんが交際をオッケーするのはかなりハードルが高そうですね。

藤波　うん。そういうときはまずスクワットから根性をテストさせたいよね（笑）。

一同　ハハハハハハ！

――ところで、お二人はご夫婦になられてからはケンカをされたことも当然ありますよね？

伽織　いや、ケンカしたことはないですよ。

ミワ　ケンカしたことないんですか!?

伽織　一度もないですね（キッパリ）。子どもに聞いてもらえばわかると思いますよ。ウチの子がヨソの夫婦ゲンカをたまたま見てしまったらしいんですが、初めての体験だったからその場で固まっちゃったみたいです（笑）。

一同　ハハハハハ！

伽織　「夫婦でケンカするとあんなふうになっちゃうの？」って、カルチャーショックを受けて帰ってきましたからね。

――でも、怒りたくなるようなこともありますよね？

伽織　そういう問題があったときは、話し合いをするんです。そこで怒鳴ったり、口を利かないということはないですよ。夜が明けるまで話し合ったことなんて何度もありますから（笑）。



「また来てね!」と最後までドラゴンスマイルを爆発させたドラゴン＆伽織夫人。ミワは「本当にまた来たい!」とすっかりドラゴン夫妻に夢中。夢のドラゴンバーベキュー、参加なるか？

藤波　（ミワに向って）ここは凄く大事だから、よくメモしておくといいよ！　「何か問題があったら、夜が明けるまで話し合うこと」って（笑）。

ミワ　夜明けまでですか（笑）。

伽織　でも、最初の問題を引きずって朝まで話をするわけじゃないんです。どんどん話が広がりますし、それはわたしたちにとって楽しい時間でもあるんです。

藤波　もう「最初の話はなんだったかな？」ってぐらいにね（笑）。

――でも話し合っても、同じ意見にならないということはないんですか？

伽織　ないですね。「それは違う」というときは「たしかに間違ってたね」という結論になりますし。

藤波　僕もいさぎよく「悪かった！」って謝りますから（笑）。

――これも大事だねぇ。「間違いは素直に認めること」。

伽織　結局、日本人はコミュニケーションに関して、“照れ”があるんですよ。たとえば、夫婦だと「ありがとう！」という言葉をなかなか言わないでしょう？　だけど主人は「ありがとう！」を本当によく言ってくれる人なんです。だからわたしも「ありがとう！」と言いますし、子どもも「ありがとう！」と言ってくれますしね。

ミワ　「ありがとう」を言い合える家族ですか。本当に素晴らしいファミリーですね！

伽織　だから、わたしが一番素直に話ができるのは主人なんです。親だと「心配かけちゃいけない」という気持ちもありますし、主人もわたしのことを一番わかってくれてると思いますから。

――いやあ、素晴らしいご夫婦ですね！　今日は本当にありがとうございました!!

伽織　またいつでも遊びに来てくださいね（ニッコリ）。

藤波　フフフフ！

【06年12月3日／藤波辰爾邸にて収録】

よくできました
［金沢先生 今月の通信簿］



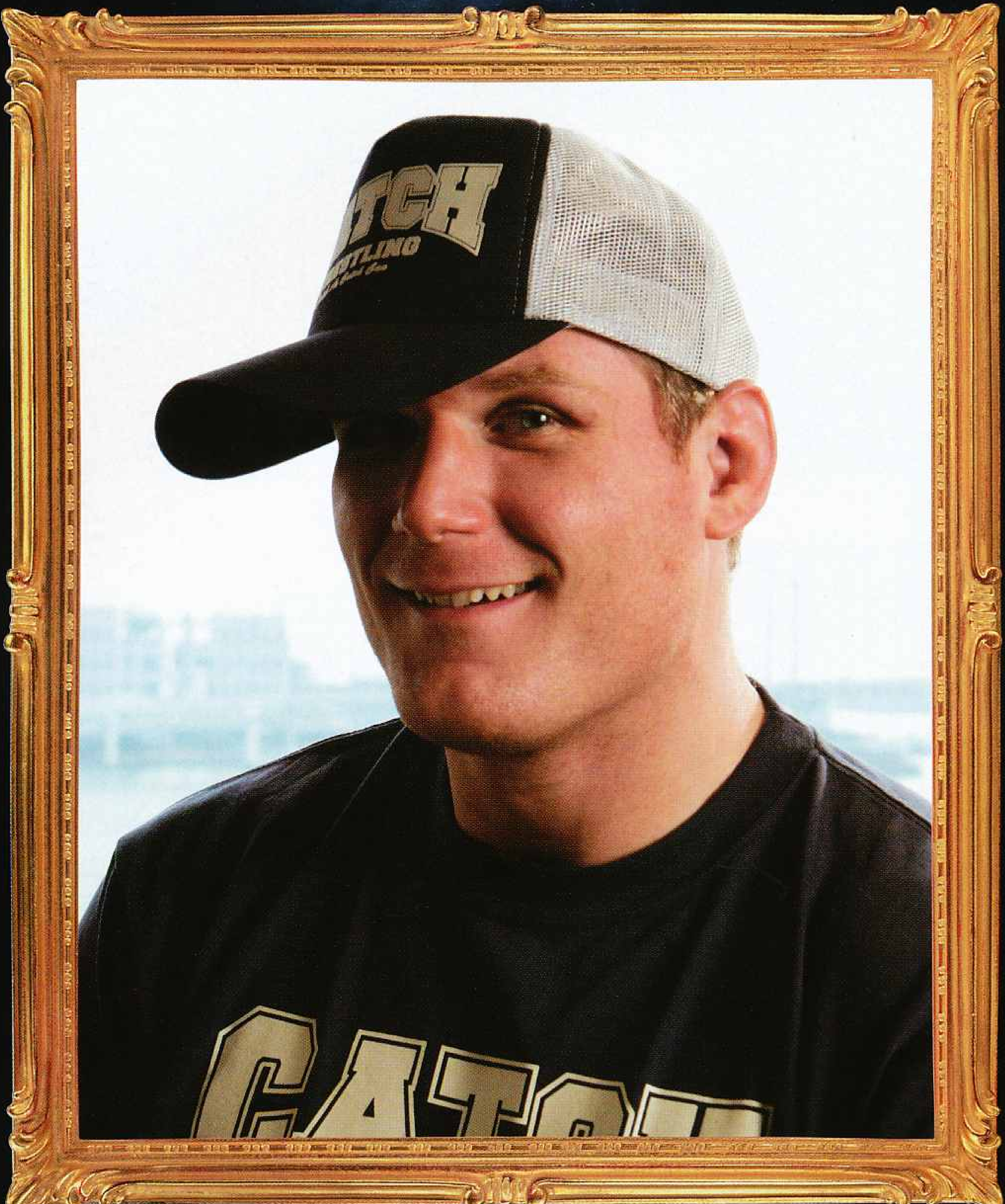
金沢先生コメント

藤波辰爾はやっぱり最高にカッコいい。あの時代やこの時代、僕らがプロレスに夢中になった頃の話をサラリと笑顔で語ってくれる。田村潔司だって、ライガーだってみんなドラゴンに憧れていたのだよ。伽織夫人もあいかわらず素敵な女性だった。たぶん藤波サンは優しく優しく包み込むように尻に敷かれているんだろうなあ。ちょこっと顔をのぞかせてくれた美憂ちゃん（長女）の笑顔もグッド。我らがドラゴンファミリーにカンパイ!!　ただぁ～し、悩み多きミワにとって、この教本が吉と出るか凶と出るか……それはミワ次第なのだよ！



松下ミワコメント

最近、3年G組の授業では反抗しがちな私でしたが、今回ばかりは先生のおっしゃるとおり！　勉強不足の私は本誌上での藤波さんしか知りませんでしたが、今回“ドラゴン・スマイル”一発で、私も瞬間的にとりこになりました～。伽織夫人も本当に凛とした素敵な方なので、世の女性はぜひ見習うべきですね。いや～、こんなに素晴しい方々がやっている「無我ワールド・プロレスリング」は本当に素敵なんだろうなと胸の高鳴りがやみません！　先生、今度の授業はぜひ『無我』にしましょう!!（※注＝次回の授業は『無我』ではありません）。



『kamipro』読者 &『kamipro Hand』ユーザーが選ぶ

2006年MVP

受賞記念インタビュー

Josh Barnett

ジョシュ・バーネット

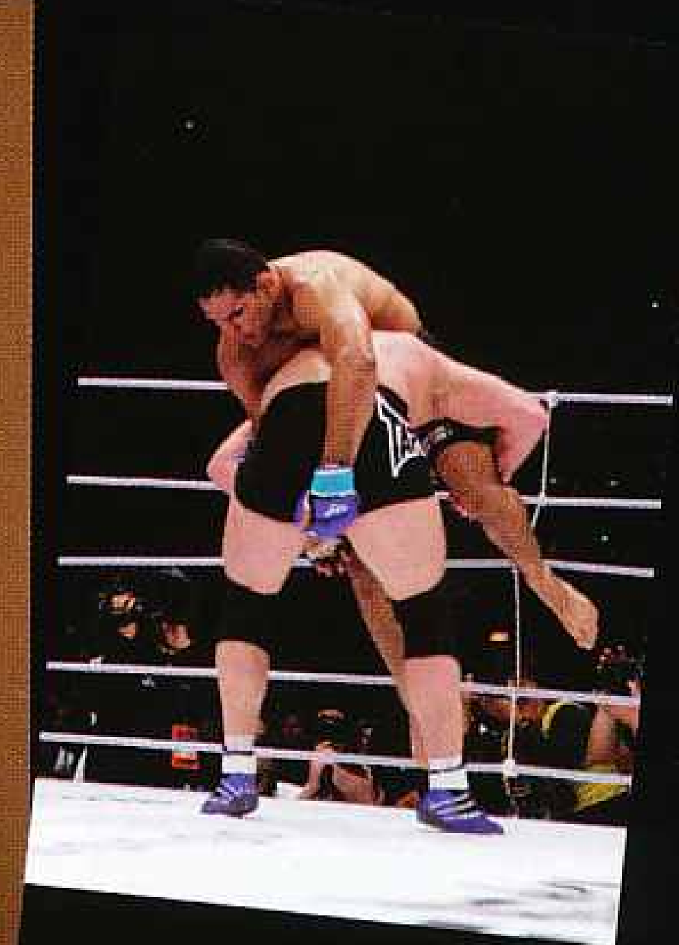
kamipro大賞、あたたたたたたっ！ 昨年、一年を通して名勝負を連発しまくったジョシュが本誌読者&Handユーザーが選ぶ、2006年MVPに輝いた！ この賞金なし、ノー権威の栄冠を記念し、元旦収録のインタビューをお届けします！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄

ジョシュ　アケマシテオメデトウゴザイマース（けっこう流暢な日本語で）。
——あ、あけましておめでとうございます。
ジョシュ　コトシハ、ヨロシクオネガイシマース。
——惜しい！　今年「は」じゃなくて、今年「も」ですね（笑）。
ジョシュ　あ〜、スイマセン。コトシ「モ」だね。ハハハハ！
——ちょっと、ジョシュ選手。なんか、今日はやけにハイですね？
ジョシュ　ハハハハ！　じつは昨夜、試合のあと、ボクのドリンキン（飲み）の〝アイボウ〟であるフジメグ（藤井恵）とたくさん飲んでしまったんだ。
——もう、さっそく新年会やっちゃいましたか（笑）。
ジョシュ　フジメグは53〜54キロぐらいしかないのに、飲む量はボクらヘビー級と同じか、それ以上なんだよ！
——フジメグさんはそんなに酒豪（笑）。
ジョシュ　もうビックリするよ！　ヒョードルの半分の体重で飲む量はヒョードル級だから。パウンド・フォー・パウンドなら、フジメグがドリンキン・ワールド・チャンピオンだね（笑）。
——そんな酒飲みの〝絶対王者〟と飲んでたんじゃ、しょうがないですね（笑）。それにしても、去年はホントに忙しい、ハードな一年だったと思いますけど、いかがでしたか？
ジョシュ　たしかに大変な年だったよ。たくさんタフな試合をこなしてきたし、一年中、身体も気持ちも休まることがなかった。ただ、勝敗においてはベストとは言えないかもしれないけど、パフォーマンスという部分においては満足してるよ。

『東スポ』MVPであるスズキサンと、どちらが真のMVPかを懸けて闘いたいね（笑）









——そのジョシュ選手の一年を通した活躍ぶりはファンも認めていて、じつは『kamipro』読者が選ぶ2006年のMVPにジョシュ選手が選ばれたんですよ！
ジョシュ　ホント？　アリガトウゴザイマース。まぁ、ボクは『kamipro』ナンバーワンのスターだからね（笑）。
——いや、ホントに去年は、ジョシュ選手で雑誌を売らせてもらいましたよ（笑）。
ジョシュ　ファンに選んでもらえたということがなにより嬉しいね。今年も二年連続でMVPが獲れるように頑張るよ。あと、『東スポ』のMVPであるスズキサン（鈴木みのる）と、『kamipro』のMVPであるボクで、真のMVPを懸けた対決をパンクラスルールでやりたいね！
——お！　それはいいですねぇ。この際、鈴木さん得意のキャッチレスリング・ルールでもいいですよ（笑）。ところで、去年一年を振り返ってみて、一番の思い出というとなんですか？
ジョシュ　記憶に残っているのはやはり無差別級GPだね。トーナメントに参加して、誰とやっても負けないくらいの気持ちで闘っていたんだ。身体はキツかったけど、気持ち的に凄く充実していた。あとは記憶に

両足タックルをノゲイラに切られたジョシュは、なんとそのままリバース・スープレックスのようなかたちで持ち上げ、そこからデスバレーボムを爆発！　こんな大技が飛び出すとは、まさにリアル・プロレスラーだ！







敗れたものの、ノゲイラの両足タックルをギロチンで捕獲したり、ヴォルク・ハンばりの立ち関節（サクラバ・アームバー）を狙ったりと、随所に見せ場を作ったジョシュ。やはりこの男の試合は、何が飛び出すかわからない！


Josh Barnett

残る瞬間というより、年間通して一番思い出深いのは、昨日の試合だね。

―昨日のノゲイラ戦はどういった点で、思い出深いんですか？

ジョシュ　ノゲイラ戦自体というより、昨日という一日かな。大変だった一年の最後にノゲイラという強敵と目一杯闘ったこと。試合のあとに交わしたサカキバラサンとの会話。それからフジメグやアベサン（阿部裕幸）と食事に行ったこと。それらすべてで、この一年間の自分の達成感をしみじみと感じたんだ。

―なるほど。それにしても、一年間フルに闘って疲れもピークなのに、よくノゲイラとの再戦を受けましたね？

ジョシュ　たしかに、ボクの周りにも「大晦日は休んだほうがいい」という人や「もっと楽な相手でもいいんじゃないか」と言ってくれた人はたくさんいたよ。でも、大晦日は一年でもっとも大きな規模の大会だし、そのスペシャルな大会全体のことを考えると、ボクとノゲイラのマッチメイクは必要だと思ったんだ。

―大会全体のことを考えてオファーを受けた、と。

ジョシュ　もちろんそれだけではなく、ノゲイラとは本当の意味で決着をつけなきゃいけないと思っていた。だから、コンディションの不安はあったけど、彼ともう一度やりたいと思ったんだ。

―実際に闘ってみて、前回とのコンディションの違いというのは大きかったですか？

ジョシュ　たしかに肉体的なコンディションの違いはあったね。でも、それは言い訳にならない。ボクはそれを承知でこの試合を受けたんだから。

―では、対戦相手のノゲイラは前回と比べてどうでしたか？

ジョシュ　今回の彼の闘い方はポジショニングを凄く重要視していたね。サブミッションを極めたり、KOを狙うとかいうよりも、とにかく常に動いてボクに攻めさせないようにしていた。でも彼がサブミッションを極められなかったのは、ボクが彼にチャンスを与えなかったからさ。お互いに自分の流れがあるので、彼がサブミッションを仕掛ければ、同時にボクが返していくということがわかっていたので、ノゲイラはそういったリスクを背負わない闘いをしていたんだ。





3度にわたる闘いを通じて友情が芽生えるという、『少年ジャンプ』の世界そのものの関係であるジョシュとミルコ。この二人がふたたび同じリングに上がることを願いたい。

ミルコは必ず『PRIDE』に戻ってくるとボクは信じているよ

―寝技王ノゲイラがジョシュ選手の寝技を警戒した、と。

ジョシュ　それは間違いないよ。ボクとしては、前回のようにお互いリスクを顧みずに一本を奪いにいく試合にしたかったんだけど、今回彼は絶対に負けられないと思っていたから、より確実な戦法を取ったんだろうね。

―それにしても、ジョシュ選手とノゲイラの試合は3ラウンドがホントに短く感じるというか、20分間じゃホントの決着はつきそうにないですよね。

ジョシュ　ボク自身、肉体的にはたしかに疲れていたかもしれないけど、まだまだ闘えたし、もう一ラウンド闘いたいという気持ちがあったよ。

―だから、次にジョシュvsノゲイラが実現したら、プロレスのタイトルマッチのように60分一本勝負でやってほしいぐらいですよ（笑）。

ジョシュ　それはナイスアイデアだね！　ボクはプロレスルールでやってもいいよ（笑）。

―いや、たとえルールは『PRIDE』だとしても、何かジョシュvsノゲイラ戦を観ていると、ルー・テーズやフランク・ゴッチといった、いにしえのプロレスは、こういう試合だったんじゃないかというイメージを思い起こさせるんですよ。

ジョシュ　ありがとう。それがボクの目標でもあるからね。それに昔は『PRIDE』のようなリングはなかったけど、ルー・テーズ、カール・ゴッチ、イノキサン、マエダサンがいまの時代の人間だったら、きっと『PRIDE』で闘っていたんじゃない

『kamipro』誌面で振り返るジョシュの2006年



No.101■ジョシュと美濃輪の“リアル・プロレスラー対談”がついに実現！　いい歳した大人が、「キン肉マンとケンシロウ、どっちが強いか?」を真剣に語り合う姿はじつに美しかった。



No.100■カリフォルニアでの「ジゴクノレンシュウ」を独占取材！　かつてミルコに「若いのになぜあんなに皮下脂肪がついてるんだ?」と言われたジョシュの腹筋が割れていることをスクープ！



No.99■アレキサンダーに勝利した翌日のジョシュをキャッチ！ かなりゴキゲンだったが、話がハントに敗れ引退を表明したTKのことに及ぶと、感極まり涙を流した。ジョシュっていいヤツ！



No.98■PRIDE無差別級GP開幕戦を前に、打倒・エメリヤーエンコ兄弟を掲げたジョシュ。ノゲイラとの人生観の違い、ヨアキムとヘビメタ話で盛り上がったエピソードも語ってくれた。

『PRIDE』は昨年苦境に立たされたけど本質的な部分では凄く成長したと思うんだ

Josh Barnett

かと、ボクは思うよ。
——まさに『PRIDE』は、現代の"リアル・プロレス"ということですね。その『PRIDE』のリングに、ジョシュ選手は一年を通して上がり続けましたけど、やはり「自分がこのリングを支えるんだ」という自負があったりしたんですか?
ジョシュ　ボクとしては去年、『PRIDE』こそが本物のイベントだということをファンに見せたかったんだ。やはりフジテレビが撤退した中で、なんとか格闘技界を盛り上げて、テレビにとっても格闘技が大切なソフトだとアピールしたい気持ちもあったよ。
——そして2007年。『PRIDE』が逆襲に転じるには、どんなことが必要だと思いますか?
ジョシュ　ファイターとしてというより、いち個人として、まずはテレビ局が戻ってきてほしい。そうなれば、多くの問題は解決すると思う。去年『PRIDE』が厳しい状況に立たされたのは、一つのチャンスを逃しただけであって、本質的な部分では凄く成長したと思うんだ。ファンもさらに応援してくれるようになったし、イベント自体の質もさらに良くなった。実際、アメリカへの進出もはたしたしね。よく大阪の人が本当は儲かっているのに「サッパリデンナ〜」と言うでしょ?　それと同じで表面的な部分と本質的な部分は違うのさ(笑)。今年は表面的な部分も中身と同じように成長していけたらいいね。
——『PRIDE』がさらに成長するためには、アメリカ市場を獲得することが必要不可欠だと言われていますけど、今後のアメリカ格闘技界はどうなっていくと思いますか?
ジョシュ　やはり今年も拡大傾向にあると思うね。さらなる新規参入の企業もあるだろうし。ただ、ある時期をすぎたら、最終的には淘汰されていくと思う。そのとき生き残るのは『PRIDE』だよ。
——ミルコ・クロコップがUFCに転出したことについては、どのように感じていますか?



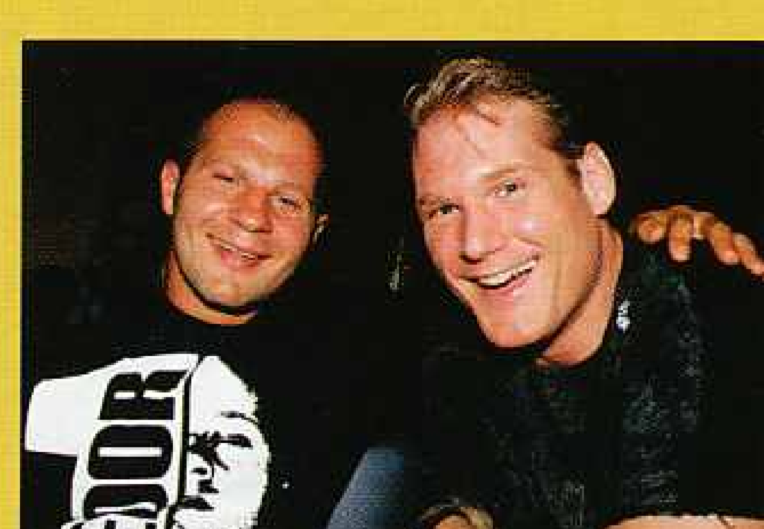
Josh Barnett■1977年11月10日、米国・ワシントン州出身。第7代UFCヘビー級王者、現・第10代パンクラス無差別級王者の肩書きを持つ。昨年はPRIDE無差別級GPに準優勝に輝いた。191cm、116kg。

ジョシュ　今回のミルコに関しては、UFCへの「参戦」であって、『PRIDE』を「離脱」したわけじゃないと思っている。サクラバさんがK-1(『HERO'S』)に行ったこととは、また別の話さ。ボクはミルコにとって、今回の選択は正しかったと思うし、彼がアメリカで何か達成したいと思ったら、それは仕方がないことだからね。UFCに行ったとしてもミルコはミルコであり、みんなPRIDEファイターがUFCに参戦したと思っているはずさ。
——ミルコはアメリカでも成功すると思いますか?
ジョシュ　もちろん!　彼は早い段階で王者になるだろうね。そして、ある程度の目標を達成したら、彼はかならず『PRIDE』に戻ってくると思うし、ボク自身、再戦するチャンスがあると信じているよ。
——まぁ、ミルコがUFCに行ったことで、アメリカ格闘技界は『PRIDE』とUFCの競争でよりおもしろくなるかもしれないですよね。
ジョシュ　メディアにとったら、記事にしやすい展開だよね(笑)。ただ、UFCと『PRIDE』を比べた場合、アメリカでの知名度こそUFCのほうが上だけど、それ以外は、イベントの質もファイターのレベルも、『PRIDE』のほうが上であることは間違いないよ。
——では最後に、今年の目標を聞かせてください。
ジョシュ　去年は大変だったので、ちょっと小休止したい。半年ぐらい休んで試合への調整をしたいところなんだけど……ちょっと、それは無理かな?
——売れっ子ですから、それは無理でしょうね(笑)。
ジョシュ　じゃあ、半分の3カ月でもいいや(笑)。とにかく、しっかりと体調を整えてからツアーに戻りたい。そして戻ってからは、無敗で突っ走ってタイトルを獲得する。それがボクの目標さ!
——わかりました。では、今年も期待してます!

【07年1月1日/都内・某ホテルにて収録】



No・102■ジョシュがついに、本誌の表紙をゲット!　憧れのケンシロウのコスプレに挑んだが「パットはもっと大きいやつで、革ジャンはもっと汚れてないと」と、こだわりをみせるからさすがだ!


No.103■ロサンゼルスでのヒョードルインタビューにジョシュがいきなり乱入し、強引に記念撮影!　二人の満面の笑みでのツーショットは、読者から「あの写真がほしい!」という声が殺到した。



No.104■PRIDEラスベガス大会にちなんで、カジノのハイローラーよろしく、黒服で登場!　ジョシュが持つ本誌特製PRIDEトランプ(非売品)は、読プレで応募が殺到する人気だった。



No・105■ジョシュがスーパーマンに扮した、イラストレーター師岡とおるさん入魂のアメコミ調イラストで、表紙に再登場!　2006年、『PRIDE』全戦参加の活躍は、まさにスーパーマンと呼ぶにふさわしい!

"文豪"ジョシュ・バーネットによる

青い瞳のケンシロウがペンを握り、YouはShock!な才能を発揮!!

紙とインクのヒーロー

すべての子どもは、この"紙とインク"の世界に憧れの人を見つけるものだ。夢を感じさせ、元気づけてくれるヒーローたち。そのヒーローは、プロアスリートや彼らの親であることもあるだろう。だが、それと同じくコミックやアニメも、世界中の数えきれない子どもたちにインスピレーションを与えてきた。また、想像から生まれたヒーローも多く、彼らは現実の世界に登場する偉人よりも、到底信じがたいことをやり遂げるのだ。

ボクも子どもの頃は、ほかの多くの子どもたちと同じように、登校前の朝の時間を好きなアニメを観てすごした。そして、先生や教科書と苦戦したあとには、自分の好きなアニメを観るために急いで家に駆け戻った。

アニメを観たことがない子どもをボクは知らない。子どもというものは、アニメを観るために存在しているように思う。みんなそれぞれ好みの番組があるが、たとえば『**トランスフォーマー**』(注1)は、多くの子どもたちが熱狂していた。ボクも例外ではなかったが、バーネット家で『トランスフォーマー』よりおもしろいとされていたのは『**宇宙戦艦ヤマト**』(注2)の米国版、『スターブレーザーズ』であった。『スターブレーザーズ』の時間になると、家族全員、暗黙のルールがあるかのようにぞろぞろとリビングに集まったものだ。

その後、ボクと友人たちは『**超時空要塞マクロス**』(注3)の米国続編『ロボテック』の世界に引きずり込まれた。その頃のボクは、ワルキューレの騎士を宇宙に放り投げ残忍なゼントラーディを倒すことに、すべてを懸けていたといってもいい。

そして、そんなボクがさらにファンタスティックな底なし沼へと足を踏み入れたきっかけがある。当時、マーベルコミックスの中毒でもあったボクに、友だちがある一冊の"マンガ"を貸してくれた。神崎正臣の『**重機甲兵ゼノン**』(注4)。ボクが11歳のときだった。叩きのめされるほどの衝撃を受けた。

これを読んだとき、「これはまさに自分のために描かれたコミックではないか!」と感じた。"マンガ"にはリアリズムがあり、背景のアートは信じられないほど細かい。しかも人間ドラマは悲喜劇に溢れ、信じられないほどその登場人物にはキャラクター性があった。また日本の"マンガ"に登場する人々は、ボクが慣れ親しんだアメリカンコミックのキャラクターとはまったく違う気質を持っていた。当然、彼らは屈強であったが、とても傷つきやすい内面を持っていた。"マンガ"のヒーローは往々にして、常人ではありえない、とんでもないことをやってのけるものだが、彼らの繊細で傷つきやすいキャラクターは、現実を生きるボクとヒーローの距離をぐっと近づけてくれたのだった。

それぞれの人間にそれぞれのヒーローが存在する。

現在、"マンガ"の世界では多くのヒーローが誕生しているが、ボクにとってのヒーローとは、いつ何時でも、常に『北斗の拳』のケンシロウである。どんなにこの世が荒れ果て、残忍な悪党に苦しめられる混沌とした世界になろうとも、男であれば正しいことをやり遂げる力と勇気を持たなければならない。それがどんなに孤独な作業であろうとも、だ。

ケンはボクに、男とはこうあるべきだという究極の姿を見せてくれた。ケンは正義のために、心ない世界に秩序を取り戻そうと、その力を酷使する。幸せな時間もめったになく、足下には常に死が迫っている。でも決して闘いから逃げることはない。どんなに不利な状況であろうと、相手を倒す方法を模索するのだ。

いつの時代も、常人はこの世の不幸・不正に耐える方法を模索し、やがてそれに慣れる。きっとそのほうが簡単なのだろう。だがケンにそんな考えはなく、偉大なヒーローは肉体的にも精神的にも想像を絶する苦痛を抱きながら立ち向かう。

「おれにはもうなにも目的はない。すべてを失った人間だ。ただ、……きさまらのような狂信者のために犠牲になり、ながされる幼い子どもたちの涙が……悲しみが……おれをここにつれてきた……きさまの野望はここまでだ!!」(『北斗の拳』死のブーメランの巻より)

誠実をもって正義の守護者になりえるのなら、どれほど壮絶な痛みが生じようとも、そこには立ち向かう価値もあるのだ。

ケンが示した決断力はボクに衝撃を与え、いまでもボクをインスパイアしてやまない。実際、『北斗の拳』には、多くの賛美すべきマーシャルアーツや超人的なドラマがあるが、ボクの頭から離れることがないのは、やはりケンのキャラクターである。ジムでトレーニングしているときなど、常に己のレベルを昇華させるため、『**愛をとりもどせ!!**』(注5)を聴く。楽曲だけならそれほど心に響くことはないが、『愛をとりもどせ!!』は『北斗の拳』の象徴である。この殺伐とした愛の歌を聴くと、自分はケンシロウになり、闘いの爪痕が残る不毛の地を歩きながら、闘いに備え常に神経を研ぎ澄ましている心境になるのだ。ラオウ、カイオウ、サウザー、ファルコ……道の最後にはどんな強敵(とも)が待ち受けているかわからない。そしてボクは彼に立ち向かう、と言おう。ケンならいかなる条件であろうと、譲歩はないのだから。

ボクにとって、この曲で入場するということは、ファンタジーやインスピレーションを自分に与えるということなのだ。この曲がかかると、ファンが激昂し、泣く声が聞こえる。ボクは知っている。彼らもまたボクと同じく、『北斗の拳』に心を揺さぶられていることを。

"マンガ"のヒーローは多くの人を刺激してきた。そして、これからもずっと影響を与え続けていく。未来の『PRIDE』ファイターは『**格闘太陽伝・ガチ**』(注6)や『**餓狼伝**』(注7)を読み、その主人公のようになりたいと、日夜練習に明け暮れたファイターかもしれない。きっといつの日か、**幕之内一歩**(注8)はリングに実在しているだろう。彼に憧れ、"はじめの一歩"を踏み出した若いファイターによって。

インスピレーションが降ってくるとき、それがいつなのか誰も知らない。10分後なのか、10日後なのか、10年後なのか——。幸運にもボクはケンシロウに出会った日、インスピレーションとは何かを知った。そしてボクはケンになるべく常に努力してきた。もちろん、スーパーマンの力を持つ"リアルケンシロウ"になることは到底不可能だとわかっている。だが、もしも「ケンになれた!」という感覚が一試合、いや、一瞬でもボクに訪れるなら、ケンシロウの道を歩んできたことを後悔することは絶対にない。

ケンシロウと『北斗の拳』。ボクを深くインスパイアしてきた"マンガ"。『北斗の拳』がキミをインスパイアすることがなくとも、大丈夫、案ずることはない。心配しなくとも"マンガ"のヒーローは、天空に輝く無数の星ほどいる。その中にはきっとキミに語りかけるヒーローがいるだろう。『北斗の拳』のそれぞれの戦士に背負うべき宿星があるように。

そして、そのヒーローは不可能と言われることに挑戦し、成し遂げるよう、あなたを鼓舞する。リングの上であれ、ビジネスの世界であれ、夢を現実する道を、しっかりとその目で見ることができるまで。

そう、どんなときもボクらは、紙とインクのヒーローに憧れ、前に進むのだから。

【『kamipro Special 2006 SPRING PRIDEわっしょい!!』で掲載されたものを再録】

注1 トランスフォーマー 玩具メーカー。タカラ社(現・タカラトミー社)が販売した製品をベースに、84年米マーベルコミック社が初期作品を制作したSFロボットアニメ。日本テレビなどが放送。

注2 宇宙戦艦ヤマト 74年から読売テレビ系列で放送されたSFアニメ。原作/松本零士。製作/西崎義展。劇場版「さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち」は日本アニメ史上記録的な大ヒットに。

注3 超時空要塞マクロス SFアニメ。原作/スタジオぬえ。制作/タツノコプロダクションなど。若いスタッフによるラブコメやアイドル的な要素が加わった新機軸のストーリーが話題に。

注4 重機甲兵ゼノン 小学館『少年ビッグコミック』で86年より連載されたヒーローマンガ。神崎正臣著。講談社『ヤングマガジン・アッパーズ』にて続編『鋼〜HAGANE〜』が連載された。

注5 愛をとりもどせ!! クリスタルキングの代表曲の一つで、フジテレビ系アニメ『世紀末救世主伝説 北斗の拳』主題歌。「YouはShock!!」の出だしはあまりに有名。

注6 格闘太陽伝・ガチ 小学館『ビッグコミックスピリッツ』で連載された格闘マンガ。プロレスラーの息子、原田太陽が自己流トレーニングで格闘家になった様を描いた。監修はルー・テーズ。

注7 餓狼伝 流浪の格闘家、丹波文七を主人公とする本格格闘マンガ。原作/夢枕獏、作画/板垣恵介。谷口ジロー氏の作画版もあり。映画化もされている。

注8 幕之内一歩 森川ジョージが89年から講談社『少年マガジン』に連載中のボクシングマンガ『はじめの一歩』の主人公。ボクシングを通して描かれたさまざまな人間模様は秀逸。

闘うオタクの論文

やっぱり、リングを降りてもこの男は凄かった！　自身の人格を形成した『北斗の拳』とUWFへの熱い想いを、ジョシュはなんと論文という形式で発表してみせたのだ。過去に本誌で掲載された二つの論文を好評につき再録。（構成／辻ちゃん）

田村vs桜庭

The Final Gong of UWF international A Fans Love

日本の大晦日といえば、いまや恒例の〝大晦日格闘技興行戦争〟に尽きる。今年（2005年）も視聴率戦争を制するためTBSは、そのターゲットを幅広いお茶の間向けにマッチメイクするべく全力をあげた。

そして『PRIDE』はまるで〝忘れもの〟を取りに行くかのように〝今年も〟田村潔司vs桜庭和志戦実現に全力を傾ける。されど、〝今年も〟赤いパンツの頑固者は「NO」と首を横に振るのか……いや、もしかすると、今年こそ彼は「YES」と首を縦に振るのかもしれない。

多くのファンたちが田村vs桜庭を待っていた。もっとも、すでに待ちくたびれていないことを祈るが、ここでまず一つ言っておきたい。ボクがこの闘いについてただ黙っているだけのそこいらのガイジンではないということを。この試合の意義、そして桜庭と田村の心の中を洞察すると、すなわちこれはUWFマニアと超人オタク……つまりはボクのための仕事なのだ！

田村潔司、桜庭和志、UWFインターナショナル。

この3つの言葉の歴史を知れば、あなたにとってこのカードはもっともっと興味を抱くものとなりうる。

新生UWF時代をを走り抜け、Uインターが始まった頃の田村はまだひとりのヤングボーイであった。当時、彼はもう一人の新生UWFの申し子である垣原賢人とともに頭角を現わしており、いち青年だった桜庭がUインターに入門する頃には、すでに中堅のポジションを確立していた。

しかし田村は、Uインターがその後の悲しき終焉に向かうなか、髙田延彦や安生洋二らが長州力や永田さんたちと繰り広げていた新日本プロレスとの対抗戦に、頑ななまでに加わらなかった。新日との対抗戦に出ることを、自分の信じた〝UWF〟を売り渡すこと、そして自らがプロフェッショナル・レスラーとして後退することだと考えていたからだ。

そんな田村に残された選択肢は、メインやセミファイナルのスポットライトから外れ、第一試合で若手と試合をすることのみだった。その〝若手〟とは、賢明なる読者であればおわかりであろう。

田村潔司が桜庭和志と初めて交錯する瞬間が訪れるのだった。

彼らは芸術的なグラウンド・テクニックを披露して、素晴らしい〝UWF〟を見せてくれた。二人はUWF、つまりゴッチ・スタイルのレスリングというバックグラウンドを持っている。同じようにUインターの道場で、打撃、寝技、投げ技を練習してきたのだ（にもかかわらず、見事なまでにまったく異なったパーソナリティを形成しているが）。

二人の交わりによって浮かびあがった〝U〟の灯火は、未来を明るく照らし出すかと思われたが、田村はUインターを憮然として去り、新生UWF時代のボスであった前田日明率いるリングスに入団した。田村はリングスを離れるときですら、高田やほかのUインターの仲間と交わらず、自らの道を進み、理想のUWFを諦めようとしていた。

桜庭もまた、自らの進むべき道を模索していた。Uインターの後期からキングダム時代にかけて、MMAのステージでスターになるべく実力をめきめきとつけていたのだ。

UFC－JAPANでマーカス・コナン・ザ・シウヴェイラに勝利したとき、世界はこの偉大なプロレスラーの存在にやっと気づくようになった。その後『PRIDE』のリングで〝グレイシー・ハンター〟という称号を得た桜庭は、世界中でもっとも愛されるMMAファイターとなっていく。

しかしヴァンダレイ・シウバがそのすべてを変えた。シウバが扉を開いた残酷なスタイルによる新MMA時代。桜庭はどう猛なバイオレンス・ファイターたちに敗れ続けた。慢性的なヒザの負傷を抱えながらも、休息と回復の時間を取ることもできずに。おそらく彼は、〝Show Must Go on〟を感じて、エースとしての責任を務めたのだろう。

だが、その代償は高くついた。世界中でもっとも愛されたファイターは、暴力とケガに輝きを失なった。

田村の〝UWF〟ロードも試練と障害に満ちていた。リングスで開催されたKOKトーナメントの王座には常に届かず、オープンウェイトの王座も彼の手からこぼれ落ちてしまった。そして田村も『PRIDE』のリングで、桜庭と同じく〝暴力の王者〟に打ち負かされてしまう。ミドル級GPの夜も、彼の旅は、5分6秒で歩みを終えた。吉田秀彦は彼にとって登ることのできない山として立ちはだかったのだ。

同じような過去を持ち、同じような苦しみを味わってきた二人の男。この闘いが行なわれるのならば、それはいまこそ起こるべきだろう。ケガや年齢による支障がある前に。彼らの灯が消える前に。

ただ、この試合に懸ける二人の、個人的なモチベーションははたしてどのようなものなのだろうか？

これまで田村はDSEの再三にわたるオファーに対して、硬い表情を崩すことがなかった。彼には桜庭戦を受けない理由がある。彼は桜庭の先輩だった、というより、おそらくいままでも、そう思っているだろう。Uインターのリングと、そして道場でこれまで幾度となく桜庭に勝ってきた。いまあえて桜庭戦を受ける理由はどこにもない。

さらに、田村はU－STYLEという守るべき家族がある。U－STYLEにおいて田村はもっとも重要な人間であり、彼を失なえばU－STYLEは崩壊する。彼とU－STYLEにとって得られるかもしれないギャンブルの報酬は充分な価値があるとは言えないのだ。

一方の桜庭にしてみても、たとえ田村に勝ったからといって、ミドル級のトップコンテンダーへ返り咲くというわけではない。むしろこの闘いは個人的な悪魔払いのようなものだろう。

かつて青年時代に叩かれた相手と闘って、勝つ。常に自分の上の存在でった田村を、おそらくいまでも桜庭は見上げている。田村は自分のボス（髙田延彦）をKOした男であり、Uインターの危機が叫ばれていたときに、その同志を捨てるかのようにライバル団体へ移った男なのだ。

我々ファンの位置から眺めると、桜庭は田村に対する深い嫌悪の感情を抱いて、おそらくそれは修復できないようにもうかがえる。もしかすると田村に対する嫌悪感こそが、彼をこの試合へと駆り立てているのか。

しかしボクにとってこれらのサイドストーリーは、UWFというケーキに乗せられた単なるオマケでしかない。たしかに彼らの歴史はこの闘いにさらなる魅力を加えるが、ボクがいちばん心惹かれるのは、スリリングな闘いから生まれる芸術的な「プロ・レスリング」なのだ。フィニッシュへと導く彼らの攻撃スタイルは、試合展開をよりダイナミックなものとし、ファンの心を捉えて離さなかったのではないだろうか。

年末にイベントは、日本の全国民が注目するという意味で多くの格闘家たちにとって理想的な大舞台と言えるが、そこには、Uインターにはありえなかった新MMA時代の色が落とし込まれている。つまり、二人の再会にバイオレンス性が生まれないという保証はないが、しかしボクはそれを美しく幻想的な現実なものとして、UWFのもっとも素晴らしかった時代の終焉として、悲しく見つめることになるだろう。

田村潔司vs桜庭和志。

きっとこの試合はUWFインターナショナルの最終章、ファイナル・ゴングとなるのだろう。二人のオーラがリングを包み込む。二人の師、髙田延彦が強いまなざしでリングを見つめるなか、二人の道場生が向き合う。ミドルキックvsチキンウイングアームロック、いや、ダブルリスト・アームロックでもいい。先輩vs後輩、田村vs桜庭。UWFインターナショナル。

あと数行で筆を置くいま、まだ〝田村vs桜庭〟戦決定という報はまだボクの耳に届いていない。〝いつもどおり〟、赤いパンツの頑固者は「NO」と首を横に振るのか……いや、今年こそ彼は「YES」と首を縦に振るかもしれない。

もし実現したら、そのときボクがどちらかを応援するかなんて聞かないでもらいたい。ただ、試合終了のゴングが鳴ったとき、二人の壮絶なる闘いと「最後のUインター魂」を称えて、喜びと悲しみの涙を流すのだろう。

【『Kami-pro』No.94で掲載されたものを再録】



アキバ系戦士・ジョシュ・バーネットの

マンガ、アニメ、音楽ベスト5を あたたたたたっ!! と大公開！

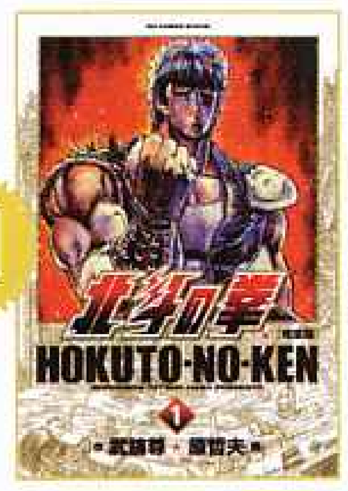


格闘家たる者、いつ、いかなるときでも感性を研ぎ澄ませ！　本誌No.100でそのオタクぶりとマニアックな知識を遺憾なく発揮した、ジョシュのオールタイムベストを本人のコメントつきでプレイバック。

COMIC ［マンガ］

「ふ〜ん、やっぱりケン・シロウ好きなのね？」とあなどることなかれ。「恥ずかしながら強いオンナの子、大好き！」なジョシュが渾身チョイスした驚異のマンガベスト5を発表〜！　アメリカ人好きする日本カルチャーっぽい？　と思いきや、"たがみよしひさ"までランクイン！　やっぱこの人凄いわ。

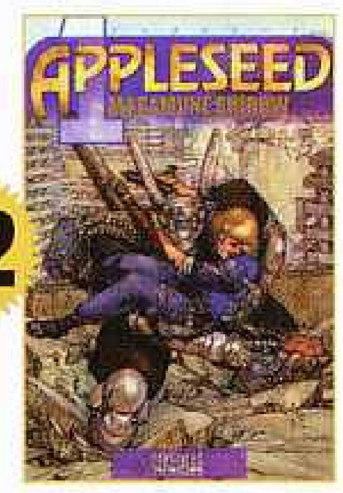
No.1



『北斗の拳 完全版』
原作・武論尊、作画・原哲夫（小学館）

アニメや映画と同じく、もちろん原作も大好き！　12歳でこのマンガに出会い、いままで見たことのない、クールな男たちの世界にノックアウトされた。でも、じつはアメリカではケンシロウがゴランのリーダーを倒したところでストップしているんだ。早く続きを出してほしいよ！

No.2



『アップルシード』
士郎正宗（青心社）

ボクは"強いオンナの子"が好きなんだけど、『アップルシード』のデュナンはその究極のイメージだよね。士郎正宗は複雑なストーリーとメカデザインに凄く定評があって、より現実的に近い作品が素晴らしい。その中にも絶妙のリアリズムがあって、一瞬SFだということを忘れてしまうね。

No.3



『GUNSMITH CATS』
園田健一（講談社）

このマンガには"魅力的なオンナの子"に"カッコいい車"そして"ガン"といったボクの好きなモノが詰まってる。ボクと園田は一度、会うべきだと思うね（笑）。ぜひ、ボクのガンコレクションを見せてあげたいし、ボクの愛車「シェルビー・GT500KR」でドライブに行きたいよ。

No.4



『銃夢』
木城ゆきと（集英社）

これもまた強い女性の話だね（笑）。ガリィという魅力的な主人公がいて、本当に奇妙なことばかり起こるんだ。厳しい現実が彼らを襲うんだけど、彼らは決して希望を捨てないし、自分にとって「正しいこと」をやり遂げる。それに、このシリーズのエンディングは本当に美しいよ。

No.5



『GREY』
たがみよしひさ（徳間出版）※写真はイラスト集

荒れはてた地を生き抜くために、グレイ・デスという兵士が冷酷な殺人マシーンに変貌していく様が描かれている。闘うことでクレジットが得られ、食料と安全なシェルターにありつけるという世界。いったいなんのために闘うのか？　その答えを求めて、グレイは旅に出るんだ。

ANIME ［アニメ］

マンガに続いて、フェイバリット・アニメも『北斗の拳』の二冠達成！　『ベルセルク』『マクロス』とそのほか期待に違わぬオタクセレクトに加え、なぜか「天野喜孝、サイコー！」とジョシュが激讃する『バンパイアハンター・D』もランクイン！　彼女にも見せたらしいけど、その行動自体オタクです！

No.1



『TVシリーズ 北斗の拳』
（ユニバーサル ミュージック）

この作品はカッコいいファイトシーンやクールなセリフが詰まってるけど、作品を輝かせているのは登場人物だ。「ケンシロウはまたユリアと結ばれるか？」「なぜユダはレイを嫌うのか？」登場人物のあいだで紡ぎ出されたドラマがストーリーを混雑で奥深いものにしている。

No.2



『剣風伝奇ベルセルク』
（バップ）

最初、主人公のガッツは無慈悲なファイターだったけど、宿敵・グリフィスと出会ったことで、何かを求めるよう、がむしゃらに闘うことをやめた。そして試練や戦闘をくぐり抜けて、キャスカと恋に落ち、深く愛を育んでいく。これはアニメファンでない人にもオススメする最高の作品だね。

No.3



『COWBOY BEBOP』
（バンダイビジュアル）

菅野よう子さんのサントラが秀逸な美しいアニメ。賞金稼ぎが賞金首を求めて、宇宙を駆けるストーリーだけで充分クールだけど、そこにユーモアも加わって、この作品を新鮮なものにしている。とにかくキャラクターが生き生きしているし、一話完結型の柔軟なスタイルは必見だよ。

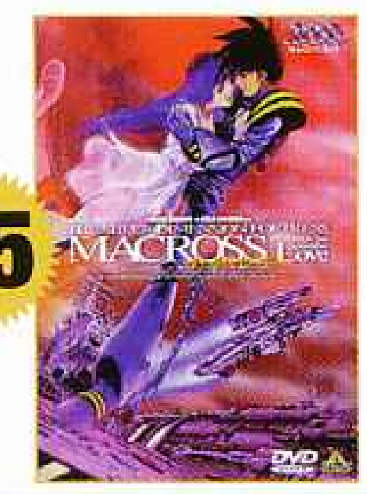
No.4



『バンパイアハンター・D（劇場公開バージョン）』
（エイベックス・マーケティング・コミュニケーションズ）

いままでバンパイアを描いた作品はたくさんあったけど、これこそベスト。吸血鬼の映画はゴシックなものというボクの先入観を、見事に打ち砕いてくれた。それに加えて、最高のアーチストかつアニメーターでもある天野喜孝さんのオリジナルな芸術性が最も的確に表現されている。

No.5



『超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか』
（バンダイビジュアル）

USAバージョン（『ロボテック』）も興奮して観てたね。主人公をめぐる三角関係にも心が揺れ動いたよ。ボクはリン・ミンメイより、ハヤセ・ミサが好きだった（笑）。あと英語に吹き替えされた日本版『マクロス』の完全版も持ってるけど、その声優の声がたまらないんだよね！

MUSIC ［音楽］

「北欧メタル好き」なヨアキム・ハンセンやカメラマン菊池氏の証言によると「重度のヘビメタマニア」のジョシュ。今回はオールタイムということで"人生この一枚！"的なバラエティ感。マニアックなヘビメタ、中学生スピリッツあふれるアイアン・メイデン、「初恋の思い出の詰まった」スティービー・ワンダーまで！

No.1



『ワンス』
ナイトウィッシュ
（ユニバーサルインターナショナル）

ナイトウィッシュはフィンランドのヘビメタルバンド。新日本プロレスの音響スタッフがいつもこのバンドのCDをかけてたんで、ボクの心に火がついてしまったんだ。音にはドライブ感があり、まるで映像を見ているような感覚になる。自分を見失うほど、ハマってしまったよ。

No.2



『ミュージックエイリアム』
スティービー・ワンダー
（ユニバーサルインターナショナル）

ファンキーかつセンチメンタルでシリアスさえも同居しているアルバム。60年代から第一線にいるスティービー・ワンダーはリスペクトしている。リリース時には両親がよく聴いていた。このアルバムに収録されている「That Girl」は、まさに若いときの自分の恋愛を思い出してしまうよ（笑）。

No.3



『...For Victory』
ボルト・スロワー
（Earache）

ボクが持っているアルバムの中で、もっともハードなアルバム。ボルト・スロワーはイギリス出身の大ベテラン・デスメタルバンドで、戦争をモチーフにして曲を作っているんだ。彼らの曲はトレーニング中だったり、試合前に自分のテンションを高めていったりするときに最適だね。

No.4



『ソングス・フォー・ザ・デフ』
クイーンズ・オブ・ストーン・エイジ
（ユニバーサルインターナショナル）

ドラムのデイヴ・グロールが叩き出すビートがグルーヴを形成し、ボーカルのジョシュ・オムがクールでダークなアティチュードで知性が滲み出るリリックを謳い上げる。一曲ともスキップできない完成度を誇り、「Go with the Flow（流れに身を任せろ）」などボクの好きなフレーズが満載だ。

No.5



『鋼鉄の処女』
アイアン・メイデン
（ユニバーサルインターナショナル）

2代目ボーカルのブルース・ディッキンソンで育ったボクとしては、このアルバムを最初に聴いたときは憤慨したね。だって、知らないボーカル（ポール・ディアノ）が歌ってるんだから（笑）。でも、だんだん自分の中で溶け込んでいって、やっぱりこのときはポールが歌うのが一番だと思ったね。

『kamipro』読者&『kamipro Hand』ユーザーが選ぶ

kamipro Award 2006



マット界にとってまさに激動の年となった2006年。もちろんリング内でも数々の名勝負、名場面が生まれた一年となったのだが、その中で『kamipro』読者&『kamipro Hand』ユーザーはいったいkamipro Award 2006に何を選んだのか。さあ、みんなで振り返ろう〜。

（この結果は、ハガキ&『kamipro Hand』での投票、上半期の結果をポイント化して集計したものです）

BEST FIGHTER



kamipro Award 2006

蒼い目のケンシロウ あたたたた——っ!! っと kamipro大賞・三冠達成!

MVP ジョシュ・バーネット

897 point

PRIDE全戦参戦の偉業まで達成 オタク・キャラも大全開～!

堂々2006年のMVPに輝いたのは、文句ナシにこの男！　今年の『PRIDE』を最も盛り上げた男、ジョシュ・バーネットである。なんと昨年は『PRIDE』全戦に出場。しかも『PRIDE無差別級GP』ではエメリヤーエンコ・アレキサンダー、マーク・ハント、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ミルコ・クロコップという最も厳しいラインを闘いぬき、いずれも熱戦を展開するという超人ぶり！　そうかと思えば、本誌に『北斗の拳』原稿を寄稿したり、美濃輪育久（現・ミノワマン）と「ケンシロウvsキン肉スグル」の勝者を大真面目に語ったり……。今年もその多彩ぶりをあたたたた——っ!! っと存分に発揮していただきたい！

3rd
髙阪剛

169 point

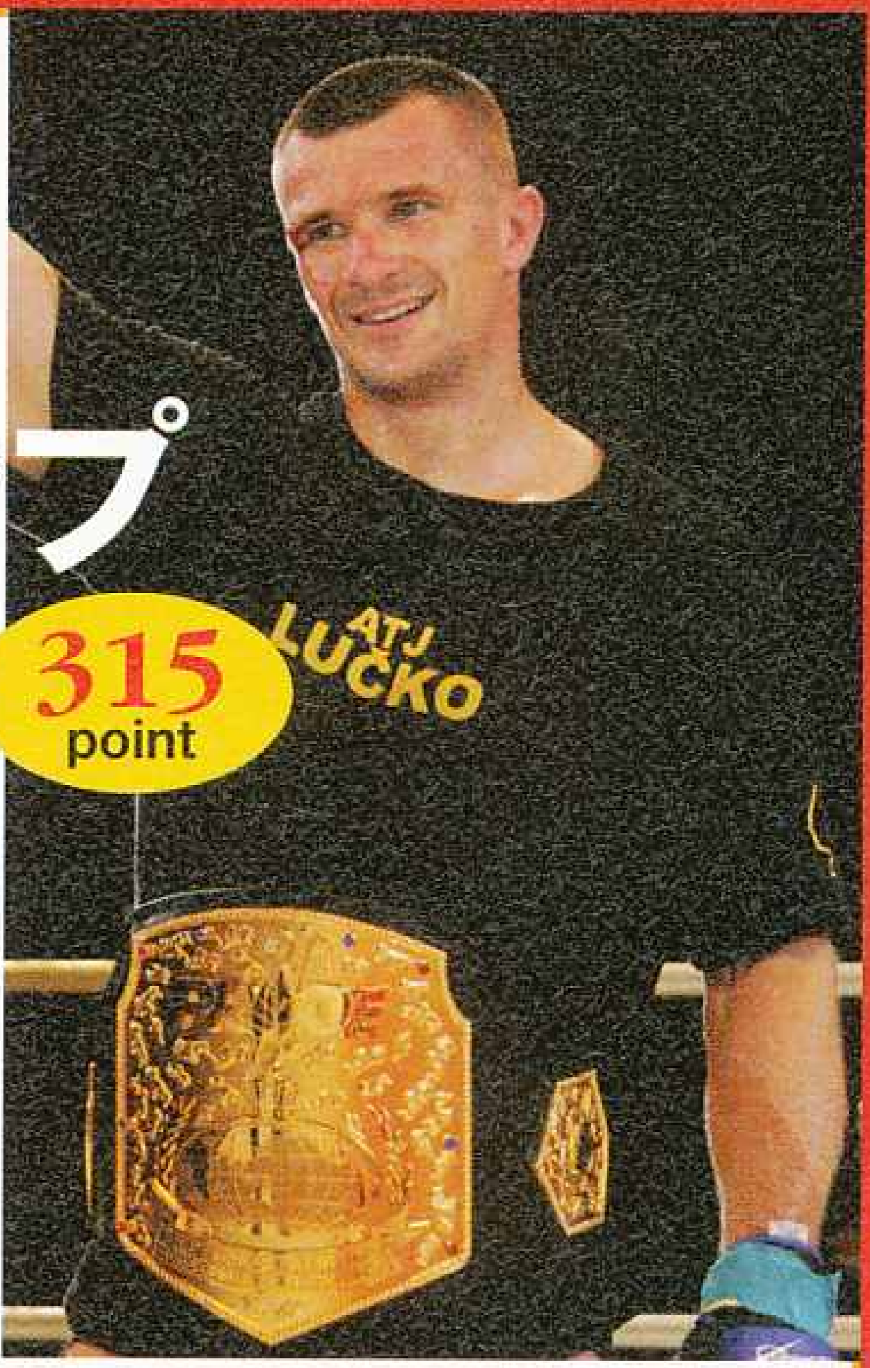


引退試合にして究極のベストバウト！ 涙の最後を飾った男の中の男

『PRIDE無差別級GP』にて涙のラストを飾ったTKが上半期に続き、上位にランクイン。2.26『PRIDE.31』マリオ・スペイヒー戦で熱戦を展開した直後、突然「5月からのトーナメントを最後にしたい」と引退を発表。そのラストマッチとなった5.5『PRIDE無差別級GP開幕戦』マーク・ハント戦では、30キロの体重をものともせず真っ向勝負を挑み、壮絶に散ることとなった。しかし、倒れても倒れても前へ向かうTKの姿には誰もが感動し、ジョシュ・バーネットは大会翌日も号泣。最後の最後まで“男の生き様”を貫いたTKに乾杯っ！

2nd
ミルコ・クロコップ

315 point



悲願の初優勝達成！ UFC電撃参戦で07年は二冠制覇を目指す!?

9.10『PRIDE無差別級GP決勝戦』にて念願のPRIDE GP王座に輝いたミルコ・クロコップ。二年越しでようやく実現した“60億分の1”エメリヤーエンコ・ヒョードル戦（05.8.28『PRIDE GP2005決勝戦』）で敗れて以降、一部ではミルコは燃え尽きてしまったのか――、という声も聞こえてきたが、なんのその！『PRIDE無差別級GP』でのミルコはまさに無敵!! 他を寄せつけぬ圧倒的な強さで優勝をさらった。またUFC66では、本人こそ登場しなかったものの、UFC67への参戦が発表されるという衝撃の事態を展開。ホント、トレンディだなあ〜（サダハルンバ調）。

5th
青木真也

130 point



衝撃のタイツ・インパクト！ バカサバイバー爆発で人気急上昇

修斗での活躍が高く評価され、8.26『武士道―其の十二―』から『PRIDE』に参戦することとなった青木真也が5位に。“跳関十段”の名のとおり、見事な関節技でここまで『武士道』三連続一本勝ち！ あのヨアキム・ハンセンをもあっという間に絞め上げたのだから、今後もギルバート・メレンデス戦、五味隆典戦など期待は高まるばかり。また、入場曲『バカサバイバー』にノリノリで登場するシーンと、赤→赤＆黒→黄色→レインボーと変貌を遂げているタイツスタイルは、別の意味で『武士道』に戦慄を走らせた。

4th
藤田和之

156 point



野獣覚醒！ 猪木事務所独立後PRIDEのリングで大暴れ！

昨年2月1日付けで猪木事務所から独立した“野獣”藤田和之。『PRIDE』か『HERO'S』か、その去就がおおいに注目されていた藤田だが、意を決して上がった5.5『PRIDE無差別級GP開幕戦』ではジェームス・トンプソンと息を飲むほどの死闘を展開。初戦をクリアして挑んだ二回戦も、あのヴァンダレイ・シウバに打撃で勝負し、文句ナシに当日のベストバウトを繰り広げた。6月に起きた“PRIDEクライシス”の際に、わざわざロスから駆けつけたという男気あふれるエピソードもファンをとりこにしたのか。



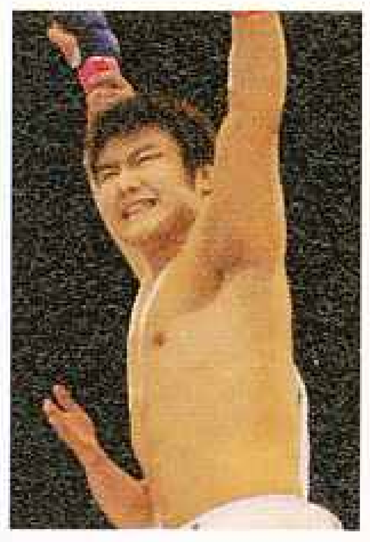
WORST FIGHTER

1	秋山成勲	585 Point
2	桜庭和志	292 Point
3	曙	235 Point
4	ボブ・サップ	195 Point
5	谷川貞治	169 Point

06年最後の最後で“オイルショック”を起こしてしまった秋山成勲が、なんとも哀しいワーストファイターに。また、05年はトップに君臨していた曙さんは「相撲をナメるな！」という心を震るわせる名言も手伝って、今回は3位にランクダウン!! この調子で次回はぜひベストファイターに選出されてほしい。4位のサップは、外国人記者クラブでの会見以降、まったく姿を現わさず。そろそろ出てこいや〜。んあ〜。



10th 鈴木みのる 49 point



9th 五味隆典 52 point



8th マーク・ハント 78 point



7th ヴァンダレイ・シウバ 97 point



6th 桜庭和志 110 point

昨年5月に『HERO'S』へ電撃移籍、その後もマット界に話題を振りまきまくった桜庭は6位に入選。また06年『東スポ大賞』MVPを獲得した鈴木みのるは唯一プロレスラーとしてトップ10にランクイン。みのるの入選は、ともに死闘を繰り広げたメカマミーにもぜひ感謝したい！

BEST BOUT



世紀のグラップリング対決が06年ベストバウトに堂々君臨！

kamipro Award 2006

1st

ジョシュ・バーネット vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

9.10『PRIDE無差別級GP決勝戦』
さいたまスーパーアリーナ

611 point

“あわや”のシーンが乱れ咲き!! 世界遺産級の寝技対決に観衆陶酔！

2006年ベストバウトに輝いたのは、これだ!!　瞬きを許されないほどの目まぐるしい寝技の攻防を披露した『PRIDE無差別級GP』準決勝、ジョシュ・バーネット vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの一戦！　グラウンドに絶対の自信を持つ両者の闘いは「キャッチ・レスリングvs柔術の対決」という構図が打ち出されたのだが、そんなことよりも二人の気合いとテクニックにただただ「凄い！」と魅了されるばかり。ジョシュがノゲイラの首を極めかける“あわや”のシーンもあり、試合時間全20分間、観衆のどよめきが途切れることはなかった。

3rd
マーク・ハント vs 髙阪剛
5.5『PRIDE無差別級GP開幕戦』大阪ドーム

312 point

TK、引退を懸けた覚悟の一戦 これぞ"男の中の男"の生き様!!



「『PRIDE無差別級GP』を最後の闘いにする」とキッパリ宣言していたTKの引退試合が3位に。一回戦のマーク・ハント戦はその"覚悟"がそのまま投影された感動の一戦となった。『PRIDE』きってのハードパンチャーであるハント相手に、何度倒されようが前へ向かうことをやめないTKの姿は、すべての観客の涙腺を緩ませたといってもいいほど。また、そのTKの気迫を真っ向から受け止めた"立役者"であるハントの懐の深さも際立ち、まさに一生忘れられない最高の引退試合となった。

2rd
ミルコ・クロコップ vs ヴァンダレイ・シウバ
9.10『PRIDE無差別級GP決勝戦』さいたまスーパーアリーナ

533 point

絶好調ミルコの必殺左ハイ炸裂! ヴァンダレイの男気にも大喝采



ベストバウトに続き、2位も『PRIDE無差別級GP』準決勝の闘いに。02.4.28『PRIDE.20』で引き分けに終わった二人は、今回こそ決着をつけんとばかりに気合いの表情！　途中、ヴァンダレイの右目上カットでドクターチェックが入るというアクシデントがあったが、前のめりに続行をアピールしまくるヴァンダレイの男気、そして試合続行のアナウンスに会場爆発!!　この日、ヴァンダレイは絶好調ミルコの前に散ることになったのだが、当大会をベストイベントに押し上げた名演出を展開したことは間違いない。

5th
ジョシュ・バーネット vs エメリヤーエンコ・アレキサンダー
5.5『PRIDE無差別級GP開幕戦』大阪ドーム

124 point

"ヒョードルからの刺客"を破り "ジョシュ優勝"の声が一気に上昇!



『PRIDE無差別級GP』陰の優勝候補では？とささやかれていたエメリヤーエンコ・アレキサンダー。兄・ヒョードルをセコンドにたずさえ、なんとも不気味にリングインしたアレキだが、対するジョシュ・バーネットも05年とは見違えるほどシェイプされた身体で入場！　そんな二人の闘いはえも言われぬ死闘となり、最後はジョシュがV1アームロックで一本！　この試合で"ジョシュ優勝"の声が一気に高まった。

4th
藤田和之 vs ジェームス・トンプソン
5.5『PRIDE無差別級GP開幕戦』大阪ドーム

182 point

久々のPRIDEで"野獣"大暴れ! Mr.ゴング&ダッシュに大逆転勝利



猪木事務所から独立後、藤田にとって初の試合となったジェームス・トンプソン戦。いつもは"ゴング＆ラッシュ"で突進してくるトンプソンだが、この日はコーナー際で藤田を徐々に消耗させるクレバーな作戦に出たのだが……。藤田の一発で事態は一変！　そこから続けざまにラッシュをしかけた藤田が逆転KO勝利を奪う劇的なエンディングを作り上げた。かつて皇帝ヒョードルを追いつめた藤田への期待が再熱した一戦となった。



WORST BOUT

1 桜庭和志 vs 秋山成勲 — 12.31『Dynamite!!』京セラドーム大阪 — 728 Point
2 中村和裕 vs 中尾"kiss"芳広 — 9.10『PRIDE無差別級GP決勝戦』さいたまスーパーアリーナ — 286 Point
3 チェ・ホンマン vs セーム・シュルト — 6.3 K-1 WORLD GP in SEOUE — 156 Point
4 桜庭和志 vs ケスタティス・スミルノヴァス — 8.5「HERO'S 2006ミドル&ライトヘビー級世界最強王決定トーナメント準々決勝」有明コロシアム — 130 Point
5 ジャイアント・シルバ vs 曙 — 12.31『Dynamite!!』京セラドーム大阪 — 117 Point

ワーストファイターに続き、ワーストバウトにも"オイルショック"！　桜庭 vs 秋山がダントツで1位を獲得してしまった。また"見つめ合い、抱きしめ合い"ながらリング上での二人の時間をすごした中村カズvs中尾さんはきっちり2位に。中尾さんといえば、前回はベストファイター5位に入選していたのだが……。そして、曙さんの試合もきっちり顔をのぞかせています。ジャイ・シル戦、お気に召しませんでしたか。残念。



10th 三沢光晴 vs 丸藤正道 — 12.10 NOAH武道館大会 — 39 point



9th ギルバート・メレンデス vs 川尻達也 — 12.31『PRIDE男祭り 2006-FUMETSU-』さいたまスーパーアリーナ — 50 point



8th エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・ハント — 12.31『PRIDE男祭り 2006-FUMETSU-』さいたまスーパーアリーナ — 52 point



7th ヴァンダレイ・シウバ vs 藤田和之 — 7.1『PRIDE無差別級GP二回戦』さいたまスーパーアリーナ — 65 point



6th ミルコ・クロコップ vs ジョシュ・バーネット — 9.10『PRIDE無差別級GP決勝戦』さいたまスーパーアリーナ — 78 point

1位から9位までがすべて『PRIDE』の試合だというのが、なんとも凄い。06年は『PRIDE』の会場自体が"名勝負製造機"と化したのか（会場外はとんでもない一年だったが）。そんな中、唯一他団体でランクインしたのが三沢vs丸藤。三沢はまだまだ強いのだ！

BEST EVENT



1st
9.10『PRIDE 無差別級GP決勝戦』

さいたまスーパーアリーナ

ミルコ・クロコップ vs ジョシュ・バーネット、
ジョシュ・バーネット vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ　ほか

806 point







無差別級GP準決勝&決勝が大爆発！ ラストはミルコの涙のシーンも

06年ベストイベントに輝いたのは、当イベントのうち3試合がベストバウトのトップ10にランクインしている9.10『PRIDE無差別級GP決勝戦』。その3試合はいずれもミルコ、ジョシュ、ノゲイラ、ヴァンダレイが闘ったGPの準決勝＆決勝なのだから、イベントもさることながら『PRIDE無差別級GP』自体がいかにレベルの高いGPであったかを思い知らされる。また、エンディングには初優勝を遂げたミルコの涙のシーンもあり、大会は感動と興奮さめやらぬまま幕を閉じた。

3rd
5.5『PRIDE 無差別級GP開幕戦』
大阪ドーム
マーク・ハント vs 高阪剛、藤田和之 vs ジェームス・トンプソン　ほか

205 point

“桜庭ショック”を吹き飛ばす ベストバウト級の試合が目白押し!



5.3『HERO'S』に桜庭和志が登場するという一大ニュースの直後に開催された5.5『PRIDE無差別級GP開幕戦』が3位にランクイン。その“桜庭ショック”の反動か、TKのマーク・ハントとの壮絶な引退試合をはじめ、藤田和之のジェームス・トンプソン戦での大逆転勝利、ジョシュ・バーネットvsエメリヤーエンコ・アレキサンダーの熱戦など、大会は白熱しっぱなし。事態が事態だっただけに「どうなることか?」と注目された大会だったが、結果的には大成功。『PRIDE無差別級GP二回戦』を期待させる結末を迎えた。

2rd
12.31『PRIDE 男祭り 2006―FUMETSU―』
さいたまスーパーアリーナ
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・ハント、五味隆典 vs 石田光洋　ほか

273 point

ライト級3試合にハズレなし! 新キャラ・ミノワマンも堂々誕生

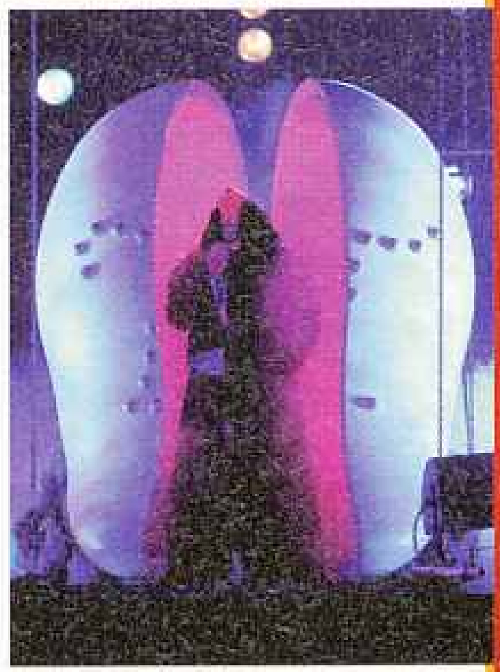


暴れ太鼓、タップダンスに続き、なんと06年は高田本部長のピアノでオープニングを迎えた12.31『男祭り』が2位にランクイン。五味隆典vs石田光洋、青木真也vsヨアキム・ハンセン、ギルバート・メレンデスvs川尻達也というライト級3試合の爆発ぶり、マーク・ハントに追いつめられた皇帝エメリヤーエンコ・ヒョードルの危機、さらにミノワマン（前・美濃輪育久）登場など、ふんだんに盛り込まれた『男祭り』はまさに06年の最後を締めくくる最高のイベントとなった。

5rd
6.17『ハッスル・エイド2006』
さいたまスーパーアリーナ
ザ・エスペランサー vs TAJIRI、
HG & 小島聡 vs ソドム & ゴモラ　ほか

52 point

フジテレビ・ショックの最中 ザ・エスペランサー奇跡の誕生!



「フジテレビ、DSE主催イベント全面放送打ち切り」という大地震の二週間後に開催された6.17『ハッスル・エイド2006』。もはや『ハッスル』には欠かせない存在であったHGの出場が危ぶまれるなど、これこそ「どうなることか!?」と注目されていたが、その逆境を糧にするかのようなとんでもない爆発ぶり！　タマアゴから高田総統の“闘う化身”ザ・エスペランサーが登場するなど、ありえない展開が連発し、地上波で放送されていれば……と悔やまずにはいられない超・極上のイベントに。

4rd
5.3『HERO'S 2006 ミドル級 世界最強王者決定トーナメント 開幕戦』
国立代々木競技場第一体育館
山本KID徳郁 vs 宮田和幸、桜庭和志電撃登場　ほか

91 point

100年に一度の移籍劇! なんと桜庭和志が『HERO'S』に登場!



「桜庭和志、『HERO'S』電撃移籍」の瞬間を目撃することとなった5.3『HERO'S 2006 ミドル級世界最強王者決定トーナメント 開幕戦』。休憩明け、タイガーマスクを被って『HERO'S』のリングに現われた桜庭の姿は、なんとも脳裏から離れないシーンになった。また、この日は山本KID徳郁が宮田和幸を開始4秒、飛びヒザ蹴りでKOするというとんでもない試合もあり、KIDの「ヤベエ。カッコよすぎる、俺」という衝撃の名言も飛び出した。



WORST EVENT

1. 12.31『Dynamite!!』京セラドーム大阪　**884 Point**
   桜庭和志vs秋山成勲、ジャイアント・シルバvs曙 ほか
2. 6.3『K-1 WORLD GP』in SEOUE　**201 Point**
   チェ・ホンマンvsセーム・シュルト、キム・ミンスvsキム・ギョンソック ほか
3. 11.5『武士道-其の十三-』　**130 Point**
   横浜アリーナ
   三崎和雄vsデニス・カーン、五味隆典vsマーカス・アウレリオ ほか
4. 1.4『新日本プロレス 東京ドーム大会』　**97 Point**
   ブロック・レスナーvs中邑真輔、ジャイアント・バーナードvs中西学 ほか
5. 『HERO'S』全般　**78 Point**

ベストイベントにも入選している『Dynamite!!』がまさかの1位。観る人によって評価が違うというのは、やはり格闘技興行のおもしろいところである。また、イベントの開催時間が6時間半にもおよんだ『武士道-其の十三-』にも非常に厳しい声が続々と到来。1.4新日本ドームは前回よりランクアップしているが、逆に今回は“新日本の興行”という漠然とした投票がまったくなかったのは前進といえる。



10th
6.3『K-1 WORLD GP』in SEOLE
チェ・ホンマンvsセーム・シュルト、キム・ミンスvsキム・ギョンソック　ほか
15 point



9th
7.1『PRIDE 無差別級GP 二回戦』さいたまスーパーアリーナ
ヴァンダレイ・シウバvs藤田和之、ミルコ・クロコップvs吉田秀彦　ほか
18 point



8th
12.31『Dynamite!!』京セラドーム大阪
桜庭和志vs秋山成勲、ジャイアント・シルバvs曙　ほか
19 point



7th
12.26『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル part2』後楽園ホール
江頭2:50&“ハッスルあちち”大谷晋二郎&金村金タローvs“モンスター大将”天龍源一郎&“モンスターK”川田利明&恐・イタコ　ほか
26 point



6th
12.2『K-1 WORLD GP2006 決勝戦』東京ドーム
セーム・シュルトvsグラウベ・フェイトーザ、レミー・ボンヤスキーvsステファン・レコ ほか
39 point

ベストイベントでは『ハッスル』『K-1』が上位に食い込んできた。エガちゃん大活躍となった『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』、そして大論争を呼んでいる『Dynamite!!』もやっぱりメディアのパワーで興味深く見た人は多いのだ！

アキバ系戦士・ジョシュ・バーネットの

識者・関係者が独断と偏見で選ぶ



イラスト／中川画伯

阿部タケシ

フリーライター。WWE-DVD.com（ユークス）、WWE公式ファンクラブHPなどで連載を持つ。WWEに限らず広くプロレス・格闘技を観戦。プロ格ファンには伝説のゲーム会社ヒューマンの出身であることは公然の秘密。

①ブードゥ・マーダーズ

②キング・ブッカーvsフィンレーvsボビー・ラシュリーvsバティスタ（10・8 WWE『スマックダウン主催 ノー・マーシー2006 世界ヘビー級王座フェイタル4ウェイマッチ』カンザス・RECセンター／アメリカ）

DXvsマクマホンズ&ビッグショー（9・17 WWE『ロウ主催 アンフォーギヴン2006』エア・カナダ・センター／カナダ）

③4・2『レッスルマニア22』オールステイトアリーナ／アメリカ

④プロレスDVDオブ・ザ・イヤー→『McMahon』（輸入版）

【総括】①正直、MVPは『スマックダウン』のニューカマー、モンテル・ボンタビアス・ポーター（略してMVP）って書こうかと思いました。ですが、そんなベタなことは書かずに真面目に考えた結果、やっぱりブードゥ・マーダーズじゃないですかね？ 日本マット界、どこを見渡しても〝根っこから悪〟は不在。そんな中、どこの団体でも会場をヒートさせ、善悪の構図を作り上げたのは立派。プロレスこそ善と悪による終わりなきマラソンですよぉぉぉ！ これからも観衆を熱くさせる立ち居振る舞いに期待！②ベストバウトは『ロウ』と『スマックダウン』のPPVからそれぞれ。スター不在と言われる『スマックダウン』の中で、これほどまでにハラハラした試合は久々。キング・ブッカーのマヌケ王者路線は、もう少し見たかったなぁ。DXとマクマホンズは、相手に試合開始から最後まで顔が緩みっぱなし。トリプルHの巧さ、HBKの華麗な姿、シェインのポテンシャル、ビンスの憎たらしさ（そしてオチ）、どれをとっても見どころ満載！③『レッスルマニア』は、やっぱり世界最高峰のイベントにふさわしい！ 生で観ると、頭の片隅にずっと置いておきたくなる。イベントに向かっていく練りこまれたアングル、当日の会場の作り、イベントスタートからエンディングまでの作りこみ、どれを取ってもツッコミどころナシです。④団体をひっぱっていく心構えは並大抵じゃねぇです。ビンスの狂いっぷりこそWWEだと再確認できます。まさに死に物狂い！ オーナーのDVDってありえないし、そのボリューム（2枚組130分）もありえません！ マスト・バイ！

稲垣 收

15年間『ゴン格』に書き続けてきたが、昨年、『kami-pro』に初登場。今年は手広く仕事をしてMR-S購入をもくろむ。

①あなたが考える2006年のMVP ②あなたが考える2006年のベストバウト ③あなたが考える2006年のベストイベント ④そのほか、個人が一方的に贈る賞

kamipro AWARD 2006

①ジョルジュ・サンピエール
②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ジョシュ・バーネット（12・31『PRIDE男祭り2006―FUMETSU―』さいたまスーパーアリーナ）
③6・30『K―1 World MAX 2006決勝大会』横浜アリーナ
④最後まで感動をありがとう賞→髙阪剛&小林聡

【総括】①"UFCウェルター級の絶対王者"、"パウンド・フォー・パウンド最強"と言われたマット・ヒューズを左ハイで衝撃KO。打撃、寝技、レスリングとも完璧なまさにオールラウンドなMMAファイター。②ジョシュの脳天から落下させるスラムを食らいながらも大逆転し、不屈のバイーア魂を見せたノゲイラ。今年こそ王座復活を期待したい。連戦につぐ連戦にもかかわらず名勝負を見せ続けるジョシュにも拍手。③無差別級GP決勝大会も凄かったが、あのMAX世界大会はやはりはずせない。魔裟斗vsコヒ、そして圧倒的な強さで優勝したブアカーオの迫力。ブアカーオにはMVPも送りたいほど。④命懸けでハントと真っ向から打ち合った高阪、そしてムエタイ4冠王ジャルンチャイ・ケーサージムを最後の相手に選んだ小林。どちらも長年にわたって感動をありがとう!

イナズマK

本名は土屋恵介。音楽ライター兼プロレス格闘技デスマッチ探求家。仕事では日本人のミュージシャンの取材が中心ですが、普段はハウスの12インチとかディスコ、へんなロックやフュージョンばっか買ってます。昨年はやたら、おでん屋『6(ROKU)』でDJしてました。06年の個人的MVP DJはMOODMANとJAYPEGです!

①"黒天使"沼澤邪鬼
②"黒天使"沼澤邪鬼 vs 佐々木貴（6・26『大日本プロレス』後楽園ホール）
③1・17『マッスル9』北沢タウンホール
④グラップリング復権賞→青木真也

【総括】①四天王時代の全日本プロレスのごとく、同じメンツながらも毎試合、新鮮な攻防を見せてくれる現在の大日本プロレス。エース伊東竜二が欠場する中、それを感じさせないくらい団体をひっぱる選手として、06年完全にその存在感を確立した"黒天使"沼澤邪鬼。これまで彼の経緯を見てきたものとして、ここまで頼もしい選手になったのはホント素晴らしいなと思ってます。同じく大日本の関本大介ですが、他団体に出ても恐ろしいくらいの存在感を放ちまくっており、彼も素晴らしすぎです。②21世紀デスマッチ名勝負数え唄状態の両者ですが、この日の試合は攻防もさることながらフィニッシュが秀逸。真ん中からボッキリ折れた蛍光灯の束。その筒状態になったモノを佐々木が沼澤の顔にすっぽりかぶせてキック! あのときの沼澤は、まさに映画『気狂いピエロ』のエンディングで、ジャン＝ポール・ベルモンドが爆弾の束をかぶったときと同じ状態。大日本がゴダールとリンクするなんて! と一人で悶絶しました。いまの大日本はデスマッチ・ヌーヴェルヴァーグってことなのか!? ③『マッスル』のおもしろさは誰もが認めるとこだけど、やっぱ『マッスル9』ですよね。新北京プロレスにリングが控え室、「泣いて馬謖を斬る」、そしてラストの長渕剛の『CLOSE YOUR EYES』! 完璧!! ④自分は格闘技も大好きなんです（柔術の練習はしばらくやれてませんが）。パウンド至上主義傾向のいまの格闘技界に、キラ星のごとく登場した青木真也には、ホントヤラれました。よい感じのグラップリングがフィニッシュの試合がもっと見たいとこです。と言いながら彼のアニキぶん、足関十段・今成が山崎剛を下からの蹴りでKOした『DEEP 28 IMPACT』の試合も最高にシビれました!

乾 晋也

『kamipro Special』07年冬号のモンスター写真館では、元フライデー専属カメラマンとしての腕を遺憾なく発揮。現在はフリーとして、事務所Mark Photo Press（マーク・フォト・プレス）を設立。

①『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』優勝後のミルコ・クロコップ
②宮田和幸 vs 山本KID徳郁（5・3『HERO'S 2006ミドル級世界最強王者決定トーナメント開幕戦』国立代々木競技場第一体育館）
③10・21『PRIDE・32 THE REAL DEAL』トーマス&マックセンター
④アメリカ人に人情&浪花節を知らしめたで賞→マーク・コールマン



【総括】①やっと手に入れたベルトを締め、涙するミルコでMVP文句なしでしょう。UFCにベルト持ったまま移籍! が減点でもいたしかたないか。②総合格闘技最短の4秒（おそらく）試合を見せつけたこの試合に決まり。山本KID徳郁のスター性に感服。③幾多の障害を乗り越え実現したアメリカ進出のこの試合に決定。会場の雰囲気、アメリカ人ファンの盛り上がりともに最高でした! ④伝説の『猪木祭り』での安田忠夫を思い出させるマーク・コールマンと娘の抱擁が殺伐とした格闘技界に、人のぬくもりを感じさせてくれたことに感謝。

井上崇宏

携帯サイト『スカパー!バトルLIFE!!』の制作などを行なっているペールワンズの代表。あだ名は"井上きびだんご"。毎日ハブ粉を愛飲している35歳ナイスガイ。

①"brother"YASSHI
②馳浩&小島聡&中嶋勝彦 vs TARU&諏訪魔&"brother"YASSHI（8・27『全日本プロレス プロレスLOVE in 両国』両国国技館）
③5・3『HERO'S 2006ミドル級 世界最強王者決定トーナメント開幕戦』国立代々木競技場第一体育館
④ベスト・ルールブック賞→『男子のための人生のルール』玉袋筋太郎（理論社）

【総括】①MVPは一番難しいと思われるストロングスタイルを一人体現し、陰日向に咲く柴田勝頼かとも思ったが、結局、年間を通じて楽しませてくれたYASSHIに軍配。センスや言語感覚より何よりルックスがほぼ完璧! いい顔してます。しかし柴田のTARU戦や浜中戦などはホント"金曜夜8時"がよみがえってくる感じ。皆さんも観たほうがいいですよ。②やっぱ底抜けに笑えて、燃えて、泣けた馳センセの引退試合。プロレスのいわゆるキラー猪木的要素以外のモノはすべてぎっしり詰まっていた。まさにベストバウト。また、リングサイドの森喜朗（元首相）をガチ急襲したブードゥ・マーダーズの仕事ぶりは、『紅白歌合戦』でのDJ OZMAのそれと同等かそれ以上の評価をされてしかるべき。やらずにはいられなかったんでしょう。③イベントというよりも桜庭和志の『PRIDE』離脱→『HERO'S』参戦表明には心底驚いた。そのあと8月のスミルノヴァス戦、大晦日の秋山戦と06年の桜庭選手は次々と問題提起、もしくは問題に巻き込まれた感じ。07年は桜庭選手のカムバックの仕方に何よりも注目。総合格闘技の"総合"って幅もどんどん広くなっていくなあ。④映画『スクール・オブ・ロック』同様、息子がそういう年頃になったときに触れさせたいものの一つ。なおかつ、大人のボクにも数発延髄斬りを入れられた感触あり。延髄斬りといえば、アントニオ猪木が言う「プロレス人気は10年周期」というのは、甲本ヒロトの「10年に一回ずつ、ロック界に何かが起きて矯正される」理論と同じ意味だと思う。そしていま、わけがわかんなくなっているプロレスもそろそろ矯正前夜を迎えているような気配を感じませんか? しかし猪木に元気がないとつまらん。

大川義之

韓国格闘技界を鋭い視点かつ温かく見守る、韓国在住ライター。

①デニス・カーン
②桜庭和志 vs 秋山成勲（12・31『Dynamite!!』京セラドーム大阪）
③6・3『K―1 WORLD GP 2006 アジアGP in ソウル』ソウル・オリンピック第1体育館／韓国
④話題賞→秋山成勲　次点　イ・テヒョン

【総括】①今年は本格的に『PRIDE』に定着し、ウェルター級のトップファイターに浮上した。ウェルター級GPでは、ニンジャ、スロエフ、郷野らの難敵を抜群の試合内容で破り、堂々の準優勝をはたした。GP決勝大会の直前に婚約者を亡くし、肩を負傷しながらも決勝まで闘い抜いた彼の姿は見る者を感動させた。②試合前は、両者の接点や見どころらしいものがつかみづらいカードだったが、終わってみれば一般人を大きく巻き込む話題満載の試合となった。いろんな意味で間違いなく格闘技史上に残る試合。③谷川貞治K―1イベントプロデューサー（以下EP）が考える一つの理想郷が実現した大会。シュルト、ホンマン、シルム戦士らの肉弾ファイターが続々とリングに現われるさまは、まさに壮観のフリークショー。キム・ミンスの意外な個性と気迫が大会を成功に導いた。④話題賞は初代『HERO'S』王者となり、桜庭との世紀の一戦をノーコンテストにした張本人である秋山を迷わず選出。次点は、韓国のウェブサイトで「06年でもっとも話題になった人」の部門で、2位のホンマンに約11倍の得票差をつけてぶっちぎりの1位になったこの人。ホンマンと同等のネームバリューを持つイ・テヒョンの惨敗は、韓国人にとって相当ショッキングな事件であったらしい。

掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）

去年は「男は橋を使わない！」などと、うっかり言ってしまったがためにギャルやキャバ嬢にまで、うしろ指を指されてゲラゲラ笑われるようになりました。うれしかったです。

①真琴
②大鷲透&アメリカン・バルーンvs男色ディーノ&中澤マイケル（12・17『DDT』新潟フェイズ）
③10・15『アイスリボン』千本桜ホール
④死んでもなお草葉の陰からテーブルをドンッ！ と叩き続ける男賞→井上義啓

【総括】真琴とアメバルの試合が見たくて去年になって『FIGHTING TVサムライ』加入。ポーゴさんが伊勢崎市内のホテルのパーティで暴れ、相手レスラーに一升酒を飲ませてKOする模様等まで放送する『サムライ』って大変な仕事だなと思いました。絶対就職したくない会社ナンバーワン。今年も出自が怪しいインチキレスラーや極端に弱いチンタラレスラーやヨイヨイのロートルレスラーなどの涙が出るほどどうしようもない試合をバリバリに放送し続けて、我々を楽しませてほしいです。

金沢克彦

『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして絶賛活動中。新日系レスラーの信頼度は絶大！ でも夏目ナナちゃんにはメロメロ。トレードマークの帽子はいまや欠かせない本誌凸凹大学校特別講師。

①『風になれ』鈴木みのる、金沢克彦（東邦出版）
②鈴木みのるvsメカマミー（6・23『UD:FIESTA』後楽園ホール）
③7・16『NOAH Summer Navigation,06最終戦』日本武道館
④貴女、プロレスの味方で賞→夏目ナナ

【総括】①06年プロレス界でもっとも活躍した男、鈴木みのるを観戦するための必需本。みのる観戦マニュアル本といえるだろう。後藤達俊は「おもしろい！ あいつの話は全部シュートだから」と大喜びも、「オレが酔って包丁を振り回す話だけは削ってほしかったよな」と苦笑い。藤原組長は「みのるも成長したよなあ。ウン、大人になった」としみじみ。まぁ、全日本から『NOAH』から新日本から『ハッスル』から各インディーから、みのるの入場曲『風になれ』が流れるだけで、場内に異常な期待感が渦巻くことも含め、MVPは『風になれ』に決定。で、本の著者は誰なの？ みのるとGKだってさあ（笑）。じゃあ、やっぱ買うしかねえだろ！②振り返ってみると、なぜかこれしか記憶に残っていない（笑）。ということは、これがベストだ。「誰のおかげで話題賞が獲れたと思ってんだ？」とみのるが言えば、「誰のおかげでMVPが獲れたと思ってんだ？」とメカが切り返す。なぜか息ピッタリ。人間とメカの心が通じ合った歴史的名勝負だったということですね。③2年前、脳梗塞で倒れた帝王・高山善廣の復帰戦一本で勝負した武道館大会。その直前に小橋建太が腎臓癌摘出手術のため入院。急きょ、高山のパートナーを受諾したのは佐々木健介だったが、代替カード発表の直後、左眼窩底骨折の重傷を負ってしまった。ところが、その事実をひた隠しにした健介は、入院中の病院に外出届けを提出しての強行出場。もう表と裏で凄まじすぎる、男臭いドラマが渦巻いていた。なんかプロレスラーって凄いよ。でも、女も凄い。相手の頭突きをくらって鼻骨を複雑骨折したまま試合を続行した浜口京子もスゲェーなと思う。④いまどき総合やK－1に走ることなく〝プロレス一筋〟〝プロレスLOVE〟を貫くナナちゃんはじつにエライ！ 一方、『PRIDE』PPV中継の放送席で、トンチンカンなコメントを連発する女の子たちも、ある意味凄いぞ

菊地成孔

音楽家であり文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。格闘技批評として『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜』（白夜書房）。

①朝青龍
②ミルコ・クロコップvsジョシュ・バーネット（9・10『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『PRIDE男祭り2006—FUMETSU—』さいたまスーパーアリーナ
④ベスト・ニューカマー→青木真也
ベスト・クリエイター→須藤元気
ベスト・コピーライト→『PRIDE』の大会コピーを書いている人

【総括】①奇をてらっているようですが、「とにかく一番、超人的に強い」ということを突き詰めた結果、ヒョードルを僅差で破って朝青龍です。11月場所で見せたいくつかの決まり手（とくに琴奨菊に決めた上手投げ）は相撲技を超えた戦慄の壊し技で、「くらったら死ぬな」という感覚をパウンドやスタンドの打撃以外で、リアルに感じるのはひさしぶりでした。②『PRIDE』瀕死の状態で行なわれた大会中、もっとも美しかった試合。『PRIDE』を救おうとするジョシュと、誕生日のエゴイズムに取り憑かれたミルコという対比。そんなジョシュがレフェリーチェック時に、そんなミルコの顔面（とくに目と鼻）を気づかい、最後には目を潰されるという物語性などビューティフルでした。③本誌のインタビューで詳述してます。④さわやかさ、初々しさと凄みが同居。とくに大晦日のヨアキム・ハンセン戦は、初めて髪を伸ばし、青年っぽい顔つきを見せたハンセンのルックス効果も含め、トライアングル・チョークというより〝脚ギロチン〟といったフィニッシュまでが名勝負でした。須藤選手は、とにかくやることなすことすべてクリエイティブで、どこに出てもハズさない（CD以外は）という能力が静かにピークに達し、引退した年だと思います。こしゃくに思う人もいるでしょうが、なかなかできることじゃありません。『PRIDE』の大会コピーは、コンビニでポスターを見てるだけで、電報で通信しているような錯覚にとらわれるほど痛切なものでした。



佐藤大輔

97年フジテレビ入社。スポーツ局で『PRIDE』シリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』、『F1GP』などの番組を手がける。昨年10月にフジテレビを退社して独立。『PRIDE』の煽りV担当として奇跡のカムバック。

①榊原信行DSE代表
②五味隆典vsマーカス・アウレリオ（4・2『PRIDE武士道 —其の拾—』有明コロシアム&11・5『PRIDE武士道 —其の十三— PRIDEライト級タイトルマッチ』横浜アリーナ）
③11・5『PRIDE武士道 —其の十三— PRIDEウェルター級GP2006 決勝戦』横浜アリーナ
④頑張ってほしいで賞→ミルコ・クロコップ

【総括】①真のドラマ、ドキュメンタリーはこの男の周辺にある。お世辞でもおべんちゃらでもなく、しんどすぎる状況の中、真っ裸で働く姿に男の仕事を見ました。人間あきらめなければ、絶対に道は開けるんだなと思った。②この二戦通じていい顔になったなぁと。何かを背負った男は格好いい。③個人的な想いですみません。オープニングVTRの高揚感から6時間半後、なんともいえぬ疲労感とともにこれから先の将来の長さも感じました。④一人でクロアチアに行き、ミルコが息子イワン君を笑顔で抱き上げるシーンと、極寒大雪のプレブラカ村でお父様の墓を撮影したのが、いまとなっては本当に心にしみる思い出です。去年一年で『PRIDE』は地肩が本当に強くなったと思います。フジテレビのおかげですね。

佐藤 譲

音楽ライター。ほかにもゲーム、芸能、マンガ、食、プロレスなど各誌で様々なコラムやインタビューなどを執筆中。片瀬那奈のよくわからないテンションがとても好き。

①該当なし
②丸藤正道vsKENTA（1・22『NOAH The First Navigation,06最終戦』日本武道館）
③9・29『マッスル11』北沢タウンホール
④屋台骨支えたで賞→RG

【総括】①そもそも足を運んで観ているのが、『PRIDE』、『ハッスル』、『マッスル』、『NOAH』とただでさえ狭い上に、さらに06年に入ってからは加齢のせいか、興行時間の長い『PRIDE』を敬遠するようになっていたらく。そんな自分がエラそうにアンケートに答えるのはなんだか申し訳ない気持ちでいっぱいだけどガンバリスト俊。MVPに関しては今年はどの団体も総合力で勝負しており、一人で団体を牽引していくようなレスラーはいなかったように感じたので、MVPは該当なし。②ベストバウトは1月の丸藤vsKENTA戦。10月の同カードでは危険な技もいっぱい飛び出し、強いインパクトを見るものに強く植え付けたが、試合としては1月のほうがテンポも流れもレスラーの感情も充実していたように感じられた。③団体が総合力で勝負している現在、ベストイベントはMVPよりも重要なパートだと考える。ザ・エスペランサーが初めて登場した『ハッスル・エイド2006』とどちらにするか悩んだ（そもそも規模的にも比較するようなモノでないとも思う）が、ハプニングを乗り越えるその執念にこそ鳥肌が立ったものの、以降の展開を難しくしてしまった感のある『ハッスル』に比べ、きちっと一回完結のストーリーとポジティブなエネルギーで「次も絶対に満足させてくれる」という信頼を勝ち得た『マッスル』の完成度の高い興行に軍配が上がった。いずれにせよ、勝った負けた以上の何かを提供してくれるのがプロレスだと考えている筆者にとって、その何かを提供しようとしているこの二つのイベントは群を抜いていたように感じられる。④〝屋台骨支えたで賞〟としてRGを挙げたい。『ハッスル』の中でも一番の成長株であり、身体を張っていたように感じた。芸人がここまでやってくれるのだから『ハッスル』のレスラーたちも、3ヵ月の休止期間により一層の奮起と進化を期待したい。とくに小川。お客は正直だ。団体乱立、客分散が続く現在のプロレス界だが、そのぶん来てくれる観客を満足させるように努力している団体が増えたように感じた。プロレスはエンターテインメントである。作る側、見る側ともにその原点を見つめる作業が活発に行なわれた一年だったように思う。

①あなたが考える2006年のMVP ②あなたが考える2006年のベストバウト ③あなたが考える2006年のベストイベント ④そのほか、個人が一方的に贈る賞

kamipro AWARD 2006

椎名基樹

放送作家。構成作家。ライター。代表作に『ココリコミラクルタイプ』（フジテレビ）、『バカはサイレンで泣く』（週刊SPA！）など。

①青木真也
②ルイス・アゼレード vs ヨアキム・ハンセン（4・20『PRIDE武士道―其の拾―』有明コロシアム）
③『PRIDE』すべての大会
④優勝おめでとう賞→ミルコ・クロコップ

【総括】①新たな真也誕生。白い術師。②総合のアートのような試合。③『PRIDE』のクオリティは素晴らしすぎる。奇跡のような団体。④悲願達成。勇気をもらった。でも、いかないで～！

スコット・ピーターソン

アメリカの格闘技サイト『MMA WEEKLY』編集者。母国アメリカはもちろん、東京は八王子にも住居あり。格闘技興行を追いかけて世界各国を飛び回る。http://www.mmaweekly.com/

①ジョルジュ・サンピエール
②ギルバート・メレンデス vs 川尻達也（12・31『PRIDE男祭り2006―FUMETSU―』さいたまスーパーアリーナ）
③9・10『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ
④団体運営に抜け目がないで賞→ダナ・ホワイト

【総括】①ケガを抱えていたにも関わらず、UFCウェルター級トップ3のうち二人を倒したサンピエールがMVP。BJペンとの試合では激しい接戦の中、折れない心をファンに見せつけ、次の試合で世界最強の〝パウンド・フォー・パウンド・ファイター〟マット・ヒューズを撃破した。②ライト級が今後の『PRIDE』で主役になりえるかという人々の疑問に明確な答えを出した試合。答えは当然、イエス。この二人はフィジカルな激しさに加えて、ハートの強さという、まさに観客が期待していたモノをリングに持ち込んでみせた。この試合に敗者はなかったと言いきっていい。③正直言って昨年は、05年の『PRIDE武士道―其の九―』のような際立った大会はなかったと思う。このベストイベントにしても、最初から最後の試合まですべてがよかったわけではないが、コントロールの効かないトーナメントの決勝戦で美しいフィナーレを作れたことはオーガナイザーとして素晴らしい。またヘビー級トップ3にバーネットがくい込んできたことが『PRIDE』にもたらしたものも大きい。苦労を積み重ねた末にベルトを奪取したミルコの戴冠劇もよかった。④今年UFCのPPVが爆発し、ダナのこれまでの労力がついに実を結んだといえる。米国内ではPPV件数でWWEを追い越し、ボクシングと競うまでになったUFCがMMA業界を完全に支配。ケーブルテレビでの露出においても、スパイクTVと契約している上に、WEC買収により他団体のTV進出を妨害するなど突出した状態。ミルコを獲得した今年、抜け目ないダナの、さらなるビジネスプランが見もの。

須羽ミツ夫

総合格闘技に日々没頭する新参者。06年、個人的に一番納得いかなかったのは時東ぁみの存在。メガネかければチヤホヤされるっていうんだったら、オレだってかけるよ！

①ミルコ・クロコップ
②マーク・ハント vs 髙阪剛（5・5『PRIDE無差別級GP2006開幕戦』京セラ・大阪ドーム）
③9・10『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ
④裏でこっそりMVP賞→秋山成勲

【総括】①思いつくままに選んだら『PRIDE』ばかりになってしまったがしょうがないよね？ MVPは迷わずミルコ。無差別級GPで圧倒的な力を見せて優勝（涙にも惚れた！）したと思ったら、狂喜したファンを突き落とすようなUFC移籍。正式発表されるまでの情報の錯綜ぶりも含めて、下半期はミルコに振り回された。そんなミルコのトリコ♥②ベストバウトはもうこれしかない！ TKが見せてくれた〝理想の散り際〟は、まちがいなく伝説となることだろう。本当に涙なしには見られない試合だった。これこそが〝感動をありがとう〟だろうよ！ TKおつかれさまでした！③ベストイベントは、もの凄かった無差別級GPの試合とダメダメだったワンマッチの対比も含めてこの日。「GPを食ってやる！」でいいはずのワンマッチが、頼まれてもいないのに必要以上に引き立て役に徹したというか。しかし無差別級GPの3試合は、間違いなく世界最高峰！ 4人が4人とも、あまりにもドラマチックな闘いぶりを見せてくれて大満足！ こういうとき、日本人でよかったと思うよね。④そして問題の賞。本当は、秋山はMVPもらってもおかしくないぐらいの活躍だったんじゃないかと思う。去年が終わった時点では（裁定変更前なので）6戦全勝、しかも試合のたびに話題になりまくった。勝利に向かって最善を尽くすという姿勢も高評価！ マヌーフに勝った試合なんか、本気でベストバウト候補の一つだし。でも堂々とMVPにしたらいろいろとナニかもしれないので、裏でこっそりあげようと思います。個人的には『HERO'Sライトヘビー級トーナメント』に優勝したあとのマイク、「チャンピオンに、（一拍タメ）なってしまいました」という口調がかなりツボ。上目遣いで、微妙にすくい上げるように顔を上げながら言うのがコツです。

せきしろ

ライター。コラムニスト。伊集院光氏のラジオ番組で作家見習いのあと雑誌にてデビュー。06年7月『南海キャンディーズ山里亮太のオールナイトニッポンR』（ニッポン放送）の構成を担当。近書に『去年ルノアールで』（マガジンハウス）。

①天山広吉
②秋山準 vs 丸藤正道（9・9『NOAH Shiny Navigation'06最終戦』）
③7・27『WAR FINAL～REBORN to FUTURE～』後楽園ホール
④伏線賞→田上明

【総括】①G1を制し、新たな軍団を作った功績を称えて。②なんだかんだでお菓子を食べるのも忘れて見入ってしまいました。③タイムマシンが発明されたときの気分を味わえました。④06年に主だった活躍がなかった田上ですが、すべては07年に〝噴火〟するための伏線であると決めつけての賞。『秩父セメント』に続く『秩父事件』や『秩父ミューズパーク』、『山田温泉』などの新技が登場することを願いましょう。

仙波久幸

某写真週刊誌『フライデー』編集次長。昨年9月、IWGPのベルト奪取に成功し（HG&棚橋&RG座談会を行なった際、本物を約30秒肩にかけただけで、腰にはチビッて巻けず）、年末には、93年のアントン騒動後、13年半ぶりに元UFO〝ガチンコ〟社長と対面し会食したとの噂。最近の自慢のアイテムは、小川直也が愛用するイタリア製腕時計『MAVERTEAM』（文字盤が大きいオシャレなデザインで注目）の超貴重なオーちゃん仕様の〝エイの皮ベルト〟時計とか。代官山のごはん処『わたる』の常連客。



①坂田亘 with えい子
②藤田和之 vs ヴァンダレイ・シウバ（7・1『PRIDE無差別級GP二回戦』さいたまスーパーアリーナ）
③11・23『ハッスル・マニア2006』横浜アリーナ
④名勝負製造機で賞&新人賞→RG

【総括】①昨年は小誌（『フライデー』）にデート写真が〝大見出し〟で堂々載ってしまいましたが（苦笑）。『ハッスル』5代目GMに就任して以降、それまで〝一人ナルシー〟に実際のファンは本当にいるのか？ とまでささやかれていた坂田氏の存在感が一気に急上昇。そこには、えい子女史のかいがいしい〝内助の功〟ぶりが感じられ、かつての〝猪木 with 美津子〟を目指すのかと思ってしまうほどの勢い。きっとGMトークの練習リハを二人きりで真剣にやってんだろうなぁ？ そんな努力のたまもの、存在感の超大幅アップグレードぶりにMVPを！ で、坂田氏がトークのアドリブまでうまくなったのは喜ばしいんだけど、（12・25に）リング上で高田総統とやりとりしてる際、さりげなくうしろを振り向いて誰かさん（えい子サン？）にチラッとアイコンタクトする余裕をみせるのはラブラブすぎるので控えてほしいです（笑）。②無言の興奮で震えながら観戦。藤田は負けはしたけど、人生の縮図的な熱いものを感じさせてくれた。大晦日には勝って07年に希望を持たせてくれたし、いつか機が熟したときのビッグイベントで、吉田秀彦戦実現を期待したい。③遠からずの将来、大化けしそうな要素が盛りだくさんの興行だった。『ハッスル』は次につながるものやサプライズが何かかならずあるところが嬉しい。個人的には、キャプテン（小川）なくして『ハッスル』なしと思ってます、ハイ。④ずっこけキャラからハードコアまで文字どおり身体を張ってリアルにガンバり、本職のレスラーには光ってもらう気配りを見せつつ、自らはアッと驚くムーブをやってのける一生懸命な姿はリスペクトに値する。背中張り手をくらったあとの〝もみじ〟具合は、芸術的一品で〝RG名物〟になりそうな気配だ。いつもどうすればプロレスがよくなるかを考えているし、この際、かつて立命館大の『うんこ軍団』チン先真性時代に得意だったらしい、トップロープの拝み渡りなんかもアレンジしながら取り混ぜてほしいですヨーヨーヨー!!

ターザン山本！

元『週刊プロレス』編集長。プロレス&格闘技の媒体を中心にゲリラ的に出演。自ら日記を綴るサイト『ターザンカフェ』も稼働中。http://www.ibjcafe.com/talk/tarzan/

①亀田ファミリー
②田村潔司 vs ミノワマン（12・31『PRIDE男祭り2006―FUMETSU―』さいたまスーパーアリーナ）
③8・2『WBAライトフライ級タイトルマッチ 亀田興毅 vs ファン・ランダエタ』横浜アリーナ
④女は最強だ賞→ジャガー横田

【総括】06年の流行語はボク的には絶対に〝疑惑〟だ

アキバ系戦士・ジョシュ・バーネットの

った。耐震偽装、パロマ疑惑、『タウンミーティング』のやらせ質問、知事による談合事件など、その疑惑が大爆発したのが例の亀田vsランダエタ戦。あれは日本列島を物議列島に早変わりさせた一大イベント。いや疑惑の試合が巨大なワイドショーと化したのだ。あきらかにそれはプロレスだった。亀田ファミリーにMVPを贈りたい気分だ。それに比べたら、プロレス界のスケール感のなさはヒドすぎる。世間を巻き込むパワーをまったくなくしてしまった。もはやオールインディーズである。だったら、『マッスル』が裏MVPだろう。つまりこんなな世の中がいかにイノセントな力を保つことが、いかに難しいかということである『マッスル』には透明感がある。そして田村潔司という男にも同様にイノセントな希望を感じた。45歳で36時間かけて男の子を産んだジャガー横田にもボクはトゥルース（真実）な力を感じたのだった。

中村カタブツ君

元『紙のプロレスRADICAL』編集者。現在は一児の父。オトコを刺激する情報マガジン『R25』など、多方面で執筆中。

①佐山聡
②曙vsジャイアント・シルバ（12・31『Dynamite!!』京セラドーム大阪）
③リアルジャパンプロレス興行全部です
④なし

【総括】①去年観戦した試合は、メカマミーやUWA-28号やリアルジャパンプロレスだけなので、MVPは掣圏真陰流の総本山・興義館を立ち上げ、リアルジャパンプロレスも完全に軌道に乗せた佐山皇帝に決定。じつは昨年の皇帝は格闘技界にも貢献しており、SKアブソリュートの長谷川秀彦選手には打撃を伝授し、打撃が怖いというパレストラ八王子の鹿又智成選手には精神面の強化を行なっていた。そのおかげで長谷川選手は『DEEP』で好成績を上げ、鹿又選手はイギリスのケージファイト『ケージ・ウォリアーズ ショーダウン2』で全試合一本勝ちで優勝という快挙を成し遂げているので、やはり佐山皇帝は天才だったのである。②その一方、佐山皇帝をもってしても結果を出せない曙の試合も素晴らしい。「ボクシングならヘビー級チャンピオンにもなれる」と皇帝からお墨つきをもらい、スパーリングパートナーの桜木裕司選手からは「横綱の動きは速いですよ！ 見たらわかります！」という話を聞かされ、個人的には"速く動く曙"を期待していたのにあの結果。ゆるぎないロクデナシぶりは永遠に健在。③昨年のリアルジャパンは丸藤正道、鈴木みのると『東スポ』プロレス大賞にからんだ男たちが次々登場。その一方で真剣を使用した撃剣試合があったり、織田無道が登場したり、玉石混淆ぶりでは他の追随を許さぬビックリ箱状態であった。しかも、今年は昨年以上に大きな動きがある様子なので、ますます目が離せないわけである。

橋本宗洋

ライター。11月に小林聡が引退表明、大晦日には須藤元気も引退、さらに近藤有己が沈没（としかいいようがない）と06年はこれまで追いかけてきた選手が次々に……。だがミノワマンは07年もイケる！ 押切伸一氏とのブログ『格闘まむしの兄弟』http://ma64.blog77.fc2.com/ もよろしく！

①緒形健一
②緒形健一vsアンディ・サワー（11・3『S-cup 2006』両国国技館）
③10・21『PRIDE.32 THE REAL DEAL』トーマス&マックセンター
④最優秀新人賞（男子）→ザ・エスペランサー
最優秀新人賞（女子）→真琴
最優秀新人賞（メカ）→メカマミー
特別功労賞→小林聡

【総括】①MVP候補にはほかにジョシュ・バーネットや山内裕太郎がいたり、ベストバウト候補も山本元気vsワンロップ、山内裕太郎vs白虎、米田貴志vsタップナー、ジョシュvsノゲイラ（一戦目）などなど例年以上の"豊作"っぷりだったのだが、やはりトップはシュートボクシング・緒形健一の『S-cup』優勝だ。格闘技を観ていて、こんなに嬉しかったのは初めてだった。普通の選手だったらとっくに引退してるような決定的敗北、負傷を乗り越えて、ついにつかんだ栄冠。しかも対日本人無敗のサワーを倒しての優勝だから感動的すぎた。マット界で何が起ころうともシュートボクシングという自分が最初に選んだ道にこだわり続け、そして結果を出した緒形。絵に描いたような"次"を見ているのがまたいい。②ベストイベントは『PRIDE』海外初進出の記念すべき大会に。試合内容もファンの反応も予想以上だったし、なにしろ初開催ということで混乱を極めた出張取材全体が印象深い。次点は全日本キックの年間全興行。しかるべき選手にチャンスを与え、そこで出た結果を次の興行に活かす手腕は見事だった。③個人賞は新人賞をプロレスラーに。この3人のおかげで、個人的にプロレス・プチ復興の年になった。だが何より、06年は小林聡が引退を表明した年として一生、忘れられないものになるだろう。

花くまゆうさく

本誌コラムも好評連載中の売れっ子マンガ家&イラストレーター。ブラジリアン柔術は茶帯の腕前。『メカ★アフロくん 爆裂会社編』（マガジンハウス）発売中。

①青木真也
②思い出せない
③思い出せない。しいて言えば10・9『Gi-グラップリング2006』ディファ有明。
④俺様大賞→エディ・ブラボー

【総括】①上からパウンドだけのクソつまらないスタイ

ルの多い現在の総合マット界において、あれだけ極めまくって勝つからエラい。とくに下から極めるのがいい。下からの極めにはカタルシス感じる。②よく考え、思い出せばいろいろあるんだろうけど、時間ないので思いだしません。③これも②と同じだが、『G1グラップリング2006』がよかったのはすぐ浮かんだ。門脇の活躍が光っていた。④試合も話術もおもしろい。こないだのサブミッション魂でも一番よかった。毒吐きながらも柔術への思いが伝わります。『PRIDE』や『HERO'S』の日本実況席に彼がいたらおもしろくて高度な解説聞けるのになあ。

原タコヤキ君

元『紙のプロレス』編集者。現在は銀座のとある会社に勤務。自身がパーソナリティを務め、プロレス&格闘技のウラ情報を発信するポッドキャスティング番組『銀座プロレスNOW!!!』も好評発信中。http://tacokibi.cocolog-nifty.com/

①鈴木みのる
②馳浩&小島聡&中嶋勝彦vsTARU&諏訪魔&"brother"YASSHI（8・27『全日本プロレス プロレスLOVE in 両国』両国国技館）
③5・5『PRIDE無差別級GP2006開幕戦』大阪ドーム
④「井上の前に井上なく、井上の後に井上なし」で賞→井上義啓

【総括】①まあ、ベストバウトということで、メカマミー戦を挙げたかったのですがプロレス大賞にならってみました。あの試合をナマで観られてよかったです。②これまでプロレスラーの引退試合は、髙田vs田村以上はあり得ないと思っていました。もちろん猪木さんのように、試合以外でのセレモニーが素晴らしいってのもあるんですけど。しかし、この馳引退試合は、笑えて泣ける名勝負として成立してしまったからビックリです。以前、前田日明氏から「おまえは馳だ！」と言われたことがあるのですが、いやもったいない話です。めざせ、馳浩！③ズバリ、大会そのものもよかったですけど、TK引退は凄かった！ 翌日、ガンツを連れてTKのご両親にインタビューしたのもいい思い出です。④まあ、こういうことですわ。なんだか引退やらご冥福やら、去っていった人ばかりが印象に残ってし



まった06年ですが、結局プロレスや格闘技を観るという行為は記憶の中にしかないんですよね。ガチンコも好きですが、プロレスも悪くないよって感じです。

原 正英

通称、原記者。小学校1年のとき馬場vsボボ・ブラジル戦をテレビ観戦して以後、プロレスを見始める。そのあとアントニオ猪木の追っかけ日本一となる。大学卒業後、『エキサイティングプロレス』（廃刊）の記者を経て、『週刊ゴング』女子プロ番記者となり、取材キャリア23年。06年にフリーとなる。07年はコレクションの山下清画伯の幻の絵画をなぜか公開予定。

①木村響子
②吉田万里子vs木村響子（7・16『第8回 息吹』新宿FACE）
③8・26『T-1スペシャル』西調布アリーナ
④女子プロの希望で賞→希月あおい

【総括】①JWPを退団してフリー選手となった木村は、06年度の女子プロ界でじつにイキイキしていた。本人にとっても満足のいく一年であっただろう。試合内容もよく、評価されたのでいろいろなリングで暴れることができた。②このカードを見ると木村には悪いが吉田の勝ちを予想した。しかし結果は木村が辛勝した。いい意味で予想をくつがえした木村を賞讃したい。時間切れ寸前の木村の全力ファイトはインパクトあった。③『kami-pro』な見方をすれば『T-1スペシャル』は無視できない。かくいう私もT-1の二見氏のパワーには脱帽する。調布大会では会場は狭かったが、お客さんがあれほど入るとは（実数70人か）。新聞で報じられない真実がある。④私が初めて希月の試合を観たとき、失礼ながら彼女の顔を見て笑ってしまった。どことなくユーモラスさを感じたからだ。待てよ、ウラを返せばそれだけ個性があるということか。とにかく元気な女子プロ界の新生で期待大。

平工幸雄

プロレスを撮り続けて20年以上のベテランカメラマン。本誌No.105ではサイモン猪木氏の写真をマトリックスふうに加工。今日もリングサイドで撮影するナイスミドル。

①TARU
②小橋建太vsKENTA（3・5『NOAH Navigate for Evolution'06 最終戦』日本武道館）
③該当なし
④よく受け（ウケ）たで賞→RG

【総括】①ひさしぶりにヒールらしいヒールが出てきたなという意味で。昔はタイガー・ジェット・シンやザ・シーク、上田馬之助といったヒールはそりゃあ、怖くて近寄ることさえできなかった。でもここ最近のヒールにはお客がビビって逃げ出すような迫力がなかった。

kamipro AWARD 2006

VMが『東スポ大賞』のベストタッグ賞を獲る時代になったんだな〜としみじみ思いました。②当日メインだった秋山vs鈴木みのるのGHC戦は凄まじいビンタ合戦だったが、この試合もゴツゴツ具合では負けていなかった。小橋の額を天龍のようにふてぶてしく爪先で蹴っていくKENTA。「うわ〜。そんなことやったら倍返しじゃ済まないぞ〜！」とハラハラしながら撮りました。③05年のベストに推した『ハッスル11』大阪大会のような、会場が熱気に包まれるような興行はなかったように思う。ということで該当なし。④最初はHGのおこぼれのような感じだったけど、『ハッスル』があるたびに彼の前説を楽しみにしている自分に気づいた。リング上で赤フンになったり、坂田や鈴木みのるにイジられながら、身体を張ってよく受けましたということで。ウケたかどうかは微妙だけど（笑）。

インターナショナルMMAマガジン

『ファイトスポーツ』編集部

設立わずか3年にして、現在44ヵ国で読まれるようになった国際的MMAマガジン。06年はアメリカとイギリスに進出。また80タイトルのDVDを出した。近々、ブラジル、ロシア、イタリア、スペインの各国で現地版を出す予定。

①ミルコ・クロコップ

②メルビン・マヌーフvsエヴァンデリスタ・サイボーグ（2・4『ケージ・レイジ』ウェンブリー・カンファレンスセンター／イギリス）

③9・10『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ

④やり遂げたで賞→ランディ・クートゥアー

【総括】①ヒョードル不在の中、『PRIDE』という世界一の団体を背負ったミルコ。無差別級GPを制してUFCに移籍した彼の今後に世界が注目している。②『ケージ・レイジ』という小さい団体で行なわれた試合だったが、ノンストップの激しい試合は、見た者すべてが絶賛。両者ともに勝つチャンスがあったが、最後はマヌーフの鮮やかなKO勝ち。③ミルコがシウバを破壊し、トーナメントを制したこの大会は世界中の注目を集めた。またバーネットは、ミノタウロとのシーソーゲームにより、真の意味でワールド・トップ5ファイターに仲間入りしたことを世界に認めさせた。④元UFCヘビー級&ライトヘビー級王者が10年にわたる総合のキャリアにピリオド。しかし、グラップリング競技を続けながら若者をトレーニングし、PPVでコメントする姿は、まさにこのスポーツの大使。

布施鋼治

昨年夏、初めて著作が出版されて大ハシャギ。さらに11月にはタイのラジャダムナムスタジアムから日本在住者としては異例の記者証も発行され、子どものように周囲に自慢している長身のメガネ男

①ミルコ・クロコップ

②山内裕太郎vs白虎（10・7『全日本キック AJ NIGHT〜Tradition〜』新宿FACE）

③6・30『K-1ワールドMAX2006〜世界一決定トーナメント〜』横浜アリーナ

④終わりよければ、すべてよし賞→所英男

【総括】①06年はいろいろなことがありすぎたせいでしょうか、まだ〝総括〟できていません。だって大晦日の件にしたって、年を越してもおもいきり引きずっているじゃないですか。ミルコの移籍が正式にアナウンスされたのも、日本時間の大晦日ですよ。よくもまぁこれだけいろいろな事件や出来事が起こると感心してしまいます。切れ間のないところがいまの格闘技界の恐ろしいところかもしれませんね。猪木さんも真っ青の永久運動体ですよ。そうした中、ミルコをMVPに選出したのは無差別級GP優勝とUFC転出という二大ビッグニュースを提供してくれたからです。あいかわらずやってくれますねぇ。ミルコがオクタゴンに上がることで日本におけるUFCのニーズは多少なりとも上がるでしょう。②ベストバウトに山内裕太郎vs白虎を選んだのは、そりゃ観ていて一番興奮したからです。ダウンの応酬。そしてふたたび白虎ダウン。しかし起き上がると、白虎は蘇生。しかし最後はローキックで下半身を破壊されてアウト。ここまでドラマが盛り込まれる試合なんて、めったに見られるものじゃないですよ。また山内vs白虎は興奮の大きさに会場や団体の大小は関係ないことを証明してくれたような気もしました。③ベストイベントにMAXの世界一決定トーナメントを選んだのは、終わったあとにとてつもなく大きな疲労感が襲ってきたからです。なんてったって私がプッシュしていた日本人選手が二人とも負けてしまいましたからね。ベストイベントというより、ベストショックイベントという感じですね。④〝終わりよければ、すべてよし賞〟を所に贈呈したのは、帳尻を合わせるように大晦日だけはしっかりと白星を収めたからです。振り返ってみれば、年頭に所は「いきなりコケたりして」と笑っていたら、本当にコケてしまった（笑）。なかなか再浮上できなかったけど、ホイラー戦で結果を残しましたからね。たいしたヤツです。

堀辺正史

日本武道傳骨法創始師範。鋭い分析能力、ユーモアあふれる解説で格闘技の醍醐味をお届けする〝青春の大発見〟者。

①アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsジョシュ・バーネット（10・31『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ）

③『PRIDE無差別級GP2006』トーナメントすべて

④忠誠大賞→アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

【総括】①総合の技術性をもっともよく表現し得た。②試合の経過が技術的かつ物語的で、まさに『PRIDE』の真価を発揮したと言えるから。③世界最強を決めるには〝無差別〟こそが最適であることを証明した。④『PRIDE』存亡の危機に「残る」と明言したノゲイラに〝忠誠大賞〟を与えたい。



中川画伯

自称イラストレーター。06年は姪っ子が生まれたり、中江有里サイン会に行ったりしてデレデレしっぱなし。今年で30、知っとるけのけ……。

①崔領二

②KENTA vsブライアン・ダニエルソン（12・2『NOAH Winter Navigation,06』横浜文化体育館）

③12・31『PRIDE男祭り2006－FUMETSU－』さいたまスーパーアリーナ

④最優秀新人賞→KUSHIDA 和製ヴォルク・アターエフで賞→渡辺久江

【総括】①う〜ん、やっぱジョシュかな〜？ 青木真也かな〜？ 男色ディーノもよかったし、鶴見亜門も捨てがたいし。う〜ん悩むなぁ……。う〜ん。う〜ん。……アッ！ 崔領二！ いっつもギラギラしてておもしろかった。②一回目の『ROH』のもよかったけど、二回目の試合。グイグイ惹きつけられてテレビから目が離せなかったよ。あぁ、プロレスっておもしれえなぁ……って思ったよ。ブライアン・ダニエルソン最高!!③大晦日はテレビでヌルヌルしたモノを見せられてヘコんだんだけど、あとで見た『男祭り』はスッゴい試合の連続で鳥肌立ちまくり！ 大満足！④『ハッスル』の若手はみんな素晴らしいんだけど、バンザイ・チエもジャイアント・バボもRGも海川ひとみもよかったんだけど、やっぱKUSHIDAでしょう！ ナベQ選手のパンチはスゴ過ぎてドキドキしちゃう。

師岡とおる

『週刊文春』、『anan』、『BRUTUS』、『Number』、『サイゾー』、など雑誌を中心に書籍や広告などで活躍中のイラストレーター。本誌では表紙、コラム扉、Tシャツをさまざまなタッチで描きこなす。

①青木真也

②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsジョシュ・バーネット（9・10『PRIDE無差別級グランプリ2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ）

③9・10『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ

④ベスト・イングリッシュ賞→野口大輔レフェリー

【総括】①ミルコ移籍、ジョシュ黒星とともに大晦日にミソつけちゃったので、MVPは『PRIDE』（唯一）の明るい未来、青木に決定。②ジョシュの能きが

ついにかたちとなり、リアルファイト版風車の理論完成。③クオリティ高過ぎる準決勝2試合はのんべんだらりなほかの試合もフッ飛ばすほどの見事な出来。涙のミルコ劇場で満足度さらに倍。④なぜか複数形で試合を裁く野口レフェリー、本場ラスベガスでも元気に「ファイツ!」。

松林 貴

本誌・闇の御意見番。現在&過去&未来永劫、命懸けで"プロレス側に所属しない"スタンスを貫く、要注意人物（ロシアはリストに登録済？）。性格は温厚だが、『kami-pro』入稿時は鬼神と化す。ダメ人間の松澤チョロに放つ"とっとと、やりやがれっ!!"が口癖。

①"モンスターK"川田利明
②キム・ミンス vs ムラッド・ボウジディ（6・3『K－1 WORLD GP in ソウル』ソウル・オリンピック第1体育館／韓国）
③9・10『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ
④旗揚げはどうなったので賞？→『MOVE ON! Kings!!』

【総括】①『2006年プロレス大賞』MVPである鈴木みのるの試合で印象に残ったのは、ズバリ言って対メカマミー戦くらい。目を引いたのはメカマミーのほうだが……。その点、モンスターKは06年の『ハッスル』で常に気になる存在だった。メカマミーと対峙した鈴木と、江頭2：50と対峙した川田19：55を比べれば、どちらが"真のプロレスラー"であるかは一目瞭然。既成概念である"川田利明"を自ら破壊し続けたことに拍手喝采！②谷川さんが発掘したコリアン・モンスター勢におおいなる幻想を勝手に抱き、あらゆる仕事をあと回しにしてソウル入り。アジアGP準決勝戦でのこの名勝負で己の判断は正しかったと証明（？）された。笑い、驚き、涙の三拍子が揃った「ミンス、マンセーッ！」なK－1ワールド。大好物です。技術が未熟であろうと感動は生まれる、いやホントに。③あれこれ考えてもやっぱりこの大会。無差別級トーナメント3試合だけでも興行が成り立ったのではないかと思えたほどの爆発力。ほかの方々がほめ言葉を並べると思うので以下省略。あえて評するならば、新日本・田コロ決戦（※25年前）以来の興奮度。④「『HERO'S』の姉妹団体」、「行き場のなくなった選手の受け皿」と発表されながらも後日、谷川EPから「事実無根」と関係性を完全否定され、それでもプレ旗揚げを強行。石狩太一にまで逃げられ（※ケガで欠場）、全5試合中エキシビションが二試合、ロイヤルリングサイドの料金がなんと2万5000円!!　11月に本旗揚げと発表されていたが……。"中成功"でもやっただけで『GENOME』よりはマシ……じゃないよなあ。



三田佐代子

ようやくプロレス生活11年目に突入。"インディーのお仕事のお姉さん"といくつまで言ってられるのか不安を抱えつつも、07年はディーノ、坂井、沼澤邪鬼、佐藤兄弟ら才能溢れる人材を多数輩出している"花の昭和52年組"に大注目しています。

①鈴木みのる
②近藤修司 vs MAZADA（4・20『全日本プロレス』代々木体育館）
③1・17『マッスル9』北沢タウンホール
④プロレスの向こう側もやっぱりプロレスで賞→マッスル坂井、男色ディーノ、鶴見亜門のマッスル三銃士に。

【総括】①やっぱりMVPはどう考えても鈴木みのる選手。三冠戦からメカマミー戦まで試合内容はもちろん、言うことがいちいちド正論でこちらのマゾっ気をくすぐります。プロレス大賞授賞式の壇上での「この中には『おまえなんかプロレスをやめちまえ！』と言われた人もいる。でも、こういう人がプロレスをおもしろくしていることは事実だ」のスピーチには目頭が熱くなりました。②06年の全日本ジュニアのレベルの高さときたら、思い出すだけでご飯3杯いけるほど。近藤選手の試合は全日本だけでなく、シングルタッグ問わず、すべてハズレなしでした。両国大会でのカズ・ハヤシ戦の素晴しさは当然語られると思いますが、私は意外性も含め代々木でのMAZADA戦をベストバウトに推薦します。なかなかそのスキルの高さが語られる場所がないMAZADA選手ですが、この試合に限らず全日本の前半の試合でもきっちりいい仕事をされています。もっと目立ってほしいぞMAZADA選手！③④『マッスル』のおもしろさは限られた人たちだけのものではなくなってきましたが、坂井、ディーノ、亜門の3本の矢があってこその『マッスル』。"プロレスの向こう側"のキャッチコピーが一人歩きしている感がある『マッスル』で、プロレスじゃなくてもなんでもできそうなこの3人があえてやりたいことは、「やっぱりプロレスなんだ」というこだわりに心からの拍手を送ります。

八木賢太郎

ライター。本誌"非番"編集者。『ハッスル』の事情通のキーパーソン（？）としても知られる。

①江頭2：50
②髙田総統劇場（4・20『ハッスル16』大阪府立体育館ほか）
③6・5フジテレビが『PRIDE』放送を打ち切り（2006年6月5日）
④RGに「志村うしろ、うしろ！で賞」

【総括】①MVPは、なんといっても"エガちゃん"。たった一試合だけど、長年"天才芸人"江頭2：50を応援してきているボクにとってあの試合は、一年間観てきたほかの試合をすべて忘れさせるほどのパワーがあったので（笑いの量としても去年の『ハッスル』全試合の中でナンバーワン。みんな足を踏み鳴らして笑ってたし）。本人はリングに上がるのを本当に嫌がっていたし、試合後も「二度とやらない」と言ってたみたいだけど、ニューリン様、HG、和泉元彌などが築き上げてきた芸能人路線の最終兵器"ハッスル・テポドン1号"として、07年もふたたびあのキレっぷり、そして一切の躊躇もない当たりっぷりを見せてほしい。②ベストバウトは、すべての『ハッスル』の大会における"髙田総統劇場"。ほとんどの観客がこれを楽しみに会場を訪れていることを考えると、あれも立派なバウト。とくに4月の大阪大会前後の総統とモンスターKによる「バッドラック」を言う言わないの抗争（というかボケ&ツッコミ合戦）は、川田利明という男のパブリックイメージを覆したという意味でもベスト。06年の川田は、笑いの世界でいうところの"化けた"一人でしょ。③それからベストイベントは、本当にリアルなイベントだった"フジテレビの『PRIDE』放送打ち切り事件"。あれを機にいろんなことが終わって、いろんなことが変わって、そしていろんなことが新たに始まったわけだから、あれ以上のイベントはほかにはない。④最後に個人賞としては、RGに"志村うしろ、うしろ！で賞"を。『ハッスル・マニア2006』での対鈴木みのる戦の終了直前、うしろから迫るみのるに気付かないRGに向かって、おもわず観客が「RG～！　うしろ、うしろ！」と叫んでいたあの場面は、まさに『8時だヨ！全員集合』の「志村～！うしろ、うしろ！」の再現。子どものときに『全員集合』の公開収録を観に行けなかった悔しさを晴らしてくれたという意味も含めて慎んで表彰します。



ジャン斉藤

編集統括本部長（略して編集長）

雀鬼・桜井章一の内弟子を経て、なぜかダブルクロス入り。永久電機関連の解明、調査をライフワークとする31歳。07年初役満は、立直一発自模緑一色でした。ワァーオッ！

①ジョシュ・バーネット
②ミルコ・クロコップ vs ヴァンダレイ・シウバ（9・10『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ）
③6・17『ハッスル・エイド2006』さいたまスーパーアリーナ
④ゴールのないマラソンで賞→アントニオ猪木

【総括】①"PRIDE救世主伝説"を体現してくれたジョシュに決まってる。残念なことにその獅子奮迅の活躍は地上派に乗らなかったが、選ばれし者たちだけが目に焼きつけたと思えば、ちょっとは胸がすくもんだ。我々は凄いものを観た！②地獄のふちからよみがえったミルコの執念には感服。そして、戦闘不能に近い状態ながら前進をやめず、"倒すか、倒されるか"という男子の本懐を遂げたヴァンダレイもスゲェ！　攻防や技術のクオリティだけではなく、生き様を浮き上がらせてこそ"PRIDE"！　でしょ⁉③"フジテレビ・ショック"以後、初のDSEビッグイベント。昔からDSEは危機に陥ったときほど、とんでもない底力を見せつけてくれたものだが、エスペランサー誕生を象徴とするビッグサプライズの連発によって、期待を超えるミラクルイベントになった。こうして生まれた観る者の"何かやってくれるだろう"という期待感、そして演者（選手）たちの"何かやってやろう"という気概が不安を払拭し、直後の無差別級GP大爆発の導火線に火をつけたんじゃないかと思う。それにしても、なんのためらいもなく一肌も二肌も三肌も脱いじゃう髙田本部長ってタフすぎる！④遠足は出かける前が一番、楽しい。だから『INOKI GENOME』も永久電機もいつまで経っても日の目を見なくてオッケーなんです。猪木さん、今年もゴールを目指して走るな！　ダー（ヨダレ）。

①あなたが考える2006年のMVP ②あなたが考える2006年のベストバウト ③あなたが考える2006年のベストイベント ④そのほか、個人が一方的に贈る賞

堀江ガンツ

［編集部］

熱狂的かつ変態的なUWF信者～リングスファンを経て、ダブルクロス入社。現在は『PRIDE』を中心にミルコ番、ノゲイラ番、そしてニラサワ番などで絶賛活躍中！　血中UWF度が凝縮された〝俺流〟格闘論には定評がある。

①ミルコ・クロコップ
②高阪剛 vs マーク・ハント（5・5『PRIDE無差別級GP開幕戦』大阪ドーム）
③5・5『PRIDE無差別級GP2006開幕戦』大阪ドームの休憩前まで
④プロレス大賞→I編集長

【総括】①GP開幕までは〝燃え尽き症候群〟と言われ、引退までウワサされるどん底状態でありながら、9月には大方の予想を覆しての悲願の王座初戴冠！　そして大晦日にUFC参戦発表と劇的すぎるその生き様に一票。②TK入場時のただごとでない表情を見ただけで、この一戦のためにどれだけ自分を追い込み、どれだけの思いで挑んだかがうかがいしれた。試合後の〝オカン〟インタビューも込みでブッチギリでナンバーワン。③〝桜庭ショック〟直後に〝これぞPRIDE〟という激闘が続出！　後半戦はボーナストラックだと思っています。④存在自体が「底が丸見えの底なし沼」。言うちゃ悪いけど、この人こそが〝プロレス〟ですよ、アンタ!!（ドンッ）

真下義之

本誌・編集部員。日本アート界の巨匠の下で8年間勤務したあと、なぜかダブルクロス入社。昨年末、10年以上キープしたマッシュルームヘアーから髪型をチェンジするも、これといった反応がないことに軽いショック状態。

①ドリームステージエンターテインメント
②ザ・エスペランサー vs HG（11・23『ハッスル・マニア2006』横浜アリーナ）
丸藤正道 vs KENTA（10・29『NOAH Autumn Navigation,06最終戦』日本武道館）
③6・17『ハッスル・エイド2006』横浜アリーナ
④クレイジーバンプ賞→RG

【総括】①なにはともあれ、踏ん張った！②前者はついにエンターテインメントの極点に達して賛否両論。後者はついにハイスパートの臨界点に達して賛否両論。後ドリフの公開録画番組における大仕掛けを想起させるザ・エスペランサーのレーザービターン！　と交通事故の決定的瞬間を続けざまに目撃してしまったような後味の丸藤vsKENTA。だが両者は表裏一体で、じつは静かに連鎖していると思う。③クライマックスのタマアゴ降臨から、ザ・エスペランサー入場シーンまでの奇跡の数分間はここ10年のプロレス界で最上レベルの高揚感だった。だがここでサプライズ、演出、試合、いずれもパーフェクトに近い点数を叩き出し、〝最終回のような盛り上がり〟になってしまったため、このあとの『ハッスル・マニア2006』とのクオリティの落差が浮き彫りになってしまったのはつくづく残念。④本誌コラムは終了してしまったが、『ハッスル』登場から一年足らずにして、日本マット界の受け身の概念を塗り替えるクレイジーバンプを連発したRGは最上級の『ハッスル』貢献度。RGのベストバウトはあらゆるヤラレ芸のパターンが詰まったチーム3Dとの一戦（11・15『ハッスル・ハウスvol・21』後楽園ホール）を推します。07年は『マッスル』の日本武道館大会実現を期待!!　ホントにやれんのか？



松下ミワ

本誌・ハガキページ担当。06年中旬から金沢先生が担任を務める3年G組に強制入学させられ、プロレスの真髄について勉強中。日々、帽子姿が定着してくる金沢先生を横目に見ながら、一刻も早い卒業を目指す。

①桜庭和志
②曙 vs ジャイアント・シルバ（12・31『Dynamite!!』京セラドーム大阪）
③7・21『MARS ATTACK 01』新宿FACE
④ベストプロモーター賞→MARS天野勇気エグゼクティブプロデューサー

【総括】①春先には『PRIDE』のウェルター級GPに出るのか、無差別級GPに出るのかで話題になり、5月には『HERO'S』へ電撃移籍。しかも、昨年闘った二試合（スミルノヴァス戦、秋山戦）でともにとんでもない論争を巻き起こすという、〝世間を巻き込んだ〟といった意味では、桜庭和志にかなう者はいないんじゃないでしょうか。②カード発表があったとき、一番ワクワクした試合。実際の試合も素晴らしかった（感嘆）。「これは曙、ジャイ・シルが闘った全試合の中でベストバウトとなんじゃないだろうか！」と、締切一時間前に真剣に考えてみたりした。谷川さん、ぜひまた見せてください。③生まれてからいままで、あんなに興味深い大会を見たことがない！　リングにTVカメラが入ったまま試合が開始されたり、公開審査試合で〝ATTACK〟した選手に合否が下らなかったり。とにかくすべての試合が順調に進まないというのはまさに奇跡。地球侵略を狙っていた火星人もお疲れさまでした。④入場者数がいかなる状況でも〝大会場攻略〟の夢を捨てず、日々身を削って我々に夢を与えようとしてくれる天野氏には絶対に足を向けては寝られない。調査によると、CDデビューの話も順調に進んでいるようで。KAT-TUNのニューアルバムよりも楽しみにしています。

上杉秀人

本誌・エセ通訳。今年一年間で企画制作部、電気部、編集部と一人で異動しまくる、リアル根無し草。今年三十路を迎えます。

①ジョシュ・バーネット
②ミルコ・クロコップ vs ヴァンダレイ・シウバ（9・10『PRIDE無差別級グランプリ2006決勝戦』さいたまスーパーアリーナ）
③7・23『DDT』後楽園大会
④ベスト・プレジデント賞→高木三四郎
よく結婚できたで賞→726

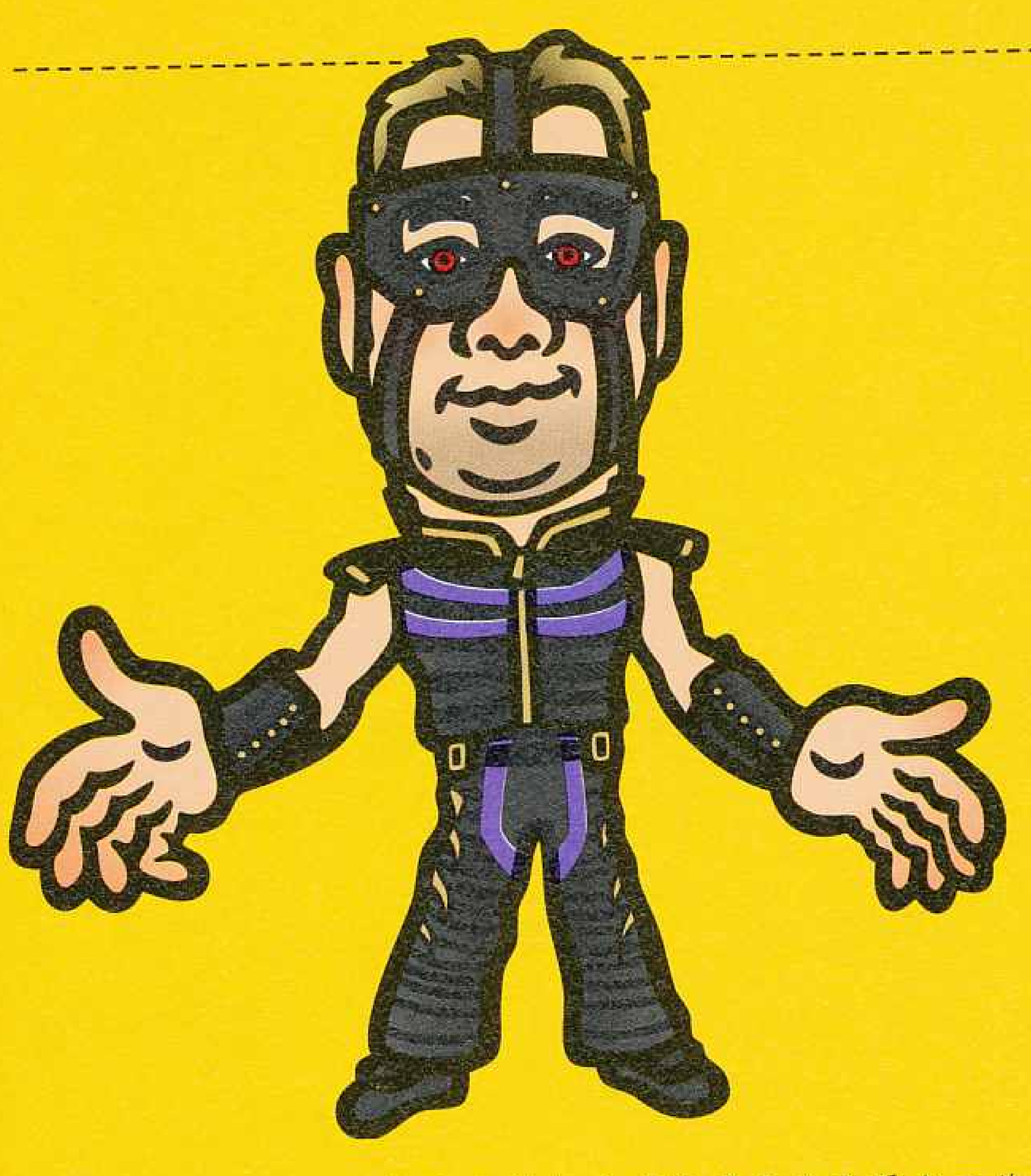
【総括】①読者アンケートでも断トツ人気のジョシュがMVP。実際、彼の活躍なしには今年の無差別級GPの盛り上がりはなかったはず。伝統的なキャッチ・レスリングに北斗神拳という、いまの総合シーンには新しい技術体系（？）で風穴を開けた。また本誌増刊『PRIDE　わっしょい!!』では、試合前にも関わらず貴重な時間を割いて、執筆してくれたことに感謝。（本誌94ページに再掲載）②二人が対峙した瞬間から、そのヒリヒリ感で勝手にアドレナリン大放出。目が塞がっているのに「もうちょっとだけやらせてくれ」とKOされるリスクを冒して、前に出続けたシウバの男気にシビれました。③④引退＆復帰劇、お笑い、ハードヒット、レトロ感溢れるうさんくさいファンタジー、そしてメカ。毎回、オープニングからエンディングまでネタ満載で進行するDDT後楽園大会。この大会も『kamipro Hand』でリアルタイム速報した自分にとっては、展開をフォローするのさえ正直しんどい大会でしたが、鶴見五郎や剛竜馬、マミーなど、いまのファンにとって、なかなかとっつきにくい素材をメカ化などで完璧にリバイバルし、背景を知らなくても楽しめるものに作り変えるプロデュース能力は素晴らしい。なので、個人賞をこの団体を統率する高木三四郎に。日本の経営者必見の経済番組『ワールド・ビジネス・サテライト』で取材される快挙を成し遂げる傍ら、メカウイングを装着してリングに立つ社長は、この人しかいない（あたりまえ！）。



辻ちゃん

昨年末のダブルクロス忘年会で泥酔。金沢先生の帽子を紛失したかと思えば、路上で発見して一人でゴキゲンちゃんになったり、深夜、真っ暗闇の編集部でひたすら仁王立ちしたりと奇行を繰り返す。

①ミルコ・クロコップ
②ジョシュ・バーネット vs エメリヤーエンコ・アレキサンダー（5・5『PRIDE無差別級GP2006開幕戦』大阪ドーム）
③10・14『修斗』神奈川・パシフィコ横浜大会
④上半期ならMVPで賞→須藤信充（キッ







クボクサー）

【総括】①全試合1RKOという圧倒的な強さで無差別級GPを制覇。ヴァンダレイを〝妖刀〟左ハイキックでKOしたシーンは、堀辺師範がおっしゃるとおり鮮やかすぎて残酷な感じがしなかった。ただ、K-1時代はホースト、『PRIDE』ではヒョードル、ノゲイラに借りを返していないというところは気にならないといえばウソになる。今年は金網の中で暴れ回ってくれ！②戦前から楽しみなカードだったが、その期待を裏切らない攻防だった。回転のはやいパンチでプレッシャーをかけるアレキ。それを凌ぎ、V1アームロックで仕留めてみせたジョシュ。「どっちもつえぇ～！」と純粋な気持ちで見ることができた。③会場の熱気が大爆発したのは9・10の無差別級GP決勝戦だが、自分が取材して印象に残った興行として、これを挙げたい。セミではBJがマモルを絞殺し、バンタム級タイトル奪取。濃密な98秒だった。あと、ブログ『豪腕サディズム論』も含めて、なんとなく気になる不死身夜天慶。早合点はいけないと承知だが、リオン武との同門対決もそう遠くない気がする。2・17パシフィコも期待してまっせ！④2月の阿久澤戦はキラーローを炸裂させ、「ホントに強かったんだ！」とシビれた。6月の尾崎戦では減量に失敗し、ヘロヘロな状態でも2RKO勝利。ハイテンションなキャラとビッグマウスに加えて、結果も出していたのでドキドキしたものだが……9月、悪夢の地主戦（腰の負傷により1RKO負け）。いま36歳で90キロあるらしいが（本来はミドル級）、男見せいっ！

［企画制作部］

坂井ノブ

ダブルクロス企画制作部。大会パンフレットの編集やポスターの制作を一手に請け負う。『kami-pro』ではWWEや『ハッスル』などを担当。06年は自転車通勤に開眼。取材&打ち合わせで都内を走りまくり記録的な大減量に成功！　社内を驚愕させた。

①フジテレビ

②ヒョードルに質問した女性記者vsその質問に割り込んだフィル・バローニ（10・21『PRIDE・32 THE REAL DEAL』トーマス&マックセンター）

③6・17『ハッスル・エイド2006』横浜アリーナ

④出させていただいて光栄で賞→映画『任侠秘録人間狩り』

【総括】①今年でこの仕事を始めて丸10年になりますが、06年ほど強烈な一年はなかったなぁ。その最大の要因は6月のフジテレビ撤退とそれに付随する大騒動であることは間違いない。それでもショーは続くわけで、選手、関係者、ファン、誰もが不安を抱えながらガムシャラに突っ走った一年でした。その中から誰か一人を選ぶのは無理！　というわけで、おおいなるドラマを生んだ〝きっかけはフジテレビ〟に一票。②本誌でも再三取り上げてきた『PRIDE・32』ラスベガス大会の舞台裏での出来事。アメリカに来てからずっとニコニコしてた皇帝の顔を唯一曇らせた女性記者のきわどい質問と、それを〝筋肉三兄弟〟の長兄の名誉のために勝手に打ち返したバローニの対決。結果はご存知のとおり、その場にいた全員が拍手喝采でバローニの名演説をたたえたのだった。これぞアッメ～リカ！③二年半かけてようやくたどり着く寸前に地上波放送が消滅した『ハッスル』に舞い降りた〝希望の星〟ザ・エスペランサー。そこに至までの舞台裏の葛藤やドラマなど、ハッキリ言って本3冊は書けると思いますよ。ほかにも有田総統、チーム3D、カイヤのデビュー戦、ニューリン様の素顔が暴かれたり、見どころは多数！　イベント全体の完成度が高く、語りどころが多い濃密な大会。④プロレスとは関係ないうえに、手前味噌で申し訳ないですが、杉作J太郎監督作品『任侠秘録人間狩り』で銀幕デビューさせていただきました。封切りの日は大雪で下北沢の劇場まで行けず、DVDは一向に送られてこないので自腹で買いましたが、払った金額をはるかに凌駕する感動がありました（もちろん自分の出演シーンはアレですが）。男になるための童話です！　本誌でもおなじみ掟ポルシェ。さんや吉田豪さん、プロレスラーの新宿鮫さんも出演してます。完成までこぎつけた杉J監督の執念に拍手を送らずにいられません。

［電気部］

ささきぃ

『kami-pro Hand』を制作する電気部所属。昨年より一人暮らしを開始、エンジョイしすぎて遅刻を頻発。厄年に怯えている。趣味は初詣。

①桜庭和志

②佐々木健介&小橋建太vs天龍源一郎&中嶋勝彦（2・11『佐々木健介20周年記念興行』後楽園ホール）

③6・17『ハッスル・エイド2006』さいたまスーパーアリーナ

11・3『S-cup2006』両国国技館

④台本流出で賞→野田秀樹「ロープ」まだ始まってもいないで賞→小林聡

【総括】①5月の超・超ビッグサプライズ、10月の『HERO'S』初戦、そして大晦日の秋山成勲戦。格闘技を見る上で、受け手が考えずにいた大切なところを（偶発的にも）ひっぱり出してさらけ出し、観る側の頭も心もグラグラ揺さぶり続けたオレンジの人へ。この人は今年、もっと凄いことをやるように思います。②今年はいい試合、選びたい試合がたくさんたくさんありました。ぜんぜん選べなかったので、自分内候補の中から一番自分らしくないというか、本来なら選ばないような試合を。凄い試合でした。③これまた候補はいっぱいありましたが、フジテレビ・ショックを直撃した『ハッスル』が、全力で世間に打ち返したイベントに敬意を表して。あと〝夢はかなう〟ということを教えてくれた緒形健一優勝の『S-cup』。④プロレスを思いもよらない方法で取り扱った、野田秀樹の『ロープ』に特別賞を。そして、自分に立ち技の世界を教えてくれたのは、間違いなくこの選手です。この人がいなかったら、ミャンマーに行ったりすることさえなかったと思います。心からのありがとうを言いつつ、私は最後まで「小林、やめるな！」と言い続けるつもりです。

［電気部ステーション駅員］

松澤チョロ

電気部ステーション駅員。1月16日で35歳になりました。本名は修二というのですが、UWAI-28号を製作した上井駅長の兄・修二氏とは関係ありません。今年は亥年なので、猪突猛進で見えない壁をブチ破ろうと思います。シュポ～！

①メカマミー

②フランチェスコ・トーゴーvsアントーニオ本多（5・4『マッスルハウス2』後楽園ホール）

③1・17『マッスル9』北沢タウンホール

④ベストムーブ賞→フランチェスコ・トーゴーまさにクレイジーマックスで賞→ザ・グレート・サスケ、T-1二見社長ブレイクの予感がしたで賞→上井駅長、柴田勝頼、真琴

【総括】①〝世界一性格の悪い男〟から〝元・引きこもり〟まで、幅の広すぎる相手と名勝負を連発。さらには鶴見五郎、健想&浩子らを次々と改造&再生（メカユージは未遂）、年末にはUWAI-28号に完敗を喫してしまいましたが、一年を通じて話題を提供しまくった、このメカに決定！②比較的、涙もろいボクですが、06年一番涙がちょちょぎれたのがこの試合。試合はもちろん、試合後のアントンから東郷へのラブレター、それを号泣しながら見つめるマッスル坂井……素晴しきかな師弟愛。③ベスト興行は『マッスル』しか思い浮かびません。〝パッケージプロレス〟なんて言葉がよく使われていますが、開演からエンドロールまでが一つの作品として練り上げられている興行は、いまのところ『マッスル』だけのような気がします。再演が行なわれた『マッスル11』もよかったですが個人的には『マッスル9』がツボ。もちろん号泣！④10・22 DDT後楽園大会で見せたトーゴーのスワンダイブでのラダー飛び乗りはカッコよすぎ。まだ見てない人は誰かに借りてでも見たほうがいいですよ。12・17みちプロ後楽園でのサスケの自爆芸の数々も必見。最高に狂ってます。狂っているといえば、2・23『T-1GP』での二見社長も同様。DVD化されてるのでこれも見たほうがいいです。言葉はいらねえです。激動の一年間を乗り越えるどころか、気がつけば駅長になっていた上井さんは今年も目が離せなさそうです。柴田は試合数こそ少なかったものの試合はほとんどハズレなし。12・30『上井ステーション』での浜中戦もバツグンでした。上井駅長の大学時代の彼女に似ているという真琴も引き続き観察していきたいと思います。

①あなたが考える2006年のMVP ②あなたが考える2006年のベストバウト ③あなたが考える2006年のベストイベント ④そのほか、個人が一方的に贈る賞



坂田亘

GMW
WATARU SAKATA

06年『ハッスル』で最も輝いた男

光り輝くジャケット姿の『ハッスル』最高責任者が語る「'06年の反省」「'07年の展望」そして「小川直也問題」

毒舌？ いや、これが正論だ！ 言いたい放題俺様インタビュー

『ハッスル』の二大勢力であるハッスル軍にもモンスター軍にも収まらず、坂田軍団を率いて『ハッスル』のリングで暴れまくる“GMW”坂田亘。芸能人だけじゃない、プロレスラーだけでもない、厳しい生存競争が繰り広げられる『ハッスル』のリングで最も異彩を放っているこの男の言葉に裏も表もない。“GMW”がときに熱く、ときにクールに語る『ハッスル』の厳しい現実とは？　心して聞け！

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

design by さおとめの事務所

――いまや『ハッスル』の押しも押されもせぬスーパースターとなった〝GMW〟坂田亘にとって、2006年はどんな一年でしたか？

坂田　そうだなぁ。俺様はまだ33歳だけど、いま振り返ると20代の頃は無駄な時間のすごし方をしてたよな。それが30代になって時間をうまく使えるようになってきたな。2006年はいろいろ経験できて良かったと思うけど、まあ30すぎてからは毎年そんな感じや。

――ここ2～3年はそんなに大差がない、と？

坂田　俺様的には変わりないな。でも、『ハッスル』を観てるファンは、俺様の存在感が大きくなってきたのを感じてくれてるとは思うけどな。トータル的にはもの凄く大きなマイナスもあったから、プラスマイナスゼロだと思ってるよ。

――大きなマイナスというのは？

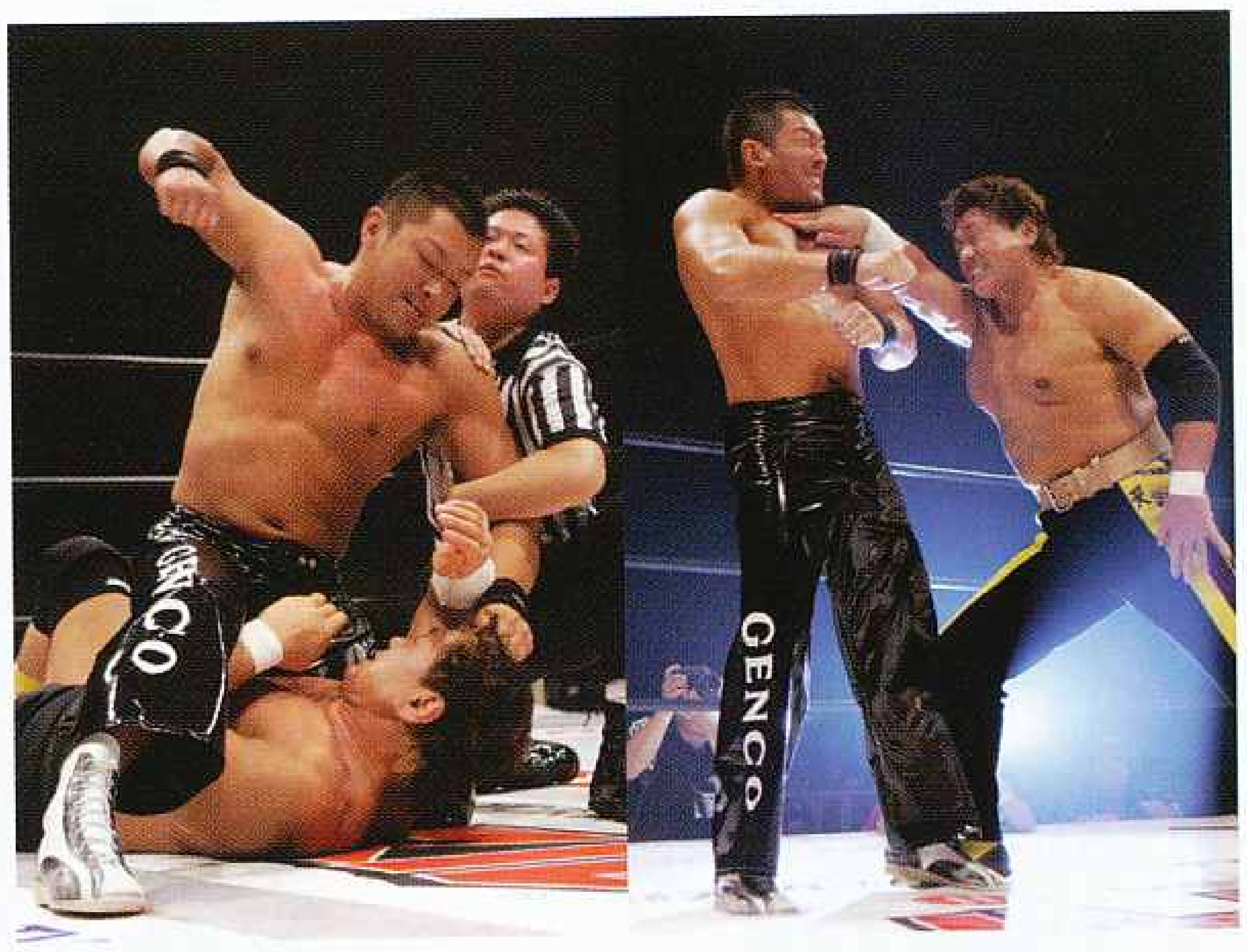
坂田　フジテレビ問題だろ。あれは俺様だけの問題でもなければ、プロレス界という小さな枠で収まるような出来事でもなかったからな。それこそ世間の人まで「大丈夫なの？」って聞いてきたよ。『PRIDE』のスタッフには申し訳ないけど、このままの状態で地上波放送がなかったら世間の人はあっという間に『PRIDE』のことを忘れちゃうよ。世間ってそういうもんやろ？

――テレビが持ってる力は大きいということがあらためて身に染みた一年でしたよね。

坂田　まあ、テレビがすべてじゃないけどな。でも、テレビってのは誰もが入れる入り口だから大きいやろ。

――『ハッスル』はようやくそこまでたどり着いただけに、選手もスタッフも悔しい思いをしてますよね。

坂田　誰が悪いってわけじゃないけど、どこかでみんな気が緩んでたんじゃないの？　俺もいまでこそ『ハッスル』所属だけどフリーだった時期もあるし、高級和食ダイニング店もやってるから、常に緊張感を持ってないとダメってことは身に染みてるけどな。



坂田と天龍は３月と10月に二度の一騎打ちを行ない、いずれも激しい気迫と気迫が交錯して会場はおおいにどよめき、盛り上がった。

――そんな坂田さんを通じて2006年の『ハッスル』を振り返っていただこうという企画なんですが、最初の大会は2月でしたよね。何があったか覚えてますか？

坂田　……何があった？

――青木裕子さんを坂田軍団にスカウトしてますね。

坂田　そんなことがあったか！　もう2～3年前のような気がするけどな。結局、ヤレずじまいだったなぁ（遠い目）。

――巨乳大好き〝GMW〟ですが、手は出しませんでしたか！（笑）。

坂田　仕事にプライベートを持ち込まないのが俺様の主義だからな。

――なるほど（笑）。残酷な言い方になってしまいますけど、青木さんは最後まで『ハッスル』のハードルを越えられなかったですよね。

坂田　う～ん、偉そうなことを言うのは嫌なんだけど、本人的にはいろいろあったんだろうな。

――迷いとか躊躇がモロに出ちゃってましたよね。

坂田　それは彼女だけの責任じゃない。こっちも生き地獄みたいな環境を与えてしまってた部分があるからな。

――生き地獄！

坂田　彼女がいたからこそ、その後に続いて出てきたタレントがやりやすくなってる部分もあると思うぞ。３年間やってきて、ある程度の経験値は蓄積できたんだから、ダメなものはダメってハッキリと判断しないとな。ダメとわかってることに労力を使うのが一番ストレスになるからな。誰もがプラスと思えることをやって失敗するほうがまだいいよ！

――時間を有効に使うというのは、まさにそういうことですね。その直後、3月に天龍選手と激突するわけですけど。

坂田　リングスにいた頃に前田さんからも聞いてたし、（アニマル）浜口さんの顔を見に行ったときにも話は聞いてたんだよ。人から聞く天龍源一郎像っていうのが俺の中にあったんだけど、実際に初めて対戦してみて、誰もが「天龍源一郎は凄い」って言うのもわかるなと思ったよ。長州力とは全然違う。

――どのへんが違うんですか？

坂田　長州さんは長州さんで凄いと思うよ。俺は表面的なことしかわからないけど、長州さんは最後までリングの上で腹を割ってくれなかった。それは俺個人に対してなのかもしれないけどな。逆に天龍さんは「これでもか！」っていうぐらい腹を割る凄さがあるんだよ。もちろん、攻撃も受けも凄いし。

――3月頃から天龍選手、川田選手、坂田さんのあいだでバチバチやりあう試合が『ハッスル』の中にも組み込まれていくようになりました。芸能人が試合をするエンターテインメント路線とは対照的なんですけど、観客受けは非常にいいですよね。

坂田　メインストーリーに俺様が絡んでいくシチュエーションがなかったからな。

――あれで『ハッスル』の魅力がグッと広がったと思いますよ。

坂田　まあ、そうやな。でも、俺様としては天龍さんが『ハッスル』の世界に踏み込んできたというのは凄いことだと思うぞ。ああいうバチバ

“GMW” 坂田亘の活躍で振り返る激動の2006年のハッスル血風録

2/8 初のオーディションで青木裕子をスカウト！



『ハッスル』で初開催となるオーディションが開催され、坂田軍団のボスとして鈴木浩子GM（当時）から度重なる「口撃」を受けていた青木裕子をスカウト。巨乳好きの血が騒いだか？

3/5 ハッスルSタッグ王座を天龍＆安田組から奪取！



崔領二とのタッグでタッグ王座に挑戦した坂田。この試合にはマネージャー・青木裕子の水着姿も賭けられたが見事に勝利を挙げた。試合後、天龍を挑発して一騎打ちへ。

3/12 天龍源一郎と一騎打ち玉砕するも心は通じた



“ミスタープロレス” 天龍源一郎と正面から激しくぶつかり合った坂田。最後は必殺技・53歳でフォール負けを喫したが、激しいチョップの攻防を展開！　試合後は天龍も坂田を認めた！



7月には「高級和食ダイニング　わたる」を代官山にオープン、誰もがうらやむ彼女もいる。男の夢を体現し続ける男・坂田亘。横顔にも余裕を感じる。

ダメとわかってることに労力を使うのが俺様にとっては一番ストレスになるんだ！

チした試合が入ることで、他団体の連中も『ハッスル』を見る目が変わったんじゃねえか？　そういう意味では大きな収穫だったよな。

――その路線の延長線上に鈴木みのる選手との対戦があると思うんですよ。

坂田　まあ、そうかもしれんな。俺様的には誰よりも鈴木みのるがまだ発揮してなかった刺激的な部分とおもしろい部分を引き出せると思う。

――芸能人と対戦することに抵抗があるる選手も多いですが、プロレスラー同士の激しい試合なら「あ、これなら俺にもできる」と判断する選手は多いんじゃないかと思うんですよ。

坂田　なんや、俺様の試合は敷居が低いってことか？（ギロリと睨む）。

――いや、そういうわけじゃなくて、プロレスラーには入りやすいという意味です。逆に坂田さんは芸能人とのエンターテインメント路線も、プロレスラーとの激しい試合もどっちもやってるから凄いと思うんですよ。

坂田　まあ、本来ならそれは小川直也がやらなきゃいけないことなんだけどな。……なんか、そう言われると嫌だなぁ。俺様は踏み台じゃねえぞ！（怒）。

――坂田さんのことを永田さんみたいだと言ってるわけではないですから（笑）。

坂田　おまえが言うこともわからんではないけどな。これからも「俺でもできる！」と思って入ってくるヤツはいるかもしれないけど、決して甘くはないからな。『ハッスル』の世界で潰されないヤツってのは、新日本とか全日本を見てもほんの一握りだよ。新日本とか全日本で軍団抗争をやってるけど、「どっちにいてもいいや」みたいなヤツばっかりやん。こないだも1・4東京ドームを観たんだよ……。

――めったに他団体の試合を観ない坂田さんにしては珍しいですね。

坂田　嫌味じゃないけど頑張って最後まで観たよ。でも、まったく意味がわからなかった！　最後に橋本（真也）さんがビジョンに映し出されるのも、いい加減にしろよって感じだったしな。

――たしかに、最後の演出は唐突でしたよねぇ。

坂田　いまだから言うけど、そもそも『PRIDE男祭り2005』で小川直也が吉田秀彦戦の前に橋本さんのことをチラつかせただろ？　俺様はあの時点から……（しばらく考え込み）なんで橋本さんなんだ？

――昔から引っかかってたんですね。

坂田　それで今度の1・4でアレだろ？　もちろん、ああやってくれることが、天国にいる橋本さんはうれしいと思うよ。ただ、あれは武藤（敬司）さんと蝶野（正洋）さんだからプロレスファン的には許されるんだろ？　俺様にはまったく理解不能だ。二人も橋本さんと同じレジェンドかと思ったが俺様の勘違いだったな。

――いつまでも橋本さんに頼ってるわけにはいかないですからね。1・4でほかに気になった試合はありましたか？

坂田　鈴木みのるvs永田裕志は凄かったなぁ（しみじみ）。俺様は永田選手とも面識あるし、決してバカにして言ってるわけじゃないけど、レスラーであれだけの顔芸ができるのは永田選手だけだろうな。あの試合だけは画面に集中したな。ホントにおもしろかった。あの顔はプロレスの域を超えてると思ったな。こないだの『ハッスル』でエガちゃんが自爆したときの顔がダブったもん。

――「永田裕志＝江頭2：50」ですか（笑）。そのエガちゃんも『ハッスル』にピタっとはまってましたよねぇ。

坂田　俺様に言わせれば、HGにしてもニューリン様にしても『ハッスル』の世界にいるのがあたりまえになってるやろ？　ものすごく噛み砕いた言い方をすると、すべてのエンターテインメントの世界には通じるものがあるんだなと思ったよ。だからエガちゃんの試合もはまるんだよ。

――RGの試合もプロレスマニアの評価が非常に高いですよね。

坂田　あいつの場合は試合というよりも〝受け〟だろ。「こういう受けもあるのか！」って俺様も驚いたから。あれはおもしろいな。

――目の前でRGがやられてるのに、試合中だと笑えないから大変ですね（笑）。

坂田　心の中じゃ笑ってるよ。たしかに、あいつはもの凄い才能を開花させたよ。そこは素直に認めなきゃ

6/17　女に負けた!?　坂田軍、タッグ王座防衛失敗！



『ハッスル・エイド』の大舞台で一週間前に負傷したヒザを徹底的に攻められて、なんとEricaのヒザ十字固めにタップ！　負けた責任を崔に押しつけて非人間ぶりを発揮した。

7/11　橋本さんメモリアル6人タッグTに出場



橋本さんメモリアルの6人タッグトーナメントに参戦。決勝で敗れたが激闘を展開！この時期に国民的写真週刊誌『FRIDAY』に噂の彼女とのツーショットが掲載され、“時の人”となった。

9/7　衝撃！　ファンに土下座　坂田がGM選挙で当選



高飛車な物言いと大きな態度の坂田軍団のボスが「えい子参戦」など公約を掲げてハッスル総選挙に出馬！　ファンに土下座までする覚悟を見せつけて見事に当選をはたした！

11/23　まさかの妖精さん登場　公約をキッチリ守る！



『ハッスル・マニア』直前に「揉めちまった」と言っていたが、なんと小池栄子そっくりの妖精さんをブッキング！　見事にオープニングで開催宣言をキメてGM選挙の公約を守った。

RGは他のイジられ芸人とは違うんだよ！お笑い芸人レベルのツッコミじゃ光らねえ



意外にも初の対戦となった12月26日『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』（後楽園ホール）で、RGの背骨を破壊する寸前まで締め上げた。

いけない部分があるけど、自分が食われちゃアカンからな。

——そうですね。

坂田　そういう意識が持てないヤツはストーリーに絡む機会がどんどん少なくなっていくよ。俺様がかわいがってる（崔）領二には、プロとしての心構えを口うるさく言ってるもん。

——プロとして食われないようにするための極意ってなんでしょうか？

坂田　そんなこと知らねえよ！　一見さんには俺様だってRGに食われてるように映ってるかもしれねえだろ。食われないようにしようと思うことが大事なんだよ。だからといって突飛なことをするんじゃなくて、自分のやるべきことをしっかりやるのが大事なんだよ。自分の立ち位置が見えてないヤツはダメだろうな。

——そういう人は自分が何をすべきかすらわからない、と。

坂田　そうや。これは領二だけじゃねえ、小川直也にだってあてはまることだけどな。「自分の立ち位置がハッキリしてない」と思ってるヤツは多いけど、立ち位置なんてもんは他人から用意されるもんじゃねえんだよ。本来、立ち位置は自分で作るもんや！　俺様やニューリン様や高田総統に立ち位置が〝最初から用意されてた〟と思ったら大間違いだからな。

——プロデュースする側にしてみたら「この人はここまでやれるんだったら、次はあれを任せてみよう」ってなりますからね。

坂田　簡単に言うとそういうことやな。プロなら自分から立ち位置を作り出さないとダメやろ。RGは周りの人間に「おまえの立ち位置はここなんだよ」って教えてもらえた、ごくまれなケースかもしれんけどな。

——あの人の場合は控室で坂田さんを筆頭に、レスラーからボコボコにやられてたのが出発点ですよね（笑）。

坂田　でもな、俺様は最初から思ってたけど、RGはテレビで観るような他のイジられ芸人とは違うんだよ。お笑い芸人レベルのツッコミじゃ、あいつは光らない。つまり俺様が何を言いたいかというと、RGはお笑い芸人には向いてないってことだな。

——なるほど（笑）。芸能界はRGが光る土壌ではない、と。

坂田　肉体的にも精神的にもホントにハードなところに追い込まれないと、RGは光らないだろうな。まあ、それで息の長い活躍ができるかどうかは知らないよ。そこまでは面倒見られないからな（笑）。

——今日、ネットニュースを見てたら「R－1ぐらんぷり」一回戦を突破したそうですけど、頑張ってほしいですねぇ。さて、9月に坂田さんはGMに就任しました。それまでの一匹狼というイメージからガラッと変わりましたけど、これは意外にもはまり役でしたね。

坂田　そうか？　まあ、自分でいうのもアレだけど、俺様のあとにGMをやるやつがいるとしたら……大変だろうな（ニヤリ）。

——かっこいいなぁ。でも、そうですね。『ハッスル・マニア2006』で大仕事をやり遂げましたからね。

坂田　GM職は楽しいけど、この衣装を着こなしてる俺様が嫌だな。

——そうですか？　なんとも言えないいかがわしさが最高ですよ。

坂田　まあ、楽しんでやってるよ。

——いままでのGMはほとんどお飾りでしたけど、妖精さんのブッキングはストーリーでもなんでもなくて坂田さんにしかできないですからね。

坂田　そもそもは俺様がGMになるためのネタ振りだったんだけど、それがここまで走るとは思ってなかったしな。ただ、そのあとは俺様が関与してないところで『マニア』に向けて勝手に走らされてた部分もあったから、腹が立ったこともあったよ。

——当初の予定では全然違う「えい子」が出てくるはずだったんですよね。

坂田　まあな。詳しくは言えないけど、そのプランがいろいろあって都合がつかなくなったという報告を受けたときに、いろんなプレッシャーが一気に俺様にかかってきたんだよ。GMになるためにネタにしてた部分もあったからな。それで「一回、妖精さんに話をしてみよう」と思ったんだ。

——坂田さんが感じてた以上のプレッシャーは、ハッキリ言ってしまえば誰も感じてなかったのかもしれないですけどね。

坂田　それが凄いムカついたんだよ！……まあ、これに関しては俺様じゃなくて出てきてくれた妖精さんが一番凄いよ。

——でも、そこでスタッフにゲタを預けっぱなしにしなかった坂田さんの行動は素晴らしいと思いますよ。

坂田　単に夢を感じさせるような発言だったら、たとえかなわない夢でもそいつが全力で頑張ってる姿勢を見せればファンは納得すると思うんだ。でも、俺様の場合はあまりにもリアルな方向に走りすぎてたからな。そこは「ダメでもいいからプロとして最後までやらなアカンな」と思ってたよ。決まったのは大会一週間前だけど、それはいろんな事情があって一部のスタッフ以外には直前まで完全にシークレットだったからな。そんな苦労を知ってもらおうとも思わんし、それを売りにしてもしょうがないだろ。

——いやいや、坂田さん本人はそうかもしれないですけど、ファイティング・オペラの舞台裏にはいろんな思いや苦労があって、その上に成り立ってるんだということは僕らの仕事として伝えていかないといけないと思ってますから。

坂田　観に来たファンやPPVを観てるファンには「こいつら本気なんだな」って思わせるきっかけになったらいいけどな。

——その本気が伝わるかどうかが、凄く重要だと思うんです。お客さんはあっという間に見抜いてしまいますから。

坂田　そうやな。青木裕子の話に戻っちゃうけど、あの頃からファンもプロレスラーや芸能人の本気度を判断するようになってきたよな。俺様は去年、舞台に出させてもらって感

小川直也には潰れてほしくないし、このままだと俺様も張り合いがない

じたんだけど、四方から見られるリングっていう場所は隠しごとが一切できないからな。舞台ってのは正面からの目線しかないから、凄く違いを感じたな。だからリングで下手な小細工は通用しないってことや。小細工するなら本気でやれ！

──なるほど。では、坂田さん！　小川さんの本気度はどう見てますか？

坂田　う～ん……ハッスル星に行くんだろ？　3月までに帰ってこられるかな？

──3月までに往復ですからね（笑）。12月の『ハッスル・ハウス』で坂田さんは「（小川については）俺様も頭が痛い。来年の構想には入ってない」とリング上で言ってましたよね。

坂田　俺様が偉そうに言うのもどうかと思うけど、本人がどこまで感じてるかが問題じゃねえか？

──試合中の小川さんについてはどんな印象がありますか？

坂田　さっき長州力は「リング上で腹を割らなかった」って言ったけど、それは小川直也もそうだよ。本人は否定するかもしれないけどな。

──腹を割るっていうのは、〝自分の弱い部分まで含めてさらけ出す〟ということですか？

坂田　まあ、簡単に言うとそういうことだな。性格的にさらけ出せないのか、すでにさらけ出してるのに何かが邪魔してるのか、そこまでは俺様もわからん。ただ、このままじゃアカンよ。後楽園で俺様が言った「その昔、俺はアンタのことを尊敬してた」という言葉に嘘はない。ホントのことだからな。小川直也には潰れてほしくないし、このままだったら俺様も許さんよ。このまま死んでしまっていいのか？　それとも生き残りたいのか？　もちろん生き残りたいだろうけど、選手なんて簡単に死ぬんだよ。



さかたわたる■1973年3月11日、愛知県出身。アニマル浜口道場を経てリングスでプロデビュー。ハッスルには初期から参戦、当初は「ハッスル・プリンス」というキャッチフレーズだったが、どこの軍団にも収まらず坂田軍団を率いて大暴れ。06年9月のハッスル総選挙でハッスル5代目GMに当選した。キャッチフレーズの“GMW”とは「ゼネラル・マネージャー・ワタル」の略。身長175cm、体重93kg。

GMW

WATARU SAKATA

──死ぬ！　どういう意味ですか？

坂田　要するに選手は表に名前が出なかったら死んでるのと同じだからな。俺様なりの言い方をすれば、「死ぬなら闘って死ね！」ってことだ。俺様はそういうつもりでやってるから。

──小川さんがどういうつもりなのかが見えにくいんですよね。

坂田　『マニア』のエンディングで「いつか俺がエスペランサーを必ず倒す！」っていう小川直也の言葉にファンが乗れなかった。そこにたどり着くまでの過程を観てもらうことも大事なんだけど、本気のエネルギーが出てるときは、その場に来てた一見さんにも何かしらの刺激を与えるはずなんだよ。『ハッスル』は「世間を相手にする」って言ってるんだから、一番大事な部分じゃないか？　もちろん他にも容姿的なものとか、いろんな要素が必要になってくるけど、一見さんにもファンにも、小川直也の本気度が伝わってないんじゃないかな。

──こないだの後楽園は小川さんに対する野次がとくに厳しかったんですね。

坂田　まあ、後楽園ホールはそういう客層だからな。野次ぐらいでくじけてたら人に夢や感動は与えられんぞ！　とにかく死ぬなら闘って死ね！　俺様の個人的な意見だが、小川直也ってもっとスケールがでかいと思うぞ。それを説明しろと言われてもうまく伝えられないが、とにかく簡単に語れるような人間じゃないんだよ。

──ああ、わかる気がしますね。

坂田　とにかく3月から仕切り直してパワーアップしたハッスルが再スタートするから、期待してくれ。

──『ハッスル』も4年目に突入しますけど、よく髙田延彦PRIDE統括本部長が「２００７年にテレビがつかないと『ハッスル』はダメだろうね」っておっしゃってましたけど……。

坂田　そのとおり。髙田本部長から観ても、現状のままでは髙田総統がモチベーションを維持できないと思ってるんじゃないの？　メインストーリーに絡んでる選手はみんなそういう気持ちだと思うぞ。ここまで乗った船だからな。仮に『ハッスル』がなくなって「他団体でプロレスしますか？」って言われても、俺様はもちろん、『ハッスル』としてモチベーションが保てないと思う。もちろん、『ハッスル』として乗り込んでいくなら話は別だけどな。

──つまり現時点では『ハッスル』に骨を埋める覚悟だ、と？

坂田　そうやな。まあ、3月から始まるシリーズをしっかり見とけ。２００７年は俺様のプロデュースで地上波放送もつけて、『ハッスル』史上最高の一年にするからな。あと、俺様が考えた新オフィシャルポーズも浸透させる！

──あの「ワッタル！　ワッタル！」ですか！（笑）。

坂田　何がおかしいんや！　おまえもやらすぞ！　今年最初のインタビューは景気よく俺様のポーズで締めてやるからありがたく思え！

──え～っ!?　僕もやるんですか？

坂田　嫌がってるのか、テメエ！　殺すぞ！

──す、すいません……。

坂田　いくぞーっ！　3、2、1、ワッタル！　ワッタル！（手をWのポーズで動かしながら）。

【07年1月8日／都内・DSE事務所にて収録】



これが“GMW”提唱の新オフィシャルポーズ「3、2、1、ワッタル！ワッタル！」みんなで合唱しよう！

『ハッスル』4年目のスタートは3月から！

3月15日（木）東京・後楽園ホール（18:00開場／19:00開始）

3月18日（日）愛知・愛知県体育館（16:00開場／17:00開始）

活動休止したハッスル軍がここから再び動き出す！　“キャプテン・ハッスル”小川直也はハッスル星での出稽古の成果を見せられるのか!?　もちろん“GMW”坂田亘もハッスル！　4年目の再スタートを見逃すな！

［オフィシャルHP］ **www.hustlehustle.com/**

［お問い合わせ］ **DSEハッスル事業局 TEL.03-5464-1731**



やがて静かに目を閉じる永田さん。どうやらここで自我はどこかに吹き飛んだようだ。



鈴木みのるの腕を折らんばかりにひん曲げる永田さん。同時に怒りで自分の顔もひん曲がる！

1.4東京ドームで「プロレス復興」の手がかりが見えた!?

本誌大晦日増刊号で大好評の「写真館」シリーズ化決定!?

VIVA! 永田さん写真館

「プロレス復興」を旗印に開催された1・4東京ドーム大会。新日本プロレス創立35周年を記念した同大会には、全日本プロレスも全面協力した。プロレスが復興したかどうかはともかく、本誌が最も注目したのは鈴木みのると我らが永田さんの一騎打ちだ！（敬礼）。

構成／坂井ノブ
撮影／平工幸雄
design by さおとめの事務所

たとえ白い目で見られようとも……
白目を剥く永田さんは最高だ！（敬礼）



出た、白目！　この顔がドームのビジョンに映し出されると会場は一体となって大きくどよめいた。

棚橋が太陽対決を制す！　なぜか橋本さんが降臨!!



“太陽の天才児”棚橋弘至vs太陽ケアの太陽対決は序盤からケアが攻めまくった。



太陽は沈まない！　新日本の太陽がハイフライフローで全日本の太陽をフォール。IWGP王座を防衛した。

【IWGPヘビー級選手権試合】
（王者）○棚橋弘至［17:09 片エビ固め］太陽ケア×（挑戦者）



久々の武藤＆蝶野がタッグ結成。試合終盤、武藤と蝶野が袈裟斬りチョップを連発！　この後、武藤はDDTも繰り出した。



勝利を挙げた武藤＆蝶野が花道を引き上げていくとビジョンには橋本さんの写真が映し出され、束の間の闘魂三銃士再結成が実現した。

【スーパードリームタッグマッチ“This is レッスルキングダム”】
○蝶野正洋 & 武藤敬司［18:43 クロス式STF］天山広吉 & 小島聡×

プロレス復興のために闘え！　永田さん！



いまだ！　攻めろ！　永田さん！　千載一遇のチャンスに永田さんもご覧の表情。いまにも気合いが飛び出してきそうだ。



大ピンチ！　イス攻撃で大流血の永田さん。鬼気迫る表情にこの一戦に懸ける意気込みがひしひしと伝わってくる。

【三冠ヘビー級選手権】
（王者）○鈴木みのる［17:22 レフェリーストップ］永田裕志×（挑戦者）



三冠王座を防衛した鈴木みのるもリング中央で大の字になって倒れこむ。激しい闘いで精根尽き果てたか、ご覧の表情だ。



しかし最後は鈴木みのるのスリーパーで敗北。この直前に狙っていたアームブリーカーさえ決まっていれば…　…無念の表情から悔しさを感じろ！

プロレス界に永田さんがいるかぎり、プロレスはFUMETSUだ!!

大晦日に『PRIDE』がサブタイトルに「FUMETSU」と銘打った『男祭り』を開催した4日後、新日本プロレスが東京ドームで大会を開催した。「去年よりは熱があった」などといろんな媒体が書いているのだが、あいにく筆者は去年の大会に行っていないため去年の惨状を知らない。熱いものを感じた瞬間はあった。とくに永田さんの白目に最も熱いものを感じた。この瞬間の沸き方は人間が内側からこみあげてくるものをこらえきれないような、そんな沸き方だった。とにかく白目だけで大観客をあそこまで沸かすことができるのは永田さんかアンダーテイカーぐらいのものだ。永田さんがいるかぎりプロレスも「FUMETSU」だと断言していい（敬礼）。

ディープのすべてを収めたパーフェクト・ブック。



ディープインパクト 衝撃の軌跡

●グラビア「The Days of Deep Impact」●全レース回顧「Story of Deep Impact」●池江泰郎厩舎スタッフが語る「ディープインパクトと過ごした時間」●武豊「ユタカな日々 with ディープ」●数字で見る「ディープインパクト全記録」●血統解説&種牡馬展望●『うままんが日記』スペシャル●ディープ・グッズ大集合●他

発売中 AB判／オールカラー／128ページ 定価1200円［税込］

全国書店の競馬コーナーへ走れ。

1/27(土) AB判／178ページ／定価1500円［税込］

金杯から有馬まで!!

全部見せます 中央競馬2006



●JRA全平地GⅠインプレッション●2006年GⅡ&GⅢ完全回顧●2006年海外遠征の記録●2006年年度代表馬&各賞リーディング●2006年競馬ニュース●障害重賞プレイバック●交流重賞プレイバック●2006年にターフを去った馬たち●他



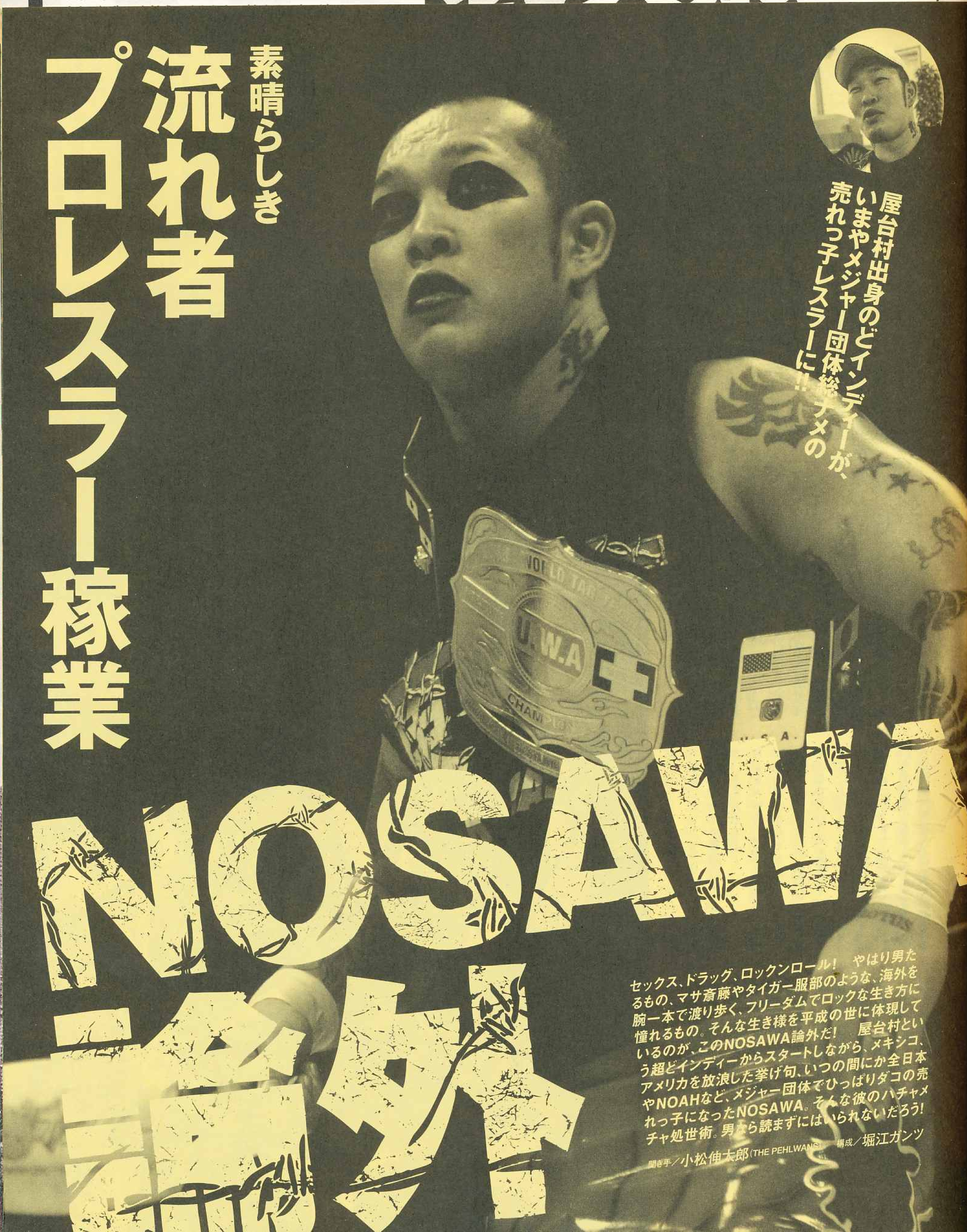
競馬重賞年鑑の王者、DVD付きで今年も発進。

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話0570-060-555（代表） http://www.enterbrain.co.jp/

「浅草キッド」の玉袋筋太郎氏がちょうど一年ぶりに本誌登場ーッ!! “男の中の男たち”を知る玉ちゃんが、病める現代社会で生き方に悩む子どもたちに向けて、“人生のルール本”を執筆。

教人永

初ソロ単行本
『男子のための人生のルール』



素晴らしき流れ者プロレスラー稼業

屋台村出身のどインディーが、いまやメジャー団体総ナメの売れっ子レスラーに!!

NOSAWA論外

セックス、ドラッグ、ロックンロール! やはり男たるもの、マサ斎藤やタイガー服部のような、海外を腕一本で渡り歩く、フリーダムでロックな生き方に憧れるもの。そんな生き様を平成の世に体現しているのが、このNOSAWA論外だ! 屋台村という超どインディーからスタートしながら、メキシコ、アメリカを放浪した挙げ句、いつの間にか全日本やNOAHなど、メジャー団体でひっぱりダコの売れっ子になったNOSAWA。そんな彼のハチャメチャ処世術。男なら読まずにはいられないだろう!

聞き手／小松伸太郎(THE PEHLWANS) 構成／堀江ガンツ

ディープのすべてを収めたパーフェクト・ブック。

――今日はインディー出身ながら、いまや全日本プロレスを中心に、『ハッスル』、NOAHまで席巻しているNOSAWA論外さんのサクセスストーリーをじっくりとお聞きしに来ました。

NOSAWA　そんなカッコいいもんじゃないですよ（笑）。行き当たりバッタリで、適当にデタラメに生きているだけなんで、そんなおもしろい話なんかないですよ。

――いえいえ（笑）。では、まずプロレスに入るきっかけから教えてください。

NOSAWA　そんなにプロレスは好きじゃなかったですね。テレビで土曜の夕方4時から10チャンネルでやっているのを観ている程度だったんですよ。だから学校でプロレスごっこみたいなことはやっていたんですけど、プロレスラーになりたいとまでは考えていなかったですね。まず、なれるもんじゃないというのがあったんで。それで、ずっとサッカーやってたんですけど、学校をクビになって。

――クビになったんですか!?

NOSAWA　自主退学です（笑）。高校3年の11月30日付けで。あと一週間ぐらいいたら卒業できたんですけど。

――それはまた、もったいない話ですね（笑）。

NOSAWA　で、たまたま後楽園ゆうえんちに行ったら、ポスターが貼ってあったんですよ。「パワーボードデスマッチ〝2メートルの人間バズーカ〟高野拳磁vs宇宙パワーX」っていう（笑）。「なんじゃ、こりゃ?」って思って、遊んだあと、18時30分からだから「観て帰ろうぜ」ってなったんですよ。

――まあ、「人間バズーカvs宇宙パワーX」ですから、興味はそそられますよね（笑）。

NOSAWA　で、実際に観たら、テレビで観てたプロレスと違ったんですね。

――大きく違うでしょうね（笑）。

NOSAWA　で、メインイベントで高野拳磁が出てきて、宇宙パワーに負けたあと、マイクアピールがあったんですけど、「あ、やべえ！カッコいい！」って（笑）。

――いきなり拳磁のマイクにしびれましたか！

NOSAWA　一発で持っていかれましたね。第一声が「悔しい！」から始まるやつで、まだ覚えてますけど。高野さんがマイクで「学校辞めてどうする？　どうする、どうする、どうする！　世の中どうするだらけだ！」とかって言っているのを聞いて、「俺もプロレスやるしかないな」って思って（笑）。

――いわゆる「拳磁のどうする節」ですね（笑）。しかし、プロレス入りのきっかけが拳磁のマイクって、凄い入り方ですよ！

NOSAWA　どうせ就職も進学も決まっていなかったんで。それで、高野さんが屋台村でプロレスをやっているっていうのを聞いていたんで、そこに入ろうと思ったんですけど、屋台村に行ったら高野さんはもういなくて（笑）。すでに辞めているっていうのを知らなかったんですよ。いたのは奥村茂雄とか高木三四郎とかいまの菊タローとかで。そこで一応テストみたいなのをやって受かって入ったんですけど、ボクが入ったときはそこももう末期だったんですよ。

――屋台村プロレスの末期（笑）。

NOSAWA　客がホント10人とかなんですよ。で、そこが閉まるってなって、その閉まる前に高野さんがPWCをまた作って一人でやっているっていうのを聞いたんで、高野さんのところに「入りたいです」って言いに行ったんですよ。でも、「ど



90年代半ば、自己陶酔したマイクアピールでごく一部のプロレスファンの心を揺さぶり、カルト的な人気を博した高野拳磁。まさか、そのマイクに痺れてプロレスラーになった男がいたとは……。

「浅草キッド」の玉袋筋太郎氏がちょうど一年ぶりに本誌登場ーッ!!　"男の中の男たち"を知る玉ちゃんが、病める現代社会で生き方に悩む子どもたちに向けて、"人生のルール本"を執筆。

教人永

初ソロ単行本『男子のための人生のルール』



「やべぇ！　カッコいい!!」高野拳磁のマイク一発で持っていかれましたね

この馬の骨だかわかんねぇヤツなんか」って言われて帰されて（笑）。

――あの人、そういう人ですよね（笑）。

NOSAWA　それでも2〜3回通ったら、「おまえ、明日から試合やれ」って。

――ワッハハハハ！　凄い適当ですね。

NOSAWA　「あ、はい」みたいな（笑）。ホント、そんなノリだったんですよ。とりあえず、高野さんの近くにいたいなって思って。

――高野さんの近くにいたい！　みんな逆に「近寄りたくない」って言いますけどね（笑）。

NOSAWA　そう言われてるの、ボクは知らなかったんですよ。屋台村でも「なんで、おまえこんな業界に入ろうと思ったの？」って聞かれたんで、「いや、高野拳磁さん観てて」って言ったら、「えぇ〜〜〜、あの2メートル？」って（笑）。

――みんなに怪訝な顔をされてしまったと（笑）。

NOSAWA　でも、ボクは実害がないわけじゃないですか？　で、PWCは入ったら入ったで、道場も事務所もないようなところで（笑）。そんときは金がなかったんで、菊澤（光信）君のところに居候していましたね。二年くらいいて一銭も払いませんでしたけど（笑）。

――じゃあ、ギャラなんかはもちろん？

NOSAWA　一試合1万円とか5000円でしたからね。そもそも試合自体がないんですもん。PWCでデビューしたっていっても練習をする場所もないわけですから、月に一〜二回試合をしているところに行って、普段は菊澤君の家で寝てゲームしているだけで（笑）。高野さんからプロレスなんか教わったことないですからね。

――プロレスを教えてくれない師匠でしたか（笑）。

NOSAWA　でも、ボクは一年付き人をやったんですけど、殴られたのは一回だけですね。けっこう、可愛がってもらってて、その頃からずっと酒を飲みに連れ回されていました。

――ちなみにその殴られた理由というのは？

NOSAWA　ボクは関係なかったんですけど、二瓶組長がデビューするってことで、高野さんが「ナメられんな！　潰せ！」って言ったんですよ。でも、高木三四郎は人がいいんで、アレ（指は例のサイン）しなかったんですよ。で、観てたらキレ始めて、たまたまボクがその現場のドアをパッと開けちゃったら、「おめえもだ！」って言われて（笑）。

――なぜかとばっちりを食ってしまったと（笑）。

NOSAWA　でも、ボクはいまだに悪い印象はないですよ。聞いていると、周りはなんか凄いことされているみたいですけど。まあ、お金絡んでないんで（笑）。

――お金がないんだから、絡みようがないですよね（笑）。

NOSAWA　で、PWCが夏のあいだ後楽園のルナパークで毎日試合やってたことがあったんですけど、「全部やったらアメリカでもメキシコでも好きなところに行かせてやる」って言われて、ボク73日間で90何試合もやったんですよ（笑）。

――ルナパークって後楽園ゆうえんちでやった『闘うビアガーデン』ですよね。とんでもなくハードなスケジュールで（笑）。

NOSAWA　そのルナパークって高木三四郎が持ってきた話なんですけど、そうしたら使途不明金が出たとかいう話になって、揉め始めたんですよね。それで、高木さんが「もう辞める」って言い出したんで、「じゃあ、団体作りましょうよ！　責任取ってくださいよ！」って焚きつけてDDTを作ったんですよ。

――NOSAWAさんが焚きつけたんですか！

NOSAWA　高木さんも最初は渋っていたんですけどね。そのときにちょうどMIKAMIが入ってきて。その後にMIKAMIをいじめてDDTもクビになったんですけど（笑）。

――今度はいじめてクビ（笑）。

NOSAWA　まあ、いじめてたっていうよりは、おいたをするからガッチリいってたって感じなんですけど。あと海外にも行きたかったんで、「すいませんでした。ボクが悪いんです」って言って、円満に辞めてメキシコに行きました。

――メキシコはなんかツテがあったんですか？

NOSAWA　ルナパークをやったときにアルカンヘルとスタルマンっていうルチャドールが二人が来てたんですよ。そいつらにとりあえず「行く」っていうのだけ言って、空港にまで迎えに来てもらいましたね。で、言葉もしゃべれないんですけど、メキシコに着いてから「試合ほしいんだけど」って言って。最初はひどかったですよ、「ここ泊まれ」って言われて泊まったところがメキシコのラブホテルですからね。「明日の朝、俺が来るまでドア開けるな」って言われて（笑）。

――いきなり危険な香りがしますね（笑）。

NOSAWA　で、とりあえず会社に行ったんですけど、ボクのことなんか誰も知らないじゃないですか？　日本人で、身体も作ってないし、「う〜ん？」って顔されて。で、アレナ・メヒコのジムっていうのは、



最初仲が悪かったMAZADAとは20ペソの肉が縁で仲良くなりました

プロとして登録されている選手じゃないと使えないんですよ。ただ、アルカンヘルもいい加減なヤツで、「とりあえず社長の名前を言って、あとはちゃんとEMLLって書けば大丈夫だから」って（笑）。それで、社長の名前出して名前と所属EMLLっていうのを書いたら、うまく潜り込めましたね。

――潜入成功、と（笑）。

NOSAWA で、ネグロ・カサスとかが当時、新日本の練習を取り入れたような基礎体力トレーニングのコースをやっていて、そこしか出るのがなかったんで、そこに出ていたんですけど。でも、やってて怖かったのが初日にそれが終わったあと、リングの上で囲まれてしまって。

――不穏ですね、それは。

NOSAWA 要はガチンコですよね。「え～？」って思ったんですけど、ボクも木村浩一郎にしごかれていたんで、逃げて極められなかったんですよ。そうしたらネグロからオッケーが出て、次の日から簡単なことからちょっとずつルチャを教わり始めましたね。で、半年ぐらい経ったときですかね？ ネグロが「そういえばなんで、おまえここにいんの？」って聞いてきて（笑）。

――半年経って、やっと気づいたと（笑）。

NOSAWA だから、「ここで試合ほしくて来ているんだ」って言ったんですよ。そうしたらネグロが会社に話をしてくれて、CMLLの二軍みたいなサーキットが毎日あるんですけど、そこに組み込まれるようになったんですよ。だから、ラッキーはラッキーでしたね。

――ネグロ・カサス様々ですね。

NOSAWA で、そんなふうにブラブラしていたら、大仁田（厚）さんのところで「安いヤツでいいからメキシカンを呼びたい」って言ってきたんで、世話をしてくれていたアルカンヘルとかに一緒についていって、DDTとかも出てたんですよ。「単発で使って」って三四郎に言って。MIKAMIは反対したらしいですけど（笑）。

――MIKAMIさんにとっては悪夢のような人でしょうからね（笑）。じゃあ、その頃はメキシコと日本を往復していたんですか？

NOSAWA 往復といっても、年に二回ぐらいですね。あとはメキシコをブラブラしながら試合をしてて。そこで、MAZADAと出会ったんですよ。最初、本当に仲が悪かったんですよ。向こうは無我で、ボクはインディー上がりじゃないですか？ あっちは凄く練習を一生懸命やっていたんですけど、ボクはあまり練習に行かなかったんですよ（笑）。とりあえず、長いものには巻かれろっていうことで、試合には出られていたんですけど、MAZADAは試合がなくて。

――まずルーツが違いすぎますもんね、屋台村と無我じゃ（笑）。

NOSAWA メキシコシティにあるペンション・アミーゴ（日本人向けの安宿）のドミトリー（共同部屋）で、同じ部屋に住んでいたんですよ。たまにいっぱいになって、普通の旅行者も泊まるんですけども、二人がピリピリしているのがわかるらしくて、一日で出ていくんですよ（笑）。

――「個室お願いします」って（笑）。

NOSAWA でも、ホントに金がなくて、ボクの全財産が2000円を切ったことがあったんですよ。「やべえな」って思っているときにMAZADAが肉を買ってきたんですね。肉っていっても、20ペソ、日本円で200円ぐらいの肉なんですけど、「くれって言うのも嫌だな」って思ってたら、下で焼いてきて「どうぞ」ってくれたんですよ。その肉のありがたみはいまだに忘れられないですね。200円の薄っぺらい肉なんですけど、ホンットうまくて！ そっからですよね、ホントに仲良くなっちゃったのは。

――薄っぺらい肉が屋台村と無我に友情の橋渡しをした、と。

NOSAWA で、だんだん試合が入るようになって、そんなときにアレナ・ナウカルパンの浅井（嘉浩）さんのいるところでボクとMAZADAがタッグチャンピオンになったんですよ。で、そこでもボクが不義理をかましまして（笑）。

――あらら（笑）。何をやらかしたんですか？

NOSAWA 日本に帰ってDDTに出たときに金村（キンタロー）さんに会ったんですよ。金村さんが「FMW来いよ」って目をかけてくれて。ただ、そのときに日本で女作ったんですよ。

――また、日本とメキシコ往復しながらマメにやってますね（笑）。

NOSAWA その娘に「どうせメキシコに帰ったら、戻ってこないんだよね」って言われてしまって。で、FMWの話もしようと思ってたんで、すぐにまた日本に帰ってきたんですけど、そのときメキシコでタッグベルトの防衛戦があったのをバックれてしまって、ベルトを獲られてしまったんですよ（笑）。

――王座剥奪（笑）。

NOSAWA で、それからFMWに行ったんですけど、FMWがあいうことになっちゃったじゃないですか？

――団体崩壊しちゃいましたよね。

NOSAWA で、「これ、ヤバいな」って思ったら、CMLLに新日本の柴田勝頼、井上亘、竹村豪氏が来ましてね。MAZADAも第二試合ぐらいだったのが、そこで試合順が上げられていたんですよ。で、冬木さんには「一緒にWEWでやります」って言ったんですけど、「これ、金出ねえよな」って思ったんで、メキシコに行ってまずMAZADAさんに「あの節はすいませんでした！」って土下座しまして（笑）。

――不義理を謝った、と（笑）。

NOSAWA それからネグロ・カサスにもNIKEのスニーカーを持っていって、「いま、俺を入れるべきだろう」って言ったら、ドーンと上のほうにいきましたね。

――事態の見極め方とその後の行動の早さは素晴らしいです（笑）。

NOSAWA で、NOSAWA、MAZADA、TAKEMURAの3人で二年ぐらいずっとメインでやってましたね。




カベジェラ戦（髪切りマッチ）を前にエル・サタニコとシングルマッチを行なうほどCMLLのトップに上り詰めたNOSAWA（写真左）。競合団体であるアメリカのTNAに出場しながらも、アビスモ・ネグロ、ミステル・アギラと何も悪びれることもなく記念撮影!（写真上）。

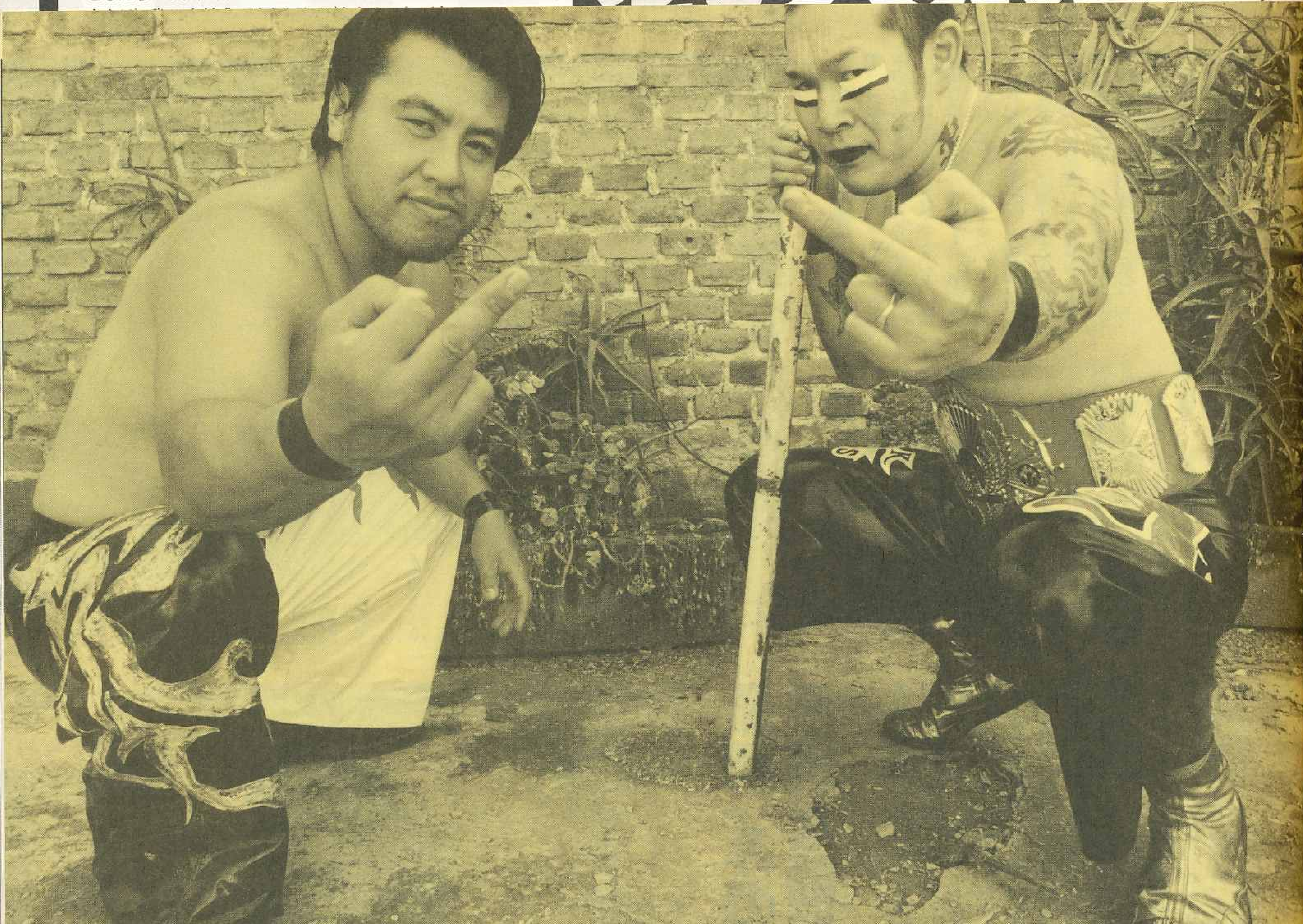
――それが東京愚連隊ですね。

――生活面も充実するようになっ

「浅草キッド」の玉袋筋太郎氏がちょうど一年ぶりに本誌登場ーッ!! “男の中の男たち”を知る玉ちゃんが、病める現代社会で生き方に悩む子どもたちに向けて、“人生のルール本”を執筆。

教人永

初ソロ単行本
『男子のための人生のルール』



NOSAWAが一番楽しかったという、メキシコ極貧放浪時代。金がないながら盟友MAZADAとともにすごした日々は、かけがえのないものであろう。

——それが東京愚連隊ですね。

NOSAWA そうですね。愚連隊は最初に菊澤君とアメリカのロスにあるXPWっていう団体に出ているときにやってたんですけど、菊澤君もやっぱり長いものには巻かれて、えべっさんっていう仕事があるから って来なくなっちゃって（笑）。ボクもメキシコのほうが忙しくなってきたんでロスに行けなくなって、それでメキシコで愚連隊のTシャツを二人に渡したんですよ。MAZADAなんかは前から一緒にロスに来てやってくれていたんですけど、そこに竹村君も入ってきて。これがまたおもしろくて、竹村君とも最初は合わなかったんですよ。

——またも無我の遺伝子とのあいだで軋轢が生じましたか（笑）。

NOSAWA 要は、ボクはピエロ的な試合でのらりくらりやっていたんですけど、竹村君は「新日本プロレス」っていうのが頭にあるから、「真面目にやってくださいよ!」って（笑）。固かったっスねえ。竹村君は「早く日本に帰りたい」っていうのが頭にあって、ボクらは「ここで名前を上げよう」っていうのがありましたからね。そういう部分でNOSAWA＆MAZADAとちょっと温度差があったんですよ。

——メキシコだと、島流し的な気分もあったんでしょうね。

NOSAWA そうっスね。でも、MAZADAが結婚して部屋を出ていって、竹村君と二人で一緒にいると必然的に仲良くなりますよね。「やめましょうよ、そういう固いの。なんとかなりますよ」って、そんなノリでやってたら途中から竹村君も弾けるようになって。その頃は試合も充実して楽しかったですね。

——生活面も充実するようになっていたんですか?

NOSAWA ボクも嫁をもらいましたからね。ただ、CMLLではかなりの問題児で通っていて、コナンっていうWCWで選手を引き抜いたり、AAAに移籍した主犯みたいな選手に頼んでTNAに出場したりしていたんですよ。クビにはならなかったんですけど、けっこう出場停止とかにはなってましたね。MAZADAもよくなってましたよ。MAZADAなんか、一回客をぶん殴って、アゴの骨を折ってましたからね。

——ひどいことしますね（笑）。

NOSAWA ボクは関係ないのに、一緒に会社に謝りに行って、なぜかボクも出場停止ですよ、問題児だから（笑）。で、奥村茂雄ですよ。奥村が来たときに、ちょうどMAZADAが日本に帰っちゃったときがあって、NOSAWA＆奥村組の試合がいっぱいあったんですけど、全部すかしました。

——すかした! また試合をバックれたんですか?

NOSAWA その頃は、全日本にもずっと呼ばれてたし、TNAのほうもおもしろかったんで。奥村と



組むとやっぱり一個下げられた場所で使われますからね。

――付き合ってらんない、と。

NOSAWA　だってあいつ、メキシコ来る前によく国際電話かけてきたんですけど、時差があるから、かかってくるのが朝の4時ですよ？

――迷惑なこと甚だしいですね（笑）。

NOSAWA　しかも、「メキシコってシャンプーあるのかな？」とか、そんな内容ですからね。「いや、奥村さん、朝の4時にメキシコにシャンプーあるかなっていう質問ないですよね。メキシコ人は髪の毛洗わないってことですか？」って言いましたけど。

――失礼極まりない質問だな（笑）。

NOSAWA　で、次の日は3時にかかってきて、「今日は早いでしょう？」って（笑）。その次の日も「メキシコって薬とかあるかな？」ってかかってきたんで、「おまえふざけんじゃねえぞ！」って言って、もう電話の電源切ったんですよ。そうしたら奥村からメールが30件ぐらい来て、「本当にゴメン。電話に出てくれ」って（笑）。

――30件！　迷惑電話のあとは迷惑メールですか（笑）。

NOSAWA　あれバカですよ（笑）。一生無理ですね。ゴマするのと、売り込むのとは違うんですよ。で、売り込むところにゴマするから、嫌がられているんですよね。だからいま、仕事がなくなってきてるんですよ。

――そのへんの使い分けはNOSAWAさんは上手そうですもんね。

NOSAWA　完璧です（笑）。それで生き残ってきましたから。

――去年の『WRESTLE―1』のときに、ミル・マスカラスの通訳をやられていたじゃないですか？

NOSAWA　はい。本当はしゃべれるような人じゃなかったんですけど、奥さんが日本人でごはんに呼んでくださったこともあったんですよ。それで、『WRESTLE―1』にマスカラスが来るってなったときにFEGに頼まれてボクがビザを取ってあげて、通訳とかもやってたんですよ。ただ、今年『NOSAWAボンバイエ』で論カラスをやったのがバレて、メチャクチャ怒っているらしいですけどね（笑）。

――ワッハハハハ！　マスカラスを怒らせましたか（笑）。

NOSAWA　本当に知らない間柄じゃないんで、ちゃんと謝ろうかなって思っているんですけどね（笑）。

――でも、そうやって大物の人とはけっこう仲良くなりますよね。

NOSAWA　あ、下の人間と一緒にいたら、周りの人間もこのレベルの人間だなって思われちゃうじゃないですか？　やっぱ、つるむんだったら下のヤツよりも上のヤツとつるんだほうが絶対にためになると思うんですよ。下のヤツらはハングリーなんで「負けたくない」って思って足をひっぱるんですけど、上の人たちだと余裕があるじゃないですか？　だから、ネグロ・カサスなんかとつるんでいましたけど、結局最後はMAZADAと組んで、カサス＆エル・サタニコ組との試合で、アレナ・メヒコのメインにまでもっていきましたからね。

――お見事ですね（笑）。

NOSAWA　会社にもゴマすりましたけどね（笑）。っていうか、逆に「やってくんないなら辞める」とまで言ってましたから。

――脅してましたか（笑）。

NOSAWA　何度ボクがAAAの事務所で目撃されていたか（笑）。会社もタレントを持っていかれたくないから、ボクらに餌を振って止めるんですよ。その駆け引きを何度もやってましたからね。で、奥村が来て、一緒の扱いじゃ嫌だなって思って、前日までCMLLに出てたんですけど、翌日にAAAのテレビマッチでボーンと移籍しましたよ。

――まさに電撃移籍じゃないですか！

NOSAWA　で、それやった次の日も、普通に（CMLL所有である）アレナ・メヒコのジム行って（笑）。みんな、「あれ？」って顔をしていましたけどね。でも、それぐらい図太くないと海外では生き残っていけませんよ。それにフリー契約みたいなもんなんで、アメリカなんかのギャラのいいほうに流れようっていうのがボクらもありましたから。

――ほほう。アメリカはいつ頃から回られているんですか？

NOSAWA　アメリカのインディーは2000年頃から一通り出てますね。TNA、ROH、3PW、MLWですね。あと、ロス道場の道場マッチはレギュラーで出させてもらっていましたね、サイモン・ケリー猪木さんに頼んで。

――そんなとこにも顔を出していましたか（笑）。

NOSAWA　たまたまサイモンさんに空港で会って挨拶して、それからですね。あとはTNAとかで移動するときに、ロス道場に泊まったりしてましたね（笑）。

――ロス道場を宿舎代わりに（笑）。イタリアにも行かれているんですよ

最初「みのる教室」に入ったのも不純な動機からでしたから（笑）



「浅草キッド」の玉袋筋太郎氏がちょうど一年ぶりに本誌登場ーッ!! “男の中の男たち”を知る玉ちゃんが、病める現代社会で生き方に悩む子どもたちに向けて、“人生のルール本”を執筆。

教人永

初ソロ単行本『男子のための人生のルール』

ね?

NOSAWA　イタリアはバンピーロのツテですね。ボクがAAAに移籍したときに、たまたまあいつもいて、「俺、来月イタリアに行くんだ」って言い出したから、「俺もブックしろ!」って言って。そうしたら、本当に去年の11月に入れてもらえたんですよ。あとはグアテマラにも行きましたね。

――グアテマラ!　メキシコのすぐ南にある国ですね。

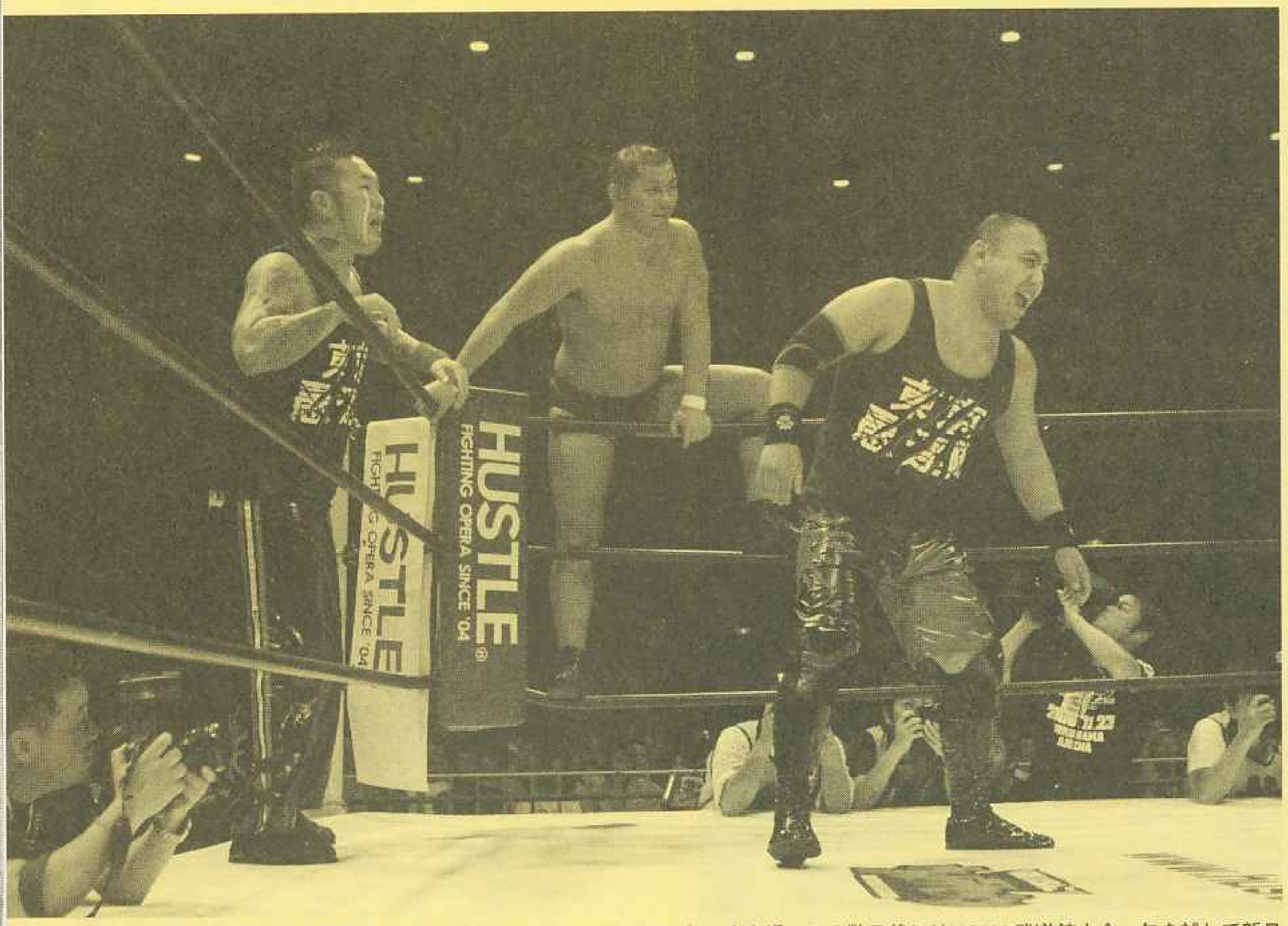
NOSAWA　グアテマラに日本でいう猪木さんみたいな英雄がいて、ボテッとした身体をしているんですけど、凄く人気があって、その人とやったんですね。そのとき、ブッカーに「グアテマラの旗を燃やしてくれ」って言われまして(笑)。

――なんか明らかに危険そうですね、それは(笑)。

NOSAWA　それで旗を燃やして、ノーコンテストかなんかで終わって帰ろうとしたら、50人ぐらいの客に囲まれて(笑)。プロモーターに会場に戻されて、3時間ぐらいポツンと会場にいましたね。

――それは大変でしたね(笑)。

NOSAWA　でも、こういうのって海外じゃないと経験できないですからね。まあ、バンピーロにしてもそうですけど、そういう長いものに巻かれて旅しているようなもんですよ。だから、あんま儲からなくてもいいと思っているんですよ、海外は。最初は名前を売らなきゃいけないっていうのがあるんで。


昨年はちゃっかりみのる軍団入りし、『ハッスル・マニア2006』にも出場。この数日後にはNOHA武道館大会、年を越して新日本1·4ドーム大会にも出場し、年末年始のプロレス3大ビッグマッチを総ナメに。何気に凄いよ、NOSAWAさん!

――でも、そのやり方で日本でも売れっ子になりましたよね。

NOSAWA　そうですね。だから、『ハッスル』からオファーが来たときは本当に嬉しかったですね。あとNOAHの武道館もあるんで。

――凄いですよね。全日本の『最強タッグ』に鈴木みのると組んで出て、『ハッスル・マニア』に出て、NOAHの武道館でGHCジュニアタッグに挑戦って。

NOSAWA　新日本のドームも出ますから。

――おお、1・4も!　年末年始のプロレス界のビッグイベント総ナメじゃないですか。

NOSAWA　だから、勝ち星とかべつにどうでもいいって言ったらいけないんですけど、レスラーにはそれぞれ役割ってあるじゃないですか?　ボク、TNAには毎週呼ばれていましたけど、勝ったこと一回もないですよ。

――勝ち星ゼロ(笑)。

NOSAWA　でも、Xディヴィジョンとかのチャレンジャーにはなれるんですよ。PPVに出るときって、負けるときは絶対に映るわけじゃないですか。「これ、おいしいんじゃねえか?」って。だから、TNAとか楽しかったですね。いっぱい名前のある人と知り合えたんで。でも、スティングだけはわからなかったですね。

――わからなかったっていうと?

NOSAWA　控室に見知らぬデカイ人がいたんで、「この人誰だろう?」って思ってたら、顔を塗り始めて(笑)。「あ、スティングだ」って思って、「はじめまして、ムタのカンパニーにいる者です」って言って話しかけました。

――やっぱりムタの名前はアメリカで絶大な効果を発揮するんですか?

NOSAWA　TNAのジェフ・ジャレットも、ムタのところに出ているっていうのがわかると、「おお、そうか!」って感じでしたからね。

――そしていまや武藤さんのみならず、鈴木みのるまでも捕まえて。

NOSAWA　最初もおいしいかなっていう不純な動機だったんですけど、いまだに続いてますからね、みのる教室(笑)。

――「みのる教室」って、いわゆるセメントのスパーリングですか?

NOSAWA　はい。試合前にいつもやってるんですよ。ただ、もう強くはなれないですね。

――ワハハハ!　あきらめましたか。

NOSAWA　凄くプラスにはなりましたけどね。MAZADAなんか、30歳にして耳が沸き始めましたから(笑)。いまはだいぶ慣れてきて、ホントに充実してます。あとはWWEに行きたいだけですね。向こうに出たら、もういいかなと、思い出は。

――思い出作りは(笑)。

NOSAWA　で、WWEも一回呼ばれてはいるんですよ。ロスにボクのエージェントみたいな人がいて、普段メールでしか連絡が来ないのに、電話がかかってきたんで、どうしたのかなって思ったら、「大変です!　WWEからオファーが来ました!」って。

――おお!!

NOSAWA　「『NOSAWAっていうのは英語がしゃべれるか?』って言うから、『しゃべれる』って言っておきました」って(笑)。そうしたら、自分のところにもWWEからファックスが来たんで、コネチカットの本社まで行ったんですよ。で、迎えがリムジンで、1泊400ドルぐらいのいいホテルに放り込まれて。

――メキシコでは考えられない待遇ですね(笑)。

NOSAWA　で、「ジョン」っていうヤツから部屋に電話があったんで行ってみたら、どっかで見たことがある人だなと思ったらジョニー・エースでしたね(笑)。

――ワッハハハハ!　WWE副社長の登場でしたか(笑)。

NOSAWA　ジョンなんとかなんですよ、本名が(ジョン・ロウリネイティス)。それで、「おまえ、英語は?」って聞かれたんで、「俺、英語しゃべれない」って言ったら、「う～ん……」って顔されて(笑)。で、次の日の朝、WWEのスタジオに行ったら、(鈴木)健想さんと浩子さんがいまして。ボクと組ませたかったらしいんですよね。で、最初、健想さんに“ヒロヒト”っていうリン

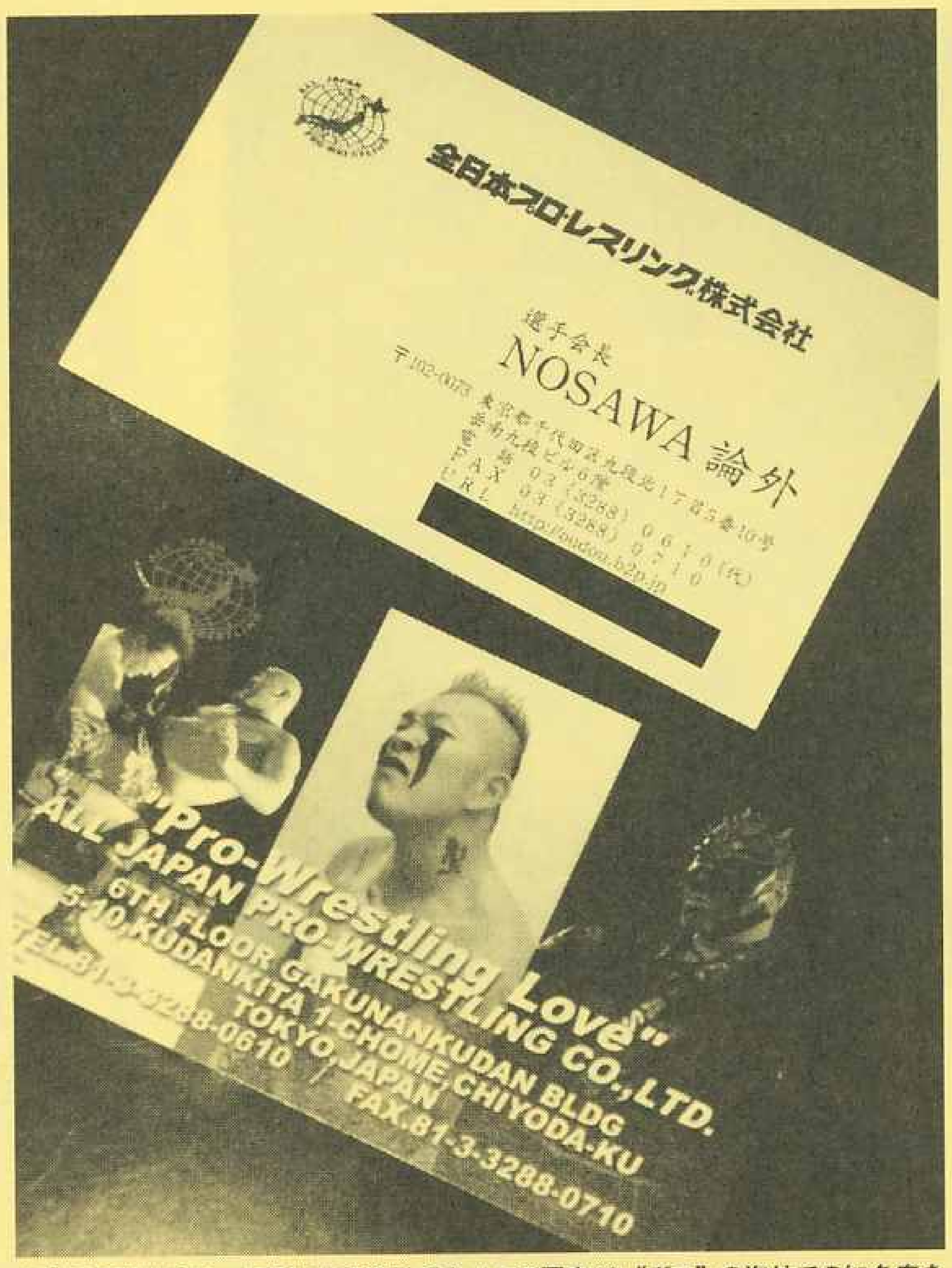


グネーム案があったらしくて。

——また、あからさまに危険なリングネームですね（笑）。

NOSAWA　で、その横で側近みたいなキャラでスーツ着て英語でしゃべるっていうことだったらしいんですけど（笑）。スーツと台本を二枚ぐらい渡されて、浩子さんに訳してもらって暗記してやったんですけどダメでしたね。

——う〜ん、残念でしたね。



自分の名刺なのに、両脇には武藤社長とムタの写真が！"ボス"の海外での知名度を最大限に利用する。これがプロレスラーNOSAWAのサバイバル術である。

NOSAWA　で、その後、道場でトミー・ドリーマーとかと試合をやらされて。結局、最後はオフィスでビンスとステファニーに会って、500ドルのチェックをもらって、「また連絡する」ってことで終わりました。「試合は大丈夫だから、英語がしゃべれたらダークマッチとかトライアウトとかいつでも組めるようにするから」って言われましたけどね。で、このあいだの日本公演のときにバックステージでアーン・アンダーソンとかに会って、「いいから一回来い。一ヵ月ぐらい回れないか？」って言われたんですよ。サブゥーとかジャマールがだいぶプッシュしてくれたんですけど。でもまあ、行かないですけどね（笑）。

——せっかくのチャンスなのに（笑）。

NOSAWA　行ったところで、あんなに細かく決まっていたら、しゃべれないんで。でも、ダークマッチでもいいんで、一回ぐらいは出たいですね。

——なるほど。ところで、ちょっとぶしつけなんですが、ご結婚についても聞いておきたいんですけど。

NOSAWA　つい最近、3回目の結婚をしまして（笑）。

——あ、お若いのにもう3回も。お聞きしづらいんですけど、最初があの……。

NOSAWA　女子高生レスラー

武藤さんに「猪木さんより先に韓国で『ゲノム』やれ」って言われてます（笑）

です（笑）。

——大野千春さんですね。できちゃった結婚で話題になりましたけど、あれはなんでダメになったんですか？

NOSAWA　あのー、ボクが逃げたんですね。「コレはやばい」と思って、最初の2ヵ月ぐらいで何も言わずにメキシコに。で、一回帰ってきたんですけど、またすぐにメキシコに一年ぐらい行っちゃって。それで、また帰ってきたときに向こうのお父さんとお母さんが「君には何も期待してないから」って（笑）。

——シビアな一言ですね（笑）。

NOSAWA　どう考えても慰謝料とか無理じゃないですか？　いまでも三流ですけど、あの頃はインディーの五流ですから、収入もないですし（笑）。それでそのまま終わりましたね。

——それで次がメキシコで。

NOSAWA　言葉覚えるには、女を作るのが早かったんで。MAZADAなんかは向こうで結婚して家も買ってますから。東京愚連隊で売れたときはアレナ・メヒコの近くのマンションでMAZADAが4階に住んでいて、ボクも3階に住んでいましたね。まあ、金稼いだら絶対に贅沢しようと思っていましたから。金がなくなったらまた稼げばいいやって。高野さんに「小さくまとまんなよ」って言われてましたからね（笑）。

——その教えは忠実に守っている、と（笑）。

NOSAWA　それがいいか悪いかは別にして、小さくまとまんないでバカやったり無茶やったりしたほうがいいかなって思いますね。ただ、しばらく日本とメキシコ行ったり来たりしていたんですけど、もう面倒くさくなっちゃってしばらく日本に残ってたら、メキシコに帰ったときに家がなくなっていたんですよ（笑）。

——ええ!?　それはどういう状況なんですか？

NOSAWA　全日本に出ているあいだに違う家族が住んでいたんですよ（笑）。それで、「いいや、全日本行っちゃえ」って思って、3年間全日本でやっていますね。

——そうだったんですか（笑）。しかし、凄いのし上がり方してきましたね！

NOSAWA　すいませんね、こんなんで（笑）。今度、韓国に行って、『NOSAWA GENOME』やってこようかと思っているんですよ、公園で。

——公園でですか？

NOSAWA　『INOKI GENOME』がまた延期になっちゃったじゃないですか？

——ものの見事に延期になりましたね（笑）。

NOSAWA　「アントニオ猪木で延期になったら誰がやるんだ。俺しかいないだろう！」って韓国でやろうかなと（笑）。「リングが来なかった」ってことで、公園で子どもとかが座っているところでやりたいなって企画しているんですよ。

——ダッハハハハ！　それは秀逸な企画ですよ（笑）。

NOSAWA　じつはそれを考えたのが武藤さんなんですよ。「おまえさぁ、猪木さんより先に韓国でやれよな。リングが来なくても強行開催とか言って、ダーッてやれよ」って（笑）。

——武藤さんもタチの悪いこと考えるな（笑）。いや、『NOSAWA GENOME』韓国大会の実現は楽しみにしてます。今日はありがとうございました！

【06年12月4日／千代田区・九段会館にて収録】



のさわ・ろんがい■本名・野沢一茂。1976年12月17日、千葉県出身。95年にPWCでデビュー後、DDTを経てメキシコやアメリカのインディー団体を渡り歩く。04年から全日本を主戦場とし、06年3月の『ジュニアタッグリーグ戦』では下馬評を覆し、優勝（パートナーはMAZADA）。イタリアやグアテマラでも試合経験があり、07年1月にはイギリス遠征もはたした。180センチ、87キロ。

初ソロ単行本『男子のための人生のルール』出版記念!

本物の漢(おとこ)が世知辛い現代に喝!

『kamipro』読者

永遠の中学生にも人生のルール教えます!!

「浅草キッド」の玉袋筋太郎氏がちょうど一年ぶりに本誌登場ーッ!! “男の中の男たち”を知る玉ちゃんが、病める現代社会で生き方に悩む子どもたちに向けて、“人生のルール本”を執筆。ならば、我々も教えてもらわねばならぬことがあるはず。“永遠の学年誌”『kamipro』に向けて放たれたメッセージを心して読め!

聞き手／押切伸一　撮影／菊池茂夫　構成／上杉過失

design by さおとめの事務所



「心のチンポを剥け!」

浅草キッド
玉袋筋太郎

――『kamipro』には久々の登場ですが、ソロデビュー作『男子のための人生のルール』を出版されたということで、いままで見てきたプロレスラーや格闘家に学んだことも含め、「男子」から「子」が取れて男になるための〝男のルール〟を教えていただければと思いまして。

玉袋　男のルール！　わかりました!!

――執筆の依頼があって、こういう本にしようと思ったいきさつは？

玉袋　最初は断ったんですよ。この本のシリーズには養老孟司さんだとか、みうらじゅんさんだとか凄いメンツがいっぱいいたんで。児童書なんか書けねえなって。ここは俺が上がるリングじゃねえな、と思ってたんですね。だけど、14歳に向けて書く本だって聞いて、ちょうどウチのせがれも14歳で、オレも14歳やってきたんで男子のためのそういう本を書きたいなっていうのは思ってたんですよ。で、最初はギャグ本にしようとしたんですけど、それがギャグじゃなくなってきちゃったんだよな。だって、「銭湯で前を隠すな」とかいうのはギャグっぽく言ってたんだけど、だんだんそれが「前を隠してるってことが、なんか自分の何かを隠してるんだよなあ」ってことになってきて、それでこういうスタイルになった感じですね。





――名言が盛りだくさんで素晴らしいです。「インナー・チンポを剥け！」とか（笑）。

玉袋　いやいやいや。この世界で、もうキャリアが20年になったんですけど、キャリアを積めば積むほどドライになってくるじゃないですか。番組にしても、人間関係にしても。で、番組やってるときはワァーッとやってるんだけども、いざ終わったらスパッとしてて、「なんだオマエ、前の日まで明け方まで飲んでたのに」っていう。なんかそこは、「アイツは心のチンポを俺に剥いてくれなかったのか」って、寂しかったんですよね。そういうことを引きずっちゃう。そこで「心のチンポを剥け」っつうのが出てきたりしましたね。

――プロレスラーや格闘家を含めた著名人で、「この人はいま思えばずいぶん剥けてたんじゃないかな」っていう人はいますか？

玉袋　う～ん、この人、ズル剥けだなっていうのは……、ガキの頃に見た村西トオル（AV監督）とかはズル剥けてんなあ（笑）。なんか借金背負って生きてる人ってのは、ズル剥けた感じがしちゃうから。やっぱ猪木とかズル剥けてると思うよ、俺は。

――プロレスラーなんかは、ズル剥けてないとなかなか魅力的になれないものでしょうね。

玉袋　橋本（真也）なんて剥けてたもんね。

橋本は人間的にはズル剥けてたよ！



実際は剥けてなかったって話もあるけど（笑）。包茎でも心のチンポは剥けてるわな。あと芸能人でいったら、勝新太郎さんなんてズル剥けなんでしょうね。昔の人はみんなズル剥けてんなあ。なんか、いまの芸能界では作られたズル剥けの人もいるだろうしさ。営業剥けしてるヤツとかさ（笑）。まあそれで成り立ってる部分もあるけど、なんかそれだけじゃもったいねえなってのがあるんだよな。ガキの頃から剥いた感じでやってたら、イイ感じのヤツになれんじゃないかなっていう気がするんですよね。

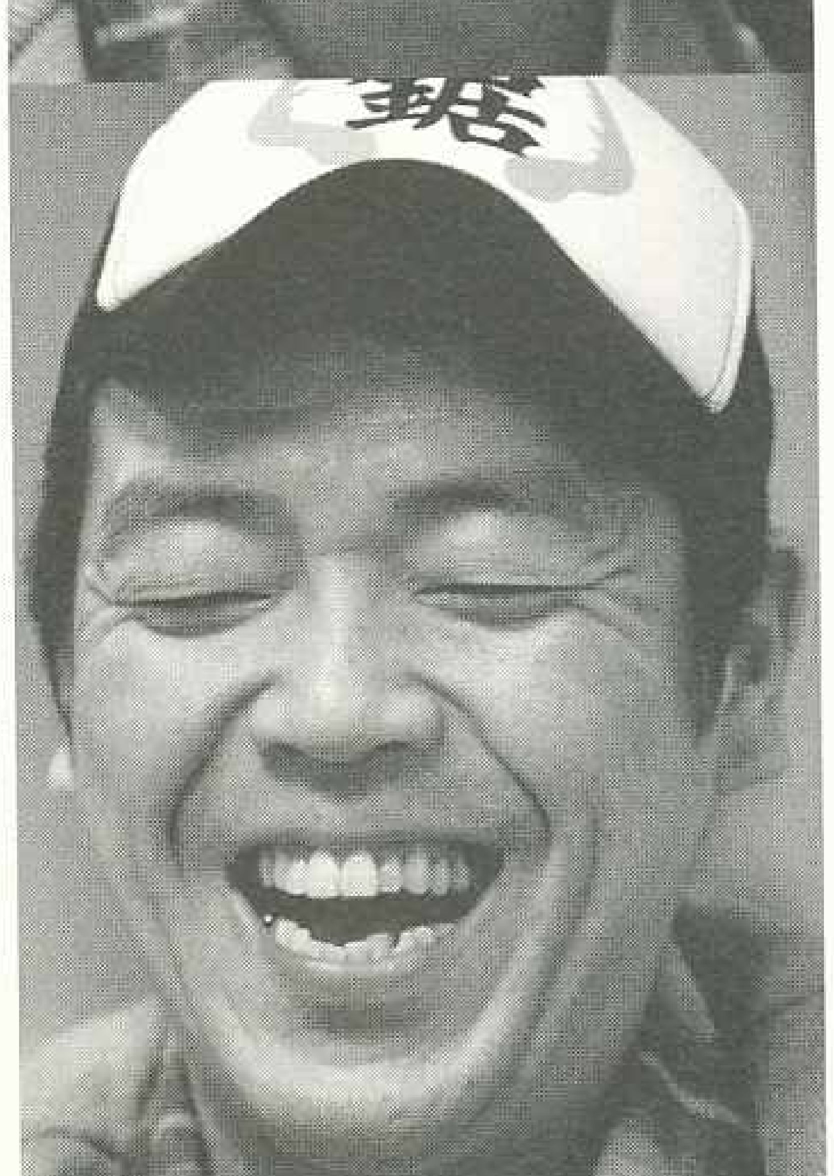
――もったいない、と。

玉袋　もったいない！　もったいないというのが、根底に流れてますね。

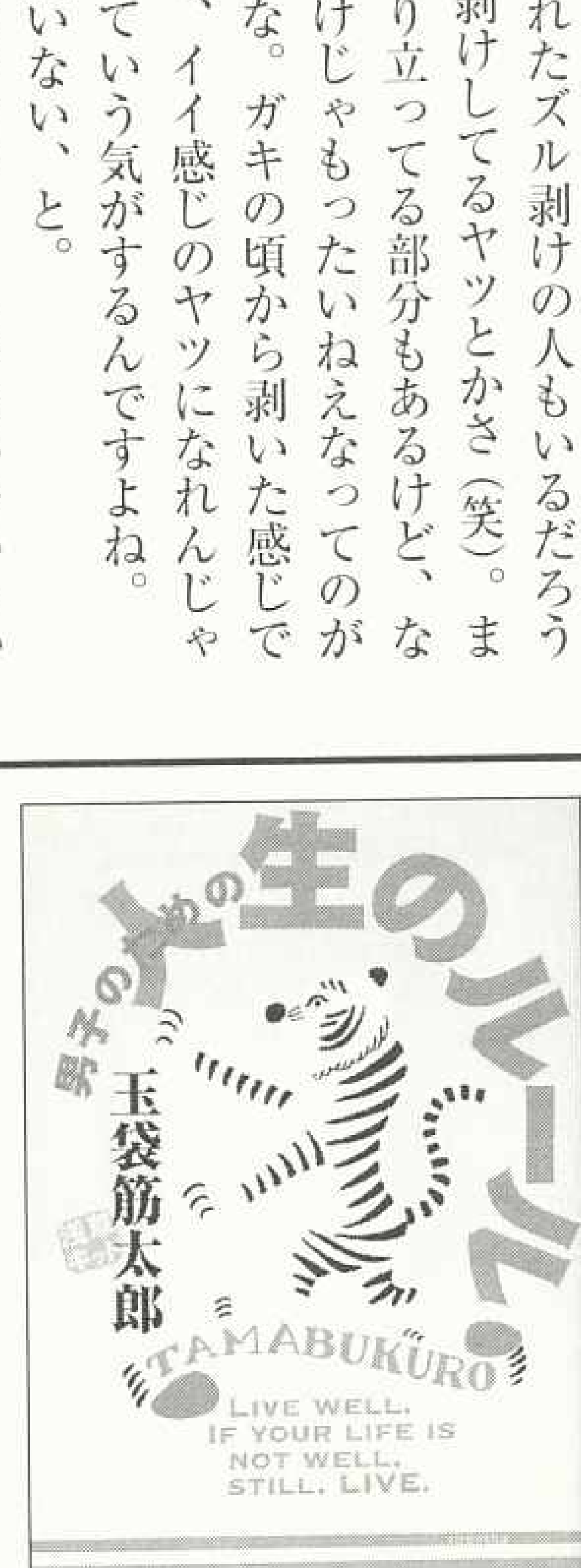
――まあ、14歳というか大人でもそうですけど、なかなか剥けない、隠したいという葛藤もありますけどね。

玉袋　ある、ある。それはある！　たとえばチンポを、剥けてなくて隠したいっていうヤツの気持ちもわかるから、「わかるからこそ、チンポ出してくれよ！　出してくれたらツッコまねえよ。わかった、わかった」っていうような、何も言わずに黙ってうなずくという感じでやれるのになあ。それがないのが、なんか残念なんだよなあ。

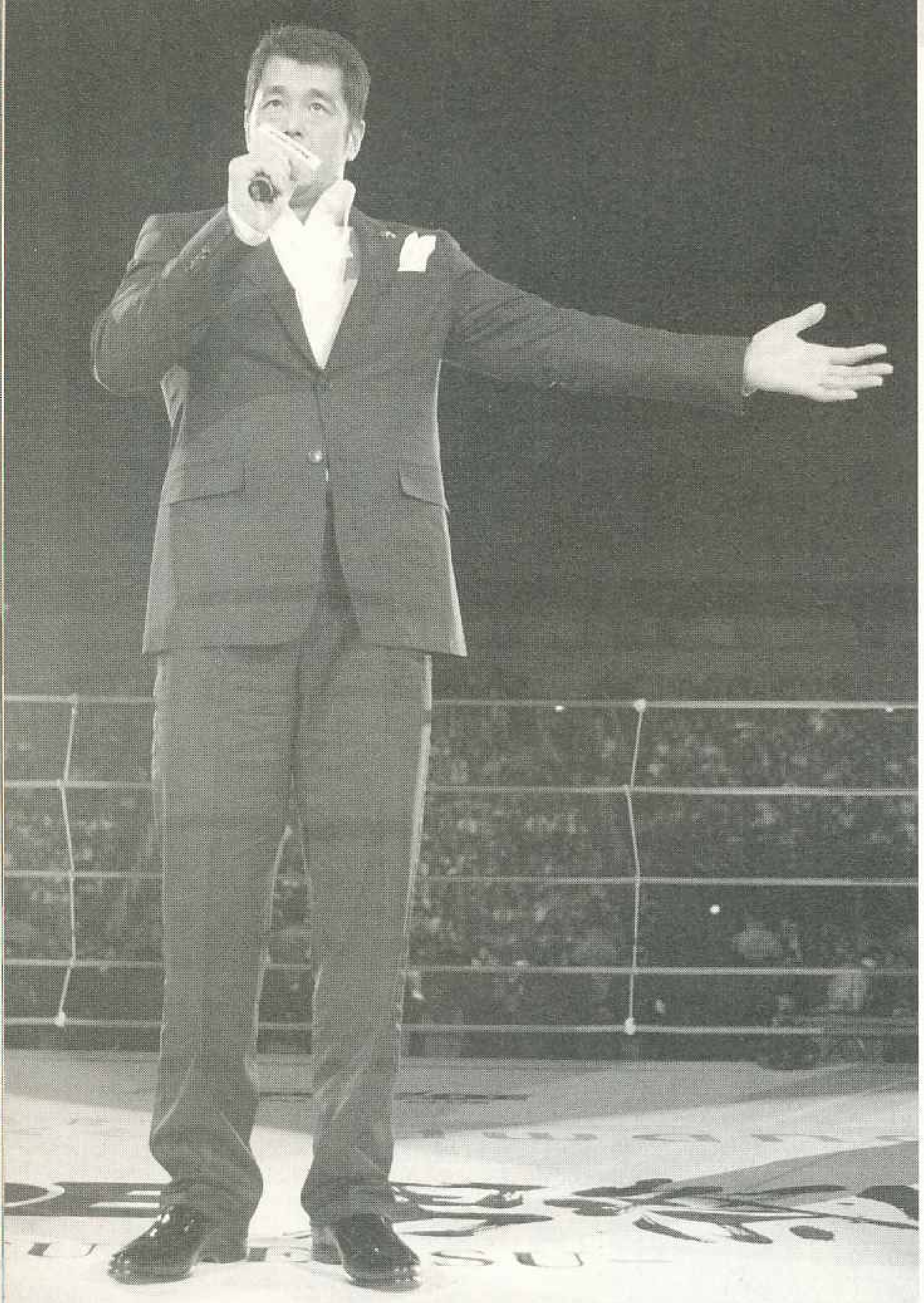
――口に出さずとも認め合う関係ですね。それから「誰かにスポットライトを当てる喜びを知れ！」というのも名言ですねえ。



玉袋　俺は小学校の頃、プロレスごっこをムチャクチャやってたんだけど、腕力の強いヤツとかデカいヤツがいてさ、俺はそいつらを光らせたもんね。喜んでやってたんだよね。逆にプロレスごっこが下手なヤツがいるわけよ。コブラツイストをかけようとしてもさ、かけさせてくれねえヤツとか。俺、そういうヤツがすげえ嫌いだったの。あと、本気出してガーッときちゃうヤツとか。なんかさ、絶妙な加減で友だちとやり合ってこそ、視聴覚室でプロレスやってんのが楽しかったんだけど。そこらへんデキねえ



『男子のための人生のルール』玉袋筋太郎著（理論社）定価1260円（税込）。自身も中学生男子の親であり、また、さまざまな世界で〝本物の男たち〟と出会う著者が、満を持して子どもたちへ贈る、初の書き下ろし単行本。自分の身体を見る、「ありがとう」を言う、友だちと向き合うなど、コンプレックスの捉え方や人との関係での基本姿勢などについての、最強の〝人生のルール〟が満載。子どもを持つ父親も必読の書。



ヤツとは、なかなか付き合えなかったな。

——子どもの頃ってプロレス会場に行ってましたか？

玉袋　俺はね、新宿（が地元）で京王プラザが新日のレスラーの宿泊所だったから、よく出待ちしてたりしてさ。その日はアンドレ（ザ・ジャイアント）と（ハルク・）ホーガンがやるはずだったのかな。待ってたら、アンドレとホーガンがビール片手で、肩組んで出てきて（笑）。まあ、それでも蔵前（国技館）に行ってワクワクしながら観たんだけど。けっこう会場に行ってますよ。猪木さんがアックスボンバーでベロ出した試合も行ってるし。ブッチャーとシークの仲間割れの最強タッグも行ってるし、馬場vsハンセンも東京体育館まで行った。本気で観てたよなあ。

——まあ当時の空気は本気、ですよね。

玉袋　いやぁ、ミスター高橋さんの本を読んで「うわ〜、プロレスってすげえな！」って思ったぐらいだからね。あの本は業界的には悪い本だったのかわかんねえけど、ますます猪木さんとか凄かったんだなっていう。俺は逆に尊敬したんだよな。いまはまた『ハッスル』とかは、その当時のプロレスを解体して、ダチョウ倶楽部的な『お笑いウルトラクイズ』の世界なんだろうけど。

——そこらへんは、プロレスがまだふっきれていない感じはしますか？　どちらかというと芸能の領域に近づいちゃってるわけじゃないですか。

玉袋　だからなんで新日本プロレスがさ、「お約束ですよ〜」っつうのをやんねえのかな、と。もったいねえ。あそこがやってくれたらおもしろくなるのに。もう一度プロレスを解体して創るっていうか、『お笑いウルトラクイズ』を観るお客さんだってあれだけ育ってきてるわけだからさ。こないだの『お笑いウルトラクイズ』はちょっと現場に行けなかったんだけど、現場に行った森三中とか、まちゃまちゃとかと収録のあと仕事が一緒になったんだけど、ホントに感動してんのね。「ずっと観てて、この番組に出るのがあたしたちの夢だったんです」ってウキウキしてんの。ああ、すげえ番組だったんだなあと思うんだけど、いまのプロレス界は、観てた人たちが飛び込んでくる現場になってんのか？　と思うんだよなあ。それがもったいねえよなあ、できるはずなのに。

——いまは格闘技の時代になってきてますよね。

玉袋　これはこれでまたおもしろいんだよなあ。でも、やっぱりプロレスラーの何が素敵かっつうと、最近は出なくなったけど猪木さんが『PRIDE』に出てきたときのマイクのやり方だとか、オシャレっぷりとか、お客さんを驚かせる一言だとか、あいうのが、俺は「ああ、格闘家とは違うんだなあ」って感じが凄くした。（高田延彦統括本部長もそうじゃん、バチッとキメてくれるじゃん。それを一番最初に感じたのは『武士道』の選手が、「これから『武士道』やります」つってゴム草履と半ズボンで出てきたときね。ダラダラと出てきたじゃん。「ああ〜、ダメだこりゃ！」って思ったの。だけど、それぞれ『武士道』の選手が『武士道』の回数を重ねて、それなりにマイクもちゃんとやるようになってきたのは「あっ、こりゃすげえな」って思った。客前は人間を磨くんだなって。

——他人に見られて、人は成長すると。そういう部分では、意外にも玉袋さんは背が高いのがコンプレックスだったみたいで。

玉袋　そうですよ。背が高くて、やっぱ朝礼のときに一番後ろなんで、つい（背中を丸めながら）こうなっちゃうっていうね。だからこう、馬場さんの気持ちもわかる、みたいな。ヘヘヘッ！　シルバの気持ちもチェ・ホンマンの気持ちもわかる。うん、わからないでもない（笑）。だけどもそれを商売にしたっていう馬場さんとか凄いよ！　だってそんなの見世物小屋じゃない、ある意味。それを商売にしてるんだもんプロレスはテキヤの王様だよね。

——そういうプロレスには生きるヒントがあるよ、と。

玉袋　ありますよ！　あると思うよ。絶対……あるなあ。ガキの頃、やっぱり猪木が人気あるんだけど、俺の友達で一人だけ上田馬之助が好きだって卒業文集に書いたヤツがいたのよ（笑）。みんな、「オマエ、バカじゃねえの⁉」っつったんだけど、それが小学校6年のとき、クラスで一番バカだったのね、成績が。だけど、いま考えるとアイツが一番世の中のことをわかってたのかなっていうね、うん。たしかにそいつの親父もプロレスが好きで、『ファイト』を買ってたんだよなあ！　『ファイト』を読んでたんだよなあ、アイツなあ、字ィ読めないくせにさ。プロレスはそういう、人を見る目を養うところもあるね。

——子供にとっては極悪人でしたからね。

玉袋　極悪人ですよ！　なんか惹かれちゃったんでしょうね。でも、あの当時の上田馬之助を見て卒業アルバムに「上田馬之助が好きです」なんて書くヤツいねえよ。アイツはわかってたんだなあ。

——そういうシブいところに目が行く玉袋

玉袋筋太郎

本部長はマイクも決めてくれるじゃん 見られてこそ人間は磨かれるんだよ！

五味はシャイの塊。「饅頭食わねえッ！」って空きっ腹でも一人で遊ぶタイプだよ

さんは、シャイな東京の街の子っていう感じがありますけど、「あ、同じ匂いがするな」っていう人はいますか？

玉袋　いるねえ。シャイは五味（隆典）だなあ！　ありゃあ、シャイの塊だあ。こないだの石田（光洋）との試合前までの対立なんつうのは、俺は完全にそう思ったから。うん。「俺ぁ、饅頭食わねえッ！」ってさ、五味は空きっ腹なんだけどさ、もう一人で遊んじゃうタイプだな。彼は切ねえよなあ！　5時半のチャイムが鳴って日が落ちたときも一人で遊んでるタイプだよ。一人で、うん。うん。彼のチームだって秘密基地作っちゃったようなもんだからね、空き地に。

——ジムはホントに五味一人の練習場なんですよ。

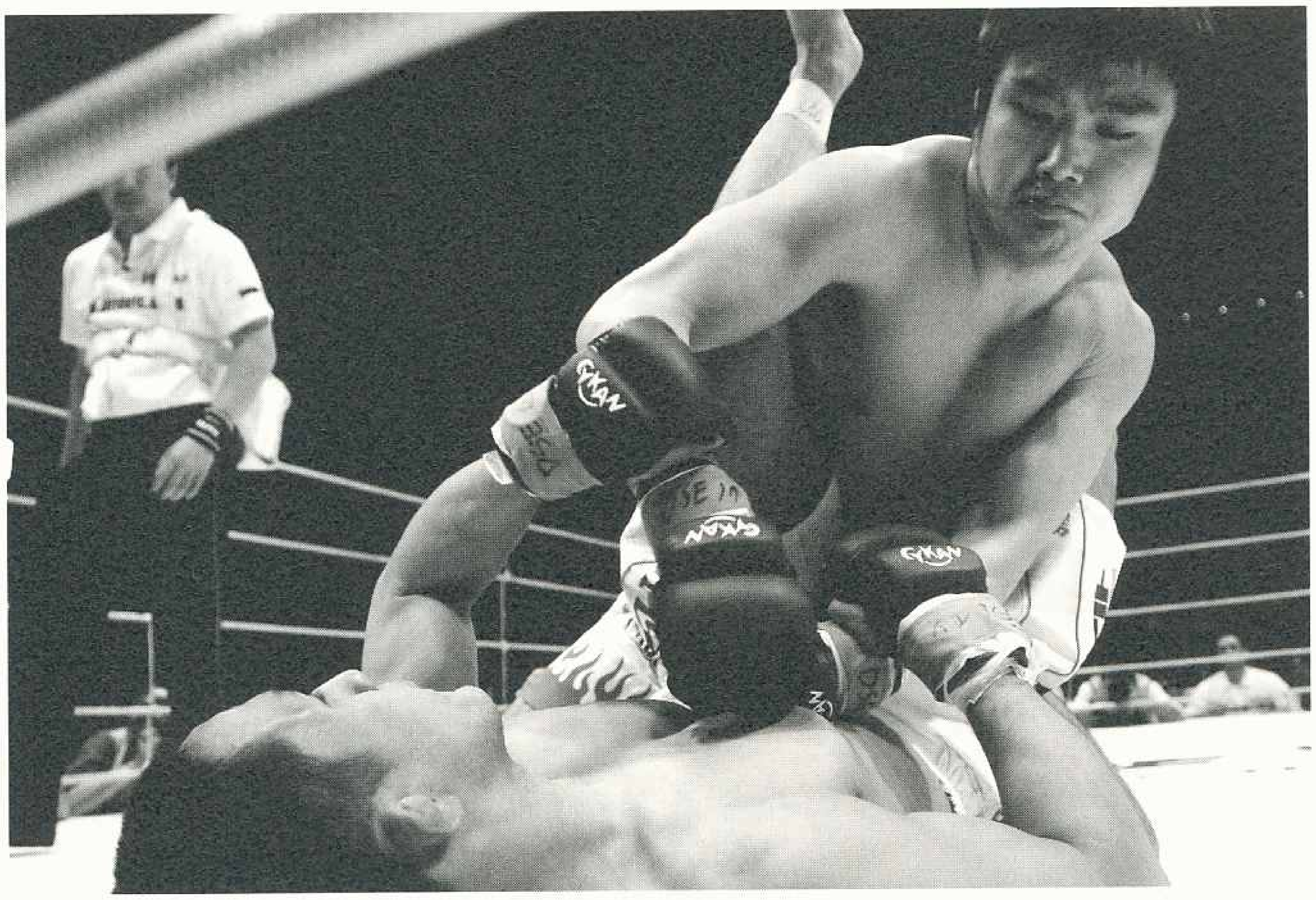
玉袋　（『男祭り』では）「出せ、出せ！」って思ったもん。石田をブン殴ってるとき、「一人で溜めてたもん、全部出せ！」って。「一人ぼっちの寂しさを全部出せーッ!!」って。「全部持っていっちゃえ！　最後は」つって。

——今回の五味は楽しそうでしたね。

玉袋　いや、あれはよかった!!　うん！　男の子だよ、ありゃ！　もちろん石田選手も本当にシャイな男の子なんだけどさ。陰のシャイが五味、陽のシャイが石田だったんだよ。だからブレイクしたんだよな。あとシャイな人つったら誰なんだろうねえ。プロレスラーでシャイだったらしょうがないもんね、それは（笑）。

——そこは違うとこなんですね。

玉袋　プロレスラーのシャイつったらUWFの人たちでしょ。俺、そんな感じがすんだけどなあ。だってあの人たちみんなしゃべりが下手じゃねえか。（藤原）組長も前田日明も何言ってるか聞こえないしさ。プロレスラーとしての表現として、間にしたって何にしたってアピールできねえ。そういった人が頼るのは要するに本物の技とト



レーニングした身体しかねえもんね。

——ああ、スタイルの志によって集ったんじゃなくて、じつはシャイという性格が共通していたんだ、と。

玉袋　そう。そりゃやっぱクラスの人気者みたいな人たちがさ、華やかなプロレスでやってたんだけど、初期UWFは、そういう人の集まりだったんじゃねえかと思うんだよな。だから前田とかもエネルギーが溜まって出たのかもしれねえし。たぶんスピーカー能力がぶきっちょな人たちだよ。

——逆にそこに時代が反応したっていうか。

玉袋　そうそう、そこにうまく乗ってったというかね、ある種。クラスの人気者を馬鹿にして自分たちで落語研究会を作ってホールで落語を披露してるみたいな感じかな。下手すりゃカルトだもんな。そういった受け皿もあったもんね。やっぱプロレスは奥が深いよ。

——『男子のための〜』は、息子さんぐらいの、ほぼ中学生男子に向けて書かれた本ですが、『kamipro』読者も相当シャイな〝中学生男子〟だと思うんですよ。中学十何年生なのかは知らないですけど（笑）

玉袋　読者はこの雑誌を生徒手帳として読んでるんだろうけどね（笑）。でも、この雑誌で取り扱ってる人たちって、「男子」の「子」の字は取れてる男じゃない。だから憧れてんだよな、みんな。ただし、雑誌に出てくる人だけ「男だね」で見てるんだけど、生活のなかでも誰か「男だね」っていうヤツを何人か作れるはずだと思うよ。とくに格闘技にビンビン来ている男の子だったらさ。

——男に対する遠い憧れ目線だけになってるんですか。

玉袋　うん、なってるなあ。「あの人、男だね」っていうの、べつに選手だけじゃなくて、『PRIDE』の会場だったらさ、ラウンドガールをリングに入れてる、『乱』の仲代達矢みたいな顔したオジサンいるけど、あのオジサンを見て「あの人、男だなあ！」とかさ（笑）。そう思う目を『PRIDE』のなかからどんどん広げていくとかね。そういうトレーニングをしとくと、半径5メートルのなかに「男だね、コイツは」っていうヤツが出てくるかもしれない。で、俺はあのオッサンの仕事っぷりがすげえカッコいいなと思って見てたの。でもそれは言わないですよ。言わないけど、目が合ったときにちゃんと「男だね」って心で挨拶しながら見てるんですよ。そうすると向こうの人も、「オッ！」つって挨拶してニコニコしてる。いつもはイカツイ顔してるのに挨拶してくれるように。ホモのアイ

神田うのなんて、普通の男から見ればヒョードルだよ！ 絶対、かなわねえよ！

コンタクトに似てんのかもしんねえけどよ（笑）。そういうの、近所でもあると思うんだよな。職場でも、なんだってあると思うんだよ。「男だね」って尊敬の気持ちで挨拶すると、向こうも「男だね」って。「俺に気づいたから、男だね」とかさ。そういうのがあると思うんだよ。

――それが自分の栄養になっていく、と。

玉袋 なりますね。凄い、なる。出稽古みたいなもんだもんね。

――じゃあ男子が男として女の人と向き合うルールはどうでしょう。まあ、『ｋａｍｉｐｒｏ』の読者には、かなり難関だと思われますが。

玉袋 女かぁ、敵は強ぇなあ！ 俺もバカだったから、「わかってたまるか！」だったもんね、女に対してね。付き合ってても、「この試合、おもしろいから観ようよ」っていう世界にしたくなかったもんなあ。いやあ、難しいな、どうしたらいいんだろうね？ だから、そういう人たちから見たら、神田うのなんてホント、ヒョードルだろうね（笑）。「あれ、ヒョードルだ。絶対、かなわねえよ」つって。だからまずはＤＥＥＰから出る、みたいなさ（笑）

――じゃあ、まずは玄人からと？

玉袋 あ、それね、玄人でも玄人のなかの反則5カウントギリギリっていうところを攻めるか攻められないかっていうところがあるなあ！ 執拗に、「仕事じゃねえぞ！」っていうぐらいまで攻めてさ、ちゃんとルールブックが部屋に張ってあるんだけどさ。それにあえて挑む、それぐらいの気概がねえとな。

――「ルールとは、あいだをぬっていくものと心得ろ！」と、本にも書いていますよね（笑）。

玉袋 でも俺、玄人の人とプレイすると、向こうの人生の背景が気になってきちゃうんだよね。「なぜ、この店でこんなことをしてくれてんのか!?」とかさ。そうなるとなあ、なかなかなあ、ノレなくなるっちゅうか。向こうの人生を知りたくなっちゃうんだよね。ザッとこうさ、身体に傷が入ってたりとか、「どうしたんだ!?」とかさ。そういうのを見ちゃうんだよな。

――徹底的に味わい深いところにいきますね。

玉袋 味わい深いとこにいっちゃうなぁ。

――熟女好きでもある玉袋さんの場合は、コクのある方へ、異常なほどのアプローチが目立つんですが（笑）。

玉袋 ちょっと病気かもしれないねえ（笑）。でも、『ｋａｍｉｐｒｏ』を読んでても往年のレスラーのインタビューなんてのは一番コクがあってさ、いいんだよね。後藤（達俊）さんのインタビューもさ、星野（勘太郎）さんのインタビューもよかったしさ。好きなんだよなあ！ ホント、ホント。その話はすべてにおいて置き換えられると思うんだけどね。俺が見てて、「芸人でもこういうふうに考えりゃいいんだな」とかさ。どんな人だって置き換えられるからさ。

――そういう意味では『ｋａｍｉｐｒｏ』も、凄い教科書なんですね。

玉袋 凄い教科書ですよ（笑）。

――ところで、息子さんは『男の子のための……』を読まれたんですか？

玉袋 読んだのか、読んでねえのか、言わねえところが、グレーなところが好き（笑）。

玉袋筋太郎

サンタのこともお互いが言わない。「サンタ、来ると思う？」って、「うん、来ると思う」とか言うぐらい。正体はわかっていながらね（笑）。「おまえは平田だろ！」っていうか、ジャイアントマシーンの正体をわかってても知らねぇふりするっていうかな。「言うだけ野暮よ、聞くだけ野暮よ」だからさ。そりゃあたぶん、向こうはセックスも知ってるだろうしさ。だけどさ、スバリ言わねえでさ、なんか小ネタを向こうに投げて、俺が壁に投げたやつを受けて笑う、みたいな。で、直接的には言わないでやってるんですけど、それはおもしろいですよね。

――じゃあ、あからさまな性教育とかいうのは、日本には馴染まない？

玉袋 馴染まねえよ。ヘタクソだよなあ、あからさまな性教育は。あんなの下手だよ。近所にエロオヤジがいてさあ、酔っぱらって赤っ鼻で「おい、ボウズ知ってっか？ オマ●コにチンチン入れると子どもができるんだぞ」とか言ってんのがいいんだよ。俺なんかそうだったもんね。中学2年のとき、塾をさぼって友だちと公園でぶらぶらしてたらホームレスからエロ話聞かされたからね。人生のケーフェイを聞かされた凄い瞬間だったよ（笑）。

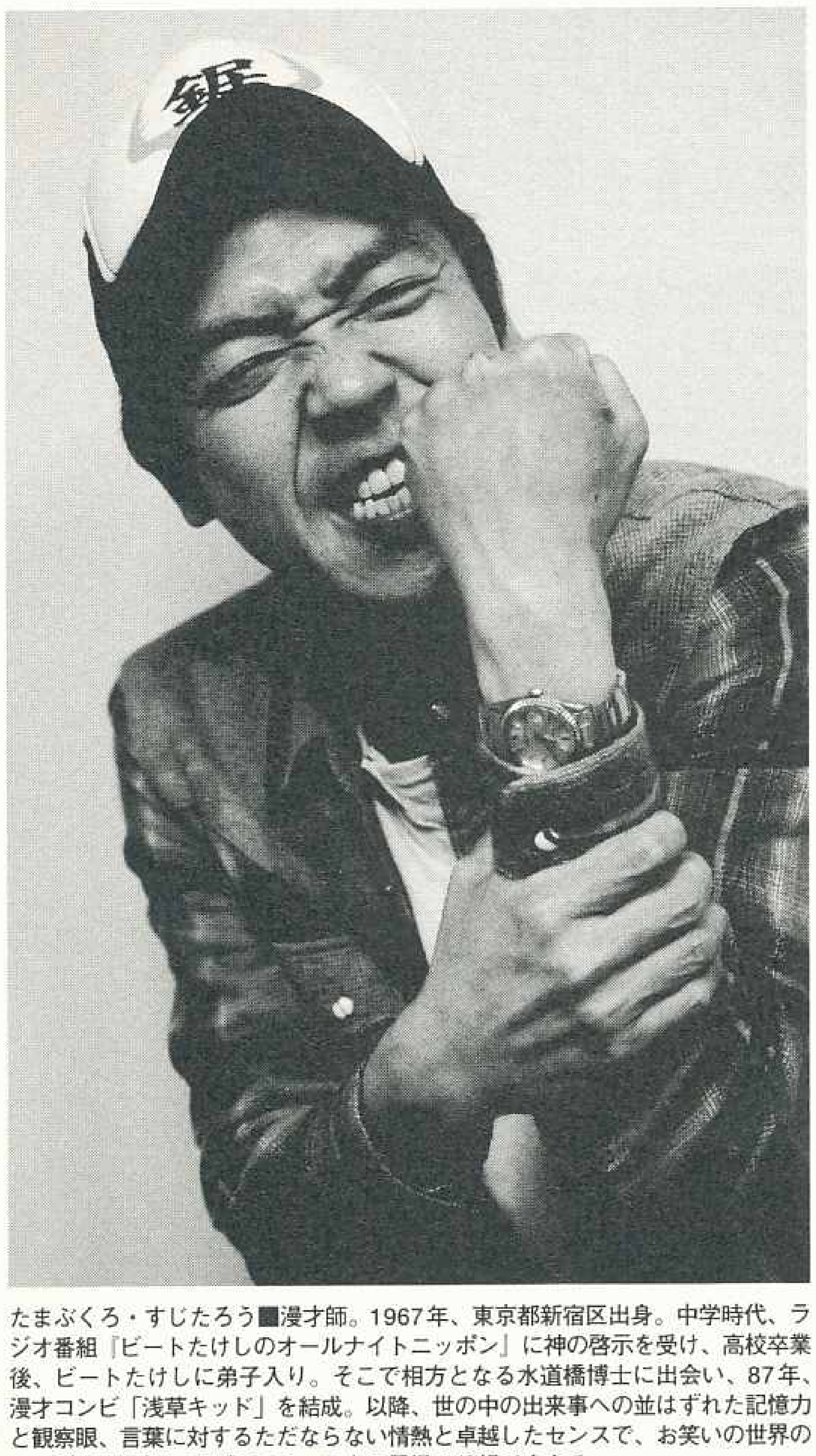
――では一応大人でありながら、これからどうしようかと、〝進路〟に悩んでる〝中学生〟にルールを説くとすると？

玉袋 やっぱねえ、リングはここだけだと思ってると、おもしろくなくなっちゃうよねえ。そこらじゅうに自分が上がるリングなんかあると思うんだよなあ。バイトだって就職だって恋愛だってさ。全部、リングだと思うよ。そこに上がってねえで、ただここ（プロレス、格闘技）だけ見てるっつうのはね……。ホント、輝けるこのリングだけに目が行っちゃってんのはもったいねえよ。どこでもリングなんか作れるよ。

――『ｋａｍｉｐｒｏ』的世界だけに目を向けるな、と（笑）

玉袋 うん。「『ｋａｍｉｐｒｏ』読者はインナー・チンポを剥け！」って話だよな。ガハハハハ！

【07年1月5日／フジテレビにて収録】



たまぶくろ・すじたろう■漫才師。1967年、東京都新宿区出身。中学時代、ラジオ番組『ビートたけしのオールナイトニッポン』に神の啓示を受け、高校卒業後、ビートたけしに弟子入り。そこで相方となる水道橋博士に出会い、87年、漫才コンビ「浅草キッド」を結成。以降、世の中の出来事への並はずれた記憶力と観察眼、言葉に対するただならない情熱と卓越したセンスで、お笑いの世界のエッジを常に押し広げている。二人の男児の父親でもある。

『SPA!』に続いて『Quick Japan』でも特集決定!
……しかし、1.3後楽園大会ではプロレス専門誌に謝罪!?



そんなマッスルを本誌では、あえてこの男に斬ってもらいました!





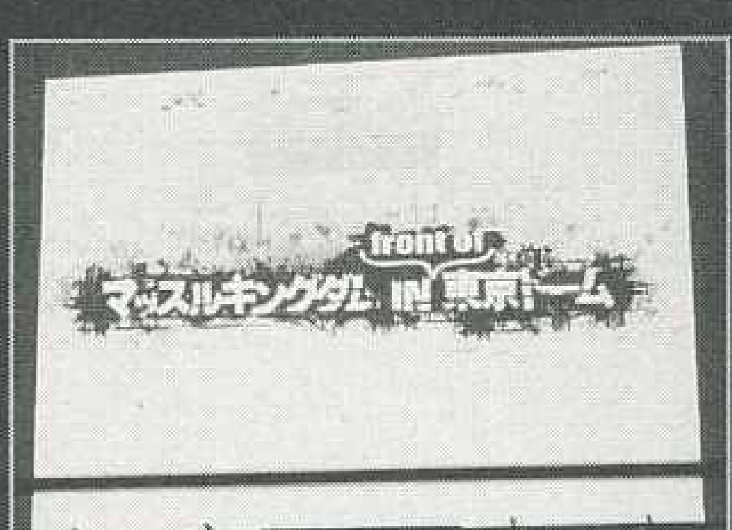








"GK"金沢克彦が観た







"プロレスの向こう側"

昨年暮れに『SPA!』で取り上げられ、一般層にも、その名が知られるようになった『マッスル』。そんな『マッスル』の2007年第一弾興行が1.3後楽園にて開催され大盛況で幕を閉じた。この大会もサブカル好き御用達の『QJ』で特集が決定するなどマット界以外での注目度が高まる一方の『マッスル』。そんな中、本誌はあえて元『週刊ゴング』編集長のこの男の観戦記をお届けしマッスル!!

構成／松澤チョロ　撮影／平工幸雄

新年一発目のマッスルは『笑点』ならぬ『頂点』から全日本、大日本との全面対抗戦まで実現!!



『頂点』収録開始前には鶴見亜門ならぬ三遊亭鶴見が後楽園ホールの定位置にスタンバイ。『笑点』ふうのテーマ曲＆イラストとともに番組開始！



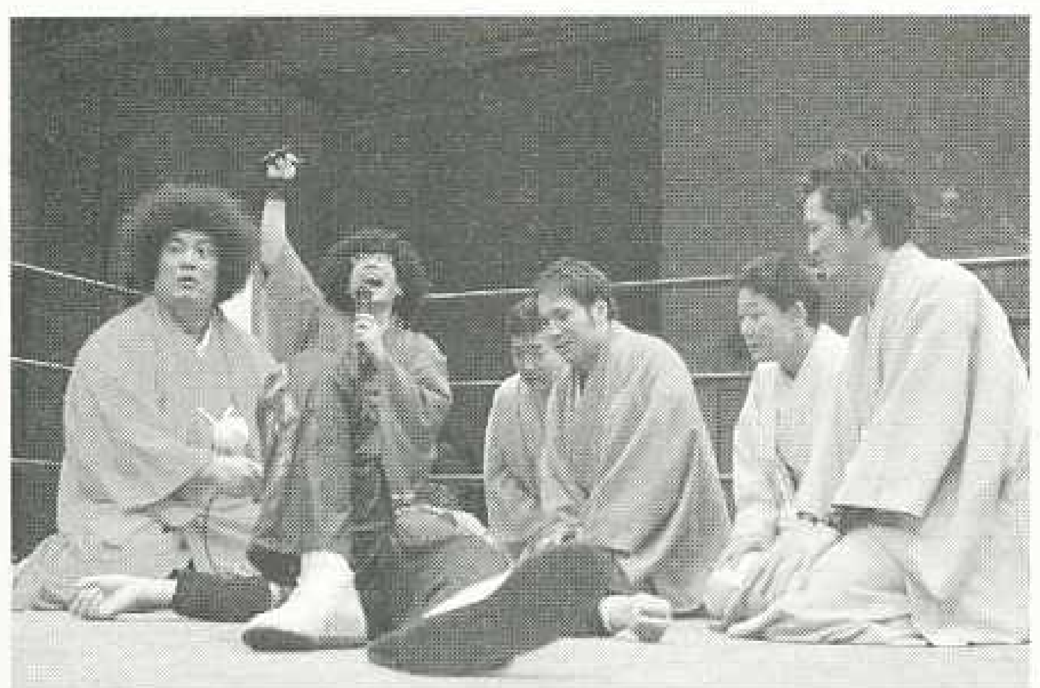
『SPA!』と『QuickJapan』の担当編集を事務所に呼んでゴマをすりまくる坂井らマッスル戦士。プロレス専門誌をないがしろにする姿勢に激怒したのがマッスル演出家の鶴見亜門！



亜門は『週プロ』、『ゴング』、『kamipro』の最新号を取り出し、『マッスル』が専門誌でも評価されていることを指摘。坂井らは素直にプロレス専門誌に謝罪し、大会がスタート！



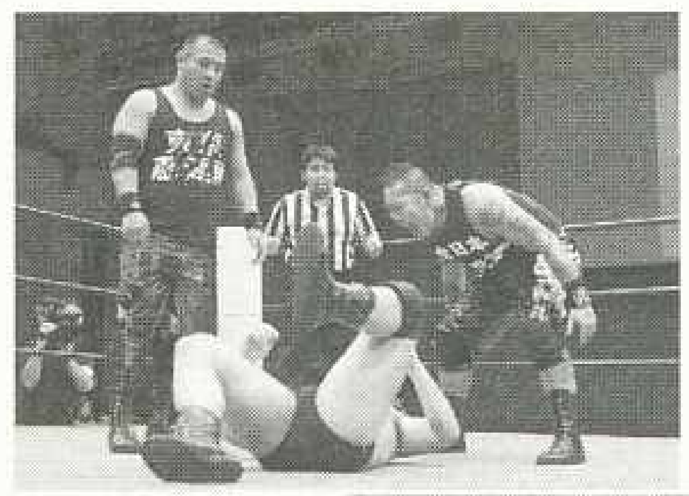
『頂点』の大喜利二つ目のお題はプロレスの試合中に乱入し、マイクでおもしろいことを言うというもの。松野さんを飯伏が攻めまくっているところへ着物姿のマッスル戦士が次々に乱入してネタを競った。



健闘むなしく飯伏に敗れボロボロの松野さんは「プロレスとかけてお笑いと解く（その心は？）どちらも受けることがすべてだ……」と声を振り絞ると、場内は大歓声に包まれた。鶴見は「救急車一台！」

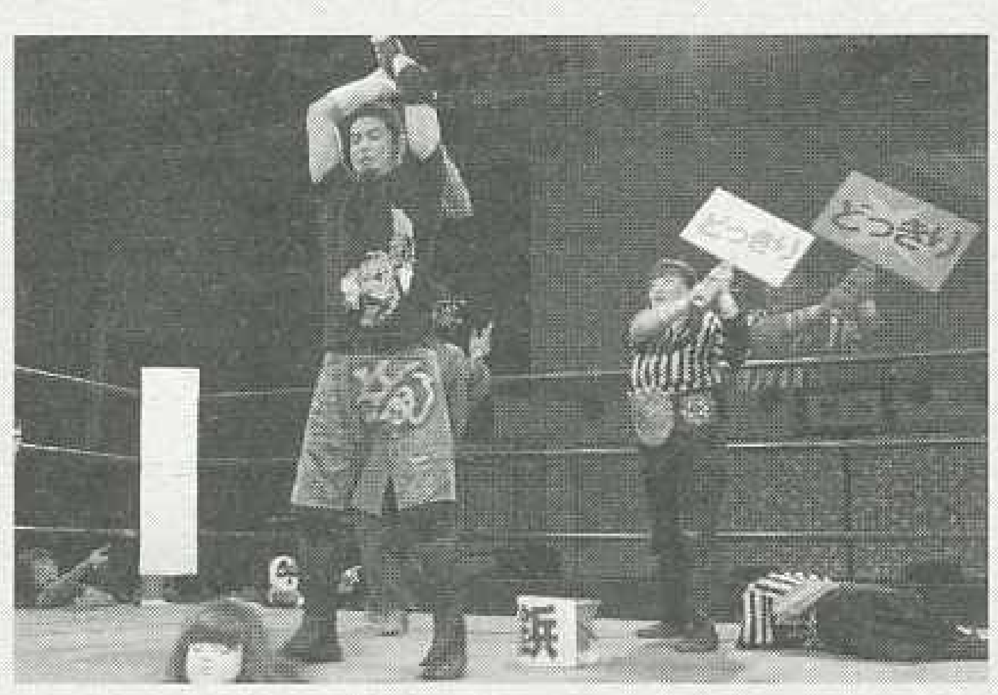
前回の『マッスル・ハウス』での『欽ちゃんの仮装大賞』ネタに続き、今回は後楽園といえばプロレス＆格闘技ではなく『笑点』ならぬ『頂点』ということで、その収録が行なわれることに。写真は『頂点』に台本があることを知り、動揺する坂井。



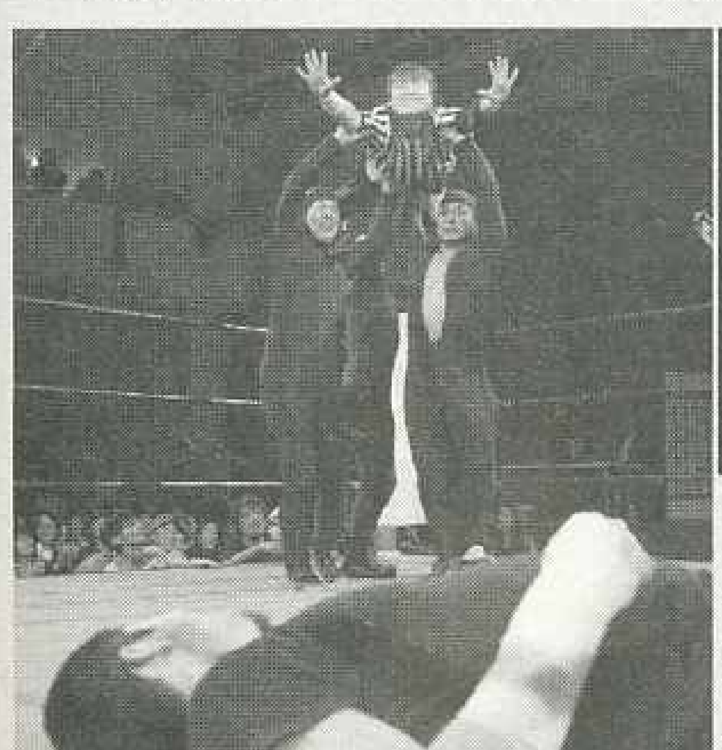




後楽園の控室と翌日のドーム大会への出場権を賭け、東京愚連隊のNOSAWA＆MAZADAと対戦した坂井＆本多。愚連隊の二人は、このあと菊タローと『頂点』のオープニングで息の合った漫才まで披露し、場内からは拍手喝采！



頭部を取り戻せば日韓の身体が元に戻るという状態まで持ち込んだ大日本勢だったが、恐妻家の伊東は、なんと妻の頭部を有刺鉄線バットで叩きつける暴挙に！　観客からは一斉に「伊東、うしろ、うしろ！」とツッコミ！





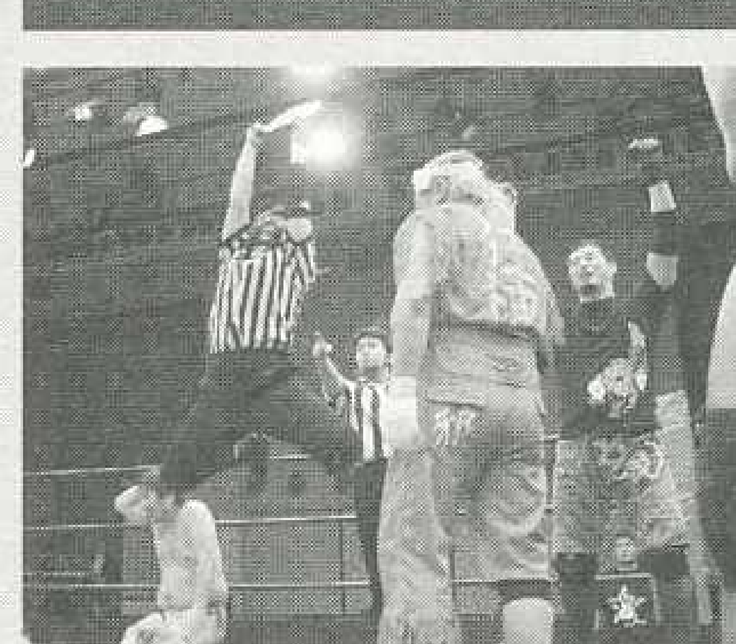
『マッスル』名物のスローモーションに挑戦した伊東だったが、じつは生きていた日韓が超高速のビンタを何度も浴びせると黒子の力を借りスローモーなボディープレスから最後は絶賛負傷中の右腕に腕十字を極め、勝利を奪った！

『マッスル』がいままで以上にビッグになるためには他団体をブッ潰すのが近道と考えた鶴見亜門は、まずは神奈川が本拠地の大日本プロレスをターゲットに。テレビの収録と騙して大日本勢を呼び出したところへマッスル戦士が殴り込み！





対抗戦には敗れたものの、いろいろあってバッファローマン化したマッスル坂井が李日韓の身体をハリケーンミキサーでバラバラに。味方のはずの小林まで日韓の左手を手に「ハムだ！」と大はしゃぎ。どうなる、日韓!?



団体の興行権から道場、グッズの権利を賭け激突した大日本と『マッスル』の5vs5全面対抗戦。沼澤、関本に続き負傷中の伊東竜二に代わり登場の妻の李日韓がディーノを下し、3連勝で大日本勢が勝利。が、しかし……



1.3『マッスル・ハウス3』詳細は、このページ数では、とても説明できません。どうしても知りたいという方は『kamipro Hand』に加入して確認しよう!

『マッスル』とかけて『Dynamite!!』と解く。その心は……!?

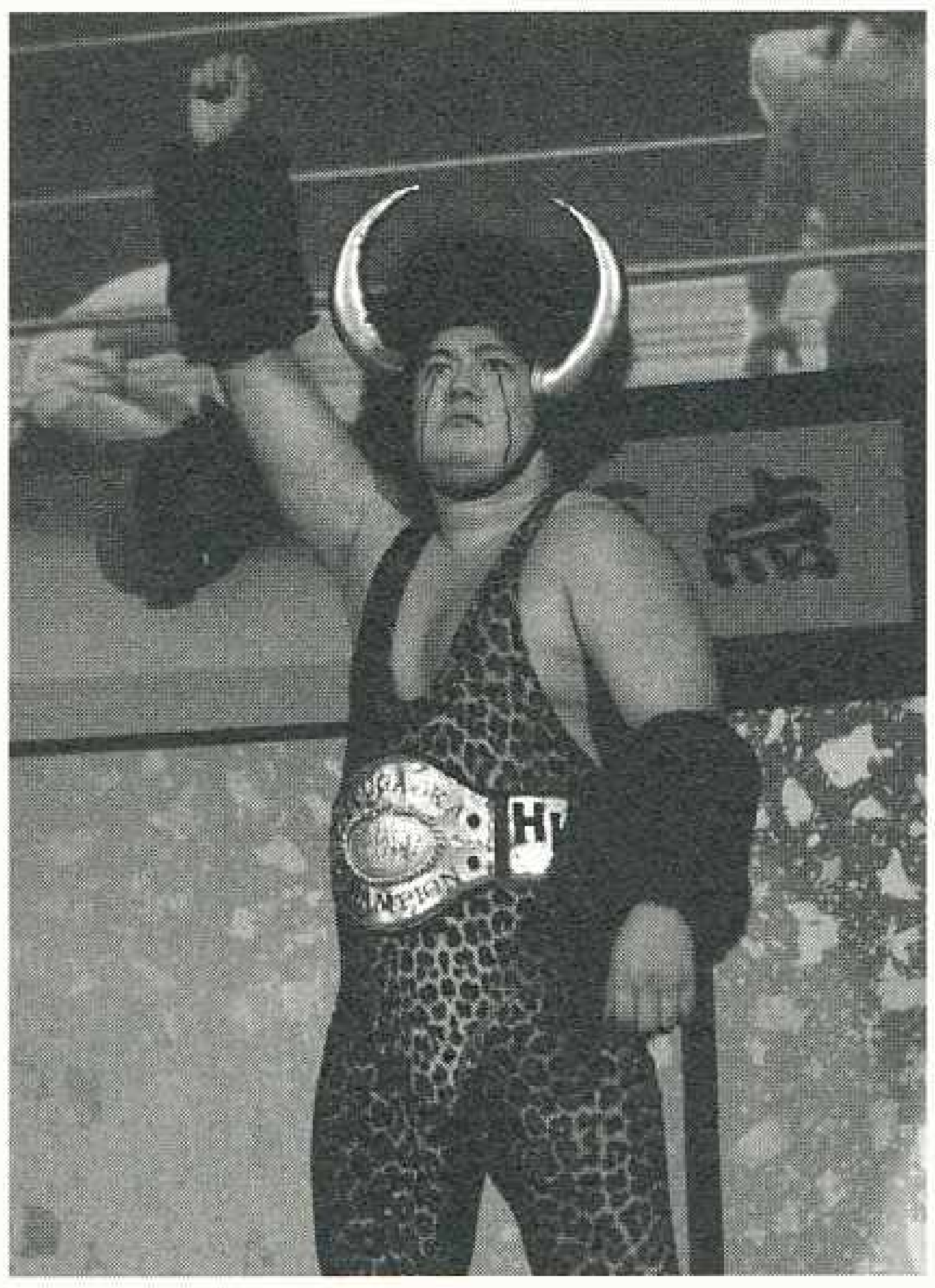
本当なら『マッスル・ハウス3』（1・3後楽園ホール）は生観戦するつもりだった。昨年末の『UWAI STATION』（12・30後楽園ホール）に出向いた際、トイレでマッスル坂井とバッタリ出会い、その際、「1月3日に、ここで『マッスル』をやりますので、ご都合がよければぜひ観に来てください」と丁重なお誘いを受けたからだ。

じつはこのワタクシ、『マッスル』ではないが、DDT本隊のスキットには登場したことがある。05年10月10日、長州力が新日本プロレスの現場監督に電撃復帰した途端、なぜかDDTマットでは過去に現場監督など務めたことのない泉州力が、DDTの現場監督に突如復帰!?　そこで私が泉州に直撃インタビューを敢行するという設定だった。特別なこだわりを感じることもなく〝OK〟させてもらった。すでに『サムライTV』では泉州と共演していたし、『週刊ゴング』への愛着も消えかかっていたし、実際その直後の11月末で『ゴング』と決別したわけだから、肩の力も抜けていたのだと思う。坂井氏からは「もう完全に相手を長州さんだと思い込んでインタビューしてもらえますか？」とリクエストされた。また、そのとき初めて坂井氏自身が映像まで手がけている人物なのだと知った次第である。

で、『マッスル・ハウス3』当日の1月3日、たしかに私は後楽園ホールにいた。いたのだけれど、昼間の全日本プロレスの興行にいた。大晦日も正月もゆっくりできなかった反動で、前日は家で映画のDVDを観ながら焼酎を飲んでいたのだが、気がついたら朝の9時まで飲んでいて1本空けてしまった。それから2時間睡眠をとって後楽園へ。全日本の大会が終わる頃には、もう眠くて意識が朦朧としていた。会場で出会った『kamipro』のささきぃや『サムライTV』の三田佐代子サンには「このあとの『マッスル』を見ないなんて非国民だ！」的な非難の集中砲火を浴びたが、「ダメ。電池が切れたから」と言い訳し、そそくさと帰宅した。だいたい、ここで無理したら翌4日の東京ドーム大会に影響を及ぼすではないか？

「ドームは行かないけど、『マッスル』は行く」の吉田豪とは立場が違うのだから。そんなこんなで、ずうっと気にはしていたけど、私にとっての『マッスル』はまたも、まだ見ぬ未知の強豪のまま終わりそうな雲行きだった。なんせ、我が家にはいまだにCSチューナーなどついていないから、テレビは地上波放送しか見られない。といっても、どっちみちテレビはニュース番組ぐらいしか見ないのだが。

そんなとき、噂を聞きつけた松澤チョロ氏から突然の電話。『サムライ』の『マッスル・ハウス3』の録画DVDを渡すので、観戦記をお願いしま～す」ということになったのだ。番組は2時間枠で、本来は3時間程度の興行をこれまた坂井氏が大会翌日に編集したのだという。オープニングでは一般誌に露出したマッスル坂井が、「プロレス専門誌は『マッスル』の結果しか載せない。専門誌の記者はプロレスをスポーツだと思っている」と語った部分に関して、鶴見亜門が糾弾。専門誌に謝罪するというスキットから始まった。これはガチでクレームがついた話だという。まあ、もし自分がいまの時代に専門誌の編集長をやっていたら、これはスルーだったと思う。なぜって、プロレスの受け取り方はもう無限大にまで広がってしまったから。先だって、『格闘二人祭』にゲスト出演した木原リングアナが、「もし馬場さんが生きていたら、『ハッスル』も『マッスル』もプロレスだと認めるでしょう」と語っていた。なぜなら馬場さんにかかれば「プロ野球だって、サッカーだって、世の中のものは全部プロレスや」となるからだそうだ。



これが「食っちゃ寝×100」した結果、古くから日本に伝わることわざどおりに牛になりかけた状態（バッファローとマンのあいだ）のマッスル坂井だ。この男のコラムが読めるのはいまのところ『kamipro Hand』だけ！ 即加入だ!!

それよりおもしろかったのが、後楽園ホールの控室のシーンだろう。なぜか、『マッスル』の面々は控室に入るのを渋っている。そこには翌4日、東京ドーム大会に出場する東京愚連隊が昼間の興行から居座ったままだった。さらに、一段高いところから『マッスル』勢を見下す存在としてウッチーさん（本物の全日本取締役で武藤社長の右腕）まで登場。ウッチーさんの居丈高な胡散くささは最高だった。噂によると、『マッスル』ではここに本物の武藤敬司の出演を画策して試しにオファーしてみたものの「んじゃ、●●●万円ほど用意してください」とオフィス側に言われ断念したらしい。いっそのこと、それもネタにしてほしかった。

それにしても、なぜ全日本にオファーしたかといえば、当の武藤が一番熱心な〝マッスル・ファン〟で、『マッスル』を見たら、『ハッスル』や『レッスルランド』は見られないぜ」とまで絶賛しているというからだ。それが伝染して、なんとガイジン・バスでも『マッスル』のビデオが流れており、言葉がわからないのに大ウケ。とくにディーロ・ブラウンは『マッスル』信者といっていいほどの大ファンだという。

さて、本編。後楽園ホールといえば、プロレス……もとい『笑点』である。笑点といえば「大喜利」だ。ということで、なぜか『頂点』と題しての「大喜利」が行なわれた。とくにリング上に乱入しての一言コーナーの出来は絶品だったと思う。試合をするのは飯伏幸太とゴージャス松野。これを館内実況形式で村田アナと鈴木健氏がしゃべくる。第一試合（NOSAWA論外&MAZADA vs マッスル坂井&アントーニオ本多）を見たとき、この大会に実況は必要なしと思ったのだが、じつはこのために実況は不可欠だったのだ。

あくまで、いつものファイトでバシバシといく飯伏と、ひたすら痛い一発一発に耐える松野サン。瀕死の松野サンに対しても放送席はあくまで受けの達人・松野のペースであることを譲らない。いやあ、ハッキリ言って感動した。何がって、ちょっと見ないうちに（※3試合ぐらいしか見たことないけど）松野サンがプロレスラーになっていたから。オチは「プロレスとかけて、お笑いと解く。（その心は？）どちらも受けることがすべてだ」ときた。完璧だ、100点である。これが完璧すぎたから、せっかくの大日本勢のサプライズは少しワリを食ったかもしれない。

では、そろそろ結論を。『マッスル』とかけて『Dynamite!!』と解く。その心は……どちらもすべることは許されません。

おあとがよろしいようで。デデン、デン！



ついにきた!
パート2
絶賛制作中!!
吉田豪の
セメント!!
スーパースター列伝
ストロング小林
田代まさし
猪木快守
阿修羅原
鶴見五郎
サムソン・クツワダ
康芳夫
倉持隆夫
田中健一
小川宏
パート1
kamipro終身名誉アドバイザー
吉田豪
セメントインタビュー
11連発
必読! プロレスインタビュー本の最濃傑作!
驚ガクの全344ページ!!
プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!
全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判 344ページ
定価=1890円(本体1800円+税)
enterbrain
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
TEL.0570-060-555(代表)
[通信販売のお問い合わせ先]
http://www.enterbrain.co.jp/
吉田にニラまれたら、
生きてる心地がしない。
リリー・フランキー

<RADICAL特選劇場>
追悼I編集長！これが5時間“喫茶店トーク”だ！

PRIDE GP直前大解剖号



no.76 '05.04 860yen

大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!



これぞリアル喫茶店トークですよ！　No.86は昨年、12月13日に永眠された活字プロレスのレジェンド、I編集長。その“聖地”京都・嵐山を初代井上番の原タコヤキ君が井上さんと散策しつつ、合計5時間のトークを展開！　言うちゃ悪いけど必読ですよ！　さらに田村潔司と船木誠勝が13年ぶり再会！　U時代に船木が宮戸から“猪木の髪型”を提案されてたり、バイクの後部座席に田村を乗せた船木が目を5秒間も閉じてたり、船木の「結婚大好き」ぶりも披露された豪華対談も掲載。ブレイク前夜の所英男は“足関十段”今成との対談で登場！



注　NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

販売元　（株）ダブルクロス
平日　13:00～19:00

元祖！紙のプロレス BACK NUMBERはすべて50%OFF

特集 神秘とは何か？
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16～87

格闘ノストラダムス！
no.16 780yen '99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

“新”プロレスとは何か？
no.32 840yen '00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ！
no.34 840yen '01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10　藤波語録／ボブ＆オバチャンチン

純プロレスを徹底検証！
no.35 840yen '01.02
[表紙：サクマシン（イラスト）] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙：橋本真也（イラスト）] ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

純プロレス戦国絵巻！
no.37 840yen '01.04
[表紙：小川直也（イラスト）] 安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る！／アブダビコンバット01一大探検記！

小川直也は是か非か？
no.38 840yen '01.05
[表紙：髙田延彦（イラスト）] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か？
no.39 840yen '01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは？
no.40 880yen '01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

“最後の黒船”WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙：アントニオ猪木（ホームレス姿）] 悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り！
no.46 880yen '02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！　金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前！
no.47 880yen '02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い！
no.48 880yen '02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vsノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！　金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発！
no.49 880yen '02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山＆金原＆和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川＆橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／ 武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号！
no.53 880yen '02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括！
no.54 880yen '02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] “首の皮一枚” ホイス＆エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負！
no.55 880yen '02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる“U”が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号！
no.58 880yen '03.01
[表紙：武藤敬司＆船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌＆再生する！
no.60 880yen '03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争！
no.61 880yen '03.04
[表紙：橋本真也＆小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ！
no.62 880yen '03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？　船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙：橋本真也＆小川直也（イラスト）]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙：桜庭和志] “異次元格闘技戦戦” 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦！
no.65 880yen '03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣！
no.66 880yen '03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前！
no.69 900yen '03.12
[表紙：橋本＆小川] 出てこい！　泣き虫！　橋本＆小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括！
no.70 880yen '04.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介＆北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞＆語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー！
no.71 880yen '04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ＆ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ！
no.72 840yen '04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 高田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦！
no.76 880yen '04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り！
no.80 880yen '04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／ 草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙：桜庭和志] “道場破り”の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

ミルコ激白！ 打倒皇帝！
no.83 880yen '05.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！　小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] “殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦！
no.85 860yen '05.04
[表紙：前田日明＆髙田総統] PRIDE GP2005特集　桜庭、田村、高田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP開幕＆大総括！
no.87 860yen '05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamiproHand』で注文　②電話注文 03-5368-1797　③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。　※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。　※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド



先生！　後藤田くんが鼻血です。ということで、2007年初のハガキ愛ランドよろしくお願いします。「新年だからといっても、人生、べつになんにも変わらないじゃないかっ」とふて腐れているそこのキミ！　はっきり言って……そのとおりなんですよ!!　というわけで、今年もよろしくお願いします。それではいきましょう。3、2、1、一月、一月、う～、じゅうしまつ！（お粗末）。

kamipro106号へのお便り紹介

RGのインタビューには、不覚にも感動させられてしまった。「イジメに負けるな。俺を見ろ！」という言葉は名言だと思います。
【神奈川県・米田広史さん・学生・18歳】

↓いじめ問題は「いじめられる側にも問題がある」という言われ方をされることがあったりするようですが、RGはまさにその言葉があてはまるような気がします。『kamipro』の連載コラムがなくなっても、頑張ってほしいと思います。



『kamipro』がお笑いウルトラクイズ特集とは……。しかも、カラーページ！　意表をつかれました。コールマンのコマネチポーズにはもっと意表をつかれましたが。
【宮城県・毒柴さん・会社員・35歳】

↓ある情報筋によると、コマネチを覚えたコールマンはどうやらこのポーズがいたく気に入ってしまったらしく、この日やたらとコマネチポーズを真似していたそうです。フィル・バローニもトゥギャザーしようぜ！（ルー大柴調）。

海川ひとみインタビューがよかった。とにかくかわいいので満足です。
【高知県・津野祐一さん・フリーター・36歳】

↓素直なご意見、ありがとうございます。

五味選手のインタビューがよかったです。もの凄く自信に満ちた発言だったので、石田戦はどんな試合になるか、とても期待できるインタビューでした。そして『男祭り』を観ましたが……「やっぱり五味はスゲェなあ」と思わされる圧倒的な試合で恐い五味選手が帰ってきた感じがしました。もう、誰とやっても負けないでしょう！
【鹿児島県・友井川真理さん・会社員・33歳】

↓「やっぱ大晦日はKOでしょ」に続き、「『PRIDE』やめられねぇ!!」という名言まで誕生させた五味選手。いったい次は誰と闘うんでしょうか？

谷川さんのインタビューが最高でした。「ワニガワは俺を殺す気か！」とコメントしたボビーはチェ・ホンマンと対戦するなど、まったくコア層に響くカードを組まないのにあんな話をする谷川さんには、そりゃ誰も勝てません。
【東京都・寺田純さん・豆腐売り・25歳】

↓いただいたおハガキの内容とはまったく関係ありませんが、谷川さんは前号に掲載された〝メカ谷川〟の写真がお気に入りだそうです。今回のインタビューは非常に真剣なまなざしですが、次はどんな格好で登場するかヒマだったら考えてみてください。正解してもなんにも当たりませんが。

「ドラゴン邸に大潜入！　前編」がおもしろかった。ドラゴンのプラダ好きは知っていましたが、伽織夫人がシャネル好きとは今回の『kamipro』で発見しました。次回の夫婦編も楽しみです。娘さんと息子さんにもぜひ登場してほしいです。
【千葉県・内野さとしさん・会社員・39歳】

↓残念ながらお嬢さんと息子さんの登場とはなりませんでしたが、お二人のなれそめをたっぷりうかがってますので熟読してください。でも、一日に5～6回電話するって、ドラゴンだったからいいけど、普通に考えたらストーカーだと思います。

古田新太さんのインタビューを読んで、自分とは違うタイプのプロレスファンだなと思った。インタビューを読むかぎりWWEのファンらしいが、自分は外国のプロレスは興味はちょっとしかない。馬場も猪木も尊敬するが、自分はどちら派でもない。ただ、自分はいま誰が一番強いのかに興味がある。もちろん、プロレスが最強で一番だと思っている。
【青森県・菅原豪浩さん・20歳】

↓20歳にして「馬場派か、猪木派か」を考える菅原さんは、3年G組ではきっと優等生になれるはずです。先生にもきっと気に入られると思いますが、おもいきって願書でも出してみませんか？　ちなみに私は強制入学でしたが。

韮澤潤一郎インタビューがよかった。いつも思うのですが、「格闘技・プロレスと関係ない人なのに、なぜこの人が載ってるの？」と首をかしげる人も多いことと思います。でも、このおもしろさは〝ん～、ダイナマイッ！〟ですので、オールOKです！
【栃木県・稲葉修さん・会社員・34歳】

↓じつは、今回の超常現象SPに「8万8000件の予知夢を見たブラジル人」を特集している雑誌として『kamipro』が紹介されるという動きもあったのですが、放送ではぜんぜん登場しませんでしたね。残念！　しかし、8万8000件の夢を覚えられるだけで、この人は超人（ミノワマン以上）だと思います。

106号・おもしろかった記事ランキング

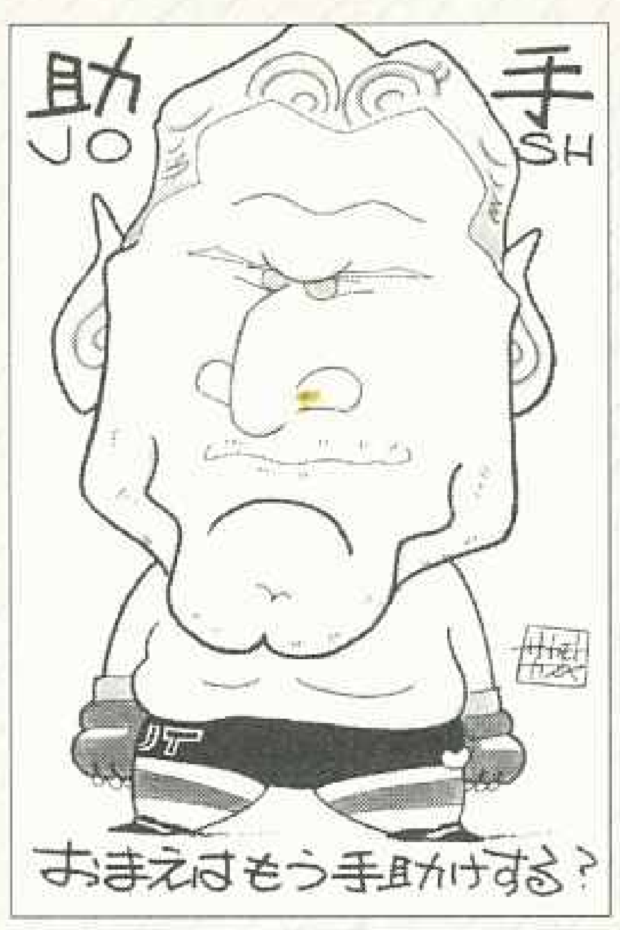
1位	所英男×宇野勝
2位	青木真也
	DSE榊原代表
4位	ビートたけしのお笑いウルトラクイズ
5位	数見肇

106号はヘディング・パワーで所選手と宇野さんの対談が一位になりました。所選手の『Dynamite!!』でのMVP級の活躍は、宇野さんちゃんと観ていただけたんでしょうか？　また、なぜか本誌で大特集された「お笑いウルトラクイズ」企画が_4位にランクインする結果になりました。ちなみに、大晦日速報号にも「お笑いウルトラクイズ」情報が掲載されています。ご確認を。

ボクは所英男と宇野勝の対談が最高におもしろかったです。〝ヘディング事件〟というのはいったいどういう事件なのかと、途中まで真剣に読んでいましたが、まさか野球の硬式ボールを頭で受ける人がいたなんて。星野さんも、怒るよりも先に、まず宇野さんの頭を心配したほうがよかったんじゃないかと思います。
【静岡県・石崎了さん・南葛中・14歳】



↓前号の谷川さんインタビューで「秋山は桜庭から〝プロとは何か〟を学んでほしい」と言われてましたが、宇野さんのような方にこそ、プロというのも学ばせてもらう必要があるかもしれません。来年こそ中日、目指せ日本一。個人的なメッセージですが、山本昌さん、頑張ってください！



東京都・サカモトカズヤさん
◎kamipro大賞で見事三冠を獲得したジョシュ。UWF、マンガ、音楽……、今年はいったいどんな世界に飛び込んでゆくのでしょう。

榊原DSE代表インタビューが一番だった。この記事を読んで、格闘技界の市場について、現段階でPRIDEが置かれている立場を痛感した。日本とアメリカがうまく協力して発展してほしいと思います。
【福島県・紺野春樹・会社員・27歳】

↓榊原代表の鬼気迫る表情は、いつ見てもシビレますね。ミルコがUFC参戦、ヒョードルも移籍の噂……、『PRIDE』はいったいどうなるんでしょう～。

青木選手の変人ぶりあふれるインタビューがよかった。しかも、あの『男祭り』の活躍は凄い！　私はあの日のMVPは文句なしに青木選手だと思います。『kamipro』との約束どおりレインボーのタイツを穿いて登場したのもさすが。エガちゃんもあの試合を観て、きっと〝ハッスル〟しているはず！　次はエガちゃんがレインボーを。
【佐賀県・佐賀にしきさん・和菓子屋・30歳】

↓本誌105号、エガちゃんとの対談で約束したとおり、レインボー・タイツで登場した青木選手。ちょっと、これ以上のデザイン・タイツはパッとは考えつきませんが、次は柄ものにするしかないですかね。これも、募集します！

数見肇師範のインタビューがよかったと思います。総合格闘家を育成していくということですが、自分は数見師範自身が総合で闘うべきだと思いました。『Dynamite!!』とかに出て、必殺の一撃をぜひ地上波で披露してほしい。
【群馬県・軍手バカ一代・建設業・37歳】



↓取材のときに砂袋というものを叩いてみたのですが、あれを蹴るなんて絶対にやめたほうがいい！　という何百テンポも遅すぎる普通の感想を抱いてしまいました。あれを蹴れる人間は、人間を蹴ってはいけないです。地上波では放送できません。

衝撃ショット!!

本誌・常連投稿者S波氏が“ふぞろいな”あの人とパシャリ!



編集部にまたまたS波氏が衝撃写真を送ってきた！　一緒に写っているのは、なんと暴露本『ふぞろいな秘密』でお騒がせの石原真理子さんだ!! なぜ石原真理子なんだ、とツッコミを入れたいところだが、S波氏は「石原真理子が『ハッスル』に出る！」といういかがわしい噂に惑わされてしまったらしく、一人興奮状態でこの写真を編集部に送ってきたという。それにしても、投稿写真の振り幅が広すぎますよ！



フクタの大将
➡以前『kamipro』のインタビューにもご登場いただいた、フクタの大将からの年賀状です。一瞬、前田日明さんから届いたのかと思い、たじろぎました。



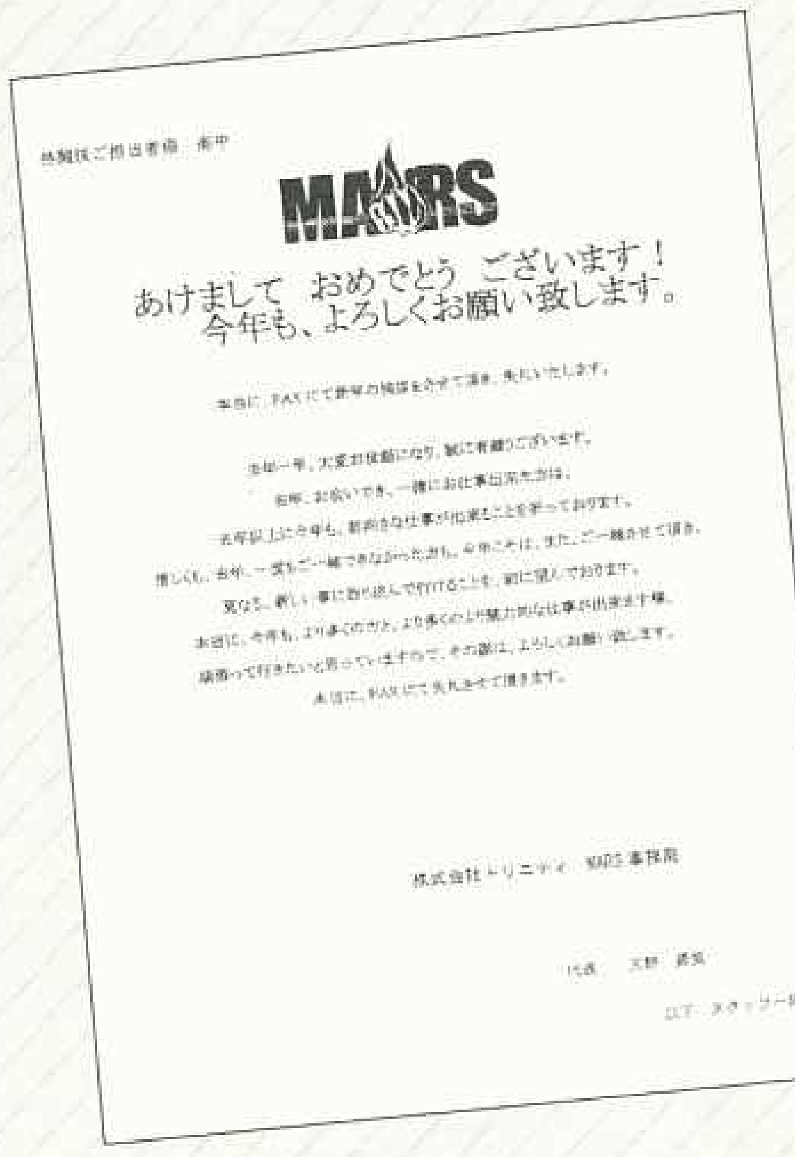
中川“画伯”雅博さん
➡いつも『kamipro Hand』のイラスト等、ありがとうございます。ちなみに、この画伯の愛犬ドアップの年賀状には、編集部・辻ちゃんがなぜか興奮しておりました。



花くま先生
➡花くま先生、今年もちょっぴりシュールな気分にさせてくれるコラムをよろしくお願いします！　読者の皆さまは『メカ★アフロくん』をよろしく。

あけまして年賀状!

2007年も関係者の皆さまから
たくさんの年賀状をいただきました。本当にありがとうございます!
極々一部で恐縮ではありますが、ご紹介させていただきます〜。



MARSの天野さん
➡「FAXにて」お年賀のご挨拶ありがとうございました。ちなみに、天野さんからは年賀状もいただきました。この丁寧さ。ますますとりこになりそうです。



原タコヤキ君
➡ちっちゃい頃の『紙プロ』編集部員だったタコ兄さん。こんな格好でいったい何を「頼む」というのか……。

スクープ! ザ・目撃!!

●『Dynamite!!』の会場でケンドー・コバヤシさんらしき人を発見してしまいました。ケンドーさんといえば、昨年はたしか「PRIDE大使」として桜庭選手と一緒に写真に写っていたような記憶がありますが……。あれはもう『PRIDE無差別級GP』が終わったから期限切れということなのでしょうか。ちなみに、帽子を深々と被っていましたが、ボクにはすぐにわかりましたよ！
【京都府・サカモトさん・20歳】



●1月3日後楽園ホールでマッスル観戦時に、アメリカン・バルーン選手と会いました。うちの相方が「触らせてもらってもいいですか？」とお願いすると、「いいっスよ」といきなりTシャツをまくりあげて触らせてくれました（笑）。その後、記念撮影にも気軽に応じてくれましたが、その直後「もう一枚！」と叫びながらおっぱいクラッチをかけてきてくれました（笑）。
アメバル選手は、日本語も堪能でむちゃくちゃ良い人でした。ちなみにアメバルのおっぱいは女の人のおっぱいよりやわらかかったです。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・32歳】

●先日、後楽園付近の居酒屋で友人と飲んでいたのですが、同じ店にアレクサンダー大塚さんがいるのを発見しました。アレク選手とは若干顔見知りというか、ちょっとした縁で面識はあるのですが、その日は声をかけずに、しかも気づかれないように頑張りました。次、お会いしたときは必ずごあいさついたします。
【東京都・あぶさん・35歳】

kamipro初! メカが相談役に!!
メカマミーの人生相談



さあ、今年もメカ的人生相談、はりきっていきましょう。今回はなんと！　巷で話題騒然の“あの”問題のことですね。メカ独自の視点からおもいっきり語っていただきましょう〜！

桜庭vs秋山戦のメカ的見解を！

お悩みごと

■チョチョリーナさん
（滋賀県・29歳・塾講師・♂）

「メカマミーさんに質問があります！　いまマット界では『Dynamite!!』での桜庭vs秋山戦でのヌルヌル問題が大変な騒ぎになっています。メカマミーさんも『Dynamite!!』へ参戦を表明していたので、この問題も決して人ごと（メカごと？）ではないと思うのですが、この件に関しての見解をぜひ聞かせていただければと思います！」

メカマミー

この件に関しては申し訳ないがノーコメントにさせてくれ（キッパリ）。なぜなら、インターネットを中心に世の中の情報をいち早くゲットしている私は、この問題についてブログ等で触れた者がことごとく“祭り”状態になっているのをよく知っているからだ。

それよりもだ！　昨年、私はプロレス大賞の話題賞を獲得したのはいいが、『Dynamite!!』には参戦できなかった。エンターテインメントとはなんぞやということを理解している角田選手なら私との対戦を受けてくれると踏んでいたのだが……、残念至極！

まあ、話を戻して桜庭vs秋山問題に関して語れることといえば、私のところにも問い合わせが多かった“オイル”がおよぼす影響だろう。結果的にはクリームだったらしいが、私はバリバリのオイル派だ。オイルを塗るというよりは“さす”といったほうが正しいがな。ぶっちゃけ、試合のときはけっこうヌルヌルだ。メカだけに、そのへんは勘弁してもらいたいが、今回の件で参戦はまた遠のいたような気もするが……。グローブ疑惑なんてのも出ていたみたいだが、やはり私の得意技、ロケットパンチの使用も難しいということになるのだろう。スポンサーのロゴも入ってないし……。

まあ、そのへんは博士にチューンナップをお願いするとして、引き続き『Dynamite!!』、そしてK—1MAXへの参戦は狙っていくつもりだ。……●●●●とかだったら、いけそうな気がするんだけどなぁ。

※人生相談ドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。

メカマミーの近況＝1・14『上井ステーション』福岡大会でUWAI-28号にリベンジ成功！　しかし、今後もこの抗争は続く……のか？

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　kamipro編集部
「ないもん、ビジョンなんて」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程と情報が、友情パワーでマッスルドッキング!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

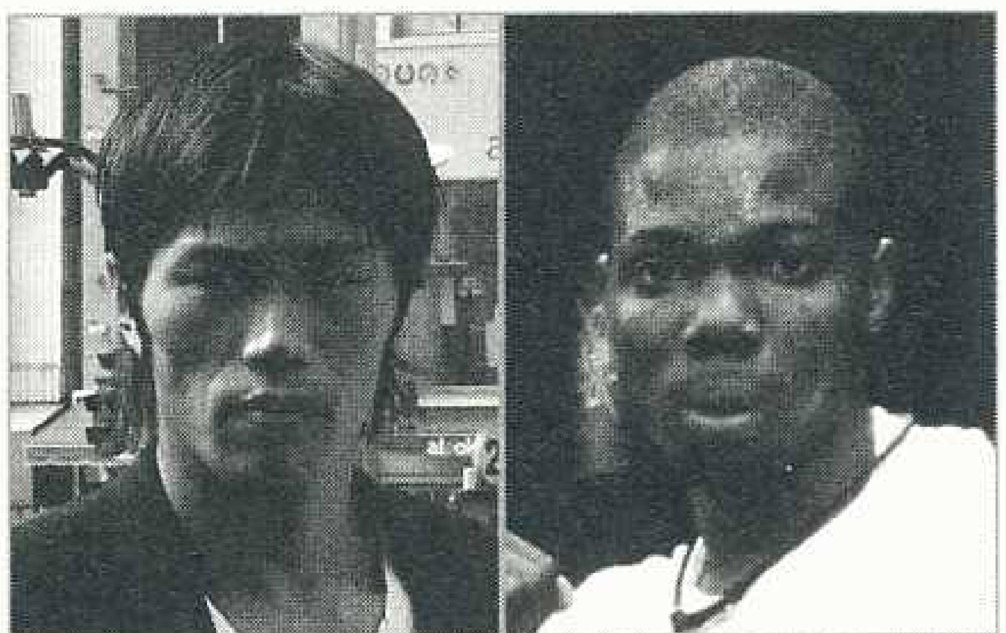
Calender & Information

今年もよろしくお願いします。担当の辻ちゃんです。先月I編集長が他界。結局、井上さんから「さっきFAXで原稿を送ったんですけど」とかかってきた電話が、ボクと井上さんの最初で最後の会話でした(No.103よろず情報局参照)。「もっと井上さんの話を聞いてみたかった」その思いはボクだけではなく、プロ格者のみんななら誰しもあるはずです。I編集長はミルコのUFCデビュー戦、二度目のPRIDEラスベガス大会を天国からどのような思いでご覧になるのでしょうか?

◆JDスター/東京・新木場1st RING (13:00)
◆SWAT!/東京・ゴールドジム大森 (16:30)
◆女祭り/東京・新宿FACE (12:30&17:30)

5 MON.

アンディ・オロゴンも参戦! トーナメントを制するのはコヒ? 佐藤? それとも……



『K－1 WORLD MAX2007 ～日本代表トーナメント～』
東京・有明コロシアム (17:30)

決定対戦カード
【日本代表トーナメント】

小比類巻貴之(チームドラゴン)
アンディ・オロゴン(ナイジェリア/チーム オロゴン)
TATSUJI(アイアンアックス)
HAYATO(FUTURE_TRIBE)
宍戸大樹(シーザージム)
尾崎圭司(チームドラゴン)
佐藤嘉洋(名古屋JKファクトリー)
白須康仁(花澤ジム)

リザーブファイト
安廣一哉 vs サトルヴァシコバ

スーパーファイト
ブアカーオ・ポー.プラムック vs SHINOBU・ツグト・アマラ

チケット情報
SRS席＝23,000円、S席＝13,000円、A席＝6,000円
◎問＝FEG 03-3796-5060

6 TUE.

◆新日本/群馬・太田市新田総合体育館(18:30)

7 WED.

◆DDT/東京・新木場1st RING (19:30)

◆息吹/東京・新木場1st RING (12:30)
◆NEO/神奈川・横浜NEO道場 (14:00)
◆NJKF/東京・ディファ有明 (17:00)

29 MON.

◆新日本/栃木・栃木県総合文化センターサブホール (18:30)
◆ZERO1・MAX/群馬・前橋グリーンドームサブイベントエリア (19:00)

30 TUE.

◆新日本/茨城・牛久運動公園体育館サブアリーナ (18:00)

31 WED.

◆新日本/埼玉・本川越ペペホールアトラス (18:30)
◆CRUISER'S GAME/東京・新木場1st RING (19:30)
◆アパッチプロレス軍/愛知・名古屋レインボーホール第3競技場 (18:30)

Fight& Event February 2

2 FRI.

◆新日本/茨城・水戸市民体育館 (18:30)
◆アパッチプロレス軍/東京・後楽園ホール (19:00)
◆全日本キック (CUB☆KICK'S) /東京・新宿FACE (18:30)

3 SAT.

◆UFC67/米国・ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
◆K-DOJO/東京・新宿FACE (18:30)
◆DRAGON GATE/福岡・さざんぴあ博多(16:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆華☆激/福岡・さざんぴあ博多 (18:30)
◆NEO/東京・板橋グリーンホール (18:30)

4 SUN.

◆パンクラス/大阪・梅田ステラホール(16:30)
◆LOCK UP/東京・後楽園ホール (18:30)
◆大日本/大阪・鶴見緑地花博記念公園水の館付属展示館 (15:00)
◆DRAGON GATE/福岡・博多スターレーン(16:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆押忍闘夢/東京・西調布格闘技アリーナ(18:00)
◆RING/東京・渋谷O-EAST (19:00)
◆センダイガールズ/宮城・Zepp Sendai(15:00)
◆JWP/東京・足立区JWP道場 (13:00)

Fight& Event January 1

22 MON.

◆DRAGON GATE/兵庫・ドラゴンゲートアリーナ (19:30)

24 WED.

◆無我ワールド・プロレスリング/岩手・大船渡市民体育館 (19:00)

25 THU.

◆望月成晃プロデュース興行/東京・後楽園ホール (18:30)
◆UFN9/米国・フロリダ州ハリウッド、セミノール・ハードロックホテル＆カジノ

決定対戦カード
ラシャード・エバンス vs シーン・サーモン
ディーン・リスター vs ネイサン・マーコート
ヒース・ヒーリング vs ジェイク・オブライエン
エルメス・フランカ vs スペンサー・フィッシャー
エド・ハーマン vs クリス・プライス

26 FRI.

◆全日本/沖縄・沖縄武道館(18:30)
◆DRAGON GATE/東京・後楽園ホール(18:30)
◆修斗/東京・キネマ倶楽部 (19:00)

27 SAT.

◆新日本/東京・後楽園ホール (18:30)
◆ZERO1・MAX/埼玉・深谷市民体育館(18:30)
◆みちのく/東京・新宿FACE (18:30)
◆DRAGON GATE/静岡・アクトシティ浜松(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
◆覆面屋工房自主興行/東京・新木場1st RING (18:30)
◆我闘姑娘/東京・新木場1st RING (13:00)
◆JWP/東京・板橋区赤塚公会堂 (19:00)

28 SUN.

◆新日本/新潟・三条市厚生福祉会館 (17:00)
◆無我ワールド・プロレスリング/東京・後楽園ホール (18:30)
◆ZERO1・MAX/静岡・清水マリンビル(14:00)
◆大日本/埼玉・越谷市桂スタジオ (14:00)
◆DDT/東京・後楽園ホール (12:00)
◆DRAGON GATE/京都・京都KBSホール(17:00)
◆大阪プロ/大阪・高石市民文化会館アプラ大ホール (14:00)
◆IWA JAPAN/東京・新宿FACE (18:30)
◆K-DOJO/千葉・Blue Field (13:00&16:00)
◆ジャパン2000/大阪・羽曳野市体育館(13:00)
◆O'zアカデミー/東京・新宿FACE (12:30)

出場予定選手
川尻達也（修斗世界ウェルター級王者）
青木真也（修斗世界ミドル級王者）
※二人の試合は王座防衛期限の関係により、タイトルマッチの可能性もある。
チケット情報
SRS=20,000円、RS=15,000円、S=10,000円、パノラマ=10,000円、A=7,000円
（※大会当日全席種500円増）
◎問＝サステイン 03-5725-7338

◆NOAH／東京・ディファ有明（18:00）
◆ZERO1・MAX／宮城・東松島市民体育館（18:00）
◆DRAGON GATE／愛媛・松山市総合コミュニティセンターキャメリアホール（18:00）
◆CAGE FORCE／鳥取・米子産業体育館（時間未定）

18 SUN.
◆新日本／東京・両国国技館（15:00）
決定対戦カード
【IWGPヘビー級選手権試合】
棚橋弘至（王者）vs 金本浩二（挑戦者）

◆NOAH／京都・京都KBSホール（17:00）
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／和歌山・ハナヨアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00＆16:00）
◆NEO／神奈川・川崎市体育館（15:00）
◆R.I.S.E.／東京・ゴールドジム大森（時間未定）

19 MON.
◆ZERO1・MAX／長野・上田創造館（19:00）

21 WED.
◆NOAH／広島・ふくやま産業交流館ビッグローズ（18:30）

22 THU.
◆NOAH／岡山・津山総合体育館（18:30）
◆ZERO1・MAX／神奈川・秦野市総合体育館（18:30）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:30）

23 FRI.
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール(18:30)

24 SAT.
◆PRIDE／米国・ネバダ州ラスベガス・トーマス&マックセンター
◆NOAH／大阪・大阪市中央公会堂（17:00）
◆DRAGON GATE／埼玉・桂スタジオ（18:30）
◆K-DOJO／愛知・名古屋ワンダーシティ(18:30予定)
◆NKB／東京・後楽園ホール（19:00）

25 SUN.
◆NOAH／愛知・Zepp Nagoya（17:00）
◆DDT／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DARGON GATE／愛知・岡崎市竜美丘会館（18:00）
◆K-DOJO／大阪・デルフィンアリーナ(17:00)
◆NEO／神奈川・横浜NEO道場（14:00）
◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール(18:00)

26 MON.
◆大日本／東京・後楽園ホール(19:00)

28 WED.
◆パンクラス／東京・後楽園ホール(19:00)
◆NOAH／茨城・水戸市民体育館（18:30）
◆JWP／東京・板橋グリーンホーム（19:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

中尾受太郎（王者）vs 長谷川秀彦（挑戦者）
【DEEPライト級タイトルマッチ 5分3R】
帯谷信弘（王者）vs 横田一則（挑戦者）
山崎剛 vs 志田幹
出場予定選手
渡辺久江、滑川康仁、石川英司、雷暗暴、キム・ドンヒョン、その他
チケット情報
VIP=20,000円、SRS=12,000円、指定A=8,000円、指定B=6,000円
◎問＝DEEP事務局 052-339-0303

17 SAT.
三冠獲り返すぞ、バカヤロー!
小島が両国でMVP男に挑む



全日本プロレス
『2007 プロレスLOVE in 両国 vol.2』
東京・両国国技館（18:00）

決定対戦カード
【三冠ヘビー級選手権試合】
鈴木みのる（王者）vs 小島聡（挑戦者）
【世界ジュニアヘビー級選手権試合】
近藤修司（王者）vs 中嶋勝彦（挑戦者）
チケット情報
プレミアムシート＝15,000円、
特別席A＝10,000円、特別席B＝10,000円、
指定席A＝7,000円、指定席B＝5,000円、
2F特別席＝5,000円、2F指定席=4,000円
◎問＝全日本プロレス 03-3288-0610

防衛期限が迫る川尻、青木の参戦は？
リオン vs アベアニのノンタイトル戦も決定!



プロフェッショナル修斗
『BACK TO OUR ROOTS』
神奈川・パシフィコ横浜国立大ホール(16:00)

決定対戦カード
【ライト級 5分3R】
リオン武 vs 阿部裕幸
【環太平洋ウェルター級王者決定戦 5分3R】
中蔵隆志 vs 廣田瑞人
【環太平洋ライト級王者決定戦 5分3R】
不死身夜天慶 vs 田村彰敏
【ウェルター級 5分3R】
天突頑丈 vs 遠藤雄介
【ウェルター級 5分3R】
廣田瑞人 vs 冨樫健一郎

9 FRI.
◆新日本／群馬・渋川市総合公園体育館(18:30)
◆UWAI STATION／東京・後楽園ホール(18:30)
◆ZERO・1MAX／大阪・はびきのコロセアム(18:30)
◆みんなのプロレス／東京・新木場1st RING(19:00)

10 SAT.
◆ZERO1・MAX／広島・福山ビッグローズ（18:30）
◆DRAGON GATE／静岡・ツインメッセ静岡（19:00）
◆O'zアカデミー／東京・新木場1st RING(18:30)

11 SUN.
◆健介オフィス／東京・ディファ有明(15:00)
◆ZERO1・MAX／岐阜・岐阜商工会議所（17:00）
◆DRAGON GATE／和歌山・和歌山県立体育館（17:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:00&16:00）
◆泉州力プロデュース興行／大阪・はびきのコロセアム（18:00）
◆J2K／大阪・はびきのコロセアム（14:00）
◆GAMI自主興行／東京・キネマ倶楽部(17:00)
◆JWP／東京・キネマ倶楽部（13:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:30）
◆J-NETWORK／東京・ゴールドジム大森（時間未定）

12 MON.
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆新日本／岐阜・岐阜産業会館（16:00）
◆ZERO1・MAX／愛知・名古屋市中スポーツセンター（14:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）
◆大阪プロ／大阪・グランキューブ大阪(15:00)
◆東海／愛知・名古屋市総合体育館（17:30）
◆LLPW／東京・両国国技館（15:00）
◆ZST／東京・ディファ有明（17:30）

13 TUE.
◆新日本／大阪・大阪市中央体育館サブアリーナ（18:30）

14 WED.
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）

15 THU.
◆新日本／宮城・Zepp Sendai（18:30）
◆NOAH／東京・後楽園ホール（18:30）

16 FRI.
長南と桜井隆多が因縁の再戦
佐伯代表も大興奮の3大タイトルマッチ実現!



『DEEP28 IMPACT 2.16 6周年大会』
東京・後楽園ホール（18:30）

決定対戦カード
【DEEPミドル級タイトルマッチ 5分3R】
長南亮（王者）vs 桜井隆多（挑戦者）
【DEEPウェルター級タイトルマッチ 5分3R】

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
050-3685-0478
〒164-0013 東京都中野区弥生町2-18-8-407
http://www.gtkn.com/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/~shooto/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ
nanaracka.or.tv/blog

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GIRLS DOOR
0462-63-2323
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳94-3コンフォート緑野104
株式会社EWF

■G-STYLE
03-3441-5268
〒141-0022 東京都品川区五反田2-5-11-704
http://www.g-shooto.jp

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-3368-3355
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-18-10 太陽堂ビル5F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファーストオンステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Visit

二転三転もなんとか遠征実現

ムタがロンドンで大暴れ! 英国デビューを勝利で飾る



当初、予定されていた海外での試合が一時は中止になったものの、チケットを購入したファンがあまりに多かったため、なんとかグレート・ムタのイギリス遠征が実現した。1月12日（現地時間）、ロンドンのヨークホテルで開催されたRQWという団体のテレビマッチにムタは出場。メインでRQW王者マーティン・ストーン相手にフラッシング・エルボーやドラゴンスクリュー、足4の字といったいつものムーブを見せ、最後は毒霧からのシャイニングウィザードで勝利した。また、全日本プロレス勢からはNOSAWA論外、菊タロー、雷陣明も参戦。菊タローは英語でもきっちりと笑いを取っていたという。

Promote

俺の興行だけ見てりゃいいんだ!

蝶野が3.10幕張大会をプロモート



新日本プロレスの『NEW JAPAN CUP』シリーズ内3月10日(土)千葉・幕張メッセ国際展示場11番ホールの興行『蝶野正洋～CRASH』（18時試合開始）が、蝶野正洋のプロモートによって行なわれることが決定した。この経緯について蝶野は「都内だけでなく、関東近郊のプロレス人気を復活させたい。プロレス界のドン・キングを目指す」とコメント。チケット情報、大会概要については、ARISTRIST 蝶野正洋後援会事務局（担当／佐藤）050-5536-6931、もしくは新日本プロレス（担当／関口）03-6407-3111まで。

Event

ライガー、邪道&外道もやって来る!

C.T.U.が都内でDVD発売イベント開催



新日本プロレスの人気ユニットC.T.U.のDVD『COMPLETE OF C.T.U.』先行発売イベントが2月3日（土）13時より、東京・江東区の東陽町イーストウッドガーデン（江東区東陽6-3-3 TEL.03-5683-5683）で開催される。参加選手は獣神サンダー・ライガー、邪道、外道、稔、プリンス・デヴィット。さらにミラノコレクションA.T.の特別参加も決定! イベント内容はトークショーやじゃんけん大会などを予定しており、11時より物販コーナーでDVDを購入した方にサイン会参加整理券が配布される。

★問　新日本プロレス 03-6407-3113

Blog

猪木アイランドに行きますかーっ!?

『アントニオログ』で特別イベントを企画中



アントニオ猪木のオフィシャルファンサイト『闘魂』内の『アントニオログ』で、ファンがブログを無料でテンプレートできるサービスを実施。今後、アクセスランキングトップの方には、週間、月間、年間の各賞としてアントニオ猪木グッズの贈呈や、猪木本人との食事、パラオの猪木アイランドに行ける企画も予定しているという。

★HP　http://www.toukon.tv
★問　エイチ 守屋秀利 080-5445-4022

Fight

ミスター・プロレスからのご祝儀

2.12 LLPW両国大会に天龍源一郎が参戦!!



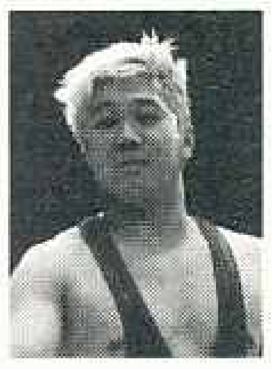
2月12日（月・祝）に東京・両国国技館で行なわれるLLPWの『女子プロレス最強決定シングルトーナメント! ～神取忍&ハーレー斉藤&イーグル沢井デビュー20周年記念大会～』に、なんと天龍源一郎の参戦が決定! 天龍はハーレー斉藤と組み、北原光騎&イーグル沢井組と対戦する。その他、大会の目玉であるシングルトーナメント準決勝で神取忍vsダンプ松本、里村明衣子vs尾崎魔弓が行なわれ、この試合の勝者同士で優勝戦が行なわれる。また、当日は井上京子と井上貴子が、タッグを組み参戦することも決定した。

★問　LLPW 03-5228-4331

Test

健介オフィス入りなるか?

元ドラゲー戦士・三島が小島聡と査定試合



2月11日（日）東京・ディファ有明で行なわれる『健介オフィス旗揚げ興行』のセミファイナルで、昨年DRAGON GATEを退団した三島来夢が入団査定試合として小島聡とシングルマッチを行なう。健介オフィスの代表である北斗晶は「昨年10月に新人オーディションをしたときに、いの一番で履歴書を送ってきたのが三島選手だった。他の新人とオーディションをやるのも違う」と今回の試合の経緯について説明。試合後、観客の支持が半数を超えれば、三島は合格となる。

★問　健介オフィス 048-982-0960

Dummy

ドリル&ロケットパンチもついてるぞ!

1.28 DDT後楽園大会でメカマミーフィギュア発売



メカマミーが、ついにフィギュア化! このフィギュアは『世界怪奇派レスラーシリーズ』の記念すべき第一弾として発売され、全長18センチのソフトビニール製で、ドリルとロケットパンチの取りつけも可能。ファンの心を揺さぶる見事な出来映えだ。なんとこのフィギュアが1月28日（日）に行なわれるDDT後楽園ホール大会にて個数限定、3,000円（税抜）で先行発売されることが決定! その後はメカマミーが出場する大会やイベント、ネット（安直堂＝www.anchoku.net）で販売される。今号の読者プレゼントでも、1名様にプレゼント!

★問　ユニオンプロレス 042-724-9242

Fight

初代ミニスカポリスもリングに!

ヤマモが女子プロレス等3試合をプロデュース

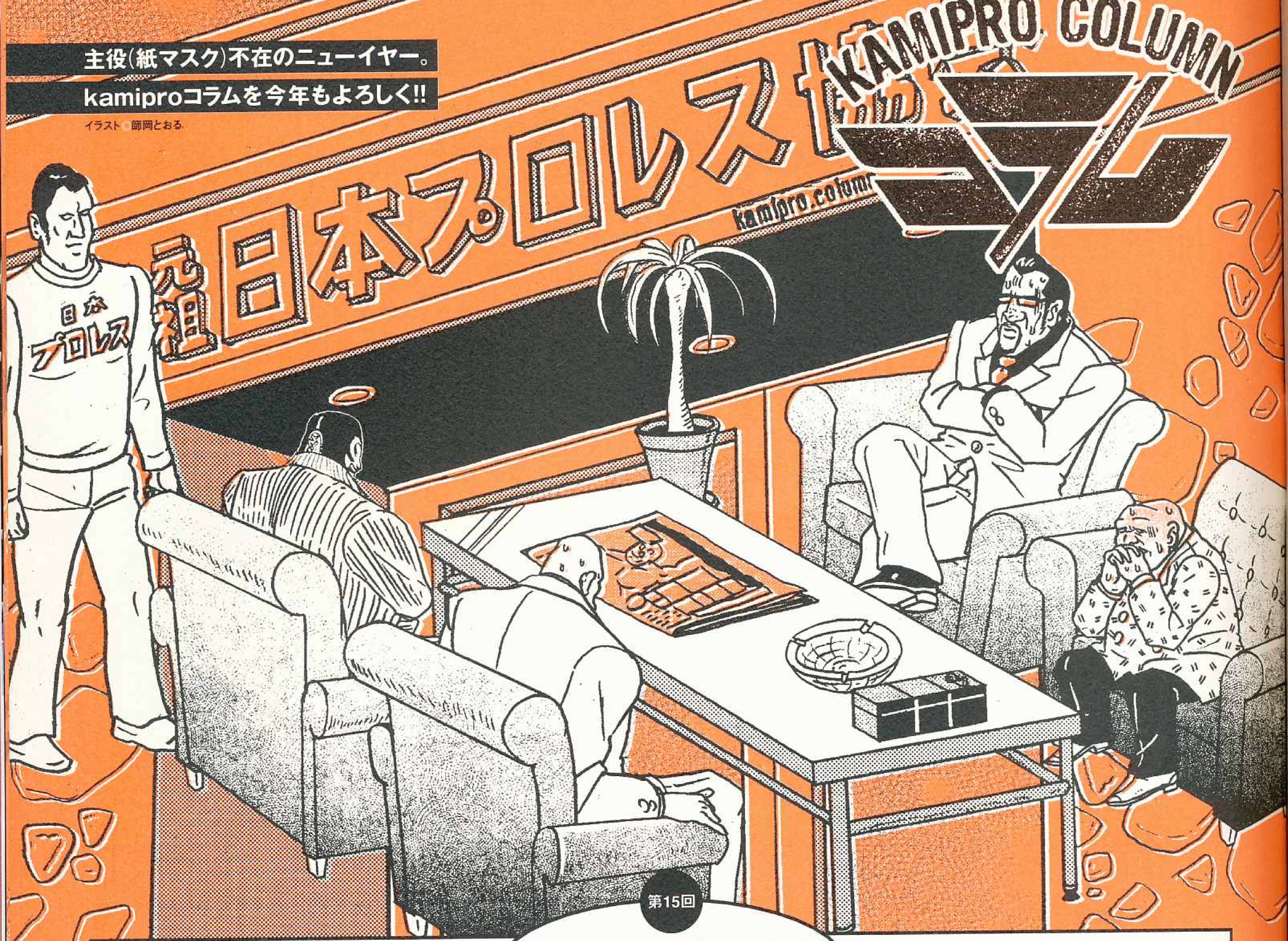


2月4日（日）、東京・新宿FACEで行なわれるJ-NETWORK主催の女子キックボクシング興行『女祭り』で、リングアナウンサーとして活躍する山本雅俊が女子プロレスとアイドルファイトをプロデュース。女子プロレスは吉田万里子 vs バンビ、チェリー vs 浦井百合の二試合、アイドルファイトは福山理子（初代ミニスカポリス）vs 渡瀬真由（グラビアアイドル）を予定。『女祭り』は昼夜二部構成となっており、上記3試合は昼の部（12時30分開始）に行なわれる。

★問　J-NETWORK興行部 03-3419-0536

主役(紙マスク)不在のニューイヤー。
kamiproコラムを今年もよろしく!!

イラスト●師岡とおる



第15回

ノーコンテストでなく反則負けでしょ

リングの汁

花くまゆうさく

大晦日のMVPは青木に決定。ラバーガードからゴゴプラッタと完璧な勝利は衝撃的。海の向こうでオレ様エディもニンマリしてるでしょう。

五味vs青木をはやく見たいけど、『PRIDE』はやってくれるのかなぁ？　この日、五味の口からはUFCの連中とメレンデスの名しか出てこなかったが……。メレンデスvs青木で潰し合いさせず、五味vsメレンデス、五味vs青木を先にお願いしたい。メレンデスvs青木はそのあとでいいと思う。

ショーグンの柔術テクよかったねぇ。デラヒーバからヘリコプターのムーブには感動すらした。柔道家の中村を何回もテイクダウンするのもうまかったね。

タフでめったにKOも一本も取られない。オールラウンドになんでもできるが、飛び抜けたモノはなく、勝つも負けるもほとんど判定。マウント返しや逃げて上になるのは得意だが、そのあとはインサイドガードからパウンドするだけのつまらない選手、でも試合はよく組まれる。『PRIDE』でこのポジションにいたのは松井だったが、いつのまにかフェードアウトし、いまこのポジションにいるのは中村。そんな中村をショーグンに成敗してほしかったが、やはり中村はタフだった。マウント返しもバックから逃げるのも得意だった。心の底から残念。

『Dynamite!!』は、永田弟が勝って残念。前に所戦を希望したので、ぬけぬけと階級下の人を指名するその神経が信じられずに嫌だった。そのあと、これまた階級下のレミーガを押さえ込んで、勝利し喜んでいる姿を見て、ますます嫌になった。

そのあとデカい秋山とやったけど、今回はこれまた階級下の勝村戦が発表されてうんざり。なんとか勝村に勝ってほしかったが、やはり永田弟は階級下に強かった。心の底から残念。

桜庭vs秋山。スタンドで正面から桜庭がタイムしているのに、攻撃しだした秋山は嫌なヤツだと心の底から思った。あそこで一瞬、躊躇してれば、レフェリーもあいだに入ってこれただろうに。外国人ならまだしも、日本人同士でそりゃないなと思う。ヌルヌル&グローブ疑惑の真相は現時点（これ書いてる1月9日）でまだわからないが、それ以前に柔道時代、何度もヌルヌル胴衣を使用しているその神経が信じられないよ。





Hanakuma Yusaku
◎新刊「メカアフロくん爆裂会社編」発売中☆

ワケあり緊急訪問！ 佐伯繁の部屋

――髪がだいぶ伸びましたね。

佐伯 いま、難しいところなんだよ。このまま伸ばすか、また切るか。いちばん中途半端な伸び方の時期だから。でも、みんな「さわやかだ」って言ってくれるよ。女の子もこっちのほうがいいって言うからねぇ、ウシシシシ！

――じゃあ、坊主頭になって正解だったと？

佐伯 でもさぁ、ちょいデブだったらいいかもしんないけど、ハゲでデブはモテねえよ。

――それは残念でした。で、今年は佐伯さんはどんな年にしたいですか？

佐伯 俺個人でいえば去年末にロデオボーイも買ったし、来週からウチのインストラクターに教えてもらってボクササイズにも挑戦するからね！ フガフガ！（鼻息荒く）。

――それは減量目的で？

佐伯 そうそう。俺の主治医の先生がいろいろ指導してくれるから、それに応えなきゃいけないし。

――あれ、だいぶ前から先生には「やばい」って言われてませんでしたっけ？

佐伯 言われとった！ でも、今年こそ変わるよ。これ絶対！

――でも、正月とか暴飲暴食したんじゃないですか？

佐伯 いや、正月は大変だったんだから。『男祭り』のあとにクラブのカウントダウンイベントに顔出してから、実家に帰って……。

――（さえぎって） おせち料理をたらふく食べたわけですね？

佐伯 うまかったなぁ……（遠い目）。

――やっぱり食べてるじゃないですか!?

佐伯 そのあとは2日からジョーダンズの三又さんと熱海の温泉に行ったんだよ。

――男二人で温泉旅行！ しかもホモ疑惑のある三又さんと（笑）。

佐伯 たしかに同じ部屋だったけど、それはないな。俺のイビキがうるさくてさんざん文句ばっかり言われとったから。

――なんとなく想像できます。何か思い出でもできました？

佐伯 まあ、楽しかったけど、ここには書けない話ばっかで大変だったよ。夜は遊んで、旅館に朝帰ってきて部屋で朝飯を食べてから寝て。三又さんは言ってたよ。「これ、貴族の遊び方ですよ」って。たしかに贅沢な気分にはなったよね。

――嫌な貴族ですねぇ（笑）。

佐伯 そのあとスタッフとかと沖縄で4泊してきたよ。

――それは楽しそうじゃないですか？

佐伯 でもなぁ、4日間とも、とにかく天気が悪くて、逆にストレス溜めて帰ってきたよ。普段は飲まないのに、珍しく酒ばっか飲んでたから。

――スタートから波乱含みですね。

佐伯 すべり出しがまったく良くない！ まあ、でも減量が成功して見せられる身体になったら、年末には久々に『佐伯祭り』でもやりたいね。

――総合ルールでもチャレンジしますか？

佐伯 いやいや、実際の話、やるならグラップリングだろうけど、どうせならプロレスラー・佐伯繁をお見せしたいよな！

――佐伯さんの好きな『マッスル』でも目指しますか？

佐伯 いや〜、1・3後楽園の『マッスル』を『サムライTV』で観たけど凄いね！ ありゃ天才だわ。あの発想は俺には思いつかんよ！ ちょっと自信なくしたもんなぁ。

――あ、自信なくしちゃったんですか。ぶっちゃけ、あまり期待はしてないですけど、減量頑張ってください！

佐伯 だから、見とけって！ 今年はホント、ビックリさせてやるから



ブッカーKのぶっかけ！格闘裏情報

第12回

私だけが知っているヴァンダレイvsダン・ヘンのこと

ラスベガス現地時間2月24日『PRIDE・33』において、ヴァンダレイ・シウバvsダン・ヘンダソーンのPRIDEミドル級タイトルマッチが決定しました。

皆さんご存知のとおり、ヴァンダレイはもともと昨年の大晦日『PRIDE男祭り』に出場する予定でした。そのためヴァンダレイはクリスマスを返上して練習に明け暮れていましたが、マッチメイクがまとまらず、現在はラスベガス大会に照準を絞って絶賛トレーニング中です。

チャレンジャーとしてはダン・ヘンのほかに、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラも候補に挙がっており、いつ何時、誰とでも闘うヴァンダレイも望むところでした。しかし、やはりアメリカで〝ブラジル人vsブラジル人〟では反響が薄いという判断があったんでしょう。前回のラスベガス大会で、実力者ビクトー・ベウフォートを判定の末に下したアメリカン・ヒーロー、ダン・〝ハリウッド〟（なぜかアメリカではこう呼ばれます）・ヘンダーソンに白羽の矢が立ったのでした。

ちなみにヴァンダレイはこのカード発表記者会見に出席するためにロスに飛びましたが、練習後の夜8時にブラジルを立ち、急なエアーの予約のためフライト時間は日本に来るのとあまり変わらないくらいでしたが、到着後にFOXSPORTSの番組収録というハードスケジュール……。わがままを言うファイターが多いこの業界ですが、このヴァンダレイの姿勢は尊敬に値します。

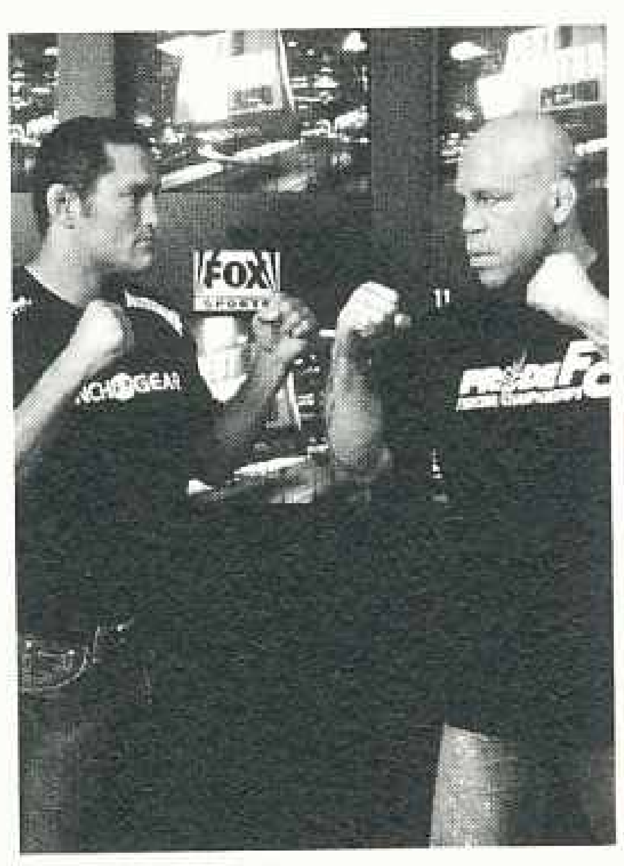
もちろん、ヴァンダレイとしても、初のアメリカでの試合ということでモチベーションは高まっていると思われます。11日の会見の夜もロスのシュートボクセ・アカデミーで練習し、12日の午後にはクリチーバへと発ったのでした。

『kami pro』でも報道されておりますが、現在はアメリカMMAシーンの動きが活発です。完全に売り手市場。

私がマネージメントするヘンゾ軍団もバリバリに活躍中。ボスのヘンゾは、パット・ミレチッチ、カーロス・ニュートン相手に二連勝中。IFLの株も買って儲けたそうです。次回はフランク・シャムロックとの対戦を予定しております。

そうそう！ 一昨年に拳銃の暴発で大ケガを負ったハイアン・グレイシーも、復帰に備えてトレーニングに明け暮れています。いまだから書けますが、じつはハイアンはあの事故で、大量失血より心臓停止状態に陥りました。一時は生死を彷徨っていたのです!!

いまではかつてのヤンチャぶりを取り戻しているので、近いうちに元気な姿をリング上で見ることができるでしょう。



Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

金ちゃんのどこまでやるの？

●第11回● 大晦日テレビ観戦記の巻

イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

『kamipro』読者の皆さん、あけましておめでとうございます！

さて、年末年始だけど、俺はいつものとおり大晦日はテレビ観戦で年越しですよ。『PRIDE』は地上波がないから、一番楽しみだったダウンタウンの『絶対に笑ってはいけない警察署』は保存版でビデオに録って『Dynamite!!』をオンタイムで観てたんだけど、俺が全試合で一番楽しみにしてたのは、じつは曙さんvsジャイアント・シルバなんだよね。

俺さ、一昨年の『Dynamite!!』で曙さんがボビー（・オロゴン）に負けたあと、記者に「今日は何点でしたか？」って聞かれて、「70点ですね」って答えてる記事見てから、曙さんの大ファンなんだよ（笑）。負けてるのに自己採点で高得点つけてるからさ、「この人、ただ者じゃないな」と思ってさ（笑）。そしたら今回もジャイアント・シルバ戦の前に「去年までの曙だと思ったら、大やけどしますよ」とか言ってたでしょ？　あれだけ負け続けてるのにこの自信はどこから来るんだろうと思って。俺も曙さんのポジティブシンキングを見習いたいなと思ったよね。まぁ、実際の試合のほうでは、自分が大やけど負っちゃったんだけどさ（笑）、曙ファンとしてはコメントだけで大満足だよ！

それに引き換え、期待してたのに残念だったのは桜庭と秋山選手の試合だよね。やっぱりUインターの仲間がやられて悔しいし、腹立ったよ。試合中、桜庭がさかんに「すべる」ってアピールしてたけど、ホントはどうなのかな？（この原稿は1月11日の記者会見前のものです）俺も何十試合もやってるから、凄いすべる相手っていたけど、ホントに汗ですべる人もいるし、オイル塗ってるヤツもいるし、わからないんだよね。オイルを身体に塗り込んでから表面だけ拭き取って出てくるヤツもいるしね。だから、レフェリーのチェックをくぐり抜けてリングに上がってきちゃったら、たとえ相手が塗ってたとしても、「汗ですべるんだな」と思ってやるしかないんだよ。途中でアピールして、タオルで拭いたところでどうせすべるんだから。これは人としてのモラルの問題だよね。

でも、桜庭みたいに片足タックルが武器の選手は、すべらされたら死活問題だから、もし秋山選手がホントに何かを塗ってたら、たまったもんじゃないよね。相当頭にくると思うよ。

ただ、俺はあの試合観てて、すべる、すべらないより、桜庭の動き自体が気になったんだよ。本来の桜庭の動きを知ってる俺からしたら、桜庭の動きはあんなもんじゃないよ。長年蓄積されたダメージが相当あるのかな、と思っちゃったよね。ま、俺も人のこと言えないけど、俺らの世代はみんなそうだよね。



俺もそういう年代だからさ、今年こそはテレビ観戦じゃなくて、ちゃんと闘う側にいなきゃいけないとあらためて思ったよね。そういえば、今年は前田さんもついに動き出すらしいよ。野呂田先生（元リングス・メディカルアドバイザー）からの年賀状に「今年は前田が動きます」って書いてあったから。まぁ、よく考えたら、去年の年賀状にも同じことが書いてあったような気がするけど（笑）。

俺は俺で一戦一戦しっかり勝つことを目標に、もうひと花咲かせますよ。今年もよろしくお願いします！

ささきぃの STAND BY ME second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

プロレス界にデビューした

第9回 “15秒男”宍戸大樹、『K-1 MAX』もう一丁!! の巻

1月8日、都内ホテルで実施された記者会見において、アンディ・オロゴンvs小比類巻貴之をはじめとするトーナメント組み合わせおよび参戦選手が発表された。過去二回日本トーナメントを制している小比類巻に対し、堂々とアンディ・オロゴンとの対戦をオファーできる谷川さん。いったいどこからツッコんだらいいのか。「日本代表決定トーナメントに、なんでアンディ・オロゴンが出てるの？」という言葉は、基本中の基本すぎてもう出てこない。

以前ブアカーオを前に見事な心の折れっぷりを見せた小比類巻にとって、天性の運動神経と長い手足を持ち、ムエタイ技術を身につけだしているアンディは〝まさか〟がありえる相手でもある。大番狂わせか、小比類巻があたりまえのように勝利するか？　どちらにしても楽しみである。

そして今回の日本代表トーナメントには「去年、ちょっとだけK−1に出た人」が混じっている。シュートボクシング（以下SB）日本ウェルター級王者、宍戸大樹だ。

宍戸は、昨年10月の世界王者対抗戦に登場。開始わずか15秒で、ブアカーオの右フックに沈んだ。実力を期待され、SBの名前を背負って登場した男の、あまりにもあっけない敗北。周囲ががっかりしたのももちろんだが、本人は先輩たちから「おまえ、死ぬなよ」と言われるほど目に見えて落ち込んでいたという。

「お世話になった人にも、先輩にも、（SB創始の）シーザー会長にも顔向けできない。なんてことをしてしまったんだろうって、ほとんど鬱病でしたね」と、宍戸は当時を振り返る。宍戸が所属するシーザージムでは、そうやって目に見えて落ち込んでいる宍戸を、徹底的にからかいはじめた。翌日から、倒れる足の角度まで研究されてダウンシーンの再現が当然のようにスタート。「ちょっと宍戸、2階から○○持ってきて。15秒で」と用を言いつけられるほか、オランダ・シーザージムのアンディ・サワーまでもが宍戸を「ミスター・フィフティーミニッツ」と呼びはじめた。海を越えて伝わるSBイズムである。

厳しすぎるツッコミに耐えて耐えて耐え抜いた宍戸は、12月の後楽園大会に参戦。試合3日前にぎっくり腰を患うという近来まれにみる不運に見舞われながらも、見事KOで勝利を挙げた。「からかわれてたのがつらくなかったといえばウソになりますけど、何も言われずに放っておかれてたら、どこかへ逃げ出していたと思いますね」。

今回の出場メンバーは、いずれも劣らぬ崖っぷち揃いだ。どの選手にも勝たねばならない理由がある。宍戸は「僕が一番の崖っぷちです。崖っぷちの男の意地を見に来てください」と語った。前回が15秒で終わったぶん、今回の宍戸はトーナメント3試合をフルに闘うことができるだけの力と悔しさを、しっかり溜め込んでいるはずだ。2月5日の宍戸大樹は、どれだけの時間、何人の相手と闘うことが許されるのだろうか？



2月5日のトーナメント出場選手は小比類巻貴之、アンディ・オロゴン、TATSUJI、HAYATO、宍戸大樹、尾崎圭司、佐藤嘉洋、白須康仁の8人。コラムで触れた小比類巻、宍戸の二人にとって因縁深いブアカーオはスーパーファイトで登場する。

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第10回

曙と大晦日

2006年。大晦日。第57回NHK紅白歌合戦。

前号でも書いたが、この紅白歌合戦に木村健吾（当時）は出場しなかった。

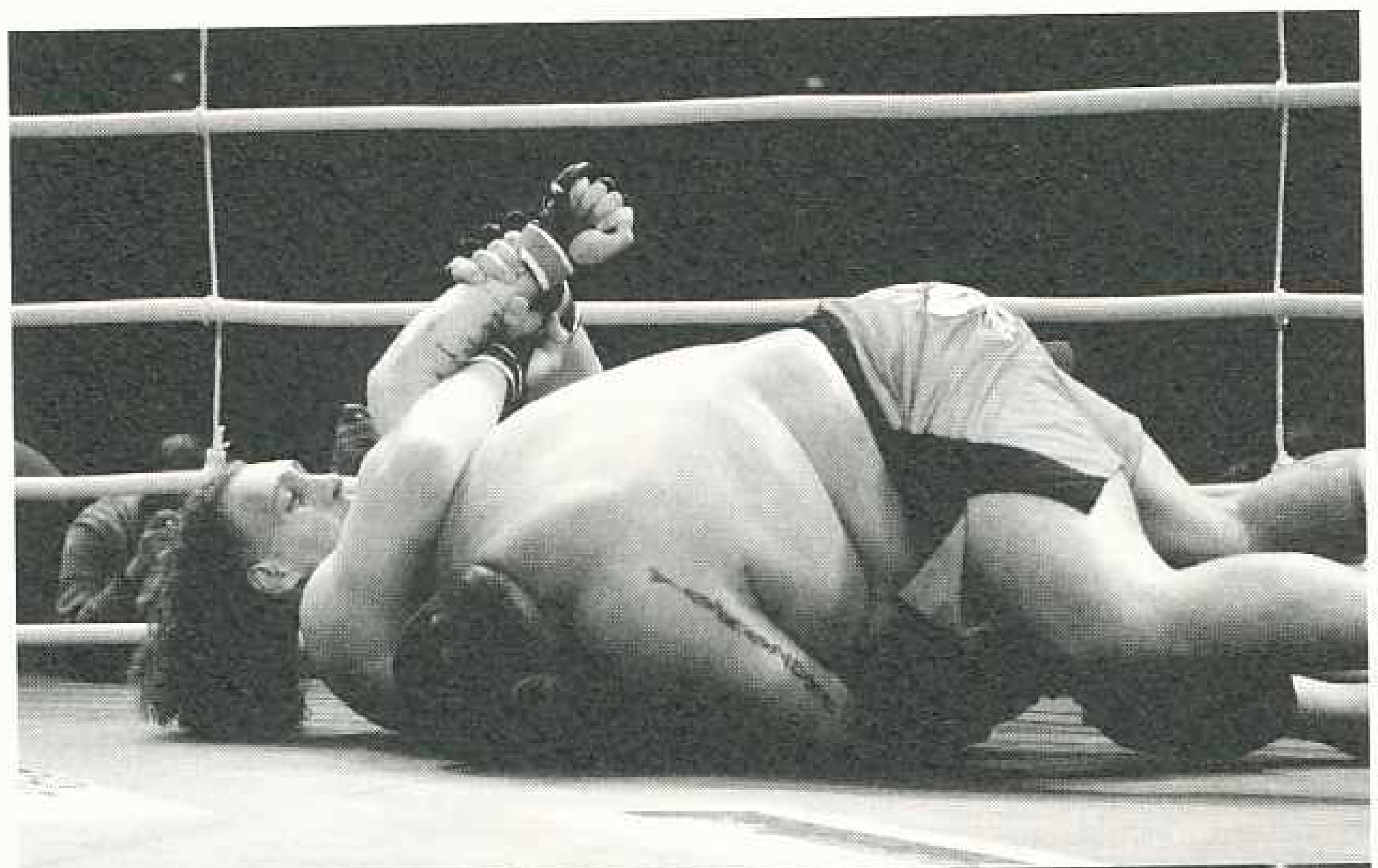
いや、何も健吾だけではない。ウィラード、ラフィンノーズ、有頂天のいわゆるインディーズ御三家の出場はなかったし、内田裕也、力也 with COOLS、ジョー山中、白竜らの名前もなかった。もちろん日本、中国、韓国、アメリカでの同時開催でもなかった。

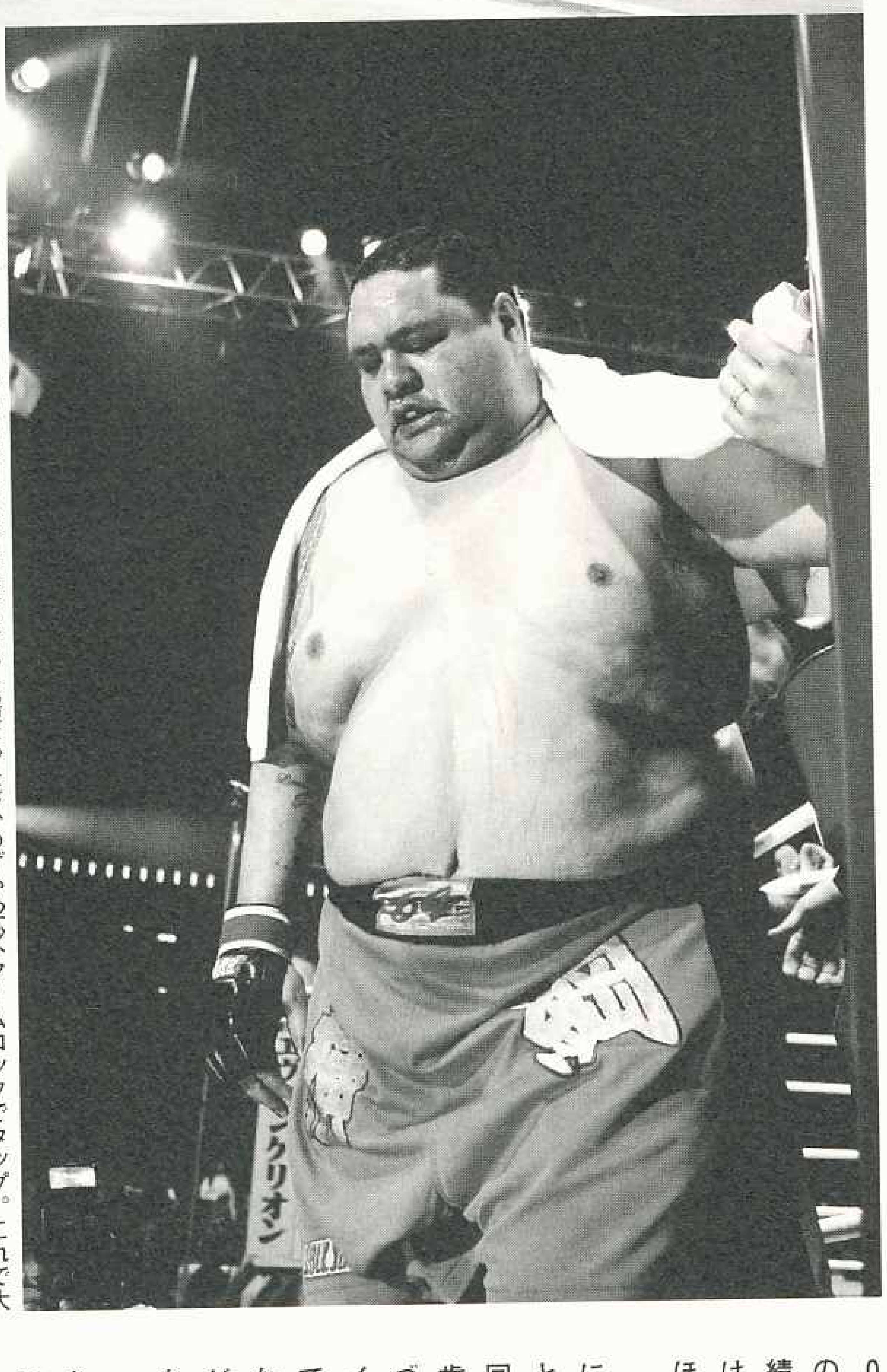
だが私はあきらめなかった。もしかしたら審査員として木村健吾が登場するのではないかと。歌い手として出場できなかったことはもしかしたら木村健吾自身にとって不本意なのかもしれないが、それでも大好きな紅白に関わっていたいという気持ちが強く、審査員として参加しているのではないかと思ったのだ。

日本中の誰よりも審査員席を凝視する。2006年に初映画監督を務めた阿木燿子、連続テレビ小説でヒロイン役であった藤山直美、著書「がんばらない」がベストセラーになった鎌田實、ワンピースのルフィの格好をした藤田弓子、スーパーマリオの格好をした山本晋也監督、生田悦子、淡谷のり子、そして最後に控える針すなお。何度も何度も見直したが、そこに木村健吾の姿はなかった。

ならば応援団として登場ではなかろうか。落胆しそうだった私は気持ちを切り替える。応援団として木村健吾が登場するはずだ。

白組の応援に駆けつけ、紅組の司会を形どった人形に渾身の稲妻レッグラリアート！　粉々になり、ステージ上を転がる人形の首。全国のお茶の間は、白組には頼もしい男がいると思う一方、稲妻レッグラリアートの威力を思い知ることになる。「なんという応援団だ。こんな応援団、敵には回したくねえ。俺は白組で良かった」と男子ならば胸をなでおろすことだろう。





大会前は佐山サトルのもとでシルバ戦へ向け特訓を積んでいた曙だったが、わずか62秒、アームロックでタップ。これで大晦日は4年連続敗戦という結果に。試合後はプロレスも休業し練習に専念すると語っていた曙だったが、はたして……!?

しかし応援団としても木村健吾の登場はなかった。もしかしたらバイクで駆けつけているが、渋滞に巻き込まれているのかもしれないと一縷の希望だけを抱いてはいたが、結局、彼は現われなかった。

もしや視聴者審査員だったのでは……との考えが頭をよぎる。だがそれはたしかめようがない……。

一方その頃、裏番組であった『Dynamite!!』では曙が負けていた。1ラウンド1分2秒という短い時間でジャイアント・シルバのアームロックにタップ、またしても敗北を喫した。

紅白を見る大多数の層であろう年配の男女。この層にも曙の名前は知られている。知名度で言えば2006年に初映画監督を務めた阿木燿子、連続テレビ小説でヒロイン役であった藤山直美、著書「がんばらない」がベストセラーになった鎌田實などよりも曙が上だろう。なんといっても日本の国技である相撲の横綱であったのだから当然だ。この層にアピールさえできれば視聴率戦争の結果は変わっていただろう。曙がもう少し長いあいだ、闘っていられたなら、紅白から視聴者が流れてきて、瞬間的ではあろうが視聴率の逆転が起こったかもしれない。

曙がもう少しリングに立っていられたなら、そしてもしも勝っていたならば、と悔しがる関係者は多いだろう。曙が勝てるわけがないだろうと思った人の数はそれ以上のはずだ。まったく情けないと愛想をつかしてしまった人の数もその同数近くいるかもしれない。

曙はたしかに負けた。まったく良いところはなかった。それは事実である。だけれども、だ。曙の裏の、そして見えない敵であった紅白歌合戦のことを考えてもらいたい。第57回紅白歌合戦の結果を知っている人はどれくらいいるだろうか。白組が勝ったのか、それとも紅組が勝ったのか、即答できる人はどれくらいいるだろう。ほんのわずかに違いない。

たとえば白組が負けたとする。「白組がもしも勝っていたなら……」と考える人はいるだろうか。「白組が負けたよ……」と悔しがる人がいるだろうか。負けた白組に愛想をつかす人はいるだろうか。

それらはほぼあり得ない。だが曙は違う。「曙がまた負けた」という情報は私たちが思っている以上に広がっていて、その結果に一喜一憂している人たちが大勢いるのだ。「あけましておめでとう。そういえば曙負けたね」と新年一発目の会話のきっかけにすらなっている。

これを利用しない手はない。曙はこれから先ずっと大晦日に闘うべきである。そして負け続けるべきである。毎年大晦日は曙が負ける日と定着させるべきだ。紅白との絶対的な差に「歴史」があるのなら、それを作っていけば良い。曙が負けるということを「毎年恒例」だけではなく、「風物詩」にまで高めてしまうのだ。

大晦日ということで、108回負ければ良い。除夜の鐘を聞きながら、曙の戦績を一つ一つ噛みしめていけば良い。まさに風物詩にほかならない。

ところで、「毎回大晦日に108回負ければ良い」と簡単に書いたが、108回負けた頃には曙は150歳近くなっていることに気づいた。まあその頃にはタイムマシンとかが発明されているだろうからなんとかなるだろう。タイムマシンがなくともタイムベルトがある。

しかしタイムベルトが大きな曙の胴体に巻くことができずに……!?（つづく）

椎名基樹のサムライ二味

第10回

ハンセンの敗因

大晦日の『PRIDE男漁り』、否、『PRIDE男祭り』。青木真也vsヨアキム・ハンセンで、総合の試合で、いや総合だけじゃなく、本当に初めてフット・チョークなる技が極まるのを見た。

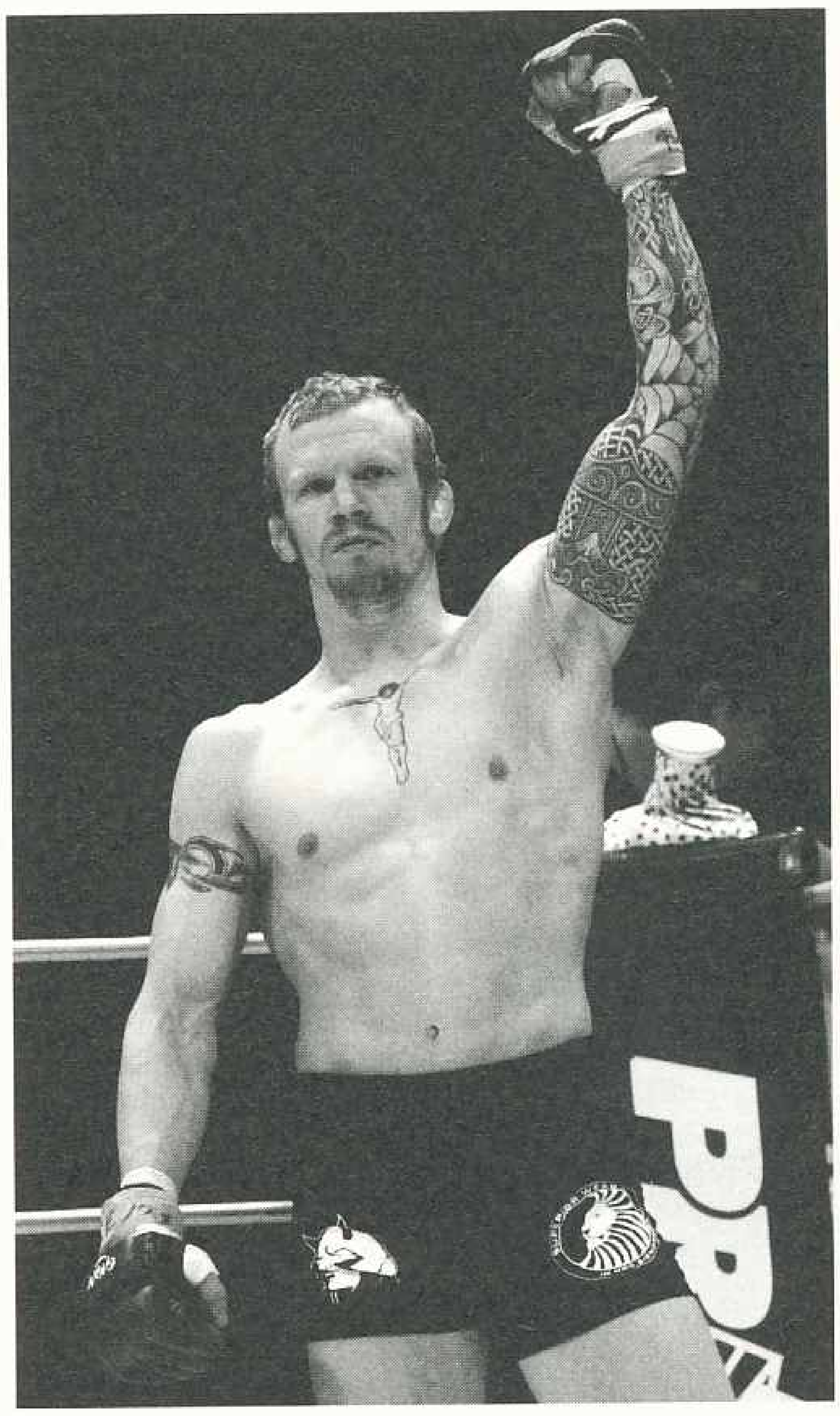
相手の首に食い込ませている足の甲は、頸動脈を絞めているというより、喉を潰しているように感じた。まさに足刀を喉に突きつけるように。ハンセンの早いタップアウトからも、そのように想像できた。フット・チョークという名前と、技の大体のかたちはなんとなく知っていたが、実際にああして実戦で極めてくれると、なるほどこういう技なのかと、感心してしまう。あの体勢から足で相手の首を絞めるなんて本当にできるのか？　と半信半疑だった猜疑心の強い筆者は反省！　ヨアキム・反省！

それにしても、ハンセンは強いと思ったけど、秒殺してしまったから青木真也には驚いた。センセーションですよ。センセーショナル・インテリジェント・ザ・デストロイヤーですよ、青木は。

総合の試合は実力差に比べて、あっけなく勝敗がついてしまう場合があると思う。しかし、ハンセン秒殺負け最大の原因は髪の毛を生やしてきたことではないか？

ハンセンは、いま最もフィギュアにしてほしい選手ナンバーワン（俺調べ）のルックスの持ち主。汚くなりがちな（エメリヤーエンコ・アレキ○ンダーさんのように）イレズミですが、ハンセンのそれはバッチリ（世界3大素晴らしいイレズミ、ハンセン、須藤元気、アローナ）。色は真っ白い肌に青々と墨が浮かび美しく、図案は細密で身体への配置もバッチリ。とくに胸の十字架はインパクト大。そのボディにあの真っ白いスキンヘッドのデッコパチ頭が乗って無表情だから完成度高くてカッコいいのにもかかわらず、ヨアキムったら、ぼさっと髪の毛伸ばしてきちゃって。あれじゃあ、コンボイの運転手か、チェーンソーで木を切る人か、政治犯です。ハンセンがスキンヘッドにして、元の怪人キャラで出場していたら、また違った名試合が生まれたかもしれません。

さて、大晦日は『男祭り』と『Dynamite!!』、そして、ごくたまに紅白をザッピングしながらすごしたわけでございます。途中、ラッキーにも偶然にDJ OZMAが素っ裸で「♪ナーナーナナナー、ナナナーナナナー」と歌い踊る姿を見たものの、ほとんどは録画したものも含めて何時間もぶっ続けで、格闘技を見続けて、年末年始感もふっとんで正月の朝を迎えたのでした。



こちらが『PRIDE 男祭り』でのヨアキム・ハンセンの風貌。たしかに左腕、そして胸元のイレズミは見事なんですが、やはりハンセンはスキンヘッドのほうが似合いますよね。ウィー！（←ハンセン違い）。

大晦日の試合の中でまず注目してたのは、やはり桜庭vs秋山。凄いことになちゃったねえ。前代未聞。ああいった内容の抗議が通り、謝罪会見までいったことにも驚きだし、生放送でもないのに、「凄くすべる。なんか塗ってる」という桜庭の声がリプレーにわたり二度までも使われていたのも不思議だ。

そして、この試合で俄然心配になったのが、秋山のセコンドについた清原だ。秋山にマイクでお節介にも来年の成績にまで言及されてしまい（←同等か！）、さらに、その説教の張本人が反則負けでは、カッコ悪い。言ったほうも言われたほうもカッコ悪い。何かと揺れているオリックスですが、清原の来年の成績はいかに？

『Dynamite!!』で驚いちゃったのは、須藤元気の突然の引退宣言。なんでも、06年3月から首のヘルニアに悩まされていたそうで、もう続けることはできなかったのだろう。須藤元気といえば、トリックスター。あのトリッキーな動きは、思えば得意の寝技に持ち込むために編み出されたスタンドスタイルだった。須藤元気の真骨頂といえば、引退試合でも三角を極めたように下からの極め。そして、独特の動きとして印象深いのは、バックを取ってそこからの腕十字。あれは、速くて鮮やかだった。日本の格闘史に個性的に輝く選手。須藤選手、おつとめごくろ～さんでござんした。

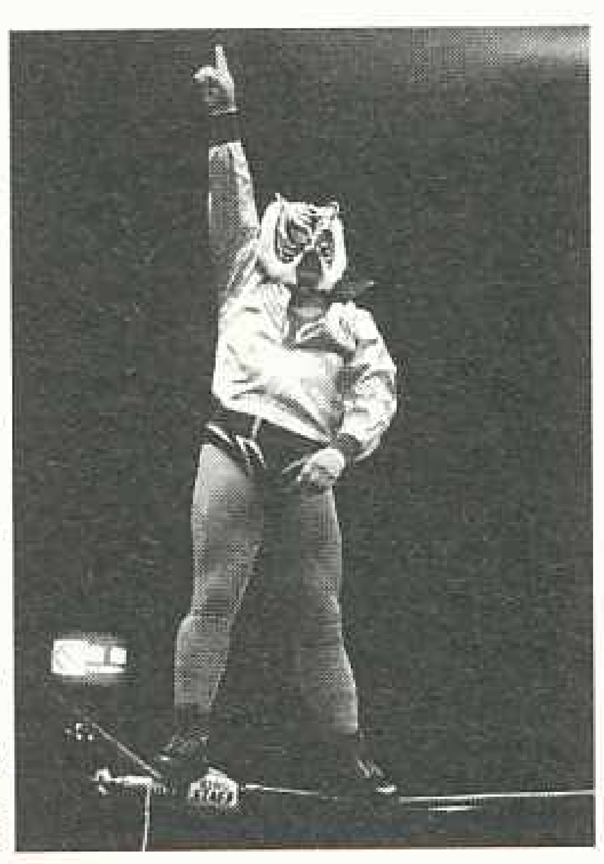
さて、『男祭り』にザッピングを戻しますと、名試合の数々。正月早々息が詰まる思いでした（←餅を詰まらせて）。

熾烈極まるライト級戦線は、この大晦日でトーナメントもだいぶ進み、準決勝くらいまできた感もある。それにしても、いま『武士道』のライト級を争っている連中は、修斗のリングであっという間にチャンピオンに駆け上がった、ズバ抜けた選手たちばかりだ。桜井速人からはじまり、五味、ヨアキム・ハンセン、川尻、青木、メレンデスと修斗のライト、ウエルター、ミドル級で頭一つ抜けた存在で、ノンストップで（川尻のシャオリンへのリベンジ劇もノンストップといえるでしょ）王者まで駆け上がった選手が争っている。正にキング・オブ・キングを決める戦いだ。現王者はウエルター級王者だった、五味。そして、トップコンテンダーはミドル級の王者、青木。もっとも軽いライト級からメレンデスの二人。奇しくも、3階級すべてから一人ずつ残った形になった。青木のいきなりの王者挑戦も見たいが、青木vsメレンデスも見たい気がする。

そして、王者、五味について思うことは、スマイルが素晴らしいということだ。かつて、数年前の大晦日に、アントニオ猪木が新宿中央公園で、ホームレス相手に炊き出しをしたのを見に行って、実際にアントン・スマイルに触れ、魅了されたことがある筆者。ああいう、スマイルがある人は強いですよ。南海キャンディーズのしずちゃんを見てもわかるように、ナイスなスマイルは、生まれながらに備わった武器です。五味スマイル、恐るべし。あと、小雪（モデル・女優の）スマイルも筆者は好きです。

今年こそ笑顔が素敵な人目指して、歯医者に行くぞ～！

【P.S.】現在、『日刊スポーツ』で、佐山サトル先生が、タイガーマスク時代について証言する連載をやっているんだけど、その中でタイガーの人差し指1本立てたあの得意ポーズ、じつはあれ、水前寺清子に指導してもらったんだって。恥ずかしそうにやっていたら、水前寺清子に「もっと堂々としなさい」と怒られて、佐山先生は「さすがプロだと思った」とか。虎がチータに怒られるなんてな！

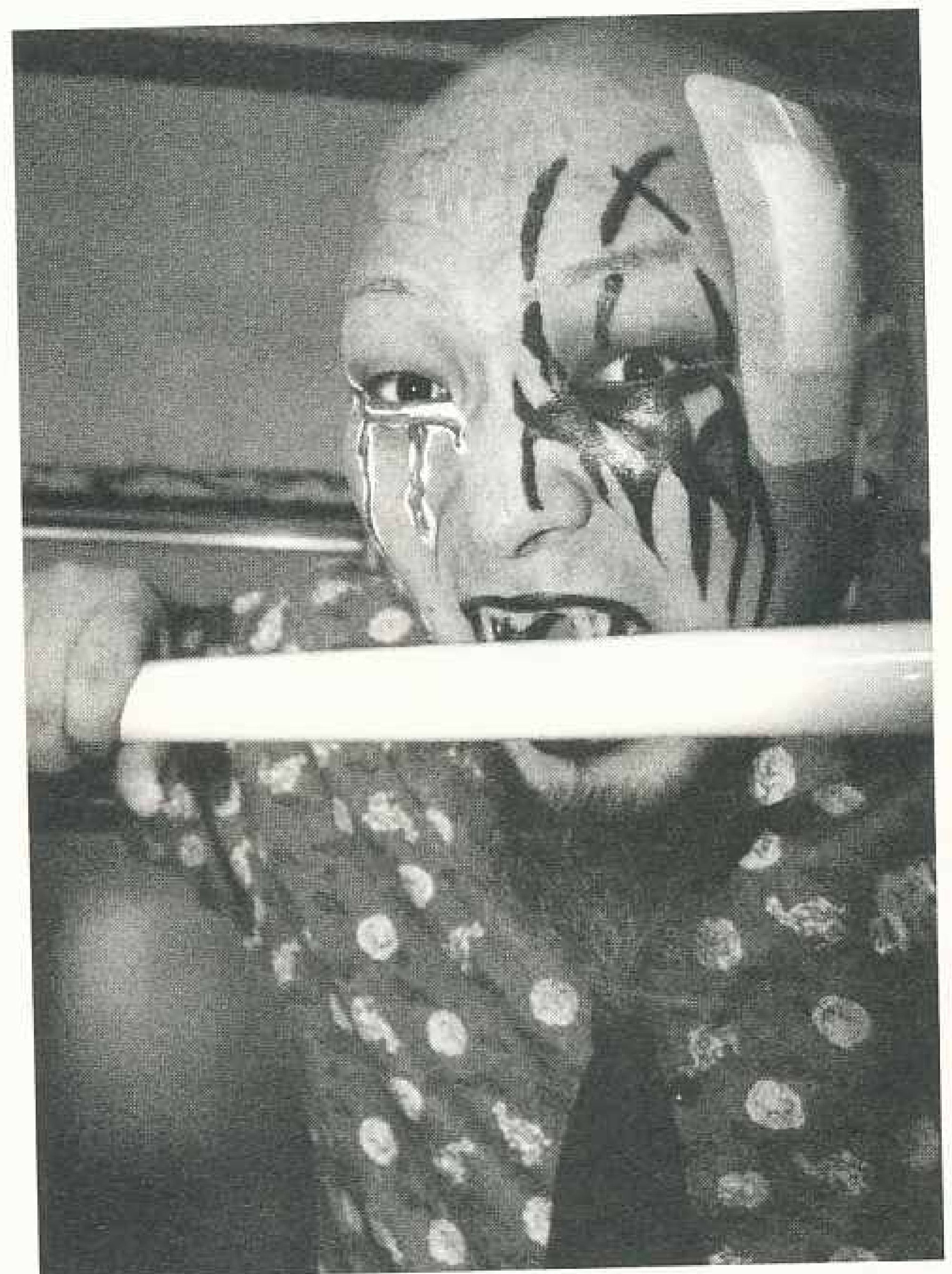


チータに指導してもらったというタイガーの人差し指立てポーズがこれ。ちなみにこちらの写真は05年6月の大谷晋二郎戦でのモノです。

イナズマKのハードコアドージョー Special

06年のハードコア大賞はコイツだ！　″黒天使″沼澤邪鬼が見参ッ！　と紹介しようと思ったら、なんと締め切り時点で「″黒天使″沼沢邪鬼を名乗る男が2ちゃんねるで殺人予告して逮捕！」とのニュースが到着。もちろん沼澤本人とは別人（犯人は″沼沢″を名乗る）だが……タイミングよすぎ！　ということで、いまや脚本家の内館牧子氏もゾッコンらしいデスマッチの″神様″に突撃!!

内館牧子さんとデートしたい!? デスマッチの″神様″の本音とは？



ぬまざわ・じゃき■1977年6月7日生まれ。埼玉県本庄市出身。00年11月27日、vs松崎駿馬戦でデビュー。葛西純とのタッグ“045邪猿気違's”結成。葛西の欠場後は“神様”を名乗って活動、現在に至り、ファンの支持を得る。身長174cm。体重94kg。

——沼澤さん、昨年の大日本プロレスの横浜文体のビッグマッチ、″狂神の蛍光灯神殿デスマッチ（vs佐々木貴）″は凄い試合でした！　……でも神殿でありながら、実際には神殿の″屋根″がありませんでしたよね？

沼澤　あれはウチの選手がみんなインドネシア遠征（前号参照）に行って、人手不足で作れなかったんです（笑）。……なかなか思いつきでモノは言うもんじゃないですね。

——1000本の蛍光灯で建設するという話でしたが、いずれは完成形が見れる？

沼澤　いや、もうこれからは蛍光灯の本数じゃないと思うんです！

——えっ!?　意外な答えが出てきました。

沼澤　1000本だから凄いとか、もうそういう試合はしたくないんです。だったら10本使って凄い試合をして「どうだ！」って胸を張りたいっすね。

——でも以前は違いましたよね。

沼澤　伊東（竜二）が300本で試合をやったら、対抗して301本！　とか言ってましたね（笑）。でもデスマッチをやるうちに、そうじゃないなと思って。いまはなるべく蛍光灯では殴りたくないんです！

——これまでさんざん殴ってきたのに。

沼澤　極力やらない、ということでね（笑）。

——沼澤選手のデスマッチ観が変化したきっかけはなんだったんですか？

沼澤　以前は、葛西（純）さんと気の狂ったハチャメチャな試合ばかりやってたんですけど……佐々木貴と真っ向勝負したときに凄く楽しかったんですよ。蛍光灯に頼らない、もっとぶつかり合える感じというか。あれがなかったら、まだ蛍光灯の本数だけを競うような選手だったかもしれない。

——そんな沼澤選手は、デスマッチの″神様″として有名ですが（笑）。″神様への道″のストーリーを聞かせてください。

沼澤　いや、とくにそういう話はないんですよ。自分を奮い立たせるために、″神様″と言っちゃったんです（笑）。でも「俺は神様だ」「俺は神様だ」と言い続けてたら、責任感が出てきましたね。

——神様としての責任感が出てきたと。いままで壮絶なデスマッチを繰り広げてきたわけですが、02年11月のマッドマン・ポンドとの試合では、蛍光灯が胸にグサッと刺さる大ケガをしましたよね。

沼澤　自分にとって最初のデスマッチだったんですが……5センチくらいの深さで蛍光灯が肺にまで刺さっちゃって。

——蛍光灯が肺にズブリですか！

沼澤　でも、自分の足で控室に帰りました。そのあとデスマッチへの恐怖心が出るかと思ったら……まったく出なかったんです。

——さすがはデスマッチ学園″スクール・オブ・マッドネス″の教頭！　葛西選手とのカミソリボードマッチも衝撃でしたね。

沼澤　あれは十字の板に一枚刃のカミソリがずらーっとたくさん埋まってたんですけど、試合するまで、あれを使ったらどうなるか想像がつかなかったんですね。で、実際にパワーボムで葛西さんをカミソリボードにめがけてブン投げて、相手の背中を見たらウワーッ！　と思いましたね。

——無数の線のように血がサーッと出ましたから……さすがにビビりましたか？

沼澤　いや、たのしー！　って（笑）。

——アハハハ！　お客さんはドン引きしてましたけどね（笑）。それは試合をやってる選手にしかわからない感覚ですね。

沼澤　まあ、さすがに客を引かせるのはどうかと思って、カミソリは封印しましたけど。でも剣山が頭に刺さるのも、蛍光灯でスパッと切れるのも同じですよ。

——でも蛍光灯って水銀が入ってて危なそうじゃないですか？

沼澤　あ、それは昔の蛍光灯で、いまのはけっこう大丈夫みたいです。

——危険だけど……ある意味では安心と（笑）。蛍光灯の話でいうと、以前、葛西選手が「寝てるあいだに背中を掻いてて、朝起きたらベッドの上が一面キラキラしてた」って話を聞きましたが。

沼澤　あります！　あります！　そういうのは日常茶飯事です。ちゃんとカケラを洗い流さないとベッドの上は″ラメ状態″で（笑）。それに身体がたくさん切れちゃった日は、眠いのに寝れないんですよ。気分が高ぶってるのと、身体がヒリヒリして熱いんですよね〜。

——それはデスマッチファイターならではの苦悩ですねぇ。では二度とやりたくないデスマッチはありますか。

沼澤　ガラガラの後楽園！（キッパリ）。

——ガラガラのほうが怖いですか（笑）。

沼澤　僕らも生活がかかってますからねぇ（しみじみ）。いまは大日本もお客さんが来てくれますけど、一時期なんてお客が少なくてホントにつらかったですから。冗談で″肉なしチャンコ″とか言ってたけど、そんなレベルじゃなかったんです！

——そんなに苦労されてましたか。

沼澤　……あの頃には戻りたくないですよ。そうならないために、デスマッチのクオリティも上げてかなきゃいけないし。いまお客さんが減ったら（メインでやってる）オレらの責任ですし。

——その盛り上がりが伝わっているのか、『去年の東京スポーツ』のプロレス大賞選考会では、特別審査員の内館牧子さんが、沼澤選手の素晴らしさを絶賛されてましたね。

沼澤　うれしいですねぇ。オレの名前より、あの場所にデスマッチファイターの名前を出してもらえたのがうれしい。このままデスマッチ部門とかじゃなく、プロレス大賞のワク内で賞を取れたらホント最高ですよ。

——最高といえば……沼澤選手は元モーニング娘。の矢口真里さんが好きなんですよね。

沼澤　そうっすね。小柄なケバいような子がいいですね〜（笑）。

——内館さんも小柄だった気が……。

沼澤　あ、いいんじゃないですか？　僕でよかったら、内館さんとデートでもなんでもしますよ！（笑）。

——それは実現させたいですねぇ。内館さんがデスマッチをどういうふうに見てるのかって話も聞きましょう。

沼澤　じゃ、それはピロートークで！（笑）。



見てみぃ！　この表情！　蛍光灯を駆使してキ○○イぶりを存分にアピールする沼澤の試合では試合中に観客の「キ○○イ」コールが炸裂！　テレビ番組『大日大戦』で「ピー！」音が連発されている。

黒天使に会いに行こう!
大日本プロレス

東京・後楽園ホール
2月26日（月）
開場18:30　開始19:00

【チケット料金】
特別リングサイド
5,250円（当日5,500円）
指定席
4,200円（当日4,500円）
ペアシート（2枚1組、指定席）
6,300円（当日6,500円）

【問】大日本プロレス
045-321-1598

掟ポルシェの萌え萌え女々苑


イラスト◎ゴローちゃん

すいません！ 5000円あげるから料金分罵ってください！ 格安にわかSM推進派の掟ポルシェが、萌えと称して己の性癖をニョッキリさらけ出すこのページ！ 今回のゲストは、な、なんと！ SMの女王様兼総合格闘家のHIROKO選手!! うわっ、本物！ しかも、実寸で181センチ！ もうこの際、五臓六腑全部破裂するぐらいボコボコにしてくださ〜い！

掟 現役SMの女王様がスマックガールに出場中ということで、シバカレたがりっ子の俺がお話をうかがいに来ましたよ！(殴られやすいようにわざと大遅刻して)。

HIROKO（以下、H） ごめんなさい。SMのお店はもうやめちゃうんですよ。総合格闘技に専念しようと思って。

掟 エ〜〜〜ッ!? ……そ、そうなんですか？ (明らかに落胆して)。

H でも、SMとかキャットファイトのビデオの仕事はまだやりますよ！

掟 では、寝汗をかくほどそちらを見ておきます！ (泣)。女王様になる前は、土木作業関係の仕事をされてたんですよね？

H はい。ウチの親が建築会社を経営していて、それを継ぐことになって。まぁ、バブルとともに崩壊してしまったんですけどね。アッハッハッハッ！

掟 豪快に笑い飛ばしますねぇ……なぜ女だてらにキツい建築現場に？

H 家にあんまり帰ってないで悪いことばっかしてたから、親が心配で私のことを連れて仕事に行ってたんですよ。

掟 そんなに悪いことしてたんですか？

H いやいやいや（笑）。

掟 何か手頃なものを盗むとか？

H まあ、それに近いような感じで（笑）。

掟 近いんですか！（笑）。親の思惑としては、何かこの子は発散するものがないとヤバイぞってことで、力仕事をさせようとしたんですかね。

H でも、入ってからは自分の家の会社を大きくしたいと思って頑張りました……もうないんですけど（笑）。

掟 切ない話ですが、こんな逸材を現場に埋もれさせておくのは惜しいのでOKです！ で、バブル崩壊後、いろいろあってSMの道へ？

H はい。もう単純に、お金がほしかったんで（笑）。

掟 でも、天職じゃないですか？

H ですね！（キッパリ）。

掟 在籍していたお店のコース内容が最高ですよね！ 「暴力」とかストレートすぎなサービスもあって（笑）。プロレス技では「リフト（95キロ程度まで）」なんて断り書きが。ロード・ウォリアーズみたいにリフトアップするわけですか？

H いや、アップはできないんですけど、アルゼンチンバックブリーカーです。190センチ、95キロのお客さんまでは持ち上げたことありますよ。

掟 頼もしい！ こんな人に担がれて背骨が折れて死ぬなら本望です！

H あとは肩車とか希望する人が多くて。

掟 肩車って……するほうで？

H 私がしてあげるんです（笑）。

掟 う〜ん、休日のお父さんみたいで素敵！

H アッハッハッハッ！ あと、お姫様ダッコとかされたい人が多くて。

掟 世の中にはさまざまな性癖の方がいらっしゃるわけですね！

H 普通に勃起してますよ、それで（笑）。

掟 日本って平和ないい国ですね！ 学生時代は喧嘩とかよくしたんですか？

H 学校とかではよくありました（笑）。

掟 勝率は良かった？

H はい。ちょっとムカついたりすると、やり合いっていうよりもシメちゃってるみたいな感じで（笑）。たまに授業中に始まったりとかはありましたね。

掟 授業中！ 暴力教室ですね！（笑）。

H 普通に会話してて、いきなり友だちがキレだしたりするんです。そうすると私もキレちゃうじゃないですか（笑）、それでケンカになっちゃったりとか。

掟 そういうときは先生は置いてけぼりで、「おまえ、表出ろ！」みたいな感じですか？

H どうだったか忘れちゃったぁ（かわいらしく）。

掟 でも、そういうのが活かされる世界ですからね、総合格闘技は。ちなみに好みの男性のタイプは？

H あ〜、黒人が好きです（笑）。六本木とかにいるチャラチャラした黒人が（笑）。私、チヤホヤされるの好きなんで（笑）。

掟 ダハハハハ！ たしかに、黒人は愛情表現もストレートですし。

H それとか、お酒をおごってくれたりするから（笑）。

掟 もの凄くモノでつられるタイプですね（笑）。

H でも六本木の黒人は、嘘つき、女泣かせる人が多いって聞きました。

掟 じゃあ地味なところに住んでる黒人だったらいいんじゃないですか？ 常盤台とか大山とか。

H アハハハハハ！ どうなんですかね（笑）。とりあえず、カッコいいからいいや、みたいな（笑）。

掟 ホームページのプロフィールの趣味の欄に「ピアノ、リンチ、飲みに行くこと」ってありましたけど、お酒はけっこう飲まれるんですか？

H はい。でも、失敗することが多いんで、いまは控えることにしました（笑）。

掟 失敗って、たとえばどんな？

H エッ、凄いんですよ（笑）。朝起きたら、下半身裸だったりとか（笑）。

掟 ダハハハハ！ 下半身裸って、それは家の中ですよね？

H もちろん（笑）。あとは、歌舞伎町のクラブとかで飲んでるじゃないですか？ そんで、飲むと寝ちゃうんですけど、朝、目が覚めてトイレ行ってズボン下ろしたら、ピ●クロ●ターがおっこってきて。しかも電池がなくなってたりとか（笑）。

掟 ダハハハハ！ 本人は使った記憶一切なし？

H はい（笑）。誰かに入れられたんですよ、たぶん。気づかなかったんですけど（笑）。みんなで遊んでたのは覚えてるんですけど。「入れちゃうぞ！」みたいな（笑）。

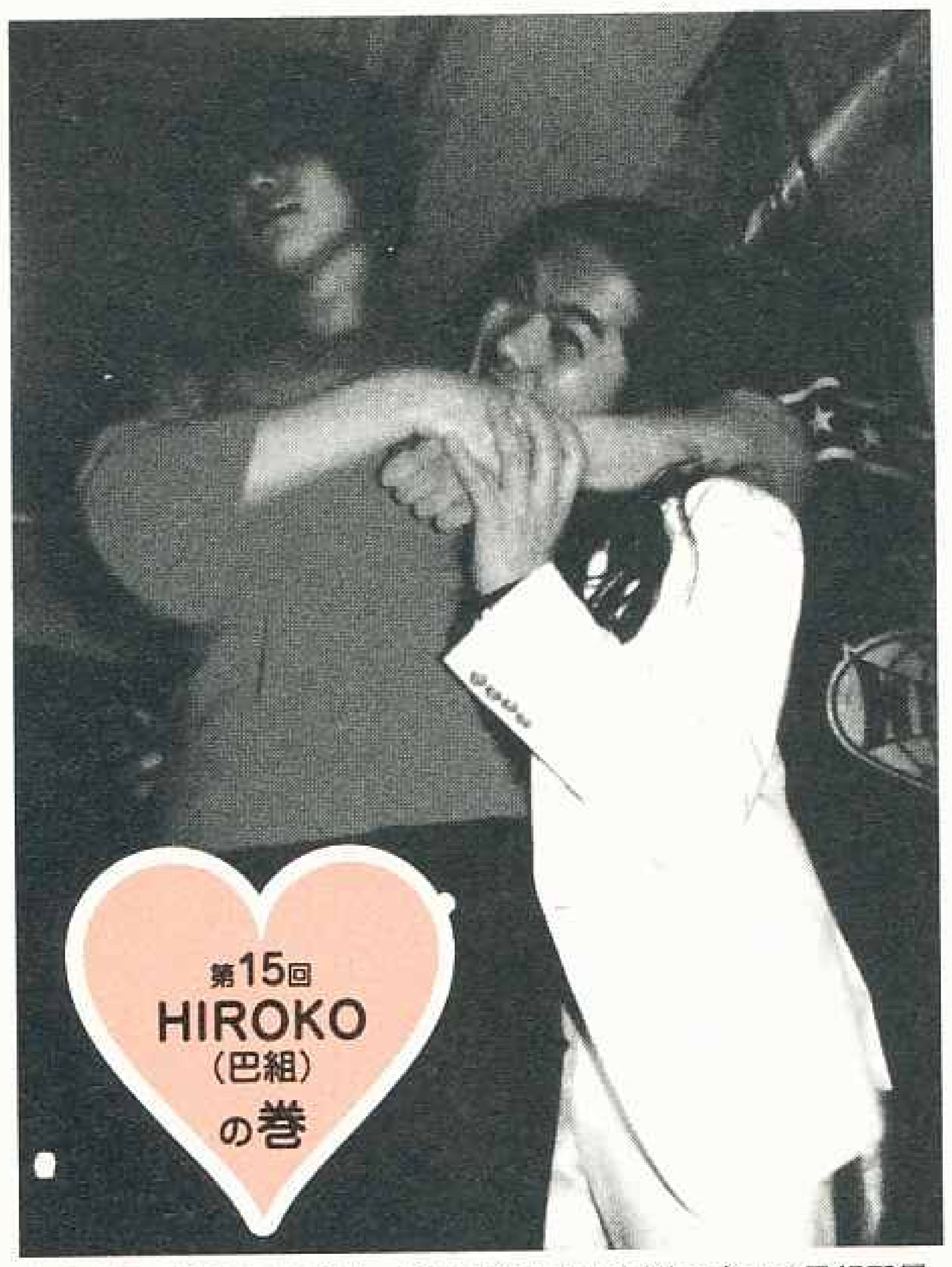
掟 で、電池が切れるぐらい朝まで中に格納されていたと。もはや笑えません！

H あと、よくあるのは失禁。

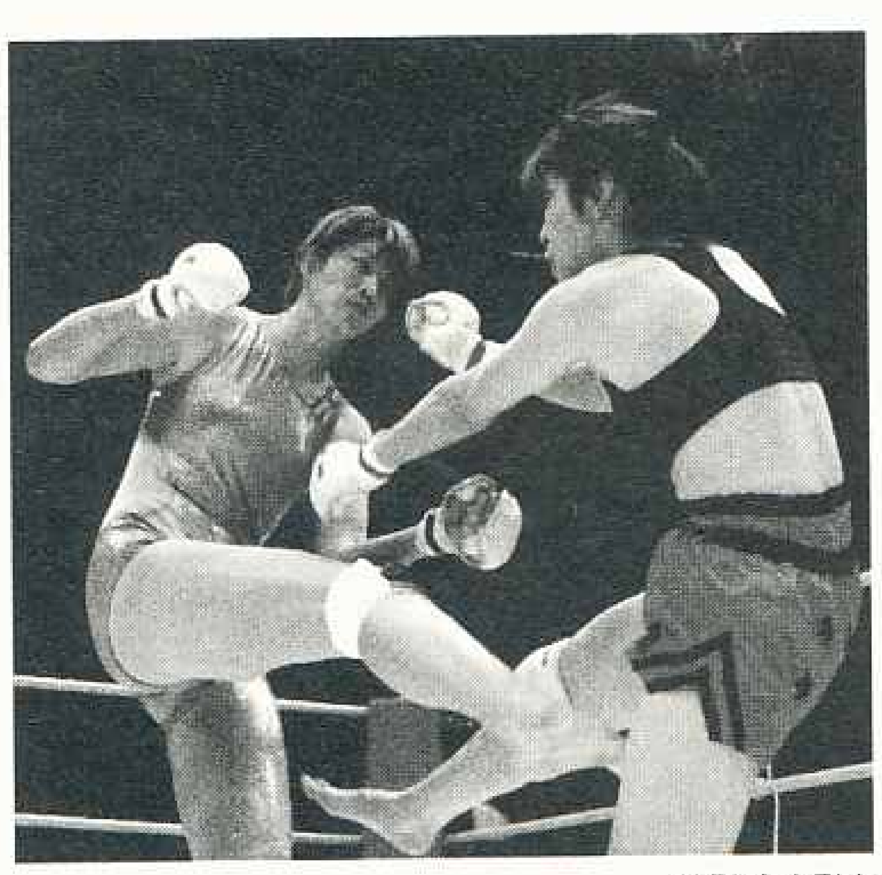
掟 それ、アル中の末期症状ですよ！ この原稿、本当に載せていいんですか？

H あ、全然オッケーです！

掟 さ、さすがだ！



ひろこ■10月24日生まれ。薮下めぐみ＆高橋洋子率いる巴組所属。新宿の某有名店で長らくSM嬢として活躍するも、総合格闘技に専念するため引退。実寸で181cmという、おそらく日本の女子プロレス＆格闘家の中で最も背が高いファイター。SM嬢になる前は大型免許をはじめ、ユンボやトレーラー、車両系建設機械の免許など取得し、解体作業を中心に肉体労働者として汗を流す。SM嬢時代の得意プレーは格闘、ビンタ、ペニバン、ストーリープレイだって！


撮影:丸山剛史

HIROKOの総合デビュー戦となったのが06年11・29スマックガール後楽園大会での無差別級トーナメント一回戦、vs村上リエ戦。キック出身の村上相手にHIROKOは前へ前へと積極的に攻めたて見事判定勝ちを収めた。次戦は3・11スマック新宿FACE大会。日本全国のM男ども全員集合ッ！

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）■掟ポルシェ＆申し訳ないとDJツアー予定！ 2・9(金)@札幌sound Lab MOLE (011-207-5101)、2・16(金)@浜松SECOND (053-455-3530)、2・17(土)@水戸BUBBLE (029-303-1331)。以上すべてDJのみで全国ツアー中！その他の出演情報＆詳細は掟ブログを参照！ [http://blog.excite.co.jp/porsche]

ファイター関係者がこだわりの選出!

"俺だけの"なんでもランキング

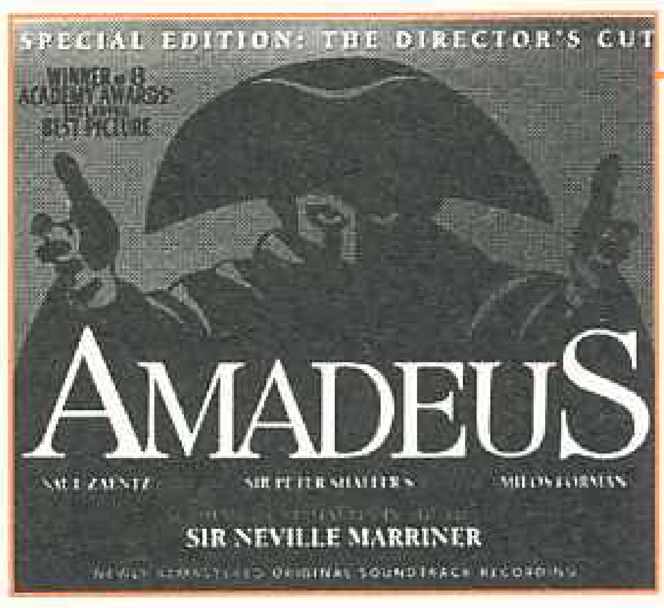
第1回

"60億分の1煽りVアーティスト"

佐藤大輔

『思い出の煽りV、BGMベスト5』

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング……このコーナーはジャンルにとらわれない"俺流のこだわり"をファイターや関係者にうかがって独自のベスト5選出! 第一回のゲストはおなじみ、『PRIDE』を煽る"達人"佐藤大輔さんが選ぶ、"思い出の煽りV、BGMベスト5"! あんな曲からこんな曲までランクイン!



1st

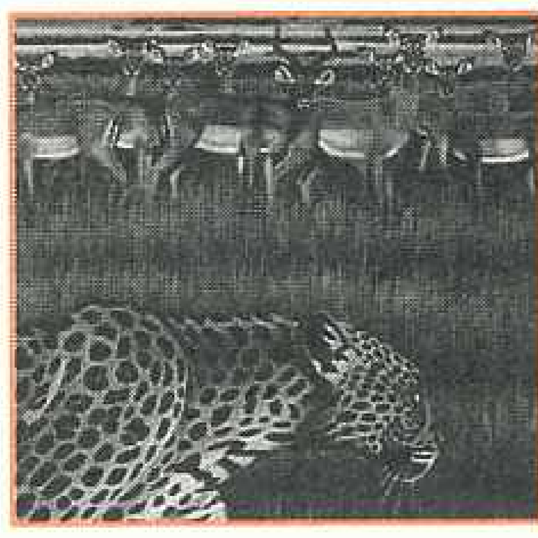
『レクイエム』
モーツァルト
(映画『アマデウス』サウンドトラックより)

『黒船(嘉永6年6月4日)』
サディスティック・ミカ・バンド
(『黒船』より)

05年『PRIDE男祭り2005』
小川直也vs吉田秀彦



これは、クラシックの王道モーツァルトと高中正義の奇跡的な融合! という個人的な夢が小川vs吉田戦によってかなった格好です(笑)。どちらの曲も以前から使いたかったけど、曲の印象がデカすぎてどうにもハマらなかった。だから小川vs吉田というスケールの大きな対戦が決まって、すぐに使おうと思いました。「レクイエム」に乗せてロゲンカをする小川と吉田は凄い光景でしたけど、何か凄いことが起こってる空気を出しつつ、ラストは「闘うのは、お互いの生きて来た道が違うからこそ」というメッセージを出しながらの巌流島の絵とミカ・バンドの曲が見事なまでにハマりましたね。



2nd

『Reach For The Stars』
Fantastic Plastic Machine
(『ZOO』より)

05年『PRIDE GP 2005 2nd Round』
桜庭和志vsヒカルド・アローナ

これは世界的にも認知されている日本人のDJ、Fantastic Plastic Machineこと田中知之さんの曲なんですけど。ハウスっぽかったりラウンジぽかったり、いわゆるオシャレ系音楽です(笑)。この曲は無機質で主張しすぎない。でも泣きのメロディがあって、じわじわくるから凄く使いやすい。最初は桜庭vsアローナ戦で使ったんです。じつは最初は違う曲を用意してたんですが、「桜庭さんが負けるんじゃないか?」と突然イヤな予感がしたから、「負けるかもしれない闘いに、どんな気持ちで挑むのか」というイメージに急きょ、路線を変更したんです。それで電車でこの曲を聞いて「コレだ」と思い、その足で編集室に行って、この曲と夕焼けの映像が凄くハマったのを覚えてますね。このお話の続きもいつか作りたいです。



3rd

『Time To Say Good Bye』
サラ・ブライトマン
(『Time To Say Good Bye』より)

03年『PRIDE GP 2003決勝戦』
オープニング曲

04年『PRIDE GP 2004決勝戦』
オープニング曲

この曲はボクが選曲したわけじゃなくて、『PRIDE』で演出を担当されている山形さんという方の提案だったんですよ。03年のGP決勝は、演出で噴水を使ったから、ラスベガスの噴水ショーで使われていたこの曲とイメージが結びついたみたいで。「格闘技の会場で流れない、厳かな曲だから」と提案いただいたんです。03年のGPは桜庭選手が負けて、吉田選手が出てきたり、04年のGP決勝では小川直也の「12年前の夏と8年前の夏のオリンピック」というはかないイメージあった。そういう無常感を出すのに適してて、荘厳なイメージもあるけど、最終的に個人的な部分に落とし込まれる曲です。ボク自身気に入ってる曲ですけど、格闘技界では違うイメージがつきすぎちゃったんで、もう使えませんけどね(笑)。



4th

『Festivo』
鈴木慶一
(『座頭市』オリジナルサウンドトラックより)

05年『PRIDE武士道-其の九-』
オープニング曲

これは05年『PRIDE武士道-其の九-』のオープニングですね。この大会のポスターで渋谷のスクランブル交差点で武士道ファイターたちがたたずんでる世界観を見て、「現代社会の中でもがく、若者たちの武士道」というイメージが浮かんで、この曲を選びました。作曲は鈴木慶一さんで、これはいまでも好きな曲ですね。五味や川尻が主役の大会のオープニングではなるべく使いたいし、アメリカ大会でもハマるかなと。この曲は映画『座頭市』(北野武監督)のクライマックスシーンで使われたものですけど、05年の『男祭り』ではそのときのタップチームが参加してくれたんですよ。あれはひそかに感慨深いコラボでした(笑)。この曲で『PRIDE武士道』のイメージ作りにかなり貢献したと自負してますね。



5th

『Just Little Bit Of Your Soul』
東京スカパラダイスオーケストラ
(『東京スカパラダイスオーケストラ』より)

06年『PRIDE男祭り2006』
五味隆典vs石田光洋

これは『kamipro Hand』で語らせてもらったように、石原裕次郎vs加山雄三の対決みたいな空気を出したかったんです。片や危険で、片やさわやかな"昭和のスター"同士の闘い。色っぽくて艶っぽいキャバレーのケンカみたいなイメージですよね(笑)。それでキャバレーのケンカならスカパラしかないと。彼らの音にはビジュアルを想起させる力があるから。スカパラはリズムの速い曲が多いけど、あえてミディアムな感じで、どこか『仁義なき闘い』ふうでもある。今回の"ワル五味"の顔を見て、より昭和っぽい曲をセレクトしました。五味選手はマッハ戦でU2の『ELEVATION』、川尻戦はT-REXを使ったんですが、凄く音楽が頭に浮かびやすい人。マンガで言うと大友克洋の『AKIRA』の登場人物みたいなムードがある人です。

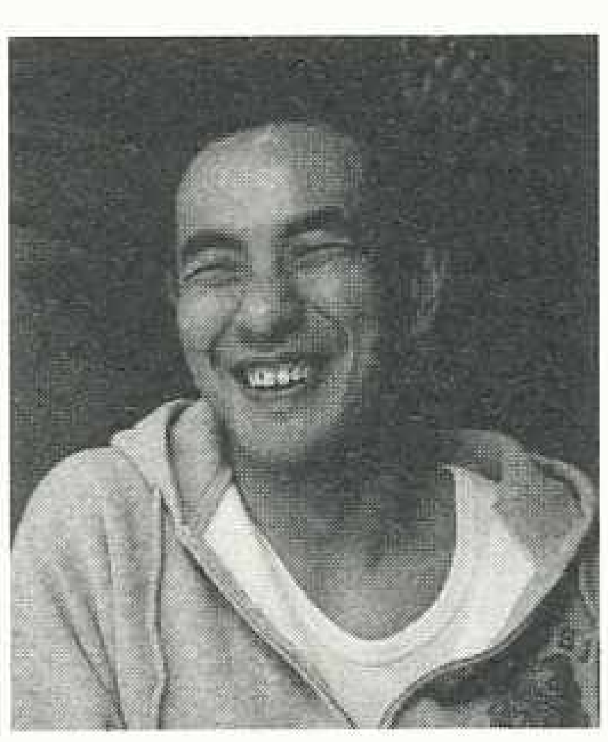
COLUMN

僕が煽りVに使う曲は、けっこう大学時代に聴いてた曲や、フジテレビ時代にライブラリーから借りたCDや、音効さんからもらったCDなんかを使うことが多いですね。ここで挙げたCDもそうなんですが、僕の煽りVの作り方というのはまず曲ありき! で考えることが凄く多いんです。でも、ホントはこれって邪道なんですよ(笑)。

本来ならば最初にナレーション原稿を書き、インタビューを入れ、編集し終わった映像に曲をつけるんです。だけど、僕はこういう作業をかれこれ8年もやってますから。そういう手法に飽き飽きしているので、イメージ先行で始めちゃうんです(笑)。それでイメージを喚起させるといったら、やっぱり音楽ですよね。

ベタベタに格闘技っぽいハードロックやメタルとかは好きじゃないけど、なるべく偏らないように広いジャンルを聴きながら常に"使える"曲を探してたりしますね(笑)。

いまはそういうやり方もまた飽きてきて、さらに新しい煽りVの作り方を模索してる最中です(笑)。ま、次回のラスベガス大会の煽りVも期待してください!　(談)



さとう・だいすけ■97年フジテレビ入社。スポーツ局で『PRIDE』シリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』、『F1GP』などの番組を手がける。昨年10月にフジテレビを退社して、独立。『PRIDE』の煽りV担当。

灰色ならぬ〝クリーム色〟の決着!!
〝世紀のノーコンテスト〟
桜庭vs秋山戦を読み解け!

12.31
『Dynamite!!』

格闘オイルショック!!



総27ページの大特集!!

“オイルショック”とは、1973年の第四次中東戦争にともなう原油価格引き上げをきっかけとした経済パニックだ。トイレットペーパーなど、原油とは無関係な商品を買い求める現象も起こり、日本中は大混乱に陥った。そして06年大晦日『Dynamite!!』の桜庭和志vs秋山成勲戦で——秋山の身体にオイル、ワセリン等を塗った疑惑が大問題になってたことは読者の皆さんもご存じのとおり。衝撃の展開を迎えた“格闘技版オイルショック”のパニックぶりを総力特集!

写真提供/共同通信社



一番知りたいのは、桜庭和志の〝これから〟だ!!

〝オイルショック〟の向こう側——!!

文／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

「すっごい硬いよっ!!」（妙に膨らんだグローブを指さしながら）……じゃなくて!!

「すっごいすべるよっ!!」（秋山成勲の身体を指さしながら）

対戦相手の身体の異常を訴えた桜庭和志の絶叫をきっかけに、大きく波紋が広がっていった〝格闘オイルショック〟騒動。

試合後に『HERO'S』のレフェリー陣は、秋山成勲のボディチェックで異常なしを確認。念を押すかたちで桜庭サイドのセコンドもチェック。こうして疑惑は一応の決着を迎えたかと思われたが……後日、市原悦子もビックリ仰天の隠された真実が明かされてしまった。

裁定に納得がいかない桜庭和志があらためて抗議の文書を提出。それに応えるかたちでFEGサイドが再調査を実施すると、驚くことに秋山成勲の身体へのクリーム塗布の事実を突き止めたというのだ。これを受けて開催された記者会見（132ページからの再録を参照）に出席した秋山は「故意ではなかった」と主張するが、それでも断固として許される行為ではない。

そして、この衝撃新事実の発表を受けて、くすぶりつけていたさまざまな疑惑がウェブ上で燃え上がることになる。

たとえば、秋山のセコンドが「すべらせろ!!」「はい！　すべる、すべる～!!」というアドバイスをしていた件。要するに、〝身体をすべらせることを目的としたクリーム塗布ではなかったのか？〟という疑惑だ。まあ、わざわざテレビ中継の試合であからさまにそんなことを叫ぶ以上、何かの〝符丁〟じゃないのかと推測できるが、であるならば、はたしてどういう意味なのか？　たとえば、ヤマヨシ（山本宜久）がヒクソンをフロントネックで極めかけたときに前田日明が叫んだ「チ●ポ出せ！　チ●ポッ!!」のようにじつにコクのある意味が込められているのかもしれない（これは〝腰を前に突き出して絞めあげろ！〟という意味だったが）。とにかく調査は必要だろう。

秋山の右手グローブから金属らしき物体が見えるという指摘もある。しかし、前述の解明会見では、試合開始直前のバックステージで『HERO'S』競技運営陣が秋山のグローブをチェック、また、試合終了直後のバックステージでも、テーピングとバンテージがカットされ、異物がないか確認したと報告がされている。

しかし！　これはあくまで主催者側の発表である。はたして本当に疑惑は払拭されたのか？　物的証拠や新たな目撃証言の入手は相当に厳しいが、本誌はさらなる疑惑追及のため、松永光弘、ミスター・ポーゴなど、凶器のエキスパートに専門的な意見をうかがうことを検討中。ほか、実際にあらゆる異物をグローブに仕込んで殴打する実験を編集部員内で行なう予定だ。こうしてこの疑惑に真っ正面から向き合い徹底的に検証する次第である。お楽しみに！

疑惑はこれだけはない。ただ、あきらかに眉唾と思われる情報も伝聞されており、そのうち「どうやらCIAとモサドが絡んでるらしいんだよ!!　韮沢（潤一郎）さんも断固、支持するはず！」と言い出しかねないほど、ファンの思考回路は灰色に染まりかけている現状だ。

そのモヤモヤの根源は、おそらくテレビ主導による格闘イベントの不信感や、桜庭和志の切なさ、秋山成勲に対するなんとも言いようのない感情が絡み合ったうえでの大混乱でもあるのだろう。

秋山成勲に目をみやれば、彼の格闘技人生にとって、決して消すことのできない大きな汚点となった。それがピリオドになるのか、それとも〝線〟としてつなげていけるのか。それは秋山本人次第だ。人生の裏街道を歩くことを強いられる、その〝落とし前〟のつけっぷりは、非常に興味深くもある。

そして、桜庭和志。

大晦日速報号での試合レポートどおり、大晦日の秋山戦は、〝桜庭が桜庭ではない哀しさ〟〝ファンタジスタではない桜庭和志〟が浮き上がってしまった。詳しくは速報号をお買い求めいただきたいが、かつてならクリアしていた興行と競技の〝ひずみ〟を桜庭和志は乗り越えることはできなかった。

結果的に秋山は〝クロ〟と断定されてしまったが、「これからの桜庭和志」をどう捉えるのか？　という〝桜庭目線〟は微塵も揺るぎはしない。本誌からすれば、ズバリ言えば、秋山成勲なんて〝桜庭和志物語〟の単なる脇役にすぎねえんですよ、実際。大晦日の〝点〟だけで桜庭和志を語れるわけがない。クリームなんかに集約させるな!!　昨年のケスタティス・スミルノヴァス戦の半失神事件から……いや、『PRIDE』時代から引きずってしまっている桜庭和志の切なさ、哀しさは、いまでも〝線〟となってつながったままだ。

故障を繰り返した両ヒザを、テーピングでグルグル巻きにして、やや足を引きずって入場する、あの姿。

そして、首に抱えた爆弾。選手・関係者の誰もが口をそろえる打たれ強さを持つはずの桜庭和志が、パンチで簡単に崩れ落ちてしまう。それでも打ち合いに固執する！　そこまでしてなぜ闘うのか、桜庭和志は……。

この苦しみの線の終止符を、桜庭和志はいつ打てるのか。今夏、桜庭和志の格闘家人生において、最大級の物語性を持った相手との対戦がプラニングされているという噂もある。

繰り返すが、桜庭和志はかつてのような〝バーリ・トゥードのファンタジスタ〟ではない。ズバリ言えば、桜庭和志が『PRIDE』で〝ファンタジスタ〟の称号を得たのは、圧倒的現実に押し潰され、苦しみもがいている時期だった。ヴァンダレイやアローナに血と涙の敗戦を喫し続けた桜庭和志に、〝グレイシー・ハンター〟として縦横無尽に駆けめぐっていた頃の思いを寄せたうえでのネーミングだったのかもしれない。これまで桜庭和志は、総合格闘技の喜び、怒り、哀しみ、楽しみ、つまり〝喜怒哀楽〟を身をもって提示してきた。また、体重差の壁、四点ポジションのヒザ蹴りの是非にも焦点を当てた。新天地の『HERO'S』では、レフェリーストップの議論を巻き起こした。そして今回の大晦日では〝競技とは何か？〟という、ごくごくあたりまえの問題をクローズアップさせるかたちになった。いずれは……〝総合格闘家〟をやりきった男の去りゆく姿を提示してくれるんだろうか……。

今後も桜庭和志が闘い続けるかぎり、〝総合格闘技〟の苦しみは確実にこぼれ落ちてくるだろう。その姿は、我々にとっては悲劇に見えると同時に、苦しみの中から脱出するという、希望がほの見える挑戦でもある。問題は我々がそんな〝これからの桜庭和志〟をどう受けとめるのか？　なのだ。



秋山は本当にヌルヌルしていた!

"オイル疑惑"に判決!
秋山失格

12.31『Dynamite!!』桜庭和志vs秋山成勲戦
裁定発表記者会見
徹底再録!!

1月11日、ついに裁定が下った。12.31『Dynamite!!』桜庭vs秋山戦で勃発した"オイル疑惑"に関して、なんと秋山が"クリーム"を塗っていたという衝撃の事実が記者会見で発表されたのだ。会見には秋山自ら登場し、堂々と謝罪。その興味深い記者会見の様子を徹底再録した。

構成/松下ミワ　試合写真/乾晋也

「会見場に谷川FEG代表、磯野ルールディレクター、平審判長、梅木レフェリーが登場」

谷川　皆さん本日はお忙しい中、記者会見にお集まりいただきましてまことにありがとうございます。『Dynamite!!』の秋山成勲選手と桜庭和志選手の試合裁定につきまして、『Dynamite!!』実行委員会で検証した結果を皆さんに発表することになりました。まずルールディレクターの磯野より今回の裁定について説明させていただきます。

磯野　それでは検証結果について発表させていただきます。

[※以下は、マスコミに配られた文書をもとに磯野氏が発表した内容]

秋山成勲vs桜庭和志戦の裁定に関する結果報告

メインイベント
(HERO'S ルール10分 5分・延長5分)

1 経緯

12月31日(日)京セラドーム大阪で開催された「K-1 PREMIUM 2006 Dynamite!!」のメインイベントで行われた秋山成勲vs桜庭和志の一戦は、5分37秒TKOで秋山選手が勝利を収めた。しかし、試合直後(正確には試合中よりアピール)から桜庭選手より、「タックルに行った際、秋山選手の体が**異常にすべる。**体に何か塗っているのではないだろうか?」という**強烈なクレーム**が入り、試合後「HERO'S審判団」に対して書面で正式な抗議、再検討の要請があった。

また、**スポンサーサイド**及びファンの多くから、試合中に秋山選手が使用していた右手グローブにあるべきはずの

「EDWIN」のスポンサーロゴが消失している。従い、**本来主催者が用意したグローブとは違うものを使用して試合を行ったのではないか？** という問い合わせが多数あり、この件についても合わせて検証することになった。

2 審判団ミーティング

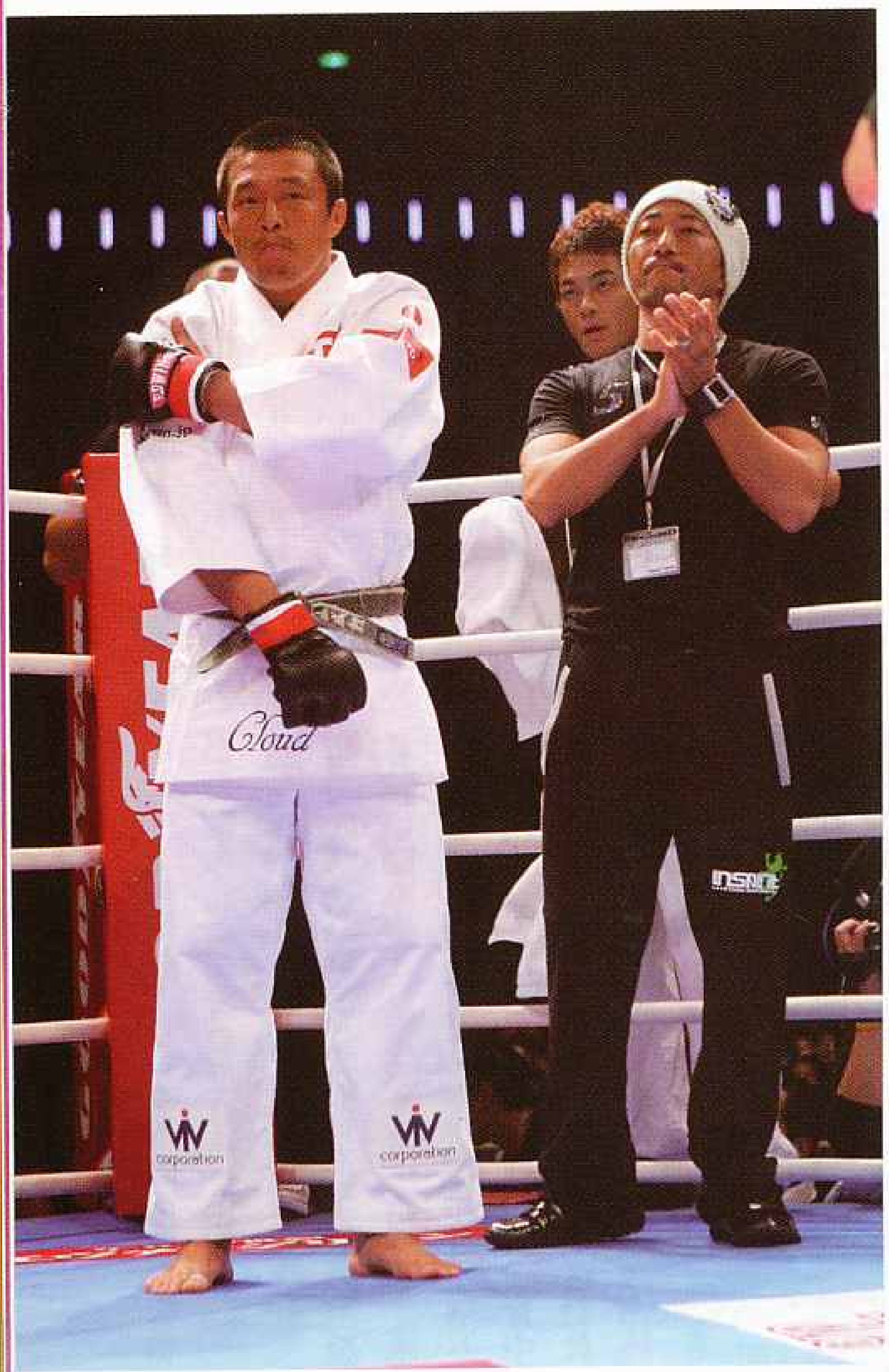
1月7日（日）、1月8日（月）に審判団が集まり、当日TBSやオフィシャルカメラが収録した映像 **（バックステージを含む）** を見ながら検証。また、1月10日（水）秋山選手とセコンドを集めて事情聴取し、審判団としての処分、対応を決定→主催者側である「Dynamite!! 実行委員会（FEG及びTBS）」に報告した。

3 検証結果 ～グローブ疑惑について～

（1）Dynamite!! 第4試合後の休憩後にバンテージ・チェックした秋山選手とセコンド（門馬、山田両氏）が競技役員室にグローブを取りに来たので、審判団のグローブ係・田沢競技役員より主催者が用意した「EDWIN」のロゴ入りのグローブを渡す。秋山選手は2Lか3Lか迷っていたが、実際にはめてみて3Lを選んだ。バンテージは主催者が支給した範囲のものであれば、ルール上いくら巻いてもOKだが、秋山選手はこの日多く巻いていたので、2Lでは入らなかった。→**特に問題なし。**

（2）控室の映像でグローブを支給された秋山選手が須藤選手の試合あたりで控室に戻ってきているところが確認されている。その後、秋山選手ははめていたグローブをはずして、秋山選手が用意したベッドの横に置いている。この時、ロゴは両手とも確認。バンテージにも、審判団がチェックしたサインがあることを確認。→**特に問題なし。**

（3）Dynamite!! 第8試合後の休憩後に秋山選手がウォーミングアップ・スペースに登場。この時の映像を見ると最初チェックしたサイン入りのバンテージをはめた秋山選手がウォーミングアップをし、その後支給されたグローブをつけてミット打ち→**寝技のスパーリングを行っている。**



写真のとおり、試合開始前から秋山の右のグローブには「EDWIN」のロゴが入っていない。会見では「汗があまりにも多い場合ははがれる可能性がある」と述べられ、曙さんのグローブのロゴもはがれかかっていたという事実が発表された。

映像ではミット打ち、スパーリング中に秋山選手の右手の**「EDWIN」のロゴがどんどんはがれていくところを確認。**スパーリング途中では、完全に右手のロゴがはずれてしまっている。→**秋山選手が故意にグローブを変えた形跡はなく、問題なし。**

（4）ウォーミングアップ終了後、そのまま汗をかいた秋山選手に対し、審判団のグローブ係、岸名審判員が入念にグローブチェックをし、問題がないということで、赤いテープをそれぞれの手首に巻き、検印を押していることを映像で確認。→この時、審判員は右手のロゴがないことを見逃しており、審判員のミスが発覚。本来、**ここで予備のグローブに交換していれば、今回のような混乱は起こらなかった。**

（5）試合。秋山選手が入場し、リング上で芹沢サブレフェリーがボディチェック。この時もグローブチェックをしているが、右手に「EDWIN」のロゴが入っていないことをサブレフェリーも見逃している。→**審判員（サブレフェリー）のミスが再び発覚。**

（6）試合後、オイル問題もありリングから控室に退場する秋山選手に磯野ルールディレクターら数名が密着して同行する。控室途中の通路でボディチェックをする際、秋山選手より「腕が痛いのでグローブをはずしていいか」と言う要請が入る。そこで審判団の立会いの元で秋山選手のセコンドがハサミでグローブのテーピングとバンテージをカット。グローブ、バンテージともに異物が入れられていた形跡がないことを確認。その後、グローブはそのまま主催者が回収したが、公式の3Lのものだったことを確認した。→**問題なし。**

（7）グローブ製作会社への確認

〈印刷過程〉

①スポンサーからのロゴ納品→白ざぶとんに赤の「EDWIN」のロゴ2色。

②製品に圧着させる専用のシートにロゴを印刷。

③シートを規定の大きさにカット。

④シートに熱を加えて、グローブに圧着させて完成。

〈はがれる可能性について〉

昨年Dynamite!! 2005で問題がなかったので、同様の方法で行った。万が一はがれるとしたら、グローブが本革なので、革の乾燥の問題、**または選手の汗があまりにも多い場合ははがれる可能性がある。**→実際に、当日回収した全グローブのロゴ状態を検証。他のファイターでは**曙選手**のグローブのスポンサーロゴが若干はがれかかっていたのが確認できた。よって、**今回のスポンサーロゴがはがれる可能性があることが証明されてしまった。**

〈審判団の見解〉

以上の結果、グローブについては秋山選手の故意の不正はどこにも見当たらず、それは映像からも十分検証できた。また、過去の例から言うと、選手によっては硬いグローブを嫌がり、支給されてからグローブを装着するまで踏んだり揉んだりして柔らかくする人がいて、今後グローブにスポンサーロゴをどのような方法で入れるか課題が残った。製作会社は早急に検討することを約束。また、今回このような事態が起こった原因を作った**グローブ係の審判員とサブレフェリーにペナルティ処分を与えることを決定。**さらに三重四重のチェック機能を作ることを今後、審判団で検討することになった。

4 検証結果 ～オイル疑惑について～

〈試合展開〉

（1）青コーナーより先に桜庭選手が入場。続いて赤コーナーより秋山選手が**柔道愛好者140人の少年少女**と共に入場。通常。選手はリングインする前のリング下で、サブレフェリーにボディチェックを受けるが、この時はいつもの秋山選手の**入場曲が終わってしまいそうだった**ので、リング下で芹沢サブレフェリーが道衣を脱ぐか着るかを確認。秋山選手から**「脱ぎます」**という返答があったため、とりあえずリングインさせ、リング上でボディチェックをすることになる。芹沢レフェリーは秋山選手の道衣の中に手を入れ、**体に直接手を触れて異物の存在、オイルの有無をチェックしたが、異常が認められなかった**ので、通常通り試合を開始することにした。

（2）試合開始。両者キック主体の立ち技の攻防の中、1分39秒あたりで桜庭選手が秋山選手の左足にファーストタックル。テイクダウンは奪えず、再び立ち技の攻防になるが、2分5秒あたりで桜庭選手の左ローキックが秋山選手の金的に当たり、試合が中断。このインターバル中に桜庭選手がリング下にいた和田サブレフェリーに**「体がすべるんですけど」**とアピール。しかし、和田レフェリーは強



い主張ではなかったこともあり、秋山選手の体を確認せず。梅木レフェリーはじめ他のジャッジ陣は、そのときの桜庭選手のアピールは認識していない。

(3) 試合再開後、再びパンチ、キックの応酬が展開される。3分37秒あたりで桜庭選手が左足にタックル、**足を抜くようにはずされた**ため、続けて右足にタックル。秋山選手は**足を引っこ抜くように**タックルをはずす。それに対し、桜庭選手がコーナーに下がりながら**「タイム!」**をアピール。秋山選手がパンチでラッシュしていったため、レフェリーは試合をストップしないで、そのままパンチの応酬となる。

(4) その後、いったん間合いは開いたが、再びパンチの応酬となり、桜庭選手が4分13秒あたりで三度目のタックル。タックルが取れず、桜庭選手はそのままガードポジションとなり、秋山選手がパウンドを何発も放つ展開へ。

(5) 秋山選手がパウンドを放っている間、桜庭選手は下から手を取りながら(腕ひしぎ等狙いに)**「おい、レフェリー!」「すべるよ」**と何度もアピール。秋山選手は構わずパウンドの連打。レフェリーも試合を中断することなく、**「アクションしないと試合を止めるぞ」**と返す。

(6) 試合はパウンドを連打されながらも桜庭選手の意識が飛んでいなかったため、レフェリーはリングの下の本部席にいる平直行審判長とコンタクトをとる。HERO'Sルールでは、ドクターやサブレフェリーが危険と判断した場合、審判長が代表して試合を止める権限があるため、最終的に「このままでは危険な状態にある」「この状況では展開は変わらない」等を判断し、リング下の協議で審判長裁定によるTKOとなる。

(7) TKO後も意識のある桜庭選手は**強い語気で「なんで? すべるよ!」**とレフェリーにアピール。梅木レフェリーはすぐにその場で秋山選手の胸、背中をチェック。またジャッジの松本審判員が桜庭選手の抗議の内容からいって、**秋山選手の足を確認すべきだという指摘**をしたため、梅木レフェリーはその時すでに道衣の下をはいた状態の秋山選手の裾をめくり、足のチェック。**梅木レフェリーは、オイルの有無等、異常を確認できなかった。**

(8) より正確な判断をするため、ルールディレクターの磯野審判員から審判員一同がリング上で閉会式が行われる**秋山選手の挙動に注目**。リング下に下りてきてからは、すぐに磯野審判員が**秋山選手の帯を抱えるように密着して同行**。会場を退出するまで秋山選手の挙動をつぶさに観察したが、体から何かを拭き取るなど不正の痕跡を隠滅、隠蔽するような行為は一切なかった。

(9) 控室に戻る途中の通路で、秋山選手と同行していた磯野審判員、HERO'S平審判長、K-1ルールディレクター大成審判員が桜庭選手の**セコンドを務めた豊永稔氏立ち会いのもと**、秋山選手にもう一度道衣を脱いでもらい、ボディチェックする。まず、**豊永氏に秋山選手の体に直接触れてチェックしてもらい**、次に平審判長、大成審判員、磯野審判員が全身、特に足、ふくらはぎ、ヒザ裏などを入念に触れてチェックする。感触、臭い等から総合的に判断したが、**「ヌルヌルしている」と感じた者もいた**が、それがワセリンやオイル等不正な物質を塗布しているとまで言い切れないという判断になった。

(10) 桜庭選手サイドに審判団より説明したが、控室でさらに**桜庭選手は何度もクレーム**。後日、正式に書面で抗議の申し出があった。

〈秋山選手の体に本当にオイルは塗られていなかったか?〉

(1) リング上での、試合直前の芹沢レフェリーのボディチェック、試合後リング上での梅木レフェリーのボディチェック、さらにバックステージでの平、磯野、大成審判員と桜庭サイドのセコンドの豊永氏のボディチェックで、**ヌルヌル感を感じた者もいた**が、それがワセリン、オイル等と判断できなかった。しかし、秋山選手がいる赤コーナーの控室にいた関係者の数名が**「秋山選手が体にクリームを塗っているのを見た」**という証言もあり、当日、バックステージで撮影していた**TBS、オフィシャルカメラの映像を全て見て確認**することになる。

(2) その映像で入場ゲートに向かう直前に、ウォーミングアップを終えてグローブチェックも済ませた秋山選手が道衣を脱いで、セコンド2名に**全身クリームを塗ってもらっているシーン**を確認。後日、審判団の事情聴取に対し、秋山選手、セコンドもこれを最初から認めたが、本人はオイル・ワセリンは認められないが、**クリームはOKだ**という認識不足が判明した。

(3) 秋山選手が全身に塗っていたのは、**米国製の「オーレイ・クエンチ・ボディローション・エキストラ・ドライスキン」**というクリームで、乾燥肌の人がつけるものと判明。ワセリンやタイオイルといった、よく格闘技用に用いられるオイルではないが、**成分にはワセリンやグリセリン**も含まれている油性のもの。また、桜庭選手が主張するように臭いも強い。塗った後は**スベスベ感**しか残らないが、水分(汗)を含ませるとかなり**ヌルヌル**になることが**実験**で判明した。

(4) また、HERO'Sルールでは、あらゆる全ての塗布物を体に塗ることは禁止されているため、何を塗ったかということではなく、異物を塗ったこと自体が反則となる。

(5) 映像を確認している段階で、試合直前のボディチェックの際、芹沢サブレフェリーによる秋山選手の下半身チェックは、**道衣の上からしか行っていないことが判明**。チェックミスが発覚した。

〈審判団の見解〉

(1) 梅木レフェリーのレフェリングについて。桜庭選手が**「タイム!」**をかけた時は、秋山選手がパンチの攻撃中だったことと、金的やサミング、バッティングといった秋山選手の反則や偶発性の事故により桜庭選手がダメージを負ったものと確認が取れなかったので止めることは出来ない。止めた場合は、秋山選手側のクレーム対象となる。また、その後両者の間合いが開くシーンがあったが、そこで桜庭選手が特にクレームをしなかったため試合を止めなかった。次に桜庭選手が下になり、クレームを言ってきたがこれも秋山選手の攻撃中であり、試合をストップできるタイミングではなかった。HERO'Sルールでは、あのような攻撃が可能な状態でのストップ→ドント・ムーブは行っていないので、ドント・ムーブで試合を中断しなかったのも、



決してレフェリング・ミスとは言えない。決まり手もリング下の審判長の判断を仰ぎながらTKOとしたのもルール上何も問題なし。このことは審判団全員一致の意見だった。

（2）桜庭選手の金的で試合がストップしている時、桜庭選手が和田サブレフェリーに「秋山選手の体がすべる」と主張したのならば、その時に秋山選手の体をチェックすべきだった。これは和田サブレフェリーの過失にあたる。

（3）秋山選手がクリームを塗ったことに対して、**「悪質な故意」**か？ **「過失」**か？ は議論が分かれるところだが、①秋山選手が**堂々とクリームを塗っている**映像を撮影スタッフに撮らせていること②本人を事情聴取したところ**「あれは塗ってはいけないものだとは思っていなかった」**と素直に認めているところ。③映像で聞き取れる秋山選手の会話などから「悪質な故意」とまでは判断できない。よって**行為自体については「過失」と認定する。**

（4）秋山選手のオイルを塗った反則行為については、ルール上10％の罰金とされるが、それはあくまでも審判団がそれに気付き、オイル等が審判団の手によってふき取られて試合がその後も成立した場合のみ適用される。しかし、今回は最後まで審判団が確認できないまま、試合が終わってしまったので、まず試合そのものが不成立「ノーコンテスト」と認定。また秋山選手の反則行為はHERO'Sルール8条その20の**『プロとして常識外の行為』**と認定し、「失格」とすることを審判団で決定。

（5）試合前後で、秋山選手のボディチェックは何度も審判団で行ったが、ワセリン、タイオイル等ではなかったため、明確にオイルを塗っているとは判断できなかった。このことは審判団の「過失」と自ら非を認め、桜庭選手に謝罪。審判団のミスに関してはプロモーターサイドに処分を一任することになった。


［磯野元ルールディレクター］


［平直行審判長］


［梅木良則レフェリー］

（6）なお過去、秋山選手が裸体で試合を行ったスミルノヴァス戦のバックステージの映像も全てビデオで徹底的に検証。この時は、秋山選手が**クリーム**、オイル等を塗る映像は見られなかった。

5 処分（ペナルティ）

〈HERO'S審判団より〉

（1）秋山vs桜庭戦を**ノーコンテスト**とする。

（2）反則行為を犯した秋山成勲を「失格」とし、**ファイトマネーを全没収**する。

〈プロモーターより〉

（3）グローブチェックを見過ごした**岸名審判員、芹沢審判員のギャランティ50％没収。**

（4）ボディチェックでオイルが判明できなかった**芹沢審判員、平審判長、磯野審判員、大成審判員、梅木審判員のギャランティ50％没収。またグローブ及びボディチェック両面でミスがあった芹沢審判員は、6ヶ月間の職務停止処分。**桜庭選手のアピールに対して対応しなかった**和田審判員もギャランティの50％を没収。**

（5）**HERO'S審判団全員に対して厳重注意。**

今後このようなことが起こらないよう改善策の検討を要求。

また、ルール改正を要求。——以上。

谷川 では私のほうから。大晦日の大会が終わりまして、私も翌日に新聞を見たんですが、秋山選手のグローブにスポンサーのロゴが入っていないことはすぐに発見しました。もし主催者が用意していないグローブを着けて闘っていたり、全身にオイルを塗って試合をしてたりすることがあるんだったら、ボク本当に**秋山選手を永久追放**っていうか、**タイトルも剥奪**しようというような気持ちで、TBSさん、オフィシャルカメラの人たちからも全部映像を集めまして審判団含め**「これは徹底的に解明してください」**ということでやりました。また過去の映像、とくに裸体で闘ったスミルノヴァス戦、そのバックステージの映像も確認しました。本来ならば試合後チェックして問題ないとそこで終わってしまう話ですが、反則行為を犯してたとしたらそれはあとから事実が判明したとしてもきちんと処罰すべきだと、そういう点を含めてチェックしました。それからもう一つ、秋山選手が悪意であったのか、それとも過失だったのかっていうことですね。映像を観るときも本当に**全部疑いの目で私自身も確認しました**し、ほかの審判団含めてあらゆる映像をとりよせて全員確認したところ、グローブに関してはまったく不正が見当たりませんでした。オイルに関していえば、これは悪意でやったのか、それとも**言葉は悪いですけど単なるバカだったのか。**ワセリンはダメだけど**クリームはいいのかなあ**と思って、ルールをちょっとよく読んでなかったのかなあってところも注意して見ました。ですが、本当に**堂々と「いい匂いしますねえ」って言いながら塗ってる。**秋山選手はメインイベントだったので、**控室のド真ん中でみんなに塗ってもらいながら出て行く、と。**で、**私もそのクリームを自分で買ってきて塗ってみたんですけど**、塗ったときはですね、どっちかというとサラサラしてるんですね。**けっこういい匂いがしまして。**で、実際に水に濡らしてみたら**これは絶対にすべる**な、と。成分を見たらワセリンもグリセリンも入っているという結論に至りました。で、入ってるか、入ってないかを抜きにして、ルール上は塗っちゃいけないということになってますから、これ自体本当に**秋山選手のダメな行為**だと思います。実際問題、昨日秋山選手が審判団に事情聴取に行った際、秋山選手がなんのあれもなく**「それは塗ってました」**と素直に認め、私が見ても悪意があったと認定するものが正直言って出てきてません。しかし試合自体がもう最後までいってしまってますし、秋山選手に関しましてはルール上で一番厳しい処罰である**「プロとしてあるまじき行為」**という部分に当たるんじゃないかということで、もう全額没収しよう、と。**失格というのはある意味反則負けよりも重い行為**だと私は思いますんで。その前提のもとで今回の審判団の処罰に私も納得させていただきました。それと桜庭選手に関しましては昨日夜中にそのすべてのことを報告にいきましたが、**正直言って納得はしておりません。**自分はやっぱり正々堂々と闘いたかったし、相手がそういう反則行為をしながらリングに上がって自分は**ボコボコに殴られてるわけだから**、どんな処罰が下ろうとも納得はしないという話を受けました。最後に余談ですが、これで**秋山vs桜庭再戦をやろうという気持ちはまったくありません。**自然なかたちではまた闘うことはあるんですけど、これをノーコンテストにして再戦させようという気はまったくないので、併わせてご報告いたします。……あの今日はですね、昨日話をしたときに秋山選手がどうしても皆さんの前で謝罪したいということだったので、本日来ていただいてますんで、秋山選手に登場、はい。

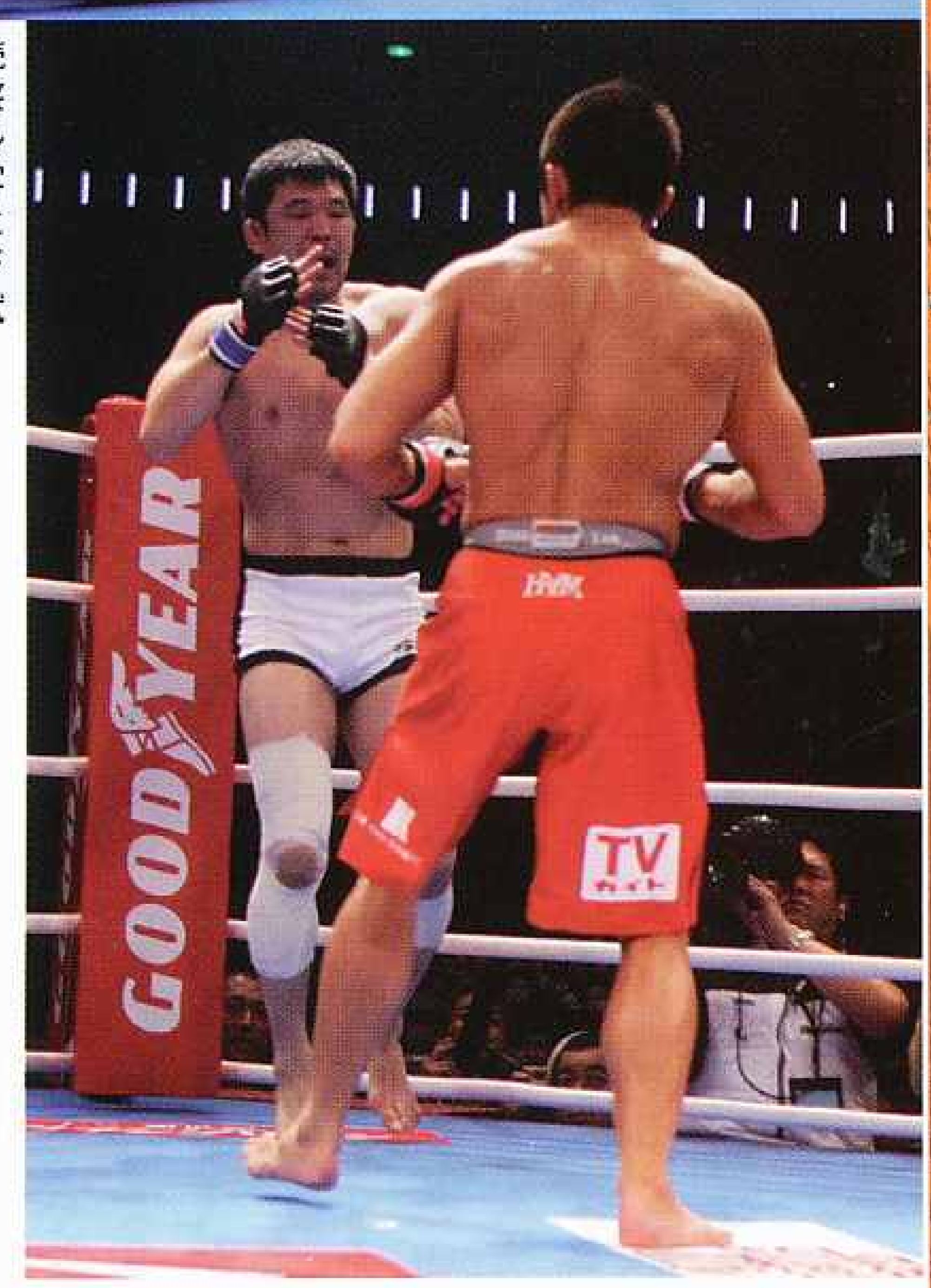
［秋山が会見場に登場］

秋山 えー、まず初めにあの大舞台で桜庭さんとの試合をさせていただいた関係各位の皆さん方、そしてあのときに集まってくれた**140人の柔道の子どもたち**、それから全国のファンのみんなに対し、本当にお詫びを申し上げなければなりません。自分のとった行動が本当に皆さんのことを裏切ってしまい、深く反省



“世紀のノーコンテスト”桜庭和志vs.秋山成勲 格闘オイルショック!!

試合開始3分37秒あたりで続けざまにタックルにいった桜庭。このときすでにヌルヌル感を感じていたのか、右の写真のとおり桜庭はコーナーに下がりながら「タイム」のジェスチャーでレフェリーに試合中断をアピールしている。



しております。**勝負に関してはルール違反ではない**と自分では思っていましたが、本当にそこの認識のなさがこのような問題を起こしてしまい、深く反省し痛感しております。試合のあと、いろんな不信感があり、問題が起きたんですけど、自分は**本当に悪意を持ってしておりません。**ですが、疑いをもたれること自体が大きな問題になってしまい、本当に弁明の余地もありません。処分に関しても桜庭さんが納得されてない部分もたくさんあると思います。ですが、自分はどんな処分でも受けるつもりでいてます。それからその処分を受けて、**また桜庭さんと機会があれば笑ってリングの上で闘えれば**と思うのと、**しっかりと桜庭さんの目を見て謝罪をしたいと思います。**そして、自分がこういうことになってしまった以上、もう一度、格闘技の名誉とボクを応援してくれる**柔道の子どもたち**、ファンのみんなに応援してもらえるようにこれからしっかりケガを治して精進していきたいと思います。本当に申し訳ありませんでした。そして最後に桜庭さん、本当に申し訳ございませんでした。

［質疑応答］

——（秋山に対して）控室で**スキンクリーム**を塗っているときに周囲にやめたほうがいいんじゃないかとか言う人はいなかったのか。

秋山　自分についてる山田武士トレーナーがいてるんですけど、あの日、セミファイナルが魔裟斗くんと鈴木（悟）選手の試合だったんですね。で、鈴木選手は青コーナーで控室にいなかったんですよ。正直こういうことを言うのもなんなんですけど、**自分のセコンドはプロとしての人間っていうのがほとんどいてない**んですね。ボクの幼なじみであったり友だちであったりとか、それの後輩であったりとか、本当に寄せ集めの草野球チームみたいな感じでここまで頑張ってきたんですけど。それの認識のなさも問題になった大きな一つの原因なんですが、塗ってたときにそういう言葉をかける人間は正直いてませんでした。

——**クリーム**はなんのために塗ろうと思ったのか。

秋山　もともと毎日使ってるもので、もともと凄く自分が手足が**多汗症**でですね、**汗が出るぶん普段は外が凄く乾燥してしまう**んですね、冬に関しては。だから、その日常生活の中で使ってる乳液を使ってしまったということです。

——**クリーム**は全身に使わなければいけないのか。

秋山　そうですね。まあ全身が、顔とかももちろん塗りますけど、シャワーの上がりでは身体に塗ったりお尻に塗ったり**全身に塗ることが自分の中で毎日の生活の一部**だったので。

——それを塗らなければ乾燥でひび割れたりということになってしまうのか。

秋山　そうですね。はい。

——（磯野氏に対して）グローブの件で、同じ条件で選手が闘うという観点でいうと、一方がバンテージを厚く巻き、一方がほとんど巻いてない状態で闘うのは問題ではないのか。

磯野　総合格闘技は戦略の幅が非常にある競技ですから、打撃を使いたい選手がバンテージを支給された範囲内で厚めに巻く。もしくはグラップラーが手を抱えられることを嫌ってバンテージを薄く巻くというのは、これは選手の戦略に基づいた自由だと思ってます。公平な選択肢を与えられた中で選手が判断することですから。

——道衣の問題だが、今回、秋山選手が直前に道衣を脱いだことで、レフェリー陣のチェックが後手に回った点は否めないと思うが、改善策はあるか。

磯野　基本的に用具やコスチュームの確認は機会があるごとに行なっておりますが、秋山選手ご自身が試合直前の**インスピレーションで決める**と、そういう方向でいままで試合された方ですから、いままではできるだけ選手の要望に応えられるようにやってきた部分はありました。ご指摘のとおり、このような結果を招いたことを真摯に受け止め、今後は競技コスチュームの管理、場合によってはコスチュームそのものに制限を設けさせていただく可能性もありますし、なんらかの改善はする予定です。

——（秋山に対して）裸体で闘ったスミルノヴァス戦では**クリームを使わなかったのは**なぜか。

秋山　時期的なものもあるんですけど、ご存知のとおりあれは10月、自分の中でまだ**暖かい季節**だったというのと、今回は大晦日ということで凄く乾燥する時期ということと、そこまで**クリームを絶対に塗ってどうこう**という自分の性格もありますし、なぜ塗らなかったのかという部分では、**季節のため**っていうことです。

——（磯野氏に対して）グローブ問題の審判団の見解で、「さらに三重四重のチェック機能を作る」とあるが、具体的に考えている策は？

磯野　一つの方法で**誰もが満足いく方法っていうのは作れるのであればもちろんそのかたちにしますが**、現状まだ確立できておりません。その人数を増やす、もしくはインスペクターといわれる中立的立場の人間を各控室に配置すると。それから、道衣についてですが、イレギュラーのコスチュームを使う場合は、試合の開始直前にゲートのところまで競技役員がコスチュームをお預かりして、ゲートのところでチェックをした上でグローブ、それからコスチュームを渡して入場してもらうのはどうだろうか、と。そういうことなど、具体的な案をいくつか出してみてシミュレーションした上で、作っていくことになると思います。

谷川　今回、秋山選手と桜庭選手の裁定についていろいろ検証したんですが、改善策というのはまだそこまで話し合われてません。今年『HERO'S』3月にスタートしますが、それまでには必ず改善策もルール改正も含めてやりますんで、お待ちいただければなあ、と。まあボクなんかもバックステージの映像なんていうのは今回初めてつぶさに観たんですが、たとえば秋山選手も桜庭選手も入場する前のゲートで一試合分くらい待ってるんですよね。そのときに審判員が道衣を

その処分を受けて、**また桜庭さんと機会**……ないのか。

……ルノヴァス戦では**クリームを使わなかっ**……んですよね。そのときに審判員が道衣を……

脱がしてここでチェックすればいいなぁっていう、**私自身も素人なりに感想があります**んで、そういうのはこれからちょっと話し合っていきます。

—（秋山に対して）桜庭選手がすべるという抗議を繰り返してるときに、秋山選手自身の中で「もしかしたら自分が使った**クリームが原因**なんじゃないか」という疑念はあったか。

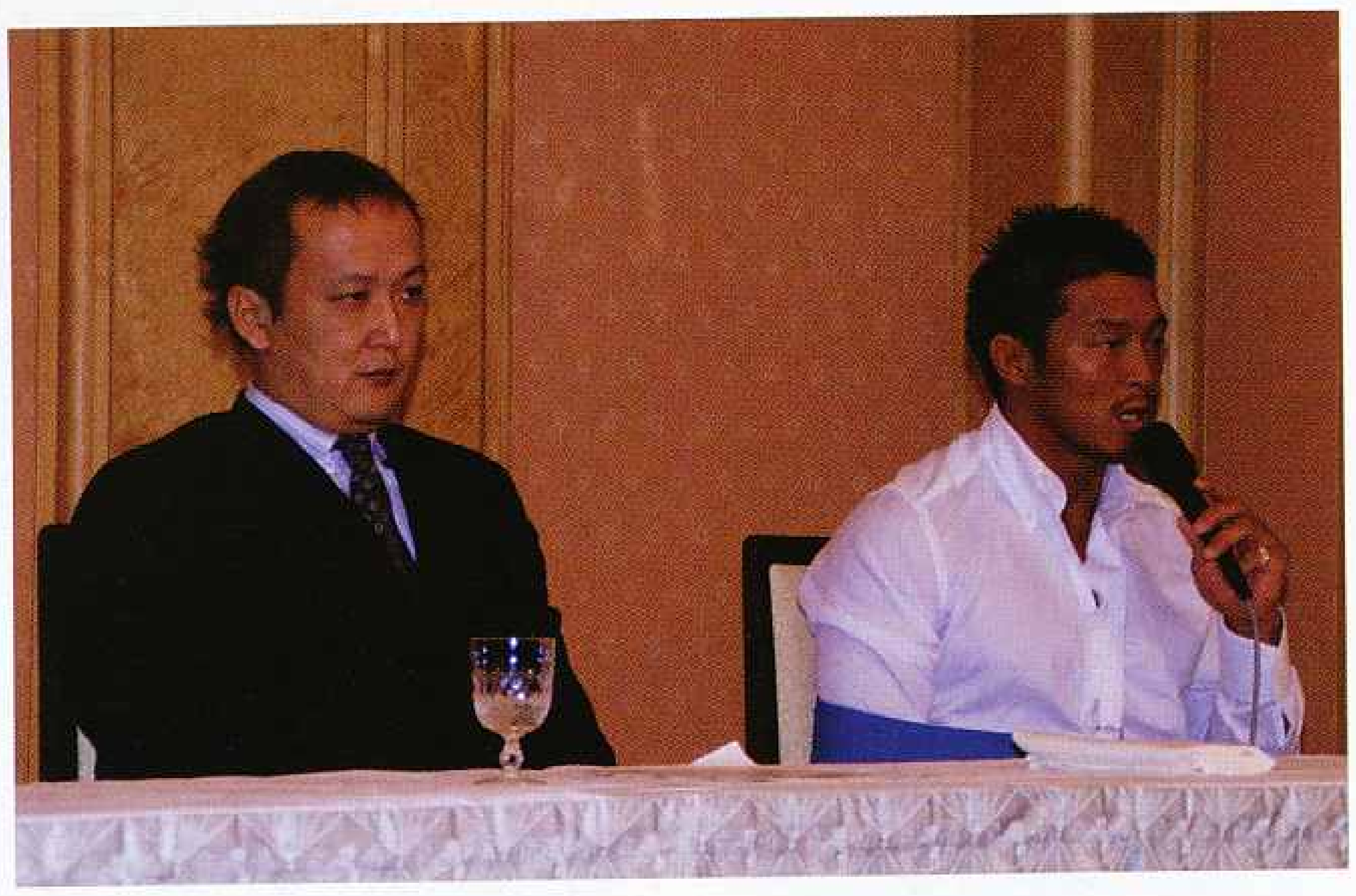
秋山　正直、試合中には自分もその試合の中にいるんで興奮もしてますし、声も耳に入ってこないというのは事実なんで、**正直何を言ってるかわからないという感じ**だったんですね。それで、時間を経ていろいろ抗議とか問題が起きたときに自分も隠すつもりもないですし、本当に悪意がなかったので、**よく考えたらそうだったなあ**っていうのはあとあと気づきました。

—（平氏と梅木氏に対して）自分の立場で反省点を聞きたいのだが。

平　今回、やはりボクらが触った時点でまったくわからなかったんですね。汗をかく前と引いたあとでしたんで。で、**リング上で起こったことは現実問題として全部は僕らには伝わってこない**ですし、試合の性格上、選手を守るタイミングでストップをかける、それを第一に考えてましたんで、そこは桜庭選手に本当に申し訳ないことをしたなあという思いです。

梅木　自分自身、過失があった、また経験不足だったということを認めざるを得ないのはやはり試合後、桜庭選手の抗議を受けたときに秋山選手の上半身および下半身を素手で触ったにも関わらず、それを**塗りものだということを断定できなかった**ところに過失があると思っております。いままではワセリンやタイオイル、そういったものはすべて発見してきたと思います。ただ、一般的に使われている**クリーム**、肌に塗るべきものをですね、選手が塗布してきた場合も、**それがしっかり塗りものだと判断できるように**、今後、発見していきたいと思っております。

—（梅木氏に対して）試合ストップの場面に関して、あれほど桜庭選手の体が死んでる状態にも関わらず止めなかったのはなぜか。



梅木　まず、あの映像を観た方々が「なぜ止めないんだ」という疑問を感じる気持ちも私自身わかりました。ただ、目の前で桜庭選手の状態、秋山選手のパンチを見ていた私の判断としまして、あの時点でストップするのは、試合としては早いと判断をしました。なぜかというと、桜庭選手の意識が一瞬でも飛ぶことがあれば、当然私は止めます。また桜庭選手が完全に意識を失なってしまった、また桜庭選手が何もせずに顔面を殴られ続けているという状態でしたら、それも止めます。ただ、今回に関しましては桜庭選手、意識はまったく飛んでおりませんでした。私が呼びかける言葉に対しても反応が遅れることもなく、**支離滅裂なことを言うこともなく**、しっかりと答えられてました。その状態で止めたとしたら、説明ができない。桜庭選手が「なぜ止めたんだ」と私に詰め寄ってきたときに、私は説明する術がありませんでした。**これまでの大会でいくらマスコミの皆さんやファンの皆さんに「早い」と言われようが「遅い」と言われようが**、ストップするタイミングというのは説明ができる状態でやっていました。それに『HERO'S』では審判長というシステムがありますので、事実殴られ続けていることは事実だったと思いますので、審判長にこの状態は止めなければいけないのかということを審判長に投げかけて、『HERO'S』の審判団のシステムを最大限に活かしてレフェリングをしたつもりです。

—（谷川氏に対して）処分の中でギャランティ没収というのがあるが、特別な目的に使うことはあるか。

谷川　それはまったくないです。選手やレフェリー、ジャッジに渡さないということだけです。

司会　それでは以上を持ちまして記者会見を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

[会見後のカコミ取材。秋山のみ退出]

—出場停止とかそういう裁定は？

谷川　それはいまのところ考えてない…、考えてないというか現行でできる最大限のことが反則負けですから。

—失格で「負け」じゃなくて、ノーコンテスト？

谷川　（磯野氏を見ながら）**失格って何？** 反則負けより罪重いんですよね。

磯野　要するに、リングに上がれる状態じゃなかった、上がるべき状態じゃなかったと。

谷川　金的を3回目蹴って反則負けになったという次元の問題じゃないっていう。それだと10パーセントずつ没収されていくんですけど、そういう次元の問題じゃないという処罰ですね。

—現在の桜庭さんの状況というのは？

谷川　えっと、身体は元気。

—とくに病院とかは？

谷川　病院とかは全部検査しましたけど、とくに異常はないです。で、顔を昨日はボク大晦日から初めて会ったんですけど、ちょっと目の下が青かったぐらいで、**非常にきれいな顔をしてました**。だから本当ボク自身もそうですし、秋山選手も含めてなんですけど本当に視聴率が出ようが何しようがこの問題が解決するまでは大晦日は終わっていないと思ったんで。やっとなんか**大晦日が一区切りついたなって**。まあ、余談になりますけどネットとかでも本当に胸が痛むような書き込みがたくさんあったし、秋山選手の国籍のことを言ってたりとか本当になんか**日本人として恥ずかしい**し、**やだなあ**って思ってましたんで。混乱させてしまったのは我々の責任だと思ってますけど、それは秋山選手にもお詫びしたいなと思ってます。

—直接の抗議とか問い合わせとかは？

谷川　**いやあ凄かったんじゃないですか、本当に。**ネットが一日に一万件とかなんか凄い書き込みとかあって、**梅木さんの（ブログ）だけでねぇ**（梅木氏を見ながら）。

梅木　……**（苦笑）**。

谷川　ただ、梅木さんのレフェリングはミスジャッジじゃないです。梅木さんは触ったときにわからなかったというのはミスしてますけど、レフェリーに関しては何らミスジャッジとは言えないと思いますね。

—今回、ネット世論の大きさというのは凄く感じたか。

谷川　**あまり見ないですけど**、やっぱりそういう声を凄く聞きましたんで、それは本当に胸が痛みましたね。うやむやにするんじゃないのかっていう書き込みが、逆に言うと他のスポンサーさんとかテレビ局さんなんかに迷惑をかけてしまうから、選手とか同じリングに上がってる人たちも。

司会　……よろしいですか？

谷川　一つよろしくお願いします。本当にすみませんでした。

[07年1月11日／都内・某ホテルにて収録]

桜庭コメント

[今回の裁定についてのコメント]

イベント関係者にご心配、ご迷惑をおかけしたこと、ファンの方へもあと味の悪い試合になってしまったことにお詫びいたします。申し訳ございません。また、いろいろとご意見をいただいたファンの方に感謝いたします。ありがとうございました。こちらは正々堂々と試合に臨んでいるのに、このような結果になったことに対しての、**今回の処分内容に関しては納得しておりません。**

[相手選手に対して]

ボクは勝敗だけにこだわってはいません。今回はイベント関係者、清原選手、一緒に入場した子どもたち、ファンの方々に対して**謝ればすむ問題ではないけれど謝ってほしい。**僕はリングに立つときは正々堂々とやりたい。ただそれだけです。

『Dynamite!!』桜庭vs秋山戦で
この男は何を思ったのか――。

“オイル問題”見解発表記者会見の3日前に直撃!



「ボクって悪人顔だなぁ」

2007年、さまよえる桜庭和志をどうする?

決断の時

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

世間を騒がせる一大トラブルとなった『Dynamite!!』桜庭vs秋山戦。タイミングがよかったのか悪かったのか、本インタビューは二人の対戦に対するFEGの見解が発表される前に収録されたのだが、谷川氏はいま『HERO'S』のリングに立つ桜庭和志をどう見ているのか。高視聴率獲得となった『Dynamite!!』の総括も兼ねて直撃!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/平工幸雄

※本インタビューは1月8日、K－1MAX記者会見のあとに行なわれたのだが、当記者会見のカコミ取材で谷川氏は記者から「今日の『格闘2人祭り』で桜庭和志vs秋山成勲戦についてコメントするとうかがったんですが！」と質問攻めに。しかし、谷川氏は「そんなことになってるんですか～。まいったなあ」と困惑の表情。原因は言うまでもなくあの人の仕業だが――。

谷川 んあ～！ 本当に困ったなあ、山本さんは。

――ハハハハ！ ターザンは日記で「なんとK－1のイベントプロデューサーである谷川貞治氏が、出演することをOKしてくれた」と息巻いてましたけど（笑）。オファーの電話があったのは本当なんですよね？

谷川 電話があったのはたしかなんです。昨日、「ちょっとだけでも顔出してくれる？」って。「考えときます」って言ったんだけどさあ。

――今日の『ターザンカフェ』は未読ですけど、きっと「俺がひっぱりだしてくる！」くらいのことは書いてると思いますね（笑）。

谷川 ……あいかわらずというかなんというか、手法が古いんだよなあ、もう。ただ騒いではしゃいでる山本さんはいかがなものかって思いますね。そんな手には乗らない！（キッパリ）。

――ハハハハハ！ まあ、ターザンは最終的に自分が目立ちたいだけですからね（笑）。ターザンの話はどうでもいいとして、今年もよろしくお願いいたします！

谷川 こちらこそよろしく～。

――今年も谷川さんには誌面で活躍していただきたいと思ってますので。

谷川 でもさあ、あの～、『kami pro』ってさ、アレじゃない。

――はい。アレですね（笑）。

谷川 『PRIDE』寄りの雑誌でしょ。でも、ボクは『kami-pro』に出るのが一番、好きなんだよなあ。

――それはありがとうございます（笑）。



「おっれ～はジャイア～ン♪」とは絶対に歌っていないだろうが、軽快なダンスとともに気持ちよくラップを披露するチェ・ホンマン。わざわざ大晦日に歌うというのは、違う意味でNHK紅白歌合戦を意識していたのではと勘ぐらせるものがある。

谷川 だって「今年のK－1のビジョンは？」「武蔵の後継者は？」とか当たり前のことは聞いてこないし、ボクのことをよくわかってくれてるというかねえ。

――ああ、ボクもK－1の展望より、谷川さん個人のほうに興味があったりしますけど。

谷川 個人的なことを言うとさ、今年はマラソン大会に出てみたいんだよなあ。

――は？ マラソンですか？（笑）。そのときはぜひとも徹底総力取材したいですけど。

谷川 絶対にやってよ！ ボクのマラソンは、けっこう感動的かもしれないですよ。曙の初勝利より、いいものを見せたい！

――そ、そうですか（笑）。そろそろマジメなことも聞かなきゃいけないんですけど。まずは『Dynamite!!』の高視聴率獲得、おめでとうございます！

谷川 ああ、ありがとうございます。……って一応、言っておくけど、本当はあまり喜んでいないんだよなあ。

――平均視聴率19・9パーセントでは不満ですか（笑）。

谷川 正直言って、サクちゃんの試合の問題もあったし喜んじゃいけない数字だよねえ。まあ、ある程度のハードルは越えたからホッとしてはいるんですけど、でももっと獲れるはずですよ。



曙vsジャイ・シルという軌跡的な好カード。結局、今回も曙さんは土をつけられてしまう結果になったのだが、二人の決着は一回きりではもったいない！ ぜひ"曙vsジャイ・シル試練の七番勝負"くらいの勢いで展開してもらいたい。

――大会総括のコメントでも悔やんでましたけど、ボビー・オロゴンvsチェ・ホンマンと曙vsジャイアント・シルバの試合が短すぎましたか？

谷川 あれは惜しいよなあ……（残念そうに）。でもさあ、やっぱ曙選手はいいよね！ ほんっとによかった～（しみじみと）。

――たしかに、あの試合は本当に完成度が高かったですよね（笑）。二人がロープに寄りかかってリングが揺れる瞬間の会場のどよめき具合とかは、昔のプロレスを観ているような感じで。

谷川 そうでしょぉ!?（身を乗り出して）。あの～、おもしろい話を一つするとですね、じつはホイラー・グレイシーのセコンドについてる方に、いまアメリカで流行ってるバイオリズムのサイトを教えてもらったんですよ。

――あ、それはボクも何かで聞いたことがありますよ。その日の自分の運勢みたいなものを示してくれるっていうサイトですよね。

谷川 そうそう。生年月日を入力すれば「メンタル」「フィジカル」「インテリジェンス」っていう3つの波でその日のバイオリズムが計れるということらしいんです。でね、そのマネージャーの人は「大晦日のホイラーは絶好調でバイオリズム的には3つとも上り調子だ」と言ってきたんですよ。だから対戦相手の所くんはどうなのかと思って調べてみたんですけど、これがねえ、また所くんも凄かったんですよ!!

――じゃあ、まさにどちらもズバリ的中ですね。二人の試合はベストバウトだという声が多いですし。

谷川 でしょ？ そんな感じでいろんな選手を調べてたんだけど……ついでに、曙選手とジャイ・シルの二人も調べてみたんですよぉ（目を輝かせて）。

――ついでに調べてどうした？

谷川 二人ともバイオリズム最低！（キッパリ）。

――毎日最低なんじゃないかって気がしないでもないですけど（笑）。

谷川 だから「これはもうグダグダの試合になるだろうなあ」って覚悟してたんですけど、でもバイオリズムが悪い者同士だったから、逆にいい試合になったみたいで。でも、チェ・ホンマンの試合はなあ……。

――後悔の念がありますか（笑）。

谷川 でもね、じつはチェ・ホンマンって、ホント凄いんだよ！ もの凄く総合の才能がある!!（興奮して）。

――ホンマンにはシルム（韓国相撲）の土台がありますし。

谷川 うん。そうそうテイクダウンはできないし、練習を見てるとテイクダウンされても意外と対処がうまいんだよね、あの巨体で。K－1出身

チェ・ホンマンって凄いんだよ もの凄く総合の才能がある!!



試合後、リング上で秋山の身体を触り“ヌルヌル感”がないかどうかをチェックするレフェリー。試合直後のこの瞬間にもっとヌルヌルセンサーを働かせることができていれば……。

あのタイミングでの「タイム!」は絶対にはやっちゃいけない

ファイターで最初から総合に対応できたのはチェ・ホンマンとレイ・セフォーだけですよ。あのミルコでさえもMMA初戦の藤田（和之）戦の前のトレーニングのときは、倒れただけで呼吸が乱れてたんだよね。でも、チェ・ホンマンは違うんですよ!

——じゃあ、ホンマンは今後も総合にはちょくちょく出る方向ですか?

谷川　もともと総合もやりたかったみたいで、けっこうノリノリでしたしね。入場のときは、『オイラはチェ・ホンマン』みたいな歌も歌ってましたし（笑）。

——『オイラはチェ・ホンマン』って（笑）。しかし、あのラッパーぶりは凄かったですね!

谷川　あれ、じつは自分でレコーディングしてきたんですよ。しかも演出も勝手に考えてきたんだよぉ。

——セルフプロデュースだったんですか!　それで口パクってどういうことなんですかね（笑）。

谷川　最初に演出の話を聞いたときはボクも「えっ?」って思ったんですけど。本人が機嫌よくやってたからもういいかな〜って。

——ホンマンの試合のことでいうと、谷川さんの「早かったなあ〜」っていう発言に対して、あの試合を裁いた和田（良覚）レフェリーが憤慨したって話もあるみたいですね。

谷川　ああ。でも、ボクが言ったのは「止めるのが早かった」ってことじゃないですよ。ただ、「試合が早かったのが残念だな」って言っただけで。ネット上かなんかで凄く話が複雑になってるみたいだけど、レフェリーが止めたことに関してボクはなんの不服もないですね。

——ネットでの騒ぎといえば、今回やはり一番話題になってるのが桜庭vs秋山の試合なんですが……。

谷川　（さえぎって）ああ、ちょっとその話だったら、ルールミーティングが終わってからのほうがしゃべりやすいなあ。まだ検証してないから。

——ルールミーティングというのは、あの試合に関して行なわれるということですか?

谷川　いや、毎回、興行が終わるたびにやってるんですけど。ジャッジ陣を全員呼んでの反省会ですよね。それは明日（1月9日）行なわれる予定です。だから、詳しい見解はそのルールミーティングのあとにあらためて何かしら発表するということになると思います。だから、今日の時点ではハッキリしたことは言えないよ。

——いや、そっちのほうが好都合です。白か黒かはっきりしたら、聞きたいことにしても言いたいことにしても限られてきますから。

谷川　そうぉ?

——はい。グジャグジャになっている状況下で、谷川さんが何を考えているのか知りたいな、と。で、大会終了後、谷川さんは「あんなに怒るサクちゃんは見たことないなあ」って言われてましたよね。

テレビがなければビジネスとしてのプロスポーツは存在しないですよ

谷川　本当にそのとおりです。普段、桜庭選手が対戦相手やルールに文句を言ったことは見たことないですからね。だから、そんな桜庭選手がそこまで主張するんだったら、何かあるな、と。それに対してはちゃんと調べる必要があるかなって。その意味でもルールミーティングでしっかり検証しようと思いますね。

——でも、試合後にもちゃんと秋山選手の身体はオイルやワセリンが塗られてないかチェックされたわけですよね？

谷川　はい。バックステージでも桜庭選手のセコンドの豊永（稔）くんも含めて確認して、「オイルを塗ってることは見当たらない」っていう結論になりましたからね。でもあらためて調査します。

——というと、桜庭選手はいまだに不服なんですよね？

谷川　最近も話しましたけど、やっぱり怒ってましたねえ（苦笑）。

——もし谷川さんがいち視聴者としてあの試合を観たとしたら、どういう感想を抱かれますか？

谷川　んーと、まず印象でいうと秋山選手が「凄く強いな！」って思うでしょうね。でもそれと同時に、やっぱり桜庭選手が途中から試合をしてないなって。「タイム！」をアピールしたタイミングから不完全燃焼っていうか、いやーな感じの試合になってましたよね。でもまあ、ボクはレフェリーに問題はないと思いますけどね。だって、あそこじゃ止められないですよ。これはね、サクちゃんにも言おうと思うんですけど、あのタイミングでの「タイム！」は絶対にやっちゃいけないですよ。

——「タイム！」の件は谷川さんのおっしゃるとおりだし、試合後のチェックも受けた、と。にもかかわらず、ファンの怒りの声がおさまらないのは、なぜだと思われますか？

谷川　それは「あの桜庭和志がそこまで言うんだったら何かあるんじゃないか？」ってことだと思いますね。過去に秋山選手が疑惑を抱かれるようなこともあったみたいだし。

——柔道時代の道着細工問題ですね。

谷川　あとは単純に桜庭選手のファンとして落ち込んでる部分とか、やるせないというか、サクちゃんへの強い思いがあるんじゃないかなって。

——オイルを塗ってる、塗ってないの問題よりも、あまりの桜庭選手のやるせなさ、哀しさ。

谷川　そこはね、ボクも感じたんですよ！　ただね、ネットの話でいうと、ボクはちょっと許せないなって思ってることがあって。……これ、言っていいかわからないんですけど、今回の件を秋山選手の国籍問題とかにつなげてるようなのもあるじゃないですか。ボクはそれだけは許せないですよ！　日本人として恥ずかしい‼（鼻息荒く）。

——まったく関係ない問題ではありますよね。

谷川　そこだけは本当に情けないというか、それは桜庭選手の本意でもないと思いますしね。そういえば梅木（良則）レフェリーのこともいろいろ書いてあるんでしょ？　試合前に韓国の人たちに料亭で接待されたとかなんとかって（笑）。

——だから「梅木レフェリーは秋山のチェックが甘かったんじゃないか？」という疑惑ですね。

谷川　とんでもないですね！　ボクもそんなことないのはわかってたんですけど、わざわざ本人に確認しましたもん！　本当はFEGのスタッフたちと韓国料理を食べに行っただけなんですよね。

——でも、FEGとTBSが組織ぐるみで何か企てたんじゃないかというふうに思ってるファンは多いんですよ。

谷川　企むったって、そんなことしても、なんの得にもならないですよお、もう〜（あきれて）。

——まあ、大きな組織同士が何かを企むというのは秘密の漏洩が激しくなるわけだから、冷静に考えるとかなり難しいというのはわかるんですけど。今回の件でこれだけファンの怒りがおさまらないは、最近の「テレビ主導の格闘技」というものへの反発もあるんじゃないかなと思うんです。

谷川　なるほど。そこは決して否定はしないですね。以前もお話ししたように、そもそもテレビがなければボクはビジネスとしてのプロスポーツって存在しないと思ってるんです。そのメディアの見せ方によってイベントの見せ方は変わってくると思うし、今回は大晦日だったから曙vsジャイ・シルがあったりとか、魔裟斗やKIDらが全員揃い踏みしたりとかするわけで。なんだかんだ言って、ボクは数字を獲らないといけないですからね。獲らないとこのジャンルは成立しないし、プロファイターは成り立たないんですよ。

——いまのFEGの構造でいうと、数字を獲ることによってスポンサーがついて、それが選手に還元できるわけですね。

谷川　でも、だからといって騒がれているような〝過度な演出〟ははっきり言ってないですよ。それは亀田興毅にもないと思います。たとえば、亀田選手を勝たせるためにTBSがジャッジに口添えしたりとか、そんなことは絶対にあるはずがない。

——たとえば、ジャッジが勝手に空気を読んだり、気を遣うケースってあると思いますか？

谷川　個人的にはあるかもしれませんけどね。興行論というものをジャッジが勘違いしちゃってたりとか。逆にファンの目を気にして厳しすぎるときもありますから。でも、ボクが言えるのは〝過度な演出〟っていうのは一番やりたくないですし、できないですね。

——でも、谷川さんの役割の一つには、イベントをデッサンすることがありますよね。

谷川　そうですね。「こっちに勝ってほしいなあ」というような思いは当然ありますよ。金子賢が勝てばいいなあとか、今年こそは曙に泣かせてもらいたいなあとか（笑）。

——要は、谷川さんはギリギリまでプロデューサーとして努力はするけれども、それ以上は選手に任せるしかないというところなんですよね？

谷川　でも、そこで曙に勝たせるとかできないところがボクらの仕事の一番おもしろいところだから。それにしても横綱もひっぱるよねえ（笑）。

——で、以前、桜庭vsスミルノヴァス戦後に、そういうレフェリー問題や興行論に関する話をマスコミからいろいろ聞かれてたと思うんですけど。

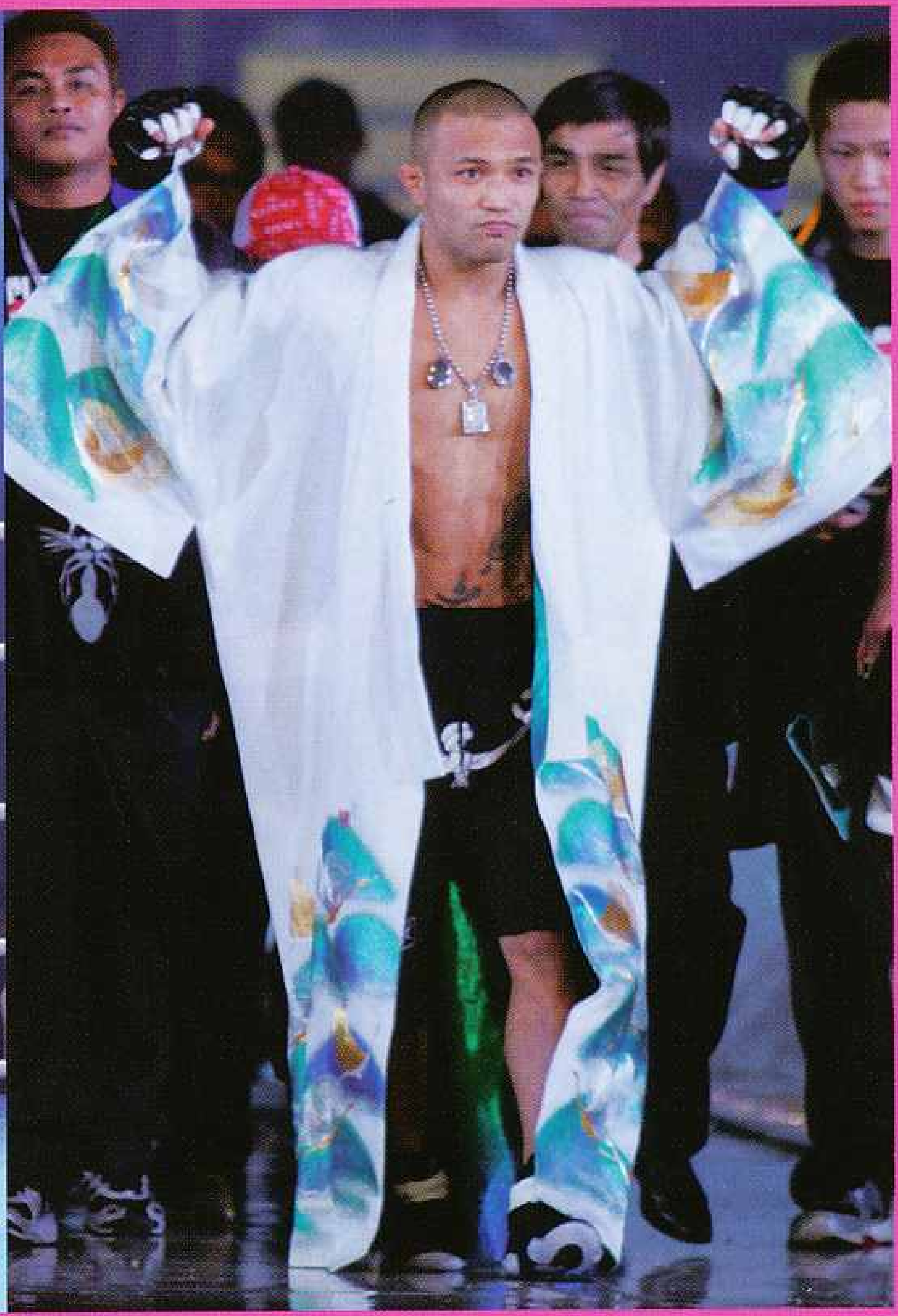
谷川　（さえぎって）ボクはね、あのときのマスコミもダメだと思うんだけどね。だって、スミルノヴァス戦のジャッジ問題しか聞かないじゃないですか。ボクがマスコミで桜庭選手の『HERO'S』デビュー戦の特集をやるとしたら、あの問題って最



この日の桜庭の必死の抗議は結果的に認められることとなったのだが、"ヌルヌル問題"を置いておいてもいまいちスカッとしないのは桜庭の本調子を観ることができなかったためか。

後の最後で1ページだけですよ。
――メインにする話題でもないと？
谷川　だって、あの試合は桜庭選手が『PRIDE』から『HERO'S』にきて何をしたのか？　っていうところが大きなポイントでしょ？　でも、あのときのマスコミは、『kami pro』さんを含めてほとんどそこに触れてないですから。
――たしかに谷川さんがおっしゃるとおり、桜庭選手が新天地でどういう試合をするのか？　っていうことは、みんな凄く期待していたと思うんです。でも、結局、『PRIDE』時代のボロボロのイメージを『HERO'S』でも引きずってしまったことのショックが爆発したと思うんですね、マスコミもファンも。
谷川　まあ、たしかにサクちゃんは『PRIDE』を引きずってますね…。ボクとしてはね、そのイメージを早く払拭させたいんだけどなあ。
――よりによって、谷川さんいわく「サクちゃんに楽してもらいたかった」がためのスミルノヴァス戦でそんな事態になってしまって。
谷川　そうなんだよねえ。緊張感のある試合はメルビン（・マヌーフ）とか秋山選手とかとやってほしかったなって思ったんですけど。
――谷川さんとしては、今年の桜庭選手に期待することは、そのイメージの払拭になるんですか？
谷川　うん。そこはちゃんとやらないといけないなって思ってます。まあ、あんな結果になったからこそ、今年の『HERO'S』にサクちゃんは大切な存在だと思ってますよ。よく考えてあげないといけない。逆に秋

魔裟斗、桜庭、KIDの3人はズバ抜けて芯がしっかりしている



「生き方そのものに芯がある！」と谷川氏が絶賛するKIDと魔裟斗。もう一人、芯はあるけれども現在難をかかえる男・桜庭は2007年、再生を図ることができるのか。桜庭自身と、谷川氏の"曙vsジャイ・シル"を思いつく灰色の脳細胞に期待するしかない！

山選手はあのまま進めばいいと思いますけどね。彼は強いし、人間の凄く伸び盛りの時期ってありますから。
――秋山選手に関しては、TBSやFEGが売り出したいイメージと、ファンが受け止めるイメージの乖離がけっこう激しいと思うんですけど。
谷川　まあ、そこは秋山選手が肌で感じながらどう変わっていくかですよね。それはその人の資質だと思いますよ。エリートということではなく、秋山選手は秋山選手で凄く苦労しているところもあると思うし、今回のことで、また大きく変わる可能性もありますから。
――逆にいまの桜庭和志の可能性ってなんだと思いますか？
谷川　ん～、まあサクちゃんっていうのは、芯が凄いしっかりしてますからね。FEGに関係している日本人ファイターでいうと、魔裟斗、桜庭、KID。この3人はズバ抜けて芯がしっかりした選手だと思ってるんですよ。
――だからこそ、谷川さんも大事に扱っていきたい、と。
谷川　大事……というよりも、その芯を変えたくないですね。ただ、サクちゃんに関しては難しいんですよね、本当に。以前は、そこにあるシチュエーションに放り込めば本人がガッとやってくれる感じだったと思うんですよね。
――桜庭和志vsホイス・グレイシーとかは、まさに本人が勝手にガッとやった試合ですよね。
谷川　いまの魔裟斗くんはガッとやってくれるんですよ。彼は大晦日にあの鈴木（悟）選手と注目を集めるような試合をやっちゃう。並のファイターだと消化試合になると思うんですけどね。
――その点、いまの桜庭選手には勝手にやってくれるっていうようなところは……。
谷川　違う方向でガッとやっちゃいそうで、そこが不安ですね。芯がしっかりしてるファイターなんだけど、勝手にやられると、あらぬ方向にいってしまうというか、ダメになっちゃう感じもするなって。
――そう考えると難しいですね。手を加えるわけにもいかないんだけど、放っておくのもダメだという。
谷川　だから、サクちゃんにいま誰をぶつけてどうしたらいいのかというのは簡単に答えが出てこないんですけどね……。
――ところで、そのマッチメイクの面でうかがうと、谷川さんはいわゆるコア層にはあまり照準は絞ってないんですか？
谷川　いやいや、そんなことはないですよ。まあ、年末はコア層には向けないですけど、普段はバンバンやりたいんですよね。だって、コア層が喜ぶとなんだかうれしいんだよなあ～。
――それって、皆の衆を見下すような喜びなんじゃないですか？（笑）。
谷川　違うよ～。なんだか、仲間に入れてもらったような気持ちになってさあ～（照れながら）。バラさん（榊原信行DSE代表）なんか、ボクより格闘技に対する愛はないと思うんだけど、なんだか凄くみんなの仲間になってるじゃない？　うらやましいよぉ。
――いったい何を言ってるんですか、

谷川さんは（笑）。

谷川　みんなの仲間になりたいなあ。本当にね、『PRIDE』さんが使ってないんだったら、たとえばボビーvsムリーロ・ニンジャとかやりたかったんですよ。

——それはおもしろそうですね！

谷川　でしょ？　しかもPRIDEルールの踏みつけありで！　みんながニヤリとするものがやりたいタイプなんですよ、ボクって！（ニヤリ）。

——でも、TBSは絶対に反対するでしょうけどね（笑）。

谷川　でも、ボクの本当の理想というのは、大晦日にKID vsレミギウス（・モリカビュチス）や魔裟斗vsブアカーオ（・ポー・プラムック）をやることなんですけどね。

——ただ、そのカードを大晦日に打ったところで跳ね返ってくるものが少ないという計算があるわけですよね。

谷川　あとはそのときの選手の事情がありますから。たとえばいま魔裟斗にブアカーオと闘うことはちょっと難しいだろうし、KIDくんも全日本大会（レスリング）に出られなくなったらどうするのって感じだし。

——コンデションの問題もある、と。桜庭選手もスミルノヴァス戦でダメージを受けて緊急入院されましたが、大晦日の試合に出るということに関しては桜庭さんもドクターもOKという判断が下された。谷川さんもそこはOKだったということですか？

谷川　桜庭選手のケガの部分での不安は全然なかったですね。でも、まあ、今回の騒動を踏まえていろいろ考えたりしなくちゃいけないとは思いますね。とりあえず、ルールミーティングが終わるまで待ってください！

〝3つの価格破壊〟の先頭にいつもミルコがいるんですよねえ～

——わかりました！　では、話は変わりますけど、先日ミルコ・クロコップのUFC参戦が発表されるという事件がありました。

谷川　んもう、あいかわらずトレンディなヤツですよねえ～、ミルコって!!（女子高生のように）。

——ト、トレンディときましたか（笑）。

谷川　もうバブリーだよねえ。

——トレンディでバブリー！（笑）。

谷川　うん（笑）。ボクはね、ファイターの価格破壊がいま第三次まできてると勝手に思ってるんですよ。第一次がK−1ファイターやプロレスラーに総合やらせた時期で、普段やってないルールでの試合だから普段よりも余計にファイトマネーを払ってたわけですよ。

——それが第一次。

谷川　第二次がK−1と『PRIDE』が分かれてしまって選手の引き抜きが行なわれてた時代。そして第三次がアメリカっていうバブリーなMMA界ができたということ。その3つの価格破壊の先頭を走っているのがいつもミルコなんですよね～。

——あ！　たしかにそうですね。そう考えると、歴史的なファイターですね、ミルコって。

谷川　……ボクが最初に目をつけたのになあ（ぶつぶつ）。

——ハハハハ！　誰に言ってるんですか、いったい（笑）。

谷川　（聞かずに）〝ミルコ・タイガー〟の名前でK−1デビューしたときから、「この選手はいいなあ～！」って思ってましたよ。雰囲気もあるし、凄くビジュアルチックな攻撃をする選手。でも、まさかまったく手の届かない選手になるなんて……。

——ミルコはアメリカでも成功すると思いますか？

谷川　ミルコは絶対に成功すると思います。アメリカの観客って立ち技が大好きだし、それにさあ、ランディ・クートゥアーとかチャック・リデルごときで盛り上がってる国ですよ？

——ハハハハ！　そうですよね。ティム・シルビアごときであれだけ盛り上がってる国ですから（笑）。

谷川　だから、ミルコによってアメリカは変わってくるでしょ。それは客観的に楽しみだなって。ま、でもボクがアメリカで『HERO'S』をやる場合は、あくまでも違う路線でやりますけどね。

——前号のインタビューでも語っていただきましたよね。「大笑いのアメリカ進出」について（笑）。

谷川　やるよ～！　ダナ（・ホワイト）とかが目を丸くするようなことをやりたいですよ。だから、ボクらだけはアメリカで興行やってもバイオレンス撲滅運動は起こらないと思いますね（自信満々に）。

——ハハハハ！　いやあ、FEGのアメリカ大会はますます興味深いすね。

谷川　ジャンくんも絶対に来てよぉ。曙vsジャイ・シルより凄いことになるかもしれないよぉ～。

——どんな凄さですか、いったい（笑）。

谷川　皆さんも楽しみにしておいてください。今年もよろしく～！

【07年1月8日／都内・会員制クラブにて収録】



「あんまり喜んでないから、バンザイはできないんだよなあ～」と『Dynamite!!』の視聴率を若干悔やみながら曲がったバンザイポーズをとるサダハルンバ。次回の『Dynamite!!』、もしくは「大笑いのアメリカ大会」では、ぜひシャキッとしたバンザイポーズを!

グラバカの大将が語る〝桜庭vs秋山問題〟!

「ボクもすべったことあります」



グラップラーの苦悩

早苗菊田のすべる話



1月11日に行なわれた秋山の謝罪会見により、一応収まったかに見えた今回の桜庭vs秋山問題。この会見より前に、過去の試合で"すべった"経験を持つグラバカの大将・菊田早苗が自身のブログにて自らの"すべる話"を赤裸々に告白。すると格闘技ファンから「よく言った」という好意的なコメントが多数寄せられ、ちょっとしたフィーバー状態に。そんな菊田に今回の騒動や、自身の"すべる話"まで、ざっくばらんに語ってもらいました!

聞き手/松澤チョロ　撮影/丸山剛史

――え〜、今回は「早苗菊田の〝すべる話〟」ということで、よろしくお願いします!

菊田 ハッハッハッハッ! なんか『kamipro』から取材の話が来たときイヤな予感がしましたけど(笑)。

――予感が当たったわけですね(笑)。やっぱり、今回の桜庭vs秋山問題は、過去に同じような経験を持つ格闘家の証言が必要だと思いまして。

菊田 なかなかいないでしょうからね。

――菊田さんの顔しか浮かんできませんでした(笑)。

菊田 それもどうかと思うんですけどね(苦笑)。

――早速ですが、菊田さんが「すべる」と指摘していたのは昨年、11月5日の『武士道』でのジョン・フランソワ・レノグ戦ですよね。

菊田 そうですね。まあ、秋山選手は認めましたけど、ボクの試合の場合は、いまとなっては真相は藪の中ですからね。

――まあ、菊田さんの試合の話はあとでうかがいますが、ブログで〝すべる問題〟について書いたら、もの凄い数のコメントがきてましたね。

菊田 そうですね。とくになんの意識もないまま普通に書いたつもりだったんですけど、「反響が凄い」って人に聞いて、見てビックリしました。

――取材前にのぞいたら300件以上のコメントがありましたからね。だいたいは「おまえ、男だ!」って感じの好意的な意見ばっかりですけど、あんなにコメントがついたのは初めてじゃないですか?

菊田 そうッスね。テレビでやったっていうのもあって、それだけ桜庭vs

「すべる、すべらない」っていうのはグラップラーにとって重大な問題なんです！

秋山戦の注目度も高かったってことなんでしょうね。それに、ほかの選手とかも、ほとんどこの件に関してしゃべってないとか聞いたんですけど、そういうのも自分はよく見てないからわかんないんですよね。

——凄い騒動になってるというのも、ブログの反響があるまでわからなかったと？

菊田　全然知らなかったですね。実際、『男祭り』で郷野（聡寛）くんのセコンドについたあと、ボビー（・オロゴン）とアンディ（・オロゴン）が気になって大阪まで行ったけど試合には間に合わなかったんですよ。

——メインの桜庭vs秋山戦どころか、大会が終わってたみたいですね（笑）。

菊田　わかって行った部分もあるんですけど、その試合はあとで家で一人で観てて、「ああ、こんな感じだったんだ」とか思って。

——ちなみに『Dynamite!!』の大会後は桜庭vs秋山戦を裁いた梅木レフェリーとかと打ち上げをしてたみたいですけど（笑）。

菊田　そうそう。まあ、でもそのときは、あとでこんな騒ぎになるとも思わなかったし、ホント、今回の件はいろんな意味で驚きましたね。

——梅木レフェリーのブログは、それこそ菊田さん以上の書き込みでしたからね。実際、ブログで"すべる問題"を書こうと思ったのは、オイル疑惑だとかそういう話が耳に入って、「そういえば俺もあったな」っていう感じだったんですかね。

菊田　そういえばというか、「すべる、すべらない」っていうのはグラップラーにとって、けっこう重大な問題なんで、前から気にしてたんですよ。オイルとかクリームだけじゃなくて、汗もずっと気になってたんで。

——汗でも、かなり影響があるって言いますからね。

菊田　ホントそうなんですよ。だから、汗をかきやすい夏場は試合やりたくないとか、そこまで考えてましたから。

——へえ～、そこまで考えてたんですか。で、今回の桜庭vs秋山問題は、結局は秋山選手がクリームを塗っていたと認めたかたちになりましたけど、それを聞かれてどう思いました？

菊田　故意じゃなかったにせよ、それをやられちゃグラップラーとしてはたまんないですよね。ホント、桜庭さんの気持ちを考えるとやりきれないだろうなって思いますね。

——認めてノーコンテストになったからといって気持ちが晴れるわけではないでしょうからね。

菊田　そうですよね。ただね、やっぱりボクは同業者なんで、ほかの人の試合を語るってできないんですよね。選手の立場で言っちゃいけないというのもあるし、人によってその試合にいろんな思いがあるわけですよ。同業者でもわからないぐらいの想像を絶するような。ましてや今回の試合では、オイル問題がなくても桜庭選手は勝てなかったとかいう声もあるみたいで。

——それこそ、某・格闘家がそのようなことをブログで書いてましたね。

菊田　そういうことは絶対言っちゃいけないというか。リングは殺し合いなんで。へんな話、交通事故でちょっとしたことで助かったり、運が悪いとんでもないことになったり、ちょっとしたことが大きなことになるんですよ。

——紙一重ですよね。

菊田　勝負も一緒なんですよね。自分の試合もそうなんですけど、「それがなかったとしても」というのはあんまり言わないほうがいいと思いますね。ファンとかだったらともかく、そういうことを同業者は語ってはいけないって思ってるんで。

——ただ、同業者だからこそわかる部分ってあると思うんですよ。ボクらマスコミでも格闘技を経験してない人間にとっては「すべる」ってことがどれほど試合に影響があるかわからないんで、そのへんをお聞きしたいんですけど。

菊田　まあ、そうですよね。汗とか油とかにかかわらず、すべるっていう時点で凄く影響はあるんですよ。とくにボクらみたいなグラップラーにとっては死活問題なんで。何にたとえたらいいんですかね～？　普段5ぐらいでつかめるものを8から9の力でつかまなきゃいけないというか。

——う～ん、ちょっとわかりづらいたとえですね（笑）。

菊田　ボクが昔、TBSの『SASUKE』に出たことがあって、あの番組で池に落ちないように丸太にしがみついてクルクル回るのがあるじゃないですか？

——あ～、ありますね。同じTBSでも『Dynamite!!』ではなく『SASUKE』のほうですね（笑）。

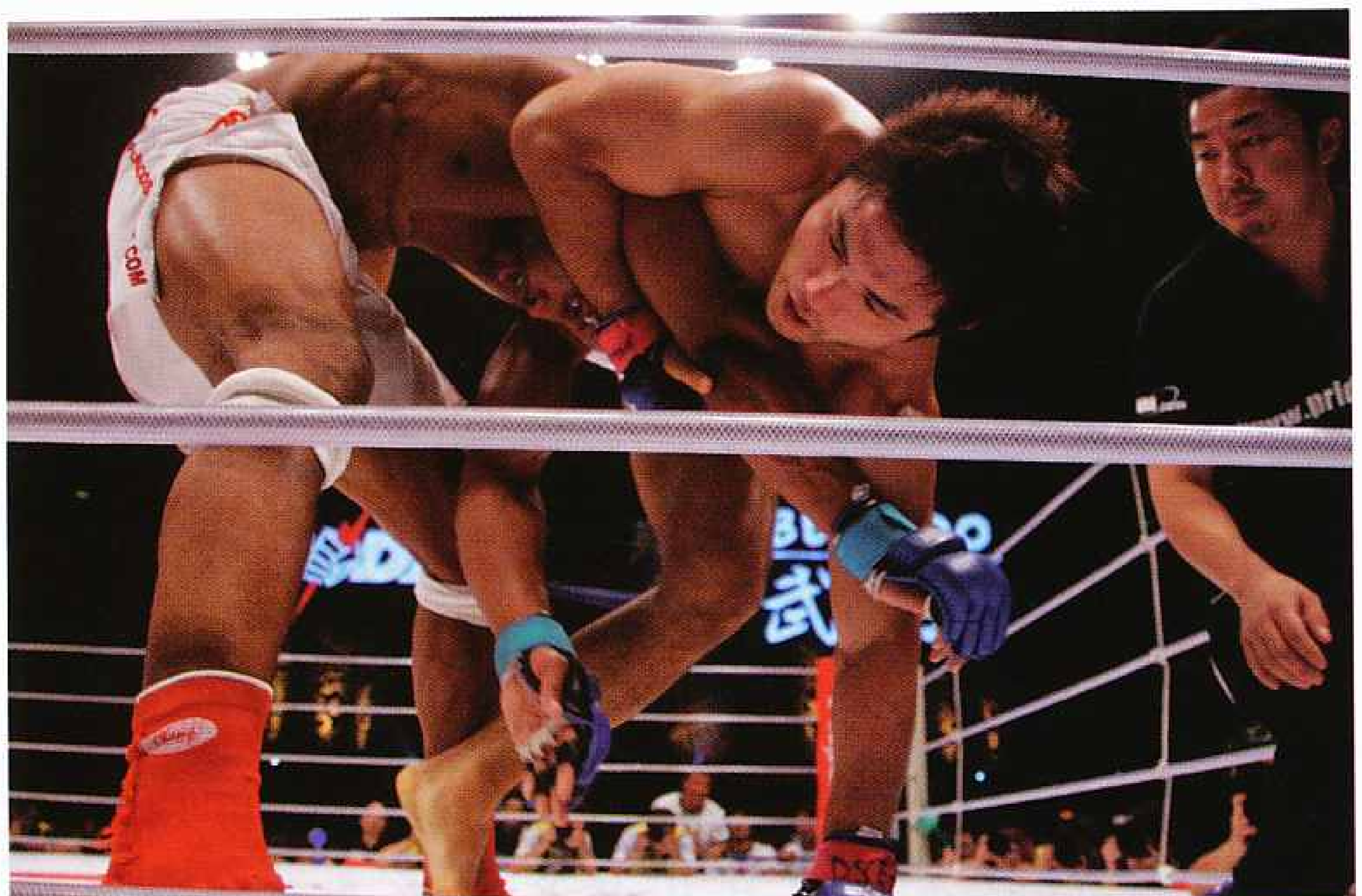
菊田　そうそう（笑）。あれで前の人が落っこったときの水がちゃんと拭き取れてなくて、すべって落ちちゃったことがあるんですよ。そういった小さなことが命取りにもなるんで。まあ、これは周りで見てる人にはよくわからないと思うんですけど、実生活でもこのような紙一重なことって、けっこうあると思いますよ。

——人には気づかれないようなことでも間一髪なことって何かとありますからね。

菊田　そういうのも含めてですけど、格闘技に限らず、すべるというのは厄介な問題ですよ。

——へんな話、お笑いでも死活問題ですしね（笑）。

菊田　まあ、そうッスよね（笑）。格闘技の話でいうと、桜庭さんみたいにタックルやる人ってやっぱり影響





菊田自身が「すべった」試合として語っているのが昨年11月の『武士道』横浜大会でのジョン・フランソワ・レノグ戦。減量して初めてウェルター級で闘った菊田は何度か極めかけるシーンも見られたが、2ラウンドになると減量苦によるスタミナ切れと"すべった"のが影響してか打撃を食らい棒立ちになる場面も。そんな菊田の"すべる話"がたっぷりと読めるブログアドレスは……
http://blog.livedoor.jp/kikuta_sanae/

が凄く大きいんですよ。たとえばボクがレノグ戦のときに両足タックルでテイクダウンしたんですけど、両足タックルは突っ込み系なんで勢いで取れるんですよ。だけど、桜庭さんが得意な片足タックルっていうのは引きつけて倒す技だから、すべったら、それだけでだいぶ不利に働いちゃうわけですよ。

——桜庭さんは片足タックルにいったあとに「すべる」とアピールをしてましたが、菊田さんの場合はセコンドにはインターバルのときに伝えたみたいですけど、大会当日は直接のアピールはしなかったんですよね。

菊田　いや、もちろんチェックはしてもらいました。でも大会当日はギリギリでもなんでも勝ったから猛烈アピールまではしませんでしたね。要するに、判定で勝って「何かつけてる」って言ってもね、「あ、そう?」って感じじゃないですか（笑）。

——それこそ負けたあとで言ったら言い訳にとられるでしょうしね。

菊田　そうなるし、ファンからしてみれば「べつにいいじゃん」みたいな。「どうせ試合もへんな試合だったし」とか（笑）。

——スカッと一本勝ちができてたらアピールしやすかったんでしょうけれども（笑）。

菊田　だから、しばらく悩んでたんですよ。大会が終わっちゃえば黒か白かというのはもうわかんないですからね。でも、それじゃいけない。クリーム塗りまくって乾燥してからレフェリーのチェックを受けて、そのあとに汗と一緒に出てきちゃったら、こっちはどうしようもないんで。

——そうなっちゃうと、どうしようもないですよね。

菊田　でもこれはレフェリーとかジャッジだけに問題があるってわけじゃないと思うんですよ。実際、手で身体を触ってわかるレベルではないと思うんで。チェックする時点では乾いちゃってたら「問題なし」ってなっちゃう話なんで。

——レフェリーとしても、現時点では触って確認するというぐらいしか方法はないでしょうし。

菊田　実際、オイルチェッカーみたいなので調べないとわかんないと思うんですよ。油か汗かっていうのは人の手で触ってもわからないと思うし。闘えばわかるんですけどね。

——オイルチェッカーってものがあるんですか?

菊田　いや、わかんないですけど（苦笑）。

——そうでしたか（笑）。菊田さん的には汗以外で「すべる」と感じたのはレノグとの試合が初めてだったんですよね?

菊田　そうッスね。けっこう、多汗症の人とはやってるんですよ。

——秋山選手も多汗症ってことみたいですけどね。

菊田　いままで闘った中では近藤（有己）選手がヌルヌル系かな。あと、小路（晃）くんもそうだって聞いたことありますね。

——でも、汗と油の違いってわかるらしいですね。

菊田　わかりますね。水はシュルッと滑りますけど、汗は地についてないような感じで。なんか遊びであるじゃないですか。なんかプーって浮いてるような感じなんですよね。

——またしても、わかりづらいたとえですね（笑）。

菊田　とにかく、全然違うんですよ。汗ですべるのは「チクショー、このヤロー!」ってわかるんですけど、レノグ戦みたいなのは、これまで経験なかったんで。

——ちなみに、秋山さんは保湿クリームを塗ってたってことですけど。

菊田　ガイジンとかは乾燥肌が多いんで、よくクリームとか塗ってますからね。あと、ガイジンって香水とかも凄いつけるし、誰でも匂いしてるじゃないですか。ああいうのは悪気がなくてやってるかもしれないんでしょうけど、こっちはたまったもんじゃないんで。

——一緒に練習してるボビーとかもクリームは塗ってるんですかね?

菊田　いや、ボビーもカサカサだけど塗ってはないです（笑）。まあ、もともとグラップリング自体が2、3ラウンドになってきたら汗でグニュグニュの世界なんですけど（苦笑）。

——それこそ、オリンピックだとかボクシングとか歴史の古い競技では、ルールの盲点をかいくぐろうとする選手は出てきますよね。

菊田　そうですよね。逆に、総合の世界はボクシングとかと比べると歴史が浅いので、そういう盲点が出てきたっていう部分もあるでしょうね。そのへんは無視しちゃいけないというか、今後は「すべる」ってことに関して、主催者や選手もレフェリーも含めてちゃんと考えていかないとダメでしょうね。

——桜庭さん的には納得はできないでしょうけど、今回の件は総合格闘技界で「すべる問題」について考えるいいきっかけにはなったんじゃないですかね。

菊田　そうなればいいんですけどね。あとは、やる側の人の心の問題になってきちゃいますけど。……まあ、油とかクリームに関してはワンタッチでピョンと測れるものがあればいいのになと思うんですけどね。

——ワンタッチでビョンと測れるオイルチェッカーですね（笑）。

菊田　それです（笑）。まあ、これからはどの団体に限らず、「すべる」っていうのは勘弁してもらいたいし、あとは統一された厳重なチェックが必要でしょうね。ホント、グラップラーにとっては大問題ですから。

——マイクアピールとかで、すべるのとは話が違いますもんね（笑）。

菊田　ハッハッハッハッ! それは誰に言ってんの?（笑）。

——いやいや、誰ってわけじゃないですけど（笑）。最後に、申し訳程度なんですけど、菊田早苗の2007年の抱負をお願いします!

菊田　去年はちょっと試合しなさすぎたんでね。

——あれ、去年は何試合やったんでしたっけ?

菊田　二年連続で一試合ずつしかやってないんで（苦笑）。

——二年で二試合! それは少なすぎますね（笑）。

菊田　なので今年は3試合以上は闘っていきたいですね。

——今年一発目の試合は季節的にはいつぐらいになりそうですか?

菊田　やっぱり夏は嫌なんで、春にはしたいですね。

——夏は汗かくからいやだと?（笑）。

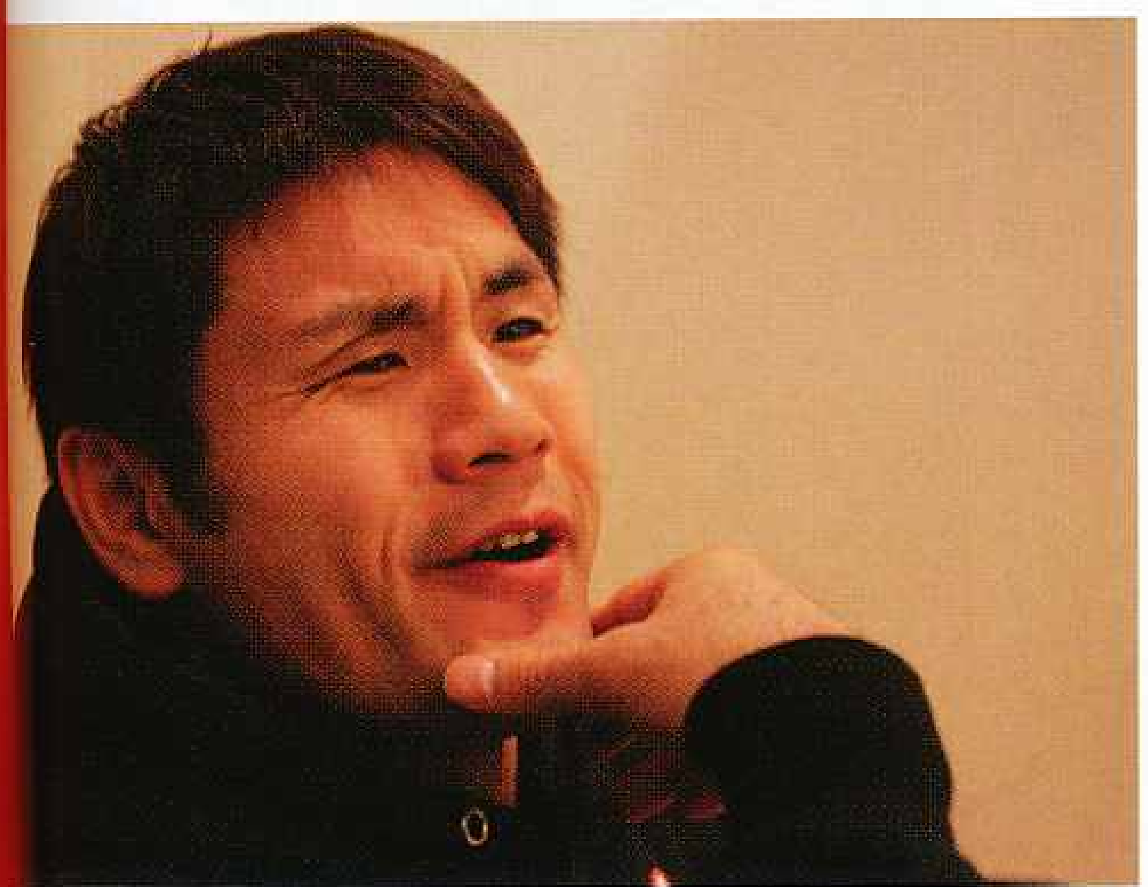
菊田　昔から嫌なんですよ、夏は。スタミナ的にもキツいんで。……こんなんで記事になります? そんな問題発言とかないとは思うんですけど。

——全然大丈夫だと思います。

菊田　昔のほうがひどいこと言ってましたもんね（笑）。

——たしかに（笑）。今年はすべることのないよう活躍を期待してます!

【1月13日／東京・東中野「グラバカジム」にて収録】



油か汗かってのは手で触ってもわからないと思う。闘えばわかるんですけどね

"世紀のノーコンテスト"桜庭和志vs秋山成勲 格闘オイルショック!!

好評連載 インサイドコリア

海の向こうでも大過熱報道!!

韓国から見たオイルショック

文／大川〝隊長〟義之

昨年大晦日の『Dynamite!!』には、多くの韓国系ファイターが出場したが、その中で日本と韓国両国で大きく注目を集めた試合は、やはり秋山成勲vs桜庭和志であった。試合中、桜庭が「すべる！」と言ったことが波紋を広げていたが、結局1月11日の記者会見においてFEG側は、秋山が乾燥肌用クリームを塗布していたことを発表し、秋山の失格に加え、試合をノーコンテストとした。

この決定が下るまで、ネット上では根拠のない憶測や、ひどいデマが飛び交う騒動にまで発展していた。一方で、韓国ではこの試合をどのように報道していたのだろうか。日本とはまったく趣を異にする韓国メディアの記事を紹介しながら、もう一度、秋山vs桜庭戦を振り返ってみたい。

被害者は秋山、疑わしきはサクラバ？

まず、総合情報サイトの大手『ヤフー・コリア』に格闘技情報を提供している格闘技ニュースサイト『Psy News』は、1月3日付けで『秋山成勲、勝利の代価は差別』というショッキングなタイトルの記事を掲載している。以下はその要約。

「試合中、桜庭は『秋山の身体がすべる』と主張したが、むしろおかしな行為に出たのは桜庭のほうで、選手が試合中に〝タイム〟のサインを出すのはまるでプロレス。試合内容で完勝していたのにあらぬ疑いをかけられた秋山は、すべてを台なしにされた被害者だ。むしろ疑惑の対象は桜庭に向けられるべきであり、なぜ彼は試合に集中せず、状況が不利にならざるを得ない〝タイム〟のサインを出して抗議を続けたのか。……にもかかわらず、日本のファンの関心は秋山に向けられた疑惑にだけ集中している。理由は明瞭だ。彼が在日韓国人であり、相手が日本の英雄だったからだ。彼らは日本の英雄が韓国系の選手に負けたことを受け入れられず、妬んでいるのだ。試合後秋山は、観客席に向かって『柔道、最高！』と叫んだ（※掲載記事のまま）。それは自分を在日韓国人ではなく、柔道家出身のファイターと見てくれという切実な訴えではなかったか」

桜庭人気の高い日本では、試合内容よりも桜庭の主張に同調する雰囲気が強かったが、国が違えば意見も変わるもので、韓国では「おかしな行為に出たのは桜庭」であり、秋山は「すべてを台なしにされた被害者」と報道されている。

さらに、日本のファンは秋山を妬んでいるとして「勝利の代価は差別」だったという強烈な結論で締めくくっている。この記事を見るかぎり、韓国のメディアも相当に感情的であり、ペンが走りすぎて客観性を失なっている。

秋山の不正疑惑は日が経つにつれて注目度が高まるばかりであった。1月9日になって『スカッとした！　桜庭を破ったチュ・ソンフン（秋山の帰化前の韓国名）』という記事が『プライム経済』という、普段は格闘技など扱わない一般経済紙に掲載されている。この記事はより一層過激さを増している。

「大晦日は韓国人選手が頑張ってくれたことが痛快だった。桜庭は過去に韓国の柔道スターであるユン・ドンシクを秒殺した格闘技界の英雄である。それゆえ筆者はひそかに、桜庭が引退する前に韓国人選手が彼に復讐してくれることを願っていた。全盛期の桜庭であれば秋山に勝つ力があったはずだが、衰えたいまの桜庭は歯の抜けた虎にすぎず、秋山の攻撃に焦って牽制ばかりを繰り返し、虚しく敗れ去った。しかも桜庭は試合中に秋山の身体がすべると言い訳し、疑惑を持たせることに忙しかった。その醜さから、桜庭が秋山に殴られているとき、本部席の指示が遅れて殴られ続ければいいのに、と思ったほどである。試合後も桜庭側の要求で秋山の身体が調べられたが、当然なんの異常も見つけられなかった。それもそのはず。はじめから桜庭の抗議は卑怯な言い訳以外の何ものでもなかったのだから」

いきなり冒頭からユン・ドンシクに勝ったことのある桜庭に対して「引退する前に韓国人選手が復讐してくれることを願っていた」という完全な私怨をカミングアウトする内容に度肝を抜かれるが、さらに桜庭の「醜い抗議」に業を煮やした記者は「桜庭が殴られているとき、本部席の指示が遅れ、殴られ続ければいいのに」とまで感じたことを率直に書いている。

そして結局、桜庭の抗議ははじめから「卑怯な言い訳」にすぎなかったとバッサリ切り捨てている。しかし、実際はこの記事が掲載された二日後に秋山の失格が発表されたのだから、この記者もリング上で起こっていた異変を察知する感受性が失なわれていたのである。

韓国メディアと秋山成勲

今回、韓国メディアは秋山を擁護していたが、もともと秋山にとって韓国メディアは「味方」ではなかった。いまでこそ、秋山の半生を追ったドキュメンタリーが話題になったことで、彼がどのような経緯で日本に帰化をしたのかを知る者が増えたが、柔道家時代の秋山は「半端な韓国人」として、ことごとく不利な判定を受け、日本に帰化したあとには韓国メディアから「売国奴」と激しく批判された経験を持っている。

いまでこそあまり見られなくなったが、韓国はサッカーなどの日韓戦で代表チームがみっともなく負けると、帰国した選手に生卵を投げつけるような激しさを持つ国である。

今回のケースでも、試合後に秋山をほめたたえていた韓国メディアやファンが、FEGの決定を聞いて、秋山を「韓国の面汚し」と激しく批判したり、「どうせあいつは韓国人じゃない」と都合よく切り捨てたりする可能性も充分にある。そうした立場を一番よく理解しているのは、おそらく秋山本人だろう。

今回の試合で不正を犯してしまった秋山選手も、事前に問題行為を発見して食い止められなかった関係者にペナルティを課した主催者側も、今後こういった事が二度と起こらぬようにすべきなのはあたりまえだが、日韓両国で見られたように人種差別を云々する視点でこの問題を語ることはなんの問題解決にもならない。

国家間の対抗意識やライバルストーリーなどの因縁は、プロスポーツをよりおもしろく観るために用いられる常套手段であり、欠かすことのできないスパイスでもある。

しかし、自国の選手に対する思い入れの度がすぎると、正常な判断力を失なってしまう場合が多いことを、我々は肝に銘じるべきではないだろうか。

韓国のメディアも相当に感情的であり ペンが走りすぎて客観性を失なっている





“世紀のノーコンテスト”桜庭和志vs秋山成勲

格闘オイルショック!!

自称

ルール問題でマット界激震の中、“レジェンド”レフェリーが語った

「レフェリングの仕方と心構えを俺様が教えてやるよ!!」

島田裕二

［PRIDEエグゼクティブ・ルールディレクター］

『Dynamite!!』桜庭vs秋山戦での〝オイル騒動〟に世間が揺れたこの年明け。結局1月11日にその試合の無効裁定が発表されたのだが、その数日前に本誌は独自取材を行なっていた。総合格闘技のレフェリングと管理体制について、自称〝レジェンド〟の島田PRIDEエグゼクティブ・ルールディレクターを直撃!!

聞き手／井上崇宏（PEHLWANS）　撮影／平工幸雄　構成／上杉過失

――梅木さん、今日はよろしくお願いしま～す!

島田　島田だよ!　この野郎!（怒）。

――あ、自称PRIDEレジェンド・レフェリーの島田裕二さんでしたか（笑）。年始からじつにお元気そうですねえ。

島田　俺様は今年もメチャクチャ元気だよ!　で、今日は大晦日のアレの話なんだろ?

――そうなんですよ。アレについて自称レジェンドにもご意見を頂戴できたらと思いまして。ほかのイベントの話なんで、なかなかしゃべりづらい部分もあるかもしれませんが……。

島田　いやさあ、髙田モンスター軍の名に恥じない闘いぶりを横綱相手に見せてくれたよな、ジャイアント・シルバは!　髙田総統も大喜びだったらしいぞ!

――ええ。そのジャイ・シルが出場した『Dynamite!!』というイベントのメインの試合はご覧になりましたか?

島田　なんだよ、少しは俺の話に付き合えよ!　まるで俺がすべったみたいだろ!　まあすべったといえば、メインの試合も映像で見たけどさ。

――自称レジェンド的にはいかがでしたか?

島田　試合自体はサクちゃん（桜庭和志）が押されてたよねえ。打撃も断然秋山（成勲）のほうがスピードあったし。そういう意味ではちょっと昔のサクちゃんじゃないなって……残念だけどね。で、サクちゃんが「すべる!」って訴えてたけど、あれは試合中に言われてもストップはできないよね。

――自称レジェンドでもあの場面では止めなかったですか。

島田　止めない。ただ、選手が言っている内容に関してはやっぱり敏感になるから、自分の目できちんと確認したり、サブレフェリーにグラウンドのときにチェックさせたりとか、攻防の動きが止まったなら、そこでブレイクさせてチェックするっていう可能性はあるけどね。たとえば昔、試合中にコンタクトが外れちゃった選手が「タイム、タイム!」って言ってきたことがあったけど、そのときもすぐには止めずにコーナーで膠着したときにブレイクさせて、「外れたんだろうけど、止めないよ」って言って再開させたよね。でも、ちゃんと試合前にボディチェックをしていれば今回のような問題は起きないよなあ。かならず俺様は自分でチェックするからな!

――やっぱり口頭での抗議やコンタクトが外れたっていうことと、サミングや金的とは種類が違うわけですね。

島田　そりゃ違うよ。そんなの言い始めたらさ、選手が「危篤!　危篤!」って言ってきたらどうすんだよ!?

グローブにスポンサーのロゴがなかったら営業に怒られるよ！

——親が危篤ですか（笑）。

島田　客席を指差して「あそこ、あそこ！」とかさ。騙し討ちみたいなもんじゃん。だから相手の秋山としてもあの場面で攻撃を止めないっていうのは当然だと思うしね。

——なるほど。それと桜庭vs秋山戦では、試合開始直前に秋山がコーナーで道衣を脱いだじゃないですか。

島田　あれはチェックしないとダメだよな！　道衣を脱いで闘うんだったら、レフェリーの心構えとしては、一回タイムしてもう一度チェックしにいかないとダメだよね。

——自称レジェンドならそうしましたか。

島田　もちろん、もちろん。俺様はレジェンドだからさ！　あの場面では、チェックしてからじゃないと絶対に試合は始めない！　だから、やっぱり緊張してたんじゃないの？

——あ、梅木レフェリーがですか？

島田　そう。やっぱり桜庭vs秋山っていう大舞台のメインで緊張しちゃったっていうのが一番じゃないかなあ。

——似たようなケースだと、自称レジェンドが裁いた一昨年の吉田秀彦vs小川直也戦でも、試合前にリング上で吉田が道衣を脱いだというシーンがありましたよね？

島田　あれはね、事前に道衣を脱いで闘うってわかってたの。あのときは吉田選手が「今日の試合は道衣を脱いで試合をしますけど、入場は道衣を着て行きます」って言ってたから、もちろん試合前に通常どおりのチェックを行なってるんだよね。だからそれはジャッジ陣も全員知ってたし、帯もちゃんと締めてなかった。だって道衣自体もチェックしないといけないんだから、着るか、着ないかっていうのは会場入りした時点で選手には決定させてるんだよね。



試合直前まで、柔道衣を着る・着ないが注目された、一昨年『PRIDE男祭り』での吉田vs小川戦。道衣を着た愛弟子・瀧本誠の敗戦を受けて、吉田が道衣を脱いだというのが定説になっていたが、じつは、会場入り直後から脱ぐことが決まっていたことが判明！　たしかに上の写真を見ると、入場時の吉田の帯はちゃんと締められていない。

——つまり、あの試合に限って言うと、最初から道衣は入場コスチュームという認識だったわけですね。

島田　そう。そこらへんはホント完璧だから。コスチュームチェックもいつもルールミーティングのときにやってるし。道衣に限らずシューズも全部。

——まあ今回の騒動はほかのリングで起こってしまったことではありますけど、これだけ問題として話題になっている以上、『PRIDE』サイドとしてもさらにチェック体制を強化しようみたいな動きはあるんですか？

島田　いや、『PRIDE』は大丈夫だよ！　リング下のサブレフェリーにしてもウチみたいに3～4人いるところってあんまりないんじゃない？　サブレフェリーだとかサブジャッジ、グローブ係……総勢でいったら『PRIDE』にはメチャクチャな人数を配備しているからね。いつも四重、五重のチェックをしてますよ！

——四重、五重ですか。

島田　選手たちには会場入りしたら、まずはドクタールームでドクターチェックをしてもらってから、俺様らの目の前でグローブを選んで、尿検査。それでバンデージを巻きたいタイミングになったら指定した場所に来てもらって、そこでも俺様らの立ち会いのもとで巻いていく、と。

——よく選手のグローブやテーピングにチェックした人の名前がマジックで書かれてますよね。

島田　そうそう。で、選手の出番のだいたい二試合くらい前に入場ゲート前に待機してもらうんだけど、そこにも両選手に二人ずつくらいジャッジがいるから、そこでも全身やグローブを触って、マウスピースは持ってるか、ファールカップを着けてるか、とそれぞれをチェックする。で、ゲートに乗ってリングに向かうだろ。そのゲートに乗ってるときに不正をする選手は、まぁいないだろ（笑）。で、花道を歩いて行って、リング下でもさらにチェック。それだけのチェックをすべてクリアして、ようやく選手はリングインできるわけだから。

——チェック体制もすでに世界最高峰だと。じゃあ、もし桜庭vs秋山戦が『PRIDE』のリングで行なわれたと仮定すると、今回のような騒動は絶対に起きなかったですかね？

島田　起きないでしょ。だって、そもそもグローブにスポンサーのロゴが入ってなかったらさ、DSEの池本営業局長に怒られるよ!!

——営業サイドのチェックの目も厳しいわけですね（笑）。最後に自称レジェンドの個人的な意見として、今回の件を収束させるにはどうしたらいいと思いますか？

島田　今回の試合はひとまずノーコンテストにして、再戦にしたらいいんじゃないの？　ま、それは主催者が決めることだろうけど、その前にレジェンドの俺様がレフェリー講座を開いてやるよ！　どうだ、いい考えだろ？

——（無視して）本日は、お忙しい中、ありがとうございました！

島田　おい！　人の話を聞けよ！

【07年1月7日／青山・DSE事務所にて収録】



しまだ・ゆうじ■PRIDEエグゼクティブ・ルールディレクター。1966年11月24日、広島県出身。『PRIDE』、K-1、リングスなどで数々の名勝負を裁く。02年には格闘技&フィットネスジム、その名も「BCG（ボディチェックジム）」設立。本人曰く、カリスマレフェリーとして全米から称賛を受けているらしい。

UWFvs柔道の因縁再燃か!?

「桜庭が負けたら坊主になる」と宣言した田村が吉田秀彦、そして秋山成勲に宣戦布告!!

あの試合は秋山の反則負け! もし次に桜庭か俺が秋山に負けたら五厘刈りにしてもいい!!

本誌前号のインタビューで「桜庭が秋山に負けたら坊主になってもいいよ!」と、宣言していた田村潔司が丸坊主を拒否!
なんと、秋山のクリーム塗布が発覚する前、1月7日の時点で「秋山は反則負けだから」と断罪していたのだ。
しかも返す刀で秋山に宣戦布告!　いま、この男の言動から目が離せない!


潔司

ミノワマンを一撃KO!
孤高の天才がついに復活!!



聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
試合写真／平工幸雄、山口比佐夫、平専英



巻末SPECIAL INTERVIEW

田村

——ミノワマン戦勝利、おめでとうございます！　それにしても田村さん、しぶといですね！（笑）。

田村　アハハハ！　しぶといって言わないでよ～。まあ、たしかにしぶといね。自分でもそう思うわ。よく生き残れてますよ。

——あらためて、やるときゃやる男だと思いましたよ。本人に言うのは気がひけますけど、前回はノゲイラに完敗。その前は瀧本（誠）選手に勝つには勝ったけど、あまり盛り上がらない内容だったじゃないですか。

田村　そうだったね。

——だから、今回はホントに生き残りを懸けた勝負だったと思うんですけど、そういった危機感みたいなものはありました？

田村　う～ん……危機感というのはなきにしもあらずだけど、それと勝敗というのは関係あるようでないからね。だったら、ずっと勝ち続けなきゃいけないのかってなるし。ただ、時期的なものも含めて大事な試合ではあったと思う。

——その大晦日の大事な大一番の相手が、まさか〝ミノワマン〟になるとは思ってなかったんじゃないですか？（笑）。

田村　思ってるわけないじゃない（笑）。あれね、試合の数日前に煽りVTR用のインタビューを受けたとき、「ミノワマンになるらしいですよ」って言われたんだけど、まさかリングネームが「ミノワマン」になるとは思わなくてさ。

——普通は「気持ちのうえで、キン肉マンみたいなヒーローになる」という意味かな、と思いますよね（笑）。

田村　それが当日、控室に貼ってあった対戦カード見たら「第一試合　田村潔司vsミノワマン」って書いてあるのよ（笑）。



控室の対戦カード表に「田村潔司vsミノワマン」って書いてあったのを見て「そういうことか！」ってわかったんだよ（笑）

——ダハハハハ！

田村　「そういうことか！」って。そこで初めて美濃輪君の意図がわかったんだけど、その意味はわからなかった。

——まさに意味不明ですよね（笑）。

田村　それで美濃輪くん……いや、ミノワマンは、自分がキン肉マンになったつもりで、俺をロビンマスクに設定してるのよ。

——田村潔司はロビンマスク！

田村　なんかね、ロビンマスクは唯一、キン肉マンと二回闘うんだって。それで二回とも負けるらしいんだけど……俺、美濃輪くんに前回勝ってるんだよね。その時点で、もう間違ってるんだよ（笑）。

——どっちかというと、田村さんがキン肉マン（笑）。で、どうでしたか？　ミノワマンと闘うというのは。

田村　彼はああいうキャラでいいんだろうけど、こっちは勝ったから言えるけど、負けたら相当カッコ悪かったよ！

——ダハハハ！　たしかに『ミノワマン』の〝第一話〟で負ける、〝ザコキャラ〟になっちゃうわけですもんね（笑）。

田村　そう。無礼な話だよ！

——そういうプレッシャーもあった、と。

田村　いや、試合になればそういうのはないけどね。ただ、一番脂が乗ってる時期である美濃輪君に対して、俺は正直言ってピークはすぎてるからさ。どこまでできるかなという不安はあったけど、なんとか勝つことができたって感じかな。年の功で（笑）。

——4年前に闘った美濃輪選手と比べていかがでしたか？

田村　いや、ミノワマンってさ、ちょっとボケたふりしてるけど、俺のことかなり研究してたよ。試合後にあらためて、YouTubeで試合を見直してみてわかったんだけど。

——試合した本人がYouTubeで見てるんですか（笑）。

田村　ノートパソコンですぐ見れるからね。そしたら、明らかに俺の闘い方を研究して、作戦立ててるなというのがよくわかった。たとえば俺の左ミドルに合わせて、左フックだったり、アッパーだったりね。

——でも、そのフックにテンカオ（ヒザ蹴り）を合わせたフィニッシュはじつに素晴らしくて驚きましたよ！　「田村さん、こんなこともできるんだ！」って（笑）。

田村　でもあれは初めてじゃないんだよ。じつはアリエフ・マックモド戦でも狙ってたんだよ。

——え!?　もしかして、テンカオ狙ったら金的入っちゃったんですか？（笑）。

田村　そう！　あいつはスーパーマリオみたいに自分でジャンプするから、ちょうど金的に入っちゃったんだけど、あれジャンプしてなかったら、テンカオ決まってたよ（笑）。

——そんな伏線があったんですね（笑）。

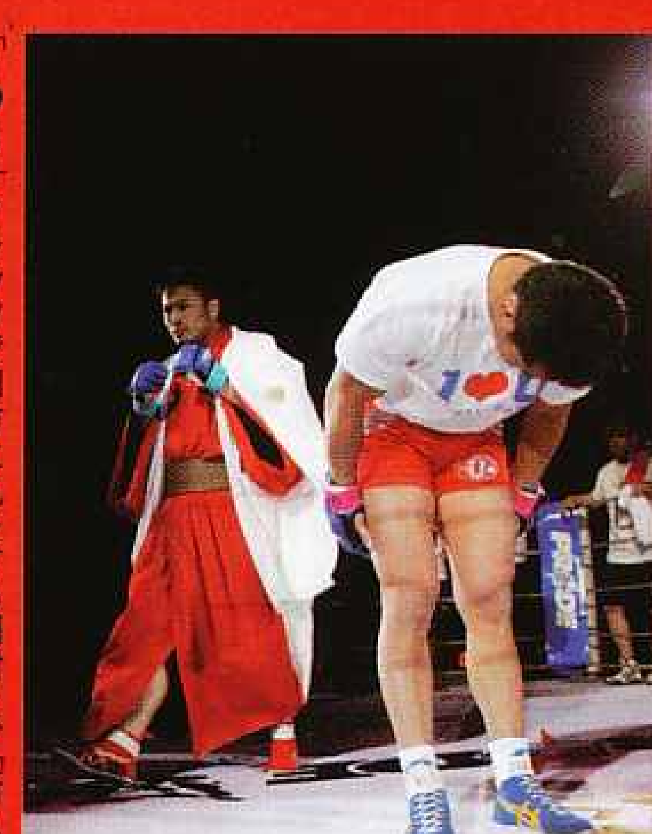
田村　まぁ、でもミノワマンに決めたのは、正直言って、ラッキーパンチならぬ〝ラッキーテンカオ〟だけどね。狙ってはいたけど、タイミングといい、踏み込みといい、ヒ





得意の左ミドルで試合を作る田村に対し、ミノワマンはそこに左フックを合わせる作戦。この闘いのために91キロまで増量したミノワマンのパンチは当たればKOもありえた。

「I♥U」Tシャツで四方に礼をする田村と、「新人類」と書かれた着物姿でシャドーをするミノワマン。常人には理解できないこだわりを持つ二人のまったく交わらない絵が凄い！



2006.12.31『PRIDE男祭り2006-FUMETSU-』

赤いパンツの変わり者対決！

○田村潔司vsミノワマン×

［1R 1分18秒 TKO］

PUTI REVIEW

ザの角度、打ち方といい、あれはきれいすぎで狙ってできるもんじゃない。でも、タックル一回決めるのに、何千回、何万回の練習が必要なように、これまで俺がやってきたヒザの反復練習あってのラッキーテンカオだけどね。

――でも、そこでラッキーテンカオが出るんだから、田村潔司はやっぱりしぶといですね（笑）。

田村　うん、しぶといね。このあいだ大掃除してたらさ、1998年に出た、俺と村浜（武洋）と佐藤ルミナが表紙の『ゴング格闘技』が出てきたのよ。

――ああ、そんなのありましたね。その年の一番〝旬〟な格闘家3人ということで。

田村　あれから10年近く経つんだもんね。

――その3人の中で一番年上の田村さんが、ちゃんとメジャーな大舞台で生き残ってるんだから、凄いですよね。その生き残りを図る中で、田村さんは『PRIDE』のチャンピオンシップやGPとは別のところで、自分の居場所を作って、そこで存在感を見せるというスタンスがあるんですか？

田村　そういうスタンスというか、それは狙ってできるようなもんじゃないから。ただ、ホントに〝競技〟としてだけやっていくという方向もあるだろうけど、『PRIDE』の方向性として、プロレス的な要素を入れていかないと、爆発しないんじゃないかとも思うのよ。だから、何かテーマというものが必要なのかもしれないとは思う。

――吉田選手への何度目かの対戦アピールというのは、そのテーマある闘いができるんじゃないか、というところからなんですか？

田村　うん。それもあるし、あとは一回借りがあるから返したいという、単純な気持ちだね。

――でも、田村さんは吉田さん以外にも借りがある選手っていると思うんですけど、その中でも吉田秀彦にこだわるのはなぜなんですか？　ボブ・サップに借りを返したいとか思いませんよね？（笑）。

田村　サップなんか返したくないよ〜！（笑）。あんなバケモンに返せるわけないじゃん。まぁ、吉田選手については、勝てる試合を落としたからかな。あとは前に一回やってみて、向こうも感情出してきて、俺も感情が出たから、次にやったらおもしろくなるんじゃないかと思うんだよね。だから、どこまで話が進められるかわかんないけど、できれば今度は裸で来てほしいね。道衣着ないで。

――やっぱり道衣があるとやりにくいというかやりにくいですか？

田村　やりにくいというかね、彼も裸のスパーリングもしてるだろうし。道衣着てないほうがおもしろい試合になるんじゃないかと。道衣着ちゃうと俺も構えちゃうから。守りに撤する可能性もあるわけ。

――ああ、たとえば寝技にはいかないで、立ち技だけで勝負しちゃうこともある、と。

田村　そうそう。裸なら同じ条件で真っ向勝負するだろうけど、道衣を着るともう〝異種〟だから、噛み合わない可能性が高いんだよね。瞬間的な勝ち負けで終わるか、ダラダラ判定で俺が勝つかっていうイメージしかないから。

――要は瀧本戦みたいになってしまうと（笑）。

田村　そういうこと（笑）。

――じゃあ、次は「吉田選手、ボクと裸で真剣勝負してください！」っていうことですね（笑）。

田村　うん。着るか着ないかは向こうに選ぶ権利があるし、俺としてはどっちで来られてもいいんだけど、「お互い裸のほうが、おもしろい試合になりますよ」と。PRIDEラブがある吉田選手なら、そっちのほうがいいんじゃないですか？　ってことだよね。俺はPRIDEラブがないから、どっちでもいいけど（笑）。

――ところで、田村さんが吉田選手に対戦アピールをした同じ日に、偶然にも桜庭和志vs秋山成勲という、同じU系vs柔道という試合があったわけですけど……。

田村　（さえぎって）あれはどうなの？　秋山のボケは何してんの⁉

――あ、秋山のボケ！（笑）。

田村　身体に何か塗ってたんでしょ？

――現時点ではまだわかりませんけど（このインタビューはクリーム塗布認定前に収録したものです）、その疑惑はありますね。桜庭さん本人は「すっごいすべる。絶対に何か塗ってる」と言ってます。

田村　俺もさ、あの試合については、桜庭が「すべる、すべる！」って言ってたって



05年の『男祭り』では小川直也との世紀の一戦を制した吉田秀彦だが、今回は伏兵ジェームス・トンプソンにまさかのKO負け。はたして再起戦の相手に誰を選ぶのか?

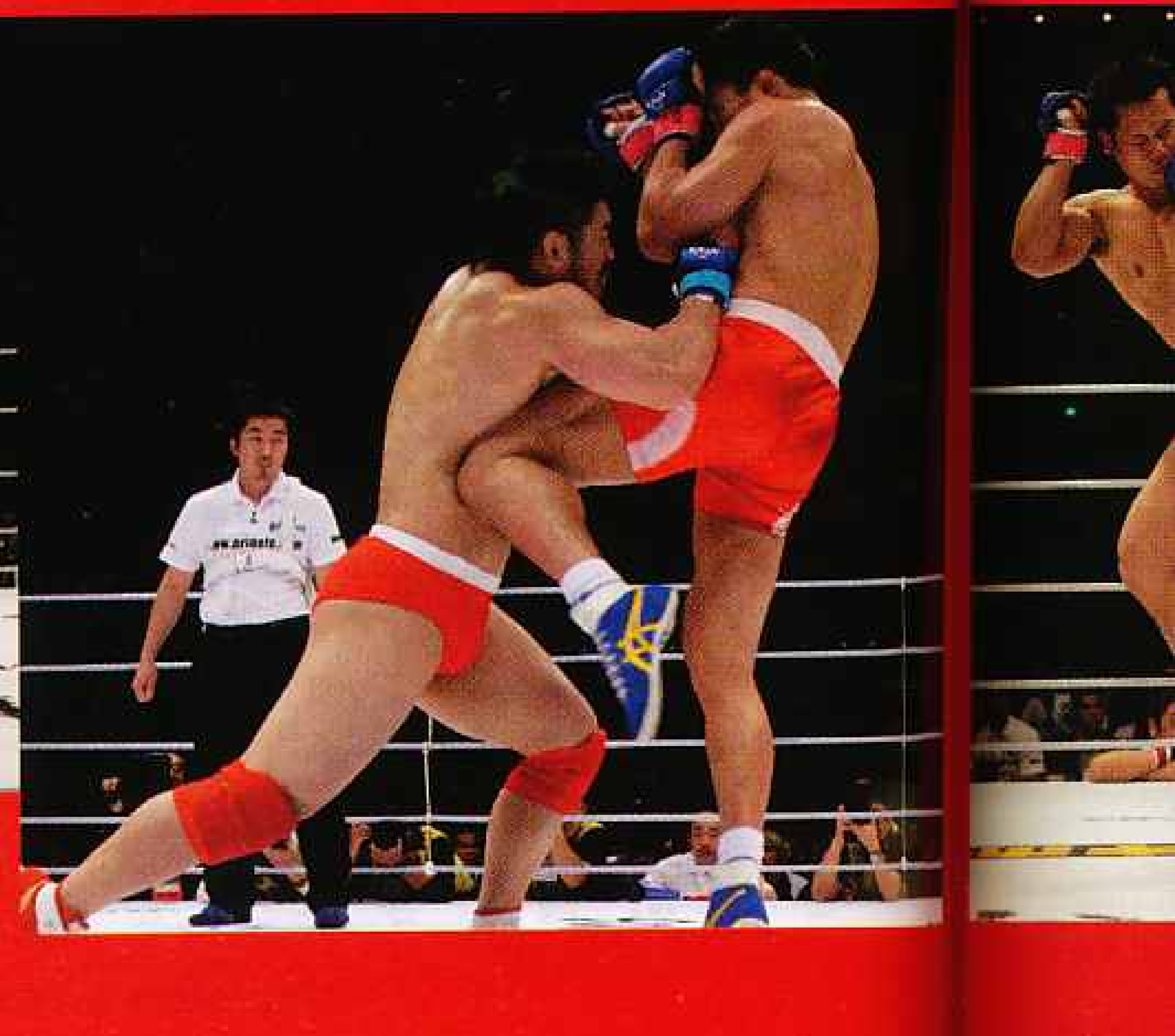
桜庭VS秋山と田村VS吉田を同じ日に別々の大会でやってもいいし、同じ大会で二試合を組んでやるのもいい。凄く因縁めいてるよね



試合後、田村はマイクを持つと、3年半前に敗れた吉田秀彦との再戦をあらためてアピール。途中まで主導権を握りながら逆転負けした借りを返すチャンスはあるのか?



左ミドルにフックを合わせてくるミノワマンに田村が同じタイミングでテンカオを合わせ、ミノワマンはダウン。しかしレフェリーが止めないため、田村は顔面蹴りでフィニッシュ。試合後、田村は止めないレフェリーに怒りの表情で詰め寄った。



身体に何かを塗ってきた秋山のボケにも腹が立つけど、俺は桜庭のセコンドについて、助けてあげられないヤツらに一番腹が立った！

聞いたから、YouTubeで観たんだけど。

――またYouTubeですか（笑）。

田村　やっぱりすべってるような感じはするね。桜庭が片足タックルにいったとき、足をスルッと抜いてる感じがしたから。

――ああいう抜き方は、普通ありえないわけですか？

田村　お互い汗をかいてからならあるかもしれないけど、あれはまだ立ち上がりで、そんなに汗かいてないときでしょ？　そしたら普通、身体ごと抜かないと足は抜けないから。でも、あいつはそのままスルッと足を抜いてるから、これはすべってる抜き方だな、と思ったね。

――なるほど。

田村　ただ俺はね、塗った塗らないは別として、むしろ桜庭のセコンドについてたヤツらに怒りたい！

――ほぉ～。

田村　試合中、桜庭があんなに必死にアピールしてるのに、なんでセコンドが主張しないんだって！　俺がセコンドだったら、試合中にリングに上がってでも止めさせるよ!!

――乱入してでも抗議しますか!?

田村　乱入する！（キッパリ）。だって塗ってるかどうか、そこで調べさせればいいじゃん。それなのに、セコンドのヤツらは、桜庭が「すべる！　すべる！」って主張してるのに、何も助けてあげてないじゃん!!　それに対して俺は一番腹が立ってる。もし秋山も仮に塗ってたら……塗ってるんだろうけど。

――塗ってますか（笑）。

田村　秋山に対しても腹が立つけど、桜庭のセコンドについてるヤツらに一番腹が立った。

――そういえば昔、桜庭さんがUFC―Jでマーカス・コナンとやったとき、ミスジャッジで一度「KO負け」という裁定になりましたけど、あのときセコンドのキングダム勢が総出で抗議してましたよね。

田村　そうそう。それもセコンドの役目だから。実際、セコンドで半分ぐらい試合が決まるときってあるからね。あれは桜庭がかわいそうだよ！　今回のセコンドって誰だったの？

――阪神の下柳（剛）投手ですね（笑）。

田村　……あの人はおいといて（笑）。

――あとは豊永稔さんと元・髙田道場の高橋渉選手ですか。

田村　セコンドもどうしていいかわからなかったんだろうけど、ああいうときは言わなきゃダメだよ。

――まぁ、そういうこともありましたけど、残念ながら（この時点での）公式発表は「桜庭選手のTKO負け」ということで……（おもむろにバリカンを取り出して）約束どおり田村さんの断髪式を執り行なわせていただきます（笑）。

田村　アハハハハ！　そのバリカン、わざわざ買ってきたの？





「Dynamite!!」での秋山成勲戦の試合中、必死に「すべる！」とアピールしたが、セコンドは猛烈抗議は行なわず。その場はサクのTKO負けという裁定が下ってしまった。

――はい（笑）。しっかりご用意させていただきました。

田村　でも、そんな約束したっけ？（とぼけて）。

――前回のインタビューで「桜庭が負けたら坊主になる」としっかり言ってますね。なんでしたら、証拠のテープを法廷の場に提出する用意もあります（笑）。

田村　そうか……でも、坊主にはしない！　あれは桜庭の反則勝ちだから！（キッパリ）。

――いやいや、公式記録は「秋山成勲のTKO勝ち」ですから。

田村　それは間違った裁定だね。俺の中では桜庭の反則勝ち！　ガンツはあの結果どう思ってるの？

――まぁ……ボクも桜庭さんの反則勝ちかな、と思いますけど……。

田村　でしょ？　だから、もし次に秋山と桜庭がやったときに、桜庭が負けたらホントに坊主になる。それか俺が秋山とやって負けたら五厘刈りにしてもいい！

――おぉ～！　田村潔司vs秋山成勲はメチャクチャ観たいですね！　田村さんがこれまで闘ってきた中で、凄いすべる相手っていました？

田村　リングスの頃、よくオランダ勢がオイル塗ってくるっていわれてたからね。俺のときも塗られてた記憶があるな。

――それって闘っててわかるもんですか？

田村　うん。オイルの匂いがするから、匂いでわかるね。

――桜庭さんも「（秋山は）甘い匂いがした」って言ってるらしいですよ。

田村　そうなんだ。でも、ワセリンだと匂いじゃわからないけどね。秋山本人は「塗ってない」って言ってるの？

――試合の二日後にあった会見では、否定してましたね。

田村　でも、こうなるといくら否定しても完全に秋山はヒールだよね。なんかムカつくしね。じゃあ、〝タムラマン〟に成敗してもらおうかな（笑）。

――ダハハハ！　ついに正義のタムラマンが立ち上がりますか（笑）。

田村　まあでも、桜庭がもう一回やるのが一番いいけどね。これは難しいだろうけど、たとえば俺と吉田が再戦する同じ日に桜庭vs秋山の再戦をやるとか。同じ大会でその二試合を組むのもいいね。

――そういうリンクの仕方はいいですねぇ！

田村　そういうかたちで、なんかでつながったらおもしろいよね。お互い地上波でやったら、格闘技をアピールすることもできると思うし。でも、今回もそうだけど、〝U〟と柔道の絡み合いというのは、凄い因縁めいてるよね。

――相容れないものがありますよね。生き方、考え方、ルーツが全然違いますもんね。田村さんは、桜庭vs秋山戦の前に「断然、桜庭の勝ち」と言ってましたけど、どのあたりからそう思ったんですか？

田村　実際、断然反則勝ちだったんだけど

(笑)。打撃に関してはヘタというか、間合いだったり、パンチの正確さなんかは秋山のほうが全然上で、そのへんは秋山って凄いセンスあると思う。だけど、今回はもし、桜庭がそれに付き合っちゃった感はあるな。桜庭が打撃で打ち合わないで、距離を取ってタックルで入って、テイクダウンを奪うという戦法だったら、まったく違う展開になったと思うのよ。すべてはヌルッとされたことで狂ったんじゃないかと思うんだけど。

——ヌルッとして片足タックルが決まらなければ、殴り合うしかないですもんね。

田村　桜庭もけっこうカッとなりやすいから。一発もらったら一発返すっていう気持ちになりがちだし。ましてや、ヌルッとしたら「コノヤロー！」みたいな感じになったんじゃないかな。そうじゃなくて、冷静にテイクダウンして、寝技になったら……これはホントに〝型〟の話なんだけど、寝技だと秋山は歯が立たないから。ボディコントロールは桜庭のほうが全然上だからね。

——裸の寝技の技術は全然違うでしょうからね。

田村　ただ、総合のつらいところは、ホントに自分の型にはめたモン勝ちだから。寝技の型にはめたら桜庭の完勝だけど、秋山はたとえオイルを塗っていたとしても、あやって自分の型にはめる力はあるから、強いことは強いと思うね。

——これは純粋にどっちが強いか、因縁抜きでも再戦してほしいですね。

田村　やってほしいね。そのときは、もう俺がセコンドつきたいぐらいだよ。

——田村さんが桜庭さんのセコンドにつきますか！

田村　そうなったら、俺は前日から秋山のボディチェックをするから。試合ですべらせるのには裏技があってね、前日にオイルを塗り込んで、シャワーで流すのよ。そうすると表面上は塗ってないように見えるんだけど、試合で汗かくと汗腺からオイルがしみ出てくるから。

——その裏技は聞いたことありますけど、前日でもそうなんですか!?

田村　うん。オランダ勢がやってたのはこのやり方。だから、もしかしたら秋山は〝当日は〟塗ってませんという意味で、「塗ってません」と言ったんじゃないの？

——ダハハハハ！　前の日なら関係ないだろう、と(笑)。

田村　だから俺がセコンドになったら、前日から徹底的に監視してチェックするから。

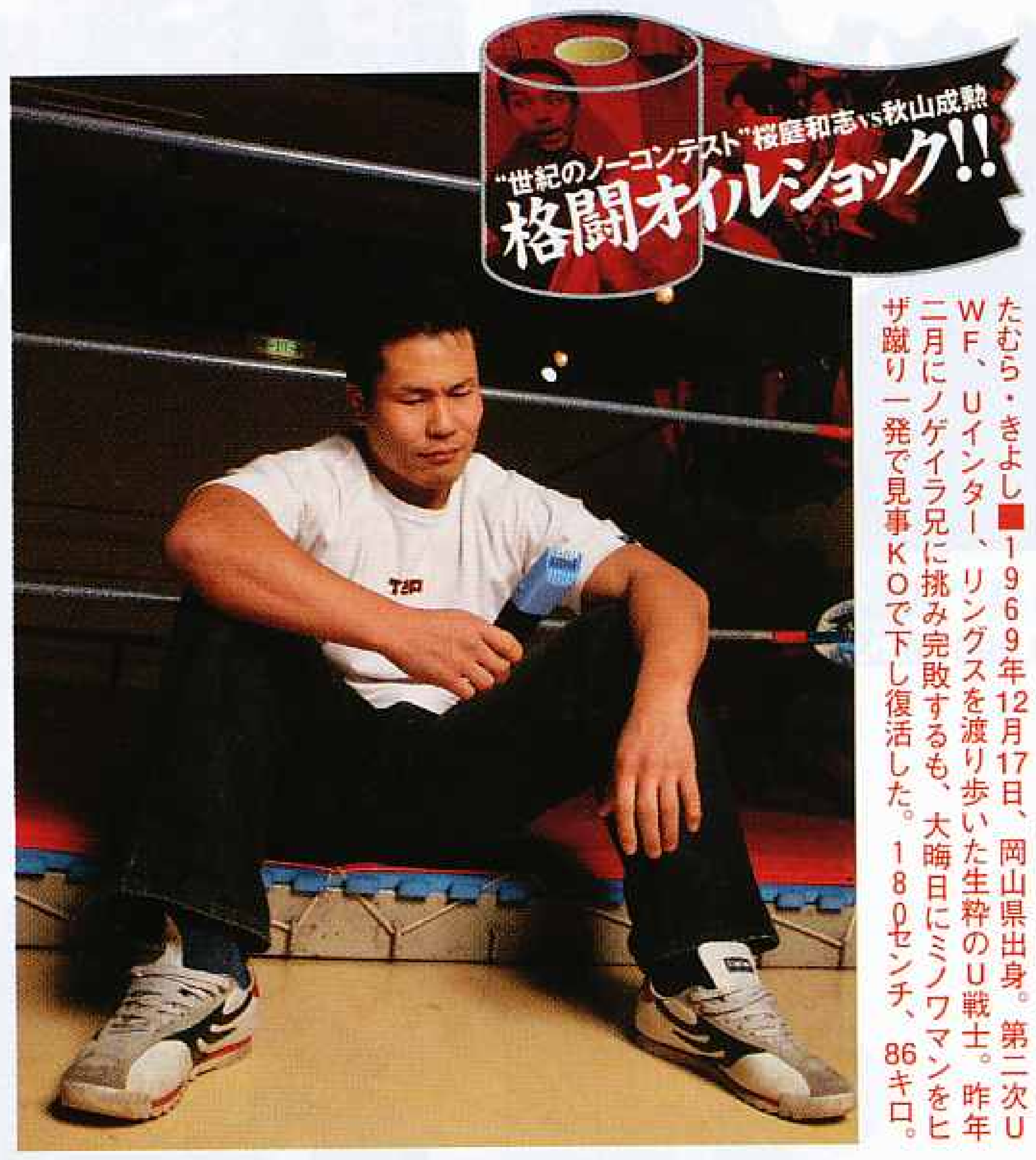
——いやぁ、田村&桜庭の合体は見たいですねぇ。桜庭さんがどう言うかはわかりませんけど(笑)。

田村　まあ、桜庭だからどうのこうのじゃなくて、オイル塗った塗らないの主張が通らなかったことに対して悔しい。選手本人が「すべる！　すべる！」ってアピールしてるのに、あの場では知らん顔してたレフェリーにも、K—1陣営にも腹が立ったしね。格闘技をやってる限り、いつ自分が桜庭と同じ目に遭うかわからないんだから、これは他人事じゃないですよ。

——では、インタビューはこれぐらいにして、そろそろ断髪式に入りましょうか(笑)。

田村　だから、丸坊主にはしないって！

【07年1月7日／U－FILE CAMP調布にて収録】



たむら・きよし■1969年12月17日、岡山県出身。第二次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。昨年二月にノゲイラ兄に挑み完敗するも、大晦日にミノワマンをヒザ蹴り一発で見事KOで下し復活した。180センチ、86キロ。

50年にわたる因縁！　プロレスvs柔道、血に塗られた闘いの歴史

54年12月22日／蔵前国技館

○力道山vs木村政彦×

［15分49秒 レフェリーストップ］



「引き分け」の約束を力道山が一方に破り、急所である頸動脈に空手チョップを叩き込んで木村を戦闘不能に追い込んだとされる一戦。プロレスvs柔道の因縁はここから始まった。

76年2月6日／日本武道館

○アントニオ猪木vsウイリエム・ルスカ×

［20分56秒 TKO］



記念すべき初の異種格闘技戦（格闘技世界一決定戦）。猪木はミュンヘン五輪金メダリストの〝赤鬼〟ルスカをバックドロップで投げ捨てTKO勝ち。総合格闘技の一つのルーツだ。

97年4月12日／東京ドーム

○小川直也vs橋本真也×

［9分25秒 裸絞め］



〝プロレス内格闘技戦〟が成立しえた、最後の大一番。実質は小川のプロレスデビュー戦であったが、柔道家に敗れた〝新日のエース〟橋本は大バッシングに遭った。そういう時代だったのだ。

03年8月10日／さいたまスーパーアリーナ

○吉田秀彦vs田村潔司×

［1R5分6秒 袖車絞め］



桜庭vs秋山にまで続く、〝U〟vs柔道、因縁の第一ラウンド。歩んできた道、価値観がまったく異なる中、田村が打撃で試合を優位に進めるが、吉田が道衣を使った絞め技で逆転勝ち。

05年6月23日／さいたまスーパーアリーナ

○田村潔司vs瀧本誠×

［3R終了 判定3-0］



吉田に敗れた田村が、〝仮想・吉田〟である金メダリスト瀧本と対戦。田村は吉田戦同様、スタンドの打撃で試合を支配するが、仕留めるには至らず、試合後ブーイングを浴びた。

06年3月15日／日本武道館

○秋山成勲vs石澤常光×

［2R1分41秒 袖車絞め］



渦中の秋山vsアマレス出身のプロレスラー石澤という、のちの秋山vs桜庭のようなこの試合は、道衣姿の秋山が石澤のタックルを切りまくり一本勝ち。このときはヌルヌルしてなかった!?

kamipro SHOPPING

追悼"I編集長"井上義啓さん "殺し"の魂を受け継げ!!

喫茶店トークよ永遠なれ!!





I編集長"殺し"Tシャツ
ブルー ¥3,990(税込) S·M·L·XL



ハリトーノフ"死神"Tシャツ
ホワイト ¥4,200(税込)
S·M·L·XL



ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー/ネイビー ¥6,300(税込)
M·L·XL

暖冬なら死神アウターで楽勝!!



ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド ¥7,350(税込)
M·L·XL



ハリトーノフFACE Tシャツ
カーキ/ホワイト/レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL



ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL



ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)



ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト/レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL

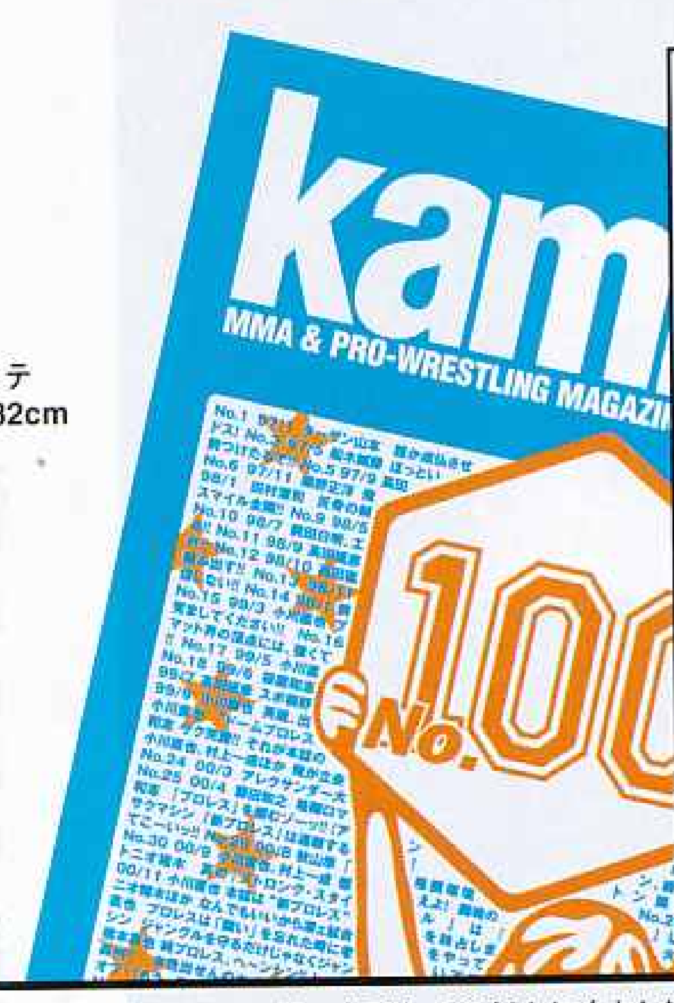


kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL



タテ 132cm
ヨコ68cm

100号記念特製
巨大バスタオル[★]
ブルー×オレンジ
特別定価 ¥3,150(税込)



[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]



(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

★左ページの商品も同様のサイズです。

★kamipro Handでは、このほかにもおトクな商品をたくさん取り揃えております。ぜひアクセスしてください。

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV·メディア·本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[通販の問い合わせ先]
株式会社ダブルクロス
TEL.03-5368-1797
(受付時間/平日13:00~19:00)
販売元:株式会社ダブルクロス

kamipro SHOPPING

ニューリン様はいまだ旅の途中……新作グッズをまとって待て!!

ハッスル & kamipro Collaboration Goods

バレンタインに“真心”を込めて





ニューリン様“SIGN”パーカー
［Lady's M アッシュグレー］
¥6,300（税込）



ニューリン様“SIGN”パーカー
［M･L･XL ブラック］
¥6,300（税込）



ニューリン様“SIGN”Tシャツ
［Lady's M ブラック］
¥3,990（税込）



ニューリン様“SIGN”Tシャツ
［M･L･XL ブラック］
¥3,990（税込）



ニューリン様“BERO”Tシャツ
［Lady's M ブラック］¥3,990（税込）
（身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm）



ニューリン様“BERO”Tシャツ
［M･L･XL ブラック］¥3,990（税込）



ニューリン様“SIGN”
スウェット トートバッグ
［ブラック（プリント:ピンク）、
ブラック（プリント:シルバー）］
¥2,100（税込）
※バックサイズ:24×11×35cm（持ち手のぞく）



「BITAAAAN!」Tシャツ［★］
［S･M･XL ホワイト］
¥3,990（税込）

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00～19:00
（株）ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承ください）。
販売元／（株）ダブルクロス

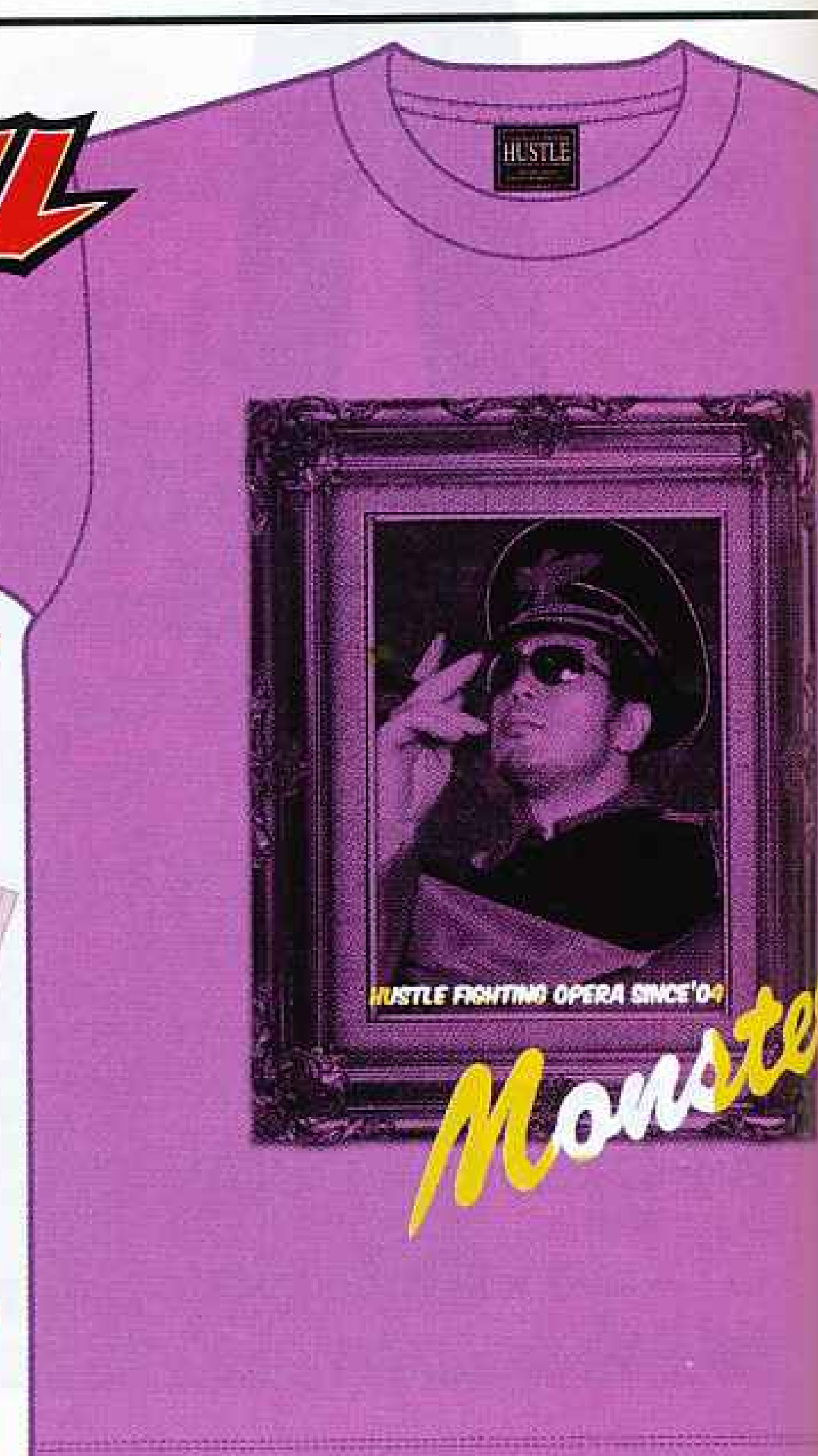
ハッスル Goods



HG PHOTO Tシャツ
［S･M･L･XL シルバーグレー］
¥3,990（税込）



MONSTER K PHOTO Tシャツ
［S･M･L･XL ライトイエロー］
¥3,990（税込）



高田総統 PHOTO Tシャツ
［S･M･L･XL ラベンダー］
¥3,990（税込）



GMW PHOTO Tシャツ
［S･M･L･XL ライトブルー］
¥3,990（税込）



司令長官&二等兵 PHOTO Tシャツ
［S･M･L･XL ライム］
¥3,990（税込）



ニューリン様 PHOTO Tシャツ
［S･M･L･XL ライトピンク］
¥3,990（税込）

※価格はすべて税込みです　［★］の商品は在庫終了次第、販売終了となります

ガンガン応募して、読プレをつかみ取れ!!

外は寒くても、こっちはホット!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(賞品は2月16日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦今年、マット界で起こりそうな大事件は?⑧去年あなたがやってしまった忘れたい出来事は?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「ドアを開けたら断髪式」係まで
※締切は2006年2月15日(木)当日消印有効

kamipro 107 応募券
ブイ〜ン
(バリカンの音)

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

レスリングの基本はキャッチ!





1 名様

Back

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

ジョシュメタルTシャツ『男祭り』会場限定カラー

[ジュニアLサイズ/ブラック/¥4,200(税込)]

『kamipro Award 2006』MVP男のジョシュ・バーネットをモデルとした『男祭り』会場限定カラーTシャツ。サイズは女の子用で着るのはキツい人も多いと思われるが、記念として持っておくのもアリ!

HUSTLE







Back

2 名様

坂田亘　GMWTシャツ

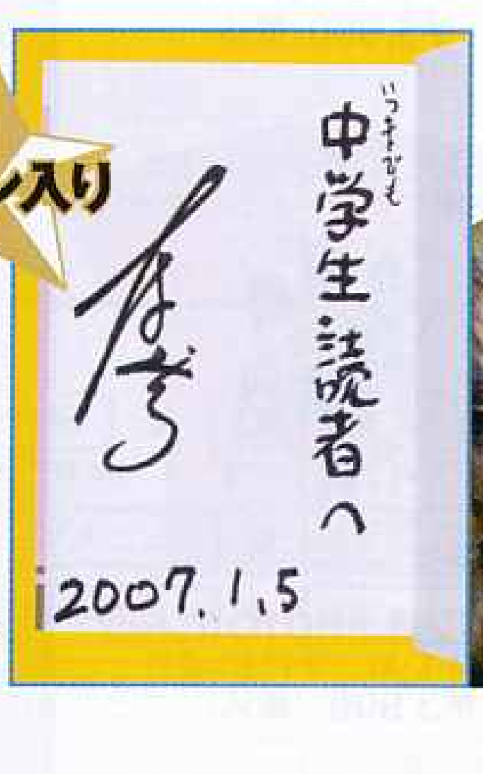
[Lサイズ×1、Mサイズ×1/ブラック/¥3,800(税込)]

フロントには金箔プリントで「G.M.W」の文字が輝く、ゴージャス感溢れるGMWTシャツ。M、L各サイズを1名ずつに「ワッタル! ワッタル!」とプレゼント。

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

1 名様

サイン入り





玉袋筋太郎 著 男子のための人生のルール

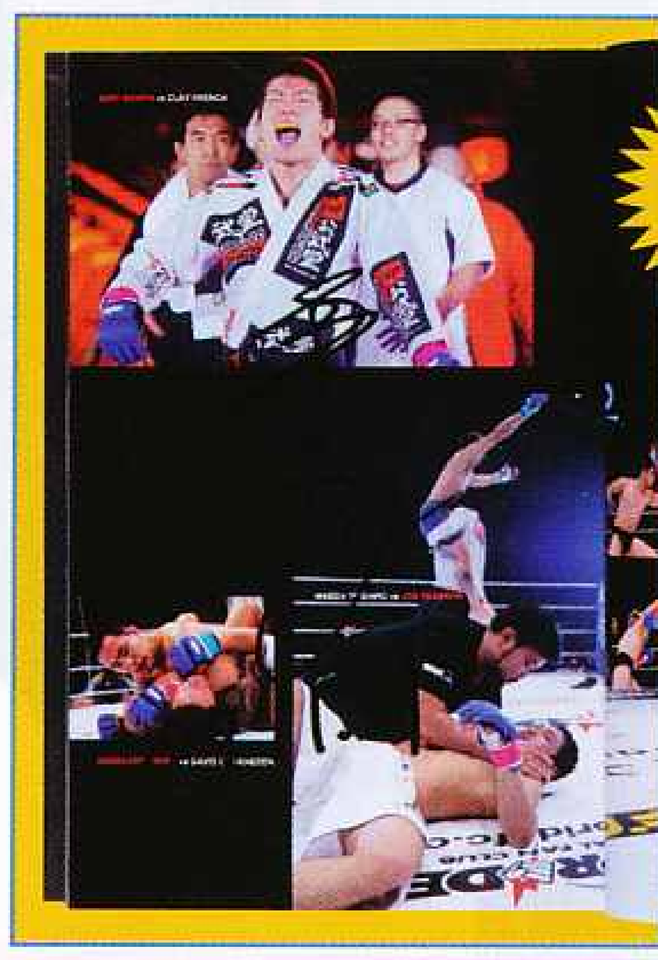
[¥1,260(税込)]

『kamipro Award 2006』では井上崇宏氏もベスト・ルールブック賞に推していたバイブル。いつまでも中学生な読者のために、玉袋さんのサイン入り!

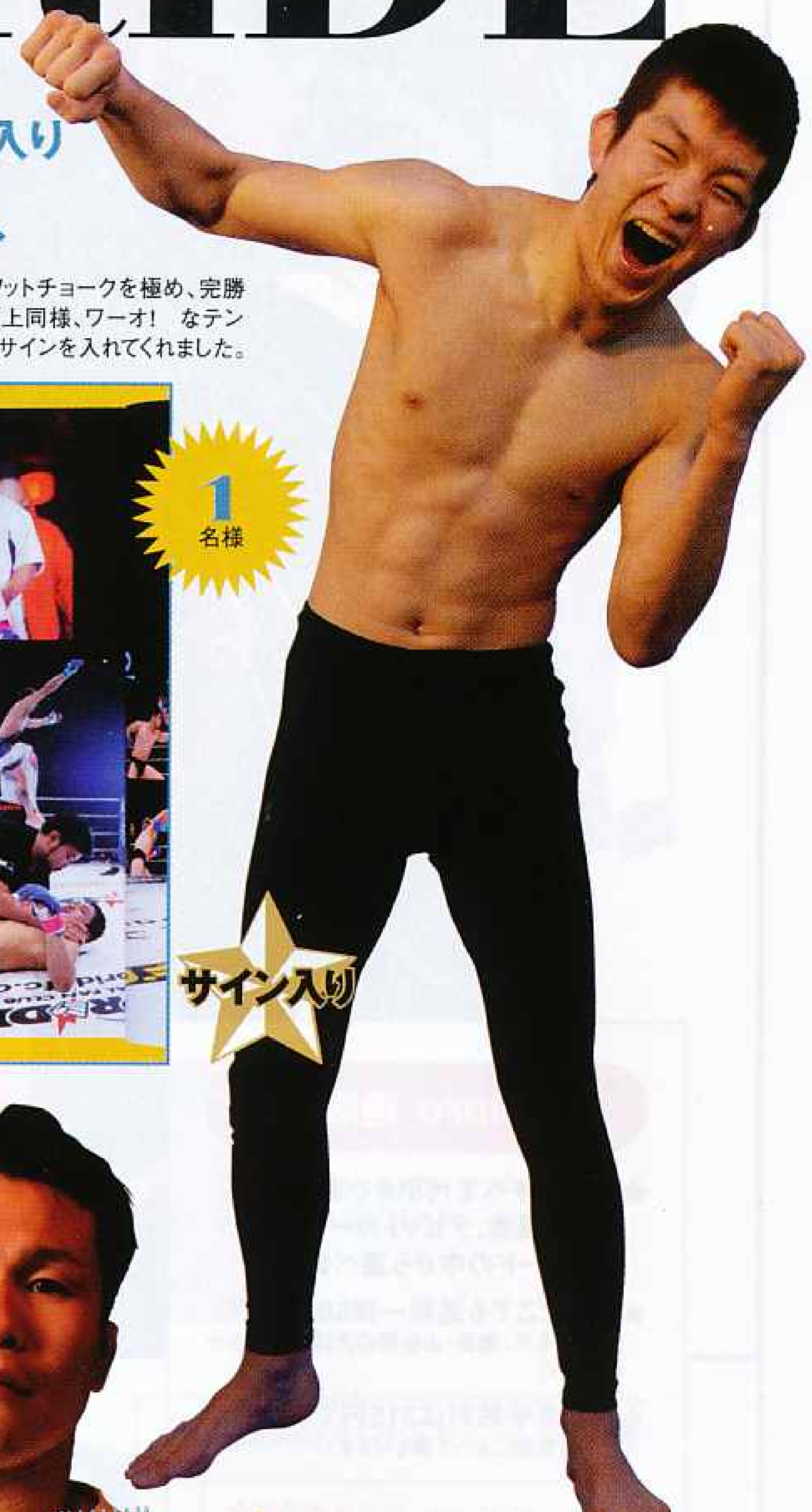
PRIDE

青木真也サイン入り『男祭り2006』大会パンフレット

大晦日はあのヨアキム相手にフットチョークを極め、完勝した青木選手。取材中もリング上同様、ワーオ! なテンションを保ち続け、大会パンフにサインを入れてくれました。



1 名様



サイン入り



サイン入り

1 名様

田村潔司サイン入りバリカン

インタビューを読んで、「約束を破った!」と思うなかれ。収録時は例の記者会見前だったのです。さすがタムタム! この世界に一つしかないバリカンをたった一名様に。

PRIDE■http://www/prideofficial.com/

WEAR

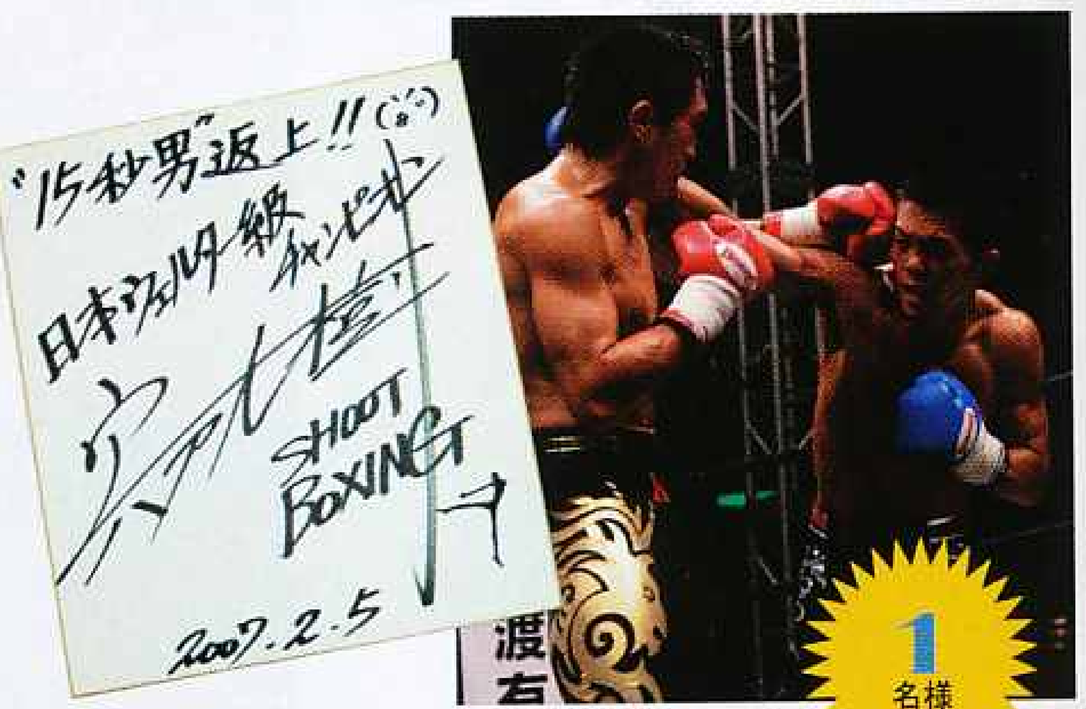
各1名様



修斗×SOLJAHコラボTシャツ

去年タイで現役バリバリのキックボクサーと試合をした「闘う広報」サステインの北森様が、デカい人向けのTシャツをドドーン！　とご提供。
金箔で迫力あるデザイン（左）から、オープンフィンガーグローブをモチーフとしたもの（中）、女性にもおすすめのピンクカラー（右）の3種類です。

SHOOT BOXING



1名様

宍戸大樹（※写真右）サイン色紙

昨年9月のK-1 MAXでは王者・ブアカーオの左フック一発に沈んだ宍戸。2月の日本代表トーナメントを制し、「15秒男返上」なるか!?　SB魂よ、燃え上がれ！

シュートボクシング■http://www.shootboxing.org/

WWE

2名様



WWEマガジン

特別付録は歴代のスーパースターたちのフィニッシュ技で埋め尽くされたポスター。ホーガンのギロチンや、フレアーの足4の字、スヌーカのスーパーフライもあるぞ！

WWE■http://wwe.co.jp/

PRO-WRESTLING

1名様



メカマミーフィギュア

昨年はMVP男・鈴木みのるとのシングルマッチでブレイクし、『プロレス大賞』の話題賞を獲得したメカマミーがなんと、フィギュアに。こいつはレアものだ。①



セットで1名様



NOSAWA論外 東京愚連隊タンクトップ＆リストバンド＆メキシコ国旗（サイン入り）

インタビューでは破天荒なエピソード満載だったNOSAWA論外選手。東京愚連隊のロゴが入ったタンクトップ、リストバンド、そして思い出の地・メキシコ国旗には本人のサイン入りだ、まざぁー！②

①安直堂■http://www.anchoku.net　②全日本プロレス■http://www.all-japan.co.jp/

DVD

修斗 2006 BEST vol.1

［240分／¥5,880（税込）］①

川尻vsヨアキム、菊地vs青木の二大世界タイトルマッチが行なわれ、カリスマ・佐藤ルミナが出場した06年2月の代々木大会を中心とした総集編。

修斗 2006 BEST vol.2

［237分／¥5,880（税込）］①

3階級で新王者が誕生!　激動の新時代を感じさせる2月のZepp Nagoya大会から10月のパシフィコ横浜大会まで収録。"横浜祭り"となった5月の後楽園大会は必見！

マルコ・バルボーザ ザ・マスター・オブ柔術

［120分／¥5,880（税込）］①

TAISHOや今成正和が信奉するブラジリアン柔術家のマルコ・バルボーザが最先端柔術テクをレクチャー。

糸洲流空手道型大鑑（一）

［120分／¥5,880（税込）］①

糸洲安恒を流祖とする糸洲流空手道すべての型を正統四世坂上節明が紹介。

Gi Grappling 2006

［90分／¥5,880（税込）］①

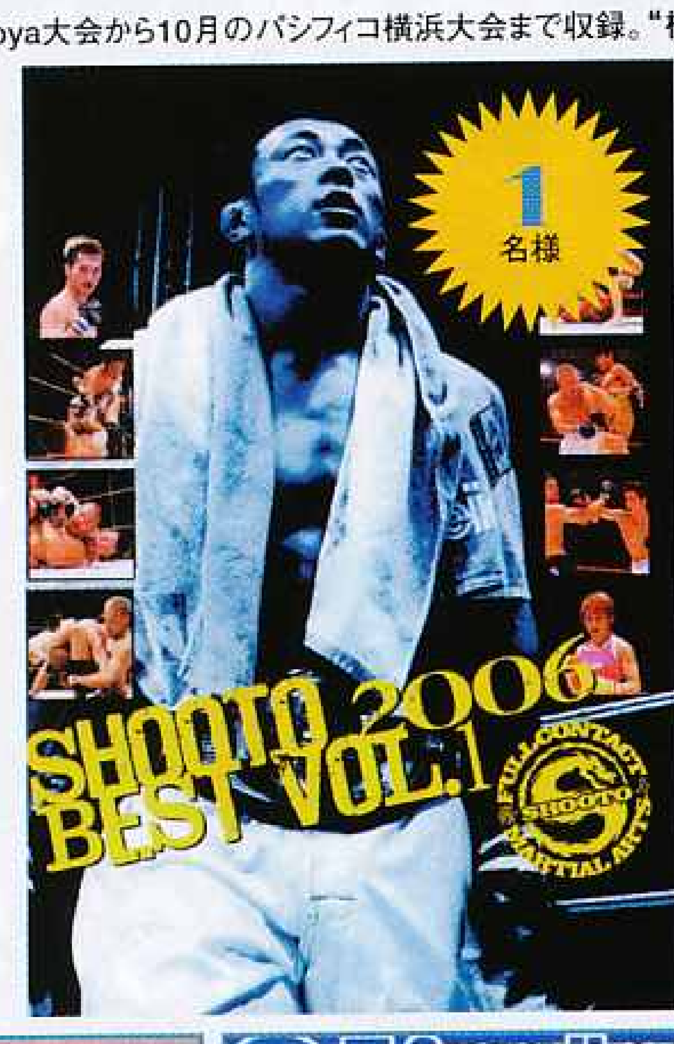
総合格闘技のトップ選手が続々参戦するグラップリングのさまざまな大会を収録。

アイドルコロシアム 女神たちの復活

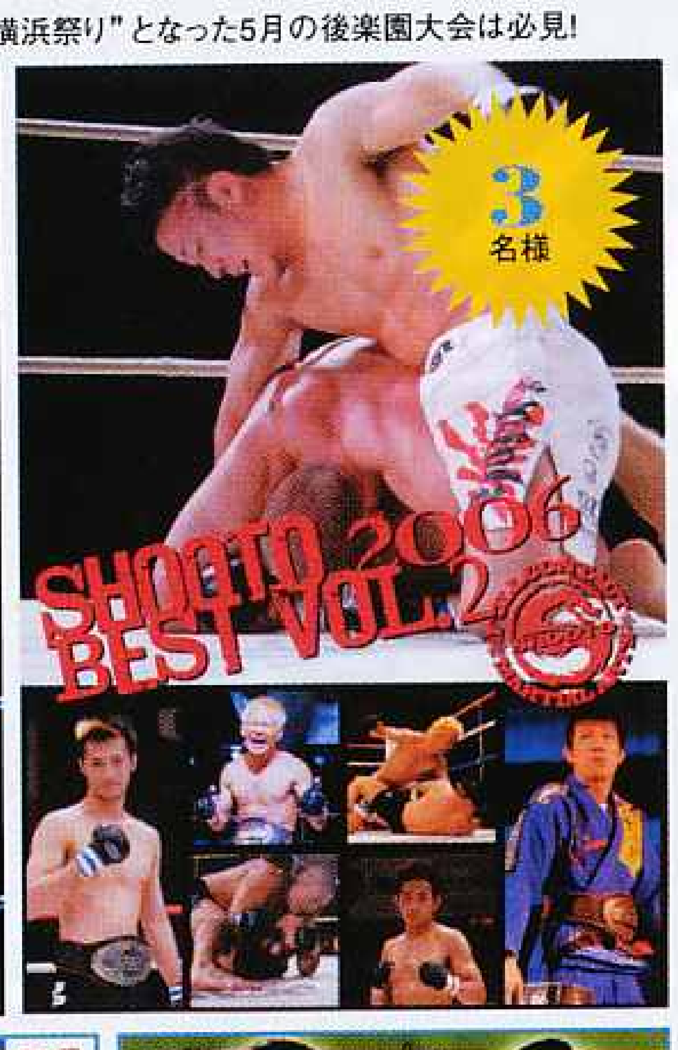
［100分［予定］＋特典映像20分［予定］／¥4,800（税込）］②

05年3月の旗揚げイベントがついにDVD化!　テレビで放映されなかった秘蔵映像特典つき。水着で闘う女たちは美しい！

1名様



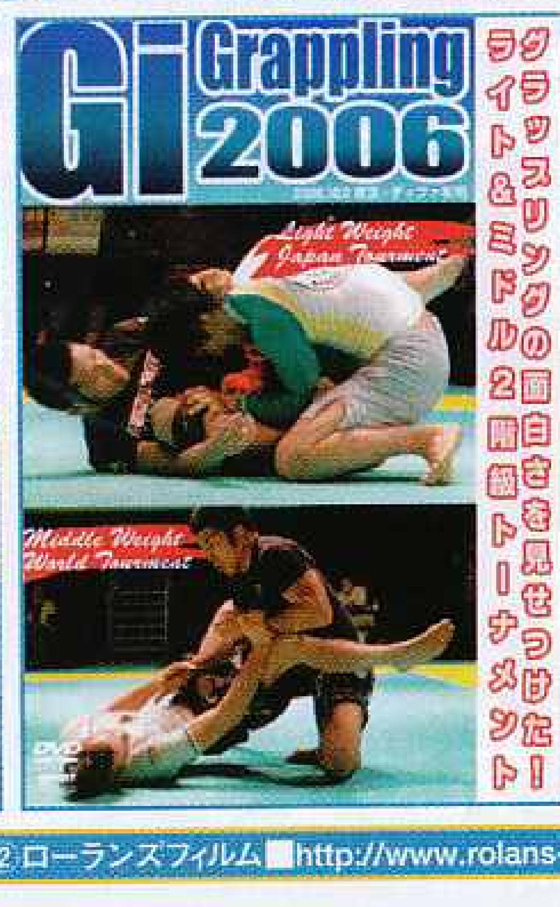
3名様



各1名様









①クエスト■http://www.queststation.com　②ローランズフィルム■http://www.rolans-film.com

GAME

3名様



バイオハザード Deadly Silence Best Price!

ニンテンドーDS

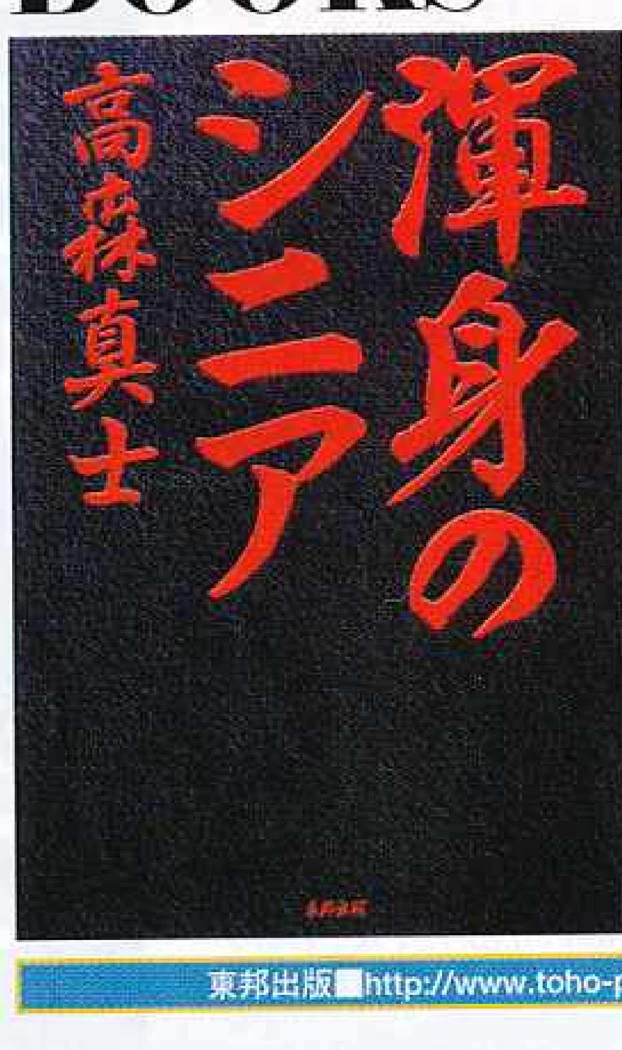
1月25日発売［¥3,129円(税込)］

サバイバルホラーゲーム『バイオハザード』が、お得な価格でニンテンドーDSに再登場。友だちと一緒に脱出を目指すワイヤレスプレイも搭載！

カプコン■http://www.capcom.co.jp/

BOOKS

3名様



渾身のシニア

［¥1、680（税込）］

真樹日佐夫先生が高森真士のペンネームで、作家活動45周年記念作を発表！　空手道場を主宰する、60歳をすぎた男を主人公としたストーリー。

東邦出版■http://www.toho-pub.com

kamipro 紙のプロレス

No.107
2007年2月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
上杉過失
八木賢太郎（ご近所付き合いのため非番）

編集見習い
辻ちゃん

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

秘書?
ジャイ子

編集次長（闇の御意見番）
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインスキンオイル
金井ヒサくん（乾燥肌@TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口タイソン
白木“EXILE”しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
ニュー林様

多汗症!?
入江ドライスキン（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“貯金はしません”芳司

“すべる!! すべるよ!@ゲレンデ”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

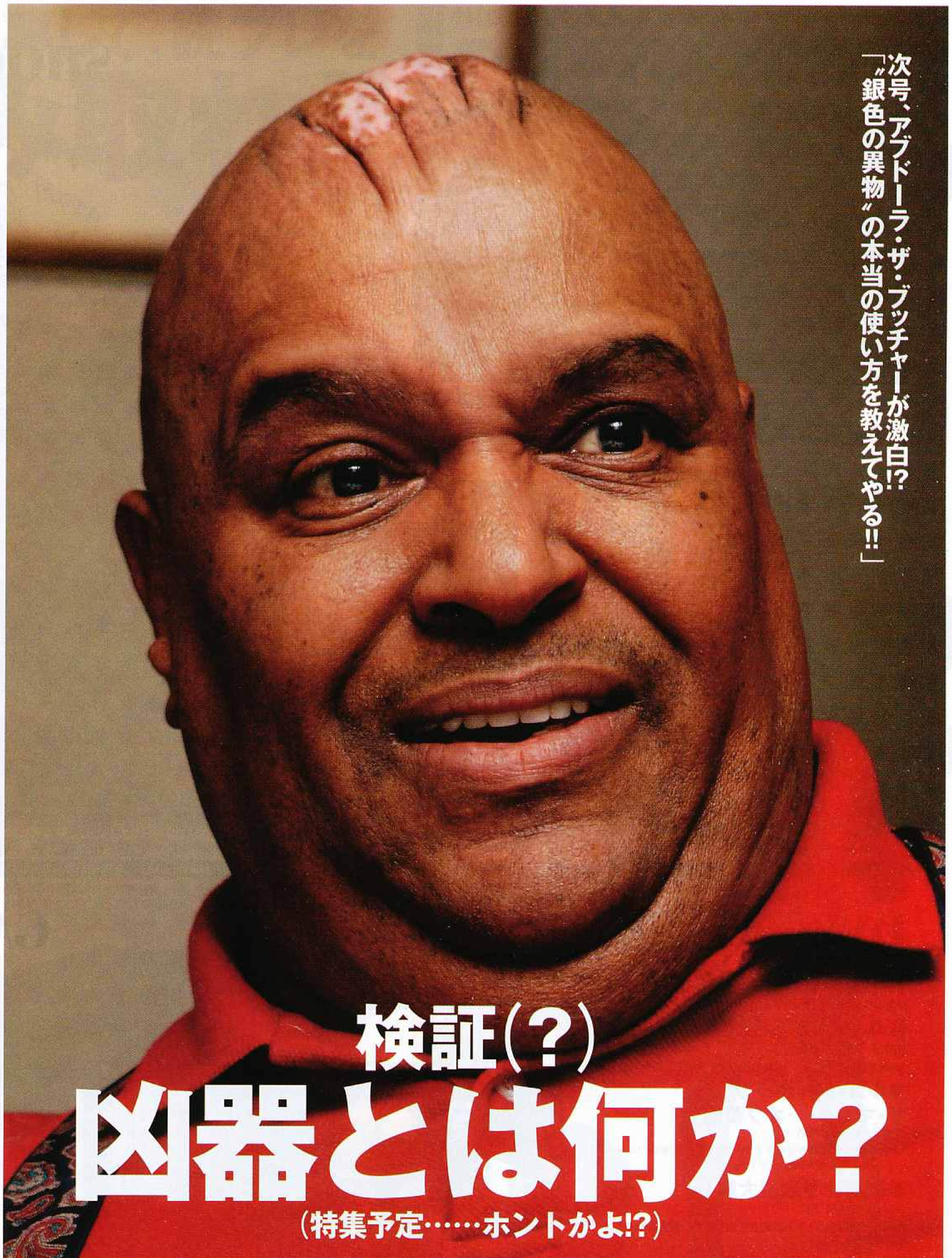
印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



PRIDE ISSUE

ミルコ参戦2.3UFC67特集、2.24PRIDEラスベガス大会ド直前情報号

次号No.108は 2月21日(水)発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。



サインカード出てこいやあーっ!!
格闘技のトップブランド「PRIDE」がトレーディングカードになって登場!
集めて良し、資料としても価値の高いコレクタブル・データカードとして
歴代グランプリシリーズをフィーチャーした「GPエディション」と、
人気沸騰の武士道シリーズ+2006年末の男祭りと歴代のナンバーシリーズから
選りすぐられた「武士道プラス'06男祭りエディション」の
2バージョンが発売決定!!
PRIDE CARD COLLECTION
プライド・カードコレクション
GPエディション
武士道 +'06男祭り!! エディション
仕様概要　カード種類数:全162種
■シークレット:直筆サインカード 9種×各10枚限定!　■スーパースペシャル:ムービングカード × 9種
■スペシャル:プレイヤー・オブ・GP 箔押しサインカード × 18種　■レアカード:男祭り ホログラム仕様 × 36種
■ノーマルカード:プレイヤーズ × 63種　■チェックリスト × 5種　■ベストバウト・オブ・GP × 22種
1パック<カード8枚入り>／税込価格500円　1BOX 8パック入り／税込価格4,000円
※8枚入りのパックの中身はランダムです。BOXで購入しても全てが揃うわけではありません。
お問い合わせ／発売元:株式会社ブロッコリー　〒176-0012 東京都練馬区豊玉北5-14-6　東新練馬ビル5F
ユーザーサポート係 TEL:03-5946-2812 受付時間【月~金(祝祭日除く) 10:00~12:00 / 13:00~17:00】
©DSE
PRIDEカードコレクション -GPエディション-
絶賛発売中!
直筆サイン色紙プレゼント
BOX購入キャンペーン
トレーディングカードのBOXの裏面についている応募券をハガキに貼ってご送付いただいた方の中から抽選で、今回箔押しカードに使用した選手の直筆サイン色紙(各選手1枚ずつ)をプレゼントいたします。
どの選手の色紙かは、HPをチェック!!
PRIDEカードコレクション公式HP
http://www.broccoli.co.jp/sp/pride_gp/

kamipro 2007 107 "ノアの方舟"はどこにある!? 格闘天変地異!!

2007年2月5日 発行人／浜村弘一 編集人／[illegible] 発行・発売／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555 代表 印刷・製本／図書印刷株式会社



定価：本体838円＋税
雑誌61954-71 Ⓗ2007.5
Printed in Japan 図書印刷
ISBN978-4-7577-3338-1
C9476 ¥838E
9784757733381
1929476008381

enterbrain